地方サーキット大爆発!! ZERO-ONE、新日本に勝つ!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

紙のプロレス RADICAL

「地方発世界」開始!!――"OH砲"が本格発進!!
小川直也&橋本真也

リング外でも暴発三昧!!
ZERO-ONE地方巡業帯同記

6・9全日本×APEが奇跡のコラボレーション
小島聡vsNIGO

武藤敬司の"分身"が、純プロレスに問題提起!!
カズ・ハヤシ

闘う邪道議員を証人喚問!!
大仁田厚

仰天!! 新日本30周年にI編集長が三くだり半!!

充電完了!!
50号記念に久々の登場!!
桜庭和志

総合マットに集う強者たちの咆哮!!
ノゲイラ兄弟&マリオ・スペーヒー

灼熱の先取り情報!!
『PRIDE.21』に起こる天変地異を見逃すな!!

リングス・ロシア勢『PRIDE』参戦の真相!! &その無骨なる世界!!

早く試合がしたい!!
狙いは"プロレスラー・ハンター"
ミルコか?

サクが笑えば、世界が笑う!!

PRIDE 20 "あの問題の試合"を徹底検証

パンクラス取材解禁の衝撃!!

"尾崎の野郎"も本誌初登場!!

「プロレスラーはロクな死に方しない」発言の真相!!
菊田早苗

大バッシングにヘコんでる?
いまこそ聞きたい、アレクの「プロレス観」
アレクサンダー大塚

2002
50

ロック様来日!!
そしてWWF改め
WWEが今秋、再来襲!!

紙のプロレス RADICAL 2002 NO.50 ZERO-ONEの勢いに乗れ!!

発売元:(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話/03-3357-2911
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188
ワニマガジン社 定価:本体838円+税

初の地方サーキット大爆発!!

5・3松山

ZERO—ONE

5・2ドーム

新日本に勝つ!!

いったいこの“熱”の
正体はなんなんだ!?

♪いまだ見えぬ夜明けを　俺はお前と迎えに行こう　いまだ見えぬ夜明けを　俺はずっと待ち焦がれている——

5・3ZERO—ONE松山大会。

この日は、ARBの『HARD-BOILED CITY』をビッグマッチ用のテーマ曲の前に被せた合体バージョンが破壊王の入場時に使われた。

火祭り、真撃など破壊的日本語を多用し、「英語は好かん！」と言い切る破壊王に『HARD-BOILED CITY』なんていう横文字は似合わない気もするが、その歌の歌詞にある「いまだ見えぬ夜明けを　俺はずっと待ち焦がれている」というのは、いまの破壊王の心境そのものだろう。まぁ、この歌詞が破壊王に似合うっていうわけじゃないんだが。

そしてその待ち焦がれる夜明けの兆しが、4月下旬から5月中旬に行われたZERO—ONE初の地方サーキットで見え始めた。

とくにOH砲が出撃した5・3松山大会の客席の〝熱〟は、異常といってもいいくらいだった。それは5万人以上を集めた前日の新日本30周年東京ドーム大会のどこかまったりとした客席の空気を確実に凌駕するものだった。

新日本・ドームで、プロレス会場らしい熱気が生まれたのは、OH砲と、全女の試合と、三沢の入場時だけだった。

しかし、松山の会場の熱気は、まさに〝待ち焦がれている〟という感じで、その熱に押されてか、小さく小綺麗な地方会場は、まさにヒートアップ三昧。この熱気は、まさに新日本の全盛期、ゴールデンタイムで猪木、藤波、タイガーマスク、長州らが活き活きとエネルギーを放射していたころに似ている。OH砲の入場時には、破壊王も暴走王もファンにもみくちゃにされ、その姿が見えないほどだった。

いったい、この〝熱〟を生み出す要因は何だろう。

ZERO—ONEが面白いから？

たしかにZERO—ONEは面白い。バツグンだ。

でも、ZERO—ONEはできて1年ちょいだし、地方でも求心力がつくほどの刺激＆ショックは残していない。

じゃあ、地方に有名レスラーがやってきたから？

たしかにそれも大きな要因だ。

しかし、肝心なのはその向こう側だ。向こう側に何か大きく明るく深い河が流れているような気がする。

ZERO—ONEで、いまどんな出来事が起こっているかは、ZERO—ONEを見たことのある人＆興味がある人には知っての通りの話だし、見たことのない人にとっては実感の湧かない話になるから、ここでは詳しく触れなくてもいいだろう。いいんです！

ZERO—ONEは、古き良き時代のプロレスを現在に甦らせたように思われてる節もあるが、松山大会に〝熱〟が生まれた要因の底には、プロレス界全体にとって大きな意味でのヒントになるようなもの、時代性の中でのちょっとした胎動のようなもの、あるいはプロレスの新しい可能性のようなものが流れているような気がする。あくまでも、現在では気がするだけである。

ところで「お笑い」の世界でいえば、ZERO—ONEのリング上は、ドリフである。いろんなキャラがいるし、わかりやすい。ネタにしても練り込まれている。

このドリフに対する概念は『ひょうきん族』だ。

『ひょうきん族』の笑いはひと言でいうと、「偶然起こった出来事を笑いに帰着させていく」というものだ。

ビートたけしが鶴太郎の口に、グツグツに煮えたぎったおでんを突っ込み、ホントに熱がる

ZERO—ONE
7・7両国で大勝負!!

族』の住人が
に針を振った新しさ!!

鶴太郎が、怒りもせず、投げ出しもせず「アチッ、アチッ!」と受け身を取りながらコントに帰着していったシーンは、いまや伝説として語り継がれている。

恐怖と紙一重であったり、笑いは差別を元にしたものであることを隠さなかったり、もはや「お笑い」というカテゴライズを飛び越えて、〝笑い〟というものの本質まで『ひょうきん族』は徹底的にえぐり出して見せてくれた。

『ひょうきん族は』プロレスの世界でいえば、全盛期の新日本である。逆に言えばかつての新日本は「ひょうきん族プロレス」だったのだ!

片やドリフは、〝偶発性〟を切り捨てた、〝高い完成度〟が必要とされる「お笑い」だ。プロレスに置き換えるとノアや全日本に当たる。つまり、ノアや全日本は「ドリフプロレス」なのだ。

ん? いまはプロレスを「お笑い」にかけた話をしているだけなので、そのへん勘違いして怒ったりしないでね。

要は、「ドリフプロレス」を世界的な規模で行っているのがWWF改めWWEである。

しかし、小川と橋本は、もともと『ひょうきん族』側の住人たちである。〝1・4事変〟のときに当の2人が、〝偶発性〟がMAXまでいってしまった闘いで、マット界に衝撃を与えた。

〝1・4事変〟は、まさに究極の「ひょうきん族プロレス」だったのだ。

ZERO—ONEでは、「ひょうきん族プロレス」の住人であるOH砲が、「ドリフプロレス」に真剣に挑もうとしている。これにはなんとなく、新しい風が吹いてくる感じがある。

武藤や小島などはもともとドリフ指向だから、「ドリフプロレス」をやっても当たり前の話だ。しかし、本来は『ひょうきん族』側の住人であるOH砲が、これからどんなドリフをやるのかが、まったくわからない分、非常に興味深くなってくる。

いずれOH砲も『ひょうきん族』側に戻るかもしれない。しかし、いまは「ひょうきん族プロレス」は、純プロレスの世界にはないのだ。

テレビの中の実際の「ひょうきん族」が終了し、〝ひょうきん族〟という概念があちこちに飛び火したように、新日本が形を変えていくと同時に、「ひょうきん族プロレス」という概念は、いまや突鋭化して『PRIDE』という場にある。

OH砲が『PRIDE』と違うことをやろうとしたら、残された選択肢はとりあえずは「ドリフプロレス」になる。その「ドリフプロレス」には、〝高い完成度〟が求められるが、それはノアを筆頭に全日本のお家芸にもなっている。OH砲の得意とするところでもない。

しかし、ドリフには、実はコントとしての〝高い完成度〟だけではなく、もうひとつの強力な武器があるのだ。

子どもでも見れる〝健やかさ〟と、PTAが俗悪番組に指定するほどの〝破廉恥さ〟。そのギャップが人の気持ちを解放させるのだ。

ZERO—ONEが、この〝健やかさ〟と〝破廉恥さ〟を同居させた、ギャップのある「ドリフプロレス」を推進していけば、なにかとてつもない渦が生まれるような……気がしないでもない。

7・7ZERO—ONEは、両国国技館でビッグマッチを行う。

ZERO—ONEよ、OH砲よ、もっと健やかに、もっと破廉恥に、そして思い切りハッチャけろ!

プロレスファンを解放させてくれ!

……失敗しても怖くはない。

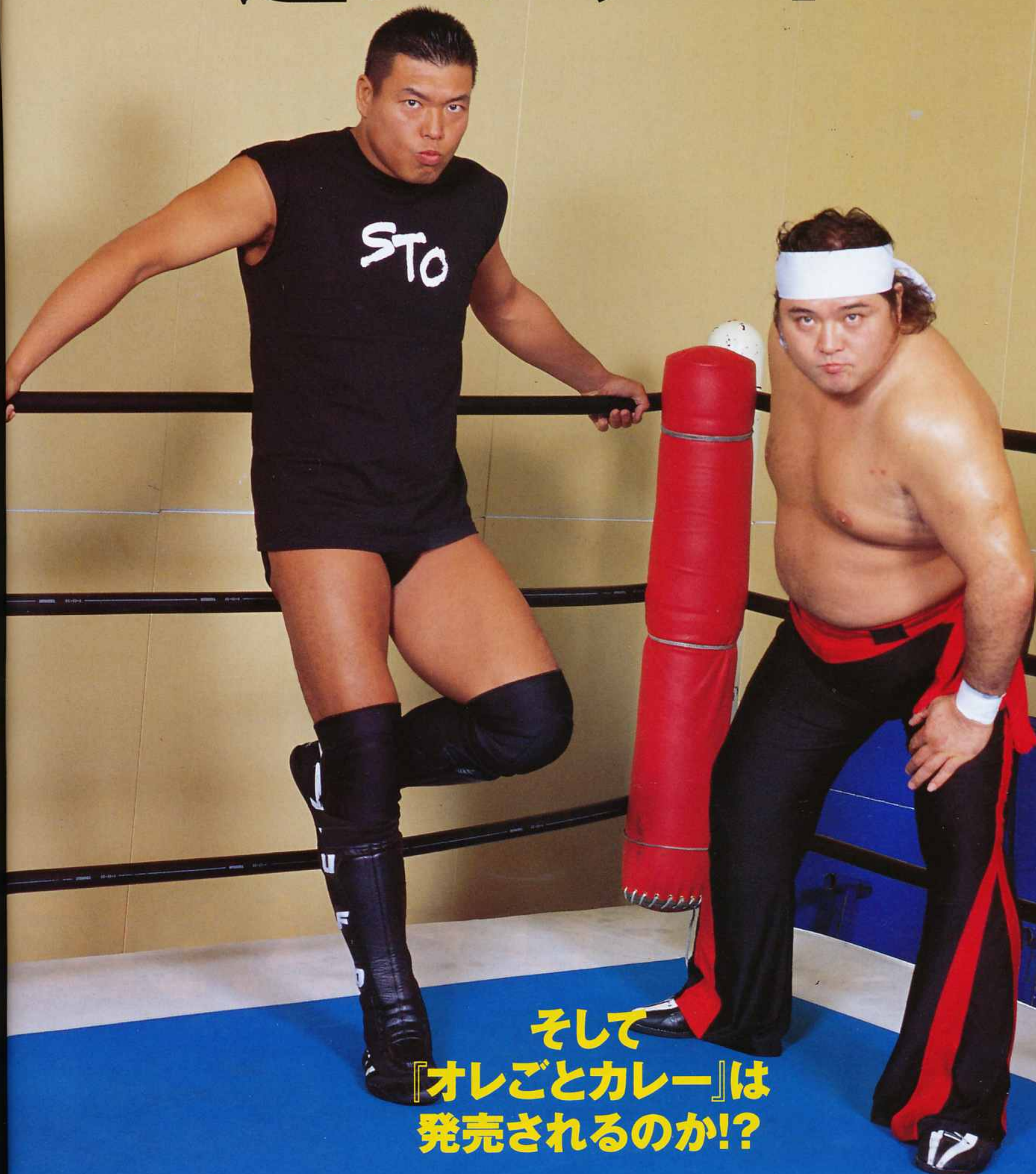
なぜなら、破壊王のログセは、いかりや長介の往年のギャグ、「ダメだ、こりゃ。次、行ってみよー!」だからだ。

夜よ、明けろ!

【N・Y】

もっと健やかに もっと破廉恥に 起こせ、竜巻!!

『ひょうきん族』の 『ドリフ』の方に

“地方発世界”!! OH砲の野望遂にスタート!!

そして
『オレごとカレー』は
発売されるのか!?

5・2新日本ドームを見事利用

➡5・3 ZERO－ON松山大爆発

➡5・9 ZERO－ONE石川急発進

RADICAL対談

小川Ⓞ直也&橋本Ⓗ真也

「刈龍怒（かりゅうど）」「オレごと刈れ！」——2大合体技を引っさげて、OH砲が本格始動し始めた。5・2新日本30周年東京ドーム大会に花を添えたOH砲は、全国に生中継で「オレごと刈れ！」という驚嘆のネーミングを実況アナに絶叫させる快挙を成し遂げた。そしてその翌日には愛媛県松山に見参！　まさに「地方発世界」といった趣の熱気で迎えられた。いまZERO-ONEを拠点に、OH砲のエネルギーが何かを動かし始めている！

聞き手／山口日昇

designed by hisa（Two Three）

GW中の連戦、第3の合体殺法を開発させるための連日のハードな秘密特訓三昧、初の地方サーキットを成功させるためかかっていた心労——その疲れが一気に出たのか、この対談の前日に破壊王は鼻血がドボドボ出たそうだ。しかし、破壊王も、そしてオーちゃんも異常に元気！　OH砲、行ってみよーッ!!

——橋本さん、昨日、鼻血が止まらなかったらしいですね。

橋本　おおっ！　ドボドボ出たぞ！　4時間止まらんかった。

小川　どっか悪いんじゃないですか？

橋本　いやいや、血ぃ出たもん。

小川　だから血が出るってことは、どっかカラダが悪いんですよ（笑）。

橋本　大丈夫だ！　血が出てスッキリしたんや、カラダが。今日は鍋食うし。

——精密検査したほうがいいですよ。

橋本　大丈夫だって言われたもん。〝ヒーラー〟に。

——ヒ、〝ヒーラー〟？　何スか、それ？

橋本　（真顔で）宇宙のパワーを持った人。

——ガハハハハハハハハハ！

橋本　なぜ笑う!?　マジですごいよ！　オレ肩の筋、切れてるんだけどな、「切れたところを繋げます」って言われてな、実際に治っちゃったんだから。宇宙のパワーだけで治ったんだよ！

——ホントですかぁ？

橋本　ホンマや！　ホンマにつながったから、大きな声で他人に言えないんだよ。

——猪木さんの電気の発明と同じようなもんですかね（笑）。

橋本　いや、そこはだいぶ違う（キッパリ）。あっちは磁石のパワー、こっちは宇宙のパワー。全く別物や！　こっちは宇宙の真理、宇宙のパワーだから。

——あ、そこは譲れないんですね？（笑）。さ、宇宙のパワーはともかく、5・3のZERO—ONE松山大会がめちゃくちゃな盛り上りでしたね。ボクも行ったんですけど、あの客席の熱は心地よかったです。

小川　オレも初めてだったね、あんな密度の濃い、身近な大歓声っていうのかなぁ、そういうのをもらったのは。

橋本　小川は幸せだと思うよ。だって、あいう状態の会場しか、まだ見てないやろ？　大きいにせよ、小さいにせよ。でも、そういうものしか見なくていいんだよ。オレたちは100人も入ってないガラガラの会場でやったこともあるけどな。

小川　俺だって、アメリカで観客10人のところでやったことありますよ！　最初は200人位いたのに、雨降ってきたら、みんなゾロゾロ帰っちゃって（笑）。

橋本　（なぜかムキになって）オレなんか、100人くらいのところを1030人と か発表するの大変だったことがあるぞ！

小川　そ、そんなこと言っちゃっていいのかなぁ（笑）。

橋本　ああいうもんは主催者発表やからい い（キッパリ）。

——でも真面目な話、客席の熱気の密度でいえば、『PRIDE』とも変わらなかったですよ、松山大会は。

橋本　そうなった原因のひとつは「小川直也が見たい」っていう素朴な欲求だろうな。地方のファンもオレと小川の一連の闘いも知ってるから、それで見にくる人も多いよ。

——なるほど。ボクは5・2新日本の東京ドームと5・3の松山、両方とも客席から見てたんです。数の違いはあれど、期待感を含めた客席の熱気の密度だったら、ZERO—ONE松山大会のほうが上だって思いましたね。30年以上プロレスを見てるボクが仕事じゃなくても見に行きたくなるんだから、なんか不思議なエネルギーが渦巻いてるんでしょうね。宇宙のパワーじゃないにしても（笑）。

橋本　オレは小学校、中学校の子供たちがZERO—ONEを見たときに憧れるような舞台を作りたいんや。子供が夢もてるような、ワクワクする舞台を。

——プレデターが客席になだれ込んだら、大人も子供も一斉に逃げてましたね（笑）。

橋本　あいつ、怖いだろ？　ひとつ言わしてもらうとね、下手に寄って来られるような選手じゃだめなんだよ。プレデターは久々にみんなが本気で逃げていく選手だからな（なぜか自慢げに）。博多大会（4・29）のとき、プレデターが通路をすげえスピードで走ったんだよ。そしたら、ビックリしたお客が転んじゃったんだけど、後ずさりしてでも逃げようとしてるんだよ（笑）。あれを見たとき、オレは嬉しかったねぇ。

——そういうのは大事ですよね。

橋本　確かにね、恐怖を感じるよ。2メートルのでっかいヤツが追いかけてきたら。理屈なしでね。

小川　あいつ俺よりデカイもんねぇ。

——松山では、小川さんをチェーンで絞首刑にするんだから、いいタマですよ（笑）。

小川　ホントはカッコよく試合を終わらせたかったんだけどね。

橋本　〝オレごと刈れ！〟が決まった瞬間に、「これで終わった！」と思ってやろ。

本邦初公開!!
チキンとポークの
CP砲

チキン
ポーク

天山に「あいつらはチキンとポークのCP砲だ」と言われてしまったOH砲。さっそくその隠れキャラを体現。「こんなことやるのは『紙プロ』だけやぞ！　OH砲のイメージ落とすなよ」（ポーク）

——ボクも思いましたよ。しかし、〝オレごと刈れ！〟って合体技の名前は見事に定着しましたね（笑）。

橋本　あの技、実はオレがキツイんだけどな。ダーハッハッハッハッ！

——〝オレごと刈れ！〟って名前は橋本さんのネーミングじゃないんですよね。

橋本　いや、最初はオレがリング上で言った単なる絶叫だったんだけど、合体技のネーミングにしたのはこっち（と小川を指差す）なんだよ。俺は、あれを技の名前にしようとは思わなかった。さすがに。

小川　新聞の試合結果には必ず決まり技が書いてあるでしょ？　〝オレごと刈れ！〟があの欄に載ったときは嬉しかったねぇ（しみじみ）。「○分○秒〝オレごと刈れ！〟→片エビ固め」って（笑）。新日本のテレビ中継でも実況で「〝オレごと刈れ！〟が炸裂だァァ」って言われたみたいだし。

橋本　松山大会の翌日の松山空港でもさ、記者が「昨日は必殺の〝オレごと刈れ！〟で試合が決まりませんでしたが……」って聞いて来るんだよ。〝オレごと刈れ！〟って名前をみんな当たり前のように使ってるんだよな。

——でしたね。それが、もうおかしくて、おかしくて。小川さんのイタズラみたいなもんなのに（笑）。

橋本　よし、これが完全に定着したら『オレごとカレー』という商品を発売するぞ！

小川　ダーッハッハッハッ！　『オレごとカレー』！　最高ですよ、それ！　ホントに商品化しましょうよ。チキン・ポーク味だからね（笑）。チキン担当はオレで……。

橋本　オレがポーク担当かぁ!?（笑）。じゃあ、試食第一号は天山（広吉）で決まりや（笑）。あいつは商品化できたとしても、せいぜい『●牛カレー』やろ。

――またそういう危ない発言を……。ちなみに〝刈龍怒〟（かりゅうど）は、どちらが名前を考えたんですか？

小川　橋本さんが最初「狩人」って付けたんだけど、いつのまにか当て字になって。媒体によって使われてる漢字が〝狩龍怒〟ってなってるところもあるけど、これは大外刈りの〝刈り〟からインスパイアされた技なんで〝刈龍怒〟が正解だね！　普通だったら、横文字のカッコいい名前になるんだろうけど、あえて一度聞いたら絶対に忘れない名前にしようと（笑）。

橋本　ちなみに今、開発中の技の名前が〝あずさ2号〟だからな。

――ガハハハハハ！　くだらない（笑）。さて、そろそろ本題に入りましょうか？　まず、そもそもこの時期に橋本さんは、なぜ地方サーキットを始めようと？

橋本　いや、別に。地方巡業で宣伝して顔見せをして、夢をファンに持たせると。それが普通やろ。要するに、「あんな都会にいる有名な人がここにも来た」というね。はっきり言って、1年前にこういうことが出来てなきゃいけなかったんだから。

――結果的には抜群のタイミングですよね。

橋本　まあな。いい結果は出てるから。

――小川さんは初の地方巡業と言ってもいいと思うんですけど、いかがですか？　松山大会みたいに花道で動けないくらいもみくちゃにされるっていうのは、初めてじゃないですか？

小川　ああいう熱気に触れたいなっていう気持ちは、もともと持ってたからね。小さな会場で昔の新日本プロレスの会場のように、もみくちゃにされながら花道を行くっていうのには憧れてたって言ったらヘンだけど、どういうものなのか感じてみたかったよね。最近は客も大人しくなって、あまり昔みたいに触りに行かないですけど、松山はホントに凄かったからね。オレ、倒れそうになったもん（笑）。

橋本　あと、最近はプロレス会場で紙テープがなくなったな。あれは、いいんじゃない？　書いといて、「ZERO―ONEの会場は選手を狙わなければ紙テープOK！」って。

――紙テープ歓迎（笑）。橋本さんに飛ばすテープって何色がいいんですかね？

橋本　赤と黒やろ。

――小川さんは？

小川　黄色かな。

橋本　え～っ？　黄色好きなの？

小川　いや、とくに好きじゃないけど、何色が好きかって言ったら……う～ん、やっぱ黄色なのかなぁ？

――テープの色で揉めて仲間割れっていうのもOH砲らしくていいですね（笑）。それにしても、松山大会の客席の熱の密度にこそプロレスの本質、興行の本質がありますよ。

橋本　非常にいい形でお客さんと選手が一体になれたよな。大会の最初はね、「この人たちは一体何を出してくれるんだろう？」っていうふうにお客さんに見られてた。途中から期待されてるのがわかったよ。それが爆発しそうになってきたのが（スティーブ・）コリノの試合だよな。

――（ジェラルド・）ゴルドーvsコリノですね。あれは絶品（笑）。

〝「オレごと刈れ！」〟が完全に定着したら「オレごとカレー」を発売するぞ！（橋本）

OH砲合体必殺技図鑑―1
刈龍怒
［かりゅうど］

暴走王のSTOと破壊王の水面蹴りが同時に炸裂するOH砲第１の合体殺法「刈龍怒」。もちろんネーミングは破壊王だ。バツグン！　OH砲の野望は、８時ちょうどにこの合体技を炸裂させ、ゆくゆくは狩人の名曲「あずさ２号」をカバーすることだ。

小川Ⓞ直也＆橋本Ⓗ真也

OH砲合体必殺技図鑑―2
「オレごと刈れ！」

昨年12・9、難敵マーク・ケアーをジャーマンの体勢に抱え上げた破壊王が「小川ァァァ、オレごと刈れェェェ!!」と絶叫。暴走王はホントに破壊王ごと刈ってしまった。そしてその破壊王の絶叫がそのまま技の名前に。これも奇跡のネーミングだ！

これからは「見たきゃ地方まで来い！」みたいな感じでいいんじゃない？（小川）

橋本　あの結末は誰も予測しなかったやろ？　ビックリさせないとな（笑）。

小川　っていうか、３・１のＷＷＦ現象と一緒で、海の向こうでやってたものが実際に近くまできたら、みんなガーッと集まったでしょ？　地方の場合も同じことで、おそらくＰＰＶ（ペイ・パー・ビュー）でＺＥＲＯ－ＯＮＥを見てた人たちだと思うんですよね。

橋本　つまり日本にＷＷＦが来たのと同じように、松山にＺＥＲＯ－ＯＮＥがやって来た、ヤァヤァヤァ！　ということか？　でも、あっちが〝ザ・ロック〟だったら、小川は〝ザ・エンカ〟だろ。

――ダーッハッハッハッハッハッ！

小川　……そんなに受けました？

橋本　なんだ？　演歌は嫌か？　じゃあ、ザ・……。

小川　フォーク？

橋本　フォークじゃないよな（笑）。〝ザ・ポップス〟はどうや？

――何でもいいですよ（笑）。あ、ポップスで思い出した！　そういえば、また出るらしいですね。『夜もヒッパレ』（日本テレビ系）に。

小川　ＯＨ砲で出ますから！　５月25日（土）22～23時からなんで、ひとつよろしく（笑）。ＯＨ砲は「プロレス界もヒッパレ！」だから。

――今度は何を歌うんですか？

小川　キンモクセイの〝七色の風〟。

橋本　知らねぇぞ！　何だ、キ、キンモクセイって？

――そういうアーティストがいるんですよ。

橋本　（話を聞かずに）それよりも、今度ＯＨ砲で、狩人の『あづさ２号』のカバーを出したいな！

小川　いずれはビューティ・ペアじゃないけど、リング上で何か歌いたいなぁ。歌ってから試合をしたい！　試合さえしっかりやってれば、何をやってもＯＫでしょう！

――ドリフのオープニングの歌になったりしないですよね？

小川　「ＺＥＲＯ－ＯＮＥだよ！　全員集合―ッ！」って（笑）。

橋本　違う方向に行かねえか？

――いや、その姿勢で突き進んでほしいですね（笑）。で、話を戻しますけど、５・３松山大会の前日の、新日本東京ドーム大会は、客席のテンションが低かったですね。５・２の入場時でで沸いたのって、ＯＨ砲と三沢（光晴）、蝶野（正洋）だけなんですよね。あの日は三沢はやっぱり凄かったですけどね。その選手たちの入場時の熱と、他の選手の入場時の熱が、この間のドームのときは明らかに違ってましたよ。

橋本　そんなに違ってたか？

小川　だからこそ、いま地方サーキットを復興するところに意味があるんですよ！　これからは逆に「見たきゃ地方まで来い！」みたいな感じでいいんじゃないかな？　今日、橋本さんにひとつお願いしたいのが、小中校生の値段をもっと低く設定してもらいたいな、と。子供の頃、立見１０００円とかあったじゃないですか。

橋本　それはやってるよ。松山のときはオレがプロモーションでラジオに出たんだよ。そこで発表した合言葉を窓口で言ったら半額っていうことをやってたから（笑）。松山にも結構、子供はおったよな？

STO

このポーズが出たら**刈龍怒**がサク裂するッヅ!!　みんな一緒に叫ぼう!!

行くぞーッ！

カ

リュ

ウ

ドーッ!!

小川　今度から営業はね、小中校生を相手にまわってほしいですよね（笑）。

橋本　よし、わかったっ！　まかせとけ！　小中学生と……あとは女子高生がターゲットだな。

小川　こんな調子だから鼻血が止まんなくなるんだよね（笑）。

橋本　しかし、プロレス界も客に乗っけられる風潮が最近多いからなぁ。客に乗っかればその場は騒いでくれるんだけど、期待はしてくんねえんだよ。客に「オレたちの言いなりになる」と思わせちゃったらさ。それは猪木さんが昔から言ってるけどな。むしろ、客を手のひらの上に乗せないと。

小川　でもさ、マニアは頭に来てるだろうね。あえてマニアの望む方向と全然違うことやってるから。

――マニアが小川さんに期待してることって、『PRIDE』への出陣とかで、宙吊りとは全然逆方向ですからね（笑）。だからこそ、そういう声をハネ返すエネルギーを見せてほしいんですよね。

橋本　ってことは、この先に小川は大仁田と絡む可能性もあるんじゃないか？（笑）。

小川　は？

橋本　この先、どうなるかわかんないからなぁ。5・5WEWの旗揚げ戦で対戦したときに大仁田のあれ食らったんだけど、あのきっったない毒霧はやめてほしいよ。あいつ、なんか病気持ってるんじゃないのか？　あの馬鹿議員！　口の中にずっと溜めてたから、生ぐさい匂いが目と鼻の中に残っちまってなぁ。あれから調子悪くなったんだよ。で、昨日、鼻血ドボドボだよ。……あの毒霧だけは二度とヤダ！

――そういえば、その大仁田厚が橋本さんに「何がストロング・スタイルじゃあ」ってよく言ってますね。

橋本　「何がストロング・スタイルだ」ってか？　じゃあ、オレはこう言うよ。「オレがストロング・スタイルだ！」って。

――橋本さんは、最近自分のやることに全く揺るぎがない感じがしますよね。

橋本　新日本にいた頃は守るべきものばっかり背負っちゃって、はっきり言って面白くない橋本真也だったんだよ。特に新日本の最後の方はね。でもね、オレが繋がれていたその足カセを外したのが、小川直也だったんだよ。強いて言えば、猪木さんが外したのかもしれない。あのままオレが新日本の中で腐ってれば、こんなふうにならなかったと思う。逆に言ったら、小川直也もそうだから。彼も自分の人生の転機を賭けてきたわけだ。だから面白いよ。お互いの運命が同時期に動き始めたから。

――そんな2人にとって、ZERO―ONEは最高の舞台ですか？

小川　橋本さんは「まず自分ありき」という考えではなくて、「全体的に面白ければ

小川Ｏ直也＆橋本Ｈ真也

OH砲が第3の合体技を!?

この対談が行われる前、OH砲は第3の合体必殺技の開発にも余念がなかった。STO＋DDTの「オレごとDDT!!」、小川がバックドロップに担ぎ上げるのと同時に破壊王のニールキックが炸裂する「秘技・天の川」など、数々の合体技が試された。しかし散々実験を繰り返した後に破壊王は、「やっぱり第3の合体技は白紙！　考えてやってもダメや。そのうち凄いのが完成する。こういうのはタイミングだからな」とこの日の完成をアッサリあきらめた。その横で実験台にされてボロボロになった崔リョウジが泣いていた

このポーズが出たら「オレごと刈れ！」がサク裂ッだ!! みんな一緒に叫ぼう!!

行くゾーッ!! 小川ーッ!

オレごと

刈

れエエエ!!

いい」っていう考え方じゃないですか？　ZERO―ONEもゴチャゴチャにしちゃえばいいや！っていう。最後はそこにいくじゃないですか。そういう風に普通はなかなか考えられないものですけど（笑）。

橋本　オレは新日本のときも自分が思ったことをやってきたよ。ただ新日本じゃできなかったことも、今ならできる！

小川　オレもドームより松山の方が面白かったなぁ。

橋本　思い入れがそれぞれ違うから。ドームはドームで、オレは懐かしい場所だから。いろいろあったけど、ドームっていう場所は何回やっても感慨深い。ただし、あのリングは自分たちのものじゃないから。人のものだから。今度はオレたちが自分たちでドーム大会をできるように頑張りたいね。

小川　5・2のドームで花道を歩いてるとき、ブーイングが来るかと思ったら、ありがたいことにけっこう歓声を浴びたじゃないですか？　仮にね、オレが橋本さんの立場だったら、「見たか新日本！　ザマァミロ！」って思ってますよ。

橋本　お前、ひねくれてんなぁ（笑）。

小川　ひねくれてるのかなぁ？（笑）。

橋本　そう思わないといけないのかな？　オレは新日本さんに対する感謝の気持ちだけだからね。

小川　でも、これは橋本さんが新日本プロレスを解雇されたということを前提にした話ですよ。

橋本　そうかッ！　俺は解雇されたのかっ！（怒）。

――そうです。解雇ですよ（笑）。

橋本　そうだった……解雇されたんだったな、去年解雇されたな（笑）。

仰天！小川が絞首刑に

5・2新日東京ドーム大会で天山＆ノートンを生中継でブチ破ったOH砲は、翌日5・3松山で、ZERO-ONE最強ガイジン部隊を迎撃。ドームを凌駕するかのような熱気で迎えられたOH砲だったが、「オレごと刈れ！」を炸裂されたにも関わらず勝負を決めれなかった。しかも小川がプレデターにチェーンで宙づりにされるという衝撃シーンが！

「お互いに協力しましょう」じゃダメ！ケンカだったら客は見に来てくれる（橋本）

（悔しさをにじませながら）。もう忘れてたな（笑）。ただな、去年解雇されたときにケンカした永島（勝司・元取締役）も長州（力）も新日にいなくなっちゃってな、怒りの持っていき場がないんだよ。

小川　あと、これは『紙プロ』だから言える話なんだけど、坂口（征二）さんまで挨拶に来ちゃってね。橋本さんを手放したことに対して相当後悔したのかなって思っちゃうよね。普通だったら来ないでしょ？

橋本　でも、オレは坂口さんの控え室に行ったし、坂口さんが小川と会っても普通だった。昔を思うと、小川も変わったし、坂口さんも変わったし、俺はそれを見てるのが嬉しかったね。だって普通だったら大学の先輩・後輩なのに、プロレスにたまたま入って関係がヘンな風になっちゃったっていう話やろ？　そういう関係が修復されるのは嬉しいことだよ。（思い出したように）しっかし、オレらの控え室にはいっぱい、いろんな人が来たよな？

小川　オレは横で見てたけど、やっぱりみんな心の中で思ってるでしょうね。「新日本は（橋本解雇などという）なんてバカなことをしたんだろうな」って。

橋本　選手はそう思ってないだろうけどな（笑）。結局、永島のオヤジや長州とも辞めるのが1年違っただけだ。でも、それが運命だから。あの解雇があったから、いまこうなってるんだから。これから先、ホントに面白い対決をやろうと思えばできるだろ。そこにヘンなものが入り込んでくるから面白くなくなる。

――橋本さんの頭の中には、その「面白い対決」の構想があるんですか？

橋本　たしかにあるけど、どこまで問題を取り払えるかだね。

小川　しばらくは距離を置いたほうがいいですよ。新日本は問題を多く抱え過ぎてる。

橋本　「お互いに協力しあいましょう」じゃダメなんだよ。ケンカしないと。ケンカだったら客は見に来てくれるよ。

――ズバリ言って、蝶野vs三沢にしても、三沢社長の、蝶野正洋現場責任者就任記念＆新日本30周年のご祝儀みたいなイメージはありますからね。だから、5・2と5・3の連日、ボクが見た正直な感想は「ZERO―ONE、新日本に勝つ！」ですね（笑）。

ZERO―ONE入門―1
OH砲を襲う最強ガイジン部隊

ザ・プレデター　トム・ハワード

OH砲の２人をチェーンで首吊りにした“甦ったブロディ”こと、ザ・プレデター（もちろんテーマ曲は『移民の歌』）。トム・ハワードは、OH砲に後ろ手を組んで向き合うという命知らずな元グリーンベレー。そんな状態からでも一度組み合ったら無数の戦闘用関節技をしかけてくる恐ろしい男だ。この超獣コンビに果たしてOH砲は勝つことが出来るのか!?

りがたいことにけっこう歓声を浴びたじゃ

小川　ＺＥＲＯ─ＯＮＥにはいろいろあるからですよ。どこを切っても同じ顔しか出てこない金太郎飴は、金を払ってまで見たくないじゃないですか。５・２の東京ドーム大会から仮にＯＨ砲が抜けたら、ほとんど金太郎飴状態でしょ。悪いけど、金太郎飴以外で目立ったのは、女子プロとメインの三沢vs蝶野だけでしょ？　新日本はハッキリ言って食われてるよ。あのふたつに。

橋本　女子プロが沸く理由、わかる？

──教えてください（笑）。

橋本　女子プロはね、北朝鮮行ったときもそうだったんだけど、大会場で受けるのよ。最初から最後まで、とにかく動くじゃない？　女の子であるということと、動きが速いということ。大会場で試合を見るときに、止まってる時間がないから、わかりやすい。それが女子プロの受ける理由。男のプロレスは止まるやろ？　女子プロとは動き方が全然違う！　だから、女子プロはプロレスを知らない人も引き込みやすい。

小川　でも、今回のＯＨ砲の試合が女子プロに負けたとは思ってないから。女子プロに負けちゃいけねえなと思いますよ。

──ゲ！　ＯＨ砲は女子プロレスまで照準に入れてるんですか！

小川　もちろん。ドームの前半戦で一番湧いたのは女子プロでしょ？　俺たちはすべて照準に入れてますよ。その日のすべての試合の中でＯＨ砲の試合を一番にもってこないといけないって思うから。

橋本　あとは永田vs高山だな。あれがあったから、まだ良かった。

──高山選手は猪木さんも評価してましたね。

橋本　永島のオヤジも言ってたよ。明日、雑誌の対談でオヤジと対談するんだよ。

──ゆ、雪解けですか！

破壊王が邪道と!!

GW中は大忙しの破壊王だったが、とうとう5・5川崎球場では忌み嫌っていた邪道・大仁田と初遭遇。ファーストコンタクト直後に大仁田は毒霧を吐き反則負け。再試合が行われたが、それも大仁田の火炎攻撃で反則決着となった。「根っからのストロング・スタイル」を自認する破壊王は「わかりあえないというのは悲しいな」と試合後に呟いた。

小川Ｏ直也＆橋本Ｈ真也

橋本　あれ、何だ？『紙プロ』の企画じゃないのか？

──うちじゃないですね、残念ながら（笑）。ところで、去年のＺＥＲＯ─ＯＮＥは「対ノア」というテーマがあった。いまはノアに対してはどう思ってるんですか？

橋本　どう思ってるか？「三沢のバカヤロー！」としか思ってない（キッパリ）。

──ス、ストレートだなぁ。剛速球！

橋本　だって、バカヤローだよ。

小川　ダハハハ。バカヤローっていうよりは、あそこは中国だから。中国を馬鹿にしちゃいけない。あのメインにしても、30分間フルタイムドローで終わって、拍手が起こったでしょ？「あ、この人たちはちょっと違うな」と思いましたよ。何のための拍手なのかな？って。拍手にもいろいろ種類があるけど、「この拍手の渦の中にＯＨ砲は入っちゃいけないな」って思いましたよ。

橋本　最後の試合が最悪になった場合、っていうか、何かあったら飛び込んでケンカでも売ってやろうかなと思うくらいスタンバイしてたんだから。

小川　だけど、あの中に入っちゃいけないなと思いましたね。終わって、さりげなく「帰りましょうか？」って感じでしたから（笑）。

橋本　オレと小川は長い流れの中でいまのような関係が出来上がって、協力してもらってる。これからも、いいものつくっていきたい気持ちはあるよな。俺たちがあの舞台に立ちたいなと。お互いに、そう思うね。やっぱり小川ほど大舞台が似合う人間はいないから。そして、オレたちの手でそういう大舞台を作りたいなと思ったね。そう、秋には俺たちの大舞台をつくる!!　〝天下一武闘会〟や!!

──出ましたね！　世紀の大イベント〝天下一武闘会〟！　これはトーナメント形式の大会なんですよね？

橋本　そう。シングル・トーナメント。だから新日本でいう、Ｇ─１だな。『真撃』部門だったやつも一緒にトーナメントに入っちゃってるから、それこそマーク・ケアーもいるし、プレデターはいるし、スゴいヤツが集まるよ！　その中にコリノとかあんなのが入ってきたら、どんな試合になるのかと思うじゃない。マーク・ケアーvsスティーブ・コリノとか、すげえだろ？

──それは観たい！（笑）。松山のゴルドーvsコリノはホントに絶品でしたからね。ああいうのを都内でマニアが見ると「何やってんだ⁉」ってなる。それを橋本さんが先回り的に「いつまでやってんだ、こんなこと！」って先に言ってくれるから開放感

ZERO－ONE入門─2
悪のNWA会長&レフェリー

Mr.フレッド　　ジム・ミラー

超高速カウントの使い手（もちろん敵には超スローカウント）、疑惑のレフェリー・Mr.フレッド。そのフレッドを操るNWA会長のジム・ミラーは、破壊王からNWAのベルトを奪ったり、対戦相手を勝手に変えてしまったりと、ありとあらゆる手を使ってZERO-ONEマットを乗っ取ろうとしている!!　負けるな、がんばれボクらのOH砲!!

が生まれるんですよ。どれだけハッチャケてくれるのかという期待感は大きいですよ。

橋本 ただ、規模が大きくなればなるほど、ハッチャケたことするのは難しくなるのかな？　最近思うんだけどさ、あんまりメジャーになりすぎたらプロレスって面白くないのかもしれないね。

小川 え？　メジャーになりすぎちゃダメなんですか？

橋本 いまのサッカーみたいな規模にプロレスがなったとしたら、逆につまんないかもしれないって思ったんだよ。

――ZERO－ONEの地方サーキットは「地方発世界」っていう感じですよね。単なる地方サーキットじゃない、何かを生む場になってほしいですよ。

小川 まだまだ、これから発信していきますよ！

橋本 いま、エネルギーだけはあるから。そういう改革をしていこうと張り切ってるところだよ。

小川 橋本さんはホントにエネルギーが有り余ってますよ！　鼻血4時間も出てるのに、「さあ、鍋でも食いに行くか」とか言ってるんですからね（笑）。

橋本 なんでや？　鼻血が出たから、いっぱい食わなきゃいけないだろ！

小川 普通の人は鼻血が4時間出たら気力が萎えると思うけどなぁ（笑）。

橋本 そうか？　やっぱり身近に張り合えるライバルがいるというのは大きいよな。一瞬たりとも弱気にはなれないからな。お互いに「あいつすげえな」と思ってるから、向上心が刺激されるでしょ。いまは手を組んでいても、その気持ちだけは最低限持っていないといけない。オレと小川はライバルだから、結局。

小川Ⓞ直也&橋本Ⓗ真也

――ところで小川さん、橋本さんと気は合う方なんですか？

小川 気？……って、そこまで考えないですけどねぇ。

橋本 気が合ってるから一緒にいるんだよ！（笑）。気っていうのは、見えない〝気〟でしょ。一緒にいるってことは気は合うんだよ。意見が合うかは知らないけどな（笑）。

小川 そう！　意見は合わないけど、気は合う……のかなぁ（笑）。まあ、お互いに「プロレス界をヒッパレ」ってことを考えてますから（笑）。

橋本 オレと小川は考え方が違うっていうか、考えるカテゴリーが違うから。

――しかし、2人とも、ホントに元気ですよね？

橋本 当たり前や！　新日本の（鈴木）健想にしても放出するエネルギーが落ちてるから悩みごとばっかりやろ？「オレが絶対に新日本プロレスを蘇らせてやる」とか、「天下取ってやる」っていうエネルギーを感じねえんだよ。もっと言えば、下心がないんだよ。

――ガハハハハ！　下心。せめて野心って言ってくださいよ（笑）。

橋本 下心って言ったほうが正直な気持ちだろ？　でも、あいつは悩んだフリしてるけど、多分何も考えてねえんだよ！　なんで新日本プロレスの若手に、大胆不敵なヤツがいねえのかな？　大胆不敵な話を聞くと、だいたい女のことばっかりなんだよな。俺が知る限り、一番欲があったのは永田（裕志）だよ。だからチャンピオンまで登りつめたんじゃないかな？

――新日本の「ストロング・スタイル」と橋本さんの「ストロング・スタイル」っていうのは違うんですか？

橋本 う～ん、オレも「ストロング・スタイル」っていうものが、たまにわかんなくなるけどな。結局、何でも「ストロング・スタイル」っていえば通っちゃってるからな。小川は「ストロング・スタイル」っていう言葉にどういうイメージを持ってる？

小川 「プロレス」という言葉と同じで、「ストロング・スタイル」っていうのも、なんかそれぞれ、その人の解釈でなりたっちゃう部分もありますよね。

――ボクは安住の地を求めないで、精神的な冒険していくことを「ストロング・スタイル」って言うんじゃないかなと思ったんですよ。試合スタイルじゃなくて（笑）

小川 それだったら一生「ストロング・スタイル」じゃない。

ZERO－ONE入門―3
危険なヤツらが異種プロレス戦!!

ジェラルド・ゴルドー　小笠原和彦

崔リョウジ、星川尚浩、そして高岩竜一を破った空手家・小笠原の実力に、とうとう破壊王も対戦を受諾!!（7月に実現か？）。この小笠原と昔から面識があったのが〝死神〟ジェラルド・ゴルドー。このゴルドーと、昔ながらのアメリカン・スタイルを貫くNWA勢が、奇跡の遭遇。異種プロレス戦を展開してしまうのがZERO-ONEの魅力だ

お互いに「プロレス界をヒッパレ」ってことを考えてますからね（小川）

橋本　人間は、安住の地はいつも欲しいんだよ。でも、安住の地に入っちゃうと、今度はつまんなくなっちゃう。だから、ないものねだりじゃないけど、いつまでたっても結論が出ない。

小川　結論が出てる人もいますけどね。猪木会長が「あれは誰に向かって言った言葉が知ってるか?」と言ってましたけど。

橋本　あれって何や?

小川　「人は歩みを止め、挑戦を諦めたときに老いていく」っていうやつですよ。

橋本　誰に言ったの?

小川　「この詩はな、俺が坂口に送った言葉なんだよ」って猪木会長が言ってましたよ。

橋本　それは、坂口さんにも言い分があるんじゃないの?

小川　どういう言い分ですか?

橋本　「いい加減落ち着きなさいよ」っていう（笑）。（ビッグ・サカの声マネで）「いい年こいて、いつまでやってんだぁ?」「少しは落ち着けよぉ」「真面目にやればね、いつか有名になれるんだ、女房3回も変えて。年、見てみぃ」って。

小川　ダーッハッハッハ。

――どっちの生き方がいいんですかねぇ。

橋本　それは人それぞれだからな。ただ、プロレスラーとして見てれば、オレはアントニオ猪木のが魅力的だよ。小川はどうや?

小川　それはどっちを選ぶかっていったら、見ての通りじゃないですか（笑）。

橋本　オレ、なぜかな、野村元監督と沙知代夫人を見てると坂口夫妻を思いだすんだよ（笑）。

――さ、話がかなり脱線し始めたんで、そろそろ締めに移りたいと思いますが（笑）。ZERO―ONEは7月にビッグマッチがあると聞いてますけど。

橋本　（突如、テレコに向かって）いいか、プロレスファンよ! よく聞け! 7・7、両国国技館に天の川をかける! オレと小川の〝秘技・天の川〟が炸裂する! 年に1度しか使わない幻の大技や!（笑）。

――〝秘技・天の川〟! またもやネーミングがいいですね!

小川　1年にいっぺんの大技……?

――そして、小川さん! いま「8・8東京ドームでUFOのビッグイベントを開催」という話が盛んに出てますね。

小川　噂は単なる噂でしょ? オレにはよくわからないことが多すぎて（笑）。

――未確認飛行情報ということですか?

小川　UFOはもともと、そういうものだから。

橋本　（真顔で）ひょっとしたら、小川はE.Tかもしれんぞ!

小川　は? 何を言い出すんですか（笑）。

橋本　オイ! 絶対にE.Tだよ、こいつ!

小川　もっと、まともなキャラクターにしてほしいよなぁ。E.Tよりはカワイイ自信あるんだけどなぁ。

――STOじゃなくてETOにしますか（笑）。

小川　まあ、「小川＝E.T説」も、「8月のUFO飛来説」も噂が真実になるのか、真実が噂になるのか、噂は噂なのか、そのうちわかりますよ。

橋本　よーし、夏に向かってスパートかけるぞ! OH砲、次行ってみよーッ!

【OH砲が新合体技開発に失敗した5月15日／東京・ZERO―ONE道場にて収録】

［月刊誌なりの精一杯の速報!］
5・19金沢大会でOH砲＋藤原組長が、プレデター＆ハワード＆コリノのトリオに激勝!! 〝オレごと刈れ!〟で、トム・ハワードからピンフォール勝ち! しかし、プレデターはまたもチェーンで小川を首吊りに! 試合後、悪のNWA会長ジム・ミラーが〝謎の白い粉〟を破壊王に吹きかけ、激怒した破壊王は「おい、クソデブ!おまえはアメリカの悪の象徴だ!」と、7・7両国で米国軍退治を宣言!

ZERO－ONE入門―4
熱いヤツらが火祭り

大谷晋二郎　　坂田亘

大会の度に熱い男たちがぶつかるZERO-ONEマットは、いつだって火祭りだ。真空飛びヒザ蹴りが冴え渡る元リングス・坂田亘、昨年の"火祭り問題"で遺恨を残した石川雄規、臼田勝美などのバト勢も参戦。大谷晋二郎、田中将斗らのZERO-ONE勢と熱い闘いを繰り広げている。熱い奴らがZERO-ONEにいるって? ホントか、本当なのか!?――本当です。

いまZERO―ONEでは こんなことが起きている

SPECIAL

4・27大阪／4・29博多
元極真・小笠原強し！ そして博多大会には邪道登場!!

ZERO―ONE第3の挑戦者・高岩まで敗れ去る!! 崔リョウジ、星川尚浩を連破した元極真の空手家・小笠原和彦との対戦を破壊王に直訴した高岩だったが、またもZERO―ONE勢が敗れる結果となった。試合は、腕ひしぎ、デスバレーボムを決め、ラリアットで小笠原をダウンさせるなど高岩のパワーが光ったが、最後は小笠原の蹴りの連打の前にレフェリーが試合を止めた。

「高岩は強かった。不死身かと思った。次こそは橋本選手とやりたい」と語った小笠原は、試合後ゴルドーと花道で握手をするシーンも見られた。メインでは、破壊王がザ・プレデターに絞首刑！ 結果は相手方の反則による勝ちではあったものの、破壊王は大阪の観客の前でチェーンで宙づりにされるという辱めを受けることとなってしまった。試合後も暴れ回るプレデターをよそに、破壊王は「高岩も敗れたいま、オレが責任を取る！」と、ついに小笠原との決着戦を行うことをアピール。小笠原もリングに登場し、これに応えた。

翌々日の29日博多大会のメイン終了後は、なんと大仁田厚が乱入!! 5・5川崎球場で行われる冬木弘道引退興行&WEW旗揚げ戦のメインを電流爆破マッチにするように要望書をたずさえての邪道参上だったが、その要望書は大谷によってビリビリに。破壊王は「肉体と精神だけで試合ができないのか」と一喝した。

破壊王は「やるときはやってやる!! そのかわり、そのときは殺すぞ!!」と絶叫!! それを受けた大仁田はニヤリと笑い「わかった!! やろうじゃないか、ストロングスタイルを!! （おまえたちが負けたら）電流爆破をやれよ!!」と邪道流に切り返した。

大阪、博多の2日間の闘いを受けて、ZERO―ONE初のツアーはガゼン熱を帯びはじめた！

4・30山口
破壊王のピンチに暴走王参上!! 大谷晋二郎、ブチ嬉しい凱旋興行!!

体育館備え付けの地灯りしかない。洗練された演出もない。そんな地方大会に突如、小川直也が現れたのは、破壊王救出の瞬間だった!!

5・3松山でOH砲と対決するザ・プレデター&トム・ハワードの最強ガイジン部隊は、この日前哨戦で橋本&藤原組長をひと蹴り。それどころか試合を決めた後にも、プレデターは破壊王をチェーンで宙吊りにしようとした。しかしその瞬間、破壊王を暴走王が脱兎のごとく駆けつけ救出!! 超破壊的コンビを払い腰、STOで蹴散らした小川は、「3日、松山でおまえらとやってやるからな!!」と勢いづくガイジン勢を一喝した。

また、27日の大阪に続いてプレデターに宙吊りにされそうになったところを救われた破壊王は、「（小川は）遅れて間に合わないと思ったけど一番オイシイときに入ってきた。それも才能のひとつ！ ガイジンが自信もってきてるんで、生半可な日本人じゃ太刀打ちできなくなる。いまのうちにブッ倒しておかなきゃな!!」と5・3松山に照準を合わせた。

さらにこの日は、大谷晋二郎が「大オオタニ・コール」に迎えられ、大谷パパをはじめとする家族も見守る地元に凱旋した。

未知の強豪・エボリューション（フランキー&ノバ）を迎え撃った大谷&田中将斗の王者組は、見事に会場をヒートさせ、完璧な勝利。NWAコンチタッグ王座の防衛を果たした。

「新日本プロレスを辞め、ZERO―ONEに移った大谷晋二郎を熱く応援してくれてありがとう!!」「ブチ嬉しい!!」と地元・山口弁でマイクアピールした大谷は試合後、「俺たち2人はメジャーにあぐらをかいてるヤツらに追いつくまで負けない。メジャーの皆さん、悔しかったら返答してみろ!!」と熱く大谷劇場を展開した。

5・3松山
仰天！ ゴルドー、コリノに敗北！ 暴走王がチェーンで宙吊りに!!

異次元対決となったゴルドーvsコリノ。フレアーばりのファイトスタイルのコリノは、じりじりと詰め寄るゴルドーから「ノンノン」と逃げ回るばかり。だが、疑惑のレフェリー・Mr.フレッドの出したテーピングでコーナーにゴルドーを縛りつけるなどズル賢さを見せた。当然、怒りのゴルドーが強烈なハイキック！ ダウンしたコリノだが、フレッドは超スローダウンカウント。しかも「4」を2回も数える暴挙に出た。さらに怒りを増幅させたゴルドーは、無数の正拳突きをコリノに叩きこんだ！ だが、コリノが一瞬のスキをつき、急所攻撃から一気にゴルドーを丸め込む。ここで、フレッドの「超高速3カウント」が炸裂!!なんと、コリノが死神・ゴルドーに勝利!!! 怒るゴルドーをリングに残し、フレッドは猛ダッシュで逃亡した。まさにZERO―ONEならではの絶品、珠玉の異種プロレス対決だった。

メインでは「大オガワ・コール」「大ハシモト・コール」の中、OH砲が松山に登場!! だが、〝ZERO―ONE最強ガイジン部隊〟とMr.フレッドに、終始混乱させられっぱなし。破壊王のニールキック、満を持して放った小川のSTOには超スローカウント。しかし、OH砲は前日の新日本ドームを上回るかのような松山のファンの熱気&大声援に大発奮。〝刈龍怒〟、そして〝オレごと刈れ!!〟をハワードに炸裂させた。誰もが決まったと思ったが、カットに入ったプレデターが小川の首をチェーンで巻き、場外に宙づりに!! 暴走王が暴走され半失神に陥ってしまうという驚愕のシーンが現れた！ ここでゴングが鳴り、試合はノーコンテストに。その後はアメリカ勢とZERO―ONE勢が大乱闘。日本vsアメリカの大戦ボッ発を、ゴルドーはエプロンで腕を組み、ジーッと見つめていた。

何が起こるかわからない

プレデター、リング外でも大暴れ!!

ゴルドー・ジャパン
プレゼンツ

ZERO-ONE

トゥー!

読まないヤツは超高速スリーカウントの刑

トゥー!

いま一番熱く燃え上がっているプロレス団体ZERO-ONEが初の地方サーキットを敢行! 4月27日の大阪大会を皮切りに、OH砲出陣の5月3日松山大会までの全四戦、『紙プロ』では、“死神”ジェラルド・ゴルドーの日本支部「ゴルドー・ジャパン」林玲香さんの協力のもと、外人選手中心に全戦を徹底追跡! OSU!!

地方巡業旅日記（サーキット）

文・撮影／ゴルドー・ジャパン・林玲香

designed by matsu（Two three）

の昼 の顔は
士だ った！

地方巡業旅日記

《第一日目》4月27日(土)

いよいよ今日からZERO―ONE初の地方サーキット。7泊8日のツアー開幕！ 今回は、なんと言ってもウチのボス、ジェラルド・ゴルドーが意外と思われるかもしれませんがプロレスルール初挑戦で、おまけにシリーズ初参加となるので不安と緊張の中、昼前にホテルを出発。

ところが、12時前に東京駅に外国人選手が到着したけれど、ここからが珍道中の始まり。12時18分発と聞いていた新幹線のチケットをよく見ると、なんと12時発！ ここは東京駅丸ノ内口。時刻は11時50分。しかも手には10日分ほどの大荷物。ただでさえ大きな外国人が大きな荷物を持って東京駅を走るッ！ やっとホームが見えてきたと同時に発車のベルが……発車させてなるものか！ と一足先に乗り込んだゴルドー、プレデター、コリノの3人が新幹線のドアを押さえ「Hurry UP!!」と声をあげる。ゴルドーが乗車口に仁王立ちしにらみを効かせれば、プレデターは力ずくでドアを必死に押さえる。そしてコリノは注意する駅員に対し両手を挙げ「日本語わかりませ～ん」のポーズ。キャラクター通りというか3人の好プレー（？）のおかげで、なんとか全員無事乗車。結果、新幹線を2～3分止めてしまい他のお客様には大変ご迷惑をおかけしましたが……。それにしても、さすが、この3選手。リング外でも相当強いことがこれで証明できたはず。

新横浜を通過した頃には、みんなも落ちつき出発前にチョロさんに頂いた『紙プロ』を回し読み。と言っても日本語が読めない（当たり前）ため、なんて書いてあるのかと聞いてくる外国人勢。その度に『紙プロ』の独特の文章を訳すのは、ひと苦労。そんなこんなあって大阪駅に到着。随分長いこと訳してたんだなぁ…。

そして、いざ会場の大阪市中央体育館へ。今回のシリーズは2千人ほどの会場と聞いていたが、いきなり八千人くらい軽く入りそうな会場に一同びっくり。売店では、さすが地元の崔リョウジ選手！ 新発売のTシャツがバカ売れで大好評。しかし、どっかで見なれたこのTシャツ…って、ウチで出してるゴルドーTシャツそっくり！ これはボスに知れたら大問題に発展するかと思い恐る恐る報告。が、ゴルドーは「へぇ～」といった感じで怒りもせず。まぁ元々はウチにいた崔選手だったからなのでしょう、きっと……。

大盛況のうち試合も終了。試合後は崔選手の実家である『焼き肉・味安』へ。店に入ると、たくさんのお客様が拍手で大歓迎。とってもおいしい焼き肉とステキなご両親にみんな大満足。この『味安』には大阪に来るとゼロワン勢の誰かが必ず立ち寄るので皆さんも一度足を運んでみては？ 崔選手もちょくちょく顔を出しているので要チェック！ お腹もいっぱいになり、外に出てびっくり!! 深夜1時頃にも関わらず20～30人のファンの方々が……。みんなで記念写真を撮り、最後には崔選手とご両親、そしてゴルドーの4ショット。とても貴重な一枚でしょ？

さすがに今日は疲れて外人勢は二台に分かれタクシーでホテルへ。しかし、このタクシーの運ちゃんが道に迷い、メーターはなんと一万円！（怒）。とにかく初日からこんなことばかりで、あと一週間大丈夫かなぁ？

《第二日目》4月28日(日)

今日は新幹線で博多へ移動。一時間の余裕を持って新大阪駅に到着し40分ぐらいの自由行動。外人選手たちは、おみやげ売場を見たりコーヒー飲んだり……でも一番の興味は、意外というかスポーツ新聞。それぞれ新聞で前日の試合結果を見て必ず「なんて書いてる？」と一人一人聞いてくる。もちろん全員が新聞に載ってるわけではないので、残念そうにしている選手の姿を見ると、みんな記事になるといいのに…と思う。

そうこうしているうちに、あっという間に博多に到着、そしてホテルへ直行。外人選手は博多駅近くまで探索し博多ラーメンを堪能。しかし、CW（アンダーソン）とノバ&フランキー（エボリューション）の3人は身体に気を使い鳥肉を求め博多の街へ。大丈夫かなぁ…？ ホテルに戻ってくるとノバがフロントに近くにジムがないかと聞いている。どうやらウェイトトレーニングがしたいらしい。

そして、ある意味、今シリーズで選手以上に目立ちまくっているのがレフェリーのMr・フレッド。実は彼は年間千件以上もの裁判をこなしている敏腕弁護士。毎日必ずEメールでアメリカに状況を確認し、適切な指示を送っていた。こんな姿を見るとリング上での悪役レフ

シリーズ初日、東京発大阪行きの新幹線でのゼロワン外人勢。真剣な眼差しで「紙プロ」を読み込むゴルドー。静かに眺めるハワード。そして「紙プロ」に載っているシウバを、にらみ付けているのがザ・プレデターだ！

日明兄さんの人生相談（『紙プロR.NO10』）や読者ページにも登場したことがある崔リョウジ。彼の実家の焼き肉屋「味安」に集結したゼロワン外人勢＆高岩竜一

ゴルドーのピースサインが見られるのは『紙プロ』だけ！

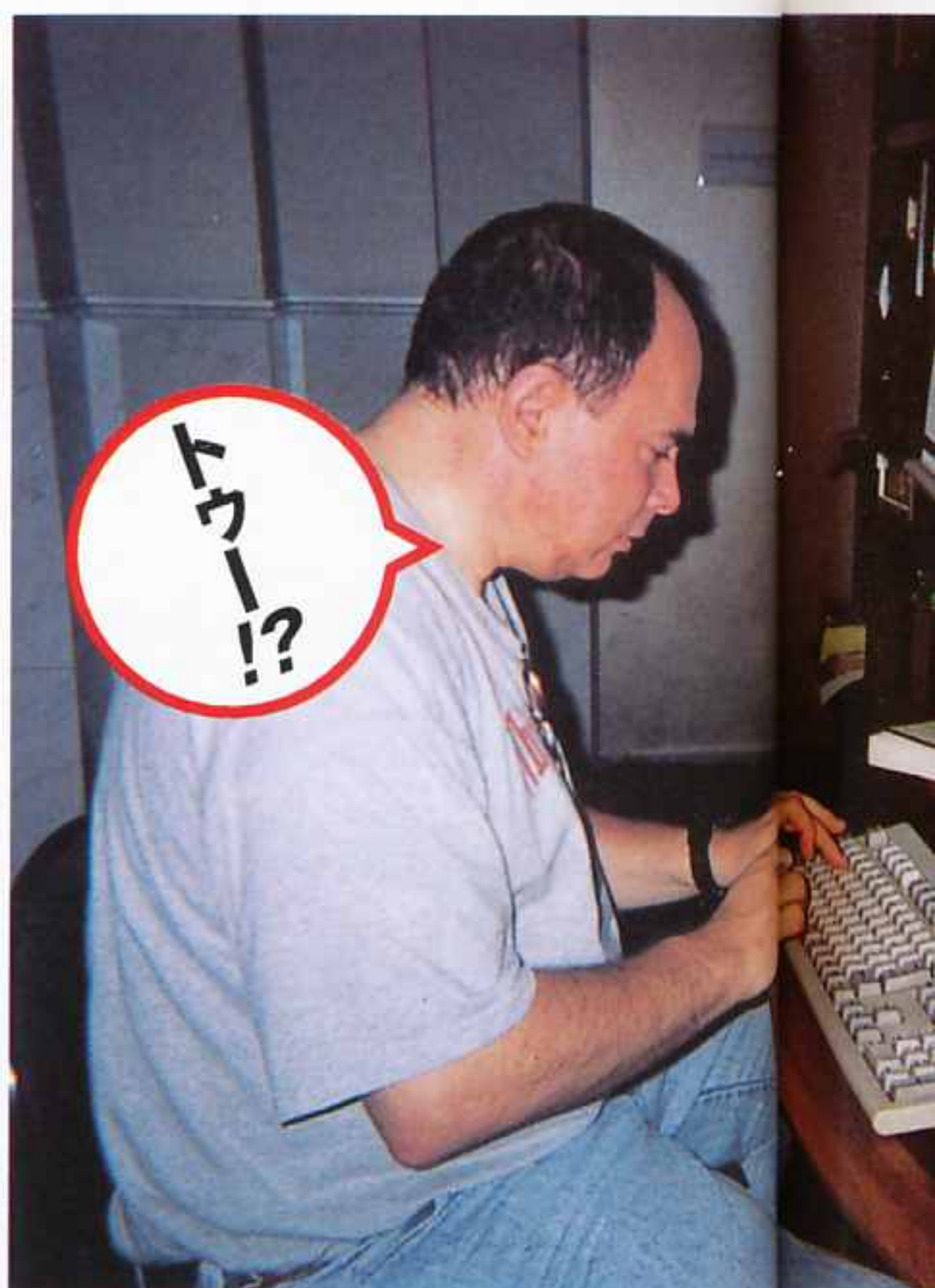
オイ、オイ、誰だッ!? "死神"ゴルドーにサミングをしようとしている度胸のあるヤツは？ とにかく、ゴルドーのピースが見られるのは「紙プロ」だけ！ でしょ？

崔リョウジ選手の実家『焼き肉屋 味安』

崔リョウジと師匠のジェラルド・ゴルドー＆両親があなたのお越しをお待ちしております！（USO!）
大阪府大阪市東淀川区淡路4-10-20
【問い合わせ】TEL.06-6326-2932
（※阪急淡路駅より徒歩1分）

エリーっぷりは全く想像つかない。
夜、食事に行くためロビーで外国人選手たちと待ち合わせたが、いくら待ってもウチのボスが来ない。姿を見かけたというプレデターの話を聞くと「カマクラ」のトランクスを履き出掛けて行ったと言う。？？？　そんなバカな！　まさかロードワーク？　30分以上待ったが戻ってこない。夜の街で道行く人にサミングしていなければいいのだが……。心配は心配だが戻ってくる様子もないので先に行こうとホテルを出ると向こうからゴルドーがこちらに向かって走ってくる。更に駐車場でシャドーまでしている。しかも顔を真っ赤にしながら…。一足遅れて合流したボスに話を聞いてみると、駅まで走り道に迷ってしまったのだという。とりあえずホッとした。一般の方に迷惑かけてなくて…。

《第三日目》4月29日(月)

今日はプロレスファンにもお馴染みの博多スターレーンにて試合。とにかく会場の熱いこと暑いこと！　売店では大阪大会に続き大谷選手がTシャツ購入者へのサイン会。田中選手とともにたくさんのファンに囲まれて満足げ。
休憩時には、トム・ハワードとサモア・ジョー、NEWTシャツ（競馬好きということで馬のイラスト入り）がかわいい高岩選手のサイン会。
その後、大仁田さんの乱入後の売店にはゴルドーとエボリューションが……。あっという間に今回のシリーズ用に用意したカマクラTシャツは完売。山口・松山のファンの方々スミマセン。
今日もまた大会は大成功に終わり食事へ。知人と食事に出掛ける選手や夜の街へ繰り出す選手とそれぞれ。外人選手数名と私は今日も焼き肉。やっぱり、みんな肉好きらしく毎日のようにコリアンバーベキュー。でもCW、ノバ、フランキーはサラダとライス、ロースを少し。この3人は朝からジムに行ったり食事に気を使ったりと本当に徹底している。
明日は午前中にバスで山口へ移動のため、この日は早めに解散。

《第四日目》4月30日(火)

今日は大谷選手の地元・山口でデビュー10周年記念興行。2時間以上のバス移動。みんなさすがに疲れているらしく爆睡する選手たち。そんな中で一人はしゃいでいるのが大谷選手。周りのことも考えず大きな声で話したり鼻をかんだり笑わせたりお菓子を食べたりと大忙し。地元ということで嬉しいのはわかるけど、完全に遠足気分。そのくせ、ひとしきり騒いだあとは爆睡。
途中のインターで10分ほどトイレ休憩。選手たちが何人かバスから降りると、ぐっすりお休み中の大谷選手が目を覚ましてしまった…。もうすぐで地元・山口に到着というので再出発したバスの中では再び大谷晋二郎オンステージ。「ここがボクの通ってた小学校」だとか「ここはボクが通ってた中学校」「ボクは、この店でバイトしてた」などとバスガイド顔負けの案内っぷり。試合前からご苦労様。
会場となった、やまぐちリフレッシュパーク総合体育館は、とても新しくキレイな所。少し雨が降ってきたのが心配だったけど、東京や大阪からのファンも含め、たくさんのお客さんが来場して下さって一安心。
この日の試合後は韓国料理屋へ。外国人数名は食後にビールの一気飲み大会。ちなみにウチのボスは、意外に思うかも知れないがお酒は飲まない。と言うより止めた。前に一度「オレにアルコールは飲ますなヨ！　人を殺しかねないから」と真顔で言われたことを思い出し、例の真面目な3人組とボスはホテルへ。でも、ボスが飲まなくて良かった。その後、一気大会は次第にエスカレートしビールから日本酒に。最後は、すっかりダウンしてしまったジョーをトムが担いでホテルへ。その後もトムは朝の4時過ぎまで日本酒を飲んでいたが、それでも全く酔わず。不思議に思いトムに聞いてみると、グリーンベレー時代に眠らない特訓と酒に酔わない特訓があったらしい……。恐るべし、グリーンベレー！
明日は移動後オフなので、こんな日もたまにはいいか。でもジョーは朝起きれるかなぁ…？　ちょっぴり心配。

《第五日目》5月1日(水)

今日から5月。集合時間にロビーへ行くとトムは、もうさわやかな顔をしていた。ほとんど寝てないはずなのに、さすがはグリーンベレー！　その後、ジョーがかったるそうにやって来た。見るからに二日酔いっていう顔。トムとはあまりにも対照的。

あのMr.フレッドの昼の顔
なんと敏腕弁護士だった

トゥー!?

インターネットで自身のホームページをチェックするゴルドー。真ん中の写真は今シリーズ、選手よりも目立ちまくっていたレフェリーのMr.フレッド。暇さえあればネットカフェでメールのチェックに励んでいた。トゥー!

真撃マットでの一騎打ち以来、ゴルドーのお気に入りの日本人レスラーが、この田中将斗。大谷を交えた6人タッグも見てみたいぞ！　OSU！

ブロディになりきり、ハワードを抜いて一気にゼロワンのエース外人に登り詰めたのがプレデター。ちなみに、この日も外人勢の夕食は焼き肉でした。

移動のバスの中でグッスリお休み中の田中将斗、そのうしろには高岩竜一。さらにそのうしろで大口を開けているのが崔リョウジだ

リング上だけではなく、どこに行っても熱い男・大谷晋二郎。エロ新聞を食い入るように見ているかと思えば、次の瞬間には爆睡。そして再び目を覚ますと、今度は風船で遊びはじめる。大谷オンステージにようこそ!

ZERO-ONE地方

この日は、まずバスで柳井港まで移動。そしてバスと言えば大谷晋二郎オンステージ。またもや眠そうな選手たちを尻目に「ビデオが見たい！」と言いだし、サムライTVで始まった『ch ZERO―ONE』を観賞。大谷選手の笑い声に寝かけていた選手も起き出しビデオに釘付け！ それほど、この番組は面白い!! バスの中は大爆笑の渦。

柳井港に到着し、ここから1時間ほどフェリーで松山へ。ここで衝撃的な事件が勃発！ 目を離した隙にプレデターがフラフラと港の方へ。よく見るとそこには太い鎖が!! 鎖と言えばプレデターの必須アイテムだけに見つけるとジッとしていられないのか、それとも、単にいつも使用しているものより太い鎖が欲しかったのか……。とにかく波止場に巻き付いている鎖を力任せに引っ張り始めたプレデター。それを必死に止めに入ったのが練習生の小林くん。怒ったプレデターは、なんとコンクリートの上でジャイアントスイング10回転！ どうなることかと思ったが小林くんはなんとか無事脱出。しかし、プレデターは懲りずに鎖をグイグイ引き始めた。今度は小林くんに代わって練習生の炭谷くんがプレデターを止めに入ったが、これが大失敗。軽々と持ち上げたプレデターは炭谷くんを、いとも簡単に海の中へと放り投げた。底が深いので大丈夫か？ と誰もが思った瞬間、浮き上がり泳ぎだした炭谷くん。実は炭谷くんは水泳のジュニアオリンピック選手だったのだ。キレイなフォームでクロール・背泳・バタフライを披露する炭谷くんを見たプレデターは再び激怒！ 炭谷くんが陸に上がる度、何度も何度も海へ放り込んでいた。

その後、フェリーで2時間半かけ、いよいよ今シリーズ最後の地・松山に上陸。炭谷くんは、そのまま泳いで松山へ……!?

今日、明日と選手たちは2日間のオフ。何をするかと思えば、みんな仲良くボーリング大会。チーム対抗戦で、もちろん真剣勝負。しかも賞金が出るとあってみんな必死（ちなみにゴルドーは自分に合うボールとシューズがなく不参加）。田中選手はチームメイトのオッキー沖田リングアナウンサーに足を引っ張られ結局最下位に。優勝チームはトム・ハワード率いるチーム・グリーンベレー（グリーンベレー時代、ボーリング特訓もあったのか？）。メンバーのフランキーが個人成績1位。ちなみに最下位は黒毛和牛太選手。盛り上がった後は、それぞれ夜の街へと消えて行った。明日もオフだし誰か選手でも連れて松山城にでも行こうかな？

《第六日目》 5月2日（木）

今日は、これまでの睡眠不足がたたり起きたら午前11時過ぎ。ボスに電話をしてみるも不在。他の選手に連絡を取ってみても、みんな外出中。すっかり置いて行かれてしまった。ちょっぴり寂しい…。

仕方なく溜まった洗濯物を持ってコインランドリーへ向かうと途中でジョーにバッタリ。ふと見ると少し先にはウチのボスの姿が…。どうやら朝からロープウェイに乗り松山城に行っていたらしく、その表情はご満悦。この時だけは"死神"の顔はなかった。それにしても悔しい!! 松山城をバックにボスの写真を撮りたかったなぁ。読者の皆さまごめんなさい。

プレデターに海へ突き落とされ 泳いで松山まで向かう炭谷君（練習生）

見てみぃ、この華麗な泳ぎっぷり！ ゼロワン練習生の炭谷くんは、なんと水泳のジュニアオリンピック代表だったのだ。松山まで無事たどり着いたのか?

一気飲み大会で潰され、二日酔いで目覚めの悪いサモア・ジョー。一方、いくら飲んでも決して酔うことのないのがトム・ハワード。さすがグリーンベレー出身！

波止場で発見した、ぶっといチェーンを、どうしても手に入れたいプレデター。ゴルドーに相談するも全く取り合ってもらえず、力任せに引っ張り始めたのだった

練習生の小林くんをジャイアントスイングで振り回すプレデター。なんとか、この危機を脱した小林くんだったが、代わりに止めに入った同じく練習生の炭谷くんを海へ投げ飛ばしたプレデター。すかさずカウントに入ったのが超高速3カウント男。Mr.フレッドだ。トゥー!

ボーリングを楽しむこの大男は一体誰なんだ？ 正解者の中から抽選で1名にゴルドーTシャツをプレゼント。宛先はP159参照！ ＯＳＵ！

地方巡業旅日記

気を取り直しコインランドリーへ到着。すると今度はオッキー沖田登場、しばらくするとエボリューションの2人も洗濯に。ホントに小さい街だなと思った瞬間だった。結局、ほとんどの選手と会いホテルに戻るとロビーで大谷選手と遭遇。そこで大谷選手からパチンコに誘われ、いざ勝負。ボスのセコンドで大活躍のイクさんが、まず単発フィーバー。続いて私に確変、最後に大谷選手にも確変が！　だが2回で確変は終了し、結局のまれてしまった大谷選手。イクさんも出てはのまれの繰り返し。熱い男がピークに達しそうになったその時、携帯が鳴り大谷選手は泣く泣くパチンコ屋を後に。残された私たち2人で3箱ほどにしてホテルへ戻ったが、勝負の結果はどうなったの、大谷選手!?

《第七日目》5月3日（金）

いよいよ今日はツアー最終戦。長かったような短かったような…。外人選手も初めての土地の連続で大変ながらもエンジョイできた様子。今回のシリーズはいずれの会場も大盛り上がりだったが、特にこの日は、お客さんのボルテージも最高潮！

売店には大谷選手、田中選手、エボリューションと、たくさんの選手がサイン会に現れてファンとのふれ合いもあり、最終戦も大成功!!

終了後はツアーの打ち上げで、またもや焼き肉屋へ。途中から山口編集長も参戦したりと楽しいひとときを過ごす。明日は東京へ戻るのだが、ゴルドー以外のアメリカ勢はみんな空港から直接帰国してしまうのでちょっぴり寂しい。ノバは今回が最初で最後の参戦。なんと帰国後ＷＷＦ改めＷＷＥに参戦が決まっているのだという。それは凄いことだが、フランキーとの2人のタッグが見られないと思うと非常に残念。ＷＷＥに行っても頑張ってネ！

打ち上げの後は数名がクラブで踊りたいと言うので店の前でバイバイ。私は部屋に戻りボスと今回のツアーを振り返った。初めてのプロレス、そして初めての地方巡業に戸惑いながらも「凄く楽しかった」とご機嫌だったボス。ただ一つ、最終戦のコリノ戦でのミスター・フレッドの超高速3カウント負けを除けば……。

《第八日目》5月4日（土）

朝ロビーに集合。やっぱり選手たちはスポーツ新聞のチェックは忘れない。実はボスは飛行機が苦手。基本的に人間不信なところがあるボスは何回乗っても他人の操縦を信用することができないらしい。そんなこんなで、ちょっとナーバスなボスだったが、藤原組長を始め、たくさんの方々、さらにはＰＰＶで観たというチョロさんからの「ゴルドー対コリノ戦は最高だった」との一言に少し気をよくした様子。その勢いでゴルドーは今後のゼロワンでの自身の構想を熱く語り始めた。現在、ゼロワン・ＮＷＡ・ＵＰＷと三つ巴の抗争が過熱しているゼロワンマットで一人にらみを効かせている状態のゴルドー。日本陣営からは誘いの声も出ているが、ゴルドーはこれを拒否しゼロワン最強タッグのＯＨ砲との対戦をもくろみ強力なタッグパートナーを準備している最中だという。

そのタッグパートナーというのは聞いてビックリ！　誰もが知っている超有名選手。まだ名前は出せないけど、Ｋ―1グランプリで優勝経験があり、さらに『ＰＲＩＤＥ』へも出場しているあの男がゴルドーに「ＺＥＲＯ―ＯＮＥに出たい」と要請しているというのだ。彼とゴルドーのタッグならＯＨ砲にとっても不足はないはず。彼の参戦が正式に決まれば、ますますゼロワンマットが熱くなるだろう。

空港へ到着すると最後にまたまた問題が…実は、山口大会後に関係者の方から外国人選手全員に刀がプレゼントされたのだ。これには大谷ファン（？）のコリノをはじめ、みんな大喜び。もちろんこの刀は本物ではないのだが、去年の9月のテロ事件以降、空港での荷物検査が厳しくなっているので警察立ち会いで外国人選手全員、刀のチェック。やはりというかボスは他の選手より念入りにチェックを受けるハメに。

ここでボスとアメリカ勢はお別れとなったが、はたして彼らは、ちゃんと刀を持って帰国することが出来たのか？　それは次のシリーズでわかるでしょう。

最後に、今回のシリーズはハプニング続きで大変ながらも、とても楽しいものだった。初来日組も含め何よりも参戦している選手がとにかく最高!!　ボスはまたツアー参戦できるかな？　とりあえずボスの次回参戦の時まで……Ｔｈａｎｋ　Ｙｏｕ！　Ｓｅｅ-Ｙｏｕ　ＮＥＸＴ　ｔｉｍｅ！　ＯＳＵ!!

〝火祭り男〟大谷晋二郎の地元・山口大会が終わると、関係者から外国人選手全員に刀がプレゼントされた。大喜びの外人勢は、みんな大谷になりきってポーズをキメていた

パチンコ屋に行けば、そこでも始まる大谷晋二郎オンステージ。右のスキンヘッドの男はゴルドーのセコンドでお馴染みのゴルドー・ジャパンのイクさんだ。OSU!

やっぱりこの日も夕食は焼き肉。みんな、日増しに箸使いも上達。翌日、眠そうな顔でロビーに集まりだした外人勢、朝の日課はスポーツ新聞のチェック。コリノは大谷Ｔシャツを着てました。

ゼロワン発の地方サーキットも大盛況に終わり空港に集合するゼロワン勢。スーツ姿もバッチリの大谷＆高岩。前日も明け方まで飲み続けていたという藤原組長。そして我らがゴルドー先生は、なにやらスチュワーデスと密談中。このスチュワーデスの運命やいかに？　OSU!

ZERO-ONE地

ALL JAPAN PRO-WRESTLING X A BATHING APE

KOJI NIGO

6.9
Zepp TOKYO
BAPE STA!!
PROWRESTLING

ALL JAPAN PRO. WRESTLING AND "A BATHING APE" PRESENTS
AMAZING! STARTLING!
BAPE STA!! PROWRESTLING
BAPE® VERSION COMPLETA
2002.6.9 (Sun)
at
START / 3:00 pm
Zepp Tokyo
Line up:
SATOSHI KOJIMA
KENDO KASHIN
YOUJI ANJO
ARASHI
And More!!
KEIJI MUTO

全日本プロレスとＡＰＥが
奇跡のコラボレーション！

小島らの加入で生まれ変わった全日本プロレスが新たな試み！　裏原宿系の超有名ブランドAPEと組み、6・9ZEPP　TOKYOでプロレスとファッションを融合したイベントを開催することが決定した。そのプロデューサーを努めるのが、小島聡とNIGO。プロレスという共通項以外、対照的なこの2人が、はたしてどんな新しいモノを生み出すのか？

聞き手／吉田豪 & イナズマ☆K
撮影／斉藤ユーリ
構成／堀江ガンツ
designed by hisa (Two Three)

小島聡、独特のファッション論を展開！
ウエストポーチとは何か？
What is Pro-Wrestler`s fashion?

――6・9ZEPP TOKYOで、小島選手とNIGOさんがプロデュースする、全日本プロレスのイベントが決定したわけですけど、まずはお二人の出会いのきっかけをお願いします。

小島　最初はですね、蝶野さんに「洋服の展示会行ってみるか?」って言われて、APEさんの展示会に連れてきてもらったんですよ。自分は正直言ってそういうのに疎かったので、「APEさんのとこに行く」って言われても全然ピンと来なくて、何しに行くかサッパリわかんなかったんですけど（苦笑）。そのときにご挨拶したのが最初ですね。

――NIGOさんは以前からプロレス好きで有名ですよね?

N－GO　はい、プロレスは好きですね。

――新日&みちのく好きでしたっけ?

N－GO　いや、意外と全般ですね。ただ、一番好きだったのは新日かな。ドーム大会はだいたい全部行きましたね、一応仕事絡めて、用事を作って行くっていう（笑）。

――それが、いまこういうふうに完全に仕事に結びついて。

N－GO　どうしましょう（笑）。自分でもホントにビックリというか。そんな感じです。

――NIGOさんは、こういう形でそれまで好きだったプロレスラーと接するようになって、どうですか?

N－GO　緊張しますよ、いまだに。プロレスの試合はこっちに出て来てから初めて生で見たんですけど、やっぱり生で見たら「凄い!」っていうのがあって。僕、デザイナーでもなんでも、凄くリスペクトできる人っていないんですよ。でもあれ以来、プロレスラーの方だけは凄く尊敬してますね。

――最近好きな選手は誰なんですか?

N－GO　小島選手はもちろんですけど……最近、新日を離れしていて……。

一同　ガハハハ!

――気持ちはわかります（笑）。

N－GO　こないだのドームも行けなかったし……。

――イマイチでしたよねぇ（笑）。

小島　そうですか? 俺、こないだのドームは凄い面白かったんですけど。2時間テレビにかじりついて見てましたもん。それにお客さんがいっぱいになってたじゃないですか。そういう光景を見て、「俺がいなくてもこんなに入っちゃうんだ」っていう一抹の寂しさと同時に「やっぱり新日本凄いな」と思いましたね。

APEが好きな人にもお奨めしたいと言うか。いろんな人にプロレスを見てもらいたいですね

――でも、こういう言い方するとアレですけど、小島さんたち3人が抜けた穴がこんなに大きかったというのが、抜けて初めてわかった部分っていうのはありましたよ。リング上の明るさみたいなのが全然違うし、全日本のカラーが変わったのがハッキリわかるじゃないですか。

N－GO　いや、ホントにもう、そうですよね。

――NIGOさんも、すっかり全日派になったんじゃないですか?

N－GO　そうですね（笑）。しかもこうやって、イベントのお手伝いまでさせていただけることになって。

――今回、こういうイベントをやるというのは、小島選手なんかと会って話したりしているうちに、だんだん「こんなことやりたいね」みたいな話になってきたんですか?

N－GO　そんなことは恐れ多くて言えるわけもなく（笑）。今回こうなったきっかけは、武藤さんがやっている『SAMURAI!!』のトーク番組にゲストでちょっと出させてもらって。夢を聞かれたときに、「迷彩のリングを作りたい」って言ったんですよ。そうしたら今回、声をかけていただいた感じですね。

――アッサリ、「じゃあ、やろう」みたいな感じですか（笑）。

N－GO　僕もこの世界で世代が1コ下という部分があるんで、なにか新しいことがしたいと思って。若者でやったことのないことができれば、と。

――でも、全日本とAPEが組んでイベントをやるとなると、かなり反響があったんじゃないですか?

小島　反響は凄いですね。でも、「小島さん、今度APEさんとファッションショーやるんですよね?」とか違う話に伝わってたりもするんですけど（笑）。基本の形っていうのは全日本プロレスの試合を

NOGO.......PROFILE

90年文化服飾学院在学中にスタイリスト、ライターを始め、93年に裏原宿系の代表的なブランド「A BATHING APE」を設立。さまざまなジャンルとのコラボレーション、「猿の惑星」のエイプをモチーフにした、カモフラージュ柄の作品の数々はあまりにも有名。プロレスファンとしても知られ、T2000 Tシャツを制作したこともある。

見てもらうって部分が第一で、そこにいままでになかったようなオシャレな色づけをNIGOさんにしていただくって形ですね。

——いままでプロレス会場に来たことない人が、足を運びやすいように。

小島　そうですね、そういうきっかけにもなればいいなって部分は非常に感じてるんですよ。

NIGO　僕もAPEとか好きで、プロレスをいままで見てなかった人にもお薦めしたいと言うか。会場に行けば凄く楽しいんで、ゼヒいろんな人に見てもらいたいですね。

——迷彩のリング以外にも、通常のプロレス興行とは相当違いを出そうとしてるんですよね？

NIGO　そうですね、いま詰めてるとこなんですけどね。試合以外の部分でうまくデコレーションしていく感じで。あと、物販なんかも、プロレス会場で売ってるものとか、イマイチいいのが……まぁ、わかんないですけど（笑）。そういう部分をやっていこうと。

——いま着ているTシャツも凄くいいですよね。これは市販されるんですか？

NIGO　そうです、当日会場で。

——そこで昔の馬場さんのように、NIGOさんがTシャツにサインしたりとか（笑）。

NIGO　それはないですけど……（笑）。スタッフ用のTシャツも作っていて、それを何らかの形でプレゼントしたりとかは考えてます。

——それ、いいですね！

NIGO　でも、こういうことって、新日とかだと考えられないじゃないですか。だから新しい部分かなって。

——全日本にこんなに自由にできる余地があるとは、意外でしたよね。

NIGO　僕もビックリですね。

——元子さんとは当然お会いしてるんですか？

NIGO　いや、まだ。当日会場でお会いするのが初めてですね。

——ひょっとして、元子さんも当日はAPEのTシャツを着たりするんですか？

NIGO　実は1枚だけスペシャルカラーを作ってるんですよ（笑）。

一同　ガハハハ！

——元子さん用の超限定ですか！　もの凄いレアですね（笑）。

俺、プロデューサーって名前ばっかりで ヒップホップの意味もよくわからないんですよ（笑）

NIGO　スタッフ用のモノとはまた違う、社長用っていうのも用意させていただいて。それから開場のときに客入れのBGで、DJをやらせてもらおうかなと。そういうのが好きなんですよね。

小島　え!?　それ初めて聞きましたよ（笑）。

——プロデューサーが聞いてない（笑）。

小島　俺、プロデューサーって名前ばっかりで、知らないことだらけですよ（笑）。

——ハンコ押すだけのプロデューサーで（笑）。映像とかも使ったりするんですか？

NIGO　映像は使わないですね。最近そういうの多いじゃないですか。だから逆にちょっと違う部分をやりたいな、と。

——客入れで回す曲は、別に格闘技に歩み寄ったものとかではないわけですか？

NIGO　そのへんはまったく関係なく、クラブっぽい感じで。

小島　そのクラブっていうとこも、自分は2回ぐらいしか行ったことないんですよ（笑）。

——「クラブっていうところ」ですか（笑）。

小島　しかも、仕事関係でしか行ったことがなくて。クラブっていったらお姉ちゃんのいるクラブしか知らないから。そっちは好きなんですけどね（笑）。

——小島さんはお兄さんがパンクバンドやってるんですよね？

小島　え!?　知ってるんですか？

——取材したことあるんですよ（笑）。お兄さんのライブに行ったりは？

小島　いや、全然ないんですよ。

——小島さんは音楽方面はどうなんですか？

小島　音楽は歌謡曲が好きですね！（キッパリ）。ベスト10とかに入ってる曲を聴きます。

——NIGOさんは？

NIGO　僕は歌謡曲は聴かないですね……（笑）。ヒップホップが凄い好きなんで。

小島　……僕はそのヒップホップの意味もわかんないんですよね（笑）。ラップというとなんとなく理解できるんですけど。

——ホント、プロレス以外の接点なさそうな二人ですねぇ（笑）。小島さん、入場テーマをNIGOさんに頼んでみたいとかはないんですか？

小島　それはゼヒお願いしたいですね。どっちにしても、いま使ってる曲は、新日本のときに使ってたヤツなので、もしかしたらそろそろヤバいような気がするんですよね。

——権利的に（笑）。

小島　いろいろ（笑）。だから、ちょうどどうするか考えているところなんですよ。

——コスチュームなんかもNIGOさんにやっていただいたら、すごくいいと思うんですけど。

小島　ホントはそういう風に、結構前から思ってたんですよね。でも新日本時代からやってもらってる、いま全日本に来たデザイナーのヤベ君という子がヤキモチ焼いちゃうんで（笑）。

——「俺を捨てるのか」と（笑）。

小島　だからまぁ、また機会があれば、そこまでやりたいですね。でも、今回は僕じゃないですけど、NIGOさんに一人、マスクマンのプロレスラーをプロデュースしてもらうことになってるんですよ。

——NIGOプロデュースのマスクマンですか⁉

小島　はい。今回は外人も呼ばない、若手日本人だけの興行なんですけど。こういう興行だからこそ出られるレスラーがいたら面白いんじゃないかっていう、ちょっとした遊び心でNIGOさんにお願いしたんですよ。凄いマスクですよ。

——それは猿系だったりするんですか？

NIGO　いや、APEは猿ですけど、猿系ではないです。でも、見た目重視ですね。

——とにかく見れば驚く、と。

NIGO　……驚くかはちょっとわかんないですけど。まぁ、ダサくはないと思います（笑）。まだやってる途中で、出来上がってないんでなんとも言えないんですけど。

小島　やっぱりプロレスラーにとって、見た目って凄い大事だと思うんですよね。これは3月1日にWWFを見させてもらったときに、ホンットに凄い強く感じたことなんですけど。WWFの選手ってファッションも洗練されてるし、完成された身体自体がファッションになってるじゃないですか。

——太りすぎたら2軍行きにされる厳しさがありますからね。

小島　俺自身も、もうちょいお腹引っ込めなきゃいけないとか、いろいろと考えてることがあるんですけど（笑）。見た目のカッコよさっていうのは、ホントに見習わなきゃいけない部分だなって思いますね。その上で、ああいう感動を味わってもらうのが目標ですよね。

——NIGOさんは、WWFとかは見られます？

NIGO　僕は、WCWはちょっと見てたんですけど、WWFは見てないですね。やっぱり日本のプロレスが好きかな。なんか……あんまりダメですねぇ。

——それは意外ですね。

NIGO　そうですか？

——格闘技の方はどうですか？

NIGO　格闘技もそんなに見ないですね。周りはハマッてる人が多いんですけど……僕は全然面白くないんですよ（笑）。

プロレスラーのカッコいいファッションって ヘビ柄ブーツにテンガロンハットだと思うんですよ（コジ）

——ダハハハ！　画期的ですねぇ。

NIGO　ホンット、プロレスだけですね。

——関係ないですけど、NIGOさんから見てオシャレなプロレスラーって誰かいます？

NIGO　最近、みんなオシャレじゃないですか？　僕もビックリしたんですけど。

——ウエストポーチ率は減ってきましたよね（笑）。

小島　（屈託なく）あ、それは僕も昔、好きでやってました！（笑）。

——なぜか、Tシャツインのウエストポーチっていう伝統が新日本にはありますよね。あれは便利だからやってるんですか？

小島　まぁ、便利なのはあったんですけど、なんて言うんですかねぇ……自分がファン時代に見てたプロレスラーのファッションを真似してるんですよ。僕が高校生のころ、武藤さんがしょっちゅうウエストポーチしてましたから。

——武藤さんは、「だって便利だもん」って感じでいつもしてましたよね（笑）。

小島　だから、そのファッションがどうとかより、自分が好きな人とか、憧れの人がやってれば、それがカッコよく見えちゃうって感じだと思うんですよ。たぶん、今でももし浜崎あゆみがそれしてたら、みんなするんじゃないですかね？

——浜崎あゆみがウエストポーチ！　それも衝撃的ですね（笑）。

小島　だから、僕がプロレスラーになって凱旋帰国したときに、やりたかったファッションていうのがあって。それはヘビ革のブーツに、もの凄い大きいバックルのベルトをして、できたらテンガロンハット被って帰りたいって思ってたんですよ（笑）。

——それはカッコいいですよ！

小島　ちっちゃいときに見てた、プロレスラーのカッコいいファッションっていうのがそうだったんで、逆にいまそれをやっても新鮮かなって。

——あそこまで突き抜ければカッコいいですよね（笑）。

小島　あとですね、アニマル浜口さんがよくやる……。

——でっかい襟の開襟シャツ！（笑）。

小島　はい（笑）。内側のシャツの襟が尖ってるヤツ。あれカッコいいですよね。僕が10年後、20年後ぐらいに、もうちょい貫禄がついたときに着たら、凄いカッコいいファッションだと思うんですけどね。あれは逆にプロレスラーぐらいしか着れないですよね。

——浜口系も憧れますよね。で、小島さんは自分が似合うのはウエストポーチの方だなっていう。

小島　ウエストポーチは、プロレスラーになったばっかりのとき、いつもやってましたね。ポロシャツをジーパンの中に入れて、ウエストポーチですね。でも、その当時はそれ、そんなにおかしい格好じゃないですよね？　僕、ウエストポーチ集めてたんで、5個ぐらいもってますよ！

——そんなに（笑）。永田さんがいまでもしてますよね。

小島　でも、APEでもありましたよね？　三連になってるヤツ。あれも自分は凄い気に入ってるんですよ（ニッコリ）。

——あれはまた別モノで……（笑）。

小島　え、違うんスか？

NIGO　あれは、ウエスト〝バッグ〟って言いますね。

——たぶん、〝ポーチ〟って言った瞬間にダメなんですよ（笑）。

K O J I
X
N I G O

NIGO　今度作ってみましょうか？
――いや、それはブランドイメージが（笑）。
小島　レスラーは忘れ物する人が多いからウエストポーチ持ってるんじゃないですかね？　付けといたら忘れないじゃないですか。
――ダハハ！　そんな多いんですか？
小島　武藤さんとか、手持ちのバッグ忘れて「ヤベエ、忘れちゃった！」っていうのはよくありますね（笑）。象の革のバッグなんですけど、「俺の象さんなくなっちゃったよ！」って（笑）。
NIGO　武藤さんは面白いですよね。今度のイベントでは解説もしていただくんですけど、たぶん面白いと思いますよ。
――武藤さんが解説やるんですか⁉
NIGO　僕がゲストで武藤さんが解説なんですよ。それを場内で電波を飛ばして、聞きたい人はヘッドフォンで聞けるという。
――武藤さんの解説は聞きたいですねぇ。それだけで会場に行こうって気になりますよ！（笑）。WWFの解説、最高でしたもん。あんなに面白い解説、初めて聞きましたよ！
小島　それが当日、生で聞けるという。
NIGO　でも、やってる選手だけに聞こえてないのって、なんか怖くないですか？
小島　ああ。こっちは夢中になって試合やってるのに、客がみんな大笑いしてたら「なんで笑ってるんだろう？」とか（笑）。
――ダハハハ！　それ、絶対あり得ますよ！　5分に1回ぐらい爆笑が起きて。
小島　気になってしょうがないから「スピーカーで流してくれ」って（笑）。でも、こういうのも新しいプロレスだと思うんですよね。
――NIGOさんは、武藤さんに接してどうですか？
NIGO　面白いですよ。こないだ一緒に食事したんですけど。なんか、僕のことを「社長」って呼ぶんですよ（笑）。

武藤さんは僕のこと「社長」って呼ぶんですよ「社長、今度メシ奢ってください」って（笑）

僕はプロデューサー〝コジんく〟として、何度も続けていけたらと思ってるんですよ

一同　ガハハハ！
――凄いいい話じゃないですか！　ボンヤリと「社長かなんかやってる人らしい」って（笑）。
NIGO　最初、ここで撮影するときに「社長、今度飯奢ってください」って（笑）。
一同　ガハハハ！
――社長＝メシおごってくれる人（笑）。プロレスラーならではですね。いいなぁ（笑）。ホント二人のトーク聞きたいって、それだけでも会場行きますよ。
小島　でも、聞いてる人、誰だかわかんないでしょうね。「誰だよ、〝社長〟って？」って（笑）。
NIGO　でも、いろんな人と付き合ってみて、喋りやすい方ですよ、武藤さんは。
――いやぁ、ホントに今度のイベントは面白そうだなぁ。
小島　これが最初で最後ってわけじゃなくて、何度も続けていけたらと思ってるんですけどね。
――続いていけば、どんどん面白くなりますよね。
NIGO　今度はミニシリーズみたいなのは、どうでしょうか（笑）。
小島　やりたいですね！
NIGO　一度、ペプシの時にやってるんですけど、迷彩のバスで移動して。
――迷彩バス！　いいですねぇ、チーム2000の黒バスに対抗して。
小島　いまのバスもジャイアント馬場さんがデカくプリントされてるヤツで、かなり目立ってますけどね（笑）。
――あれは目立ちますよね。迷彩バスも、遠くから見ると馬場さんの顔があったりしたらいいんじゃないですか？（笑）。
一同　ダハハハ！
NIGO　そこまで行くのはなかなか（笑）。
――とにかく今回の興行を第一歩にして、いろいろ面白いことが実現できたらいいですね。
小島　僕はプロデューサー〝小つんく〟として、どんどんハンコを押していきますよ（笑）。
――では、6月9日のZEPP TOKYO、楽しみにしてます！
小島　〝小つんく〟じゃなくて、〝コジんく〟の方がいいかなぁ？（笑）。

【02年5月11日／渋谷区「NOWHERE」にて収録】

格闘家が簡単に上がれる日本のプロレスはジャンルとして確立されてない

ALL JAPAN PRO-WRESTLING

KAZU HAYASHI カズ・ハヤシ

WCWで4年間闘った男が語る日本とアメリカのプロレス

**この春、武藤が直々口説き、アメリカから帰国。
全日本に新風を吹き込んだカズ・ハヤシが、日本マット界に問題提起！
WCW、WWFに所属した男のプロレス哲学を大いに語った。
スキンヘッドへの変身も辞さないプロ根性を携えて、
堂々『紙プロ』初登場だ！**

聞き手／堀江ガンツ　撮影／吉場正和
designed by matsu（Two three）

ジャパニーズルチャなんて、あんなのはダメ。僕はアメリカンルチャがやりたい

――今日は全日本の道場で合同練習だったらしいですね？

ハヤシ　そうですね。たっぷり汗流してきましたよ。

――合同練習はいま全日本恒例になってるんですか？

ハヤシ　恒例というか、練習して当たり前ですから。毎日やってますよ。武藤さんも忙しいなか結構来ますしね。武藤さんみたいな人が来ると、ウチらも気合いが入って助かりますよ。

――武藤さんは「選手育成に力を入れていきたい」みたいな話をしてましたからね。

ハヤシ　ああ、そうですか。やっぱり、そういう感じが見受けられますよね。前日かなり遅かっただろうにというときも来てくれたりとか。取材が入ってない限り、道場に来てくれますからね。

――武藤さんが直々にプロレスの技術を若い選手に伝授したりもしてるんですか？

ハヤシ　技を教えるということはないですね。精神面であったり、武藤さんが学んできたプロレスの基本ですよね。それをみんなで反復練習してますよ。

――アメリカなんかでもその辺の基本は一番重要視してるんですか？

ハヤシ　う～ん、どうだろう？　同じ新人だったら、全日本の選手のほうが受け身だけ取ったら上手いかもしれないですよね。なぜかと言うと、アメリカはTVスターを育てるという部分があって、そのために受け身を教えるのと同じようにマイクパフォーマンスも教えたりするんですよ。

――マイクパフォーマンスまで仕込まれるんですか!?

ハヤシ　そうですよ。あれだって練習しないとできませんからね。だからそういったモノを一通り教えて、そこからどうやって這い上がっていくかは、個人のセンスや努力であったりするわけなんですよ。それができる人はロックのように若くてもトップに行ける。できない人は、どんなにベテランでも上がれない。そこが日本とアメリカの大きな違いですね。

――ほ～、それこそホントの意味で「実力主義」なわけですね。

ハヤシ　確かに実力主義ですね。観客に求められて、かつブッカー、会社にもレスラーとして認めらないと上にはいけないんですよ。

――なるほど。では今回、そういうアメリカマットから久しぶりに日本に帰ってきたわけですけど。初めて全日本プロレスのシリーズに帯同した感想はいかがですか？

ハヤシ　やっぱり初めてのシリーズということで、「どうなるんだろう」「観客にどういう風に映るんだろうか」「全日本の輪の中に入って行けるんだろうか」っていう心配はあったことはありましたね。逆に第三者から見てボクの試合はどう感じました？

――動きはかなり新鮮でしたね。静と動がハッキリしていて、速く動いたときにより速く見えるというのが、一番目につきました。

ハヤシ　ああ、間ですね。それはよく言われることなんですけど、意識してるわけじゃないんですよね。ここでゆっくりしたら、次に早く動いたときに早く見えるだろうな、とかは（笑）。それこそアメリカン・プロレスの中で自然に身に付いた感じで。この4年間で出来た動きがこれだよ、これがボクのプロレスですっていう感じですね。

――WCWでタッグを組んでいたジミー・ヤン選手も全日本に来てますけど、彼の動きも異質で目立ってましたよね。ドロップキックやサマーソルトにしても、ただできるだけじゃなくて、他の使い手とどこか一味違うじゃないですか。

ハヤシ　彼は素晴らしいですよね。ボクはWCW時代から彼の動きは凄いと思ってたんですけど、「はたして日本で受け入れられるか」という心配も自分以上にあったんですよ。でも、彼も全日本で認知されつつあるんで、ボクも一安心しました。

――こうやってカズ選手みたいに海外で変身してきた人を見ると、やっぱり海外遠征って必要だと思うんですよね。ちょっと前までは、「日本のプロレスはレベルが高くなりすぎて、海外に行っても何も学ぶものがないから海外修行は廃止したほうがいい」という風潮があったじゃないですか。

ハヤシ　ありましたね、そんな時期が。

――でも、いま海外に遠征して帰ってきた人の試合を見ていると、全然そんなことないんだなって。いろんな部分で海外には日本の選手が持ってない物を持ってるんだなって感じますよ。

ハヤシ　もちろん海外には日本の選手が持ってない部分もあるし、逆に日本の選手が持っていて、海外の選手が持ってないものもあるんですよ。それをどっちがいいってのは一概には言えないですよね。でも、自分はアメリカでやってきたことをこの全日本のリングで全部出すつもりです。その上でやってきたものを評価されるというのは、素直に嬉しいですね。

――海外に行っていたのは4、5年ですか？

ハヤシ　メキシコ1年、アメリカ4年の5年間ですね。

――けっこう長いですねぇ。その5年間でちょうどファンも入れ替わって、カズ選手がもともと日本で……。

ハヤシ（遮って）何をやっていたか知らないでしょ（笑）。そうでしょうね。それはそれでいいんじゃないですか？

――でも、みちのくプロレスの「獅龍」というマスクマンが、どのようにしてカズ・ハヤシになったのかには興味がありますよ。そもそもメキシコに行こうと思ったきっかけはなんだったんですか？

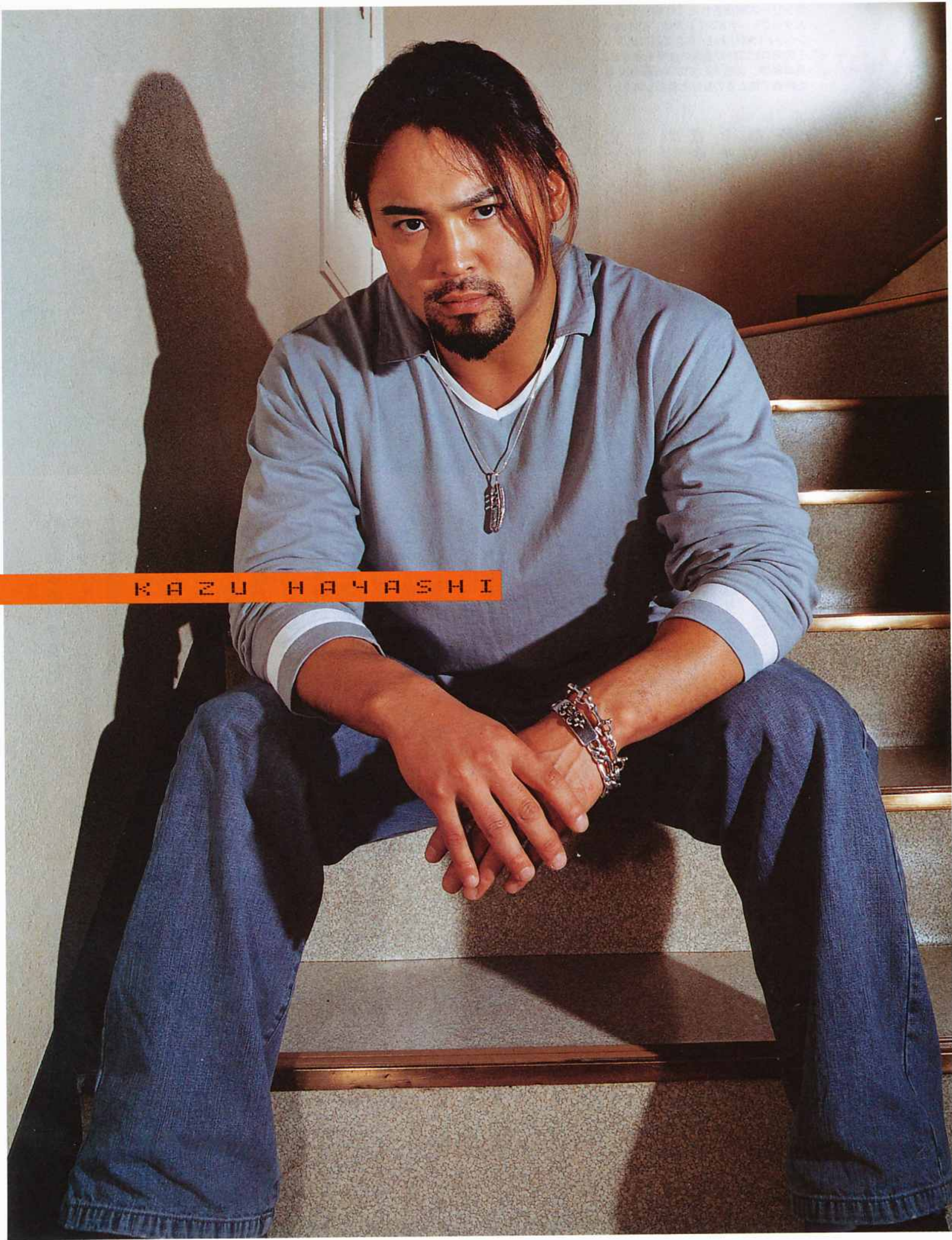
ハヤシ　メキシコに行く前っていうのはプロレスが嫌になってて、辞めようかなって思っていた時期なんですよ。でも、どうせ辞めるんだったら、自分が好きだったルチャ・リブレを本場で感じて、それでも嫌だったら本当に辞めようと。それですべてを引き払って単身メキシコに渡ったんですよ。

――「すべてを引き払って」ということは、向こうに永住とかも考えていたんですか？

ハヤシ　そうですね。「メキシコで家を買うんだ」とか、そんなアホみたいなことも言ってましたし（笑）。

――その日本のプロレスが嫌になった理由は、人間関係からプロレス環境からいろいろあったんですか？

ハヤシ　そうですね。プロレスをやってることがもう楽しくなかったんで、そういう状況でやり続けていいのか自分の中で悩んでいた時期があって。それがもう2年ぐらい続いていたのかなぁ。

――それは海援隊になったぐらいからです

KAZU HAYASHI

か？

ハヤシ　海援隊やったあとぐらいですかね。やっぱり、どこの会社だって嫌なことはたくさんあるし、その嫌なことがいい方向に向かうんじゃないかと思いながら耐えていたんですけど。ちょっとケガした時期がありまして。休んでいると、考える時間があったんでしょうね。それでケガしたままメキシコに行ったんですよ。

――もともとユニバーサルに入ったのもルチャに憧れてのことなんですか？

ハヤシ　ルチャはずっと好きでしたね。でも、一番好きなのはアメリカンテイストが入ったルチャ。昔はジャパニーズ・ルチャとかありましたけど、あんなんじゃダメ。WCWのクルーザーウエイトとか、ああいうのが好きだったんですよ。

――ああ、ウルティモ・ドラゴン選手とか。

ハヤシ　そうそう。レイ・ミステリオJr.とか。それで、メキシコに渡って本場のルチャをやろうと思ったんですけど、そんときに自分が入った団体が、たまたまミステル・アギラ、スペル・クレイジーとか、そういう連中が闘っていて。それを見て、「こういうスタイルをやりたいな」って思ったんですよ。

――アメリカンテイストが入ったルチャを目の当たりにしたわけですね。

ハヤシ　それでウルティモ・ドラゴンさんに会って、サニー・オノオさんを紹介してもらって。それからマサ・サイトーさんにも違うルートからプッシュしてもらったりして。それでなんとかWCW入りに漕ぎ着けた感じですね。

KAZUを知るためのキーワード #01

海援隊☆DX 獅龍

昔からのファンはご存じだと思うが、カズ・ハヤシの前身は、ユニバーサルでデビューし、みちのくプロレスで活躍した獅龍。「欽ちゃんジャンプ」で人気を博すリンピオだったが、D・東郷、テイオーと海援隊・DXを結成しルード転向。フナキ、TAKAらはその後、加入。つまり元祖・海援隊は獅龍なのだ。

KAZUを知るためのキーワード #02

ヤングドラゴンズ

カズがメキシコからWCWに転戦し、ジミー・ヤン、ジェイミー・サンと結成したタッグチームがヤング・ドラゴンズ。ヤンはカズがその素質に惚れ込み、全日本参戦をプッシュした逸材だ。得意技はヤン・タイム（カンクン・トルネード）。現在は新弟子扱いで全日合宿所に住み込み修行中だ。

先シリーズ開催された「馬場杯争奪6人タッグトーナメント」では、突如スキンヘッドに剃り上げ、ミニ武藤に変身！その完コピぶりで全国の会場を沸かせ、見事優勝。天龍をしてカズが頭を丸めた時点で俺たちの負けと言わしめた。

——やっぱり人の繋がりのおかげなんですね。でも、ぶっちゃけた話、何の後ろ盾もなかったメキシコ時代は、生活面とかかなりキツかったんじゃないですか？

ハヤシ　もちろんキツかったですよ。ギャラは1ヶ月100ドルぐらいでしたからね（苦笑）。

——100ドルってことは、一ヶ月1万円ぐらいですか！

ハヤシ　それでもゴールデンタイムのテレビ番組に毎週出てましたし、いま考えればいい苦労でしたよ。あのときはジムに寝泊まりして、もう一回新人からメキシコのプロレスを学べたんで。いまは、あの時があったから自分のスタイルができたと思ってますよ。

——みちのくのトップ戦線でやっていた選手が、もう一回新人にもどってやり直すというのは凄いですね。

ハヤシ　もうやめようと思っていたから、そのときは苦労だとは思わなかったですね。たしかに、寂しかったですけど（笑）。あのときに動かなかったら、何も変わらなかったでしょうし。ボクがいまこうしてることもないですね。あのままみちのくでやっていた方が良かったのかどうかはわからないけど、ボクはいまは幸せですよ（笑）。

——そう言い切れるのは素晴らしいですよ。それからWCWに転戦して、最初はどんな感じで始まったんですか？

ハヤシ　最初はトライアウト、練習試合ですね。でも、ウルティモ・ドラゴンさんとやらしてもらえたんで、それで評価が上がって。次の日、いきなり「ナイトロ」に出させてもらったんです。いい扱いでしたよ（笑）。

——へ〜、使えると思ったら次の日から使っちゃうんですね。それこそ実力主義ですね。

ハヤシ　面白いですよね（笑）。それから少しして、ちゃんとした契約書を作ってもらって、契約に漕ぎ着けたんですよ。

——それからWCWのサーキットに帯同して、やっぱりカルチャーショックは受けましたか？

ハヤシ　そうですね。やっぱり毎週毎週飛行機で移動するというのが凄いですよね。移動費が毎週2000ドルぐらい、1人に対して20万ぐらい支払われるんですよ。

——飛行機代だけで週20万円ですか！

ハヤシ　それプラスギャランティも入るわけですからね、スケールが違いますよ。

——日本とは、テレビ番組としての取り組み方から違うって聞きますけど？

ハヤシ　アメリカのプロレスっていうのは、視聴率が一番大事なんですよ。だから1つの番組として、レスラーもTVスタッフもみんな一生懸命やってましたね。

——毎週毎週が視聴者との真剣勝負なわけですね。下手な放送は絶対できないという。

ハヤシ　もちろん。だから、危ない橋は渡らないんですよ。選手にしても練習試合をやらせて、ちゃんとできるかどうか見てから必ず使いますから。カメラワークにしても「なんであのシーンを撮らないんだ！」とかいろいろ言われますよね。そういう意味ではすべての面でプロフェッショナルですよね。

——そういう環境ではレスラーもプレッシャーはあったんですか？

ハヤシ　ありましたね。ボクのトライアウトのときは、ベースボールスタジアムで何万人っていたんですよ。このときは一番プレッシャーがありましたね。

——もしそこでダメだったら路頭に迷っちゃうという（笑）。

ハヤシ　そうそう。またメキシコに戻って、自分がやりたいことがあるかどうか探しに行かなきゃいけないところでしたからね。

——その後、サーキットに組み込まれるわけですけど、毎日全米を飛び回ってる中で、トレーニングというのはどういう環境でやっていたんですか？

ハヤシ　その土地土地でレンタカーを借りて、自分でジムを探して行くんですよ。どんなにハードな移動でも、ほとんどの人が行きますよ。だって、ジムに行かないと身体が格好悪くなりますもん。格好悪くなったら、チャンネル変えられちゃうんですよ。

——ああ、身体も保つのもレスラー重要な仕事なわけですね。

ハヤシ　向こうの観客っていうのは、太ったレスラーというのは汚いような感じで観るんですよ。アメリカで太っているということは、一般社会でも受け入れられないわけで。ましてや裸になる仕事ですから。腹が出た時点でタレントとしてダメなんですよ。だからボクは食事も徹底的に変えましたね。それもすべてはテレビに出続けるためなんですよ。

——そういうノウハウは選手間で教えてもらえる部分なんですか？

ハヤシ　そこら辺はやっぱり仲間だけど個人闘争だから。教えない人もいるし、教える人もいるし。ボクの場合はクリス・ベノワとかがいてくれたおかげですね。彼が食事とかトレーニングとか付き合ってくれて。一緒に移動してくれて、一緒にジムを探して。探してというか、あの人は全部知ってるんですよね（笑）。

——全米のトレーニングジムを知り尽くしてますか（笑）。

ハヤシ　トレーニングも食事もホント、クリスがいてくれて助かりました。

——カズ選手がWCWにいたちょうど同じ時期に、WWFでTAKAみちのく選手が活躍してましたけど。意識とかはしてましたか？

ハヤシ　そりゃあ意識はしてましたよ。テレビでやっていれば、ちゃんと見てましたし。向こうもそんなような感じことを言ってましたよ。やっぱり日本人という同じハンディを持ってアメリカで頑張る人じゃないですか。だから彼の活躍は素直に喜べたし、彼の方もボクの活躍をちゃんとリスペクトしてくれましたしね。

——「『KAIENTAI』なんて名乗ってるけど、海援隊はオレじゃないか。お前らは夢狩人だろう」とかはない、と（笑）。

ハヤシ　ないない、そんなのは（笑）。そういうのは全て、メキシコを出るとき置いていきましたからね。ホントにあの二人（TAKAとフナキ）とは良い関係でしたよ。特にTAKAなんかは、オーディションから一緒でもう10年ぐらい一緒なんで。

アメリカでは腹が出た時点でレスラー失格。TVに出してもらえないんです

——ああ、ユニバーサルで同期だったんですか。

ハヤシ　そうです。だから彼が頑張ればボクの刺激になるし、これからも常に意識し続けるんじゃないですかね。いいライバルですよ。

——ところで、カズ選手がアメリカに行っていた数年というのは、日本では『PRIDE』みたいな総合格闘技の人気が出てきて、それにプロレスが揺さぶられているんですけど。アメリカでもUFCの影響はあったんですか？

ハヤシ　ないですね（アッサリ）。だって、まったく違う競技だから。

——あ、その辺の区分けは観客の方もハッキリしているわけですか。

ハヤシ　してますね。違う競技なんだから、プロレスラーがUFCに出ても勝てないというのも当たり前の話なんですよ。逆にUFCの選手がWWFやWCWに行ってもトップになれないですから。頑張ってもせいぜい1ヶ月。どんなに「オレは強いんだ」って言っても、その話題性だけではやっていけないですからね。

——化けの皮が剥がれてしまう、と。

ハヤシ　そう。リング上がすべてですから。つまらない試合をして、お客さんを引きつけられなかったらチャンネルを変えられてしまうんですよ。そうなったら、その場にはいれなくなるわけだから。

——シビアですね。

ハヤシ　ホント、シビアですよ。カート・アングルだって、オリンピックの金メダリストだからスーパースターになれたわけじゃないですからね。プロレスの下積みをやって、それプラス彼自身にセンスがあったからあの速さでトップになれたんですよ。プロレスはそんな簡単なもんじゃないんです。

——カート・アングルは、「金メダリストがここまでやるか」というくらいの辱めを受けていますからね（笑）。

ハヤシ　でも、それができるのは彼が一生懸命プロレスを勉強しようという姿勢があったからできたんだろうと思いますよ。それがなかったら、どんなにストーリーを作ろうが、こんなに長い間テレビ出ることはできないだろうし。

——WCWではタンク・アボットなんかが出ましたけど、話題にならなくなりましたよね。

ハヤシ　ボクが言っていたのは、まさにそいつのことですよ（笑）。WCWは一生懸命彼を売ろうとしてたんだけど、客が全然ついてこなかった。プロレスができないから、最終的には歌を歌わせよう。マネージャーにしよう。そこまでして手を変え品を変え画面に出していたんですけど、ダメでしたね。彼がプロレスが好きかどうかはわからないけど、少なくともプロレスの勉強をしていたとは思えなかった。だから、あなっちゃうんですよ。

——その辺の敷居の高さっていうのは、アメリカのプロレスがジャンルとして確立されているからなんでしょうね。

KAZU HAYASHI
カズ・ハヤシ

S48年5月18日、東京都世田谷区出身。本名・林和広。H4年にユニバーサルでデビュー。その後、みちのくで海援隊DXとして活躍するも、H9年にメキシコへ。その後WCW、WWFを渡り歩くも、武藤に誘われ3月から全日本入団。Jr.の武藤として、全日Jr.の確立を目指す。173cm、83kg

ハヤシ　そうですね。ひとつのジャンルとして、しっかり確立しているから、他の人が簡単に入っていけないんですよ。『PRIDE』なんかもしっかりしてるから、今はなかなかプロレスラーが入っていけないじゃないですか。だから、格闘家が簡単に上がれちゃう日本のプロレスは、ジャンルとしてしっかりしてないんじゃないかなって気がしますね。プロレスができるできない以前に、簡単にリングに上がれちゃうこと自体がおかしいですよ。

——逆にいまの全日本プロレスというのは、武藤さんを中心にしっかりとしたプロレスを確立するチャンスですよね。

ハヤシ　そうですね。王道プロレスとして、できない者は上げない。そういうところはちゃんとしてほしいですね。というか、してますよね（笑）。それはやっぱり新人君にも出てるし。

——それがプロレスの本来の姿であり、大事な部分ですよね。まあ、お客さんに見せる競技としては、当たり前のことなんですけど。

ハヤシ　そう。当たり前のことなんですよね。そのとおりなんです。一時的にお客さんが入るからとか、そういう理由でやっているからおかしくなるんです。

——そういう中でカズ選手は、これから全日本プロレスのジュニアヘビー級を確立していこうとしているわけですよね？

ハヤシ　確かにそうだし、ボクが最初に描いていたビジョンは、たくさんジュニアの選手を入れて、全日本のジュニアスタイルを確立できればいいな、と思っていたんですけど、シリーズに帯同してみてちょっと考えが変わりましたね。全日本のジュニアって105キロ以下じゃないですか。俺なんかいま80キロだから、105キロも106キロも関係ないんですよ（笑）。

——たしかにそうですね（笑）。

ハヤシ　だからタイトルマッチ以外は、体格なんか関係なしに闘っていかなきゃいけないなって、思い知らされましたね。

——でもやっぱりボクなんかは、全日本のジュニアにはWCWのクルーザー級のような世界を築いてほしいですね。もっとメキシコやアメリカの選手がドンドン上がっていってほしいなって思うんですよ。

ハヤシ　いや、そうなっていくと思いますよ。実際、オファーあるしね。

——え!? もうあるんですか？

ハヤシ　会社通さないでボクに言ってくるで名前は出せないですけど。なんでオレに連絡取るんだよって（笑）。やっぱり外人から見ても羨ましいと思う全日ジュニアにしていきたいですよね。まぁ、今年は全日本30周年ということで、武道館の連戦とかもあるんで、自分のペースで頑張りますよ。

——わかりました。これからの全日本ジュニアに期待してます！

【02年4月15日／全日本プロレス1F「サブウェイ」にて収録】

2002サマーアクション・シリーズ

7月

日付	時間	会場
7日(日)	12:30	東京・後楽園ホール
8日(月)	18:30	愛知・名古屋国際会議場
9日(火)	18:30	岡山・倉敷山陽ハイツ体育館
11日(木)	18:30	山口・徳山市総合スポーツセンター
12日(金)	18:30	広島・広島県立総合体育館
13日(土)	18:00	大分・大分県立荷揚町体育館
14日(日)	15:00	福岡・博多スターレーン
15日(月)		九州地区（予定）
17日(水)	**18:30**	**大阪・大阪府立体育会館**

［問い合わせ］全日本プロレス　03-3403-7344

ストロングスタイルってなんなんだよ！
俺にちゃんと教えてくれって!!

厚

聞き手／松澤チョロ
撮影／丸山剛史
designed by matsu（Two three）

大仁田　（自分の肩の筋肉の盛り上がり具合を見ながら）凄いなぁ、最近。

――我ながら驚きますか！（笑）。

大仁田　いやあ、凄いんだよ、俺。やってるんだよ。肩がさあ、割れるように痛いわけよ。なぜかって言ったら肩の骨が飛んでるわけよ。だからリハビリしながらやってるんだよ。一日テレビ見ながら、こうやって（バーベルを上げる、身振りで）、やってるんだから。（突然）でもよぉ、俺は、この世界に半分ぐらい「ファック・ユー！」だから！

――この世界って、ここは参議院会館なんで政治の世界のことですか？

大仁田　そう。政治の世界。俺、頭きてるから。

――なんに対して頭にきてるんですか？

大仁田　なんて言うのかなぁ……つまんねえんだもん。大人の杓子定規っていうか、大人の一番悪いところが、ここに集約してるみたいなところがあって、何かを何時間も論じてても、それが順繰り順繰り、ここでずう～と回ってて。それで、結局は結論は出ないみたいなさぁ。

――時間だけ無駄に過ぎていくと？

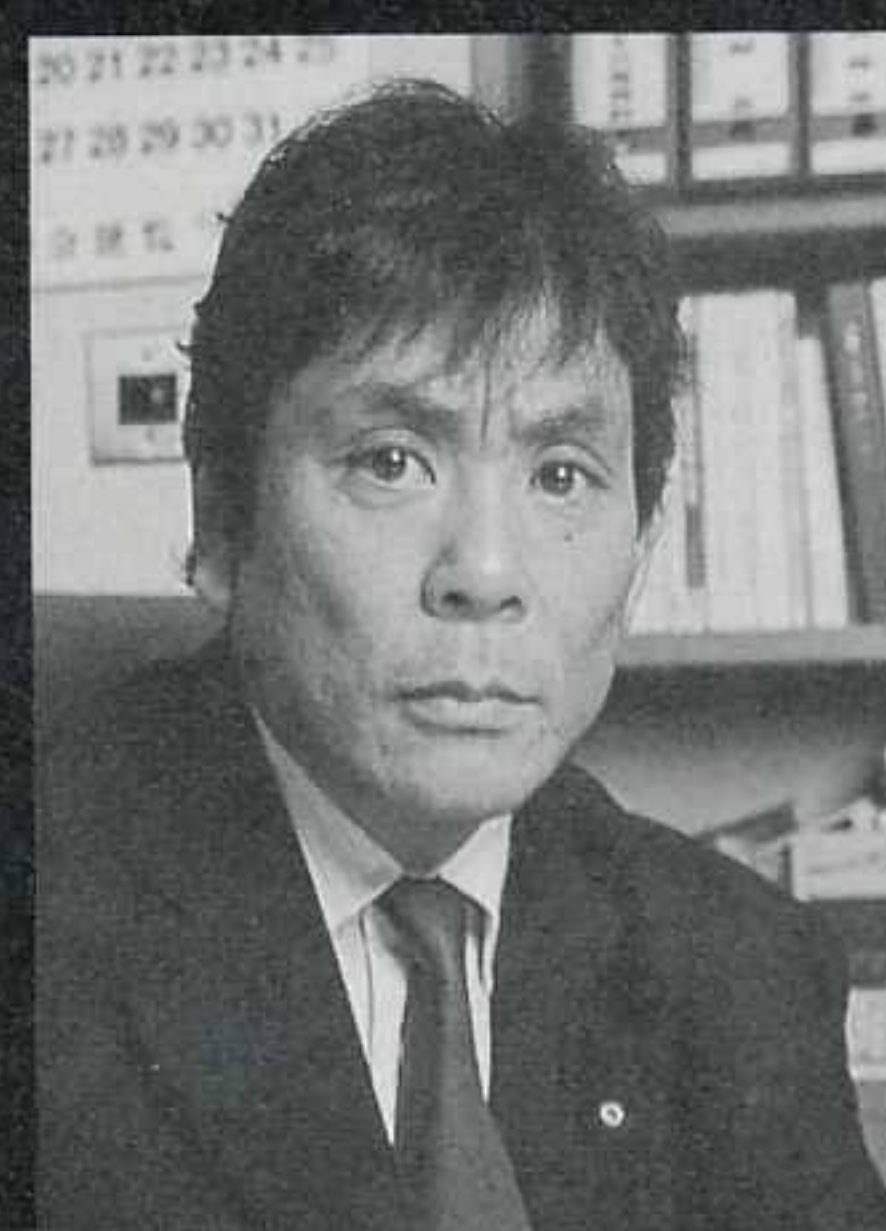
大仁田　そうなんだよ。もっと実のあることをやればいいんじゃないかって。

――実のあることといえば、それで以前、『紙プロ』で馳さんと大仁田さんの対談を参議院会館でやらせてもらったことがあったんですけど、あの時、大仁田さんは「政治家にはなりたくない」って言ってたんですよね。

大仁田　もういいだろ、なっちまってんだからよぉ（苦笑）。

――まあ、なっちまいましたけどね（笑）。

ある時はプロレスラー、またある時は国会議員、他にもタレント、大学生など様々な顔を持つ男・大仁田厚。
今回、取材を申し込んだところ、大仁田から指定された取材場所は参議院会館であった。
『紙プロ』的には革ジャン姿より、スーツにネクタイを締めた大仁田の姿の方が新鮮なはず。
それならいっそ、闘う国会議員・大仁田厚とプロレスの話だけではなく、
政治の話や女性問題、さらには"あの暴露本"まで、ざっくばらんに話をうかがってきました。

スキャンダル？ ストロング？ 知ったこっちゃねえよ！

闘う国会議員 大仁田

大仁田　でも俺は大橋巨泉さんみたいに途中で辞めるつもりはないし。まだやることもたくさん残ってるし、それに学校も行ってるからな。今日も授業あるもん。

――頑張って下さい（笑）。でもプロレスラー、政治家、大学生、あと芸能人の顔も持つわけですけど、スケジュール的に、かなりハードなんじゃないですか？

大仁田　そうでもないよ（あっさりと）。

――あっ、そうでもない。今はこの議員会館にいる時間が多いんですか？

大仁田　そうだね。ここにいない時はジムに行ってるよ。

――なにげに、最近の大仁田さんは凄くいい身体してますからね？

大仁田　だろ？（満足げに）。最近、女よりジム行ってる方が楽しいよね（笑）。

――エッ、女よりジム？　何かあったんですか？（笑）。

大仁田　いや、女はさぁ、もう信じねぇ、面倒臭えや！（苦笑）。

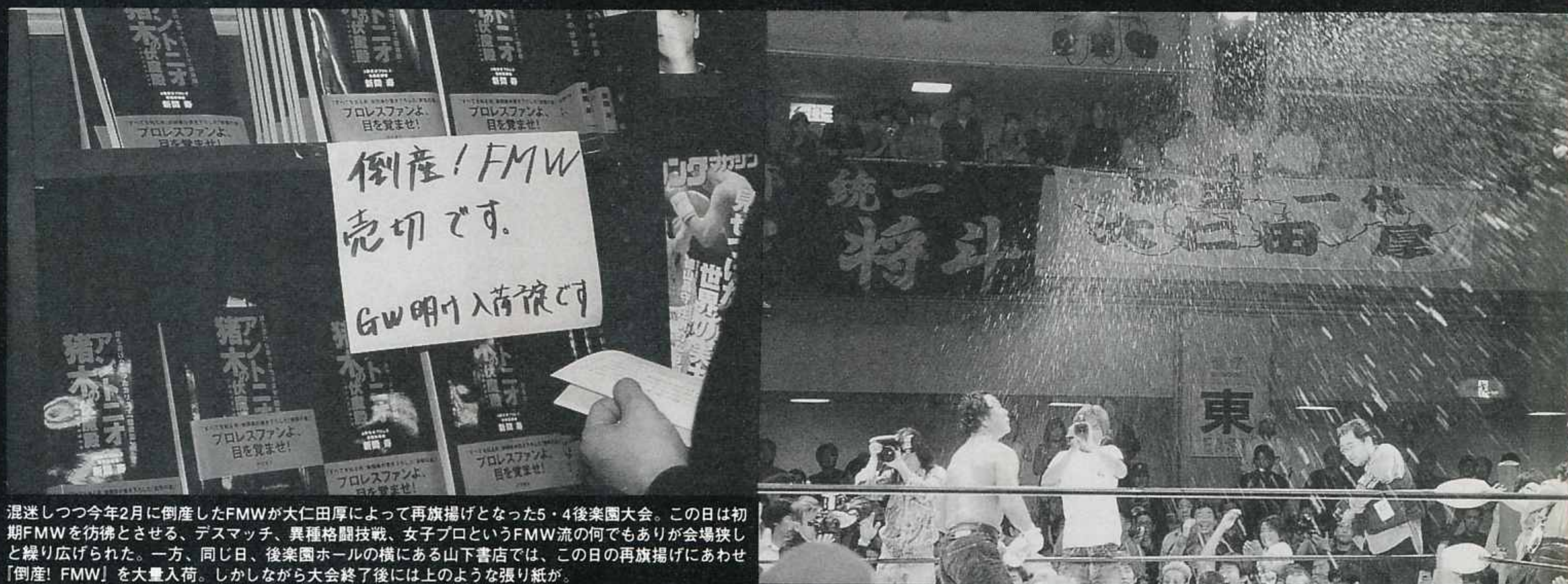
――なにか最近、女性関係で痛い目に遭ったんですか？（笑）。

大仁田　痛い目には遭ってないけど、なんだかんだってグチグチ言うヤツいるじゃない？　俺は女性に関しては淡泊になってきたなぁ（苦笑）。

――淡泊ですか（笑）。

大仁田　それより自分の大らかな時間、自分の大いなる時間を過ごした方がいいかなって。最近その方が楽しいからねぇ。一日中ジム行ってる時もあるからな。それに、そういう所の女性の方がサバサバしてていいなと思うんだよねぇ。

――身体を鍛えている女性の方が。

大仁田　そうそうそう……いや、別にそこの女性とセックスするとか、そういうわけじゃないよ（笑）。そういったところで、喋ってる方がいいなってこと。

混迷しつつ今年2月に倒産したFMWが大仁田厚によって再旗揚げとなった5・4後楽園大会。この日は初期FMWを彷彿とさせる、デスマッチ、異種格闘技戦、女子プロというFMW流の何でもありが会場狭しと繰り広げられた。一方、同じ日、後楽園ホールの横にある山下書店では、この日の再旗揚げにあわせ『倒産！ FMW』を大量入荷。しかしながら大会終了後には上のような張り紙が。

――そういうことですか（笑）。で、ＦＭＷ元社長の荒井さんが『倒産！　ＦＭＷ』という本を出したわけですけど、まあ大仁田さんもあまり語りたくない……。

大仁田　（遮って）だけどさぁ、いいじゃねえかよ、別によぉ！　みんなさぁ、俺らもつまんないけどアンタらも大概つまんないよ！（笑）。

――す、すみません。

大仁田　別にいいじゃねえか、過去のことなんだからさぁ。過去のことを「何でとやかく言うんだっ！」って思うよ。だから取材拒否じゃないけどさぁ、俺のところに取材に来てもスキャンダルだなんだばっかりだろ！（笑）。だって『週刊新潮』とか『週刊文春』にも、もうちょっといいことで載りたいよなぁ。それは、ちょっと思うよ。いいことでは全く載らないからな。アフガンとか何度行こうとさ。

――たまにはいいことで載りたいと？

大仁田　そりゃそうだろ（笑）。

――でも、こないだ冬木さんが旗揚げしたＷＥＷの試合後に「俺ほど清く正しい人間はいない」って、サスケさんと一緒に言ってましたよね（笑）。

大仁田　だって俺、清く正しいじゃん？

――清く正しいとはいえ、この間のＷＥＷではブーイングも多かったですよね。

大仁田　ブーイングだってさぁ、それで、みんながストレス発散してるんだから。それに他に、あんな試合なかっただろ？

――確かにメインは異質でしたね（笑）。

大仁田　この間、三沢選手と蝶野選手がやったのも、なんか団体間で友好関係みたいなのがさぁ（ニヤリ）。

――見えましたか（笑）。そういう意味では、ＷＥＷのメインなんかは友好関係は一切見えなかったですね。

大仁田　そんなのねえもん！　でも、いいんだよ、ペットボトルを投げさせるのもさぁ。この不景気に、人間がイジイジこもってる時代に発散させるワケだから、いいじゃん、別に。文句があるなら見に来なけりゃいいんだよ。

――まあ、その通りですよね。

大仁田　俺だって試合を破壊させようとは思ってないし、俺なりに成立させようって思ってやってんだよ。

――毒霧を浴びた橋本さんは「もう関わりたくない」って言ってましたけど。

大仁田　関わりたくないって、もう関わっちゃったからなぁ（笑）。もうしょうがねえじゃん！　ガタガタ言うなって。そうやって女の腐ったようなこと言って！　あ、それは女性に失礼だな。男の腐ったようなだな（笑）。

――アハハ。でも大谷選手は、逆に「足突っ込んじゃったから、とことんやってやる！」って熱くなってましたけどね。

大仁田　おいでおいでって（笑）。いいんだよ、俺は適当にやるから。

――適当にですか（笑）。

大仁田　いいんだよ、俺は適当にやってんだもん！　俺はプロレスが大好きなだけだよ。俺はプロレスのあの空間の中にいると楽しいんだよ。それだけだよ！　遊んでんだもん、俺！

――プロレスは遊びですか（笑）。

大仁田　だって遊んでると思わない？

――う～ん、大仁田さんの興行では、ある意味、かなり遊んでますよね（笑）。

大仁田　だって人間さ、仕事だと思ってさぁ、デスクの上に何十時間座ってなきゃいけないと思ったらツライと思うぜ？

――確かにツライですね

大仁田　俺は自分で楽しいと思ってやってんだから。プロレスを愛してるし。好きだなあって思ってやってるし。

―邪道流のプロレスLOVEがあるんですね（笑）。大仁田さんは国会議員として、最終的には総理大臣になってやろうとか、そういった野望はあるんですか？

大仁田　（吐き捨てるように）俺は何もねえよ！（キッパリ）。

―何もない？（笑）。

大仁田　ただ一回ぐらいさぁ、政治家も命懸けなきゃいけないって自分の中の理念の中で思ってるから。今は、その機会を見てるねぇ。でも、なんか似合わないだろ？ 俺のスーツ姿ってのも（笑）。

―正直、違和感は感じますね（笑）。

大仁田　別に違和感でいいよ。常に違和感でいいと思う。俺は、ここは居場所だと思ってないし。人生のプロセスの中で参議員をやったんだと思ってるし、その過程でいいと思ってるから。みんなが味わえないことを味わってるわけだから、そういった部分では、俺は君たちより人生を面白く生きてるわけよ。

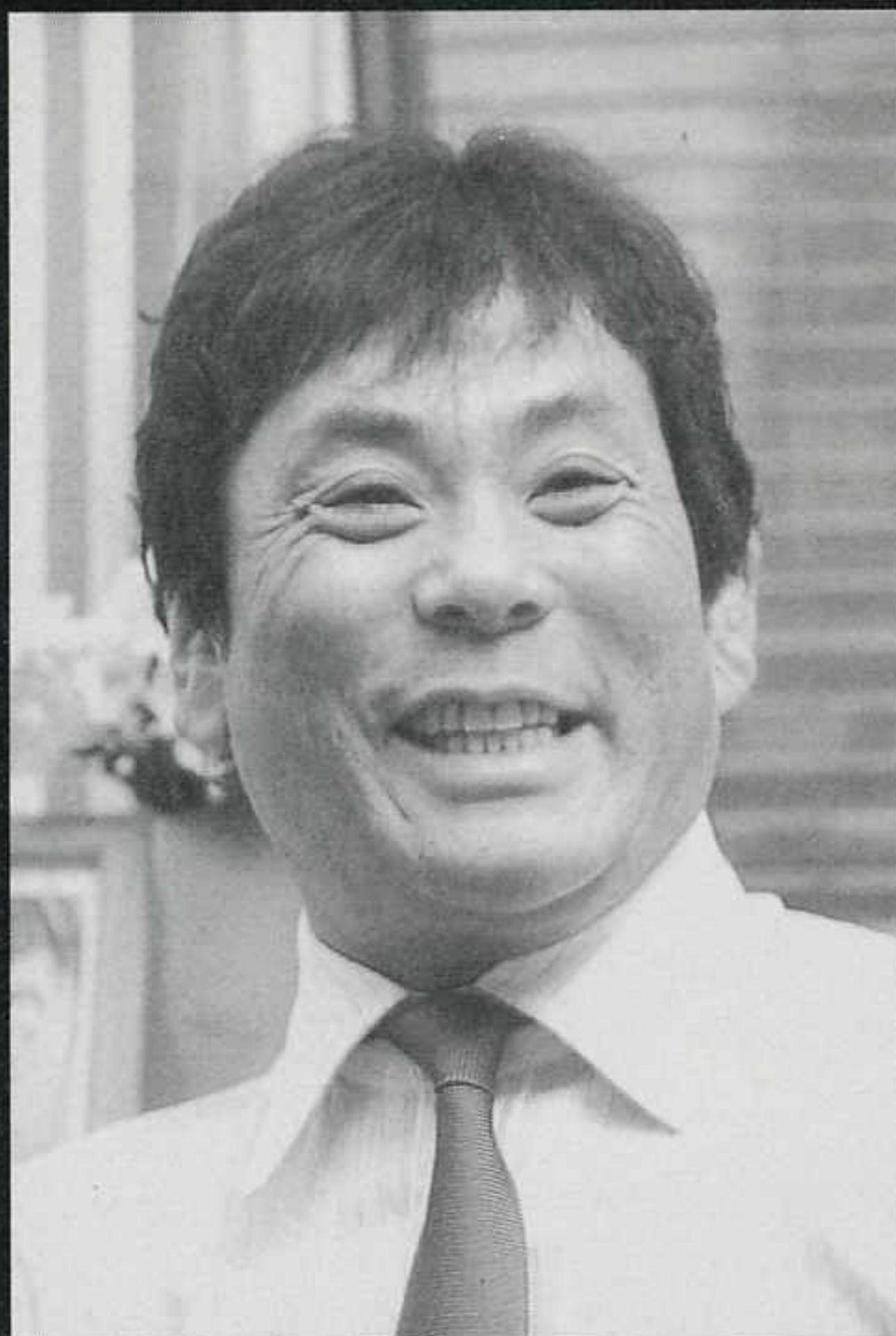
―なんか悔しいなぁ（笑）。

大仁田　ただ、俺の人生を君がやったらツライと思うよ。

―それはツライでしょうね（笑）、肉体的にも精神的にも疲れそうですけど。

大仁田　ツライよ。逃げちゃうと思うよ。だから別に何と言われようとかまわないって。それも人生なのかなぁって思って。（突然）年収は減るしさぁ、なんもいいことねえもん！（キッパリ）。俺ら基本的には解散ないから。あと5年2ヶ月ぐらいあんだよ。

―あ、まだそんなにありますか。

大仁田　5年2ヶ月……まだ5年2ヶ月あんだぜっ！ 嫌になるぜ！（笑）。

Atsushi Onita

―嫌になりますか（笑）。

大仁田　マスコミのヤツらでもさぁ、「今回はストロングスタイルが……」とかって、そんなの知ったこっちゃねえって！ そのくらい開き直ってきたからね。俺さぁ、強いよ、最近（笑）。何されてもいいやとは思わないけど、正統派が好きなヤツもいれば、俺みたいなのが好きなヤツもいるわけだから。この間の川崎球場の試合で、客が誰が一番気になるかって言ったら大仁田厚の動向が気になるんだよ。

―その自信があるんですか？

大仁田　だってよぉ、嫌い嫌いも好きのうちだよ。絶対気になるもん。気になると思わない？

―そう言われれば、そりゃ気になるじゃないですか？（笑）。

大仁田　いやいや、そうじゃなくて「今後、アイツは何やるんだろう」って思うよ。それで追うよ、ずっと。

―それは大仁田さんのファンじゃなくてもですか？

大仁田　嫌いでも追うんだよ！ これがまた憎たらしくなってくるからね（笑）。

―そういうもんですか（笑）。で、大仁田さんは、この間は橋本さんと闘ったわけですけど、他に誰か闘いたい相手っているんですか？

大仁田　誰とやったっていいんだよ。

―じゃあ例えばですけど、こないだ新日本に来た、元チャイナと組まれたらやるんですか？（笑）。

大仁田　それとこれとは違うだろ（笑）。俺はチャイナさんとやりたくないよ。

―元チャイナと闘うっていうのは邪道の定義に反するんですかね。

大仁田　やっぱり女性は女性だから。それ

は邪道の取り違いだよ。

——それは邪道の取り違いですか？

大仁田　何も社会のルールを破るのが邪道じゃないよ。ある種、自分の理念で生きるのが邪道だってこと。

——自分の理念で生きるのが邪道？

大仁田　自分の理念と信念の世界だから。一般の社会における常識というものが、本当に常識なのかなって思うことが一瞬あるじゃん？「それは本当に常識なのか？」って。それを、俺は俺の道を行くっていうだけなんだよ。何もそこで人を殺めるとか、物を盗むとか、そういった世界じゃないんだよ。これは俺の世界観なんだってこと。その世界観を嫌いな人も好きな人もいるだろうなってことだよ。

——そうでしょうね。そういえば、大仁田さんは身体障害者7級って言ってましたよね。

大仁田　そうだよ。もっと、いたわってくれよ（苦笑）。

——でも、かなり身体も鍛えてるし、そうは見えないですね。

大仁田　でも、腹筋は嫌だなぁ（苦笑）。（アーノルド・）シュワルツェネッガーは600回するらしいんだよ、やる時は。

——大仁田さんは、腹筋は何回ぐらいやってるんですか？

大仁田　俺か？　一日150回やるのが嫌でよぉ。それだけは嫌だよぉ（苦笑）。俺は体脂肪が11・4％だよ、いま。

——体脂肪11・4って凄いですよね。

大仁田　いや、13・何％から下がったんだよ。でも10％を切るのも時間の問題だな。体脂肪だけ減ってもしょうがないけどな。

——体脂肪とかに気を遣っているのは、やっぱりプロレスラー・大仁田厚としてですか？

ストロングストロングわけわかんねえこと言うなら、お前ら、格闘技戦行ってこい!

大仁田　いや、一回だけでいいからさ、「大仁田、いい身体や〜ん」って言われたいだけだよ（笑）。それだけでいいんだよ。

——じゃあ、満足できる肉体になった時はトランクス一丁で出てやろうかとか。

大仁田　思ってねえよ！　何となくやってみようかなってだけだよ。

——ところで、大仁田さんが再旗揚げしたFMWは、これからずっと続けていくんでしょうか？

大仁田　どこまで続けるっていうのは自分の中ではないんだけど、まあFMWの世界ってのが最初立ち上げた時にあったとして、その原点みたいなものが吸引力になって、インディーの集結みたいのができればいいなって思って。

——なぜ、いまインディーを集結させようと思ってるんですか？

大仁田　それはインディーの存在意義自体がなくなってきてるから。それに確固たるメジャーってのも今はないから。

——ないですよね。

大仁田　それにさぁ、こないだの新日の試合（5・2東京ドーム）見てたけど、なんかヒドかったなぁ？

——正直言って、女子プロが一番良かったって感じましたね。それに視聴率もゴールデンで7・1％でしたし。

大仁田　俺が蝶野かなんかと闘った時、深夜の放送で9・9％だったからね。

——そうだったんですか。じゃあ闘魂記念日に邪道が勝ったわけですね（笑）。

大仁田　邪道記念日だよな（笑）。たまたまテレビ付けたらやってたから見たけど面白くないもん。で、「ストロングスタイルの定義」ってなんだ？　逆に聞くけどよぉ。

——う〜ん、なんでしょうね？　橋本さんは「俺がストロングスタイルだ」って言ってましたけど（笑）。

大仁田　よくわかんねえよな（笑）。黒いタイツでどうのこうのって、俺は黒のタイツなんて嫌いだからな。そんなもん、履きたくもねえや！

——アハハハハ。

大仁田　それに「ストロングストロング」って、なんで俺にそれを被せんだよ。何で俺が猪木さんのマネしなきゃいけないの？　みんなマネしてるんじゃねえかって、ストロングスタイルを。猪木さんは提唱してるだけじゃねえか！　だったら猪木さんをボロクソに言うなよって。

——猪木さんをボロクソに言うって、誰のことを言ってるんですか？

大仁田　誰ってことねえけど、橋本だってそうだろ？　一回でも言ったことねえかって？　裏切り者とかって言ったことあるじゃねえか！　それでストロングスタイルって、何がストロングスタイルだよ！　教えてくれって、俺にちゃんと。ストロングスタイルを提唱しているお前らマスコミども、ファンどもも、みんな教えてくれって！　何なんだって、ストロングスタイルって！　じゃあ、シークの存在意義はねえのかって！

——え、いきなりシークですか？（笑）。シークは存在意義はありますよ。

大仁田　そうだろ。プロレスがさぁ、荒井や新聞さんやミスター高橋に売られてボロボロになってる状況でさぁ。いいじゃねえか、別に！　お前らこそジジイだって！

——お前らこそジジイ？

大仁田　ストロングだなんだって、昔のことをず〜っと固持して。お前らファンこそ、こちらから「ファック・ユー！」だって！（キッパリ）。

——大仁田さんも前に言ってましたが、猪木さんもネイルデスマッチやったりいろい

5・5川崎球場でのWEW旗揚げ戦。メインは大仁田＆サスケ組対橋本＆大谷の一戦。開始3分過ぎ、大仁田が橋本とガッチリ組み合った瞬間、大仁田は毒霧を橋本に噴射。アッと言う間の反則負け。納得のいかない橋本＆大谷は冬木コミッショナーに再戦を要求、再試合が行われたが大仁田は今度は大谷に火炎攻撃！　一日二度の反則負けが宣告された

スキャンダル？

平成14年2月17日、アフガニスタンの地雷撤去現場を訪れた大仁田。「がんばれ、アフガニスタンの子どもたち！」を旗印に、学生たちと一緒に"文化交流センター"建設のための行動を全国各地で展開している大仁田。

Atsushi Onita

ろとやってるんですけどね。

大仁田　そうだろ？　いろいろやってんじゃねえか。金のこと言ったら俺より猪木さんの方が汚えからな（笑）。

――そうかもしれませんね（笑）。

大仁田　俺より100倍くらい汚ねえからよぉ（笑）。

――大仁田さんの100倍！（笑）。

大仁田　それに比べれば俺は綺麗な方だよなぁ？　それに別に俺は困ってねえよ。困ってプロレスやってるんじゃなくて好きだからやってんだよ。

――金には困ってないでしょうね（笑）。

大仁田　お前は俺が困ってプロレスやってると思うか？

――いや、大仁田さんは普通に政治家をやってるだけで成り立つでしょうし、芸能活動もありますからね。

大仁田　テレビもラジオもレギュラーあるし、連載も書いてるし、一般の人より給料はあるよ。

――そりゃそうでしょうね。それで、先ほど話題に出たミスター高橋本なんですが、馳さんなんかは「正直困ったな」って笑ってましたけど（笑）。大仁田さん的にはどうなんですか？

大仁田　いや、いいんじゃないの？　逆に警告してるわけだから、ある意味いい意味で開き直るしかないよね、それは。格闘技にないものがプロレスあるわけだから。だってよぉ、ストロングって言うけど橋本だっていろんな人に負けてんだろうって！　なに言ってんだって！　その場に行きゃあ強ぶってさぁ。わけわかんねえこと言うなよって。だったら、お前らみんな格闘技戦行って来い行って来い！　俺らがやっておくから。

――プロレスは俺に任せろと（笑）。

大仁田　そうそう（笑）。俺はメジャーに頼らなくても、自分の世界でやっていけるんだから。だけど、あえて行ってんだから別にいいじゃん。それに俺は潰しようがないからな。

――潰しようがないっていうと？

大仁田　猪木さんも嫌がってるのもその部分なんだよ。大仁田厚は潰しようがないわけよ。負けてもダメだし、勝ってもダメだし、何してもダメなんだよ！

――確かにそうですよね。

大仁田　だから俺と関わるのは嫌がるわけよ。猪木さんが「ワン・ツー・スリー」って取っても、大仁田厚っていうのは常に存在するわけよ。猪木さんも嫌がるよ、それは。それを負かしてさぁ、「おい、猪木凄いな」って言われる計算を、あの人はちゃんと頭ん中で出来るわけよ。

――どっちのプロレス頭が上かの勝負なんですね？

大仁田　そういうこと。プロレスファンでも、マスコミでも感性のあるヤツだったらわかるよ。プロレスっていうのは感性で見るもんだからな！

――次、来る時は感性を磨いてきます！（笑）。

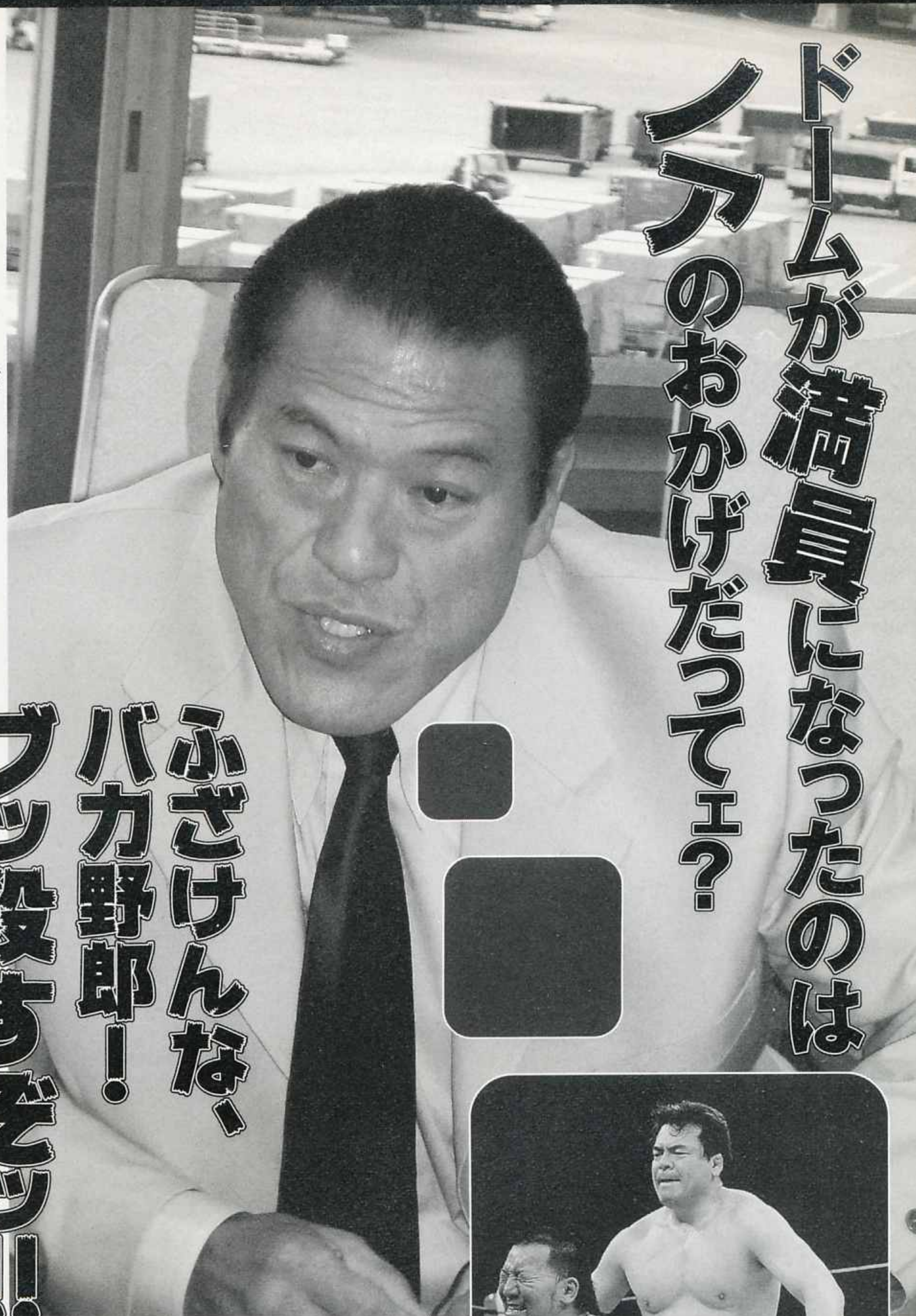
【02年5月13日／参議院会館にて収録】

※このインタビューから3日後、FMW元社長・荒井昌一氏の悲報が飛び込んできた。それに対し、FAXで送られてきた大仁田のコメントは以下のようなものだった。

何年も離れてたけど何があっても
ずっと友達だと思ってた。
FMWを一緒に立ち上げたじゃないか。
せめて電話1本ほしかった。
最後まで夢を捨ててほしくなかった。
昌ちゃん、安らかに眠ってくれ。
俺はおまえの分までがんばるから。
心からご冥福お祈り申し上げます。

ドームが満員になったのはノアのおかげだってェ?

ふざけんな、バカ野郎! ブッ殺すぞッ!!

俺が裏でどれだけ動いたと思ってるんだ!!

5.2新日ドーム成功はオレの力!
“電気”も遂に完成し、今回もますます絶好調!

アントン成田会見

創立30周年を目の前にして、選手やフロント陣の大量離脱が発生。創立記念となる5・2東京ドーム大会の成功が危惧されていた新日本プロレスだが、なんとか5万7千人の観客を動員。興行的には成功を収めたわけだが、やはり、この男が黙っていなかった! 恒例の成田会見でアントン総帥が、恒例の爆弾投下ダーッ!

構成／ジャン斉藤
designed by さおとめの事務所

俺が命懸けで切符売って、裏でどれだけ動いたと思ってるんだ!

バカな解説者が「ノアのおかげで（5・2新日東京）ドームがいっぱいになりました」なんて言っていたけど、バッキャロー、ブッ殺すぞ、この野郎って！（怒）。裏で俺がどれだけやったと思ってるんだって。俺が命懸けで切符を売って、それこそ馬鹿さらけ出していろんなことにお願いしに行ってさ。なんで俺が何十年前に戻って切符を売らなきゃならないのか。それは（新日本を）愛してるからやってるだけの話でさ。それを、ふざけんなよ、この野郎って！

オレが小川と橋本を投入した

今回、小川たちが出て切符がガンと伸びたのは事実だし。ハッキリ言っときますけどね、（切符が）伸びねえからオレがドアを開けただけの話で。オレもね、半分のドアから隠れた言い方するのは面倒くせえからさ、もう（ドームの成功は）こういうことですよというのをファンに認識させなきゃいかんでしょうね。

ドーム成功はオレの力
5・6アントン成田会見

傭兵に頼る国は滅びる

（今後のノアとの関係は）蝶野が決めることで、オレはそこまでは（介入しないけど）。前にも言ったかも知れないけど、傭兵に頼った軍隊というか国は滅亡したんだよ。

蝶野は現役を引きずっていたら、経営者にはなれない

（蝶野は）良くやったと思うけど、足りねえことがいっぱいですよ。ズバリ言えば。何遍も言うように「選手じゃねえよ、オマエは」っていうのは、（現役を）引きずっていたら経営者にはなれないというね。というのは、選手とプロモーターを両立するのは難しいから。選手が社長をやってる会社はいままでの例でいくと、みんな潰れてるんだよ。いくら蝶野が〝チョウノー力〟持ってたって、そのへんは難しいんだ。

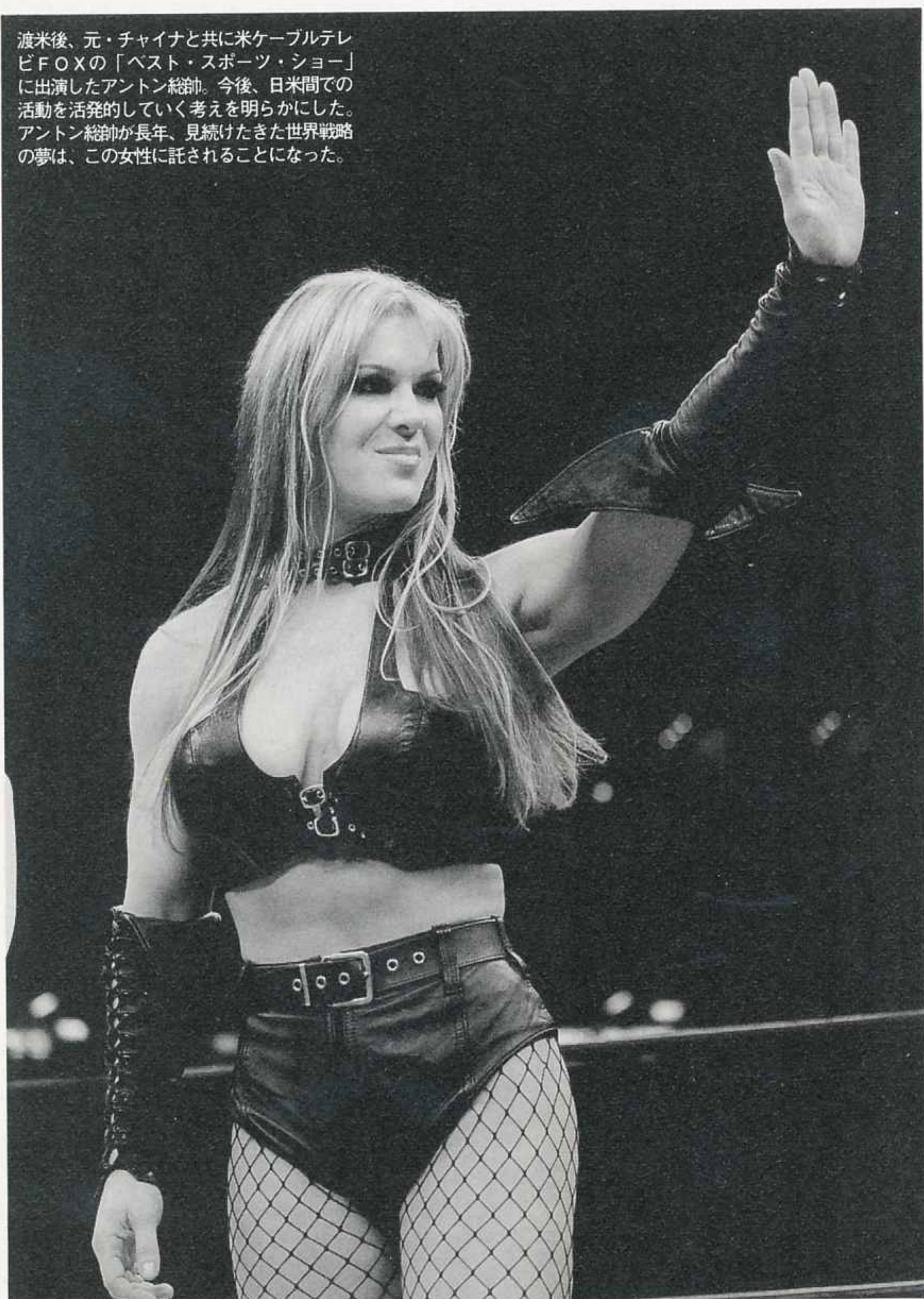
昔だったら俺が視聴率を稼げたんだけど

（5・2東京ドームTV中継の視聴率は）読めないねえ、全然（※注・この会見はNHK「これが津軽三味線だ!」にも惨敗した平均7.1%というすばらしい視聴率結果が発表される前に行われたものです）。昔だったら俺が稼げたんだけど。まあ、俺が一言しゃべるとみんなけっこう神経質になるから、言葉は慎重にしないといけないんだけど。もうちょっと自然であればいいのにという。チャンネルをつけた人が試合が見たいのか、ドラマ性のストーリーが見たいのか、それは俺にはわからないですよ。ただ、俺だったらいい試合を提供して見てもらいたいなという。やっぱり、いろんな部分では無理があったというか。ハッキリ言えば、見せたくない試合というのもずいぶんあったと思うしね。みんな視聴率が気になってるけど、俺はどうでもいいけどね。だって、（視聴率を）取るための策を打ってないんだから。こういう体制っていうのはおかしいと思うんだよね。スペシャル（番組を）組んでも、番宣ひとつ打たないというのは。そういう意味では、興行主もそうだしテレビ局も新規にするぐらいじゃないとね。

チャイナを新日の社長にするのも面白えかな

チャイナは外のマスコミを動かしてくれる

チャイナ（ジョアニー・ローラー）なんてのは、もともとWWFから出てきた選手でWWFを知り尽くしてる部分もある。それに、いまは格闘技系の練習もやってますから非常に面白いというか我々に必要な部分がそろってきてますから。これから（チャイナはアメリカに）帰って4局か5局くらいかな。テレビの取材が入ってるらしくてね。まあ、まだ俺もよく彼女のこともわかんないからアレですけど、たまたま彼女は俺の環状線理論で言えば、プ

渡米後、元・チャイナと共に米ケーブルテレビFOXの「ベスト・スポーツ・ショー」に出演したアントン総帥。今後、日米間での活動を活発的していく考えを明らかにした。アントン総帥が長年、見続けたきた世界戦略の夢は、この女性に託されることになった。

ロレス外のマスコミを動かせる力を持っていますから。そういう意味ではこの間も言ったけど、場合によっては新日本の社長にするっていうのも面白えかなと思っていますけど。

■こういう時代だからこそ、ガタガタ言うヤツは首を切る

（俺のやり方に）ガタガタ言うヤツは首切るよと。こういう言い方は非常に厳しいけど、いまの時代はそういうやり方でしか切り抜けられないというね。国会を見たって同じだと思うの。時代の背景というのか、何を通すにしてもアーダコーダと内輪の事情で全部解決していくというか。国際社会でどうあれするかとかは二の次で、派閥次元の話になっちゃうんですよ。それと同じことが新日本にも起きていたというか。だから「嫌なら辞めろ」というぐらいの厳しい言葉を言わないとね。それに添わなきゃ自分の新しい場所を探すしかないし。オレだって、添ぐわなかったから自分で独立したというか。まあ、（日本プロレスから）追放されたんだけど、実際。ンムフフフ！

いよいよ"電気"が始動します
5・6アントン成田会見

■新日の株を手放すかも

（新日本の筆頭株主として、6月の株主総会の出席は）わかんない！ まあ、いままで出席したことねえですから。ガーッハッハッハッ！ 全部（株を）手放すかもしれない。早く身軽になりたいよ。ンムフフフ！

■株式上場なんかできっこねえよ！

（新日本が株式）上場したけりゃすりゃあいいじゃん。（でも、上場なんかできっこねえよ！（記者陣から笑いが起こると）当ったりめえじゃん！ ホントに（会社として）ピシっと削ぎ落とすもん削ぎ落として経常利益を上げて、新日本のやりたいことを明確に上げればできるけどね。

■あのまま新日本にいたら、永島は死んじゃってましたよ

一度離れてみると、いろいろわかるもんなんですよ。永島（勝司・元新日本役員）もこないだ来て「いまになったらホントに良く見えるよ」って。いまさら見えてんじゃ遅えんだよなって。ンムフフフ！ でも、彼はラッキーですよ。あのまま（新日本に残って）いたら死んじゃってましたよ。脳梗塞を起こして、それそこ半身不随で。そういう意味で旅をするってことは（大切ですよ）。橋本だってこないだ「いやあ、良くわかりますよ！」って、何がわかったか知らないけどね（サラリと）。わかったって言うんだから、わかったんだと思うんだけど。ンムフフフ！

「アントン、いつもこんないいところに上がっているんだ」（ミッコ）

■全日本？ 一発で叩き潰してやる！

（全日本に）ケンカを売られたんだから、売られたケンカを買ってあげるよっていうね。ハッキリ言うと理想がねえもん！ 武藤がアメリカ的プロレスをやりたいという、それはそれでいいかもしれないけど、会社自体、何がしたいのっていうね。ハッキリしたものがないと思いますよ。あそこにいる選手が（新日本と）やりたいというのであれば、猪木が一発で叩き潰してやるから！ ただ、勝負をしないのが彼らのプロレスだから。ンムフフフ！

■おかげ様で、電気ができちゃいました

電気（誘導発電装置）のほうがいよいよできちゃったんで、おかげ様で。本当は（機械を米国に）持って帰るつもりだったんですけどね。今日は（関係者たちが）前祝いをやってますよ。今度、テレビと扇風機と蛍光灯何十本と洗濯機を全部一気に回しますよ。ンムフフフ！ 大量生産はシンプルなんで、そんなに難しくないんだよね。普通の日本にあるメーカーに「こういうふうに作れ」って言えばできちゃうぐらいでさ。元になるブラックボックスは別なんだけど。みんなが（この話を）信用してないから面白いよな。ガーッハッハッ！

■ミッコと会話はしてない

（東京ドームで倍賞美津子・元夫人と会話は）しねえよ！（笑）。（記者陣から、アントン&ミッコの「ダーッ！」写真が翌日のスポーツ各紙を飾ったことを伝えられると）揉めちゃいけないから（奥さんに）電話したんだよ。わざわざ東京から（アメリカに）電話して告げ口するバカがいるからさ。「非常識ですよ！」とかってね。非常識といったって、（倍賞・元夫人がセレモニーに登場するのを）オレは知らなかったんだから！ プロレスラーはみんな喜んでくれればそれでいいんだけど、一般の家庭というのはなかなか（難しい）。ウチのなんてのはまさに普通の家庭だからね。ンムフフフ。

● ●

30周年記念興行となった5・2新日東京ドーム大会を総括し、今後の新日本の方向性についても言及。さらには誘導発電装置、倍賞元夫人の話題まで話が飛んだ今回の成田会見。さすが「半分のドアから隠れた言い方するのは面倒くせえからさ」と言うだけあって、おもいきりドア全開で（いつも全開という声は無視）、過激な発言を連発したアントン総帥！ 米国からの帰国予定は5月22日か23日とのことで、そのときには7.1%と惨敗となったドーム大会の視聴率を知らされ、さらなる爆弾発言が投下されることでしょう。大丈夫かなあ、新日本プロレス。

まあ、元気で!!

紙のプロレス RADICAL

050
CONTENTS

Cover Model : Kazushi Sakuraba

Head Line

Main-Event

Semi-Final

Radical Special

Columns

Another

※50号特別編成により、今号は「リングの汁」以外のコラムはお休みであります。

RADICAL Special Pinup **SMACK GIRL & AX**／Portrait **Mr.フレッド**

004

020

129

ほぼ月刊ペースで創刊5年6ヶ月!!

50th KAMIPRO 座談会

紙

祝!! 50号 特別企画

構成／スモーノブ

designed by matsu（Two three）

紙のプロレスRADICALで振り返るマット界クロニクル座談会

『紙プロ』の歴史といえば会長（＝山口日昇）の裏切りの歴史ですからね!!（ノブ）

ノブ　なんと！　『紙プロ』もめでたく創刊50号目を迎えたということで、96年12月の創刊から5年6ヶ月の歩みを振り返りつつ座談会を行いたいと思います！

豪　新日本30周年と『紙プロ』50号が重なったと思うと感慨深いねぇ（しみじみ）。

山口　もう5年半もやってるのか!?　あと5年半もたてばターザン（山本）は死んでるのかなぁ……（しみじみ）。

ノブ　何を言いだしてるんですか（笑）。

山口　いや、もちろん冗談ですよ。あのオヤジは元気なんだろうなぁ、たぶん（笑）。

ガンツ　ちなみに昨日、電話で話したときに「『紙プロ』も次号で50号なんです」って話をしたら、「なぁにぃぃぃぃ〜？　そしたら当然、俺が表紙ですよぉぉぉぉ!!」って炎上してましたよ（笑）。

山口　ホント図々しいな（笑）。前言撤回！　5年半後には死んでてほしい（笑）。

豪　でも、ターザンが表紙ってプランはいいですよね。「50号だってな？　ターザンからのお祝いだよ」って感じで、紅夜叉みたいにターザンがビキニで表紙に登場したら衝撃が走りますよ（笑）。

ノブ　思えば、創刊号ではターザンが幽霊の格好して表紙になってるんですよね。

豪　そのせいで返本が致命的なほど大量に来たわけだけど（笑）。

山口　そうそう。ターザンを表紙にしたおかげでもの凄い返本率だったなぁ……（しみじみと）。今の平均的な返本率から比べると、約30％は違うんじゃないか？

豪　出版界の常識から考えたら、ケタ違いの数字ですよ（笑）。そもそも、創刊号では高田延彦を表紙にするはずだったんですよね？　小さい版型の『紙プロ』本誌（以下本誌）時代には高田や当時のUインターと溝があったのが徐々に埋まりかけて、「表紙にするから出てください」って約束を取りつけてインタビューまでしたのに、なぜか本が出来たらターザンの表紙になっていたっていう（笑）。

ノブ　それでシャコタン志野さん（当時のUインター広報）が丸坊主になって（笑）。

山口　いや！　そのときは、ちゃんとUインターに「今回はこういう理由でターザンを表紙にするから、髙田さんは次号で絶対に表紙にします」って伝えてあるんだよ。

豪　（無視してパラパラと創刊号をめくりつつ）しかし、雑な作りですよねぇ（笑）。

山口　「ダイナミック」と言ってほしいね（なぜか胸を張って）。

豪　だって、途中で放り投げたような原稿とかありますよ？（笑）。

山口　でも、この号は俺、ホント死ぬほどの文章量と編集担当だよ。90％ぐらい俺1人でやってんだから。

豪　残り10％はのものも（元・編集部員、現・アレクサンダー大塚の奥さん）がやったんですよね。ボクも手伝い始めたのは2号からだし。

山口　この頃は……なんにも覚えてないな。思い出語ろうとしたけど（笑）。当時、今は亡き『Ｒｉｎｔａｍａ』（当時、放映されていたテレビ朝日のバラエティ番組『リングの魂』の雑誌版）って雑誌と並行して作業してたから、1ヶ月に2冊作ってたんだよ!!

ノブ　今じゃ考えられない作業量ですね。

豪　なんだか『Ｒｉｎｔａｍａ』の思い出も語りたくなってきますよね。なかでも、会長（山口日昇のアダ名）に裏切られた思い出を（笑）。

山口　（驚いて）な、なんだよ!?　俺が何を裏切った？

ノブ　『紙プロ』の歴史といえば、会長の裏切りの歴史ですからね（笑）。

豪　そもそも『Ｒｉｎｔａｍａ』創刊時に、会長が「これが売れたらお前ら、ソープに連れてってやるからな！」ってハッパをかけたら、その翌日から本人が失踪してね（笑）。

山口　でも、それはいつものことじゃん？

豪　それでも、残ったボクと原タコヤキ君で一生懸命作ったわけですよ。2人で死ぬ思いをしながら編集して、原稿書いて、イラストも一晩に20枚以上描いて、ほとんどのページを作ったわけ！　そしたら売れたんだよね、結構。それに経費もそんなにかかってない。「よっしゃ、ソープだ！」って2人して喜んでたら、なぜか会長が1人でソープに行ってたんだよ！

山口　ガハハハハハ！　そういえばそんなこともあったね（かわいらしく）。

豪　「こんな会社辞めてやる！」って、それでボクがフリーになったんですよ（笑）。

山口　俺は素晴らしいプロデューサーだなぁ。人を追い込んでやる気にさせるんだよ。

ガンツ　で、突き落とす（笑）。月に20本以上も連載を持つフリーライター・吉田豪を生み出したのは会長だったんですねぇ。

豪　だから、あえて創刊号には関わらなかったんだよ。

山口　（聞いてないフリで雑誌をパラパラめくりつつ）この頃は俺も頑張ったね。

ノブ　2号で、すでに髙田vsヒクソンが浮上ってスクープしてるんですよね。

山口　そうだ、深夜に鈴木健氏（当時のキングダム社長・現『串焼屋　市屋苑』店長）から電話があったんだよなぁ。「（髙田vsヒクソンが）決まったから。褒めて。お礼に●●●って」って（笑）。あの電話

◎座談会出席者◎

山口日昇
小さい版型の紙プロ本誌創刊号以来、現在まで11年間にわたり鬼畜編集長として君臨。通称・会長。しばしば必殺技「失踪」により、編集部をカオスに陥れる。20代の頃、林ヘックション一枚の車を勝手に売り飛ばして英国取材へ。その金でコールガールに挑むも、「Ｏｈ！Ｑｕｉｃｋ！」と驚かれたのは今や伝説。最近は携帯サイト及びＨＰ開設に向けての交渉等で奔走中。

吉田豪
紙プロ本誌時代に「吉田クン」「日佐夫クン」名義で、お手伝い参加。ギャラの良さに惹かれて、そのままヘッド・ハンティングされる。「Ｒｉｎｔａｍａ」に参加するも、ある事件（本文参照）をきっかけにフリーとなり、現在は金髪スーパーバイザーとして紙プロＲＡＤＩＣＡＬに参加。最近、ヒザ蹴りまで喰らった因縁の新間ファミリーとも電撃和解！

スモーノブ
紙プロＲＡＤＩＣＡＬ2号から参加。ちなみに本誌16号に投稿が採用されている過去あり。現在は編集部を離れ、グータラ営業マンとしてスーツ姿の日々。フリーライターとして細々と活動中。最近は「中洲通信」やＬＩＱＵＩＤ　ＲＯＯＭのフリーペーパーで原稿を書いている。体重はやや減少気味だが、ところかまわず眠りだすのは相変わらず。

堀江ガンツ
紙プロＲＡＤＩＣＡＬ20号から参加。じつは読者時代にＲＡＤＩＣＡＬ12号で、髙田延彦応援ハチマキ（「髙田ＵＦＯに乗れ！」のメッセージ入り）のプレゼントに当選、「ＰＲＩＤＥ．4」の当日に、プレゼンテーターの浅草キッドから直接授与されるという幸運を射止めた果報者。最近は鬼軍曹として、後輩の「かわいがり」に余念がない先輩キャラ。

は今でも忘れられないよ。

豪　危険過ぎて印象深いエピソードですね（笑）。で、3号では船木誠勝が表紙だし、創刊号にも船木がインタビューで出てるしで、創刊当時はけっこうパンクラスを推してたんですよね。

山口　U系雑誌だったからね。あの頃は純プロレスに語るべき試合が少なくなってきてたから。U系という支流を辿ると「猪木」に辿りつくんだけど、その「猪木」という概念を後世に残さなきゃと思ってたから。

豪　それまでの試合レポート中心の雑誌が、あまり意味を持たなくなってきた頃ですよね。そしてターザンが編集長を辞めて、『週プロ』が面白くなくなっていった時期でもあって。それまではプロレス雑誌の本筋がしっかりしてたからよかったんだけど、そんな状況になったから『紙プロ』もフザケてばかりいられなくなったという。

山口　読者に「プロレスとは何か？」を考えさせるような展開に持っていく雑誌がなくなっちゃったんだよね。その頃には『PRIDE』はまだなかったけど、何かが始まりそうな雰囲気もあったし、そういう胎動をどのプロレス雑誌も伝えてなかったから。

ノブ　そういう意味で、3号と4号でやった「八百長論に負けるな！」という企画は当時の業界にかなり大きな波紋を投げかけましたよね。

ガンツ　読者の人気投票は歴代でもかなり上位にランクしてますね。

豪　ボクの記事が評判良かったんだよなあ（誇らしげ）。

山口　（子どものようにムキになって）でも、創刊号の佐山聡インタビューだって評判よかったんだからな！　あれは「よろしくお願いしまぁ～す」っていう、佐山本来の姿を初めて活字化した記念すべきインタビューなんだぞ！

ガンツ　（無視して）ミスター高橋本以降、八百長論議が活発になってますけど、実は『紙プロ』は創刊の頃からずっとそういうことに取り組んできたんですよね。吉田さんが書いた「八百長論に負けるな！」って原稿は、高橋本が出る5年前に発表されてるんですよ。

豪　あの原稿を読んでない人のために説明すると、かなり危険な「試合の作り方」についての記述なんかもプロレス本から引用して載せてたから（笑）。当時のプロレスマスコミにおける一線は完全に踏み越えてたでしょ。「そういう部分まで表に出した上で八百長論と闘おう」という原稿なんだけどね。

山口　……でも、俺はこの頃のこと全然覚えてないなぁ。

ノブ　じゃあ、何なら覚えてるんですか？　高田vsヒクソンは覚えてますか？

山口　覚えてるよ、バカ！　俺をボケ老人キャラにしたいのか？

豪　あの世紀の一戦には、編集部の誰よりも会長が熱くなってましたよね。

ガンツ　ちなみに、会長が担当した5号の高田延彦インタビューは、読者アンケートでも歴代2位の票を獲得してますからね。

山口　あのときの読者の期待は熱かったよなぁ（しみじみ）。今のプロレスとは比べ物にならないよ！　しかも、このときはどこの馬の骨ともわからない胡散臭いものとして見られてたから、どのマスコミも『PRIDE』を相手にしてなかったでしょ。

ノブ　『PRIDE．1』の記者会見でデイリースポーツの宮本さんがKRS（Kakutougi Revolution Spiritの略。DSEの前身）のスタッフを捕まえて「お前ら一体何者なんだ⁉」って詰め寄ったという素敵な伝説がありますからね（笑）。

山口　ガハハハハ！　あったなぁ、そんなことも。部外者は入れないって、業界がスクラム組んでたんだよ。そう考えると、1回目の『PRIDE』からずっと追いかけてるのなんて、『紙プロ』ぐらいのもんでしょ？

豪　この頃は『PRIDE』を独り占めしてたんですよね。あとは、変なオフィシャル本ぐらいしかなかったし（笑）。

ノブ　高田vsヒクソン直前の5号、直後の6号は編集作業してて面白かったですね。

山口　歴史的瞬間を形にしていく作業だから面白かったよな。こんな大イベントを『週プロ』『ゴング』では深く扱わなかったでしょ？

ガンツ　あの頃は『ゴン格』にも『格通』にも少ししか記事が載ってなかったですから。

豪　まだ『格通』が「NO FAKE」とか言い出す前だよね？　ぶっちゃけた話、主催者のKRSが胡散臭かったってことに尽きるんでしょうけど（笑）。

山口　ああ……。

ガンツ　なんですか？

山口　そうなんだぁ（うわの空）。

ノブ　……この座談会に会長を入れたのが間違いでしたかね（笑）。

豪　しかし、この6号はエポックメイキングですよ。高田が負けた大変な時期に、何を血迷ったのか当時nWoブーム真っ盛りの蝶野をドーンと表紙にしたら、ドーンと売り上げが落ち込んだっていう（笑）。

山口　そうそう！　このとき、「蝶野を出すなら表紙じゃなきゃダメだ」って新日本の広報から言われたんだよなぁ。俺は高田が負けた直後だったから、「どうすんの⁉　高田負けたよ‼　どうすんの⁉」っていうコピーで前田の表紙にしたかったんだけど。

豪　でも、これで『紙プロ』の進む道が見えましたよね。

山口　やっぱり読者が求めてたのは猪木、UWFの続きを見たいというニーズが高かったのが身を切ってわかったよね（笑）。高田が負けた直後の前田はホントに面白かったからね。前田がまだ全然熱かった頃でしょ。

ガンツ　じつは、6号では桜庭が『紙プロ』初登場を果たしてるんですよ。UF

決して他誌にはマネの出来ないアメイジングな表紙の数々‼　額に入れて飾られるべきであろう。

C-Jで優勝するもっと前に。「この飄々とした男がプロレス界の秘密兵器かもしれない」という見出しで。

山口　へぇ～。凄いなぁ、俺。先見の明があるねぇ（しみじみ）。

豪　でも、その号が売れなかったからあまり世間には届かなかったという（笑）。

山口　いい加減、自分でズッコける癖を何とかしないとな（笑）。

豪　ちなみに7号が田村、8号が桜庭、9号が髙阪が表紙で、当時にしては「次世代」の選手を連続して取り上げてますよね。で、9号は売れなかったんでしたっけ？

山口　やっぱり表紙は大事だよなぁ……。あ、これは決してTKの顔が表紙にデカデカと出たから売れなかったって言ってるわけじゃないからね（笑）。

豪　そうなんですか？　だって、この月に猪木が引退してるんですよ!?　なのに表紙がTKって、どういうことですか？（笑）。

山口　そうなの!?　そりゃ売れないわ（笑）。

ガンツ　引退便乗商法をしなきゃいけないときなのに（笑）。

ノブ　他誌がみんな猪木表紙だったから、あえてTKを起用したんでしたっけ？

山口　……忘れた（笑）。なんだか、ずいぶん昔のような気がするよ。

豪　本格的に昔のことを覚えてないみたいだから、話を進めましょうか（笑）。

山口　あ！　思い出した。猪木引退はどこでもやるから、TKがUFCで勝ったことのほうを重視したんだよ。

豪　アレクが表紙の13号は売れたんですか？

山口　これは売れたよ！　アレクがマルコ・ファスを破って、スターダムを一気に駆け登った瞬間だからね。

豪　（12号をパラパラめくりながら）あ、アレクが表紙になるひとつ前の号で、菊田が初登場して例の問題発言をしてる（笑）。

山口　ガハハハハハ！　そう考えると凄い因縁だよなぁ。

豪　僕の中のイメージでは、15号あたりから『紙プロ』が次の段階に行ったって感じなんですけどね。

山口　15号……それは覚えてるぞ！　オーちゃんが初めて表紙になった号だろ？

ノブ　そうです、そうです！　凄いじゃないですか！　1・4事変の特集号です。

豪　最高でしたよね！　小川が出るようになってから『紙プロ』のイメージもUWFから徐々に離れていった気もしますけど。

山口　そのころの小川が俺たちの理想を体現していてくれてたんだろうね。プロレス・格闘技のどっちにも針を振れるという可能性が見えたからね。

豪　で、16号はエンセン井上が表紙、と。プロレス雑誌なのに修斗ヘビー級王者を表紙にするって、冷静に考えれば無茶ですよね（笑）。

山口　いや、でも実際にこの号は売れたんだよ。修斗君（エンセンの愛犬）のインパクトが強かったんじゃない？（笑）。

ガンツ　他にも総合格闘家のインタビューもたくさん載ってたし、アブダビにも取材に行ってるし、だんだん何の雑誌か分からなくなってきた時期ですね（笑）。

『猪木』という概念を後世に残さなきゃと思ってたから（山口）

ノブ　この頃は本格的に純プロレスの記事が載ってないんですよ。蝶野が表紙にまでなってたのになぜか新日本の記事が再び載らなくなって。なんで新日本から取材拒否を受けたんでしたっけ？

山口　う～ん……。なぜだかわからない（笑）。よくパンクラスについても「なぜ取材拒否されてるんですか？」と聞かれるんだけどさ、俺もわかんないんだよねぇ（笑）。まあ、そういうことを言うからパンクラス側は怒るんだろうけど。

豪　初版がバカ売れしたパンクラス公式読本『矛』『盾』まで出したのに、おかしな話ですよね。まあ、そのパンクラスも長いブランクを経て、今号でようやく再登場というわけですが。

山口　パンクラス？……ま、いいや（興味なさそうに）。

ガンツ　せっかく取材できるようになったんですから、そういうのはやめましょうよ！

山口　だって……いまのパンクラス……俺はわかんないんだもん！　何をしゃべればいいの？

豪　なんで急に子供化してるんですか！

ノブ　これ、会長がつくった雑誌の50号の記念座談会なんですよ？

山口　50号つったって大したことないじゃん（笑）。実感ないし。

豪　まあ、途中で何号か失踪してますからね（笑）。じゃあ、会長が印象に残ってる話をドンドンしてくださいよ。

山口　いやぁ、『PRIDE』が出てきたのはデカイねぇ（しみじみと）。たとえば、この18号の表紙のサクの表情なんかイキイキしてるもん。

ガンツ　そういえば、こういうサクの顔を最近はあまり見ないですね。

山口　そうだろ？　マット界が変わっていきそうな雰囲気を『紙プロ』が追いかけていたら、サクの活躍ぶりとかとピッタリはまったんだよね。

ガンツ　そうですね！　ボクは20号から入ったんですけど、当時のこと、よく覚えてますよ。入社した途端に、「次の20号、発売が1ヶ月延びたから」って言われて（笑）。

ノブ　ああ、そんなこともあったねぇ。

山口　なんでお前らはそんなロクでもないことばっかり覚えてるんだよ！

ノブ　会長だって何にも覚えてないじゃないですか!?（逆ギレ）。

山口　バカ、ちゃんと覚えてるよ！　ちょうど、この頃はオーちゃんが『PRIDE』に出た頃……だよな？

豪　そうですよ、ちゃんと覚えてるじゃないですか（笑）。この頃の『PRIDE』の熱さは、かなり刺激的でしたよねえ。

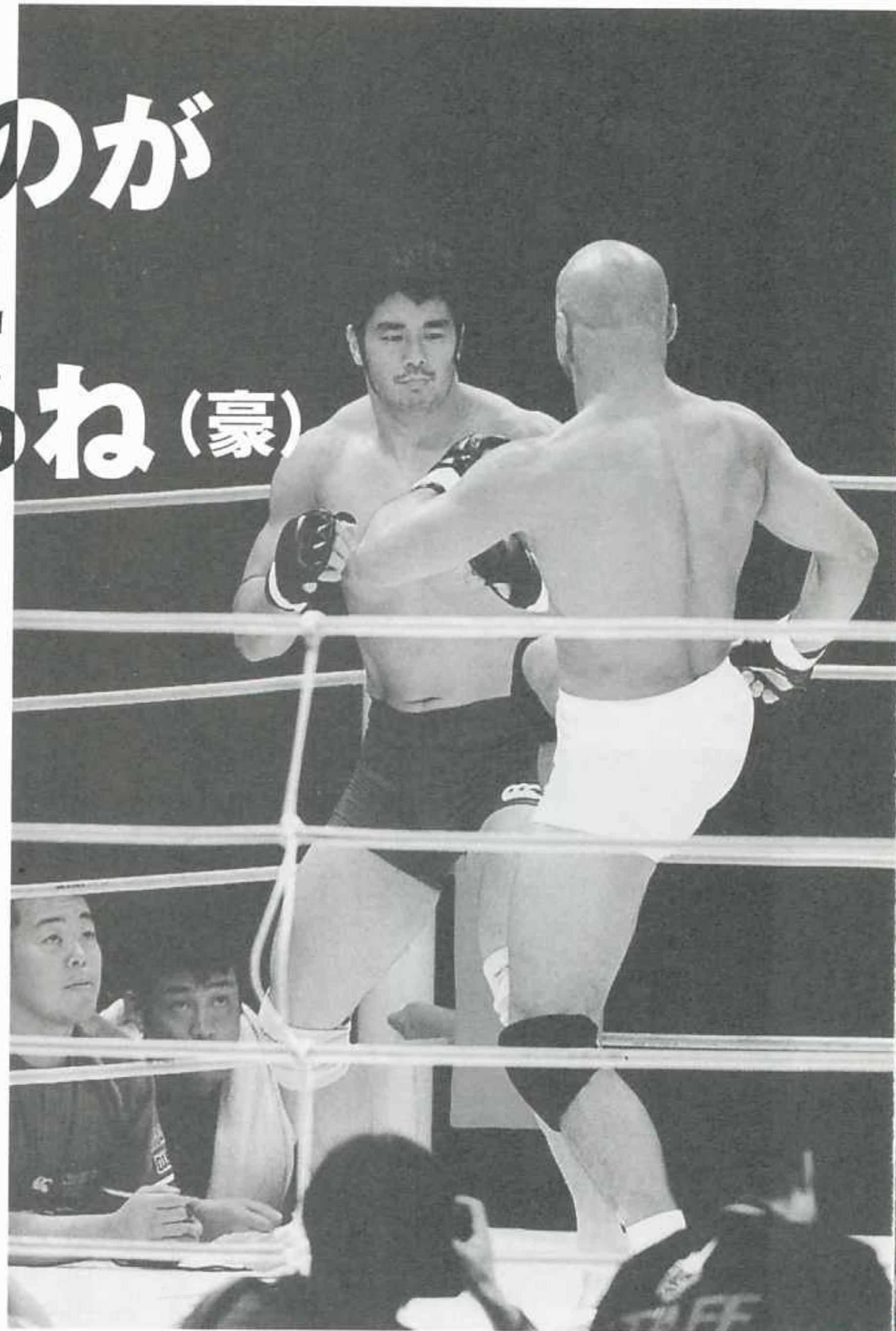
山口　レスラーが『PRIDE』という場に出て行くことが強い刺激になった頃でしょ。

豪　全然別物ですよね、今の『PRID

創刊号のターザン表紙は、タイミング的にバッチリだったにもかかわらず売り上げが致命的だった唯一の事例。これは本人のせい？

E』の面白さとは。
ガンツ　ちなみに20号では「語ろう藤波辰爾座談会」という、現在の「紙の新聞」につながる歴史的な企画があるんですよね（笑）。
ノブ　で、この20号以降はかなりボクも記憶が曖昧になってるんですけど、29号では秋山（準）が表紙になったんですよ！　これは思い出深いなぁ（しみじみと）。
豪　ただ、ノアとの蜜月も短かったんだけどねぇ（笑）。その後は、また会長の悪い病気が出て42号でピンタディン（＝アラビア衣装に身を包んだ猪木）を表紙にしたら、売り上げが落ちたんでしたっけ？
山口　ガハハハ！　たしかに、この号は苦しかったなぁ……って、なんで売れない号の話ばっかり振るんだよ！
豪　じゃあ、ビンスを表紙にした41号は？
山口　意外にもビンスの表紙は売れたね！売れはしたんだけど……、この頃は「なんで『紙プロ』が純プロレスを取り上げるのか？」がうまく誌面で説明できていなかったよね。読者の中ではハレーションを起こしてた人もいるんじゃないかな？　橋本がZERO—ONEを旗揚げした頃には、「純プロレス復興だ！」とかやったじゃん（笑）。それまで『PRIDE』やリングスを全面的に取り上げてたのに。
豪　でも、実際にZERO—ONE旗揚げ戦は面白かったですよ。ちょうど、WWF（現在はWWE）とか辻（よしなり）アナとか、昔は否定してたものが肯定出来る状況になってきましたからね。
ガンツ　そして49号では遂に小島（聡）と（ハルク・）ホーガンまでもが絶賛されるようになった、と（笑）。
豪　小島はいいよねえ（笑）。ボクと同い年とは思えないくらいのかわいさですよ！
山口　お前がかわいくなさ過ぎるんだよ（笑）。で、なに？　読者の中には「昔、あれだけ小島のプロレスを否定してたのに、なんで今頃になって肯定してるんだ!?」っていう声もあるの？
豪　でも、すっかり中途半端になっちゃった格闘プロレスなんかよりも、WWFチックな天コジ（天山広吉・小島聡のコンビ名）の上手さの方が認められるようになるっていう部分もありますからね。同時に、新日本を辞めたことで小島のキャラクターが完全に突き抜けたし。
山口　プロレスそのものの座標軸が時代とともに変わってきたという部分も大きいよな。『紙プロRADICAL』を創刊したばかりの96〜97年頃というのは、一番右端に『PRIDE』があったとしたら左端はWWFがあったよね？　で、当時の『紙プロ』は「真ん中にあるプロレスが一番面白いよ」っていうことを言ってた時期でしょ。どっちにでも針を振れるもののことだよね。でも、現在真ん中にあるのは〝プロ格〟と呼ばれていて、「それはダメじゃん！」って言ってるわけでしょ。
豪　〝プロ格〟って言い出したターザンですら否定してますからね（笑）。
山口　いまは、『PRIDE』が俺にとっての真ん中であり、〝プロ格〟なんだよね。
ノブ　じゃあ、会長にとって右端、左端は何になるんですか？
山口　左端がWWFというのはいまも同じなんだけど、俺にとっての右端はパンクラスや修斗がやってるような、いわばアマチュアとしての競技化を目指すようなジャンルだよ。それが俺にとっての両極。俺が求めたいのは、突き詰めて考えると「真剣勝負を軸にしたエンターテインメント」なのね。俺の中では今の『PRIDE』だから、俺にとっての『PRIDE』こそ時代の中での〝プロ格〟だと思ってる。

昔は否定してたものが肯定出来る状況になってきましたからね（豪）

ガンツ　I編集長がよく言ってる、「プロレスの匂いがどこかにする格闘技」ですね。
豪　それは「グローブをつけたプロレス」ではないっていうね（笑）。
ガンツ　新日で猛威を振るってる人工的な「格闘技のにおい」を無理矢理つけただけのプロレスですか（笑）。
山口　昔プロレスに熱くなってた人たちは、どこかで「真剣勝負」が芯になってるというイメージがあったでしょ。だから、その時代性の中ではプロレスも「真剣勝負を軸にしたエンターテインメント」だったんだよ。
豪　しかし、こうして50号を出してる間に新日本プロレスもだいぶ変わってきちゃいましたねぇ（しみじみ）。
ノブ　I編集長曰く「このままでは新日本プロレスに40周年はない」ということでしたけど（笑）。
豪　そんな他の人のことを心配する前に、

その後のマット界の潮流を決定付けた「PRIDE.1」の髙田vsヒクソン。大きな物語となって、1年後の再戦まであっという間に時は流れていった。

『紙プロ』は今後どうなっちゃうんですか?

山口　いや、わかんねえなぁ（なぜか他人事のように）。

豪　だけどビンタディンの表紙の号での反省なのか、最近は表紙がオシャレになってきましたよね?

山口　ガハハハハ！　オシャレというかデザインでごまかしてるの（笑）。

豪　やっぱり売れないことには、中身の面白さも伝わらないですからね。表紙で笑わせるんだったら、たっぷり売ってからピンナップで笑わせてくれっていう（笑）。

山口　そりゃ今号だって、Mr.フレッドを表紙にしようと思ったら出来るよ。そんなの簡単だもん（笑）。そこらへんは、『紙プロ』本誌時代からの読者には理解してもらいたい部分だよな。

豪　本誌時代から、「デザインもインパクト最高！　これは売れるぞぉ！」っていう表紙を作ると、なぜか必ず売れ行きが悪いんですよね。破壊王が熱唱してる表紙（本誌11号）も、アントンナッツの表紙（本誌16号）も、猪木さんin北朝鮮の表紙（本誌17号）も軒並み売り上げ悪かったし（笑）。

山口　『紙プロ』本誌は、莫大な金をかけたギャグだったから（笑）。だから出版界の連中は「贅沢な遊びが出来ていいなぁ」ってよく俺に言ってたけど、そういうことばっかりしてると後に続く世代が「それでいいんだ」と思っちゃうから、もう嫌なの。自分でリスクも背負わないくせに、そういうことばっかりやろうとするから。同じことやりたいんだったら、同じくらいのリスクを背負ってやりなさいって話だよ（笑）。

豪　しかも、「本誌時代の『紙プロ』は面白かったですねぇ」って言いながら入社してくるのは、みんな精神の病を持ってたりするし（笑）。応募者も「編集長も中卒だし、ダメ社員でも許されるみたいだし、俺でも出来るんじゃないか?」って思ってるんですかねえ?

山口　でも、俺は占い師に「東大に行ける」って言われたことあるよ。

ノブ　（無視して）入ったはいいけど、いろんなスタッフが辞めていきましたよね?

豪　お前もだよ！

山口　あ〜あ、俺も早く『紙プロ』辞めたいなぁ（笑）。

豪　（さらに無視して）ところでガンツは何で『紙プロ』に入ろうと思ったの?

ガンツ　ボクは会長と吉田さんのファンではありましたからね。

豪　「ありました」って過去形かよ（笑）。

山口　ノブはたしか「バトラーツの試合を見て衝撃を受けました」って入ってきたんだよな?　……そうだ！　バトラーツも『紙プロ』の歴史にとって重要な団体だったんだよな。

多くの選手がそのクビを狙いながら、いまだ誰も達成できずにいるヒクソン狩り。新日本を離脱した長州、小川、桜庭など対戦候補者は多いが、果たして次は誰だ!?

ノブ　『紙プロ』を取り巻く環境は激変しましたよね。バトやリングスやキングダムがなくなり……。

豪　世界のプロレスやJPWAもなくなり。

ノブ　WWFが日本でも台頭し……。

豪　やっぱり、WWFにはスターがいるからね。いま、スターになりそうな選手が軒並み潰されちゃってるじゃないですか。純プロレスはスターを育てる気もないみたいだし、総合でも桜庭が負けたあたりから顕著ですよね。近藤でも美濃輪（育久）でも、誰かが飛び抜けようとすると必ず負けちゃうっていう。

ガンツ　やはり総合格闘技は、スターを育てるのが難しいですからね。

豪　桜庭なんか、43号の表紙で「サクと『PRIDE』のケツに火がついた」ってコピーをつけたら、その直後に（ヴァンダレイ・）シウバに負けちゃって、ウチの売上も激減しちゃったっていう（笑）。

山口　こっちにまで火がついちゃった。って、激減はしてねぇよ（笑）。それで思い出したけど、「サクを追い込むようなコピーを付けるからプレッシャーを与えて負けたんだ」ってある人に言われたけど、そんな気はまったくないんだよ（笑）。ただ、そうやって選手を追い込んでいくっていったら言葉は悪いけど、選手の気持ちになったら「ソッとしといてあげたいな」と思ったとしても、ソッとしておけないじゃない、俺らは。昔、コロッセオで剣闘士が殺しあっていたグラジエーターの時代に、いわゆるマッチメイクを決めていた人をエディターと呼んでいたんだって。つまり編集者でしょ。どこまでいっても俺たちはそういう業を背負ってるから。やる側の気持ちになんかなれるわけないんだから。やる側の気持ちに立った雑誌づくりはボクはしません（笑）。

豪　「闘った上で死のうが生きようが知らん！」って、I編集長も今号のインタビューで言ってましたけどね（笑）。

山口　菊田vsアレク問題の論争がネット上でも行われてるのをチラッと見たけどさ、「選手の気持ちになったらタマらない！」とかいう意見が結構あるんだよね。言いたいことはよくわかるんだけど、俺らが選手の気持ちと同化しちゃったら何も出来ないもん。興行会社だって、たとえ非難を浴びても、残酷だと思われるマッチメイクを組まないとエンターテインメントにならないからね。エンターテインメントっていうのは命がけですよ。俺らだって、命を落とすかってほど激務でしょ。読者はまったく信じないだろうけど（笑）。

ガンツ　これは一人のリングス・ファンとして言わせてもらいたいんですけど、選手にとってひどいマッチメイクほど面白いですからね！（笑）。

豪　ダハハハハ！　リングスのマッチメイクは残酷だったもんねぇ。そんな前田日明は『PRIDE』とか『DEEP』に対して、「あのマッチメイクじゃ選手が壊れちゃうよ」とか言ってたわけだけど（笑）。

ガンツ　田村は腐っちゃってたし、金原（光弘）は壊れちゃいましたからね。

山口　ホント、前田のマッチメイクは酷くて面白かったね。

ノブ　（突然）酷いといえば、会長だって十分酷いじゃないですか！

山口　は?

ノブ　今でも忘れないですけど32号！　こ

のとき会長は、表紙も作らずに失踪しちゃって、ボクが本文を70ページ近く担当したんですから。

豪　あ、それで俺が表紙のコピーをスーパーバイズしたんだ（笑）。

山口　よく覚えてるな、そんなことまで（笑）。

豪　やられた側は恨みを忘れないですよ、ボクの『Ｒｉｎｔａｍａ』事件と一緒で（笑）。

ガンツ　27号に載ったサクがホイスに勝った直後の歴史的インタビューは、会長がまとめてないんですよね（笑）。

「聞き手／山口日昇（久しぶりの失踪中）　構成／スモーノブ　本文構成／中村カタブツ君」って書いてあります。

豪　ひとつのインタビューを何人で仕上げてるんだよ（笑）。

ノブ　外科の集中治療室みたいですね。いろんな医者がオペをしてる感じで（笑）。

豪　桜庭が凄いことをやったときに、会長も別の意味で凄いことをやってたと（笑）。

山口　ま、50冊もやってりゃそんなこともあるでしょ（笑）。で、ノブ的には、最近の『紙プロ』はどうなんだよ？

ノブ　う～ん、最近は面白くなってきましたよね。

山口　最近は？　じゃあ、ちょっと前は面白くなかったの!?

ノブ　う～ん……面白くなかったですねぇ。

豪　まあ、マット界全体に熱がなかったからという部分もあるけどね。

山口　でもさ、ここ最近、考えさせられる大会が立て続けにあったじゃない？　3・1ＷＷＦ横浜アリーナ、4・28『ＰＲＩＤＥ．20』、5・3ＺＥＲＯ—ＯＮＥ松山

99年11月21日、ホイラーを破った桜庭（22号）。翌年の5月1日、サクマシンとして登場してホイスも撃破！（27号）。名勝負の後は誌面もテンションも一層高くなる！

大会、この3大会の共通点はマニアじゃない人たちが大挙して押しかけてきてたことでしょ。その人たちのつくりだす〃熱〃がいかに健康的で、いかに業界を引っ張っていくものなのか、ということを改めて認識したよ。

豪　5・2新日ドーム大会とは大違いだったわけですね。

山口　そう！　5・2の猪木さんへの歓声にしても、『ＰＲＩＤＥ』の会場に猪木さんが出て行くときとは観客の熱が全然違ったでしょ？　やっぱりプロレスの興行というのは客の熱気がつくるものだから、客の熱気を殺すようなことをするプロモーターは〃悪〃だよ！

豪　もともとドームは空間が大きすぎて熱気が生まれにくいって言われてるんだから、そこであんな演出してたらダメですよね。東京ドームでの興行は止めた方がいいですよ。

ノブ　でも、東京体育館で興行を打っても全然埋まらないじゃないですか（笑）。

山口　それを言ったら、東京武道館だって埋まらないんだから（笑）。ド素人のお客さんがプロレスに入って来れないようにしてた張本人は、じつは業界の中にいる人間でしょ？　もちろん、それは俺らも含めての部分もあるけど。その閉鎖性はよくないよね。本当に面白いことなら、どんなにマニアックなことであっても絶対届くから！　マニアックなことをマニアックな人間だけに向けてやろうとすることは、クリエイターとして敗北だよ！

豪　メジャーなところでバカやるのが一番面白いですからね。今、ボクがやってて一番楽しいのは小学館の『小学3年生』でバカやることだし。乙武（洋匡）君や右翼上がりの登山家、それに長州のガングリオンを手術した人とかを毎回インタビューしてね（笑）。

山口　ノブがさっき「つまんなかった」と言ってた時期は、専門誌として「これだけ分かってくれてる人がいるからいいや」っていう安心感の中に、『紙プロ』が無意識に浸ってたのかもしれないよね。チョロもガンツもそういうところに陥りやすい傾向があるから。

ガンツ　俺は自分が面白いと思うことしかやらないですからね（笑）。

豪　それはいいんだよ、俺もそうだから。でも、それをいかに広く伝えていくか、というのが問題でね。

山口　猪木さんじゃないけど、「むこうを向いてるヤツの首根っこを掴まえて振り向かせるか？」という問題だから。それにはやっぱり戦略が必要なんだよ。プロレス界には、あまりにも今まで戦略がなさ過ぎたもん。

豪　その戦略のなさが、こないだの新日本30周年の生中継でも炸裂してましたよね（笑）。猪木さんと蝶野が絡む放送事故みたいな映像を垂れ流してるし。

山口　プロレスが総合格闘技というものに取って代わられる危機に直面したから、ようやく頭を使い始めた空気は感じるけどね。

ノブ　頭は使ってたかもしれないけど、体がついていってなかったですよね（笑）。新日本も試行錯誤してるんでしょうけど、過渡期ならではのモンド映像でしたよ（笑）。

山口　モンド過ぎるよ！　だから7％しか視聴率が取れないんだよ（笑）。

豪　段取りのないエンターテイメントが、あんなに酷いもんだとは思いませんでした

選手にとって ひどいマッチメイクほど 面白いですからね！（ガンツ）

ね（笑）。そんな中、猪木さんの意地の張り方は最高でしたよ！　悪いことは全部他人のせいにして、良かったことは自分のおかげっていう（笑）。

山口　「成功したのはノアのおかげじゃない。満員にしたのはOH砲。OH砲を連れてきたのは俺」って、明らかに勘違いしてるもん（笑）。でも、そういうとこに俺はビンビン感じちゃうんだけどね（笑）。

豪　意地を張って欲しいんですよね、とにかく。あの大会の三沢vs蝶野には、意地の張り合いが感じられなかったと思うし。

ノブ　でも、あんな気まずい控室の中で2時間も中継した後に、三沢とシングルマッチですから、しんどかったと思いますよ。

豪　しかも、朝からマルティナ夫人と夫婦喧嘩してたらしいしね（笑）。なるべく批判はしたくないし、蝶野にはいくらでも同情できるんだけど、プロレスは同情しちゃったらおしまいでしょ。

山口　そう、ホントにプロレスは同情しちゃダメなジャンルですよ。4・28『PRIDE．20』の菊田vsアレクでも、島田レフエリーやアレクに対する批判が多くて、菊田への同情の声が多いけどさ、俺に言わせりゃあれだって「どっちもどっち」だよ（笑）。

豪　その「どっちもどっち」っぷりが最高に面白かったんですよね（笑）。ぶっちゃけた話、ボクらが間近で見てるアレクってああいう感じじゃないですか（笑）。アレクの陰湿で粘着質な部分がとか菊田の生真面目なんだけどタイミングとポイントがズレまくってるところとか、すべてが見えたっていう（笑）。あんなにお互いの素が見える試合って珍しいですよ！

山口　だから2人とも、絶対に再戦したくないと思うんだろうけどね（笑）。あと、『PRIDE．20』のときは客の熱は凄かったでしょ。俺はあの客の熱が愛しいんだよなぁ。菊田vsアレクにしても〝あおり〟によって客が熱を帯びて、内容的にはつまらない試合でも面白く見られるんだとしたら、それは重要なことだと思うね。だけど、あの客の中で2人の抗争劇を知ってるのなんて、ほんのひとかけらなんだよ（笑）。

豪　試合前に会場で流れるVTRを見て、「どうやら菊田はカードを蹴ったらしい」「アレクは怒ってるらしい」ってことがわかったぐらいでしょうからね（笑）。

山口　つまり専門誌を読んでるファン層なんて、あの日はごく少数なわけ。

豪　なのに菊田は試合後のマイクで「過去にプロレスを否定するようなことを言いましたが〜」って自分から説明しちゃうし（笑）。あんなこと言わなきゃ誰も気にしないのに！

山口　俺は「この雰囲気はどっかに似てるなぁ」と思ったんだけど、全盛期の昭和・新日本なんだよ。テレビを見て来た圧倒的多数のミーハーファンで会場が埋め尽くされて、2階席の最前列では村松友視さんみたいな客層がじーっと目を凝らして見てるような感じ（笑）。

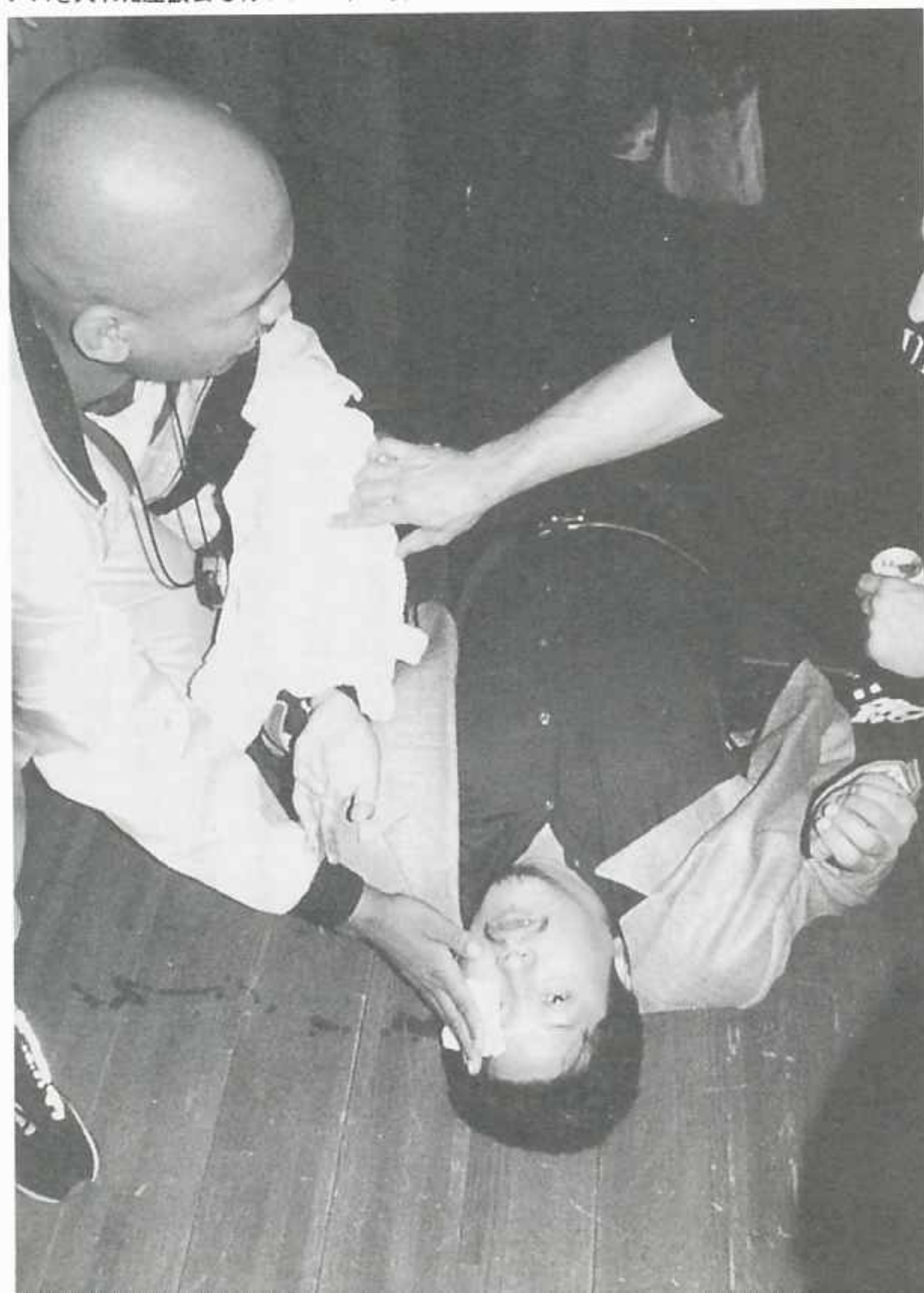
豪　雰囲気も良かったし、客を飽きさせない興行全体の流れも素晴らしかったですよね。最初に日本人の秒殺マッチで会場を暖めてから、外人同士がハイレベルな試合をやって、日本人が話題性こそあるけど醜い闘いをやって、メインは両者傷つかないドローでしょ？　総合格闘技であんなしっかりと流れがつくれてるのに、段取りをちゃんと組めるはずのプロレスがなぜボロボロなのかわかんないですよ（笑）。

山口　新日本の場合は、「プロレスはアドリブである」という蝶野のプロレス観が邪魔してるんだろうな。あと、話は変わるけど、もうリングアナって必要ないんじゃない？

豪　それは、つまりケロちゃんは不必要ってことですか？（笑）。

山口　いや、ケロちゃん個人が不要だとか言いたいわけじゃないんだよ（笑）。リングアナっていうシステムひとつ取っても考えどきは過ぎてるって話。

ノブ　WWEみたいにリ

99年11月14日、「UFC-J」の会場で安生洋二に背後から襲撃された前田は流血昏倒！　このスキャンダラスな大事件にメスを入れた座談会も行われた（22号）。

99年1月4日、新日本のドーム大会で橋本を破壊した小川。この騒乱で「暴走王」の異名をＧＥＴ！（15号）

ングサイドから声だけ聞かせるスタイルのリングアナでも十分ですよね。
山口　そうだよ、その方がスムーズじゃん。「ただいま安田選手は治療のため控え室に戻ってます！」って言われてもねぇ？　業界最大手と自他共に認めるなら。選手がどんなに頑張ってもイベントの進行が熱を遮断することもあるからね。物事を進めるに当たって一番大事なのはリズムだからね。いまの新日本にはリズムがない。
豪　せっかく蝶野体制になったんだし、『紙プロ』は新日本と和解できないんですか？
山口　う～ん、だけどいまは広報が藤波体制だしね（笑）。まあ、やっぱり新日本にはいつまでも『紙プロ』の敵であってほしいのよ。そびえ立つ巨大な壁というかさ。

やっぱり新日本にはいつまでも『紙プロ』の敵であってほしい（山口）

豪　絶対に勝てない父親のような存在でいてほしいですよね（笑）。今、背中が思いっきり小さくなっちゃってるんだけど。
山口　これは新日本に限った話じゃないけどさ、小川・桜庭以降のスターが出てこないと厳しいよね。俺はプロレスでは開放感を感じたんだよ。総合格闘技ではリアルな現実を突きつけられちゃうわけだから。
豪　リアルな現実を超えることが出来るのは、プロレスだけですよ。ホーガンが49歳でHHHみたいな若いトップ選手をガンガンなぎ倒して、チャンピオンになっちゃうわけですから（笑）。いま、新日本は中西（学）でもいいから一人スターにすべきだと思うんだけどなぁ。

"神"アントニオ猪木から、全権を任された現場責任者・蝶野だったが5・2東京ドーム大会生中継は視聴率7.1％で惨敗！　新日本はこのまま沈んでしまうのか!?

山口　そこにどれだけの説得力を持たせられるかというのは問題だよね。
ガンツ　どれだけプロレスラーという役柄になりきるかどうかですよね？　その点、こないだの全日本の後楽園ホール大会でジャイアント馬場杯6人タッグトーナメントを制した武藤なんか、「トロフィーを持って目をつぶってたら馬場さんとテーズが（天国から）降りてきて『武藤、全日本プロレスを頼んだぞ』って俺に言ってたんだよね」って（笑）。完全にリアルな現実を超えてますよ！
山口　ガハハハハ！　総合格闘技はプロレス界の中ではスター性のない人でもいきなり輝ける場所じゃない？　でも、プロレスは武藤みたいに天性のスター性を持った人じゃないと光らないよ。それを改めて最近感じるんだよね。
豪　本来、純プロレスならスーパースターを作っていけるはずじゃないですか？　WWEにしても全社を挙げて押し出すためのスーパースターを作りますよね。日本の純プロレスの弱点は、それが出来なくなったことだと思うんですよ。
山口　そうだよね。5・2を見てて、プロレスというのはスターを見に行くものだなとつくづく思ったよ。
豪　あの大会に出てきたスターって猪木さんと倍賞美津子ぐらいですからね（笑）。
山口　ガハハハハ！　でも、全体的にテンションが低かったよ。ただホントにスターを見たいと思うなら、地方大会でOH砲を1回見てみることをオススメするね！　新日ドーム大会の翌日、ZERO―ONEの松山大会に行ったんだけど、地方で

見たらあんなビッグスターはいないよ！（笑）。「ヨッ！　破壊王〜！」って声かけたくなっちゃったもん（笑）。入場では変なボーカル入りの前奏とかかけてるし（笑）。

豪　新日本にいた頃に「デコトラで入場するのが夢」って真顔で言ってましたけど、着々と夢の実現に向けて破壊王は動いてますよね（笑）。

山口　破壊王ならやりかねないよ（笑）。ああいう松山大会みたいな素晴らしい地方興行に来てるのも専門誌なんか読んでないファンばっかり。でも、それが一番健康的な姿なんだよね。

ノブ　最近では珍しいですね。

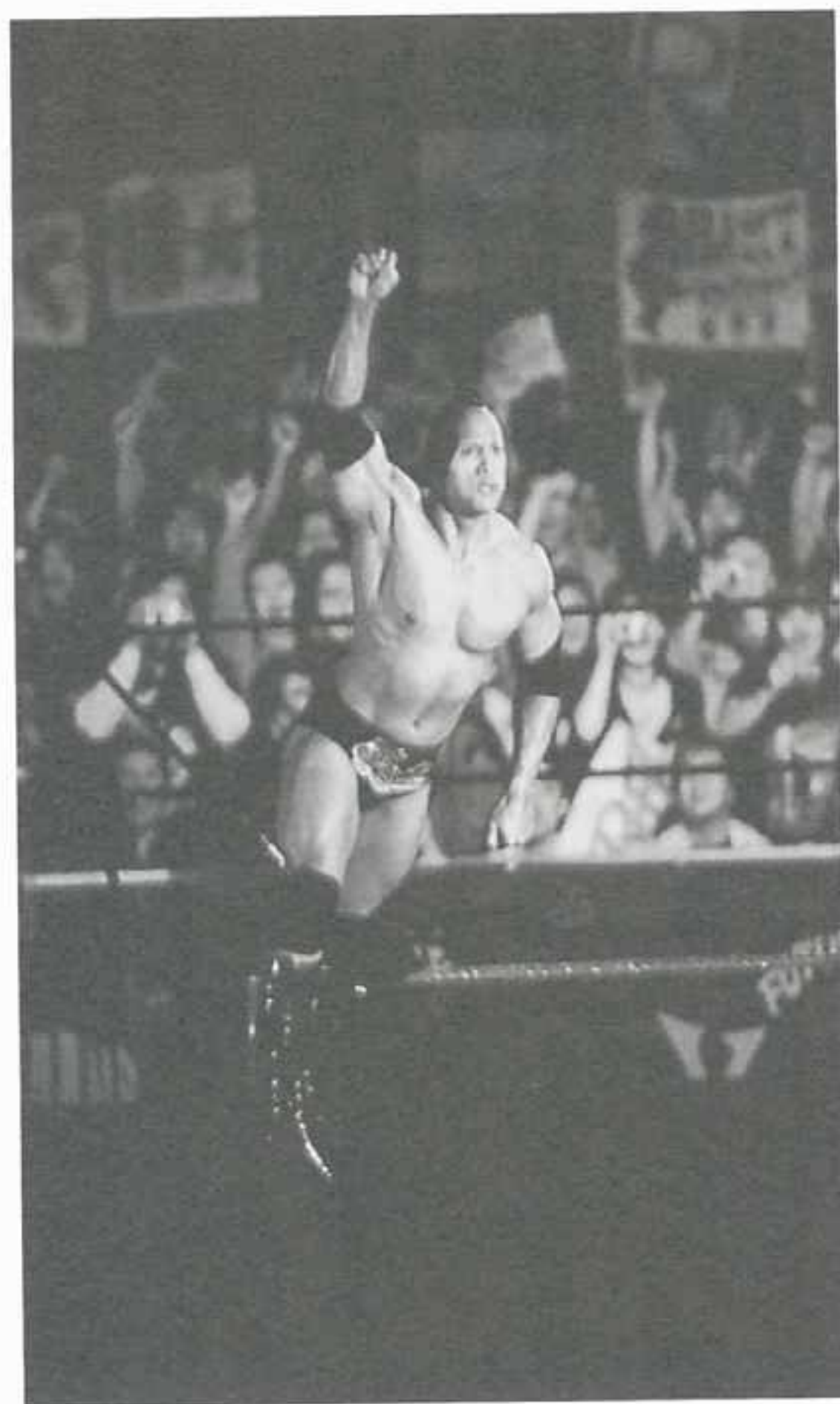
山口　逆に、5・6の『プレミアムチャレンジ』なんて専門誌を読んでるファンしかいないんだ、また（笑）。それは興行として面白い面白くない以前の問題で、不健康だよね。「『PRIDE』がメジャーになっちゃって、ボクらの居場所がない」っていうマニアの嘆きもわかるけどさ、俺は観客がほとんど素人っていう空間が大好きなんだよね。だから、今後の『紙プロ』の役割としては、WWFや『PRIDE』やZERO－ONEの会場にいたようなプロレス専門誌を読んだことがない初心者層が、『紙プロ』を読むことによって「どういうふうにプロレスを考えればいいのか?」を考えるような雑誌にしていければ……っていうと、おこがましいかな?

豪　そういうファンと共に歩んでいくわけですね、今後の『紙プロ』は（笑）。

ガンツ　昔からの読者は純プロレスとかWWFを扱い始めたことに対する不満は根強いみたいですね。

豪　あと、「女子プロはいらない」って意見は、昔から多いよね。もう、しばらく女子プロは扱ってないんだけどさ（笑）。まあ、「内容が薄くなった」っていう意見なら分からなくもないかなあ。

山口　俺は薄くなったとは思ってないけどね。単純に俺が担当してるページが少なくなったっていうことじゃない?

豪　あと、ボクのページも少なくなったってことですね（笑）。その代わり、情報とか興行のあおりページが増えた、と。

3・1WWF、4・28『PRIDE.20』、5・3ZERO-ONE松山大会の"熱"がマット界を救う！　それが5・2の新日ドームにはなかったのだ……。

山口　その情報部分は、今後はHP（現在準備中）や携帯サイトに移行させて、『紙プロ』自体は濃い内容の読み物を充実させていくから。こういう時代だからこそ、もっと活字が活きる雑誌にしたいね。いまは過渡期の終盤だから、そのうちもっと面白くなるでしょ。あと、最後にこれだけは言わせてくれ！

ノブ　何ですか?

山口　「菊田vsアレクの試合を見終わった後、こんなにプロレス記者をやってて恥ずかしいと思ったことはない」と某記者が言ったとかいう話があったでしょ。

豪　ヤ●●クですよね。

山口　俺はそういうことを平気な顔して言うヤツがいる限りは『紙プロ』をやっていくモチベーションは保てるね（キッパリ）。「プロレス」という概念と真剣に向き合ったことのないやつにそんなこと言われたら黙ってられないよ。

ノブ　ヤ●●クとの因縁も昔から続いてますよね（笑）。

ガンツ　9号の「さらばプロレスマスコミ座談会」ですね。

豪　そんなこともあったなあ。ヤ●●クが贔屓にしてる某団体について、村浜（武洋）が語った『紙プロ』のインタビューを読んで「そんなこと言うなら、おたくの団体を応援できないよ」と通告した事件に端を発した座談会だっけ?

山口　いまだに俺はヤ●●クって人としゃべったことはないから、別にその人が嫌いとかじゃなくて、その考え方はおかしいと思うだけだけどね。

ガンツ　あの一件以降、みんなが「ヤ●●ク」って呼ぶようになりましたよね。編集後記で「ヤ●●クと呼んでチョンマゲ」って一行書いただけなのに（笑）。

ノブ　会長のモチベーションを保つためにも、ヤ●●クには今後も素晴らしい原稿を書き続けて頂きたいものです（無感情に）。『紙プロ』本誌なんて22号までしか続かなかったのに、巨大化したら50号まで続いちゃったわけですからね。さあ、会長！　次は100号目指して頑張りましょうよ。

山口　もう、その頃になったら俺はあんまり関わってないと思うよ。

ノブ　会社辞めるんですか?

山口　俺は一応社長だよ！（笑）。そのころはみんながそれぞれ決断しながらやってください。俺は、他にやりたいことがいっぱいあるもん。映像、活字、ネット、『紙プロ』は早くクオリティの高い読み物雑誌に戻して、いろんなことやりたいの。作詞なんかもやりたいなぁ（いい歳して夢見がちな表情で）。

豪　マルチメディア・クリエイターですね（笑）。会長は別ジャンルに移るとすると、誰みたいになりたいんですか?　例えば、有名人でいくと糸井重里とか、そういう感じですか?

山口　はぁ?　考えたこともない（笑）。

ノブ　永六輔ですかね?

山口　ガハハハハ！　なぜいきなり永六輔が出てくる。俺は将来「咳、声、ノドに浅田飴」って言ってるの?　でもまぁ、それでいいや！

豪　物腰は柔らかいけど、とりあえず毒舌でいろんなものに噛み付いてね（笑）。作詞もやって、マルチメディアな感じだし。

ノブ　きっと、今度こそ「●●●って」って言われても対応できますよ（笑）。

山口　まぁ、確実に言えるのは「ターザンにはなりたくない」ってことだけです（笑）。

【02年5月12日／ダブルクロスにて収録】

FMW倒産、多額の借金を抱え首つり自殺……

荒井さんの″非業の死″に、マット界が考えるべきことは何か？

実に重い衝撃が走った。マット界に携わった人間が運命を狂わされ″非業の死″を遂げた。そして、移り変わり行く時代性に逆らうかのように旧態依然とした経営形態がいまだなされるプロレス界の問題が、最悪の形で浮き彫りになった。

今年2月に倒産したFMW（大仁田厚が最近名乗ったFMWとは違うもの）の元社長・荒井昌一さんが5月16日午前6時20分ごろ、東京都葛飾区の水元公園で死体で発見された。所轄の亀有署は「家族にあてた自殺をほのめかすメモがあった」とし、自殺と断定した。

荒井さんは未遂に終わったが、前日にも東京・あきるの市で自殺を図っていた。そんなこともあり、″2度目″を決行するため自殺現場となった葛飾区に向かった荒井さんの足取りは、悲痛なほど重かったことであろう。

荒井さんが社長として舵を握っていた時代のFMWの歩みも、あまりにも重かった。

一昨年、CS放送の放映が打ち切られ資金繰りが悪化。起死回生の打開策として、さらなるエンターテインメント路線の推進や、興行だけではなく健康補助食品販売などで業績の回復を図ったが、復調の兆しは見えず。そして、今年2月に2度目の不渡りを出し、3億円近い負債を抱えてFMWは倒産した。

このとき、荒井さんやFMW所属レスラーの今後の行方は当然気遣われたが、FMWの企業としての浮沈が多く語られることはなかった。

その全貌が明らかになったのは、倒産後、しばらく消息不明だった荒井さんが綴った『倒産！FMW』だった（徳間書店・刊）。4月末に敢行されたこの本には、プロレス団体を運営していく難しさが記されるのと同時に、正当な金融機関からの貸付や企業からの資金援助もままならず、ワラもを掴む思いで莫大な利子を取られる裏金融にまで手を出し、″取り立て″に追われる毎日で気が休まるヒマもない荒井さんの心情が記されていた。

かつては、新日本プロレス、全日本プロレスに続く第3の団体と称されたFMWが、裏金融に手を染めていたという、あまりにも自転車操業的な経営の実態は、他団体の経営にも不安を駆り立てるのに十分な内容となっている。

その著書のなかに「横になりたい。誰の声も聞かずに1人になりたい。少しでもいいから眠りにつきたい。いや、今ならいっそ、永遠の眠りにでもつければ」という記述もあり、自殺数日前には関係者に自殺をほのめかす封書を送っていた荒井さんは、本には「プロレスは最後の最後はハッピーエンドでなければならない」とも記していた。

「最後の最後は」というその想いは、自分の人生への願いでもあり、先行き不安なマット界の未来を憂うものでもあったのかもしれない。

長らく続く多団体時代のなか、経営不振のために金銭面で破綻するレスラー、関係者は後を絶たなかった。それを、″日常的な出来事″としてマット界全体が捉えていた節もあった。その認識は、旧態依然としたプロレス経営形態が生み出した″病魔″といってもいい。

そして、その″病魔″とは対照的に「お金にはならないけど、好きだから」という美徳的観念のもと、選手や関係者が走り続けてきたのも事実である。

しかし、その想いを胸に辿り着いた現実は、あまりにも無残だった。払った代償は、大きかった。

荒井さんの悲報を聞いた、ある関係者は「あのとき、（FMWを）諦めさせておけば……」と苦渋の面もちでその無念を語った。

ボクは荒井さんの姿どころか、FMW自体をあまり観たことがないため、想い入れからの悲しみというよりは″マット界の人間が自分で命を絶った″ということに衝撃を受けた。夢に破れ、自分の命を絶つ。なんて、凄絶な行為なんだろう……。

そんなボクが荒井さんの死を理解するには、旧態依然とした業界の体質を変えるために、荒井さんが身をもってきっかけを与えてくれたものだと無理矢理にでも思うことだ。荒井さんの死を決して無駄にしないためにも、プロレス団体の経営形態について、微力ながら『紙プロ』を通して考えていきたいと思う。

最後に、心から荒井さんのご冥福をお祈りいたします。　【ジャン斉藤】

関係者コメント

■冬木弘道WEW代表

「ハヤブサがケガでいなくなり、オレが病気でいなくなり、社長の荒井さんが死んだ。あまりに悲惨だけど、これですべてが終わったんだ。これからもり返していくしかない」

※WEWは5月27日東京・後楽園ホール大会にて、追悼セレモニーを行う予定。

■荒井さんの母・ひろみさん

「自分の選んだ道ですから、誰も止められなかったのだと思います。安らかな顔でした」

※17日に親族だけによる密葬が行われた。あまりの突然のできごとに戒名も決まっておらず、何も書かれてない位牌が置かれていた。

■金村キンタロー

「今はコメントする気にはならないんです……。FMWの人間であったことに誇りを思って、良い試合を見せていくしかないです」

※4月16日／DDT・渋谷ATOMにてコメント

帰ってきた!!

RADICAL BOUT REVIEW

紙プロ的観戦記

RADICAL創刊50号記念を祝して、「BOUT REVIEW」が帰ってきたぜ〜ッ!（写真集の宣伝にやってきたヒクソンに大騒ぎするかんじで）。かつての名物コーナーだったこの観戦記、プロレス・総合格闘技はもちろん、武道やアマチュアの大会までも、ジャンルを問わず『紙プロ』的視点で徹底レポート……はスペースの都合上無理なので、その面白さを凝縮してお届けします！　それでは皆さん、レッツ・ゴー、世露死苦！

4月27日　後楽園ホール　全日本プロレス

『2002スーパーパワーシリーズ開幕戦』

○アブドーラ・ザ・ブッチャー＆ケンドー・カシンVS愚乱・浪花＆奥村茂雄●
カシンがブッチャーイズム継承、地獄突きマスター

○荒谷信孝＆天龍源一郎VS太陽ケア＆宮本和志●
宮本の左ハイに天龍半失神、キレてケアの急所蹴り3連発

武藤が3人に増殖！　坊主にしたハヤシの根性に拍手!!

武藤と天龍の三冠王者をめぐる闘い、カシン＆渕アニキ、ケアと小島をメインとする次期三冠王者決定戦、そして川田の欠場と、物語に事欠かなかった前シリーズ。いくら6人タッグの組み合わせが相当面白いとはいえ、前シリーズほどの盛り上がりにはならないか？　と正直思っていた開幕戦。そのメインで、思いもよらぬビックサプライズが待ちうけていた！　読者は各週刊誌等でそのビジュアルは確認済みと思われるが、武藤敬司組が〝全員武藤敬司〟で登場した。思えば今時コントでも使わないような非常に簡単なアイデアだが、それをあえてやってみたことで、武藤敬司組のインパクトと結束度は、他チームをイッキに引き離した。2人は頭（ハゲ）だけでなくヒゲもコスチュームもコピー。先シリーズ中にハインズがニセ武藤となったときも話題になったが、なんと言ってもカズ・ハヤシはハインズ以上によく似ている。顔もかなり似ていたが、ハヤシはささいな仕草までコピーして完璧とも言えるほど〝ちっちゃい武藤〟となることに成功した。2人は武藤が頭をなでれば自分たちもなでるといった具合で、すっかり武藤になりきっていた。

試合は終始武藤組がペースを握りつづけた。終盤、相手チーム本間の攻撃でハインズがダメージを追うと、武藤がこっそり入れ替わってシャイニング・ウィザード。続けて息を吹き返したハインズがシャイニングを続けざまに決めてフォールした。

リーダーとして、十分にキャラの立ちすぎている武藤と、6人タッグのシリーズだからこそ、己の個性を捨ててチームの色を際立たせることに専念したハインズとハヤシ。その思いきった行動により、他チームのどこよりもこのチームは突出して輝いていた。このシリーズで武藤チームが優勝したのも、その結束力からみれば当然の出来事だったのである。　（堀江ガンツ）

『5・3DDT後楽園ホール大会「turning point」』

○佐々木貴＆一宮章一＆GENTARO＆YOSHIYAvsポイズン澤田JULIE＆チョコボール向井＆黒田哲広＆金村キンタロー●（32:48　佐々木貴、生き残り）

KO-D無差別級＆アイアンマンヘビーメタル級Wタイトルマッチ
●スーパー宇宙パワーvs高木三四郎○
（17:48真空飛び膝蹴り）
※高木が第10代KO-D無差別級王者に。アイアンマン王座初防衛に成功。

ドラマチックならどこにも負けないわよ!!

こんにちわ。DDTの萌え萌え女子マネの『昭和』子です。今日はココでDDTの魅力を語り、みんなをDDTの虜にしちゃおうと思います！　DDTはドラマチックな団体です。映像も試合も初心者にも分かりやすく入りやすいと大評判！　初プロレス観戦はDDTがお薦めヨ。ちなみにDDTは映像がいい！　アイアンマンという24時間誰の挑戦でも受けるというベルトは、1回の興行の数回の映像だけで何度も王座が移動したりしますが、その様を必死に追う映像は『昭和』子もいつも楽しみ！

そんなDDT、5月3日には後楽園ホール大会がありました。「昭和」子にとっては初の後楽園でしたがこれがまた満員御礼！「昭和」子はセミの佐々木生徒会長につき女子マネとしてブレザーの制服に身を包み颯爽とリングに登場し、金村キンタローにハリケーンラナを見舞うもお返しにパワーボムをくらいパンツ丸出しで死にました…。でも最後には会長がフォールを取って〝バキューン！〟だった様なので頑張って良かったです。メインは高木三四郎がついに宇宙パワー超えを果たし〝ファイヤー!〟。そして、DDTと言えばやっぱり『蛇界軍団』！　蛇界のポイズン澤田ジュリーはプロレス界で唯一呪文を使う恐い人です。セミでは一度に3人に呪文をかけてテンヤワンヤ。改めて呪文恐るべし！　そんな後楽園大会、朝から『昭和』子はあまりにの張り切りように、おフロで足を挫き、会場では緊張でお腹を壊し、見たこともない観客の多さに実はリングに立った時あまりのテンションの高さと感動で涙がボロボロ出てましたがマスクで誰にもバレてません。テヘ！　そんなDDT＆「昭和」子に興味を持ったアナタ！　一度生DDTで『昭和』子とDDTにハマって下さい！　ドラマチックならどこにも負けないわよ!!　（「昭和」子）

5月3日 NEO後楽園ホール大会

『NEOマシンガンズvsHJPG ホリプロ女子プロレス軍団』
2対4ハンディキャップ

○宮崎有妃&タニーマウス（14:56花一輪）
仲村由佳&米山香織&西田夏&久志麻理奈●

「世界プロレス史上初! 世界最大規模!
50→48選手参加時間差バトルロイヤル」
○田村欣子（72:22スクールボーイ）井上京子●

アニマルまりなの股間大開帳に「ぬわおぉおぅうっっっ!!!!」

♪まりなも結構アニマル（浜口）よ！　……という訳で、元チェキッ娘、元Ace Fileのアイドルタレント久志麻理奈が何をトチ狂ったのか唐突に女子プロレスラーとしてデビュー！アイドルトレカの大人買いと女子プロレス追っかけ（長嶋美智子や高橋麻由美など、クラスの中で昼休み一人で弁当を食べていそうなタイプ専門）で地味に身上をツブした平成の小原庄助（多分新日の小原の先祖）ことこの俺が、観に行かないで誰が観に行くってていうんだよ！　という明らかに間違った使命感が頭をもたげてしまったため、行ってきましたNEO5・3後楽園！しかも自腹！　大人だなぁ、俺（大人にしては行動原理が著しく大人げない点は当然無視して）。

現役アイドルのプロレスデビュー戦ということで、全国からアイドル好きの女子プロ好きという二重苦を負ったボンクラたち（もちろんその両者はかなりの確率でリンクし、当然のようにアニヲタや鉄道マニアも兼任）が大挙してやって来てしまったため、なんと後楽園ホールは超満員札止めの異常事態！　今時どこのプロレス団体もタダ券ばら撒いたって後楽園なんてそうそう埋まんねぇんだから、『まりな効果』恐るべし！

ひとたび会場の中に入ればそこは21世紀になっても未だにここだけ終着の浜辺（©亀和田武）ムード丸出し。ロビーでは三田英津子FC♥が「えっちゃんお誕生日会チケットありますよ～！」と声を嗄らして販売に勤しんでいたりと、時間の止まりっぷりが豪快でビビる。んっ!?　なんかそういえば……と、無性にえっちゃんのバースデイパーティーに出席したくなる衝動（電車がホームに入ってくるとなんか妙に線路に飛び込みたくなるのと同じ類のアレ）に駆られるが、心の中だけで（えっちゃん、おめでとう）と呟くことにして、必死で堪える。急激に芽生えはじめた自分の中の英津子LOVEがただのカン違いだったということに気がつくまでに約10分、ポカリを飲んで冷静に落ち着きを取り戻し、さぁついに始まった第1試合・・久志麻理奈（ホリエージェンシー）&西田夏（ホリプロ）&仲村由佳&米山香織vsタニー・マウス&宮崎有妃。

それまでのホリプロ女子プロレス軍団（HJPGとかなんかそんなカンジの言い辛そうな略称）とタニー&宮崎のNEOマシンガンズの抗争の歴史（といってもたった2ヶ月程度）をプロジェクターで見せた後、NEO御自慢の入場ゲート（こんなに客が入ると思ってなかったため北側座席を全部潰して設置）からまりな&夏のHJPGアイドルチーム入場！　4対2というハンディ戦の上にNEOの甲田社長を特別レフェリー（何故かHJPG贔屓）につけてかなり偏りのあるルールで試合はスタート。

甲田レフェリーは、リング中央でタニーが、まりなにガッチリ極めた逆エビを、まりなの手を強引に引っ張っていきロープブレイクさせたり、逆に西田が逆エビ極めた時にはロープに伸ばしたタニーの手を蹴り上げてカットするいにしえの阿部四郎采配で試合をベタに盛り上げる。その姿を見て「やっぱり社長になっとけば良かった」としみじみ思う俺。遅い。

片やNEOマシンガンズの攻撃もアイドル相手のそれとは思えないほどキビシく、まりなの顔面を容赦なくガンガン踏みつける！　あーっ！　日本真白化計画が志半ばで頓挫した元Ace Fileの頭の中身が今頃になって真っ白になってしまう！　その他にもお約束の場外乱闘ホール南側引きずり回しもあり（ホール南側入り口階段の真上からダイブ！　……と見せかけて「やっぱり危ないよね～」とそろそろ降りたりして）「アイドルがやるプロレス」の枠を大幅にハミ出して集まったボンクラ客ども（というか俺）を順調に狂喜乱舞させ、最後はやはり久志麻理奈も大ファンだと公言して憚らない桜庭和志の必羞恥技〝恥ずかし固め（公式発表技名は『花一輪』）〟でギブアップ。アニマルまりなの股間大開帳に詰めかけたアイドルファンから一斉に怒号とも歓喜とも発狂ともつかない『ぬわおぉおぉおぅうっっっ!!』という声が漏れたのだった。金払ってまで来て良かった～、と俺も男泣き。ありがとう、まりな！　ありがとう、なっ！

全然関係ない話だが、そういえば何故か会場に菊田早苗がいたような気が…。しかも4月7日のAce File解散コンサートの時も菊田早苗が観に来ていたとの情報が…。菊田と久志麻理奈の関係は??　もしかして菊田もただのアイドルヲタなのか??　つーことは俺と全然かわんないっつーこと??　菊田に対して急に親近感が沸いてくるのを押さえつつその辺も踏まえた上で、来月号で出来れば久志麻理奈インタビューをやる予定！　待て、次号！（勝手に決めすぎ）

（掟ポルシェ）

5月4日　後楽園ホール　AX

『AX VOL.3』

○辻結花VSジェットイズミ×
マァ☆ティンの見守る中、辻ちゃん判定勝利

○藤井恵vsSayaka×
しなしさとこの見守る中、見事なグラップリング・エキシビジョンマッチ

○星野育蒔vs岡裕美 ×
木村プロデューサーの見守る中、マァティン見事1本勝ち

『AX』において寝技30秒ルールは是か非か?

祝・女子総合の後楽園ホール進出!!　5月3日のNEO・DDT、4日夜のFMWという後楽園満員興行が続く中、違う会場かと思うほど寂しい客入りではあったにしろ、まず踏み出した1歩は賞賛すべきだろう。迷わず行けよ、行けば分かるさ。

今回、別枠の3試合のほかに、佐藤歩vs加藤悦子など、いい試合があったにもかかわらず、大会全体にダラダラした感が生まれてしまった理由のひとつは、寝技30秒ルールのせいではないかと思う。格闘エンタテイメントとして、技術面で足りないところがある選手も、キャラクターが生きていれば起用する「スマックガール」が安全・膠着防止のためにこのルールを採用しているのは分かるが、女子総合格闘技の発展を狙う「AX」がこのルールを採用している理由がわからない。30秒で極められる寝技主体の選手や打撃選手には有利だが、オールラウンドな選手には不利ではないだろうか。このルールでなければ、星野はもっと早く極めたかもしれないし、辻vsジェットは判定にはならなかったかもしれない。寝技30秒ルールでは切り返す技術を覚えなくても、カメになる&ガマンする、ですぐスタンドに戻される。それを身につけても選手にとって何のメリットもないはずだ。

今大会中、一番良かった試合は久保田有希vsドレイク森松だった。久保田の鮮やかな腕十字がドレイクにきまったときだった。ドレイク相手では正直、負けもありうるかと思っていたところに、いつもどおりのズバっと入る関節技。素晴らしい勝利だったと思う。そしてドレイクもこれを機に、さらに強くなるだろう。ドレイクはこういう試合で己の刃を研ぎつづけて欲しいが、個人的には坂口をパンチで泣かす試合などもたまにみせてほしい。

（ささきぃ）

RADICAL
BOUT REVIEW

5月6日 ディファ有明 SMACK GIRL

『GOLDEN GATE 2002』

○Lay-ho vs 松田絵美●
松田「出るからには勝ってやりますよ!」と宣言するもボコられる

○高橋洋子&中村珠美vs張替美佳&金井広美●
高橋、金井を病院送りにさせ「クラッシャー高橋」に

○坂口一美vsナナチャンチン●
ナナチャンチン史上最高の攻めを見せるも、やっぱり敗北

女版『PRIDE』対K-1、男子に負けず大爆発! アチョ~!!

今回の見どころは女版『PRIDE』対K-1とも言える、スマック連合軍対女子キック連合軍の5対5全面対抗戦。試合に先立ち、3月大会のメインでの辻結花戦をキャンセルして以来、出場を見合わせていた篠原光がリングに上がり観客そして辻サイドに謝罪し篠代表に今後のスマック参戦を直訴。休憩後には先頃、年内中での引退を表明した中山香里がマイクを持ち「フリーになって一発目の試合がReMixだったんですけどボロ負けしてしまったので、その悔しさをバネにもう一回挑戦したいと思います!」とコメント。さらに先日の修斗でクーネンに判定負けした石原がブロック(2枚重ね)割りを披露し歓声を浴びると「自分はクーネン戦は負けだとは思っていません。もう一回闘いたいです!」と、この日のスマックはアピール三昧。

注目のスマック対キックの5対5対抗戦はメインの禅道会・金子真理対女子キックのトップ選手・ウィンディ智美の一戦に持ち越された。これまでのキックの選手とは明からにレベルの違う強烈な打撃で金子に襲いかかるウィンディ。しかし金子も、顔を腫らしながらも何度か得意の寝技に持ち込むという一進一退の攻防が続きゴング。僅差の判定でウィンディの勝利が告げられ対抗戦の一発目はキック連合軍の勝利と終わった。判定が告げられた瞬間に歪んだ、金子の表情が試合内容とともに深く印象に残る試合となった。『PRIDE』対K-1もいいけど、女子の総合対キックも爆発の予感! アチョ~!! 篠代表は「6月大会には中山選手以外にも何名かの有名選手がスマックに戻って来ます!」と宣言。その後、発表されたカードを見ると……正解は藪下。

(松澤チョロ)

5月12日 板橋産文ホール 全日本プロレス

『2002スーパーパワー・シリーズ最終戦』

○武藤敬司&ジョージ・ハインズ&カズ・ハヤシvs天龍源一郎&嵐&荒谷信孝●――ちっちゃい武藤(ハヤシ)が大活躍で大勝利 三冠&アジアタッグ王者チーム破る
○ジョージ・ハインズ&武藤敬司&カズ・ハヤシVS太陽ケア&長井満也&奥村茂雄●――長井、キックをハヤシに打ち落とされる「頭がまぶしすぎたんだよ!」と長井
○嵐&天龍源一郎&荒谷信孝VSスティーブ・ウィリアムス&安生洋二&マイク・ロトンド●――安生の攻めがウィリアムスに誤爆、怒りの殺人医師が試合後爆発

向かう所敵ナシ!! カシン劇場は今日も絶好調!!

今年の2月6日、入団が正式に決まる前からフラリと全日本道場に現れ「ブッチャーと組んでアジアタッグを取るのもいい」と話していたカシン。今となってはそれが冗談だったのかどうかもわからないが、まさにその夢がかなった今シリーズは、ブッチャーイズム継承者として、地獄突きまでマスター。シリーズ最終戦のこの日は、全日本入団発表時の後楽園でいきなり腕ひしぎで極めた宮本和志&渕アニキとの対決となった。

なぜかカシンは渕と絡むことは終始拒否。試合終盤、とうとう渕につかまり"3年殺し"バックドロップから腕十字にとらえられたカシンをブッチャーが毒針エルボーでカット! 絶妙の連携をみせ、即座にカシンが腕十字を切り返して勝利を奪った。「今日の連携を見ればアジアタッグ挑戦は認めざるをえないだろう。10月21日、青森県黒石市(カシンの地元)だ」と、本当にアジアタッグに挑戦することを勝手に決定した。どうなる、アジアタッグ! 以上、早くもおなじみとなった全日本のカシン劇場のほんの一部だが、宮本・渕・ブッチャーといった相手たちのキャラクターを創り出して光らせているのは全てカシンである。この分ではアジアタッグ挑戦の日も近い。次々にテーマを考えて発信しつづけるカシンの頭の回転の早さには、本当に感心してしまう。全日入りしてからはあまりに次々と望みがかなうので「おかしいよな。これは新日本プロレスを窮地に追い込んだマッチメーク委員会が全日本プロレスで復活したな。たぶん渕と組んでいるんだな。全日本プロレスを守るためにも、マッチメーク委員会を俺は潰さなきゃ」とも語っているが、ここまで次々に面白いものを見せられると、そのマッチメーク委員会にさえ感謝したいような気持ちになる。がんばれ、カシン&マッチメーク委員会!

(ささきぃ)

5月12日 板橋産文ホール

『ORG the 2nd』

板橋産文ホールという場所――前にいつ行ったかでその人の密かなプロレス歴がばれる(私は初めて)

売店でいつも売っているカレーライス――食べたことはないけど、売っているとなんとなく笑ってしまう

△村田卓実vs小林悟郎△――投稿歴もある紙プロ読者の村田くん惜しくもドロー

道衣着用の総合格闘技、爆発の日は来るか?

道衣着用の総合格闘技・ORG。正直、私には全然面白くなかった。何がって、試合がである。ORG旗揚げ戦が良かったので、今回も大きな期待をしていただけに、ものすごく残念。新しい選手に活躍の場を提供というのは素晴らしい。自分たちの美意識を生かした映像なり演出があるというのもいい。なのに、試合でも、その他の部分D根も肝心の"衣"が生きてないのが非常に残念。グラウンドで下になった選手が、上の選手の衣を掴んでガシガシ殴り、判定決着というパターンが続出した。道衣着用という特殊ルールの大会なんだから、負けたってコレは俺の実力じゃないぞくらいの気持ちでぶつかっていってほしいのだが、無理な注文だろうか。

その中で、"美濃輪と引き分け、近藤を破った男"百瀬善規がセコンドについていた禅道会・小沢強は、佇まいからして他の選手とは明らかに違うものを感じさせた。試合は衣を掴まれた小沢が、顔面に下からのパンチを浴びまくってものすごい量の出血。最後はセコンド百瀬のタオル投入によるTKO負けとなったが、百瀬を生み出した禅道会の幻想を裏切らないインパクトある試合だった。選手がジムに所属している以上、私はそのジムだからこそ生まれる特色なり、得意技なりが見たい。どんどん対抗戦等で外に出ていって、どんどん負けて欲しい。その悔しさの中で、たとえばU-FILE CAMPなら田村抜きでも語ることの出来るほど、ジム自体の個性が打ち出されていくことを願う。その点から、ORGで行っているジム対抗戦というコンセプトには大賛成である。小沢のような選手の発見が出来るのは、こういった大会の醍醐味だと思う。禅道会を上回る道場幻想を作り上げる気概を、すべての選手に望みたい。若いんだから、ガンガン行けよ、ガンガン!!

(ささきぃ)

5月2日 テレビ朝日 19:00～

『プロレス！ 闘魂記念日衝撃の舞台裏』

○橋本＆小川vs天山＆スコット・ノートン●
※オレごと刈れ！

闘魂記念日メインイベント“闘魂象徴”
IWGPヘビー級選手権試合
○永田vs高山●
※ニー・ハイキック

RADICAL BOUT REVIEW

創立30周年記念という看板を引っ提げて、ゴールデンタイム生中継された5・2新日本プロレス東京ドーム大会。

この中継には、蝶野新体制となった「新日本プロレスの全てを全国の視聴者に問う！」というメインテーマが謳われていたが、「舞台裏に初潜入！」「プロレス史上初、舞台裏の様子も完全同時生中継！」などと、どう考えてみても爆発的ヒットとなった「ミスター高橋本」に意識アリアリなテロップも踊っていたのであった。

そういう意味では、ゴールデンタイムで新日本プロレスから「ミスター高橋本」の返答がなされるのか！……と、ちょっぴり期待していたら、それは違った意味で我々の想像を超える映像がブラウン管を通して全国に流出！

それは、あの映像を見た某プロレス誌記者が「今日ほど、プロレスの記者をやってることが恥ずかしいと思ったことはないよ」とため息混じりに言ってもおかしくない、アントン総帥と蝶野の“舞台裏中継”！

残念なことにこの中継が7.1％という低視聴率であったこともあり、御覧になられた方も少ないと思うので、ここでアントン総帥と蝶野によるあの“舞台裏中継”を完全再録を致します！　エ？　全然、観戦記になっていないって？　まあ、細けえことには拘らねえでというか。ンムフフフ！　それでは、どうぞ！

（ジャン）

【“衝撃の舞台裏”天山＆スコット・ノートンvsOH砲・編】
～アントン＆蝶野の2人がTVで試合観戦している様子が映し出される～
蝶野　（天山は）試合落としてましたけど、気持ちじゃ負けてないですよ。
猪木　ン？　ウン？
蝶野　絶対、この2人には負けたくないんですよ。橋本、小川には負けたくないんですよ！
猪木　（無視して）天山は良くなってきてるよな。なんか、もうひとつ加われば……何かっていうのは、オレにはわかるけどな。それが一個入ればな。（戸惑いながらも耳を傾ける蝶野に向かって）それよりも、お前が心を開いて、この2人をリングに上げたことの方がオレにとっては大きいなと思うよ。
蝶野　でも、もう一回上げますよ!!　潰すまで上げますよ!!
猪木　まあ、ひとつは選手であるのと、興行師であるのとでは考え方が違うから。まずは興行を成功させること。この前も最初に言ったように、いままでの蝶野じゃねえんだからというね。それはやはり、オレ達がこだわる強い思い、絶対負けないとか、これも大事だから。

【“衝撃の舞台裏”ドンフライvs安田忠夫・編】
～ドン・フライが入場中の安田を背後から急襲！　倒れ込んだ安田にさらに襲いかかるフライ～
蝶野　（控室の通路を歩きながら）オイ～ッ!!　オイ!!　ヒロさーん!?　ヒロさーん!?　ちょっとアレ（ドン・フライを）止めてくださいよ!!
～そのままCMに入る～
蝶野　（CM明け後、いつの間にかインカムをつけて吠える）次の試合行け!!　オラ!!　ドン（・フライ）、下げろ!!　オラ!!　下げさせろ、オラ!!　ドンを!!　オラ!!
猪木　………（無言でTVを見つめる）。
蝶野　会長、次のヤス（＝安田）、ケガしてますけど行かせますから!!　ケガしてますけどもう一回やらせますから！
猪木　大丈夫なの？（無表情で）。
蝶野　ええ、もうやらせます。これじゃ終わんないですから。

【“衝撃の舞台裏”チャイナ・編】
～ジョアニー・ローラー（元チャイナ）入場～
猪木　………。
蝶野　…………。（19秒間、無言でTVに見入る2人の映像が全国に流される）。
～元チャイナ、リングイン後～
猪木　………。
蝶野　……。（23秒間、再び無言でTVに見入る2人の映像が全国に流される）。

【“衝撃の舞台裏”棚橋＆健介vsスタイナー・ブラザーズ・編】
蝶野　会長、棚橋はまだ若いヤツですけど、こいつらには本当に闘魂というか、新日本の闘いというのをこれから経験させていきますから
猪木　（興味なさげに）う～ん？
蝶野　どんどんぶつけていきますからね。
猪木　旅させなきゃダメだな、もっとな（いい加減なかんじで）。

【“衝撃の舞台裏”アントン5・2東京ドーム総括・編】
アントン　まあ、力いっぱい、いい試合というか怒りを見せてくれたんでね、満足してます。

★

みなさ～ん、満足しましたかーッ!?
それでは、視聴率、ドンッ！

【1位】19・7％サッカー「日本×ホンジェラス」
【2位】15・5％「これが津軽三味線だ！」
【3位】14・4％「奇跡体験！アンビリーバボー」
【4位】14％「クイズ$ミリオネオ」
【5位】13・9％「ニュース7」
【6位】13・1％「うたばん」
【7位】8・2％「ポケットモンスター」
【8位】7・1％「新日本プロレス中継」
【9位】5・8％「TVチャンピオン“お茶特集”」

新日本、TVチャンピオンに勝つッ！

50号突破記念!! COVER

喰"「

新日本プロレス30周年記念

I編集長の『喫茶店トーク』SPECIAL

言うちゃ悪いけど こんな試合やっとったら 新日本プロレスに40周年は ないよ!

活字プロレスの鬼が新日本30周年に激言!!

井上義啓

[元「週刊ファイト」編集長]

新日本30周年となれば、もちろんこの人の話を聞かなければ! と、久々に帰ってきました、I編集長の「喫茶店トーク」。蝶野vs三沢実現、OH砲出場などの効果で満員の観客を集めながらも、視聴率では苦戦を強いられた5･2東京ドームを、I編集長が大会翌日東京ドームホテルのラウンジで、一刀両断! なんと「俺が新日本のドームに来ることもこれが最後」と、三行半を叩きつけた!

聞き手&撮影/堀江ガンツ designed by matsu〔Two three〕

——さて井上さん、久々の喫茶店トークですけれど。やはり「新日本プロレス30周年大会」となれば、井上さんに話を聞かねばならないと思ってやってきました！

井上 30周年と言うてもね、昨日のあれで言うたら、言うちゃ悪いけど、見るべき試合なんて全然ないから俺は書かんよ！

——え！ そんなことおっしゃらずに、井上さんが書かなくて誰が書くんですか！

井上 そんなもん、誰でもおるだろう。でも、俺が署名で書くような試合はひとつもないから書かんと言うとるだけですよ。だからそれはいいんだけれども、この30年間に出てきた人間への思いというのは伝えていかねばと思うわけ。やっぱり俺にしたっていろいろ思い出がありますよ。

——そうでしょうね。

井上 俺なんかは、シンの「伊勢丹事件」は現場におらんかったから知らんけど、その他のことはほとんど知っとるんだから！ 巌流島の決闘なんて昨日のことのように思い出すもんな。小舟に乗って島に渡って、それで「巌流島の決闘」って書いてある日付入りの白い帽子をもらってね。それはいまだに部屋に置いてありますよ。そういったことを思い出すだけでも意味があるんじゃないの。

——なるほどなるほど。

井上 ところがそういう場にも関わらず、出てこない人間がおるもんな！ 長州なんてのは会場におったんだろ!?

——セレモニーの直前までいろんな方と談笑していたらしいですよね。

井上 そんなもん藤波は社長なんだから、縄に括ってでもリングに引っ張りだせと言うとるんだよ！（ドンッとテーブルを叩く）

——藤波社長は「まぁ、いつものことですよ」と無責任なことを言っていたみたいですけどね（笑）。

井上 そういうことが多すぎる！ 30周年なんだから、外国人にしたってもっといろいろ呼ぶべき人間がおるだろう。

——例えばどんな方ですか？

井上 まぁ、挙げればきりはないけれど、やっぱりゴッチだけは呼んでほしかったな。

——やはりゴッチですか！

井上 そんなもんアンタ、ゴッチは第一級ですよ！ ハッキリ言って、テーズやらロビンソンやらシンなんかの比じゃないんだよ！

——いわゆる新日イズムや猪木イズムの基を作った人ですもんね。

井上 そうですよ。とにかく、ただ旗揚げに協力したとか、試合をしたとか、外人レスラーをブッキングしただけじゃないんだと！ ゴッチイズムというものが新日本を作り、現在の前田とか高田とかもみんなゴッチの生徒であって、ハッキリ言えば猪木イズム、ゴッチイズムから出てきてるんだから。もう大元なんだから！

——『PRIDE』から何から元をたどればゴッチにたどり着くと。

井上 だからそういった人はどんなことがあっても呼んで欲しかったな。どんなに金がかかってもね。やっぱりロビンソンなんかでも表彰されたから来てくれてるんだろうけど、ハッキリ言ったらね、猪木と名勝負をやった一人には違いないけど、功労者という意味では場違いですよ！

——場違い！

井上 あれは国際プロレスの人間なんだから！（キッパリ）。昨日は国際プロレスの30周年じゃないんだから！

——国際は崩壊20周年って感じですけどね（笑）。

井上 新日本30周年なんだから！ そういったことを考えるとゴッチ、長州というのは出てこなくちゃならないんですよ。それから武藤も出て来にゃいかんですよ！

——武藤の場合は招待すらされてないでしょうけどね（笑）。

井上 その辺のファンにも聞いてみたけども、みんなそう言っとるんだから！ 武藤にしたって坂口の還暦パーティーのときは来てるんだから。それがあのときにガタガタ言われたわけよ！ そんなケツの穴の小さいことを言うからああいうことになるんだよ！ ファンに聞いてみたら、「武藤は場違い」だとかそんなこと一っ言も言ってない。もう「三銃士として揃ってほしかった」って声ばっかりですよ！ だからそういったことを考えるとだね、ファンの方が進んでいて、業界がもの凄く遅れてる！

——そういう部分は確かにありますね。

井上 ファンは平成なんだよ。でも業界は昭和のまんまだよ。だからその3人が出てこなかったということがね、気にくわない一因ですよ。お互い言いたいこともあるんだろうけど、30周年なんだからガタガタ言うんじゃないよ、と。お互い「入れて下さい」「はい入れましょう」とね。それが30周年の意味ですよ。そういった気持ちが、ハッキリ言って新日本プロレスの人間にないからそういうことになるんであって。頭下げてでも「お願いします。出てください」というのが、ファンに対しても、新日本プロレスの30周年に対してもそれが礼儀ですよ！

——なるほど。

井上 俺だって言うちゃ悪いけど、何も表彰されるわけでも、記念品のひとつももらえるわけでもないけど、それでもこうやって来てるじゃないか！ これは週刊ファイトの原稿書くために来てるのと違うよ。

——え!? じゃあ、新日本プロレスの30周年を祝うためだけに来たんですか？

井上 そうですよ！ 「30周年なんだから、新しいもののひとつでも買わなイカン」ということでね、わざわざ靴なんかでも新しいのを買ってきてるんだから！

——30周年のために新調しましたか（笑）。

井上 このYシャツだって見りゃわかるだろうけど、オーダーだよ！

——わざわざオーダー！（笑）。

井上 オーダーですよ！ ここまでしてね、新日本プロレスの30周年に敬意を表してるんじゃないか！ これが30周年に対して、アントニオ猪木に対しての礼儀ですよ！

——は～、やっぱり井上さんは凄いですよ！

井上 そんなもんアンタ、俺は当たり前のことをしているだけであってね、それが欠けてる人間を俺は信用しないっていうんだよ！ 何の表彰もされない俺でもこれだけやってるんだから。このオーダーなんて「（GWの）休み明けじゃないとできません」なんて言うんだけど、それを頼み込んで（5月）1日にやっと間に合ったんだよ。そうまでして必死にやってるんじゃないか！ 何度も言うけど、それぐらいは新日本プロレス30周年に対する礼儀ですよ！ 人の道ですよ！

——「新日本の30周年」というのは、それほどのものだ、というわけですね。

井上 それを言っとるわけだよ！ ただまぁ、昨日のセレモニーにおらんかった人間も、俺なんかに言わせるとなんか貢献してるような気がすんだよな。そういった意味でマイナスの出席者、負の出席者であったと思うわけ。

——「負の出席者」ですか？

井上 その場におらんかったことで逆にいろいろ思い出すだろう。普通みなさん生活しとってもカール・ゴッチのことなんか思い出さんでしょうけど、こういった機会があると、

船木、鈴木、荒川、永源、寺西、ワカマツらが参列した30周年セレモニー。しかし、長州、前田、高田、そしてゴッチ、ハンセンら外人選手の参加がなく、しかもまだ空席が目立った4時開始だったため、やや盛り上がりに欠けてしまった。

新日本30周年なんだから、やっぱりゴッチだけは呼んでほしかったな

新日本の旗揚げにただ一人の大物外国人として参加、「新日イズム」の礎を作ったゴッチ。I編集長は47年10月10日に行われた猪木vsゴッチ戦を猪木のベストマッチとしている。

朝から晩までカール・ゴッチのことを想うわけですよ。

——いや……さすがに朝から晩までゴッチのこと想ってるのは、井上さんぐらいだと思いますけど……（笑）。

井上　そんなもん、口には出さんだけで、みんな思っとるはずですよ（断言）。

——最近は中西学が2時間だけゴッチ入門したことが話題になりましたけどね（笑）。

井上　だからそういうことが余計気に入らんわけよ！（ドンッ）。あれだけの短い期間でゴッチのあんな技なんか習得できるわけないんだから！

——そりゃそうですよね（笑）。

井上　それをね、ゴッチ直伝のジャーマン・スープレックス・ホールドだって言うなら、昨日俺なんかが見てる前で10回でも20回でもやってみいって！

——井上さんの目の前でやってみろ、と（笑）。

井上　そう、やってみぃって！　俺なんかが見て、「ああ、合格点だせる」というものなら、やってみろって言うんだよ！　こういうね、取って付けたようなものは誰も認めんからね。これがこれからの教訓になるから。それが昨日なんか見ても取って付けたことが多い！（ドンッ）

——取って付けたものだらけでしたよね（笑）。

井上　ああ！　そんなもんばっかしだろ。それでもファンをごまかせるならまだいいんだよ。でも、全然ごまかせてない！　あんなもん大笑いですよ、言うちゃ悪いけど。そういったことはね、30周年のセレモニーだから、まぁ許すとして、今日からもう一掃せなイカン！　そう言った意味では「高橋本」（ミスター高橋著『流血の魔術　最強の演技』）というのは意味があったんだよ。

——そういったものを一掃するための荒治療みたいなもんですかね。

井上　あれを出したことによってね、みんなが「変なことはできないな」となったはずなんだよな。だから「高橋本」というのは、そういったものに楔を打ち込みましたよ。

——でも、井上さんも「高橋本」についてはずいぶん批判的ではなかったですか？

井上　いや、俺は「なんで猪木の側におった人間がそういったものを書いたんだろう」という憤りはあるけれど、あれに対する批判というのはあんまりないわけなんだよ。あんなのみんな知ってることだしね。

——知ってましたか（笑）。

井上　カミソリで切ったとか、話し合ったとかみんな知っとるわけだよ！　だからそういったことに対して俺はガタガタ言っとるわけじゃない。ただ、猪木に対する思いやりがないな、と。一方的に「こうだ」と言うんじゃなくて、もう少しこういうこともあったけど、こういうこともありましたよ、と。表もあれば裏もある、プラスもあればマイナスもあるんだから。猪木にしたって二面性があってその二面性をね、しっかりプラスの面はこう、マイナスの面はこうと書かないと！　それをマイナスの面だけを捕まえてやな、猪木を語ったらいけませんよアンタ！（ドンッ）プラスとマイナスを全部ひっくるめた上で出てくるものは何かだから。だから昨日のドームなんかでも、マイナスが多かったけど、やっぱりプラスもあったからねぇ。

——どんな部分がプラスでした？

井上　例えば倍賞美津子さんあたりが出てきただとかね。あれにしたってハッキリ言って場違いではあるけ

この日、唯一にして最大のサプライズだったのが、ある意味ゴッチと並び新日本黎明、最大の功労者とも言えるアントンの前妻"ミッコ"の登場。ドームの長い花道に誰よりも映えていたその色気と大女優ぶりには改めて感心させられた。戸惑うアントンの表情も最高！

れども、だからよかったと思ってる。

——場違いだから良かったですか？

井上 うん。ああいうところにはね、美津子夫人みたいにアッケラカンと出てくるのが人の道ですよ！

——確かに往年の〝ミッコ〟らしく、非常にアッケラカンとしてましたよね（笑）。

井上 だから武藤にしてもアッケラカンと出てきたら良かったんだよ。そういう男なんだから！

——確かに（笑）。

井上 橋本にしてもあんなわけのわからん試合をさせるくらいだったら、闘魂三銃士が並んでトークショーでもやった方がよっぽどみんな喜ぶよ！

——天山＆ノートン戦はトークショーより劣りますか（笑）。

武藤も美津子夫人みたいにアッケラカンと出てきたらよかったんだよ

井上 そりゃそうだよアンタ。俺は聞きたいとは思わんけど、30周年のセレモニーだと思って、リング上で3人が揃って「ああだったなぁ」とか思い出話に花を咲かせるとか。そういうことをやったら、昨日の大会というのはもの凄く評価が上がったと思うよ。いろいろ問題はあるんだろうけど、それを乗り越えてやるのがやっぱり平成のプロレスですよ！これだけ新しいこと、デジタル・プロレスが出てきてるのに、いまだにこれだ！（吐き捨てるように）。これじゃあ、これからの新日本プロレスっていうのは怖いよ。

——新日本自体が「明るい未来が見えませ〜ん」って感じですかね（笑）。

井上 もう昨日の試合なんかでも、ハッキリと「新日本プロレスの明日からの道はこれだ！」っていうものをひとつか二つは出してみせたら良かったんだよ。だから橋本・小川の相手っていうのは天山・ノートンなんてわけのわからん相手じゃダメだと言うとるんだよ！ なんであんな二人が組んでOHとやるんだよ。わけわからんやろ。

——確かにテーマ不在のカードではありますね。

井上 だからそんなことじゃなくて、OHにはノゲイラとコールマンでも組ませて当てるのが猪木の意向じゃなかったかな、と思うわけですよ。ノゲイラなんてドームに来とったんだから！

——実現不可能なカードじゃないですよね。

井上 まぁ、テレビ局との契約のかね合いもあるんだろうけども、7時から民放であんなわけのわからない試合を何試合も流すんじゃなくてね、例えば小川＆橋本vsノゲイラ兄弟なんかがあったら、その一試合だけでみんなPPVで見ますよ！

——OH砲vsノゲイラ・ブラザースのワンマッチですか！

井上 そんなもんアンタ、4月28日の『PRIDE』のPPVにしたって、最後のミルコvsシウバだけで申し込んだ人はもの凄く多いよ！ 俺の周囲のプロレス者に聞いたら、「メインだけ。他は見んでいい」ってみんな言うとったよ、言うちゃわるいけど。だから昨日なんかでもOHの

相手に凄いのぶつけとったらね、それだけで商売になりますよ。それが昨日はわけのわからないのが多すぎる！　言うちゃ悪いけど、中西vsルッテンなんて、あんな試合するんだったらやめてくれって。安田vsドン・フライにしてもなんなんだよあれは。「新日本プロレスはダメです」って宣伝したようなもんですよ！（ドンッ）

——生放送で全国にダメさ加減を宣伝しちゃいましたか（笑）。

井上　そうですよ。『PRIDE』とかそういった新格闘技には「太刀打ちできません」っていうことを、わざわざ30周年の舞台でテレビ放映までして宣伝したようなもんですよ！

——ご苦労なことですね（笑）。

井上　もう、マスコミの控え室なんて、言うちゃ悪いけど大笑いでしたよ、みんな！

——客席も大笑いでしたからね。

井上　そりゃあ、あんなことやってたら客席もマスコミもみんな笑いますよ。シンが出てきて漫画チックなことをやったけれども、これは30周年の記念ということでいいとしても。今日からは新日本プロレスの姿勢というものをハッキリ出す！　だから永田にしたって中西にしたって、もう少しまともなプロ格マッチをしないと新日本プロレス潰れますよ！これが全日とかノアならいいんだよ。あれは水戸黄門なんだから。

——変わらないことが逆にいい、と。

井上　そう。WWFもあれでいいんだよ。3・1（横浜アリーナ）なんていうのはマスコミも切符が手に入らなかったっていうからね。そういうことを考えると新日本はもう純プロレスじゃダメなんだよ。あれに勝てっこないんだから。

——昨日なんかを見てもエンターテインメントの完成度では雲泥の差がありましたよね。

井上　だからこれからの新日本プロレスはも～う、格闘技色一色ですよ！

——え⁉　格闘技一色ですか？

井上　そう！　客が入ろうが入るまいが、ガンガンガンガンそれで行かんと。このままいったら5月2日の30周年記念興行がドームでの最後の試合だったってなりますよ！　それをね、東京ドームで40周年をやるつもりがあるなら、昨日の試合を教訓にして、ガラっと変えないと終わりますよ。そういうことをもう少しわかってないし、マスコミの論調でも出てこないっていうのが残念だね。そもそもマスコミっていうのは、俺だけじゃなくてそういうことを言わなくちゃならないんですよ！（ドンッ）

——勉強になります！（笑）。そんな中で30周年のメインイベントが蝶野vs三沢になったことについてはどう思いますか？

井上　まぁ、あれもたまたまモニターに映っとったから俺も見たけどね。

——たまたま見ましたか（笑）。

井上　まぁ、ハッキリ言って10年古いな、と。

——10年古い！

井上　10年前にやっとったらまだね。あんなね、言うちゃ悪いけど、見るところはひとつもないし、凄かった技もひとつもない（キッパリ）。

——そこまで言いますか！

井上　俺は何年か前に大阪で三沢と小橋がやったときに、ベストバウトに挙げたけれども、そういった試合だったら俺も「ワーッ」っと言うけれどね、昨日の試合なんか何にもない！（キッパリ）　パワーもなきゃ技もない。それでなんか三沢が卍固めやったりしてね。

——蝶野がかわず落としやって（笑）。

井上　そういったところを見てね、「これは〝30周年のセレモニー〟なんだな」という気がしたね。ありゃ試合じゃないな（キッパリ）。

——試合じゃなくて、セレモニーの一環ですか（笑）。

井上　あれはエキシビションであり、セレモニーですよ。美津子夫人が出てきたり、シンがサーベルくわえて出てきたのと一緒ですよ。高山（善廣）が『週刊ファイト』で「あれは試合じゃなくて首脳会談だ」と言ったけど、高山は正解。あれはリング上じゃなくてね、この喫茶店で三沢と蝶野が話をしているのと一緒ですよ。

——新日本30周年のメインは三沢と蝶野の「喫茶店トーク」だ、と（笑）。

井上　だってアンタ言うちゃ悪いけど、いくらプロレスだってね、二人共もう試合をするようなアレじゃないですよ。とっくに峠は越してるんだから！

——ああ、年齢については前々から井上さんがことあるごとに書かれてましたよね。

井上　蝶野も三沢も40近いだろ？　吉田（秀彦）にしたって、いま騒いでおるけれど、32歳なんて峠を越しとるのよ。あれがね、格闘技に行ってごらん。全然通用しない！

——通用しませんか！

井上　この間の『PRIDE』だってスペーヒーとヘンダーソンっていう業師が負けたろ。ああいうのだって歳だから負けたんだから。アレ見たらよくわかる！　スペーヒーにしたって35歳なんだから。それを考えたら32歳の吉田がこれからやろうとしたって絶対通用しない！

——では、『PRIDE』じゃなくてプロレス入りが望ましい、と。

中西があんな短期間で「ゴッチ直伝ジャーマン」と言うなら俺の前でやってみぃ！

新日本旗揚げイヤーに“実力世界一決定戦”と銘打たれ対戦した猪木とゴッチ。そこでゴッチの本家ジャーマンが爆発！　その完璧なブリッジ、そして猪木の背中にアゴをピッタリとつけた教科書どおりのフォームはまさにリングの芸術品の名に相応しい（写真・上）。下はG・馬場の巨体を伝家の宝刀バックドロップで投げ捨てるテーズ。I編集長の言うとおり、しっかりとしたブリッジで馬場を後頭部からマットに叩きつけている。

井上 そう。だから吉田は新日に入ってね、プロレスをやって、『猪木祭り』のようなチャンスがあれば格闘技に出る、と。純然たる『PRIDE』みたいなものは無理ですよ。『猪木祭り』みたいな、いわゆる「プロ格」ならともかくね、いきなり『PRIDE』に出て例えばシウバとやるなんていっても続くわけがない！ これは何も柔道マンを揶揄してるわけじゃないよ。でも柔道っていうのは（投げで）一本をとる競技だからね。シウバみたいに相手を叩き殺す闘いをしているのと違うんだから。

——投げて終わりじゃないですからね。

井上 だから猪木とルスカの試合にもそれがあったと言っとるんだよ。ルスカは投げるのは強いし、裏技もそら知ってるだろうけど、猪木やゴッチやテーズに比べたらダメだ。

——ほ〜、猪木が勝ったのは裏技の差ですか。

井上 あの連中の裏技は凄いからね。ロビンソンにしてもそうですよ。試合後はなんともなくてもね、次の日はバタンと倒れる技を持ってるんだから！

——翌日殺しですか！（笑）。

井上 そういった技を知ってるのがゴッチであり、テーズなんだよな。そういう技ができるのがレスラーなんだよ。猪木もその部類に入るんだから。猪木とルスカが10回闘ったら8回は猪木が勝ちますよ、どう考えたって。

——そこまで実力差がありますか！

井上 だってアンタ、柔道マンはバックドロップにしたって受け方知らないんだから！ この前の『PRIDE』にしても佐竹も腰から落とされて負けたろ。だからいかにね、あいったプロレスの技というのは、やり方によっては効くかということですよ。そういうことを知っているのがプロレスラーですよ、昔のね。

——あ、昔限定（笑）。

井上 永田にしても中西にしても、いまのプロレスラーは全然知らない！ だから昨日の試合なんかでも、永田はそこそこの試合をしたけれども、安田にしろ中西にしろ、やっぱりもうひとつだなぁと。古い話ばかりして申し訳ないけれど、かつて全盛時代のゴッチ、テーズ、それからインディアン酋長なんかもおったな。

——インディアン酋長！ 先日亡くなったワフー・マクダニエルですね（笑）。

井上 そういった連中の試合をじっと見てたら、これは凄いわ。もう、隙がないよ。キチーっと攻めるところは攻め、守るところは守る、凄い試合やってましたよ。猪木vsロビンソンもそうだったよ。1対1で引き分けという話にはなっとったんだろうけど、あの試合をじっーと見てると、とにかく「凄いな」と思うわな。でも、俺は47年10月10日に大阪でやった猪木vsゴッチの方が凄いと見とるんだけどな。

——それもことある毎に書いてますよね（笑）。

井上 だから猪木vsゴッチほどでないにしても、猪木vsロビンソンも最高の試合に選ばれただけあって、内容は凄いですよ。伊達や酔狂じゃぁんな試合はできない！ 猪木は全盛時代だし、ロビンソンもまだまだ力があったからやっぱり凄い試合やってますよ。だからそういった試合を現在のプロレスに残してほしいな！ 比べてみたらハッキリするんだから！ 口で言うだけじゃなくて、ビデオで見てみィっちゅうんだよ！ 俺なんかもこの前、猪木とモンスターマンの試合をもう一度見たけど。

——井上さんは、昔のビデオまで見返してるんですか⁉（笑）。

井上 原稿に書かなきゃいけないから、もう一度見ましたよ。見たらやっぱり凄いわぁ。猪木が向こうの射程距離に入ってない！ やっぱりうかつには入れないもんなんだよ、ああいった真剣勝負に近い試合になると。いつ何が出てくるかわからんから！ だからミルコに負けた永田と藤田もやっぱり1Rや2Rは様子見なきゃいけなかったね、それが始まってすぐにか〜んぜんに射程距離に入っとるんだから！

——あっという間に射程距離に入ってましたもんね（笑）。

井上 しかもミルコなんてのは左しかないんだから！（身振り手振りしながら）パンチもなけりゃ、右からの蹴りがあるわけでも、スリーパーがあるわけでもないんだから！ 左の蹴りしかないんだから！ 知らずにやってやられたならわかるけど、あれだけビデオも出ていて、俺だって知っとるんだから！

——それなのになんで当たるんだ、と（笑）。

井上 やっぱりね、往年の猪木の試合というのが活かされてない！ 猪木の試合をね、筋書きのある「いま俺らがやってるのと同じだろう」と思ったら大間違いなんだよ！

——違いますか！

井上 筋書きはあっても昔の猪木がやってた試合は、真剣勝負に近い闘いをやってましたよ。いまの投げ捨てパワーボムだのね、あんな形だけのものではダメですよ。テーズが凄かったっていうのもね、同じパワーボムでもやっぱりいかに後頭部を叩きつけるかということに徹しきったんだから！ あれは殺人技なんだから！ キミらは知らんかもしれんけど、昔の力道山時代のマットというのはもの凄く硬かったんだよ。

——らしいですね。

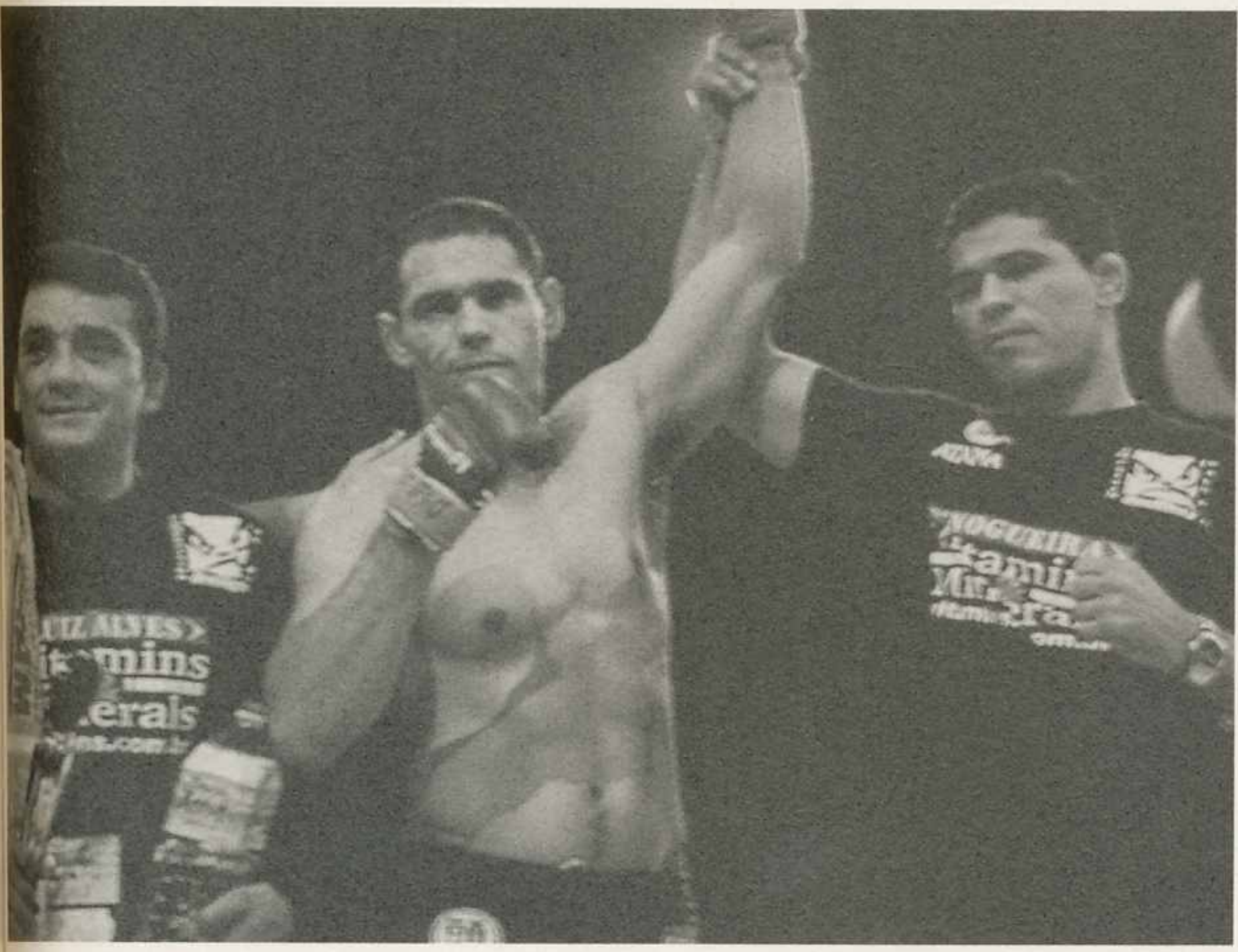
井上 あんなバウンドはしないんだから！ いつだったか俺もリングに上がったけど、今のリングはトランポリンみたいだもんな！

——跳ねちゃいましたか（笑）。

井上 こ〜んなにね、飛び上がるんだよ。天井に頭が付くんじゃないかと思いますよ。

——そんなには飛ばないと思います（笑）。

井上 こんなマットでね、投げ捨てパワーボムなんて背中からポ〜ンと落としたって、ぜ〜んぜんダメージない！ バックドロップだってそうですよ。きっちり後頭部をマットに叩きつけるためにはブリッジの力っていうのがもの凄く必要になってくる。昨日も中西がバックドロップをやっとったけど、腰が崩れちゃってる。テーズはそんなことなかった！ 鶴田なんかは、それがあったらイカンということで、もの凄く練習したんだから。だから鶴田なんかもブリッジが凄かったし、猪木あたりもブリッジの練習を何時間もやってるからできるわけ。そういうことがいまはできてない。だから形だけですぐに崩れちゃう。だからああいうこと

OH砲vsノゲイラ兄弟を純然たる真剣勝負でやる! 死のうが生きようが知らん!

ではね、やっぱり30周年をなんのためにやってきたのか、と。俺に言わせたら情けない!

——30周年を積み重ねるどころか、どんどん崩れているわけですね。

井上 だからこれを機会に、レスラーも団体関係者もマスコミもファンも一緒になって考えてね、この30年はどうだったのか、馬場はどうだったのか、猪木はどうだったのか、鶴田はどうだったのか、そこまで考えてこれからのプロレス界に活かしていかないと。昨日のような試合をやっとったんじゃ、ハッキリ言って新日本プロレスは潰れるわ!

——そこまで危機的状況ですか!

井上 そりゃそうですよ! どう考えても潰れるわ。だいたい客入らないもんな! 三沢が出てきたからまだ成り立ったけど、そうでなかったら試合にならんよ。中西と永田がやるって言われても誰が見るんだ、と。言うちゃ悪いけど。やっぱり俺がいつも言ってるように、ワンマッチのPPVができるような試合じゃないとダメなんだよ。他の試合はいらないんだよ! 興行形態としても9試合も10試合もやるという時代と違うよ。ワンマッチだけで引きつけるくらいじゃないと。小川&橋本組vsノゲイラ兄弟とかをね、も~う純然たる真剣勝負でやる! 死のうが生きようが知らん!・

——「知らん」って、そんな……(笑)。

井上 まぁ、そうなると橋本は出てこないだろうけどな(笑)。

——アハハハハ! そうでしょうね(笑)。

井上 昨日なんかでもルッテンが来とるんだから、小川にルッテンぶつけるとか、ドン・フライをぶつけるとかね。小川の格闘技マッチ、プロ格マッチができるのに、なんであんなマッチメークになるんだ、と。ルッテンと中西がやったって意味ないんだから!

——確かにあのマッチメイクは意味がなかったですね(笑)。

井上 小川vsルッテンみたいなマッチメイクだったら俺は見るよ。そういうマッチメイクじゃないから俺は見るべき試合はないと言うんだよ! (ドンッ)。『週刊ファイト』の連中が「なんか書いてください」と言ってたって、ホントの署名入りで30周年について気合いを入れて書く試合が全然ない。こんな寂しいことはないよ!

——あ~、そうですよね。ずっと書いてきた新日本プロレスが変わり果ててしまったわけですもんね。

井上 30年間必死になって新日本プロレスの原稿を書いてきた人間が書く試合がないなんて、そんなことをスタッフに言わなきゃいけないなんて、ハッキリ言って失礼ですよ!(怒)。俺が署名入りの原稿を5ページも10ページも書きたいと、そういうカードをもってこいと言うとるんだよ!

——それでこそ新日本30周年ですよね。

井上 もう、ハッキリ言って40周年は来ないよ! そりゃ来るわけない!

——井上さん、5年増えてます45周年でも危ない!(笑)。

井上 (聞かずに)俺も20周年のときは、あと30年も40年も続くだろうと思ったし、20年史の本にも原稿書きましたよ。あのときは前途洋々という感じだったからね。

——闘魂三銃士が一番良かったころですからね。

井上 それがいまは前途洋々なんて感じは全然しない! もうこれで終わりだな、と。もう東京ドームに来ることはないな、と。もしやっても少なくとも俺は来ないよ。

——寂しい話ですね。

井上 もう全部『PRIDE』とかそういうものがもっていってしまうよ。プロレスもこの間の『PRIDE・20』ぐらいのインパクトがないと! あれでも第一試合に大きなゴツいのが出てきただろ。

——ボブ・サップですね。

井上 そう、サップ! あの男の経歴見たときは俺も凄いなと思ったけど、やっぱり凄いじゃないか! その後なんか高田道場の若いのが風船なんか配ってね。

——今村ですね(笑)。

井上 相手はノゲイラの弟なんだから、ノゲイラと同等とは言わなくても技を持ってるからね。あんな風船持ってるのは1分もたないと思ったら、その通りだったんだから! そういった厳しさと迫力が『PRIDE』にはあるでしょう。K—1だって凄いしね。だからいまはこういうお手本があるんだから、しかも先輩は猪木なんだから! ハッキリ言って『PRIDE』もK—1も猪木から出てきたようなもんですよ!

——猪木さんの異種格闘技戦が現代に形を変えたものでしょうね。

井上 だから新日本プロレスがそういった方向をビシッと出していかんと! そういった方向をしっかり示すためにね、もう一度猪木が全面的に仕切るとか、それじゃなかったら、もうケロやなんかに任せるとかね。

——蝶野を飛び越えて完全に「ケロ・プロレス」に移行ですか!(笑)。

井上 ケロなんていうのは悪いところもいいところも知ってるからね。蝶野あたりはね、思い切ったことをできる頭を持っているけれどもね、やはり新日本プロレスという古い体質を引きずっていかなければならないから、いきなり「全部格闘技でいきます」なんてことはできんからね。だからどうしてもああなるんだよ。でも「どうしてもああなる、仕方がない」と言うとったら何も変わらんわ。変えたかったら、もう現在の目の前にあるものをいい悪いじゃなしに全部叩きつぶしてしまって、団体もなくしてしまう! そして新しい「新新日本プロレス」を旗揚げすればいいんだよ!

——新新日本プロレス!(笑)。

井上 いまの古い体質をそのまま残してね、改革しようとしても絶対ダ

メ、政党政治と一緒ですよ。小泉（首相）がどんなに構造改革だと言っても政党政治を残したままで改革なんて絶対できない！　新日本プロレスもそう！　ここらへんで新しい人間にガラッと変えたらいいんじゃないの。全日本プロレスだって10月の30周年大会をやったら、もう元子夫人は身を引くんだから。そうなったら「馬場プロレス」というのは、30周年大会がある10月27日で終わり、と。その後はもう「ニューオールジャパン」と社名変更しますよ。

――社名変更まで決まってますか！（笑）。

井上　団体名は「ＮＡＪ」だな。

――そんな略称まで（笑）。

井上　だから全日本プロレスもまったく新しい全日本プロレスに10月28日から変わっていかなくちゃならない！　新日本プロレスも5月3日から変わっていかなくちゃならない。もう40周年なんてことは考えないでいい！　新しい新日本プロレスをもう今日から始めるんですよ！

（ここで突如、隣のテーブルにタイガー・ジェット・シン一行が登場！）

――あれ!?　井上さん、ジェット・シンですよ！

井上　（後ろを振り返り、シンの姿を見て絶句）…………なんかやってこんだろうな。

――アハハハ！　30周年の翌日に井上さんがホテルでシンに襲われたら、大スクープですよ（笑）。

井上　そんなもんアンタ、昔は俺の顔見るたんびに襲ってきとったんだから！

――いつも襲われてましたか！（笑）。

井上　そ～うですよ！　シンは演出じゃないから！（断言）ヒンズースクワットかなんかやってる横を通りでもしたら、両手で首を絞めてきたからね！　上田（馬之助）あたりがいつもすっ飛んできたけど、それがあと一歩遅かったら俺はここにおらんかもしれん！

――命懸けの取材じゃないですか！

井上　シンというのはそういう男なんだから！　ただあの男は肩書きに弱いからな。俺なんかでも、誰かが「この人は週刊ファイトの編集長ですよ」なんて教えると態度がコロッと変わる。

――現金ですね（笑）。

井上　編集長とか社長に弱いんだな（笑）。でもまぁ、シンなんてのも新日本プロレスの歴史を考えると勲一等ですよ。ハンセンとかホーガンなんかと並んで数少ない勲一等であることは確かだわな。

――ほ～、ところが30年間の外国人ＭＶＰはスコット・ノートンが受賞しちゃいましたけどね（笑）。

井上　そんなもんアンタ、いまアンケート取ったって若い連中は知らんだろう。ちょっと前に「21世紀に残したい日本の歌」なんて投票もよくあったけど、君らは『青い山脈』も『リンゴの歌』も投票せんだろ？

――確かにしませんね（笑）。

井上　俺にいわせれば、あの2曲で決まりですよ。それどころか「21世紀に伝えたい日本の女性」が宇多田カオルだもんな！

――井上さん、宇多田ヒカルですよ（笑）。

井上　（聞かずに）宇多田カオルなんかじゃなくて、他にいくらでもおるだろう！　樋口一葉とか。

新日本30年間の外国人MVPに見事輝いたスコット・ノートン。確かにここ数年、一人で外人陣営を支えてきたことは間違いないが、ゴッチ、ハンセン、ホーガン、シン、ベイダーらと比べると……。

ノートンが外人MVP？ 俺に言わせれば 1位も2位もゴッチですよ！

――樋口一葉！（笑）。

井上　天照大神だって女なんだから！

――いくらなんでも古すぎますよ！（笑）。

井上　それと同じですよ。だから俺はノートンが新日本プロレス30年間の外人ＭＶＰだなんて信用せん！

――では、井上さんが外人ＭＶＰを選ぶと誰になりますか？

井上　そんなもんアンタ、1位も2位もゴッチですよ！

――1位も2位もゴッチ！（笑）。

井上　それだけゴッチイズムというのは、新日本プロレスにとって大きいってことなんだな！　それを忘れちゃいかんと俺は言いたいんだよ！（ドンッ）

――わかりました！　今日はどうもありがとうございました！

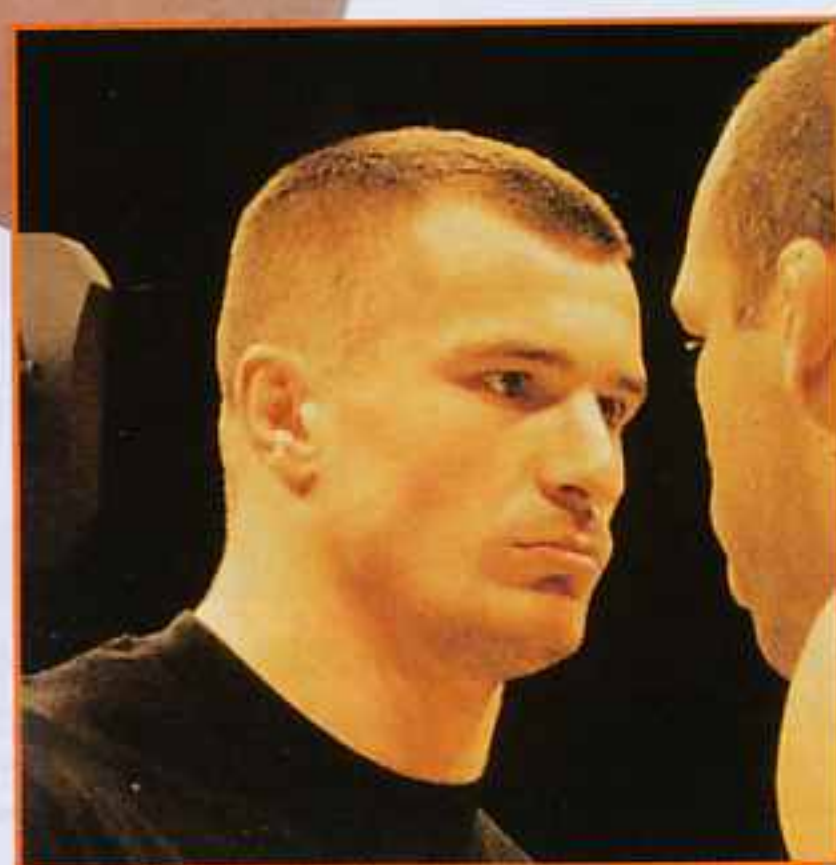
【02年5月3日／東京ドームホテル「ガーデンテラス」にて収録】

いのうえ・よしひろ■1934年岡山県出身。「週刊ファイト」の編集長を長く務めた、「活字プロレス」と呼ばれるジャンルの創始者。ターザン、GK、ケンファー佐藤等、プロレスマスコミでI編集長に影響を受けた人間は数知れない。

50号突破記念!!
COVER INTERVIEW
SAKU

「ミルコは煮るか焼くか…“生”でも喰えますかね」

どうなる!!
サクの復帰ロード!?

桜庭和志

聞き手／山口日昇
撮影／森“モーリー”鷹博
designed by さおとめの事務所

KAZUSHI SAKURABA
50号突破記念!! COVER INTERVIEW

3分無制限ラウンド、インターバルなし！という特別ルールがいいです

『紙プロRADICAL』創刊からの道のりは、この男と共に歩んできたと勝手に思っている。そういうわけで、自画自賛の50号突破記念の表紙も、当然のようにこの男が飾ることになったわけである。
ちなみに、創刊号からNO49までの読者ハガキによる「面白かった記事」最多得票1位も、ホイスを完封した直後のこの男のインタビューだった（P121参照）。
その男の名は桜庭和志！――って、妙に肩に力を入れても仕方ないが、実際、左肩にいまだ力が入らないのがサクである。
昨年、ヴァンダレイ・シウバにまさかの2連敗を喫したサクだが、2度目のシウバ戦（昨年11・3）で左肩負傷→レフェリー・ストップによる敗戦→入院・手術という悪夢まで見てしまった。
そのサクにインタビューするのは、入院中にFAXインタビューして以来、マトモに話を聞くのはシウバ戦直前のことだから、実に約半年ぶりとなる。
現在は、リハビリ→トレーニング再開→充電完了間近という状態のサクだが、はたして復帰戦は噂される夏の大舞台なのか、それとも、まさか6・23たまアリへの電撃出陣なのか？ そして当面の標的となる相手は誰なのか？
そのあたりをなんとなく探ろうと、サクに会ってきました。

――ちょっとカラダがでかくなった気がしますね。

桜庭 少～し。前は83～84キロくらいだったけど、いまは86～87キロくらいですかね。

――もしかして体重増やしてるのは、対ミルコ（・クロコップ）を視野に入れてる？

桜庭 いやぁ、自然に増えればいいかなぁって。身体が動かない期間が多かったんで、少し体重が増えたんじゃないですか。スパーリングとか頻繁にやってるとそんなに太らないですけど、ケガしてるとあんまりやれないから。でも、ゴハンの量は同じだったんで、それで少し増えた。

――非常に大雑把に聞きますけど、この半年間どうやって過ごしてましたか？（笑）。

桜庭 入院してました！

――それは去年の11月のことですよね（笑）。退院して、しばらく休養して、2月には（プロ野球の）日ハムの沖縄キャンプに同行してましたよね。

桜庭 2月の後半です。走りましたよ～。走ってスタミナを少し戻して。

――3月から練習再開って感じですか？

桜庭 軽～くグラウンドだけ練習を始めましたね。

――左肩は、ふだんも痛むんですか？

桜庭 左側を下にして寝ると痛いんですよ。

――ああ、そういう状態。でもスパーリングはやってるんですよね？

桜庭 そうですね。上半身の左側のほうに体重かけられたりすると、ちょっとキツイですけど。

――もし左腕にアームロックとかに入られたら即タップ？

桜庭 ああ～、取られたらタップですね。手首取られただけでも痛い、と思っちゃうから。

――あちゃあ。それがなくなるのはいつなんですかね？

桜庭 どうなんでしょうね。早くて1ヶ月くらいで取れると思うんですけど。な～んにも練習しなければ取れると思いますけど、練習しながらだと疲れも溜まってくるし……わからないです。

――復帰と噂されている夏もしくは秋には間に合うんですか？

桜庭 できれば、夏。それまでにできればいいかなぁと。

――まさか肩以外に悪いところはないですよね？

桜庭 肩以外？

――合併症みたいに、連鎖してあっちこっち悪いところが出てきちゃったりとか（笑）。

桜庭 どこにしておきましょう（ニコニコ）。

――なぜ、わざわざ探さないといけない（笑）。でもハタから見るとというか、見かけは万全そうですよね。

桜庭 そうですね。でもグチャグチャってスパーリングして、フラフラッとボクが下になって、左の腕を取られると……。

――怖い？

桜庭 怖いのもあるし、少し固いので、（肩が）抜けそうな感じがするんですよ。バック取って左の腕を取られたり、左に巻き込まれるのは怖いですよね。

――気持ち的にも恐怖心が身に付いちゃったら嫌ですね。

桜庭 でも、なっちゃうんじゃないですかね。

――ならないようにキッチリ治しましょう！ でも、肩の痛みを感じるたびに「クッソー、あのシウバの野郎!!」とか思わない？

桜庭 思わないですよ。

――あの試合中の"事故"さえなければっていうのは？

桜庭 アレはもう、仕方ないんじゃないです

4.28 PRIDE.20 PETIT REVIEW

3分5R 特別ルール
△ミルコ・クロコップ
（5R終了 判定なしドロー）
ヴァンダレイ・シウバ△

気迫、気骨、自信を全面に押し出したミルコの試合前の鬼気迫る表情。シウバも負けじとガンを飛ばし返す。"大勝負"にふさわしいゴング前の緊張感だった

かね。

――今日は大人だなぁ（笑）。この間、そのシウバvsミルコ戦という、桜庭さんにとっても重要な一戦がありましたけど、あの試合は第三者として見てどう感じました？

桜庭　面白かったですよ。

――3分5ラウンドというルールは？

桜庭　ちょ～っと短すぎるんじゃないですかね。3分5Rでもいいけど、インターバルなし！　でいいんじゃないですか？（ニコニコ）。

――それは15分一本勝負と言います（笑）。

桜庭「3分5R、休憩なしでお願いします」って。

――インターバルなしだったら10Rでもいいわけですよね？（笑）。

桜庭　それよりも無制限ラウンドとか。

――それは時間無制限一本勝負！（笑）。

桜庭　3分無制限ラウンド、インターバルなし！っていう特別ルールがいいです（ニコニコ）。

――判定だったらシウバだったという声が多いですけど、シウバ有利に見えました？

桜庭　う～ん、どっちもどっちじゃないですかね。

――ダハハハ。どっちもどっち。試合後に桜庭さんのテーマ曲が流れてリングに上がっていきましたよね。試合のときより緊張してませんでした？

桜庭　最初は勝った方に花束を渡してって言われてたんですよ。だから高山さんみたくジャーマンやるフリしようかと思ったんですよ。

――ああ、5・2のIWGPの本番前に、永田（裕志）選手に高山さんはジャーマンをカマしましたからね。

桜庭　ボクの場合はただ持ち上げるだけですけど（笑）。でもドローだったから、リングに上がらなくていいのかなぁと思ってたら、いきなり音楽が鳴っちゃったんですよ！　それで上がるときにマイクを渡されたんだけど「何を言えばいいんですか？」って。何もやりようがないですよ。

――「ノー・フィアー！」と叫んで思いきり関係者と大観衆を引かせてみるのもよかったかもしれない（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。

――桜庭さんはどっちに勝ってほしかったですか？

桜庭　どっちでもいいですよ。まぁ、ミルコが勝った方が面白くなるかなぁと思ってはいましたけど。

――『PRIDE対K―1』っていう戦局には興味はあるんですか？

桜庭　いや、とくに……。

――始まった（笑）。それからマイクで得意の気の抜けるコメントしたあとに、指を一本立ててましたよね。

桜庭　最後ですか？　シウバに親指を立ててたんですよ。その親指をこういこうとしたんですけどね（首を掻ききるポーズ）。やめときました（笑）。

――実に謙虚ですね（笑）。あれは「もう1回やろう」っていう意味じゃなかったの？

桜庭　いや、よくやるじゃないですか。ガイジンの人が親指立てるの。小指にしておけばよかったですかね？

――なぜだ！（笑）。

桜庭　ウヒャヒャヒャ。小指立ててたら「あれ、どういう意味だ？」ってビックリしたかもしれないなぁ。

ミルコvsシウバ戦がドローとなった後、突如テーマ曲が館内に鳴り響き、サクが花束を持ってリングに。どちらか勝った方に挑戦したかったに違いないサクは、マイクを渡されても戸惑い気味。見てみぃ、この顔！

ミルコは“伝家の宝刀”見えない左ハイで勝負を賭ける！　いつ何時でも、自分の経験とプライドと気骨をベースに闘うミルコは、まさにサムライのたたずまいがある

入場時、いつもより“泣き顔”が入ってたかのように見えたシウバだったが、K―1王者を破った日の出の勢いのミルコにも、どう猛に突っ込んでいった

——ガハハハ。小指を立てられるのは初めての経験かもしれない（笑）。

——率直に言って、やるんだったらどっちと闘いたいですか？

桜庭　どっちでもいいです。

——また。漠然とはあるでしょ？

桜庭　シウバとは2回試合してますから、そういう意味ではまだやってないミルコとか。

——おお!!　2月頃に「おいしそうだから、ミルコを釣りに行こうかな」みたいな発言してましたよね。

桜庭　あ〜れは、ボク、初めて沖縄で（日ハムの）下柳さんと釣りしたんですよね。それでたまたまそのころ週プロで連載してるコラムの取材があって。それで釣りにかけて、おいしそうだから釣ってみたいなぁと。そういう話にしただけですよ（ニコニコ）。

——もうそろそろね、サクファンはシビレを切らしてますからね。ここらヘンでガツンとやる気を見せておかないと（笑）。そう言えば言うほど桜庭さんはスカす気がするけど、でも正直言って焦りはないですか？　〝置いていかれる〟とかの。

桜庭　焦りはないですよ！　はい。試合はしたいと思います。だけど焦りはない。

——『PRIDE.20』も凄い熱だったけど、あの熱気の渦の中に早く戻りたいなぁっていう気持ちはないですか？

桜庭　リングの上よりも、裏のほうが「これやりてぇ！」っていうのがありますよね。

——は？　裏？

桜庭　入場！　下からピーッと上がっていくやつ。あれやりたい！　誰かが上がる瞬間、「ちょっと1回だけやらして」って、その選手をどけてコッソリ上がっていこうかなと思いましたからね（ニコニコ）。

——ムリーロ・ニンジャが出てくると思ったら桜庭さんが出てくる（笑）。しかし遊園地で「あれ乗りたい、これ乗りたい」ってダダこねてる小学生じゃないんだから。

桜庭　でも、あのゴンドラみたいなのは楽しそうですよぉ。

——ミルコは体重が100キロくらいありますよね。それは気にならないですか？

桜庭　気になりますよね。やるんだったら、体重を近くしてやりたい。

——桜庭さんが増やすの？（笑）。

桜庭　無理ですね（笑）。だから落としてもらって、ヘロヘロになってもらわないと。あ！　ヘロヘロっていえば今日、和田（良覚）さんとスパーリングしましたけど、疲れましたよ（笑）。

——おお、いまや夢のスパーリングですね。

桜庭　和田さん、91キロって言ってましたけど、「お、おまえの力は91キロの力じゃねぇじゃねえかァァ！　ボブ・サップくらいあるだろォォォ!!」（絶叫）って。

——ガハハハ。和田さんはガイジンをも凌駕しそうですよね、パワーが。

桜庭　チッカラ、強いですよぉ。ガイジンにスパンスパン腕相撲で勝ってますからね。その横でトヨ・サップが吠えてましたよ。

——ガハハハ。トヨ・サップこと豊永稔はなんて吠えてたんですか？

桜庭　「カラダの形じゃ負けねえぞ！」とか「見ろ、このバンプ・アップの度合いを！」とか。

——さっき見かけたけど、実にふっくらしてるように見えたけどな（笑）。

桜庭　この間、稔と飲みに行ったら、なんだかわかんないけど稔の顔が血だらけになってました（ニコニコ）。

——またか（笑）。

桜庭　記憶にあるのは、気づいたら自分の手が血でブワーッとなってて。「うわぁっ！」って思って横見たら、稔がブワーッって顔から血ィ出してて。稔は自分の血を見て「なんじゃこりゃあ！」を連発してましたよ（ニコニコ）。

大勝負の〝締め〟を任される形になってしまったサクは、「えっと、お疲れさまでした」と、超一流の気の抜けるマイクを爆発させた。ミルコ、シウバ両者に花束を渡したが、心の底では、ここでシウバにジャーマンを狙ってた？

4.28 PRID .20 PETIT REVIEW

テイクダウンを取られても、比較的あわてずガードを取り対応力の高さを見せつけるミルコ。目を見開きシウバを射る視線は、まさにクロアチアの〝静かなる闘魂〟だ

何度かテイクダウンを奪って〝バーリ・トゥーダー〟としてのチャンスをつくったシウバ。しかし、ミルコの闘争心と身体能力は簡単にはテイクダウンを許さなかった

まさにミルコの世界観を象徴するような、強烈無比な左ハイが幾度となくブチ込まれようとするが、シウバもことごとくブロックして前へ出る勇猛果敢さを見せた

入場!! 下からピーッと上がっていくやつ! あれやりたい!

——ダハハハ。

桜庭　これから稔を「優作」と呼んでください（笑）。それで稔は「なんじゃこりゃあ!」って連発しながら、「やべぇ、スイッチ入ってきた」って踊り出してました。

——なぜだ。ダンシング・フラワーじゃないんだから（笑）。

桜庭　あいつ、隙があったらブレイク・ダンスやりだすんですよ。いきなりロボット・ダンスとか。面白いッスよ〜。最近ラップを勉強してるみたいですけど。

——ガハハハ。あいも変わらず「ザ・高田道場」というか「ザ・サク&稔」ですね。

桜庭　稔は沖縄に行ってからダンスにはまったみたいですよ。沖縄のアクターズ・スクールの子供たちと一緒に交流するっていうのをやってから。ホント酔っ払うとすぐに踊るんですよ。面白いですよ〜。

——ガハハハ。今度の『PRIDE』で、ゴンドラで上がってきて、ぜひダンスを披露してもらいたいですね。

桜庭　レフェリーの紹介もそういう感じにすればいいんですよ。ゴンドラで上がって降りていく。稔のときだけ、稔が踊る。

——島田裕二もなんかやりたがりそうだな（笑）。あ、島田裕二で思い出しましたけど、菊田（早苗）対アレク（サンダー大塚）戦が、ファンの間では議論されまくってますね。

桜庭　いや、それはボクが議論する問題でもないし……あんまり、そういう渦には関わりたくない。

——試合的には面白かったですか?

桜庭　面白かったですよ。

——桜庭さんは、対日本人対決は、相変わらずやる気にはならないんですか?

桜庭　ゼ〜ンゼン、ならないです。外国人の方たちとでいいです。

——じゃあ、対ガイジン・パワーという意味でも、新顔の日本人選手がどんどん入ってくるのはいいことじゃないですか?

桜庭　（そっけなく）いいんじゃないですかね。でも、日本勢として外国の方たちとやっていくにしても、「いきなり社長になりたい」っていう感じの人も多いですからね。下っ端からいって、社長になれば下の人の気持ちもわかるけど、下積みもなしにいきなり「オレは社長だ! 社長しかやりたくない!!」って言ってるような感じだとダメなんじゃないですか。

——まだ層が薄いですからね、日本は。

桜庭　でも、大山（峻護）君とかもそろそろ復帰するんじゃないですか。今日、道場に来てましたけど。

——そろそろでしょうね。

桜庭　だから、日本人同士でゴチャゴチャやるよりも、もっとやらなきゃいけないことがあると思うんですよ。外国人選手をガーッと潰してから、日本人同士でやればいいんじゃないですか。まだいまはその時点じゃないから。日本人がやられてるし。

——確かにここのところ、日本勢が圧倒的に劣勢で、肉体的なパワーに差がありすぎる。どうやったら勝てるんですかね、日本人は。

桜庭　やっぱり練習じゃないですか。練習してもパワーとかでは外国の方には勝てないので、もっと違う動きというか、ズル賢くやらないとダメじゃないですかね。

——ミドル級でもヘビー級のパワーを持った選手がたくさんいるからなぁ、あちらには。

桜庭　握手するフリしてパッとスカすのと同じで、そうやっていかないと勝てないですからね。

——カク乱戦法! もっと頭を使わないといけないと。

桜庭　パッと組んで、「ガッ」と噛みつくとか。

——それは確実に反則です（笑）。

桜庭　だ〜って、肉体的には外国の方には勝てないですからね。食いものが違うし。ボクらが葉っぱとか納豆を食ってるときに、向こうは肉をバクバク食ってますからね!

——でも、納豆食うと頭よくなるらしいですよ（笑）。

桜庭　納豆はカラダにはいいけど、力にはならないですよ。

——そういう中でも、やっぱり“極め”を持った桜庭さんは強いですね。

桜庭　そんなことないですよ。最初は色モノだと思われてた“ランペイジ”・ジャクソンなんて、

3分5Rは2人のどう猛な闘将の決着をつけるには短すぎた。だが他流試合の緊張感は試合中、途切れることはなかったし、スタンドの熱も沸騰しっ放しだった

早く試合はしたい！　道場でやってても「ワーッ」って聞こえるのは稔の悲鳴くらいだし

日本人じゃ勝てる気しなくなってきましたよ。あのバカ力！　桜庭さんは、よくあんなのから一本取ったなぁと思って。

桜庭　ズル〜くいけばいいんですよ。倒せば立ってるときよりはパワーの差が変わってくるので。

——ランペイジひとつを比較に持ってきても、桜庭さんの極めの強さが際立ちますよね。

桜庭　でも、やつらは力ありますよね。凄いですよね、ボディスラムもそうだし、パワーボムもそうだし。

——そういう桜庭さんも何回も投げつけられましたよね（笑）。

桜庭　アレで首が筋肉痛になりましたもん（笑）。試合後に首に筋肉痛が残って。下から三角締めに行って持ち上げられたときに自分で力いれて首が筋肉痛になっちゃった。自分の頭のほうが重かったんですよ。だから、それから首の運動やるようになりましたもん。

——シュートボクセ勢も、これまた強さの種類がタチ悪いなぁと思いますよね。

桜庭　マラソンに行ったほうがいいんじゃないの？って感じの体力ありますからね。

——マラソン（笑）。ああいうシュートボクセ勢の勢いなりパワーなりを見て、桜庭さんは「あいつらとは、もうやりたくない」とはならない？

桜庭　ならないですね。

——頼もしいなぁ。でもシウバに限らずシュートボクセ勢から一本取るのって難しそうですよねぇ。

桜庭　いやぁ、そんなことはないと思いますよ。やっぱり人間なんで隙なんてどっかしらあると思うし。この間だって首が入ったし。

——ああ、去年の11・3のシウバ戦ですね。

桜庭　はい。だからどっかに隙はありますよね。隙を探せばいくらでもありますよ。それは彼だけじゃなくて、どの選手にもあると思うし。

——桜庭さんみたいに〝極め〟がある人が言うと説得力がありますよ。説得力というか、妄想や期待が広がる（笑）。ところで、あちらの人はどうやって体力つけてるんですかね。

桜庭　酒とタバコじゃないですか（ニコニコ）。

——それで体力つくのは桜庭さんの特許でしょ。やりたいことをやる本当の自然児（笑）。

桜庭　だから、向こうの人は禁酒禁煙してるんですよ。それでスタミナついてるんじゃないですか。

——最近、桜庭さんはどうなんですか？

桜庭　飲んでますよーーッ!!!!!!って、ビックリマークをたくさんつけといてください（ニコニコ）。

——飲みっぱなし吸いっぱなし（笑）。そういう部分は変えない。

桜庭　いやぁ、別に。そんなに毎日飲んでるわけじゃないし。タバコ吸う本数も多いわけじゃないし。道場ではタバコ吸うのボクだけなんで、隠れて吸ってますけどね（笑）。

——まだ隠れて吸ってんだ（笑）。桜庭さんの部屋を社長室の横とかに作ってもらえばいいじゃないですか。「隠し部屋」って貼ってある喫煙室（笑）。

桜庭　トイレみたいな部屋。

——でも、ホントそろそろ桜庭さんの出番ですよ！　残念なことに高田道場勢はヤマノリ選手も、今村選手も『PRIDE.20』ではああいう結果に終わっちゃったし。

桜庭　イマム（今村）は催眠術にかかっちゃったし、山本さんは興奮しすぎちゃったんですよ。だ〜って、試合前にユンケル2〜3本飲んだって言ってましたよ。で、終わったら「アレ飲まないほうがいいっスよ。興奮しますよ」って言ってましたから。

——ガハハハ。ヤマノリらしいなぁ。

桜庭　「ボクはいつも飲まないですけどね」って言いましたけど。

——高田道場に限らず、日本勢の巻き返しに期待したいですよ。ワールドカップの時期でもあるし（笑）。

桜庭　でも、そんなに差はないんじゃないですか。やり方ですよ。真正面から来たらやられるから。こう、スカしてズル賢くやれば当たると思いますけど

4.28 PRIDE.20 PETIT REVIEW

○ボブ・サップ
（1R2分44秒　右アッパー→レフェリーストップ）
山本憲尚●

"暗黒大魔人"サップは205センチ、160キロ。K-1軍というのを忘れさせる人間離れキャラだ！　日本人の中でもたいがいでかいヤマノリが、まるで小さく見える

果敢に真っ正面からパンチで打ち合いに出るヤマノリは、必殺"多摩川低空アッパー"を出すまでもなく、サップの脅威のパワーの前に吹っ飛ばされてしまう

サップにはスキがあるものの、いかんせん60キロも重いサップのパワーを真正面から受けてしまっては、さすがのヤマノリもひとたまりもなかった！

ね。殴られたから殴り返すっていうんじゃ、向こうのほうが圧倒的に体力ありますからね。パワーもあるし。

――「日本人よ、ズル賢くなれ」（笑）。

桜庭　あ！　それに、日本には和田さんっていう秘密兵器がいるからダイジョブですよ！

――和田さんの日本人離れしたパワーだけが頼り（笑）。

桜庭　和田さんは、昔の顔といまの顔と全然違うじゃないですか（笑）。あとトヨ・サップがいるじゃないですか！

――ガハハハ！　出た。

桜庭　トヨ・サップにレフェリーやってもらって、カーンと始まったら、「昨日焼肉おごってもらったんで、こっちの勝ち！」とか面白いじゃないですか。そうしたら日本人もバンバン勝てますよ！　そういう偏った感情的なレフェリングを見たいですね、ボクは（ニコニコ）。昔の阿部四郎みたいな。

――ダハハハ。それはともかく、自分が出てないリングを見てるとイライラしてきませんか？

桜庭　早く試合はしたいと思いますよ！

――練習と実際の試合では、苦しさや面白さの質が違うでしょうからね。

桜庭　はい。緊張感も違うし、練習でやってることを100%出せるとは限らないし。歓声にしても「ワーッ」っていう気持ちの出方が違う。「ガーッ」てくると高揚感ありますしね。道場でやっても「ワーッ」って聞こえるのは、稔の悲鳴くらいですよ。「痛ェー」って。

――早くゴンドラも乗りたいし（笑）。桜庭さんが次に出るときは、ゴンドラなかったりして。

桜庭　ドリステさんに頼みますよぉ！「作ってくれ！　どうしてもお願いします！」って。

――な〜んか、試合してないストレスがだいぶ溜まってる気がしますね（笑）。まぁ、ケガのこともあるだろうけど。

桜庭　ああ、そういうのはありますよ。ありますけど……もう1回入院したいなって。

――は!?

桜庭　もう1回手術しようかな。「もっとよくしてくれ！」って。もういっかい手術してもらったら、もっとよくなるような気が……。

――しないしない（笑）。

桜庭　入院生活はいいですよぉ。な〜んにもしなくてもいいですからね。なんせご飯食べてゲームしての繰り返しですからね。

――それも飽きるでしょ（笑）。

桜庭　そんなでもないですよ。ゲームとかをずっとやってるわけじゃないんで。体温を測りにきたりとか、間にいろいろ入ってくるんで。「あ〜、もうちょっとゲームやりたかった」ってなりますよ。

――相変わらず気が抜けるなぁ（笑）。

桜庭　ヒャハハハ。

――何かないんですか？「ミルコをぶっ倒す」とか「やっぱりシウバは痛い目にあわせないと気が済まない」とか。

桜庭　最終的にはありますけどね。いまのところは肩もちゃんと治ってないので、次の試合のことはあんまり考えてないです。

――この間ヒクソン（・グレイシー）が来日しましたよね。「今年中に日本で1試合やる」みたいなことを言ってましたけど、もはや桜庭さんのなかでは、ヒクソンというのは遠い過去の話ですか？

桜庭　そういう話になればわからないですけど、いまのところ、まったくなんにもないですからね。

――そういえば前回の桜庭さんのインタビューが一部マニアの間では波紋を呼んだんですよ。

桜庭　なんですか？

――「元プロレスラーですから」っていうなにげない発言が、「あの〝元〟っていうのがいまの桜庭のポジションを物語ってる」みたいな感じで言われてましたね（笑）。

桜庭　いや、それはボクが言ってるわけじゃなくて、周りが言ってることですからね。

――周りが言ってるんだ（笑）。

桜庭　そういう意味ですよ。レスリングでご飯食べてるから〝プロレスラー〟って思ってやってるんですけど、「格闘家」とか「プロレスやってないのにプロレスラーって言ってる」とかいろいろ言われるんで、面倒臭いからどっちでもいいやって。

――いつ何時でも、どっちでもいい人だな。一見どっちつかずに見えるけど、そういうところが「ドンと来い」という感じで、実に頼もしく見えるから不思議ですね（笑）。

『PRIDE.20』では高田延彦総帥、小池栄子と共に解説席に座ったサク。リングサイドではなく、リング上で笑うサクを見れるのはいつになるのか？　サクが笑えば、世界が笑う！　復帰の時期は意外と早いかもしれない

○クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソン
（1R7分07秒　暴走式ジャーマン→KO）
佐竹雅昭●

まさに背水の陣で挑んだ佐竹だったが、最初は色モノ的に見られていた〝暴走ホームレス〟の驚異の成長ぶり＆パワーに、まったくペースが掴めなかった

怪獣王子までが、暴走ボディスラムで叩きつけられ、最後は暴走式ジャーマンを食らってしまった。佐竹は背骨骨折、顔面骨折など全治3ヶ月。まさに破壊されてしまった!!

サクには敗れたものの、アレク、石川雄規を粉砕し、松井大二郎には強烈無比な金的ヒザを浴びせたジャクソン。そのパワー＆突進力はまったく恐るべしだ

でも「シウバに100倍にして返してやる」っていうのはありますよ！

桜庭　勝手に周りの人が言ってるから……まぁ、そういう難しい話はわかんないです。職業は何かって聞かれたら「職業はプロレスラー」って言いますしね。
—それは抵抗ないんですか。
桜庭　はい。「インストラクター」とも言うし（ニコニコ）。
—まぁ、どっちでもいいと思いますよ、ボクも（笑）。今後、『ＰＲＩＤＥ』のなかで目標はないんですか？
桜庭　試合に勝ちたいですね。
—ミドル級のベルトも興味ないですよね？
桜庭　ないです。
—グランプリがあったとしたら、そこで優勝するとかの目標もないんですよね。
桜庭　ないです。
—あ、サク・ベルトをシウバに持っていかれたまんまですよ！
桜庭　あ〜れはいくらでも作れますよぉ。それに、もう1個ありますもん。カッコいいほうが残ってますから。
—もう、なんか照準決めましょうよ！　ウソでもいいから（笑）。でも〝プロレスラー・キラー〟って呼ばれてるミルコは、髙田さんとの引き分けを挟んで、藤田（和之）、永田に勝って、Ｋ—１ルールでは柳澤（龍志）さらにマーク・ハントに勝った。それでシウバともやった。去年の夏から急速にグンとのし上がってきてる。率直に言って、これを食うのはおいしいんじゃないですか。
桜庭　う〜ん、塩・コショウをするとか、煮るか焼くかのどっちかじゃないですか。生だとアタっちゃいますから（ニコニコ）。
—活きがいいうちだったら生でもアタらないですよ（笑）。
桜庭　じゃあ、生でもいけますかね。
—ぜひミルコを生で食べてください（笑）。
桜庭　でもなぁ、生だと飽きるんですよ。
—ズコッ。確かに刺身は何枚も食ってると飽きますけどね（笑）。じゃあ逆にシウバは生で食べ飽きて、何かまた違う味つけを思いついたら食べてみたいっていう感じですかね。
桜庭　そうですね。でも、「シウバに絶対に返してやる」っていうのはありますよ。１００倍くらいにして返してやる！
—おお、よかった。っていうか、それを先に言ってください（笑）。では、シビレを切らしつつあるファンに最後にひと言お願いします。
桜庭　（突然大声で）「最強・和田！　待ってろ！　和田良覚!!」……あんまり面白くねぇな（ブツブツ）。なんか面白いこと言ったほうがいいですか？
—無理しないでいいです（笑）。
桜庭　ああ〜、なんか言いたいなぁ。
—ということで、ゲストは50号記念の表紙を飾ってくれた桜庭和志選手でした〜。早くリングで笑ってください。
桜庭　「最強・和田！　おまえのバイクを叩き壊してやる！」（ブツブツ）。

【5月13日／髙田道場にて収録】

『紙プロ』が50号を迎えたというのに、サクはまったくいつものサクだった（当たり前だ）。しかし、サク本人は「焦りはない」というものの、大きな魚を釣るために、大きな釣り針を用意していて、それをまだ見せられないジレったさみたいなものが隠れているようにも見えた。
サクが釣ろうとしている大きな魚はミルコなのか？　そしてそれは噂される真夏の大舞台なのか？　まさか6・23にひょっこりと釣り場に現れることもあるのか？
いずれにしろ、サク復帰はごくごく近い将来だ。「待ってますよーッッ!!!!!!」

Brazilian Top Team
SPECIAL INTERVIEW

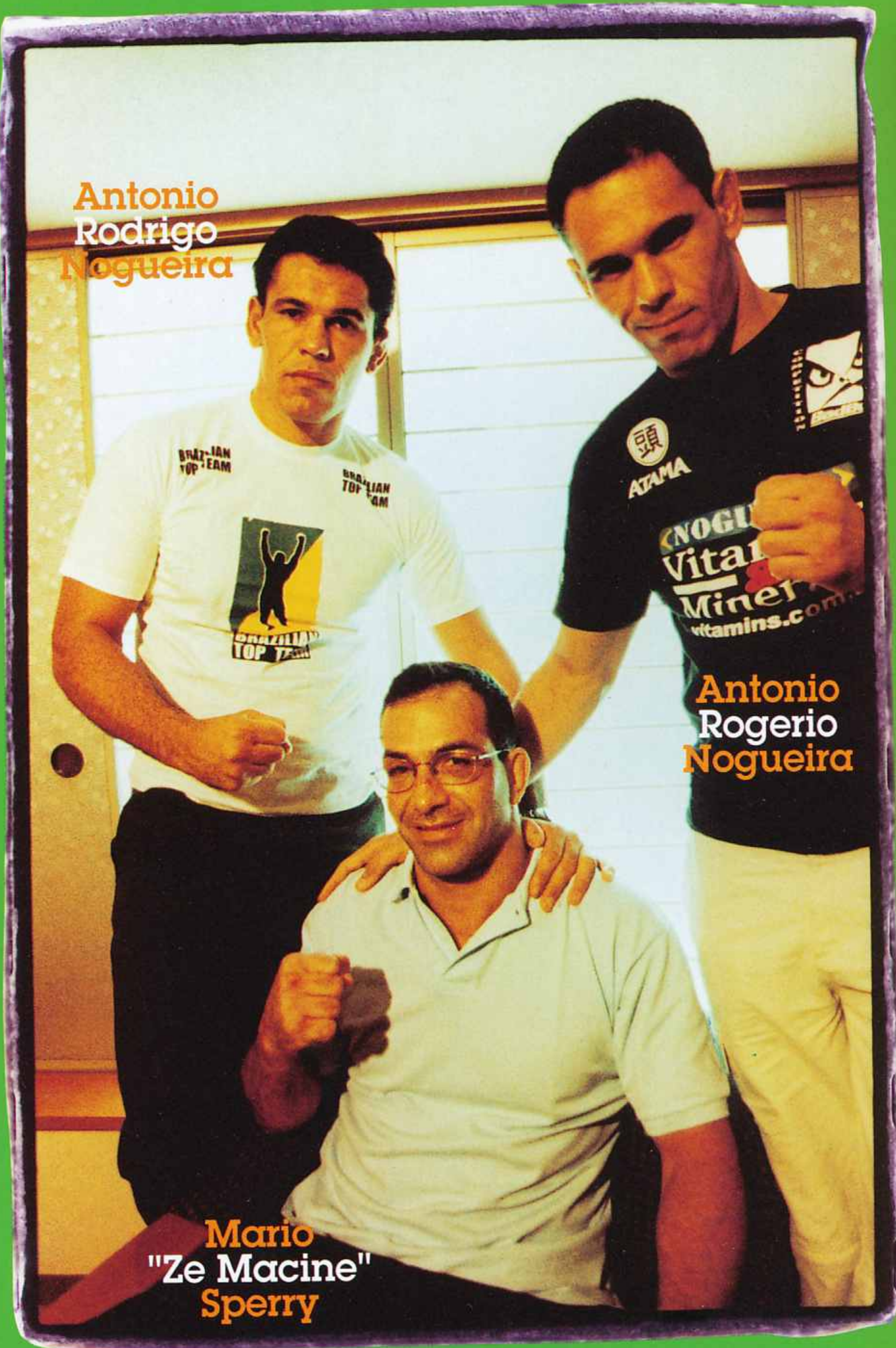
ノゲイラの双子の弟
ホジェリオ・ノゲイラ
4・28横浜アリーナで
秒殺PRIDEデビュー!

Antonio Rodrigo Nogueira

Antonio Rogerio Nogueira

Mario "Ze Macine" Sperry

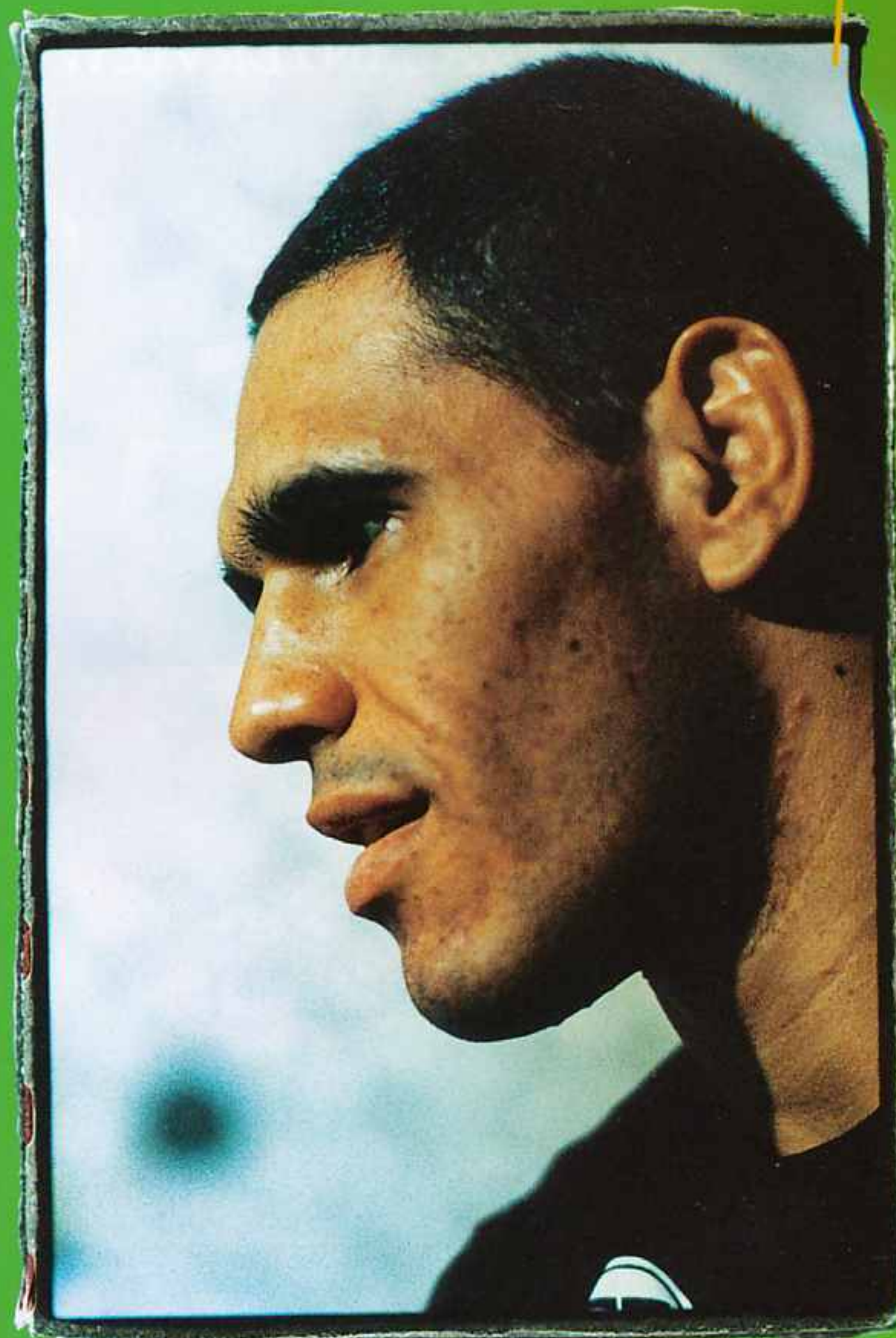
この夏、『PRIDE』はもちろん、K−1、UFO、そして新日本プロレスと、襲撃三昧が噂されるBTT。その対戦相手をまったく選ばない姿勢は、まさに「いつ何時誰の挑戦でも受ける」猪木イズムだ。はたして彼らの次なる標的は誰か!? 4・28『PRIDE・20』の翌日、ノゲイラ兄弟&マリオ・スペーヒーを直撃してみた。

聞き手/堀江ガンツ
撮影/菊池茂夫
designed by さおとめの事務所

いつ何時、誰の挑戦でも受けながら襲撃三昧する男たち

BTTこそが、猪木軍とUFOの理想形か!?

Antonio Rodrigo Nogueira
Antonio Rogerio Nogueira
Mario "Ze Macine" Sperry

Brazilian Top Team

ブラジリアン・トップチーム

—さて、昨日の『PRIDE・20』では、ホジェリオ選手の『PRIDE』デビューや、マリオ・スペーヒー選手の試合がありましたが、そのお話を聞く前にまず、ホドリゴ選手と小池栄子さんとの関係がどうなっているのかを追求させていただきます！（笑）。

ホドリゴ ワハハハハハ！

—笑ってごまかさないで下さい！ 日本の男性はみんな心配してるんですから（笑）。

ホドリゴ いやあ、残念ながら今回はちょっと話しただけで、それ以外のコンタクトはまったくないから心配いらないよ（笑）。

—「一緒にビーチリゾートへ行こう」と誘ったという、聞き捨てならない噂も耳にしたんですけど（笑）。

ホドリゴ （照れながら）ワハハハ！ その件については、「エイコはかなり忙しそうだった」とだけ言っておくよ（笑）。

—あやしいですねぇ（笑）。

マリオ 実を言うとミノタウロは今回、エイコに花を贈ったんだよ（笑）。

—え!? いつの間に！

ホドリゴ 日本の有名なテレビ番組（『笑っていいとも』）にエイコが出ると聞いたんで、花を贈らせてもらったんだよ（テレ笑い）。

—やりますねえ。ホドリゴ選手は結構マメなタイプなんですか？（笑）。

ホドリゴ 男女の関係がわかっていれば、それくらいは当たり前さ（笑）。

—そうですか（笑）。では、そろそろ本題に入って昨日の試合（4・28『PRIDE・20』）を振り返ってもらいたいんですけど。まず『PRIDE』デビュー戦を秒殺勝利で飾ったホジェリオ選手から感想を聞かせてください！

ホジェリオ まず、夢であった『PRIDE』のリングに立てて凄く嬉しいよ。試合も自分の予想した通りの展開になったからね。

—あの35秒殺を予想してたんですか？

ホジェリオ さすがにあんなの早く終わると思わなかったけど（笑）。十分練習をしてきたかいがあったよ。

ホドリゴ ホジェリオは『PRIDE』デビューに備えて、道場でどんな局面でも対応できる練習をしてきたんだよ。でも、その成果が出る前に試合が終わってしまったね（笑）。

—ホジェリオ選手があまりにも強かったんで、「実際はホドリゴが闘っていたんじゃないか？」という説まで出てました（笑）。

実は試合前にこっそり兄貴と入れかわっていたんだよ（笑）

ホジェリオ 実はこっそり兄貴と入れ替わっていたんだよ（笑）。というのは冗談だけど、実はどっちが自分かわからないように、サクラバみたいにマスクを被って入場するプランがあったんだよ（笑）。

—ノゲイラ兄弟がマスク姿で入場ですか！

ホドリゴ でもマスクを被らなくても同じ顔だからって、却下になったんだ（笑）。

—アハハハ！ そりゃそうだ（笑）。対戦相手の今村選手の印象はいかがですか？

ホジェリオ う～ん、あまりに早く終わってしまったんで……何とも言えないなぁ。

—でも、今村選手はなぜか「ノゲイラってこんなもんか」ってコメントしてたんですよ（笑）。

ホジェリオ ふ～ん。イマムラがそういうのも仕方がないよ。さすがにあれだけの短時間では、自分の力の何十分の一しか見せられないからね（笑）。

—35秒では「こんなもん」しか見せられない、と（笑）。

ホジェリオ ホントはもっといろんなテクニックを見せたかったんだけどね。『PRIDE』には強い選手がたくさん集まっているから、次に出場したときは、日本のファンにもっと自分の技術を見せることを約束するよ。

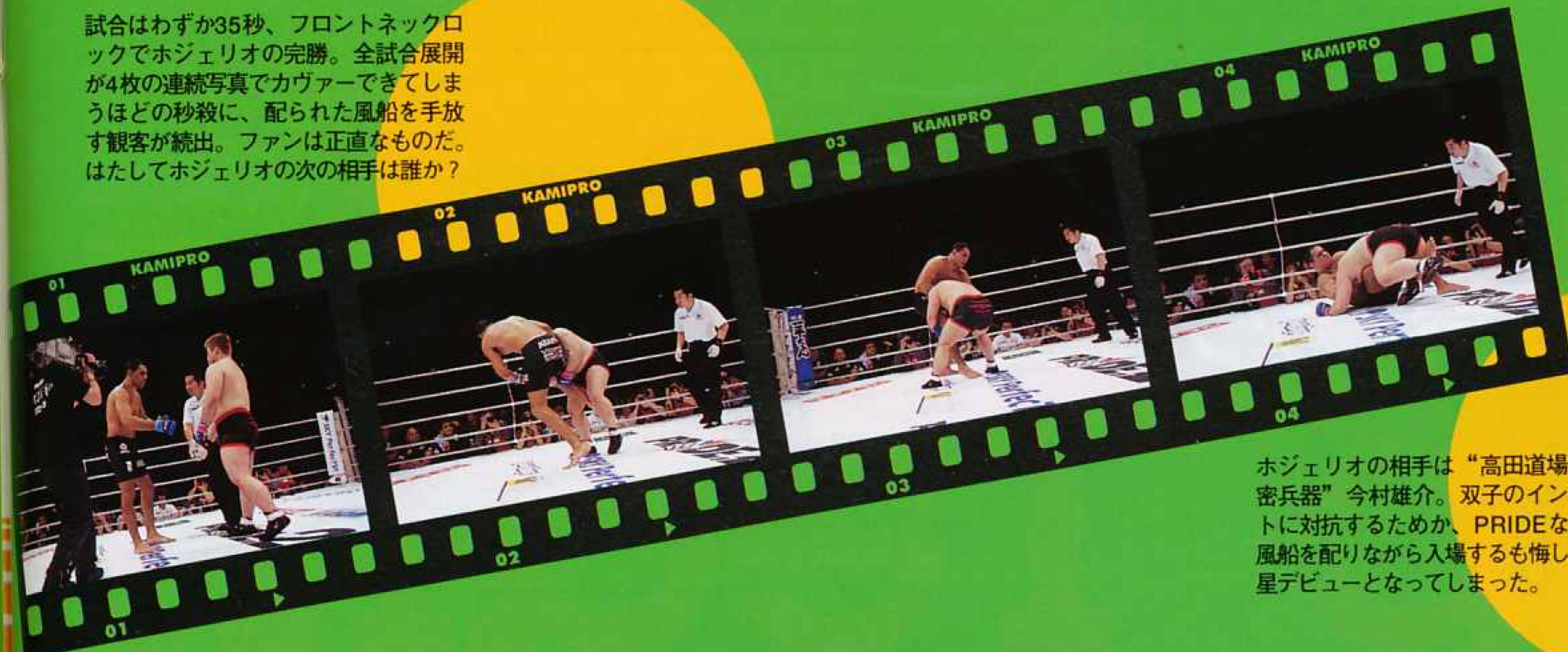
—このまま兄弟で勝ち続けたら、将来的にはホドリゴvsホジェリオのPRIDEヘビー級選手権なんかもあり得る気がするんですけど、いかがですか？

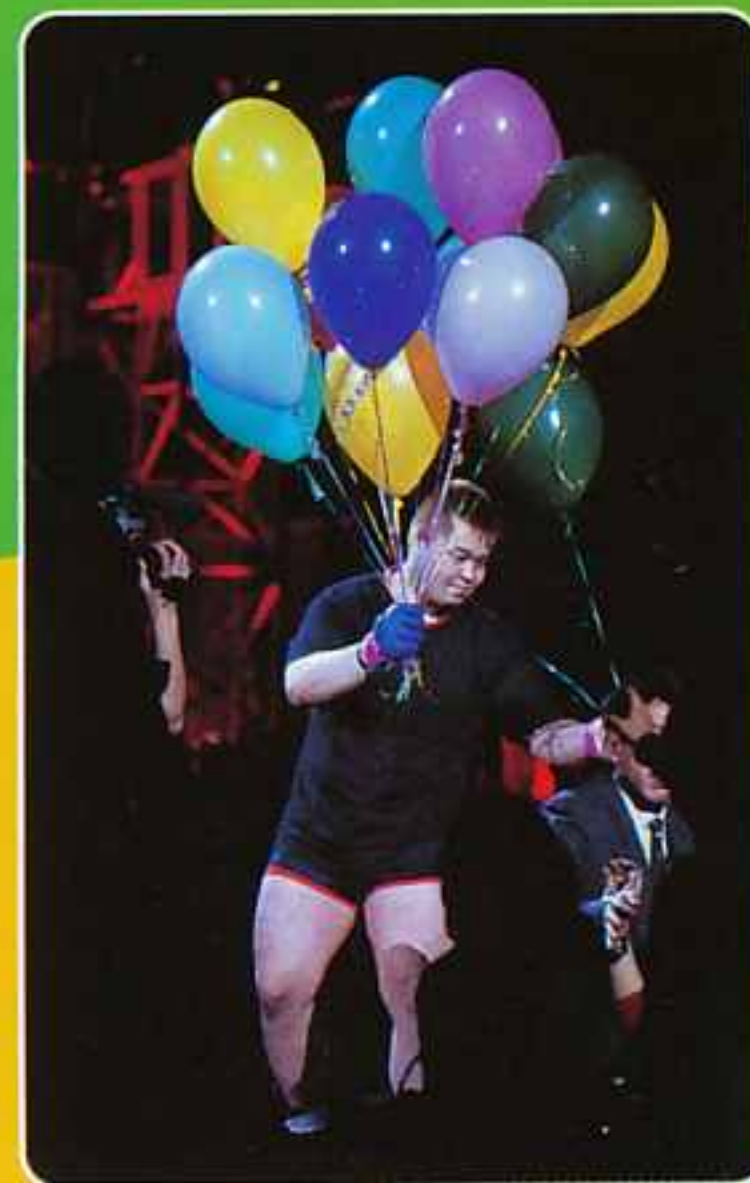
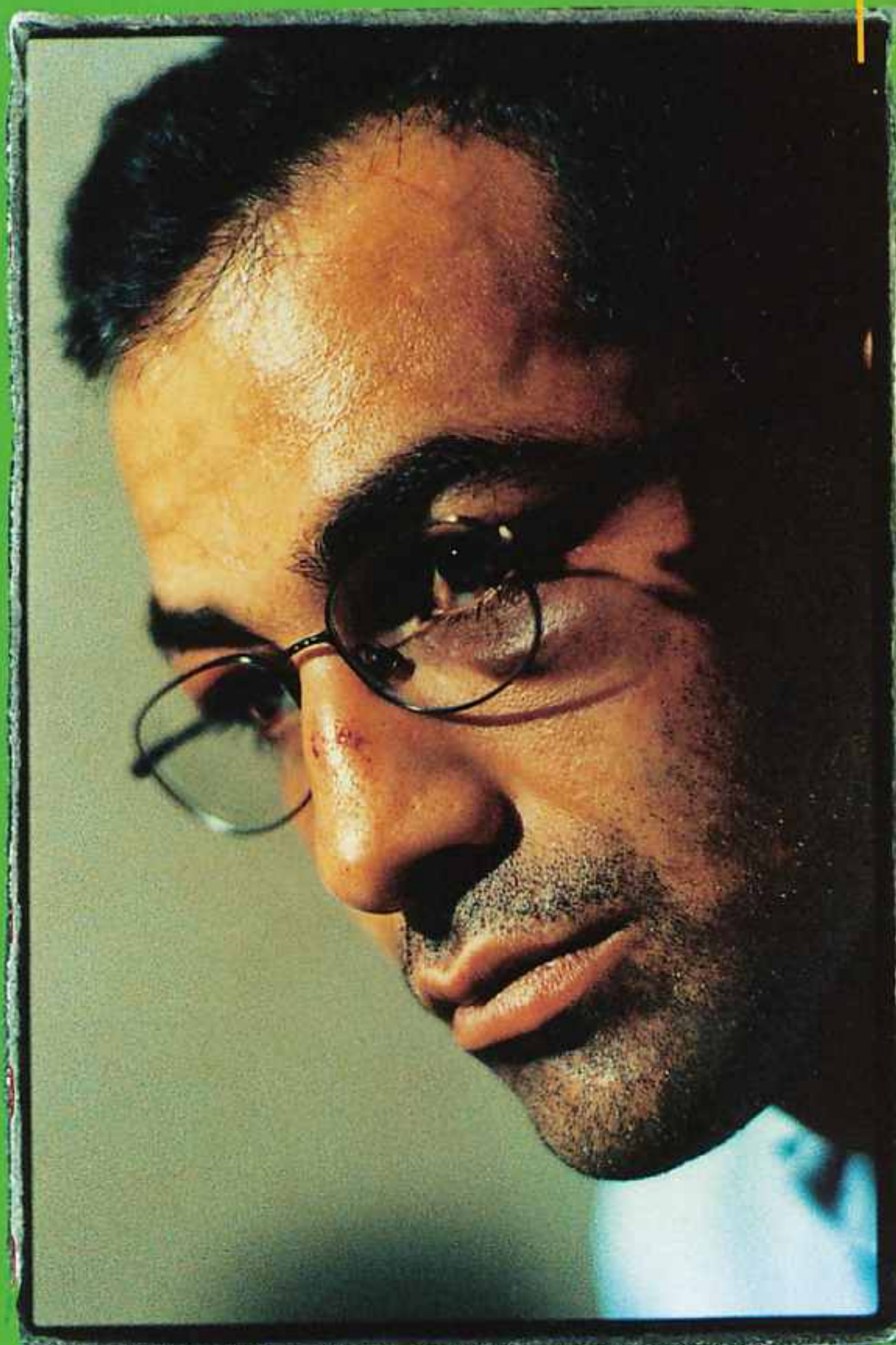
ホドリゴ いやぁ、それはあり得ないね。いつも一緒に練習している同じチーム同士、まして や兄弟が闘う理由なんてないよ。

ホジェリオ そうだね。だからボクはヘビー級じゃなくて、ミドル級の王座を狙っていこうと思うんだ。

—シウバに挑戦表明ですか!?

ホジェリオ ボクはいま95キロだから、ミドル級リミットの93キロまで落とすのはそんなに難しいことじゃないと思う。だから、いま

試合はわずか35秒、フロントネックロックでホジェリオの完勝。全試合展開が4枚の連続写真でカヴァーできてしまうほどの秒殺に、配られた風船を手放す観客が続出。ファンは正直なものだ。はたしてホジェリオの次の相手は誰か？

ホジェリオの相手は"高田道場の秘密兵器"今村雄介。双子のインパクトに対抗するためか、PRIDEなぜか風船を配りながら入場するも悔しい黒星デビューとなってしまった。

Mario "Ze Macine" Sperry

すぐというわけじゃないけど、ボクがもっとトレーニングをつんで自信がついたら、ぜひチャレンジしてみたいね。

—では、次にマリオ選手の試合について伺いたいんですが、今回はムリーロ・ニンジャ相手に残念な結果になってしまいましたね。

マリオ　試合開始直後にニンジャのパンチを受けてヒザを付いたときに亜脱臼のようになって、ヒザが動かなくなってしまったんだ。それが敗因だよ。そのせいで強いパンチをたくさんもらってしまった。あの最初の何秒かが勝負を決したと言ってもいいだろう。

—そんな状態のまま、若いニンジャ相手に3R闘ったわけですか……!?

マリオ　でも、ニンジャが良い闘いをしたのは事実だ。負傷しているとはいえ、私の寝技を防いだわけだからね。私としても今回の闘いは良い経験になったよ。

—スタンドでもグラウンドでも、ひたすら打撃を入れてくるという、ニンジャの闘い方についてはどう思いましたか?

マリオ　確かに一本勝ちを第一に考えている我々とは違うが、それがシュートボクセの闘い方なのだから、それはそれでいいと思う。実際、ニンジャがグラウンドを逃げ切ってパンチで倒すという闘い方で来ることは、予想していた通りだったからね。ただ、私は1Rで極めに力を費やし、スタミナを消耗してしまったため、あの作戦を打ち破ることはできなかったがね。

—もう少しの極めのポイントを、判定で重要視してもらいたかったのでは?

マリオ　いや、あの判定は妥当だと思う。ニンジャは讃えられるべき勝者だよ。

—潔いですねぇ。ホドリゴ選手から見て、マリオ選手の試合はどう思いましたか?

ホドリゴ　マリオが負けたのはショックだったよ。でも今回は負けたけど、マリオはもっと潜在能力がある偉大な格闘家だからね。今回はケガのアクシデントもあったし、もう一回やったら、マリオが勝つと思うよ。

—ホドリゴ選手は、マリオ選手が敗れたときに涙を流していましたよね?

ホドリゴ　……ああ、確かにね。あれはマリオが負けてショックだったからというのもあったけど、シュートボクセのセコンド陣が、マリオという偉大な格闘家に対してまったく敬意を表さなかったことが悲しかったんだよ。

私の寝技を凌いだのだから、ニンジャは讃えられるべき勝者だよ

—どういうことですか?

ホドリゴ　シュートボクセのセコンドが、試合前から、格闘家としてあるまじき野次を飛ばし続けていたんだ。これはケンカじゃないんだ。格闘家同士が1対1で誇りを賭けて闘う場なんだから、もう少し考えて欲しい。特にペレ!　少なくとも、彼はあの場にいるべきではなかった（キッパリ）。

—そんなことがあったんですか!　ちなみにどんなことを言われたんですか?

ホドリゴ　マリオがリングに上がったときから、「オカマ」とか挑発的なことを叫んでいたんだ。日本のファンにはわからなかったと思うが、ポルトガル語がわかる人間なら聞くに耐えない野次ばかりさ。

—では、あの試合がブラジルで放映されたら大変ですね。

ホドリゴ　とんでもない!　大変な問題になるよ!　ただでさえバーリ・トゥードは野蛮なモノだと誤解されがちなのだから、ホントに考えてほしいよ!

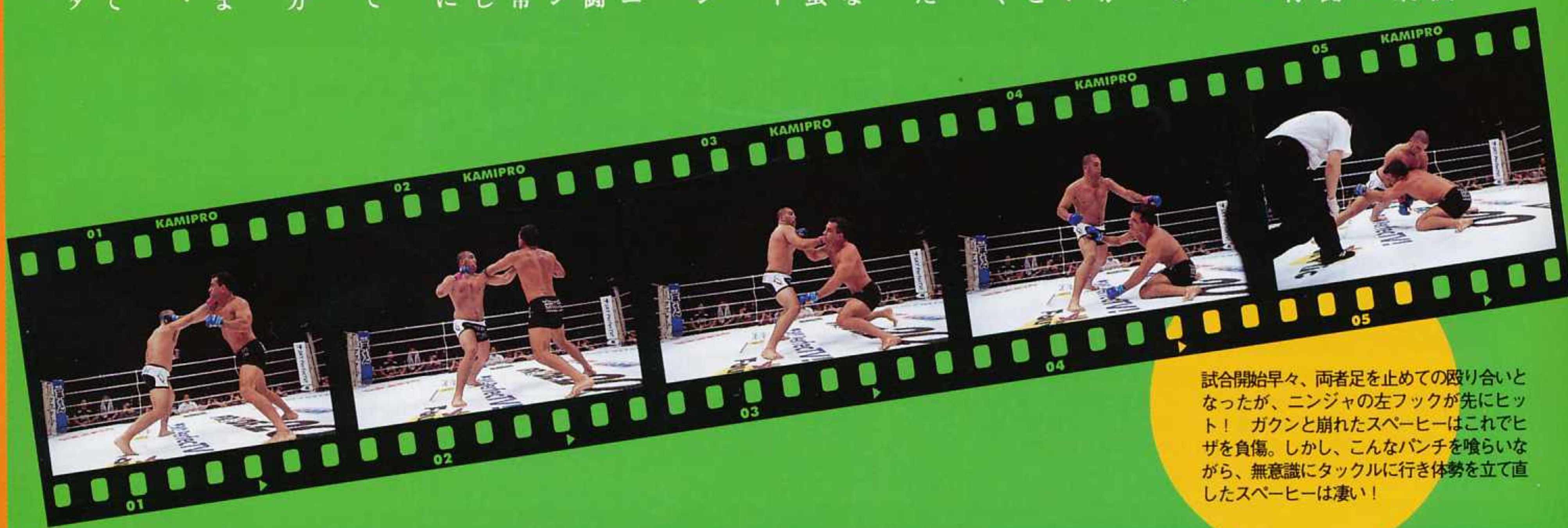
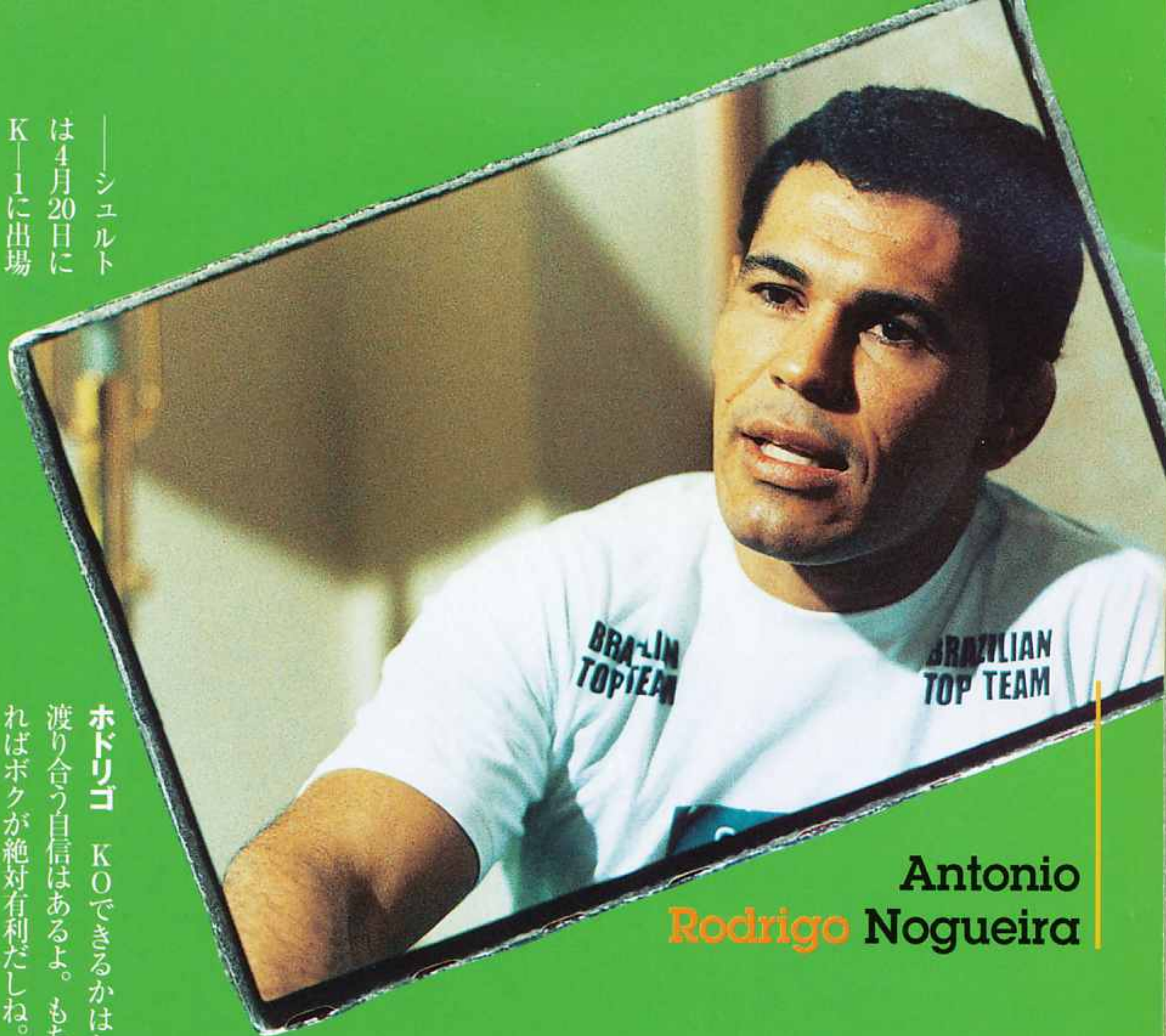
—当事者であるマリオ選手は、やはりニンジャへのリベンジを希望しますか?

マリオ　もちろんリマッチはやりたいが、ニンジャに限らず、シュートボクセの選手と闘いたい気持ちはあるよ。ただそれは「リベンジ」というわけじゃない。トップチームは常にテクニックを磨き、トップの位置を目指しているから、ニンジャやシュート・ボクセに限らず強い相手と闘っていきたいよ。

—では、まだまだ『PRIDE』で闘っていくわけですね?

マリオ　もちろん。私は35歳だが、まだ自分が成長していると思うからね。

—最後にホドリゴ選手は今回試合がありませんでしたけど、次回6月の『PRIDE・21』への出場は決定したんですよね?

ホドリゴ　うん。対戦相手はまだ聞かされていないが、おそらくセーム・シュルトとのタイトルマッチになるんじゃないかと思うよ。

試合開始早々、両者足を止めての殴り合いとなったが、ニンジャの左フックが先にヒット!　ガクンと崩れたスペーヒーはこれでヒザを負傷。しかし、こんなパンチを喰らいながら、無意識にタックルに行き体勢を立て直したスペーヒーは凄い!

Antonio
Rodrigo Nogueira

僕はヒクソンの技術をリスペクトしているだからこそ、もうそんな発言はやめてほしい

——シュルトは4月20日にK—1に出場して、武蔵選手に僅差の判定勝ちを収めましたけど、その試合はご覧になりましたか?

ホドリゴ　まだ見てないんだよ。ブラジルに帰ってからビデオを見ようとは思っているけどね。

——では、『PRIDE』でのシュルトの印象はいかがですか?

ホドリゴ　彼はリーチが長いし、良い打撃を持っているね。グラウンドのテクニックも良くなってきてると思う。でも、ボクのほうが全てに優れているから、勝つのはボクだね。

——「すべてに優れてる」というからには、打撃でもシュルトに勝つ自信があるということですか?

ホドリゴ　KOできるかはわからないけど、渡り合う自信はあるよ。もちろん、寝技になればボクが絶対有利だしね。

——いやぁ、自信満々ですね。シュルト以外では、現UFCヘビー級王者のジョシュ・バーネットの名前も挙がっていますけど。ジョシュについてはどんな印象がありますか?

ホドリゴ　彼とはブラジルで一度、一緒に練習したことがあるんだよ。ボクは『PRIDE』のチャンピオン、彼はUFCのチャンピオン。闘えばいい試合になるんじゃないかな。

——ジョシュは「ノゲイラと闘ったら殺しちゃうかも」とか、かなり過激なコメントを残してるのはご存じですか?

ホドリゴ　らしいね（苦笑）。彼は何事にも優れているファイターだとは思う。ただ、ジョシュではボクには勝てないよ（キッパリ）。

——では、近い将来『PRIDE』にジョシュが参戦してきたら対戦には全く異存はない、と。

ホドリゴ　ああ、いつ来てもいいよ。非常に楽しみだね（余裕タップリと）。

——その他には菊田早苗選手もノゲイラ選手との対戦を希望してるんですけど、アレク選手との試合は御覧になられましたか?

ホドリゴ　全部見たわけではないけど、優れたテクニックを持った選手だと思ったよ。柔術のテクニックもすばらしいし、ハートも強い選手というイメージがあるよ。

——菊田選手は「寝技世界一」という異名がついているんですけど、それについてはどう思いますか?

ホドリゴ　う〜ん、日本の中では一番だと思うよ（笑）。

——「寝技日本一」ぐらいにしておいた方がいいですかね（笑）。

ホドリゴ　それは間違いないと思う。

マリオ　私も柔術のテクニックに関してはキクタが日本で一番だと思う。『アブダビ』を制覇したことが一つの証明だろう。ただ、すべてを総合したバーリトゥードのテクニックではサクラバに軍配が挙がると思うがね。

——今回、マリオ選手と菊田選手の対戦も実は噂されていたんですよ。

マリオ　私は『PRIDE』が用意したマッチメイクに従うだけだから、誰と闘うのにも異存はないよ。もちろんキクタもOKだ。

——もし闘ったら、極めて勝つ自信はありますか?

マリオ　私は相手が誰であろうと自信を持って闘っているが、バーリ・トゥードは何が起こるかはわからないから、予想もつかないね。ひとつだけ言えるとすれば、キクタを極めるにはかなり時間を要し困難だろうということぐらいだね。

——は〜好評価なんですね。それでは昨日のミルコvsシウバについてみなさんの感想を聞きたいんですけど。

マリオ　ミルコは警戒しすぎていたね。ミル

PUTI　REVIEW

○ムリーロ・ニンジャ（シュート・ボクセ・アカデミー）（3R　判定3-0）マリオ・スペーヒー●（ブラジリアン・トップチーム）

トップチームの首領を破り歓喜のシュートボクセ陣営。次はニンジャvsアローナか!?　ちなみに一番右が酷い野次を飛ばし続けたとされるペレ。

ケガをしながら3R闘い抜くも、判定は3—0でニンジャ。マリオは静かに拍手をおくり敗戦を認めた。今大会1の大番狂わせだ！

2R以降は寝ても立ってもニンジャがひたすら打撃を入れる展開が続く。この状態で一回り年下の選手と闘いきったことは評価されるべきだろう。

このネックロックの他にもアームロック、ヒザ十字などを極めかけるも寸前のところで逃がしてしまい、スタミナを消耗したのも敗因か。

『PRIDE』2戦目にも関わらず、ビックリするほどの大歓声で迎えられたスペーヒー。手を挙げてそれに応える姿は余裕が感じられたが……。

コにとって有利なルールだったのに、シウバのことを良く思いすぎていたんじゃないか？ シウバは普段通りの実力だったと思う。

ホジェリオ ボクは、ミルコが距離を取りすぎてると思ったよ。あれじゃ試合にならない。マリオの言うように、シウバを恐れすぎていたのかもしれないね。

ホドリゴ ボクはシウバに感心したな。距離を詰めて、打撃を出しながらグラウンドに持ち込む作戦は良かったと思うよ。

――では、判定があればシウバが勝ちだったと思いますか？

ホドリゴ 勝ち負けまではつけられないが、シウバが有利だったんじゃないかと思う。ミルコはキックは出したけど、パンチが打てなかったしね。

――あの試合は通常の『PRIDE』とは違い、1ラウンドが3分という短い時間でしたけど、そのルールについては、みなさんどう思いますか？

ホドリゴ 個人的な意見を言わせてもらえば、あのルールは今回限りにすべきだと思う。シュルトがそうだったように、ボクらがK―1に出て闘う場合は、K―1ルールに従う。だから、彼らが『PRIDE』で闘う場合もPRIDEルールに従うべきだと思うんだ。そうしないとファンにだって混乱を招くよ。

――では、ホドリゴ選手がミルコと闘うならばPRIDEルールを主張しますか？

ホドリゴ いや、ミルコが望むのなら自分はあのルールでも全然かまわない。3分あればテイクダウンをしてファイナルまで持っていく時間は十分あるよ。ミルコとの対戦はゼヒ実現させたいね。

――では、ホドリゴ選手の対戦候補としてもうひとり。リングスのエメリヤーエンコ・ヒョードル選手が『PRIDE』に参戦してくるという噂があるんですよ。

ホドリゴ ヒョードルが本当に参戦してくるのかい？

――彼にはどんな印象がありますか？

ホドリゴ 実際に試合は見たことがないけど、レナート・ババルを倒したことや、リングスのチャンピオンだということは知っているよ。それに『PRIDE』がトップ戦線で使おうとしているのなら、間違いなく実力があるんだろう。『PRIDE』が組むのなら、ヒョードルとの対戦だって構わないよ。

――さらにヒョードルだけでなく、コピィロフやハンの参戦も取り沙汰されてます。

ホドリゴ え！ ハンやコピィロフまで『PRIDE』に来るのかい？

――その可能性はあるみたいなんですよ。コピィロフとは一度、リングスで対戦してますが、あの試合を見たファンの間では、「寝技の強いノゲイラが、唯一コピィロフには寝技で勝てなかった」というイメージが少なからずあるんですよ。

ホドリゴ 確かに極めることはできなかったけど、リングス・ルールはグラウンドでの顔面パンチが反則だったから、ああいう展開に

『PRIDE・21』の4日後、「猪木軍」として新日本プロレスの5・2東京ドームに招かれたノゲイラ兄弟＆スペーヒー。8・8UFO東京ドーム大会で小川vsノゲイラも噂されるが、本当にプロレス進出はあるのか!?

ミルコ、ジョシュ、ヒョードル、誰が来ても問題はないよ

ホドリゴ

もっと経験をつんだら、シウバのベルトに挑戦したい

ホジェリオ

近い将来我々がプロレスのリングに上がるかもしれない

マリオ

なるのはしょうがいないよ。あの試合でもボクは上のポジションを取っていたから、顔面パンチがあれば寝技で仕留められたと思う。

――PRIDEルールなら一本勝ちできる、と。

ホドリゴ そうだね。

――では最後にですね、「ノゲイラに勝てる」と公言している選手がひとりいるんですけど、誰だかわかりますか？

ホドリゴ 誰だろう？ まったくわからないよ（笑）。

――見当もつきませんか（笑）。その選手は……ヒクソン・グレイシーです！

ホドリゴ あ～、ヒクソンか（苦笑）。

――ヒクソンはインタビューで、「トップチームの技術に私を驚かせるものは何一つない」と言ってるんですよ。

ホドリゴ 何を言っても別に構わないけど、じゃあ、彼には何か僕らを驚かせるものがあるのかい？ 道場でも構わないからヒクソンとやってみたいね。ぜひボクを驚かせてほしいよ（笑）。

マリオ 我々ブラジリアン・トップチームは『PRIDE』、リングス、UFC、アブダビなど数々の舞台で世界中の強豪を驚かせてきた。それは日本のファンがよく知っていることだと思うし、ヒクソンにもそれは理解してほしいね。

ホドリゴ ボクはヒクソンの技術をホントにリスペクトしている。彼は偉大な柔術家だと思うよ。だからこそ、もう闘う気がない選手に対してそういう発言はやめて欲しいね。

――なるほど。では、これからもトップチームの技術で僕らを驚かせてください！

マリオ OK。あと我々はミスター・イノキから5月2日の東京ドームに招かれているんだ。だから今後プロレスで日本のファンを驚かせることもあるかもしれないから、そのときはよろしく（笑）。

――こちらこそよろしくお願いします（笑）。

【02年4月29日／都内・某ホテルにて収録】

遺恨再燃

「シュートボクセの連中は格闘家としての品位がカケラもないな」

シウバ、ニンジャに怒りの宣戦布告！

『PRIDE．20』においてダン・ヘンダーソンを判定に破り、『PRIDE』ミドル級のベルトにまた一歩近づいたヒカルド・アローナ。現・ミドル級王者であるヴァンダレイ・シウバとは、かつては乱闘寸前になるなど因縁浅からぬ関係であるが、今回の『PRIDE．20』でその火に油を注ぐような事件が勃発！　シュートボクセvsアローナ。血で血を洗う抗争の幕開けは近い!?

聞き手／ジャン斉藤
撮影／菊地茂夫
designed by さおとめの事務所

Ricardo Arona

ヒカルド　アローナ

Ricardo

Arona

――（上半身裸の身体を見ながら）いやあ、またタトゥーが増えましたね！

アローナ （嬉しそうに右腕を見せびらかしながら）そうなんだ、良く見てくれよ！　これは「虎の精神」を表しているんだ。

――たしか、背中の方は「戦士の精神」でしたよね（笑）。

アローナ いや、「戦士と勝利の精神」だよ（笑）。

――あ、「勝利」が抜けてましたか（笑）。これからも、自分の精神次第でタトゥーを増やしていくつもりなんですか？

アローナ いや、糧となる精神は増え続けるとは思うけど、タトゥーはもうこれ以上増やさない。片側の身体だけにしとくよ（笑）。

――あんまり入れ過ぎると呼吸困難になるといいますしね（笑）。その「虎の精神」が加わったおかげか、『PRIDE.20』のダン・ヘンダーソン戦は見事な勝利でしたね！

アローナ ありがとう（笑みを浮かべて）。

――この試合は、次期『PRIDE』ミドル級王座の挑戦者決定戦と囁かれていたんですよ。その一戦に勝利した感想はいかがですか？

アローナ そういう評価をされている試合で勝てたことは大変嬉しいよ。しかも相手は経験が豊富な強豪だからね。ハッキリ言って、『PRIDE』のベルトを取ること以上に値することじゃないか（ニヤリ）。

――ベルト奪取よりも凄いことですか！　まあ、ヘンダーソンと闘いたいなんてこと言う選手すらそうそういないですからね。その難敵に勝ったことで、アローナ選手の評価もかなり上がると思いますよ。それで次の対戦相手は当然、『PRIDE』ミドル級王者のヴァンダレイ・シウバを希望するわけですよね？

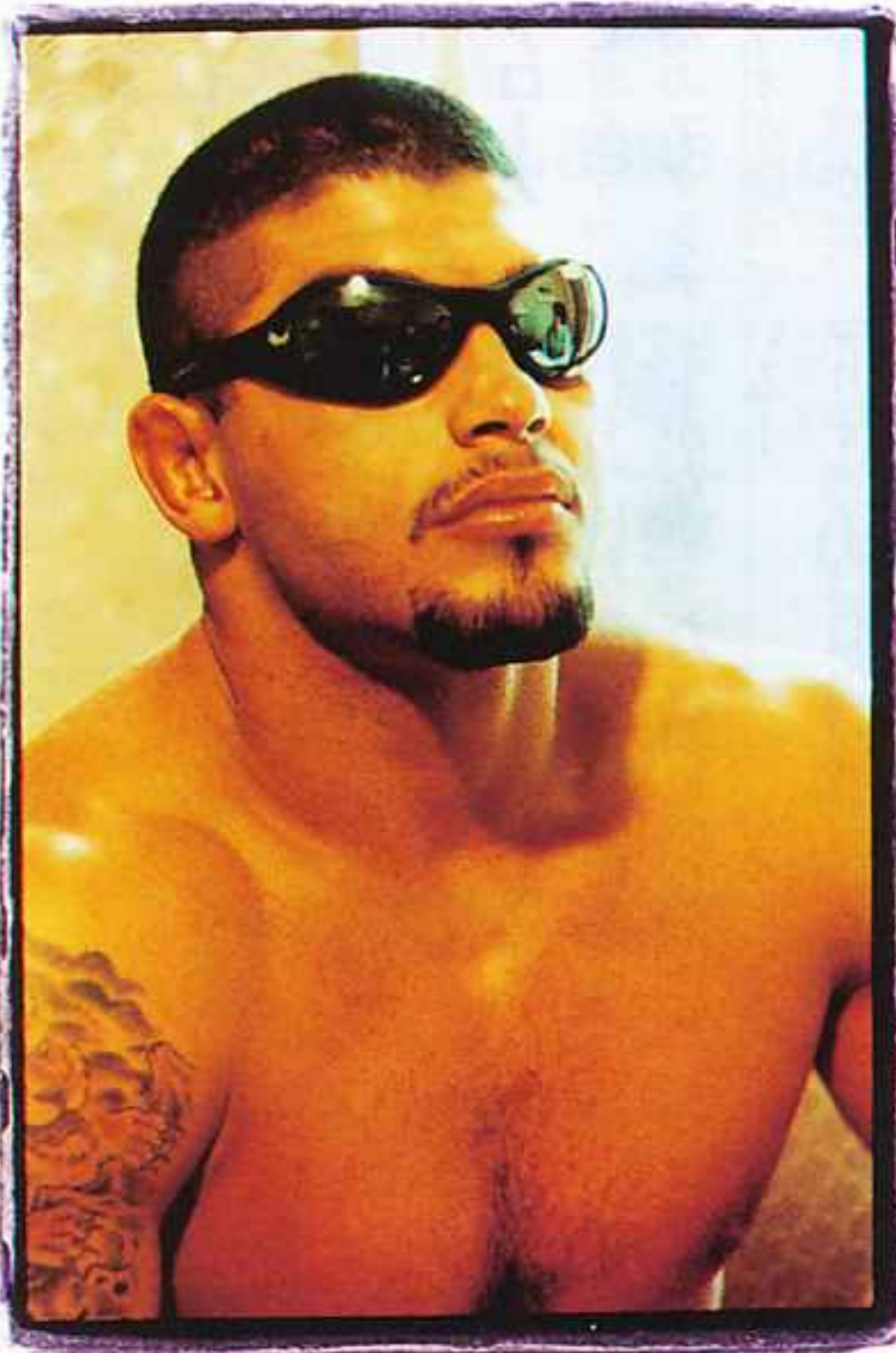
アローナ ヴァンダレイか……、オレは誰とでも構わないんだけどね。

――あ、別に拘ってないんですか。

アローナ ……まあ、彼とオレがやれば凄く熱い試合になるのは間違いないと思うけどね。ヴァンダレイ戦に関して言えるのは、それだけさ……。

――意味深ですね（笑）。そのシウバが昨日の大会で、ミルコ・クロコップと闘ったわけですけど。その試合はご覧になりましたか？

アローナ 観たよ。最悪の試合だったな（キッパリ）。

――最悪ですか⁉　観客はかなり盛り上がっていたんですけど……。どの辺がダメだったんですか？

アローナ ミルコが良くなかったね。彼はK－1ファイターなんだろう？　どれだけ素晴らしい打撃テクニックを見せてくれるのかと期待していたら、繰り出したのはキックは数発だけ。立ち技のスペシャリストらしくなかったね。グラウンドの攻防に持ち込まれるのを恐れ過ぎて、自分の闘いがまったくできていなかったと思うよ。

――逆にシウバの闘いかたはどう見たんですか？

アローナ グラウンドに持ち込んで闘うという作戦は良かったんじゃないか。オレもミルコと闘うとしたら、あの作戦を選択するね。

――ミルコvsシウバは特別ルールが採用されて、1ラウンド3分と通常の『PRIDE』ルールよりも短いですよね。あのルールについてはどう思ってるんですか？

アローナ その時間内に極めれば済むことさ。俺にとってはまったく問題ないね。

――1ラウンド3分でも関係ない、と。それで、ミルコvsシウバ以外の試合の感想もお訊きしたいんですけど。アローナ選手、ホジェリオ（・ノゲイラ）選手は快勝したわけですが、同じブラジリアン・トップチーム（アローナはトップチームの契約選手ではないが、一緒に練習をしている仲間）のマリオ・スペーヒー選手は残念ながら負けてしまいましたよね。そのせいか勝利者インタビューを受けているにも関わらず、アローナ選手は落ち込みぎみに見えたんですけど。

アローナ とても悲しかったよ（ポツリと）。マリオは想像を絶するような激しい練習をしている、尊敬すべき格闘家だから。

――かなりショックだったんですね。そのマリオ選手を破った相手の（ムリーロ・）ニンジャについてはどういう印象がありますか？

アローナ ……ニンジャは非常にインテリジ

『PRIDE』2連勝を果たしたアローナだが、前回のメッツァー戦も判定勝利。強豪だらけの『PRIDE』ではあるが、次は一本勝ちを期待したい。

4・28『PRIDE.20』横浜アリーナ
大会屈指の技術戦！
○R・アローナ（判定2―1）D・ヘンダーソン●

グラウンドではアローナの独壇場。何度かスイープされたが、ここでのポイントが勝敗を決めた。

藤原敏男先生も絶賛したことのあるダンの打撃がアローナを捕らえた！　敗れたが、ダンは評価を上げる闘いぶりを見せた。

スタンドでは不利と目されていたアローナだが、強烈な前蹴りを炸裂させた。これは、馬の蹴りだ！

シウバもニンジャもオレが倒してやるよ

エンスな格闘家だとは思うよ。

――「だと"は"思う」ですか？　以前はシュート・ボクセ（シウバ所属のジム）とトップチームはあまり関係がよろしくないと聞きましたけど、いまは修復されたん……。

アローナ　（遮って）フンッ！　オレはいまだにアイツらの悪い印象は変わってないぜ！（怒）。

――い、いまだシュートボクセとは敵対関係にあるんですか⁉

アローナ　アイツらは格闘家としての品位がカケラもない連中さ！　怒りを感じるよ！

――以前にあった、滞在中のホテルロビーでの乱闘寸前事件は手打ちになったと聞いてますけど……。今回、日本でまた何かあったんですか？

アローナ　とにかく奴らの言動は許せない！　ポルトガル語だったから日本のファンにはわからなかったと思うが、マリオvsニンジャの試合中、セコンドのシュートボクセの連中はもの凄く汚い野次をマリオに飛ばし続けていたんだ！

――そ、それほど激怒するからには、よっぽどヒドイ言葉なんですか？

アローナ　大勢の日本のファンが読んでる前で、こういう言葉を口にしたくないが……「売春婦の息子！」「オカマ野郎！」とか言いやがったんだよ！（怒）。試合前から試合後まで、ずっとだ！

――それはヒドイですね。

アローナ　まったく失礼なやつらだよ！（吐き捨てるように）。

――そういう野次は、ブラジルでの試合ではよくあること……。

アローナ　（ギロリと睨んで）。

――な、ないことですよね（笑）。

アローナ　少なくともブラジリアン・トップチームの選手たちはそんなことは言わないね。オレたちは対戦相手には敬意を持って接するから。シュートボクセは、クレイジーな連中の集まりなのさ！

――じゃあ、マリオ選手の仇を取るためにニンジャと闘っても構わないんですか？

アローナ　ああ、いつでもやってやる！　ヴァンダレイもオレが倒してやるよ！

――怒髪天に達してますね！　もし対戦が実現するとして、彼らの上になってからひたすら殴ってくるあの戦法は、かなりやっかいだと思うんですよ。

アローナ　（即座に）全然、デンジャラスじゃない！

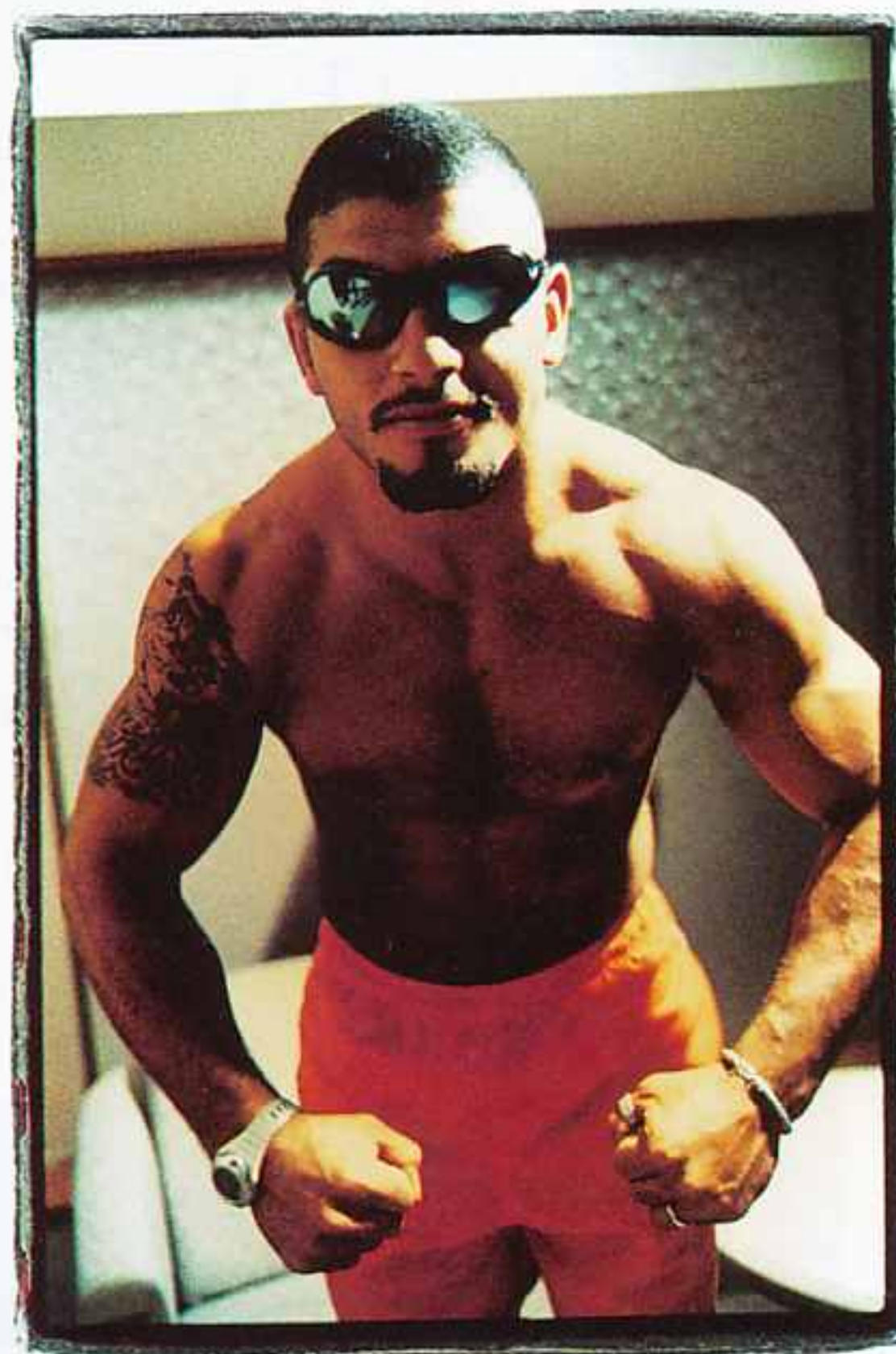
――で、でも、実際、マリオ選手は判定とはいえ敗れてるじゃないですか。

アローナ　マリオは早々にパンチをもらってヒザをマットに打ちつけたから負傷したんだ。あのアクシデントがなかったら間違いなくマリオが勝っている！

――確かに、マリオ選手は負傷を背負いながら、何度か極めかけてましたね。アローナ選手も当然、あの戦法を切り返す自信があるわけですね。

アローナ　絶対、ヤツらには上は取らせないね。それは、これまでのオレの試合を振り返れば可能なのはわかるだろう？

――アローナ選手は柔術家なのに上のポジションを取るのが上手いですもんね。極めの力も当然凄いですし、打撃も優れたトータルファイターというか。あの前蹴りは馬の蹴りですよ！

アローナ　シウバだろうがニンジャだろうが、まったく問題ないね。大体あんなグラウンドパンチなんてのは、レフェリーに対しては印象に残るだけのものさ（キッパリ）。

――あの攻撃は決定的ダメージを与えるまでには至らないわけですね。

アローナ　そういうことだ。試合では、オレの動きしか印象に残らないと思う。ヤツらは何もできないんじゃないか（平然と）。

――相変わらず凄い自信ですね（笑）。まあ、アローナ選手はここ数年、唯一判定負けしたエメリヤーエンコ・ヒョードル戦以外は負けナシですからね。そのヒョードル戦にしても、アローナ選手からすれば負けてないと思ってるんですよね？

アローナ　（身を乗り出して）思ってるんじゃない。実際、オレが勝っていたんだ（キッパリ）。あれはジャッジが間違っているんだよ。

――す、すいません！　ジャッジがアローナ選手が負けたと思ってる、と（笑）。

アローナ　そうそう（笑）。

――そのヒョードル選手が『PRIDE』参戦するという噂になってますけど、白黒ハッキリと決着つけたい気持ちはあるわけですか？

アローナ　ヒョードルはヘビー級のカテゴリーになるから、ミドル級のオレと闘う機会があるかどうか。オレの身体はミドル級にちょうどいいからね。このカテゴリーで頂上を目指すよ。

――アブダビ・コンバット同様、無差別で暴れ回るアローナ選手も見てみたい気もするんですが……。そういえば、今年はアブダビ・コンバットが開催されないみたいですね。

アローナ　中東ではいろいろ問題が起こっているだろ。その影響があるんじゃないか？

――あの地域はいま、かなり物騒な状況ですしね。ちなみに同じアブダビ王者の菊田早苗選手が『PRIDE.20』に参戦しましたよね。その菊田選手の寝技はどう評価してるんですか？

アローナ　キクタの寝技？　凄いんじゃないか。

――たとえば、どういうところがですか？

アローナ　う～ん、実は、キクタの試合は見たことがないからよくわからない（笑）。オッカ戦にしても、マリオの試合が終わったばかりでバタバタしてたしね。

――最初から知らないと言ってくださいよ（笑）。

アローナ　そうだな（笑）。まあ、アブダビで優勝しているんだから、かなりの技術を持っているのはたしかだろうね。それは、アブダビで二階級制覇をしたオレを見ればわかることだろう？（笑）。

――それは良～くわかります（笑）。次の試合でも、その実力が発揮されることを願っています！

アローナ　任せてくれ！　オレの弾丸タックルで、シュートボクセの連中の口を塞いでやるよ！

【02年4月29日／都内・某ホテルにて収録】

Ricardo Arona

【ヒカルド・アローナ】180センチ、90キロ。ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ出身。柔術家でありながら打撃にも優れ、あのティト・オーティスからテイクダウンを奪うなど、レスリングテクニックも高い技術を持っている。『PRIDE』では"柔術王子"の肩書きで紹介されているが、『アブダビ・コンバット』98キロ級トーナメント優勝（00年&01年）、無差別級トーナメント優勝（01年）というまさしく"寝技世界一"に相応しい実績を持つ。当初参戦していたリングスでは、金原弘光、ジェレミー・ホーン、グスタボ・シムといったミドル級の強豪どころを立て続けに圧倒。ミドル級のベルトを戴冠した。残る栄冠は『PRIDE』ミドルのベルトだけという、末恐ろしい23歳。

ロシアが来た!!

リングス無敵の2冠王 E・ヒョードル 6・23「PRIDE.21」出場か!?

リングス・ロシア

その武骨なる闘いの軌跡

リングスが生んだ最強最後の怪物、ヒョードルの『PRIDE』参戦がいよいよ秒読み？ 諸説が乱れ飛ぶ、リングス・ロシア勢の『PRIDE』参戦問題。本誌は独自の取材により最新情報を入手した！ 今年ブレイク間違いなしのロシア軍。その闘いの軌跡と可能性に迫る！

構成／堀江ガンツ

design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

●イリューヒン・ミーシャ
（延長・4分53秒、腕ひしぎ十字固め）
○アジリソン・リマ

95年8月24日　有明コロシアム

リングス史上初のバーリ・トゥード戦となったこの一戦。「グレイシー柔術黒帯」リマをリングスの守護神ミーシャが迎えうった。試合はＶＴのセオリー通りの攻めを見せるリマに、ミーシャがサンボ式の極めで対抗する展開となり、ミーシャのアキレス腱が固めが極まったまま、20分時間切れ。しかし、リマのセコンド、ヘンゾ・グレイシーの執拗な延長要求が認められてしまい、一度控え室に戻り緊張の糸が切れたミーシャが十字で敗れてしまった。

●アレクサンドル・ヒョードロフ
（10分10秒、ＴＫＯ）
○アジリソン・リマ

97年6月21日　有明コロシアム

ミーシャの敵討ちとばかりに打倒リマに立ち上がったのは、なんと51歳、伝説のサンビスト、ヒョードロフ！　その51歳とは思えない身体のゴツさ、極めるところがないような太く短い首手足、そして数々の逸話で幻想が膨らみまくり、初参戦ながらリングスファンの大声援を受けて奮闘。テイクダウンを奪い、アキレスやアームロックを仕掛けたが、ポジショニングでリマが上回り、10分経過のコールと共にヒョードロフ自らタオル投入をセコンドに指示した。

△コーチキン・ユーリー
（20分、時間切れ引き分け）
△ヒカルド・モラエス

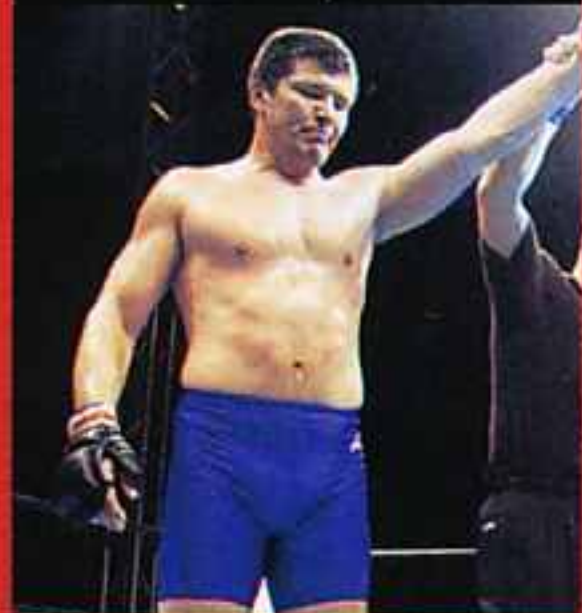
97年6月21日　有明コロシアム

95年にロシア・アブソリュート大会でミーシャを破り優勝。96年は"エース"ヤマヨシを46秒ＫＯするなど、リングスを丸飲みする勢いで暴れる柔術怪獣モラエス。そんな"怪獣退治"に指名されたのが、極真空手と柔道の猛者である、ロシアの秘密兵器ユーリー。205cmの怪獣を打撃でＫＯすることが期待されたが、モラエスはすぐに密着。ひたすら押さえ込みながらの打撃に終始した。結局それをユーリーが20分も耐え抜きドロー。一応、モラエスの連勝はストップした。

これがロシア軍だ

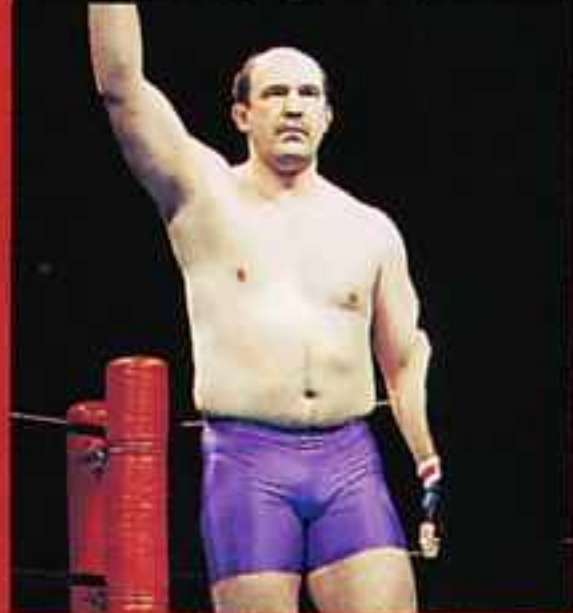
ラバザノフ・アフメッド

ロシア白兵戦王者の肩書きを持つ、ヴォルク・ハンの秘蔵っ子。日本ではまだ結果は出ていないが、その強さはロシア勢の誰もが口にする。特にアキレス腱固めは強力。

コーチキン・ユーリー

極真空手世界選手権に出場しながら、柔道のヨーロッパ王者でもある実力者。ニコライ・ズーエフの道場「リングス・エカテリンブルグ」に所属。

ヴォルク・アターエフ

対戦相手を次々と病院送りにする、恐怖の打撃を放つ"ロシアの殺戮狼"アターエフ。散打世界王者でもあり、総合格闘技だけでなく、ＳＢ、Ｋ－１への進出も期待される。

アンドレィ・コピィロフ

その禿げ上がった頭、出っ張った腹からは考えつかないほどの極めの強さを持った、陰の実力ナンバー１。寝技の強さは、あのホドリゴ・ノゲイラが関節技の攻防を避けるほど。

ヴォルク・ハン

ご存じ「1000の関節技を持つ男」の異名を持つ、リングスが生んだ最高傑作。総合格闘技道場「ヴォルク・ハン格闘術」を主宰し、次々と名選手を育てる狼軍団総帥でもある。

エメリヤーエンコ・ヒョードル

リングスが生んだ最強最後の怪物。ボブチャンチンを思わせるロングフックに、柔道、サンボ仕込みの寝技とパワーを兼ねそろえ、ヘビー、無差別を制した無敵のリングス２冠王。

※すいませ～ん！　ロシア軍名鑑をせっかく作ったのに、肝心のミーシャを入れ忘れちゃいました。ミーシャの輝かしい実績は本文でしっかり触れてあるので許してください。ビバ、ミーシャ！　愛してます！　（ガンツ）

ソ連が来た！

88年、新日本プロレスにソビエト・レッドブル軍団が初めて襲来したときのポスターには、そんなコピーが踊っていたが、あれから14年。今度は『ＰＲＩＤＥ』のポスターにこんなコピーがつけられるかもしれない。

ロシアが来た！

そう、かねてから噂されていた㈰リングス・ロシア勢の『ＰＲＩＤＥ』参戦が、いよいよ秒読み段階に入ったという情報をキャッチしたのだ。

複数の格闘技・プロレス雑誌にロシア勢の『ＰＲＩＤＥ』参戦の可能性の記事が掲載されたことでもわかるように、諸説乱れ飛ぶ今回の参戦問題であるが、まずここではその情報を整理してみよう。

先月、某格闘技雑誌にリングス・ロシア代表ウラジミール・パコージン氏の電話インタビューが掲載され、「4月の時点ですでに『ＰＲＩＤＥ』からリングス・ロシアに試合出場のオファーが届いており、あとは正式な契約を結ぶだけ」という内容の発言がスクープされた。

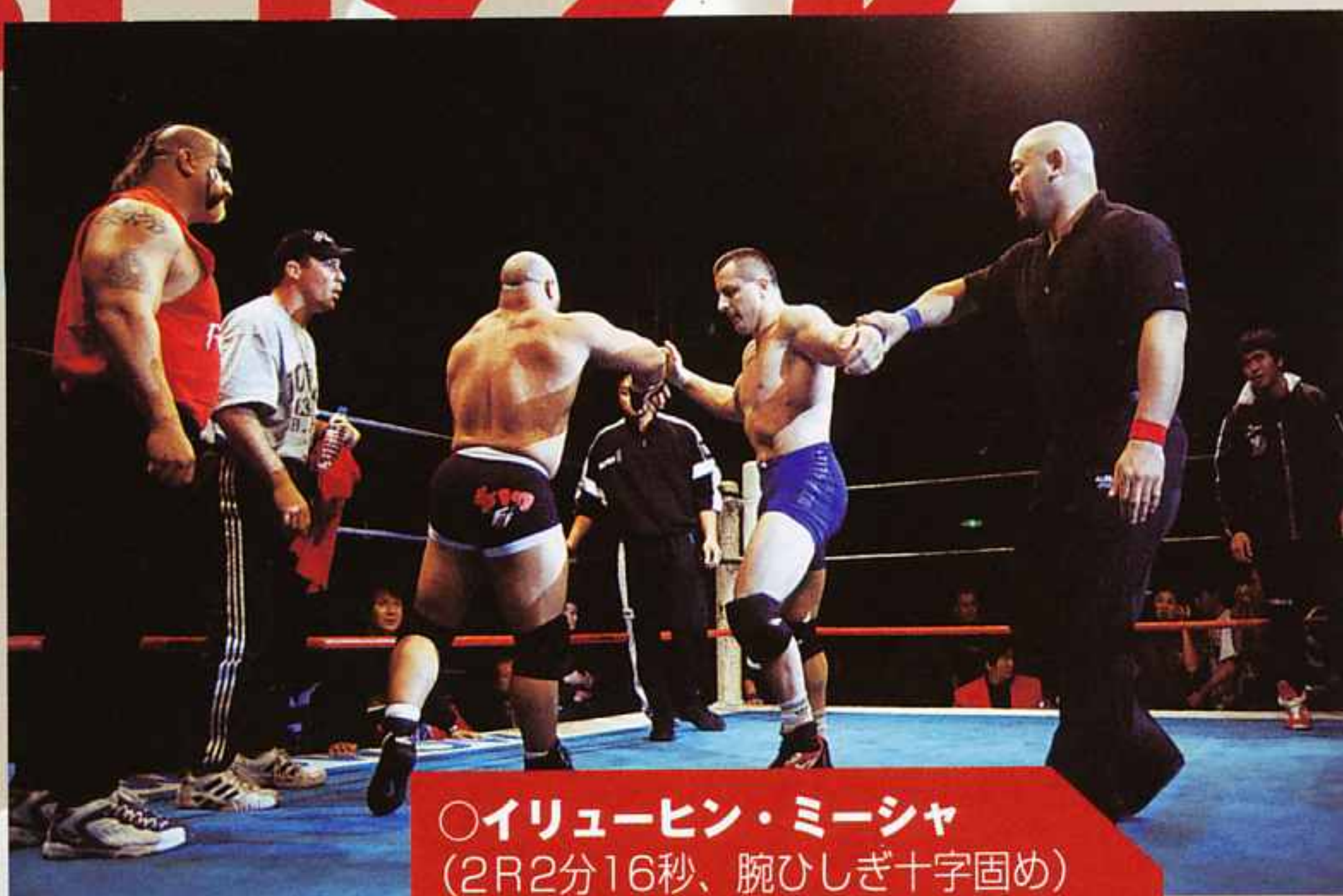
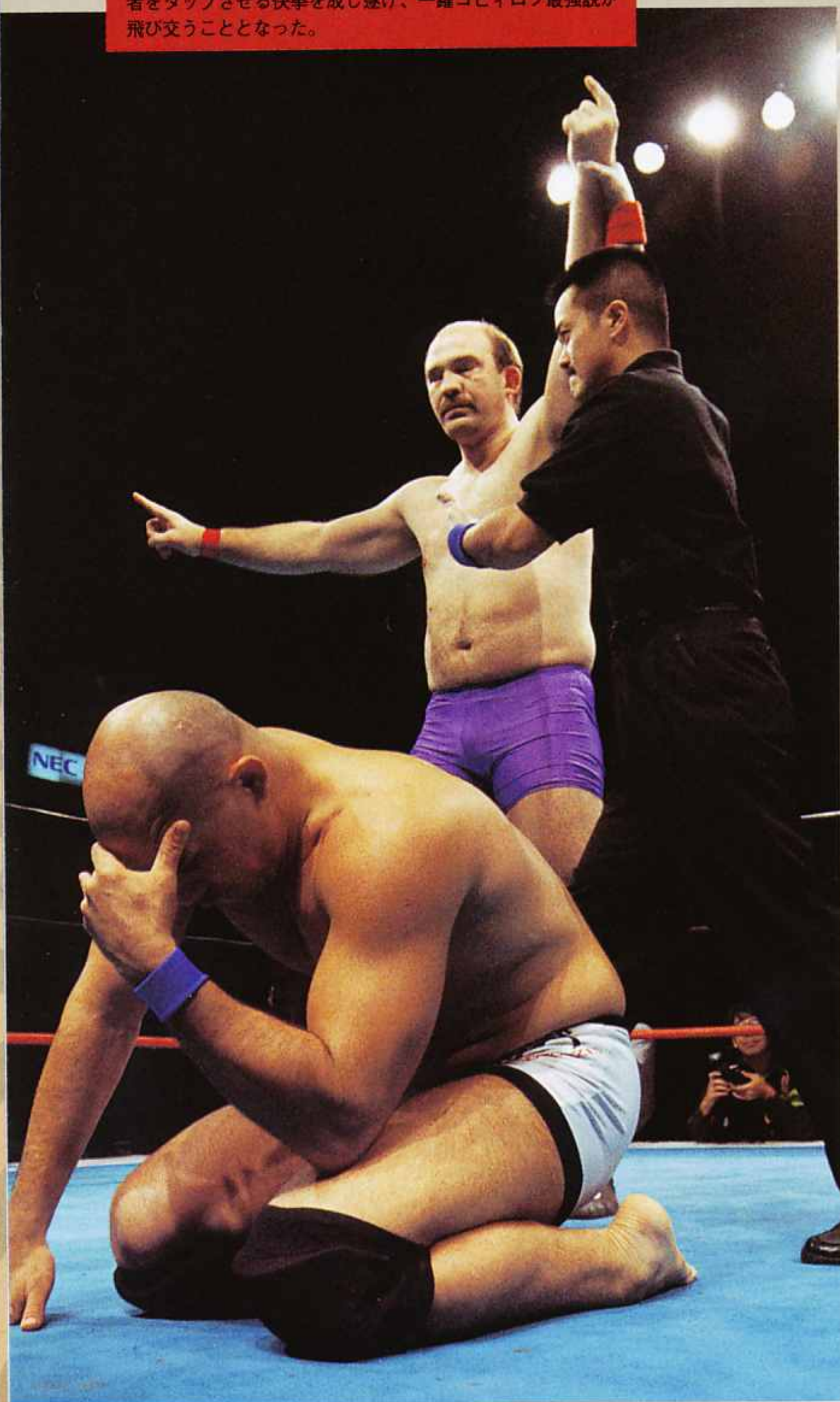
しかし、このインタビュー内容は、5月6日の『プレミアム・チャレンジ』の会場でリングス前田日明総帥が「あれは通訳がダメで、内容が全然違う。いまはまだまったくの白紙」と語ったように、パコージン氏が『ＰＲＩＤＥ』への「参戦意思表示」をしたものが、国際電話を通しての通訳の問題で、「参戦内定」と取られてしまったようなのだ。それを裏付けるように、同じく5月6日に『プレミアム』に出場するミーシャのセコンドとして来日したパコージン氏が、その某誌に対して、口頭で厳重抗議をしている。

これによって、今回の参戦問題は振り出しに戻ったかのように思われた

リングス・ロシア

○アンドレィ・コピィロフ
（1R16秒、ヒザ十字固め）
●カステロ・ブランコ

99年12月22日　大阪府立体育会館

KOKでもっともブレイクした男と言えば、もちろん我らがコピィロフ！　これまでは、そのオッサン然とした風貌からかハンの陰に隠れていた感があったが、KOKでその新の実力を発揮！　現役の柔術重量級世界王者ブランコが組み付いてきたところを、すばやく足を取り前方回転。ものの見事にヒザ十字をガッチリと極め、なんとわずか16秒、柔術世界王者をタップさせる快挙を成し遂げ、一躍コピィロフ最強説が飛び交うこととなった。

○イリューヒン・ミーシャ
（2R2分16秒、腕ひしぎ十字固め）
●ブラッド・コーラー

99年10月28日　代々木第2体育館

リングス内外、世界中から32名もの強豪を集め、空前の規模で行われた第1回KOK。そこでリングス勢が次々と敗れていく中、Aブロックのリングス最後の砦となったのがミーシャ。ウォリアーズのアニマルをセコンドに従え、1回戦でヤマヨシの肋骨をパンチでへし折ったコーラーを相手にミーシャは、冷静にパンチをかいくぐり、腕十字でタップアウト勝ち！　リングス勢全滅の危機を救う救世主となり、場内は大ミーシャコールに包まれた。

○アンドレィ・コピィロフ
（1R8秒、アキレス腱固め）
●リカルド・フィエート

99年12月22日　大阪府立体育館

柔術世界王者を16秒殺して迎えた2回戦。自信満々のコピィロフは、その鋭い眼光でのガン垂れが売りのフィエートに、人を殺しかねない冷たい目でにらみ返し、なんとまずにらみ合いで勝利！（フィエート目を背ける）。得意分野で完敗を喫したフィエートが試合で通用するわけがなく、なんとこんどはわずか8秒（！）、アキレス腱固めで完勝。2試合合計24秒での決勝トーナメント進出に、コピィロフ最強幻想爆発した。

が、先の某誌の記事が掲載されたことによって、お互いの意志を確認し合うために『PRIDE』とロシア勢が急接近。5月中旬までの間にパコージン氏と『PRIDE』関係者の間で正式に会談がもたれ、その席上で改めてロシア勢は『PRIDE』に参戦する意志があることを伝えたことが本誌独自の取材の中で明らかになったのだ！

また、『プレミアム』翌日の7日にはパコージン氏と前田総帥の会談がもたれ、今後のロシア勢の動向に関する話し合いがもたれた模様。そこでどんな結論がなされたかは、明らかにされていないが、取材を進める中では、現在リングス側にはロシア勢への法的な拘束力はないことが判明している。

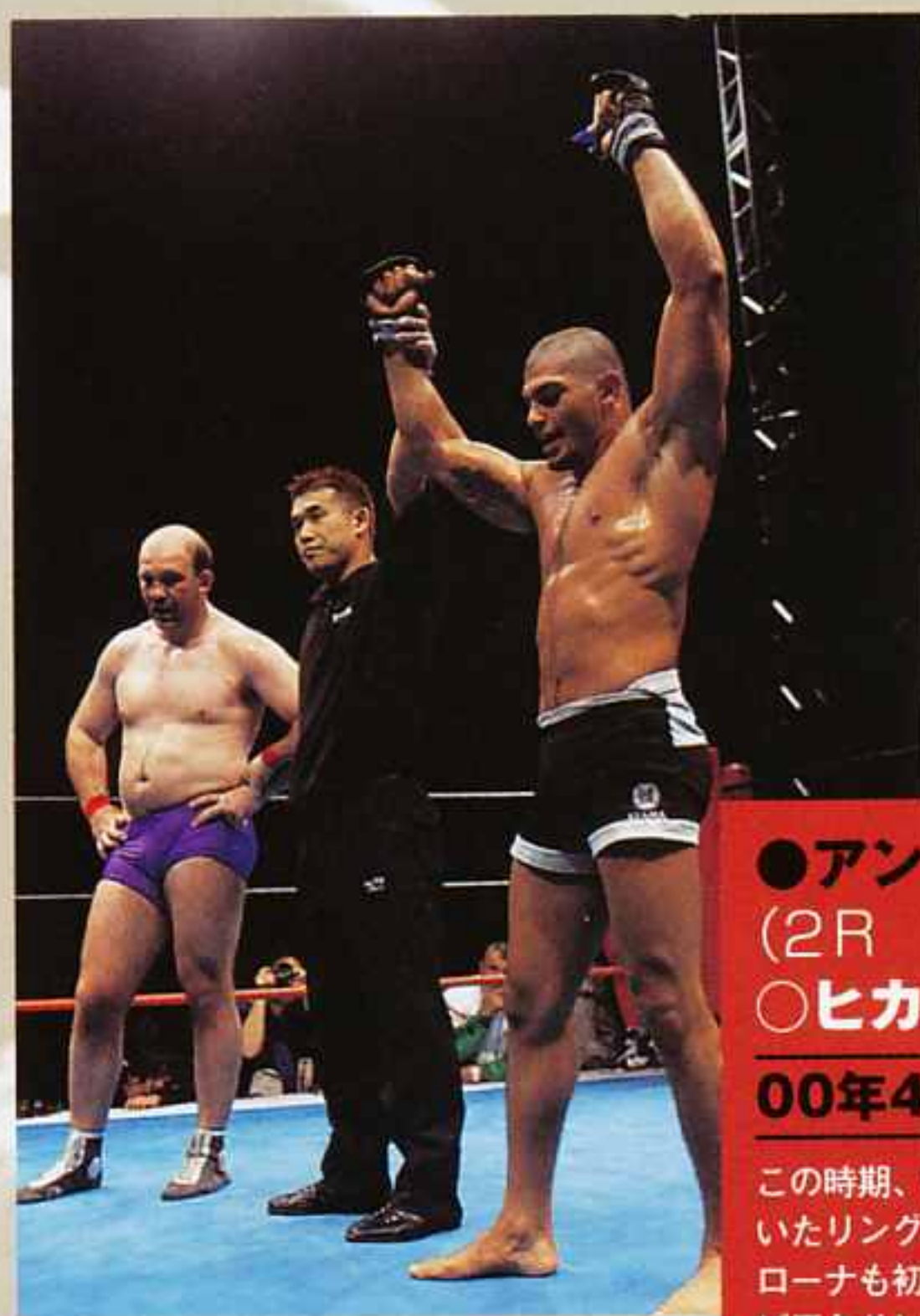
しかし、前田総帥とパコージン氏は長年の信頼関係を構築している仲で、お互いが相反しあってまで違う道を歩むとも思えない。

本誌はこうした周辺状況を整理していく中で、前田総帥が快く送り出せば、ロシア勢が『PRIDE』に参戦する可能性は極めて高く、早ければ6月23日、さいたまスーパーアリーナで行われる『PRIDE・21』から出場すると見ている。

参戦するとなると、その第1弾はリングス無差別級・ヘビー級2冠王、リングスが生んだ最強最後の怪物、エメリヤーエンコ・ヒョードル以外に考えられない。『PRIDE』ヘビー級戦線は現在、王者ホドリゴ・ノゲイラの実力が飛び抜けており、対戦相手を探すのも困難な状況。そこへ、ヘビー級の人材が豊富なロシア勢が参戦すれば、『PRIDE』にとっても今後の起爆剤となりうるだろう。特に来日する度にその怪物性を増していくヒョードルは、今後ノゲイラの最大のライバルになる可能性を多分に秘めている。

●アンドレィ・コピィロフ
(2R　判定3-0)
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

00年2月26日　日本武道館

1・2回戦で圧倒的な強さを見せ、一躍大ブレイク。ヘンゾ戦に向かう田村に勝るとも劣らない大歓声を浴びてノゲイラ戦に向かったコピィロフ。その試合はファンの期待通り、柔術とサンボが真っ向から激突する、超ハイレベルな寝技合戦が繰り広げられたが、なんと秒殺男コピィロフは1R後半からガス欠。2Rからはよろよろと酔拳オヤジに変身してしまい、判定負けを喫した。しかし、寝技ではコピィが上回っていたという声はいまだに多い。

●アンドレィ・コピィロフ
(2R　判定3-0)
○ヒカルド・アローナ

00年4月20日　代々木第2体育館

この時期、魅力的な未知の強豪が次から次へと参戦してきていたリングス。そんな流れに乗って、現役アブダビ王者・アローナも初来日。迎え撃つはまたしてもコピィロフ。アブダビ王とサンボ王の寝技合戦が期待されたが、21歳でスタミナ抜群のアローナと3分でカラータイマーが光るコピィではやはり無理があり、例によってヘロヘロのままコピィが判定負けを喫した（ドールマン20－10！）。でも、どんなにスタミナが切れても一本負けはしないコピィって凄い。

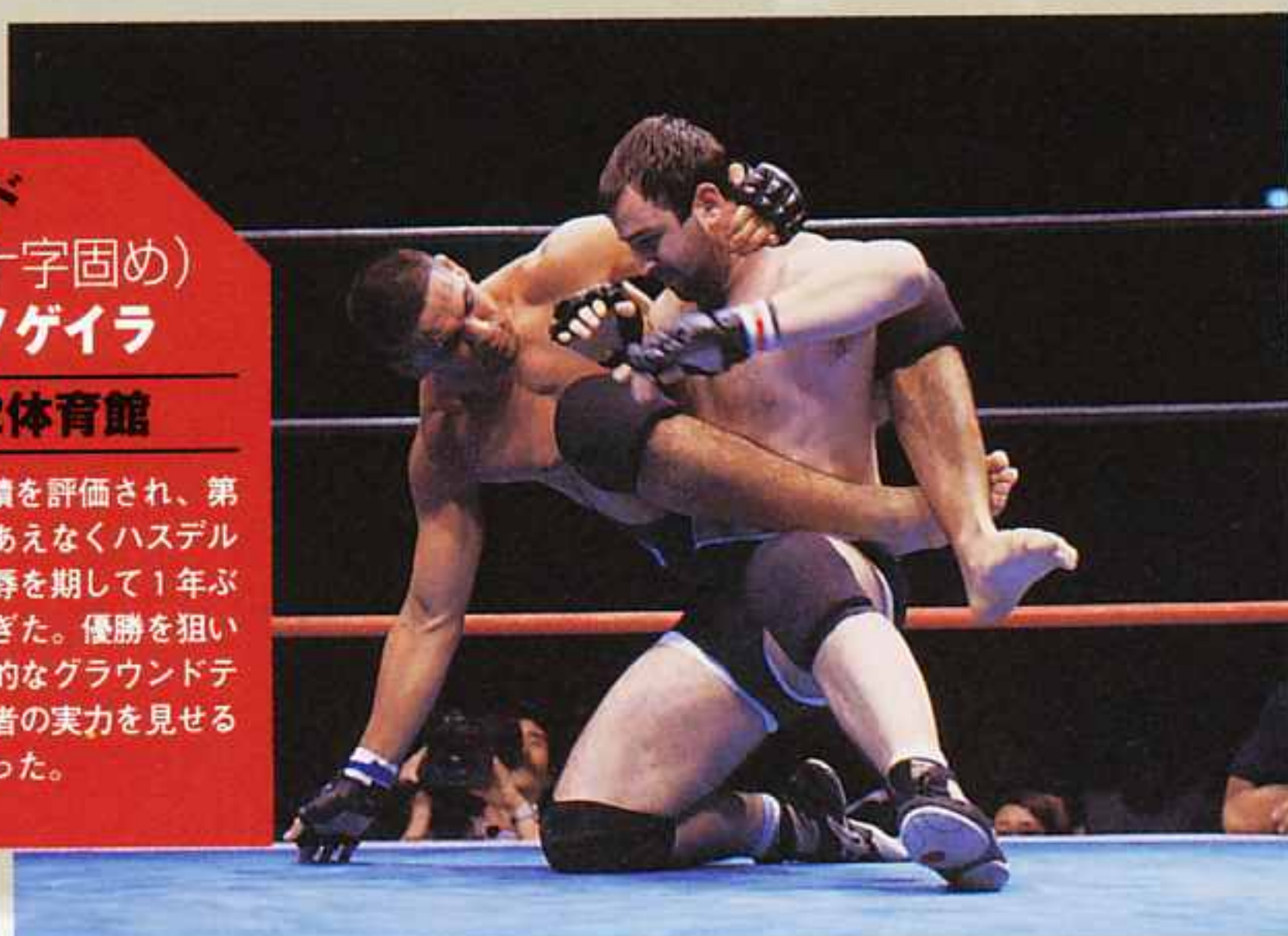
○ヴォルク・ハン
(1R8分11秒、腕ひしぎ十字固め)
●ブランドン・リー・ヒンクル

00年6月15日　代々木第2体育館

KOKがスタートして以来、ケガ、体調不良を理由に欠場を続けていたハン。そんなハンに「KOKが怖くて逃げている」という悪い風評が立ち始める中、満を持して登場。相手はこの前月、WEFでヤマヨシを秒殺しているヒンクル。ファンが祈るような気持ちで見守る中、ハンはパンチを中心に試合を組み立て、最後はアンダーポジションからの十字固めという、これまで見せなかった戦法で勝利！　ハンの実力が改めて本物だと証明した記念すべき一戦となった。

●ラバザノフ・アフメッド
(1R1分38秒、腕ひしぎ十字固め)
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

00年10月9日　代々木第2体育館

「ロシア白兵戦王者」という幻想高まる実績を評価され、第1回KOKの目玉として投入されながら、あえなくハステルに1回戦で敗れてしまったラバザノフ。雪辱を期して1年ぶりの来日となったが、この日は相手が悪すぎた。優勝を狙い完璧に体調を整えてきたノゲイラに、芸術的なグラウンドテクニックで翻弄され、またしても白兵戦王者の実力を見せることなく、わずか1分あまりで敗れてしまった。

冒頭でソビエト・レッドブル軍団の話を出したが、ヒョードルならば88年に新日本を襲ったサルマン・ハシミコフ以上のインパクトを残すのはまず間違いない。

また、ヒョードルと並ぶ、狼軍団の超新星、ヴォルク・アターエフが7月7日、横浜文化体育館で開催されるシュートボクシングのビッグイベント『S-CUP』に、リングスKOスルールで参戦するということが、この原稿を書いている5月17日に、シュートボクシング協会シーザー武志会長、リングス前田日明総帥同席のもと記者会見にて発表された。

さらに5月6日『プレミアム』の試合後、前田総帥がDEEPからヴォルク・ハン貸し出しを打診されたことも記者団に口にしており、今後、ロシア勢はこれら複数の格闘技イベントに派遣していく形を取ることも予想される。はたして、ロシア勢の『PRIDE』参戦は実現するのか!?　本誌は今後もロシア勢の動向を追い続け、逐一報告させていただくつもりである。

さて、ここまではロシア勢の『PRIDE』参戦の可能性を探ってきたが、そもそもロシア勢とはどんな闘いをしてきたのか、リングスを見ていなかった人たちのために、リングスの歩みと共に簡単に説明してみよう。

リングス・ロシアはリングスが旗揚げされた91年10月に設立。この年の12月に未知の格闘技コマンド・サンボを操るヴォルク・ハンが、前田日明を相手に見たこともない関節技を次々と披露し、衝撃のデビュー。その後、アンドレィ・コピィロフ、ニコライ・ズーエフ、イリューヒン・ミーシャら一流サンビストが次々参戦し、リングス・ロシアはネットワークの中核をなすようになった。

リングス・ロシア

●ヴォルク・ハン
(2R　判定3-0)
○アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ

01年2月24日　両国国技館

「ヴォルクハン格闘術」を設立し、ＫＯＫ用のファイターに変身したハンは、１・２回戦を見事突破。優勝候補大本命ノゲイラとの「夢の対決」で準々決勝に挑むこととなった。しかし、ただでさえ39歳と高齢で、引退も噂されたハンが、試合前に重いインフルエンザに見舞われ体調最悪。それでも一撃ＫＯ狙いのアッパーを武器に、ノゲイラのサブミッション地獄の凌ぎまくるハン。なんという39歳か。結果は判定負けだったが、このカード、最高の体調で再戦が見たい！

○ヴォルク・アターエフ
(1R1分8秒、KO)
●メイナード・マルコム

01年6月15日　横浜文化体育館

ハンが本誌のインタビューで「私の弟子で凄いとしか言いようのない男がいる」と発言し、話題を呼んだ「ハン最強の弟子」アターエフが、ヴォルクのリングネームを受け継ぎ日本デビュー。来日前は噂が凄すぎて胡散臭さもあったが、オーストラリアのマルコムに対し、鮮やかとして言いようがない、ショートフック一発で失神ＫＯ勝ち！　数々の逸話は決してウソではないことを、パンチ一発で証明した。

○エメリヤーエンコ・ヒョードル
(2R　判定3-0)
●レナート・ババル

01年8月11日　有明コロシアム

リングスの名物カードであるロシアvsブラジル。その第２世代頂上対決とも言えるこの一戦で、ヒョードルの怪物性が大爆発した！　ババルは第１回ＫＯＫで準優勝、田村、金原、ＴＫとリングストップ３を総なめするほどの実力者だが、ヒョードルはそんなことはおかまいなしに、スタンドではパンチで圧倒。グラウンドになっても必ず上のポジションにとってボディを連打。結果、ババルを終始圧倒する形で文句ナシの判定勝ちを奪った。

○エメリヤーエンコ・ヒョードル
(1R2分50秒、TKO)
●クリストファー・ヘイズマン

02年2月15日　横浜文化体育館

８月の有明大会でヘビー級王者となったヒョードルは、続く無差別級王座決定トーナメントにも連続参戦。危なげなく順調に勝ち上がり、ヘイズマンとの決勝戦を迎えた。試合の度にその怪物性を増していくヒョードルは、この試合でもスタンド、グラウンド両方で手がつけられない暴れっぷり。あっという間にダウン２回、エスケープ１回奪い、ブッチギリの優勝。リングス最終興行で、２冠王となり、名実共にリングス最強の男となった。

しかし、ロシア勢の価値は、以前からこういったリングス内での活躍だけにとどまらないところにある。つまり、団体のメインイベンターでありながら、同時に外敵からリングスを守る防波堤の役目もはたす実動部隊であるということだ。

例えばミーシャなどは『ＰＲＩＤＥ』ができる3年以上前に、ブラジリアン柔術黒帯の強豪リマをリングス初のバーリ・トゥードルールで迎え撃ち、その後もシュートボクシング興行でブラジル・バーリ・トゥード王者メストレ・フッキを撃破。さらにＵＦＣヘビー級王者ランディ・クートゥアーに一本勝ちするなど、リングス内でのバーリ・トゥードを一手に引き受けながら、通常の試合もこなすという、誰にもできないことをやってきたのだ。ヴォルク・ハンは「私はマエダの兵隊だ」という名言を残しているが、ミーシャの闘いぶりは、まさに兵士としてリングスに身を捧げたと言っていいだろう。

ＫＯＫスタート後も、ロシア勢はコピィロフが柔術世界王者を秒殺してブレイク。翌年はヴォルク・ハンまでもが他流試合に積極的に出場、39歳にしてあのノゲイラと真っ向勝負を展開する名勝負を残している。

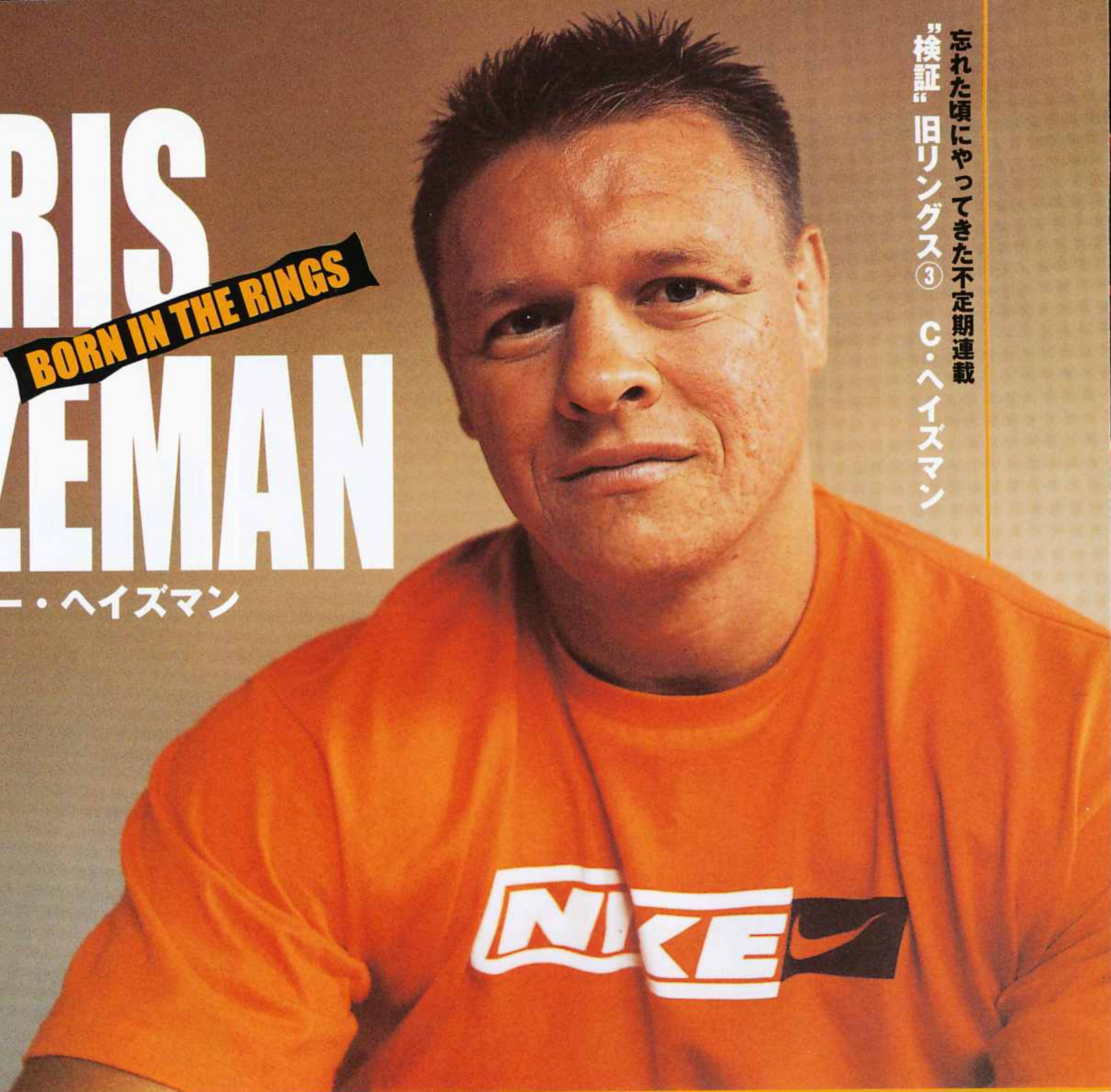
そして、ハン、コピィロフ、ミーシャら第1世代が体力的に衰え始めると、今度はすかさずヒョードル、アターエフら新世代の怪物をリングスに送り込む。まさに、リングス・ロシアは10年間リングスを支え続けてきた兵隊だったのだ。

2月のリングス活動休止以降、その兵隊達が闘う場所が失われている。いまこそ、リングスが誇る最強の実動部隊、ロシア軍が大きく羽ばたくところが見たい！

忘れた頃にやってきた不定期連載
〝検証〟旧リングス③　C・ヘイズマン

CHRIS HAZEMAN

BORN IN THE RINGS

クリストファー・ヘイズマン

——昨日は『プレミアム・チャレンジ』という初めての大会でしたけど、どんな経緯で出場が決まったんですか？

ヘイズマン　マエダさんがブッキングしてくれたんだよ。イベントとしてのオーガニゼーションが良かったから、機会があったらまた参加したいね。

——今後も前田さんのブッキングで、いろんな団体に上がっていこうと考えてますか？

ヘイズマン　マエダさんは、やっぱり一番最初に自分を見出してくれた人だし、駆け出しの頃、負け続けていたにも関わらず使ってくれた恩があるから今回のオファーも受けたんだけど。今後については、まだはわからないな。

——現在もヘイズマン選手は、「リングス・オーストラリア所属」ということでいいんでしょうか？

ヘイズマン　そうだよ。所属を変える必要は全然ないと思ってるし。そもそもオレのテクニックのほとんどが、リングスで培われたものだから、別にアイデンティティまで変えることはないからね。

——ヘイズマン選手は、何度かリングス・オーストラリアの興行も開催しますが、これは継続してやっていくんですか？

ヘイズマン　やりたいことはやりたいんだけど、今はちょっと難しいかな。やっぱり大会を開くのは凄くお金のかかることだし、しかもオーストラリアドルの価値がアメリカドルに対して、昔の半分になってるから、日本やアメリカから選手を呼ぶと、凄く高くついてしまうんだよ。だからしばらくは難しいかな。本当はやりたいんだけどね。

——は〜、どこも厳しいんですね。日本のリングスも2月に活動休止してしまいましたけど、そのことはいつ知りましたか？

ヘイズマン　いや、知ったのはみんなと一緒さ。別にオレだけインサイダー情報なんてなかったよ（笑）。12月の大会のあとにFAXが届いて、正式には2月に日本に行ったときにマエダさんから「これで最後だ」って言われたんだ。

——「これで最後」と言われたときはどう思いました？

ヘイズマン　マエダさんには「悪いな」って言われたけど、オレは別に活動休止が悪いとなんか思ってなかったよ。だって10年という年月はもの凄く長いだろ？　『PRIDE』よりUFCより長く続けてきたんだから、この辺りでクローズしても仕方がないというか。逆に10年もの間、毎月のように大会を開催し続けたことについて「なんて凄いイベントだったんだ」と思ってるくらいなんだ。

——確かにそんな総合格闘技イベントは、世界中探してもないですよね。

ヘイズマン　だろ？　だから終わってしまったことについては、もちろん寂しいけれど、別に悲観的にはなってないし。マエダさんには「ご苦労さま」「いままでありがとう」という気持ちしかなかったよ。

——リングスはここ2年くらい、トップ選手が次々と『PRIDE』に転出していましたけど、それについてリングスに残って闘っていた選手は、どのように感じてましたか？

ヘイズマン　オレはそんなに嫌じゃなかったよ。『PRIDE』というフィナンシャル（財政）の強いところに選手が流れるのは仕方がないことだし、オレにしてみれば「アイツがいなくなったなら、オレにチャンスが回ってくるはずだ」って、いい方法に考えていたからね（笑）。

——ああ、なるほど。実際、第2回K

リングスルールを**とやかく**言う奴は、エスケープを奪った時の**歓声を聞いたこと**が**ないんだろうな**

5・6『プレミアム・チャレンジ』で快勝! 次なる標的はUFCのティト! 「PRIDE」のアローナ!

タリエル、ハンと続き、忘れたころにやってきた「検証・旧リングスシリーズ」の第3弾。今回はリングスでデビューし、実力をつけ、最終興行のメインまで努めた、文字通り「生まれも育ちもリングス」のヘイズマンが登場。リングスと共に歩んだ6年間を語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ
撮影／松本崇
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

ＯＫぐらいから、"ブラジリアン・キラー"なんて呼ばれたりして、ぐんぐん頭角を現してきましたよね。

ヘイズマン　オレはもともと柔術のバックグラウンドがあるから、基本的にブラジリアンと闘うことは、全然問題なかったからね。ただ、グスタボ・シムに負けた（01年8月11日有明コロシアム）のだけは例外にして欲しいんだ。あのときは通常１００キロ近くあった体重を90キロまで落とさなきゃならなかったから、体調が最悪だったんだ。93キロぐらいなら落とせるけど、やっぱり90はキツいよ（苦笑）。だから今後はＵＦＣのライト・ヘビー級で闘ってみたいんだ。ティトとかチャック・リデル。あの辺の奴らとなら体格も合うし、エキサイティングな試合ができると思うからね。

——では、この辺で、リングスに初めて参戦してから現在までを振り返ってもらいたいと思います。まず、95年からリングスに上がるようになったわけですけど、当時、総合格闘技のプロモーションは日本のリングス、パンクラス、そしてアメリカのＵＦＣなんかがありましたけど、それらのプロモーションはご存じでしたか?

ヘイズマン　いや、全然知らなかったよ。ＵＦＣなんかは日本に来てビデオを見せてもらって初めて知ったくらいだからね（笑）。

——そんなに疎かったんですか（笑）。

ヘイズマン　当時、オーストラリアにいたらそんなもんだよ。だからオレはリングスでの最初の相手がミーシャだったんだけど、周りは「相手はロシアのケージファイト王者だ」なんて騒いでいたけど、そもそもオレはＵＦＣすら見たことがなかったから、「ケージファイトなんて言われてもしらねぇよ」っていう状態だったよね（笑）。

——となれば、もちろんコマンド・サンボなんて知るはずもなく（笑）。

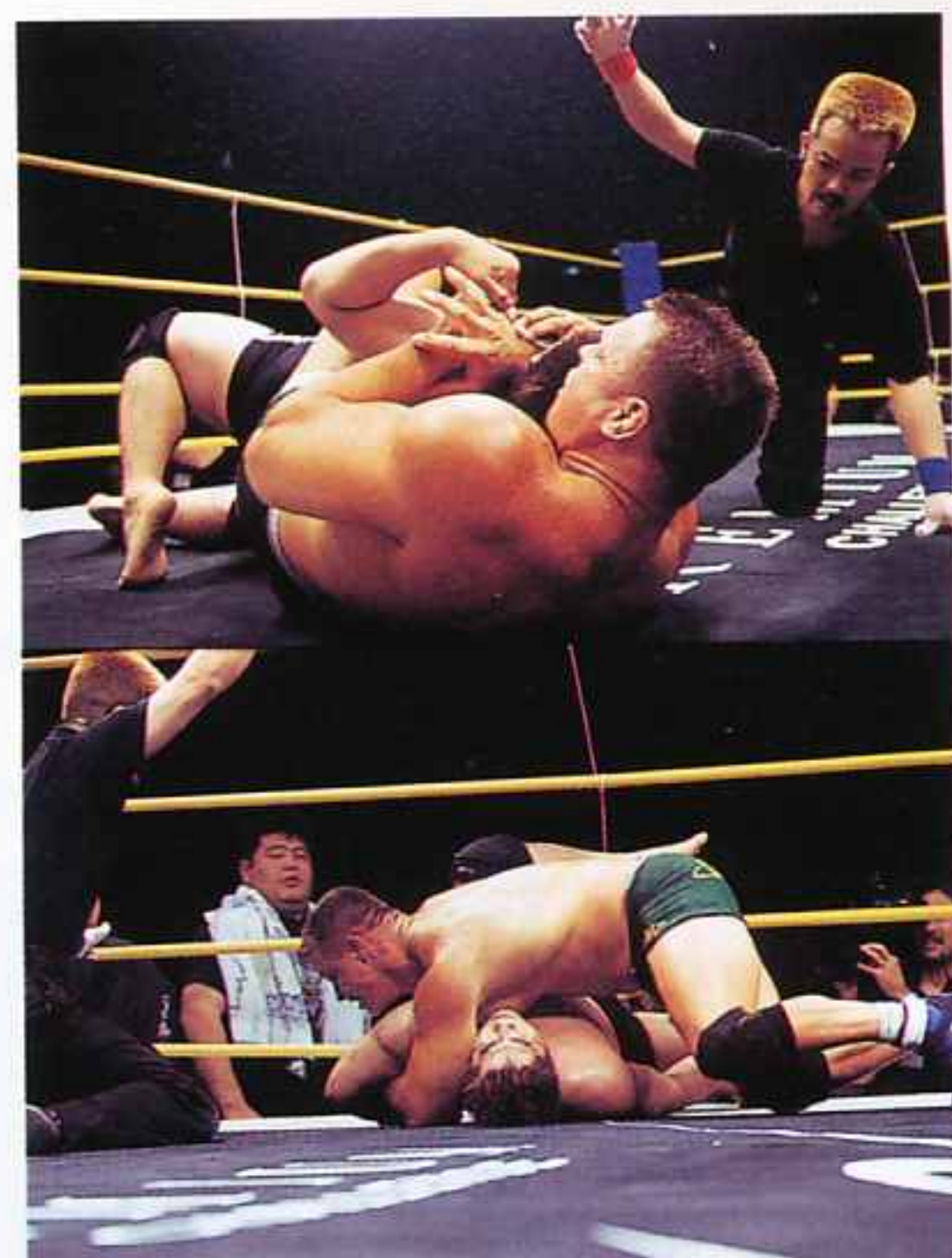
ヘイズマン　そう（笑）。オレがオーストラリアでやっていた柔術は、パンチもキックも投げも関節技もあったから、柔術着がなくなる以外はリングスも変わらないと思ってたんだけど、ミーシャに初めてアキレス腱固めを掛けられたときは、「こんな技があるんだ!」って驚いたよ（笑）。

——足関節はなかったんですね（笑）。そのオーストラリアでやっていた柔術というのは、フランスなどで盛んな柔道と空手を合わせたような競技と同じものなんですか?

ヘイズマン　そうそう。オレの父親が75年から92年まで、君の言うフランススタイルの柔術チャンピオンだったんだ。だからオレは子供の頃から柔術を習っていて、その後いまのトレーナーであるビル・ターナーが、警察官が学ぶ正当防衛のコーチもやってて、彼と毎日実戦を想定したハードなレスリングを続けていたから、リングスに上がる前から自分なりのトータル・ファイトを確立していたんだ。

——では、オーストラリアのフリーファイトっていうのは、ヘイズマン選手がパイオニアなんですね。

ヘイズマン　それは間違いないね。そもそもオレがマリオ・スペーヒーとやった97年のケージファイト（97年3月22日『オーストラリアンＵＦＣ』トーナメント。ヘイズマンは準決勝でエルヴィス・シノシックを破り、決勝でスペーヒーに敗れている）が、オーストラリアで初めて開催された総合格闘技のショーだったからね。オーストラリアではオレがホントのパイオニアであることは間違いないよ。

——オーストラリアのファイターというと、リングスにも上がったことがあ

5・6NKホール　2・15リングスラスト興行でのヒョードル戦以来3ヶ月ぶりの試合となるヘイズマンは、さまよえるリングスファンの熱い声援を受け登場。サンボ全日本王者の実績を持つ小澤幸康を相手にいきなりスリーパーでホールドポイントを奪い、その後もローキックを中心に攻め、最後は危なげなく得意のアームロックでタップを奪った。

り、今、UFCで活躍してるエルヴィス・シノシックも有名ですけど、彼とはどんな関係なんですか？

ヘイズマン　別にどんな関係ってこともないなぁ（笑）。オレとエルヴィスは同じオーストラリアでも、住んでるところが凄く離れてるから、一緒にトレーニングしたりってことはないしね。でも、アメリカなんかでエルヴィスが「オーストラリアでナンバーワンのファイターだ」なんて言われていると聞くと、ちょっと「う〜ん」となるけどね（笑）。

──ホントのナンバーワンはここにいるだろう、と（笑）。

ヘイズマン　そうさ。エルヴィスは海外での試合の経験なんか数回しかないのに、オレは日本を中心に40試合以上もやってるんだよ。しかもオレはアイツに勝ってるしね。それなのになんでオレがUFCに行けなくて、アイツが行けるのかって言うと、エルヴィスは口が達者なんだよ（笑）。

──試合以外の実力がものを言ってるわけですね（笑）。

ヘイズマン　ただ、これは言っておきたいんだけど、エルヴィスとは別に個人的に悪い関係はなにもないから、「オーストラリアに2人のビッグネームがいる」ってことで、オレはいいんじゃないかなって思ってるけどね。それでもエルヴィスがナンバーワンというなら、ためしにティトとやらせてほしい。オレの方は用意は出来てるんだから。

──エルヴィスのいるUFCのライトヘビー級でトップとしてやれる自信はあると。

ヘイズマン　もちろんあるさ。すでにティトの攻略法も考えてあるんだ。

──もうできてますか（笑）。ちなみにどんな作戦なんですか？

ヘイズマン　ティトとやるなら、基本的には立ち技で勝負したいね。寝技になって強いパウンドをやられたら、やっぱりキツイからね。でも、ティトは3分やったら段々弱くなっていくだろ？　そうしたら、そこから後はオレのテクニックが活きてくるだろうから、最初の3分間を耐えれば勝機は十分ある。……でも試合が組まれないことにはどうしようもないけどね（笑）。

──ティトに勝つより試合にこぎ着ける方が大変そうですね（笑）。ところで、話をリングスに戻したいんですけど。初参戦した95年当時はリングスにロープブレイクがありましたけど、あのルールにはどんな印象を持ちましたか？　なかなか海外の選手には理解されにくいみたいですけど。

ヘイズマン　いや、オレにとっては、リングスという新しいことをやって、それを学べるんだから苦にはならなかったよ。逆にあの頃はお客さんも多かったし、エキサイティングで試合をするのが楽しかったしね。まぁ、エスケープルールを否定するヤツは、エスケープを奪ったときのあの歓声を聞いたことがないんだろうな。

──エスケープルールでの快感を知らないだけだろう、と。

ヘイズマン　そう。それにエスケープがあることによって、当時はいろいろな技を試すことができたから、自分の技術を大いに広げることができたしね。だから、あの時期がなかったら、逆にオレはKOKに対応できなかったんじゃないかと思う。

──来日した当初って、サイドキックとアームロックだけの選手みたいな印象があったんですけど、ずいぶんスタイルが変わりましたもんね。

ヘイズマン　あ〜、確かにサイドキックとアームロックだけだったよな（笑）。あれがオーストラリアの柔術スタイルなんだよ。それからいろんな細かい技術を少しずつコンバインしていって、いまのスタイルが出来上がったんだ。

──旧リングスルール時代には、ヘイズマン選手の他にもリングスには有望な若い選手が多数いましたけど、ほとんどの選手がそのまま消えていってしまいましたよね？　それなのにあなただけどんどん上に登っていけたのは、どんな理由があると思いますか？

ヘイズマン　それはやはり小さなことだけど、試合のビデオを何度も何度もよく観て、きちっと勉強していたから、

VS カーロス・バヘット
（00・12・22　大阪府立体育会館）

本文中で語るヘイズマン心のベストバウト。ノゲイラ出現前のヘビー級B柔術家のトップ、バヘットを相手に、ローキックを中心とした闘いで柔術を使わせず、大金星の判定勝ちを収めた。

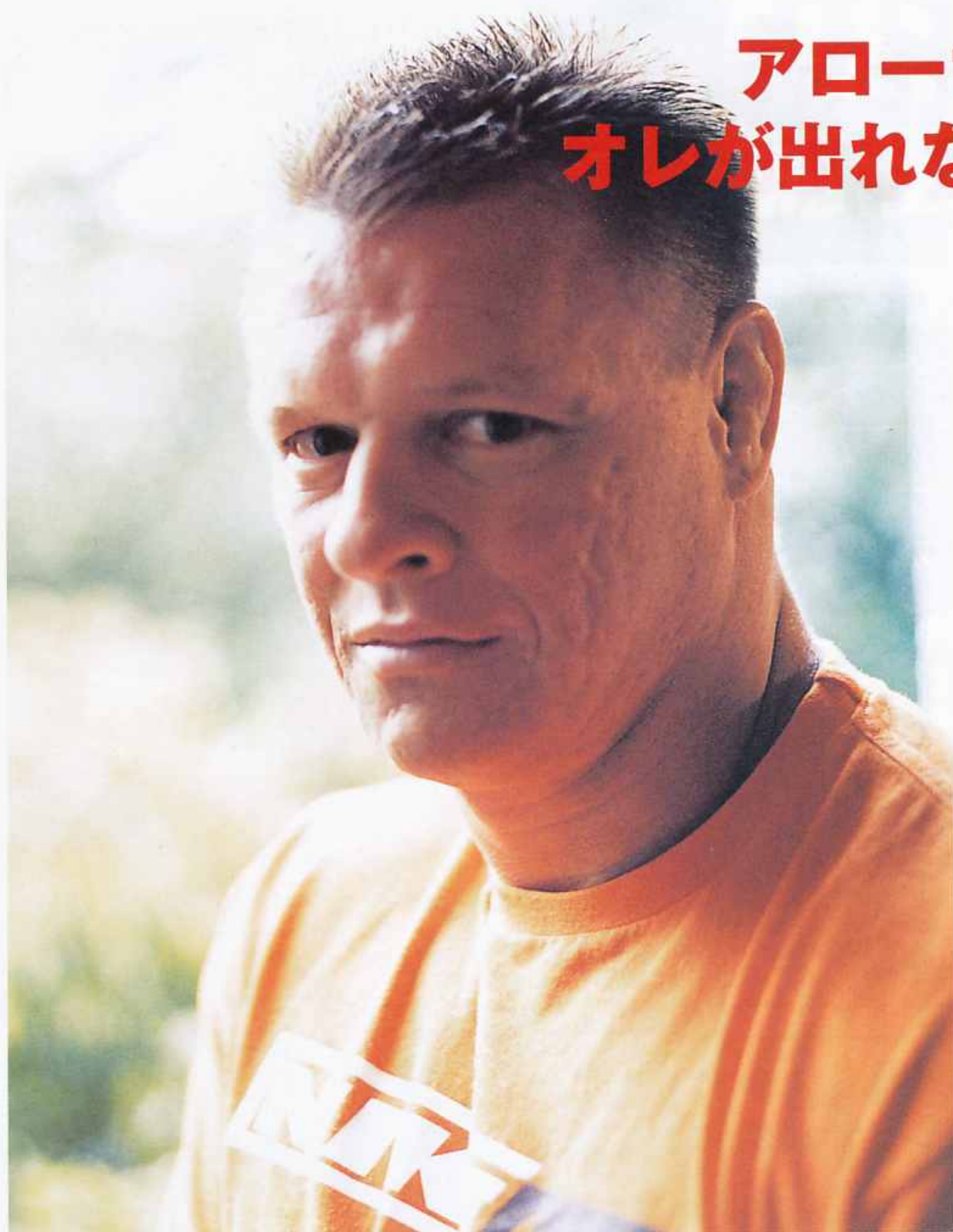
VS 高阪剛
（99・12・22　大阪府立体育会館）

第1回KOK1回戦。ヘイズマンは新ルールに戸惑う選手が多い中、その本領を遂に発揮。TK相手に寝技で真っ向から渡り合い、延長で敗れるも、本戦ではTKを上回る闘いを見せ、一気に評価が上がった。

VS アレクサンダー大塚
（97・10・14　後楽園ホール）

ヘイズマン自身がもっともタフな一戦と語る、旧リングスルールでのアレク戦。攻めるクリス、粘るアレクという消耗戦の末、18分10秒レフェリーストップ勝ちで半年前の借り返したアレクの出世試合となった。

ミスターリングス
C・ヘイズマン
BEST BOUT SERECTION

アローナがPRIDEに出られて オレが出れないのは納得できないよ

オレは成長出来たんじゃないかな。例えばボリス・ジュリアスコフなんかは素晴らしいレスリング技術をもっていたけど、あまり他の技術を学ぼうとはしていなかった。昔はそれでよかったかもしれないけど、それじゃ勝てないよ。ブラジリアン柔術だって、昔は下になってもガードポジションの方が有利だなんて言われていたけど、いまはパンチでやられてしまうからね。だからオレがここまでやってこれたのは、コツコツと常に新しい技術を身につけようと心掛けていたからだと思う。

——だからこそ、旧リングスルールからKOKルールへの急激な変化にも対応できたわけですね？

ヘイズマン　そうだね。それに当時はちょうど友達のサム・グレコたちと一緒にキックボクシングに力を入れていたときだから、スタンドのパンチがOKになっても、オレ自身はそれ程ギャップを感じなかったんだ。

——それでも多くのリングスファイターたちがKOKに苦戦している中、すぐに対応できるというのはそれだけセンスがあるんでしょうね。

ヘイズマン　いや、それはセンスの違いじゃないよ。新しいことを始めるときに、白帯からスタートする覚悟があるかないかの違いだと思う。変革を求められたときに、下からでも始められる意識を持っていれば、パッと移れると思うからね。だからKOKについてこれなかったヤツは、どこかに「俺はこれだけの実績があるのに、なんでKOKルールで1から始めなきゃならないんだ」みたいな考えがあったから、いつまで経ってもアダプト出来なかったんじゃないのかな。

——旧ルールで実績があったプライドが邪魔してしまうんでしょうかね。

ヘイズマン　旧ルールというより、リングスを始める前にやっていたレスリングや柔道のバックボーンが邪魔しているんじゃないかな。旧ルールでの経験はKOKやバーリ・トゥードをやる上で、オレ自身は凄く役に立っているからね。エスケープルールでやっていたからこそ、いまでも面白い試合ができると思うし。グラウンドでの動きから動きへの繋ぎ方なんかは、よりハードなスタイルにもアダプト出来るから、オレにとって旧スタイルとKOKの両方を勉強したことが、もの凄く役に立ってるんだ。

——へ～、そういうものですか。ちなみに旧スタイルの時に、一番お手本にしていたファイターって誰でしたか？

ヘイズマン　TKだね！　彼はグラウンドでクルクル回って、腕を取ると見せかけて足首をパッと極めたりしたあの動きは衝撃的だったよ。それからヴォルク・ハンの変幻自在のテクニックはとにかく素晴らしかったし、ミーシャのテクニックにパワーをプラスしたスタイルも参考になった。そして前田さんには、いつも試合が終わってからアドバイスをしてもらったし、そういう点では彼らからは随分いろんなことを学んだよな。

——リングス参戦してきた初期の頃は、前田道場に留学したこともあるんですよね？

ヘイズマン　そうだよ。マエダさんからキムラロックやレッグロックを教えてもらったね（懐かしそうに）。

VS エメリヤーエンコ・ヒョードル（02・2・15　横浜文化体育館）

リングス無差別級トーナメントの決勝戦。そして第1次リングスのラストマッチとなったこの試合。ヘイズマンはリングスが生んだ最強の怪物相手をぶん投げるなど、善戦するも圧倒的な圧力にポイントアウト負け。

VS エギリウス・ヴァラビーチェス（01・12・21　横浜文化体育館）

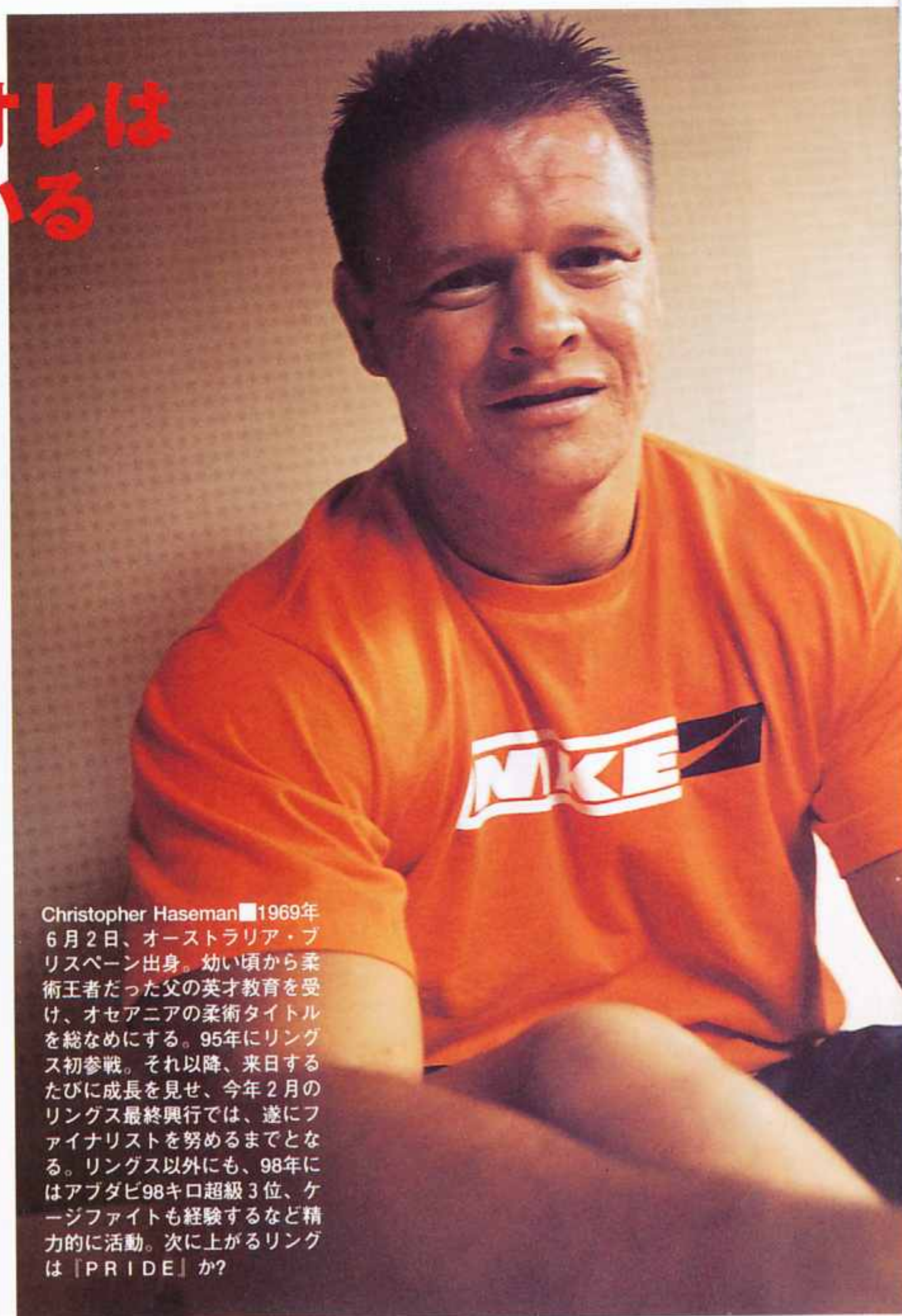
無差別級トーナメント1回戦で滑川をKOし、一躍台風の目に踊り出た、リトアニアの新星に対しプロの厳しさを教えるがごとく完勝。スタンドでローキック、グラウンドで腕十字を取る横綱相撲だった。

VS グスタボ・シム（01・8・11　有明コロシアム）

リングスミドル級トーナメント準決勝。この頃から"ブラジリアンキラー"と呼ばれ始めたが、この日はシムに寝技につき合わないというバペット戦での自身の作戦を実践され、延長Rまで闘った末、判定負け。

VS アレシャンドリ・カカレコ（01・6・15　横浜文化体育館）

あのヒーリング、バババルを破ったこともある、ルタリーブリの喧嘩屋と対戦。この年のアブダビで3位の成績を上げたカカレコに、なんとわずか1分56秒、フロントネックロックで秒殺一本勝ち。

意外かもしれないけど、オレはミーシャを一番尊敬している

Christopher Haseman■1969年6月2日、オーストラリア・ブリスベーン出身。幼い頃から柔術王者だった父の英才教育を受け、オセアニアの柔術タイトルを総なめにする。95年にリングス初参戦。それ以降、来日するたびに成長を見せ、今年2月のリングス最終興行では、遂にファイナリストを努めるまでとなる。リングス以外にも、98年にはアブダビ98キロ超級3位、ケージファイトも経験するなど精力的に活動。次に上がるリングは『PRIDE』か?

――でも、あの道場に留学は、相当キツかったんじゃないですか?（笑）。

ヘイズマン　嫌なこと思いださせるなぁ（笑）。初日にスクワット1000回とダッグウォークをやらされて、「明日はもっとやるからな」って言われたときは、絶望的な気持ちになったよ（笑）。

――アハハハ！　やはり日本式道場の洗礼を受けましたか（笑）。

ヘイズマン　それと練習もキツかったけど、もっと大変だったのは食事の問題だね。オレはどうしてもチャンコが食べられなかったんだよ（笑）。それで5キロも痩せちゃってね。しかも道場は昼も夜もチャンコなんだよな（苦笑）。もうそれが嫌で嫌で、オレだけよそで食べるようになったよ。

――練習でしごかれて、食事も合わないんじゃ散々でしたね（笑）。

ヘイズマン　でも、道場の環境は素晴らしかったよ。プロとアマの違いもあるけど、オーストラリアだと、昼間に仕事があって夜に練習って感じだけど、日本だとフルタイム練習出来たし。ムエタイのトレーナーに立ち技を習った後、すぐに今度はレッグロックを学べたり、強くなるための環境が全部整っている。しかも日本は格闘技だけで食べていけるんだから、つくづく恵まれてるよ。

――日本にいると実感はないですけど、やはりそうなんでしょうね。6年間日本で闘ってきたベストファイトは何でしたか?

ヘイズマン　（即座に）カーロス・バヘット戦（00年12月22日、第2回KOK1回戦）だね！　彼とは身長差16センチ、体重差14キロもあったけど、彼がとにかくグラウンドで勝負しようとしていたことはわかっていたから、オレはコーナーを上手く使ってテイクダウンを防いで、パンチとローキックで攻める作戦を立ててたんだ。それがものの見事に上手くいって勝てたんだから最高だったよ！

――その最高だったという中には、ブラジリアン柔術の大物に勝てたという喜びも、やはり大きかったんじゃないですか?

ヘイズマン　もちろんそれも理由のひとつだけど、それだけじゃないんだよ。実はオレが96年に初めてバーリ・トゥードを経験した『MARS』（96年11月22日）という大会に彼も出場していたんだけど、そこでオレは彼の試合を見ながら「こんなヤツには絶対に勝てないな」と思ってたんだ。それが5年後には本当に同じリングに立って、しかも自分の思い通りの試合展開で勝てたんだぜ！　5年間リングスで頑張ってきた結果が、あの勝利だと思う。

――いや～、いい話ですねぇ。

ヘイズマン　あの試合を始めとして、その後カレコに勝ったり、無差別級トーナメントの決勝まで行ったり、いまのオレはファイターとして全盛期だと思う。だからこそ、とにかく試合がしたいんだよ。UFCや『PRIDE』に出られるなら相手は誰でもいい。オレは膠着したりするような退屈な試合はやってないだろ?　やらせてくれればいい試合をする自信はあるから、ゼヒ出してほしいよ。

――昨日の試合後に「ヒカルド・アローナとやりたい」と言っていましたけど、なぜアローナなんですか?

ヘイズマン　オレは本気でアローナとは同じくらいのレベルだと思っているからだよ。実力は同じレベルで、オレの方が日本で長くファイトしていて、しかもオレの方がエキサイティングなファイトをしてるのに、なんでアローナが『PRIDE』に上がれてオレが上がれないのか、納得がいかないよ！

――う～ん、やっぱりアローナは「アブダビ2連覇」という金看板があるからじゃないですかね。

ヘイズマン　アブダビだってオレはアローナが出場する以前に、彼より上の階級で3位になっているんだ。オレが劣っているとは思わない。それを証明するためにもアローナと闘いたいね。もちろん他の選手だって構わないよ。

――前田さんが、「第2次リングスを来年やりたい」と言ってるんですけど、それはご存じですか?

ヘイズマン　その話は知ってるよ。今回も「辛抱してくれ」って言われたからね。前田さんも非常に慎重に進めているのは分かるから、開催されるならもちろんやりたいよ。オレにとってマエダさんはロイヤルだから。その気持ちは格闘技を続ける限り、ずっと待ち続けるつもりなんだ。他のヤツはマエダさんに有名にしてもらったことを忘れているかも知れないけど、オレはマエダさんが恩人であることを絶対に忘れないから！

――では、最後にヘイズマン選手が一番尊敬するファイターは誰ですか?

ヘイズマンン　意外に思われるかも知れないけど、やっぱりミーシャだね。

――ミーシャですか！　それはどうして?

ヘイズマン　彼の闘いに対する姿勢が素晴らしいと思うんだ。彼は本当に強い実力者でありながら、どんな試合が組まれても、どんな相手と組まれても立ち向かっていく。その結果、試合に負けてしまってもクヨクヨしないで、また次の闘いに向かっていく。"アイ・オブ・ザ・タイガー"とか"ハート・オブ・ライオン"っていうのは、彼のためにある言葉だよ。いつもオレはそんな彼の姿を見て、尊敬しているし、目標にしているんだ。

【02年5月7日／都内・某ホテルにて収録】

CHRIS HAZEMAN
BORN IN THE RINGS

PREMIUM CHALENGE
5・6東京ベイN.Kホール

好勝負続出の「下克上バウト」次回は「リングス・コリア」として開催か？

構成／堀江ガンツ
撮影／吉澤晃
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

これまで『クラブファイト』や『タイタン・ファイト』などを開催し、格闘技の新たな可能性を追求してきた趙氏がプロデュースする新格闘イベント『プレミアム・チャレンジ』。その第1回大会が5月6日、東京ベイNKホールで行われた。

この『プレミアム』の試合コンセプトは、権威の象徴「ガーディアン（守護者）」と新勢力「エクスプローラー（探求者）」の闘い。つまり有名選手と期待の選手の闘いで、探求者の必死の姿を見てもらおうというもの。

これに象徴されるように、得てしてアマチュア競技のようになりがちな総合格闘技大会であるにも関わらず、最大限客席を意識したルール、舞台装置を設けた意欲的な大会なのである。

そのため、観客数こそ寂しかったものの、見に来たファンにはおしなべて好評。"足関十段"今成や、近藤を破った百瀬など、ニュースター誕生の産声を上げさせただけでも、今大会は成功と言えるだろう。次はもう少し小規模な会場での第2段大会にゼヒ期待したい。

パンクラスにまたしても百瀬の壁!! 近藤よエクスプローラーたれ!

百瀬のマウントパンチの連打に禅道会応援席は大騒ぎ！ おそらくこの印象点が勝敗をわけたのだろう。

カウンターのヒザ蹴りをグサリと突き刺すなど、スタンドでの圧倒的な強さは目立った近藤。

序盤、2度に渡って近藤をジャーマンで投げ捨てた百瀬。スープレックスはパンクラス共通のの弱点か？

パンクラス3・30後楽園大会で、『ＰＲＩＤＥ』参戦を控え日た美濃輪と、勝ちに等しいドローを演じ、一躍ファンにその名を馳せた百瀬が、パンクラスのエース近藤と対戦。柔道で培った腰の強さで近藤にペースを握らせず、判定勝ちの金星を上げた。近藤は随所に実力者ぶりを見せたが、痛い敗戦となった。思うに近藤にはまだガーディアンは似合わない、もっともっと上を狙うべき存在だからこそ、大きな敵に立ち向かわせるべきだろう。

○百瀬善規（時間切れ判定 2−0）近藤有己×

"足関十段"今成、鮮やかな一本勝ちで遂にブレイク！

この日、もっともブレイクしたのは"足関十段"今成。猪木―アリ状態から蹴りをキャッチして鮮やかにヒールでタップを奪った。

ヤノタク敗る! しかし、所もジャーマン不発

コンテンダーズで"これぞプロ"という名勝負を繰り広げたヤノタクと所。しかし、今回は打撃vs寝技のイマイチ噛み合わない試合に。

ミーシャ、藤井に苦しい大逆転勝利

ヒザを負傷しているというミーシャはタックルにキレがない。スタンド一辺倒の作戦である藤井にことごとくタックルを切られ、ローキックを何発も喰ってしまっている。このまま判定で藤井の勝ちかと思いきや、ミーシャがワンチャンスを逃さずネックロック葬。

○I・ミーシャ（5分45秒、フロントチョーク）藤井克久×

全試合終了後 前田日明解説員の感想

――大会の感想は？

前田 まあ、舞台裏でボーッとしないようにね。それだけは気をつけて（笑）。『東スポ』のカメラマンが来たらヤバイなって思って（笑）。まあ、ヘイズマンは危なげはなかったけどね。ミーシャはヒザを壊してたから、それがちょっと心配だったけど、組んで捕まえたら問題ないだろうと思ってたけどね。

――全体的な感想については。

前田 う～ん、やっぱり見てわかる通り、興行って厳しいんだよね、正直言って。で、無名の選手にチャンスをあげるっていうのもわかるんだけど、やっぱり、それで切符を買いに来るかって言ったら厳しいよね。でも、趙（プロデューサー）君と話をしててね、韓国で総合系（の大会）を始めようと。選手の発掘も含めて。韓国でちょっと盛り上げてね、また、日本にやアメリカに行ったりとか、そういうのを俺が提案してるんだけどね。

――リングス・コリアですか？

前田 どういう名前になるかわかんないけどね。まあ、名前なんてなんだっていいよ（笑）。

――今後もこういった形で元リングスの選手がほかの団体で活躍していく予定ですか？

前田 しばらくはね。ＤＥＥＰからはハンを貸してくれないかって話をしてる。まだ、決定してないけどね。

――一部雑誌にロシア勢が『ＰＲＩＤＥ』に出るという記事が出てましたが。

前田 あれは通訳が全然ダメでね。内容が全然違うんですよ。まだ、どの部分も白紙なんですよ、正直言って。まあ、選手にとっていい契約であれば、やればいいと思うんですけど。正直言ってなんか、ちょっと違うんじゃないかっていう感じの人が業界内に結構いるんで、そういう人間たちから守ってあげたいんですよ。ここぞとばかりにいろんな人間が動いているようですけど、いまはまだなにもないですね。俺の方はボチボチやってますよ。年内は興行をやるとかっていうのは考えてないんで。その前にしっかりした基盤を作りたいんで。いずれ発表できるようになったら、お知らせしますよ。

――将来有望な選手はいましたか。

前田 目についたのはケンドウカイ……。

――あの……禅道会です。

前田 あ、禅道会。あの選手たちが面白いなって思ってね。なかなかしっかりした人たちがいるなみたいなね。全然知らなかったからね。近藤君はメインでやられちゃったけど、いつもの精彩さが…ちょっと元気がなかったね。体調でも悪いんじゃないかね。でも、近藤君みたいな選手はもっと大事に使ってあげたらいいのにと思うんだけどね。選手っていうのは短い間にどのくらいやれるかって問題もあるし。腐って試合をするのと、よしと思って試合をするのとじゃ全然違うからね。だから、その部分を周りの人たちが考えていったらいいんじゃないかなって思ったりするんだけどね。ちょっと見ていて可哀想だったね、辛い。

"UFC37 - High Impact-"
2002年5月10日(金)
米国ルイジアナ州ボザーシティー
・センチュリーセンター

勝者以外には何もやるな

WINNER TAKES ALL というUFCのグローバル・スタンダード

TK敗れる！　自らにケジメをつけるため、99年11月以来、2年半ぶりにUFC復帰をはたしたTKだったが、13キロ重いリコの圧力に完敗を喫してしまった。はたしてこれからTKはどこへ行くのか？　現地取材リポート。

TEXT & PHOTO／井田英登（BoutReview）
design by Isamu Ebisawa（ZERO graphics）

キリマンジャロは、高さ19710フィートの雪におおわれた山で、アフリカ第一の高峰だといわれる。その西の頂きはマサイ語で「ヌガイエ・ヌガイ」（神の家）と呼ばれ、その西の山頂のすぐそばには、ひからびて凍りついてた一頭の豹の屍が横たわっている。そんな高い所まで、その豹が何を求めてきたか、今まで誰も説明したものはない。

アーネスト・ヘミングウェイ「キリマンジャロの雪」（龍口直太郎訳　角川文庫）

世界のてっぺんから三番目。

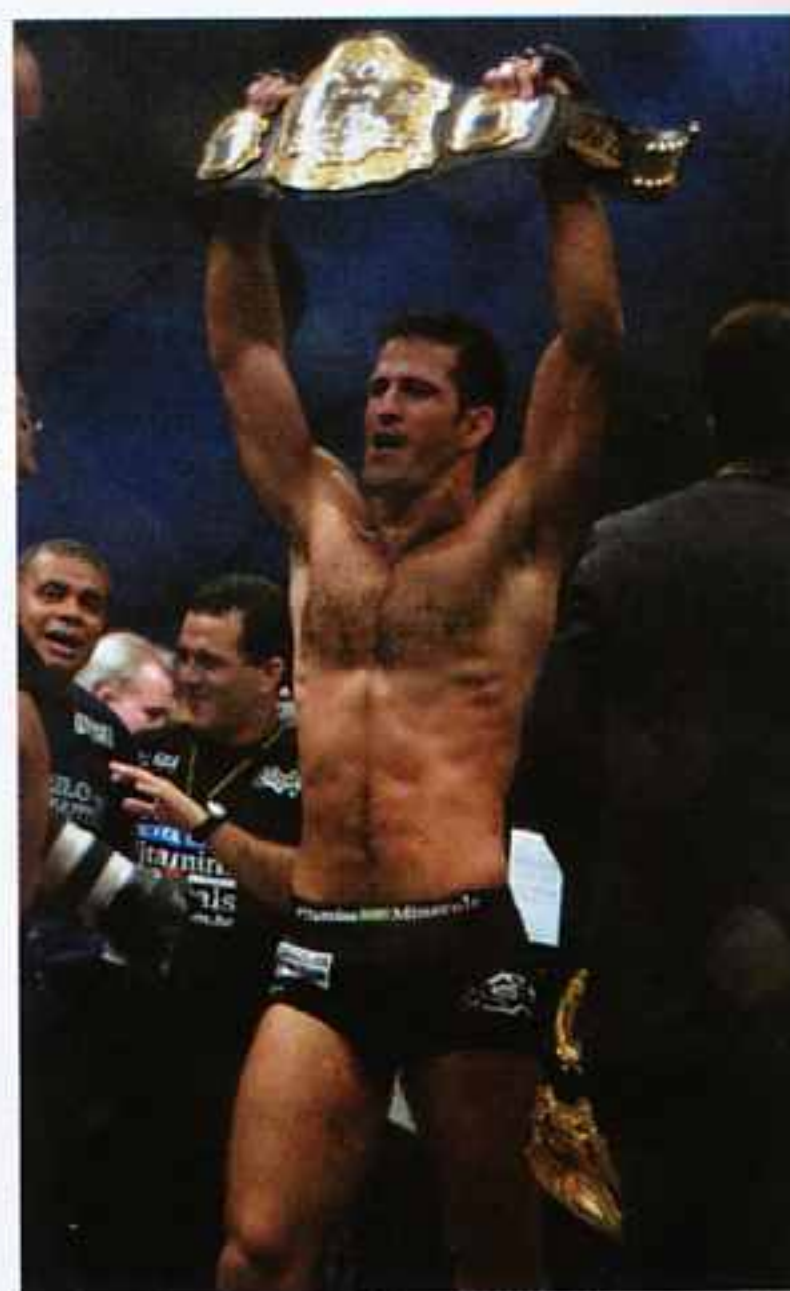
まず、それがどんなに凄いことかは、あらゆるオリンピック競技でも、サッカーのワールドカップでも、大リーグでもいい、世界トップ水準で闘っている日本人スポーツ選手を軸にして考えてみれば一目でわかる事実だ。イチロー、野茂、新庄、中田、小野・・競技は違っても彼等の闘うフィールドは、みなグローバルな世界市場の真ん中である。世界中のファンが彼等の一挙動一投足に目を見張る。世界の頂点のアスリートである恍惚と不安。莫大な収入と峻厳な批判の嵐。彼等の身を置いている場所はそんな暴風のまったたなかだ。

無論、日本ローカルで一番を張ることも決して楽ではないだろう。しかし、日本のスポーツ市場はやはり保護されている。いくら強い外敵によって序列を席巻されても、生活さえ脅かされるといった危険はまずない。逆に、日本市場に居るかぎり、その中で遮二無二一番を目差す必要もないのだ。身内意識、ナショナリズム、単におなじみに対する贔屓でもいい。要するに、日本の枠のなかに居るかぎり、結果を出せなくても一定水準の「仕事」は確保される。格闘技の世界でも、淘汰の競争の激しさに身を晒すことなく、そんな状況に胡座を掻いている選手を僕らは山ほど見ている。まして、高阪ほど"腕の立つ"なら、日本での職場には事欠くことはない。たしかにリングスはなくなった。だが、『PRIDE』、DEEP、K-1と"稼げる"格闘技イベントはいくらでもあるのだ。

それでも、高阪はUFCを選んだ。

それはUFCが、総合格闘技のメジャーリーグだからだ。1993年に発足して以来、常にトップの人材がオクタゴンには集まってくる。この場所では、人気も個性も生き残りの材料にはならない。契約は常にワンマッチ。勝てば契約継続。負ければ明日の保証は

ない。強さ以外の身分保証の材料はないのだ。
　競争社会アメリカの身も蓋もない淘汰主義——この場所の明快さは他に比べようもない。しかし、それがＵＦＣのブランド力でもある。ＵＦＣという場所のトップに立つことの過酷さが、そのまま世界トップの称号を保証するからだ。ほとんどアマチュアリズムに近いストイックさがあるといってもいい。競技者にとって揺らぐことの無い絶対の価値を与えれる事は、金には換えられない価値を、いや、その後自分を売るための"金に換えていける価値"を選手に与えるのだ。
　高阪のＵＦＣ戦績は通算三勝三敗。タイトルマッチゼロ。これだけ見れば、いいところ中堅選手以上の戦績ではない。ただし、その中には王座挑戦権を賭けた試合が二試合含まれている。要するに、チャンピオンの次期挑戦者決定戦を二回闘ったことがあると言う意味だ。
　99年シーズンの最初と終わりに、高阪はバス・ルッテンとペドロ・ヒーゾを相手にそれぞれ二回、この王座挑戦権試合を闘っている。結果はどちらもＫＯ負け。高阪は結局世界トップには届かなかった。冒頭に書いた"世界のてっぺんから三番目"と言うのは、そんな高阪のポジションを現している。
　ＵＦＣがオリンピック競技であれば、銅メダルをもらって表彰台に立てるポジションである。はっきり言って、凄い。しかし、三番目は三番目だ。格闘技はWINNER TAKESALLの世界であって、三等賞にタイトルはない。
　今回の一年半ぶりのオクタゴン復帰にあたって、高阪に与えられたポジションは、またもや王座挑戦権決定戦。いわば三位からのリセットだ。しかし、今回も彼はその先に進めなかった。ＴＫシザースを駆使して、マウントを取ったアブダビ99キロ超級の王者をコロコロとひっくり返した"足さばき"まさに名人芸。会場も良く湧いた。しかし、泥臭く徹底した低空タックルと13キロの体重差を活かしたリコの勝利への執着は、それさえもねじ伏せてしまった。リコが見せた「徹底した勝負への執着」が、紙一重の勝敗を分けた気がする。
　三位と一位の差。
　その壁を越えた人間たちにはそれぞれの進路が開けている。
　高阪を破ったリコは、７月のロンドン大会での王座挑戦がほぼ確実となった。対戦相手として現王者のジョシュ・バーネットではなく、元王者ランディ・クートゥアを希望している。ジョシュがドーピング疑惑で王座が剥奪される可能性が高くなったからだ。「ジョシュは『ＰＲＩＤＥ』へ行ってノゲイラとやるんだろう？　じゃあベルトは俺のものだ。奴とやるのはそれからで十分だ」と言ってはばからない。総合格闘技の金メダルを目の前にして、ハングリーさを剥きだしにしたリコの勢いはホンモノになりつつある。やり玉にあがったジョシュも、『ＰＲＩＤＥ』行きの可能性を否定しない。「ＵＦＣのチャンピオンは、まだ僕だ。もしベルトが剥奪されるなら、『ＰＲＩＤＥ』でノゲイラと闘う準備はあるけどね」。頂点を極めれば、どんな道も選択可能だということである。しかし、「オクタゴンの中に忘れ物がある」そう言って日本を後にしてきた高阪に退路はない。次の試合は未定。ポジションはもちろん下がるだろう。だが、このまま"銅メダル"の壁を越えることなくＵＦＣ戦績を閉じることは、そのまま自分の頂点をそこで見定めてしまうことになる。
　戻るか、踏みとどまるか。
　その選択はなおも険しいものになるだろう。だが、一度世界の最も高い場所を目指した以上、進む道は最後までてっぺんに続いていなければならないはずだ。

ブラジリアン・トップチームの重鎮、ムリーロ・ブスタマンチがメインに相応しい今大会のベストバウトを見せた！　レスリングの強豪リンドランドからテイクダウンを奪い、十字でタップを奪うもレフェリーが見逃す失態。しかし、もう一度ネックロックを極め圧勝！　ブスタマンチ強し！

宇野薫は早くも４度目のＵＦＣ登場。対戦相手はかつて佐藤ルミナに18秒殺された苦い過去があるイーブス・エドワーズ。宇野はスタンドでヤノタクばりの相手に背中を見せる変則的なスタイルで相手を幻惑。結果はフルラウンド闘っての判定勝ち。

★メインイベント★
UFCミドル級タイトルマッチ5分5R
○ムリーロ・ブスタマンチ（ブラジリアントップチーム：ブラジル／王者）
×マット・リンドランド（チーム・クエスト：アメリカ／挑戦者）
3R 1:33 フロント・チョーク

★第7試合★
ヘビー級5分3R
○リコ・ロドリゲス（チーム・パニッシュメント：アメリカ）
×高阪剛（G-スクェア：日本）
2R 3'25 T.K.O.（レフェリー・ストップ：マウントパンチ）

試合後のTKコメント
「またアメリカのUFCでやりたい」

——残念でしたね。顔腫れてますけど、コメント大丈夫ですか？
高阪「負けたから、なんも言うこともないですけどねー（苦笑）」
——昨日計量の後でも、「13キロ差はキツイ」って言ってましたけど、敗因はやっぱりその辺にあったんじゃないですか？
高阪「あー、でもそれ言ってもしょうがないですからね。自分がヘビーで試合するって言ってるんだから」
——何か考えてた作戦とかはありましたか？
高阪「一発目のタックルでテイクダウンして、グラウンドで相手の感じを掴んで試合を組み立てようとはおもってたんですけどね。一発目はタックル思ったように入れて、テイクダウンも取れて。ただリコの反応が結構良かったんでね」
——確かに思った以上に早かったですね。計算違いはスピードだけでした？
高阪「そーすねー、後は・・・やーっぱり重いわ（笑）とにかく重い」
——最後のシザースなんか、効かなかったですもんね
高阪「最初の一発二発ぐらいはねえ、ちゃんと力貯めてやったから行けたんだけど、段々腕が効かなくなってきたんですね。（怪我した？）いや、あのプレッシャーで」
——今日やろうとしたことはどれぐらいできました？
高阪「あの試合のなかでは7割ぐらいはできてたんですけどね（笑）それを全部潰されましたね」
——今試合終わったばっかりで何ですけど、今後のビジョンはあります？
高阪「UFCでまだやりたいっすね。ハイ」
——さっきダナ社長に聞いたら、日本大会もやりたいんで、日本人をもっと使いたいって言ってましたからね。
高阪「そうすか、なるほどなぁ。でも日本じゃやりたくないなあ」
——というと？
高阪「いや、なんか、こっちで試合してるほうが気楽でいいわ（笑）。気楽っていうか、素で試合ができるから」

盟友モーリス・スミスと横井宏考を引き連れオクタゴンに帰って来たＴＫ。横井！　ＴＫの敵を討て！

口だけでは終わらない世界に届いた実力
観客の視線を釘付けにする魅力
泣き顔をあえてさらす人間力

魔裟斗

5・11日本武道館
WORLD MAX IMPACT MAX

カッコイイとはそういうことだ!

優勝者・アルバート・クラウスの前に涙の敗北！

構成／ジャン斉藤十さささきぃ
撮影／吉澤晃
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

ファンに対して堂々と"大風呂敷"という"夢"を広げて見せた魔裟斗は本当に立派である

男前なルックスと小生意気かつ高飛車な発言、そして憎らしいほどの強さ。そのためか、2月11日のK-1ジャパン中量級日本トーナメントでは、大本命にもかかわらず対戦相手ばかりが応援されてしまう"ナチュラル・ヒール"だった魔裟斗が、5月11日『K-1 WORLD MAX2002~世界一決定戦~』にて、観客の大声援を受けながらも、準決勝第1回戦、優勝者・アルバート・クラウスの拳の前に敗れ去った。だが、そこで観客が見たものは、ただのビックマウス男の負けなどではなく、"無謀だと思われていることにあえて挑戦していく"男の、誇り高い敗北だった。クラウスとのこの試合は、魔裟斗が最後まで勝ちをあきらめずにいたからこそ、見るものを引きつけずにいられない素晴らしい試合となった。

序盤の互いに探り合うような展開から、接近戦になった1R残り30秒、魔裟斗がクラウスのフックをアゴに食らって倒れた。優勝宣言した男の、あってはならないダウンに、会場が驚きに包まれ、女性ファンの悲鳴が上がった。これまで危なげなく勝利してきた魔裟斗の倒れる姿は衝撃的だった。魔裟斗の闘ってきた選手たちの、本当の強さが見えるようだった。「今回も楽勝じゃないですか」と、そんな言葉を吐くことでずっと魔裟斗が観客に対して隠そうとしていた、対戦相手たちの本当の強さがそこに見えた。

会場に、背後から魔裟斗を支えるかのような魔裟斗コールが起こった。クラウスの固いパンチが顔面をとらえ、鼻血を出させても、魔裟斗はもがくようにキックを入れ、顔面にパンチを叩きこむ。3R終盤、魔裟斗の執念のこもったフックがクラウスに入る。ぐらつくクラウスの姿にさらなる魔裟斗コールが起きるが、ダウンを奪うことはできずに判定へ。

1Rのダウンが決定的と判ってはいても、観客が皆祈るような気持ちで判定を待った。

クラウス勝利。レフェリーがクラウスの手を上げた。日本人立ち技中量級最強の男が、敗北した。

魔裟斗は、敗北した試合後のコメントには姿を現さないかと正直、思っていた。そうするのが、一番面倒なく"負けたことについてショックを受けています"ということを表現できるからだ。よくある手段である。

だが、魔裟斗は現れた。腫れた顔を隠していたサングラスをわざわざ外して、記者団に己の泣く顔をさらけ出した。最後に勝つのは俺しかいないでしょう、と言っていた男が死力を尽くして敗北し、「悔しいっていうか、まあ何かわかんないけど、とにかく涙が出てきた…。」と言いながら泣いた。

カッコつけている。カッコつけてると思うが、ファンに対して「オレが絶対に優勝すると思いますよ」と宣言し、その結果敗北し、言ったことの責任を取るべくコメントルームにも現れた事実は、立派だと思う。

ムエタイの生きる伝説・ガオラン、手からイナズマを出す男・ジャン・ジャポー（だが正直、どこまで彼らがホンモノなのかわからずじまい）といった世界の壁の前で、自分こそが優勝確実だとキッパリ宣言する。大会を盛り上げ、自分自身を鼓舞させるために。

その"不可能と思われることに挑戦する"様は、魔裟斗は立派な"プロレスラー"だと思わされるものがあった。そして、その言葉を裏切るまいとする試合内容も見事だった。正直、魔裟斗の全てに乗れるというわけではないが、"大風呂敷を広げ、過剰なプレッシャーをわざわざ背負ってリングに上がる"姿勢は高く評価したいと思う。負けるというのは、誰にとっても苦しいことだ。それが「絶対に自分が勝ちます」と言っていたなら、もっとなおさらだ。そのせいか、格闘家やプロレスラーは、いつの頃からか全く大風呂敷をひろげなくなった。「自分の力を出しきって頑張ります」と、決まりきったように発言する。別に、選手が自分の力を出しきっていようといまいと、見ている側にはどちらでも構わないのに。観客は、ただ、面白い試合を見たいだけだ。その試合に賭ける選手の思いを聞きたいだけだ。その発言の広げる可能性に乗って、夢を見たいのだ。日本人は外人勢に勝てないという現実をPRIDE他で見せつけられている中、ファンはそれでも"無謀だとされていることにあえて挑戦する"人を見たくて仕方がないのだ。

試合終了後の武道館前は、まだ試合が始まっていないかと思わせるほどの数のファンが、魔裟斗をひとめ見るために待ちかまえていた。まるで、素晴らしい試合を見せた男の姿を、この目で見届けようとするかのように。

（ささきぃ）

クラウス勝利が決定すると、魔裟斗は腫れた顔を歪ませてハッキリ悔し涙を見せ、頭からタオルを被って退場した

アルバート・クラウス戦後の魔裟斗コメント

—3Rが終わった時点では、引き分けだと・・。

魔裟斗 （遮って）いや、2Rの時点で倒さなきゃ負けるなと思って。3R、ここで倒さなきゃ負けだって。やっぱ、パンチの技術が向こうが一枚、うまかったですね。あんな痛いパンチ食らったのは、初めてです。

—右ローキックの感触はあったんですか。

魔裟斗 う～ん。セコンドは「効いてる」って言ってたけど、基本的にはこれじゃ倒れないだろうなっていう感じはしてましたね（盛んに鼻をすする。鼻血が出ていた）。

—1Rのダウンはスリップ気味にも見えましたが。

魔裟斗 いや、効きましたよ。効きました、効きました。パンチがすごい強かったですよね。

—準決勝が始まる前はどんな心境でした？

魔裟斗 なんかまあ、いままでやってきた外人と一緒だろうなあって思ってたけど（笑）。けっこう圧力があったし……。オレが外人相手に下がるのは初めてじゃないかな。圧力あって、すげえ根性あった。きっと、子供がいるかいないかの差ですよ。子供のために（相手は頑張ったんですよ）。オレも子供をつくれば勝てたかもなぁ……フフ。（1回戦で）あんな顔を腫らしてね。普通の外人だったら、たぶんやめてると思いますよ。

—判定で負けが決まった瞬間の気持ちは？

魔裟斗 う～ん、悔しいっていうか……わかんないけど涙が出てきた。試合で泣くのなんて初めてじゃないかな。

—それはやはり悔し涙？

魔裟斗 うん。痛くて泣いてるわけじゃないッスよ（笑）。悔しいっていうか、まあ何かわかんないけど、とにかく涙が出てきた……。

—「魔裟斗コール」は聞こえましたか？

魔裟斗 うん。ちょっと（お客さんは）優しかったですよね。

—お客さんに対しては？

魔裟斗 う～ん、まあ、オレのこと期待してくれたファンには「ごめんなさい」。そうですね、まあ、期待を裏切って、ごめんなさい……。

—優勝したら賞金で買おうと思っているものがあると言っていましたが。

魔裟斗 ベンツのSL（キッパリ）。フフフ。それも悔しいし、オレ、明日、8件くらい取材あるつもりでいたし、その予定がなくなってヒマになるのがイヤだな。ヒマが嫌いだから……もういいですか？ ありがとうございました。

スタート3カ月のK-1中量級 新日本30周年に勝つ!

視聴率 13%

視聴率 7.1%

5・11日本武道館

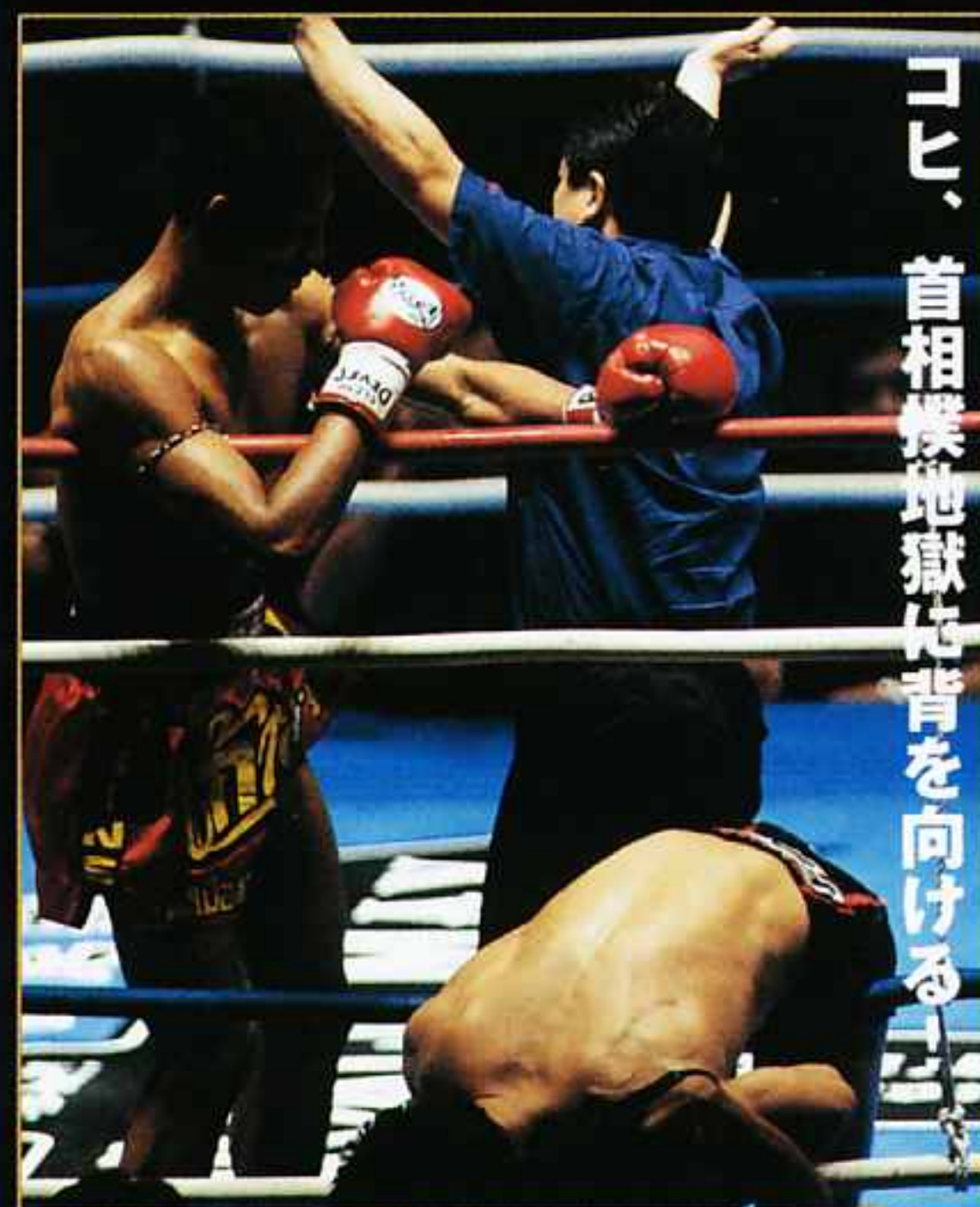
WORLD MAX IMPACT MAX

構成／ジャン斉藤　撮影／吉澤晃
design by Isamu Ebisawa (ZERO graphics)

激戦を制したのはアルバート・クラウス!

「あんな強いパンチをもらったのは初めて」（魔裟斗）

激戦を制し、中量級世界一に輝いたのはアルバート・クラウス！　1回戦こそ試合巧者のチャップマンに苦戦の末、判定勝利となったが、続く2回戦では魔裟斗曰く「あんな強いパンチをもらったのは初めて」という強打でダウンを奪い判定勝ち。決勝でも“ムエタイの生ける伝説”ガオランを相手に試合早々、強烈なボディへのパンチで動きを止め連打を炸裂！　弱点とされたガオランのアゴを見事に砕き、伝説をマットに沈めた。

コヒ、1回戦秒殺もムエタイに屈す!

コヒ、首相撲地獄に背を向ける……

黒崎道場で、一切スパーリングをしない独特の鍛錬を重ねた小比類巻。1回戦は“アンディの愛弟子”マリノをヒザ蹴りで秒殺したが、2回戦ではガオランの首相撲からのヒザに対して何もできないまま完敗を喫した。

ショック！幻想崩壊！

ショック！中国四千年の歴史が崩壊！

散打の世界王者という肩書き。“手からイナズマを出す男”という異名。そして前日の記者会見において、誰のリクエストもないのにキメたあの奇妙な構え。試合前、全てにおいて完璧だったジャン・ジャボー。何しろあのヒクソンが「優勝するのはこの男」と言い切るのだから、幻想は膨らむばかりであった。入場でも、チャイナ服を身に纏い中国歌謡曲（でいいのか？）に乗ってさっそうと登場したジャボー。ガオラン相手に何度かイナズマ・パンチを放ったものの、首相撲からのヒザで連打でいいところなく大差の判定負け。再見！……はあるのか？　イナズマッ！

ショック　ムエタイがやられた！

立ち技最強と言われるムエタイの看板を引っ提げてK—1に乗り込んできたガオランは、ジャボー、小比類巻らを得意の首相撲で振り回してからのヒザ蹴りで圧倒！　戦前の予想通り難なく決勝に駒を進めたが、決勝ではクラウスの強打の前にまさかのKO負け！　翌日の会見では、ムエタイとは違うK—1ルールの練習を積むことで次回の雪辱を誓った。

魔裟斗（シルバーウルフ）
ドゥエイン・ラドウィック（アメリカ）
アルバート・クラウス（オランダ）
シェイン・チャップマン（ニュージーランド）
小比類巻貴之（黒崎道場）
マリノ・デフローリン（スイス）
ガオラン・カウイチット（タイ）
ジャン・ジャボー（中国）

大爆発を見せた2月の日本代表決定戦に較べると、やや盛り上がりを欠いたものの、やはり“熱”を生みまくった5・11『K—1WORLD MAX』。

その大会前日の記者会見で、石井館長は「プロレスの隆盛を作ったのは、ジュニアのタイガーマスク」と言った。

かつてハンセンやブロディ、アンドレなど、ヘビー級の怪物たちが観客を魅了していた時代に彗星のように現れ、一世を風靡したタイガーマスク。あの斬新な動きによる驚きも当然あったが、一番の衝撃は“プロレスの醍醐味はヘビー級”という概念をブチ破ったことだった。

時代は繰り返すではないが、K—1は在りし日のプロレス同様、ヘビー級戦士のぶつかり合いが魅力になっている。館長はそこにミドル級K—1戦士という“タイガーマスク”を投入し、従来の概念を打破しようと目論んだ。

もっとも、ボーダーレスと言われる昨今のマット界。数年前では考えられないカードが次々と実現し、ファンもちょっとやそっとでは関心を示さなくなってきているのは確か。館長がそんな時代性に挑戦しようと立ち上げたのがK—1中量級なのだ。

もともとK—1は、“破壊と創造”の歴史。K—1中量級が脚光を浴びるのは、魔裟斗、小比類巻という存在も大きいが、K—1自体への“新しいものを生み出す場”としての期待感も非常に大きいのだ。

そんな“破壊と創造”がダイナミックにクロスしていない5・2新日本ドーム大会が30周年という記念すべき大会だったにも関わらず、5・11K—1中量級中継に視聴率で大敗するのは当然だったのかもしれない。

新日ドームには実在するタイガーマスクが登場した。だが、“破壊と創造”を象徴する、概念としての“タイガーマスク”はK—1に現れた。この“タイガーマスク”は今後、草も木もないジャングルで、いったいどんな広がりを見せていくのだろうか。その行方は、プロレス者も無視はできないはずだ。

フロレス人生一直線
実録! 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

ガチンコ? 言っちゃ悪いけど いまでも負けないよ!!

聞き手/松澤チョロ
スーパーバイズ/吉田豪
撮影/スエヒロ・ガイ子
designed by matsu(Two three)

遂に
その強さが
明らかに!?

女子プロ界のリビング・レジェンド、再び

小畑千代 [後編]

今でも現役宣言、そして神取への対戦要求をブチ上げるなど、
予想通りの大反響だった前号の小畑千代インタビュー。
前回は女子総合格闘技に興味津々の小畑の
「ガチンコの格闘技じゃなくてプロレスのガチンコならやる!」
という実に意味深な発言で終わったわけだが、
今回は、その発言の真意から自身の復帰戦の可能性も含め、
引き続き国内外のマット界を小畑千代がブッた斬った!

視聴率13%

スタート3カ月のK-1中量級

前号では女子プロ黎明期の貴重な話から現在のプロレス界、さらには『PRIDE』、K—1まで語りまくった女子プロ界の〝リビング・レジェンド〟小畑千代。

ガチンコには、かなりの自信を持つ小畑がインタビュー中に興味を示したのが、やはりスマックやAXといった女子総合格闘技。果たして小畑の参戦の可能性はあるのか？　読めばわかるさ！

小畑　1回（女子の総合格闘技）観てみたいね、そういうの。

——一緒に観に行きましょうよ！　それで興味が沸いたらリングに上がるっていうのもいいでしょうし（笑）。

小畑　う〜ん（しばらく考え込み）アタシはね、ガチンコの格闘技じゃなくて、プロレスでガチンコならやる！（キッパリ）。

——エッ⁉　具体的にお聞きしたいんですけど、ガチンコの格闘技とプロレスのガチンコって、どういう違いがあるんですか？

小畑　わかんない？　プロレスは顔を殴ったり指一本ひん曲げたりしたら反則だけど、ガチンコは顔ブン殴っても指ひん曲げてもいいでしょ？

——まあ、ガチンコなら、それもオッケーですね。

小畑　それこそ首絞めてもいいわけじゃない？　でもプロレスははルールがあるからね。チョークをやっても（カウント）4で放せば反則じゃないから。

——そうですね。

小畑　ヘッドロックとか痛くないって思ってる人多いけど、やられたことある？（ニヤリ）。

——（怯えながら）あ、ありますあります。

小畑　（チョロのこめかみをグリグリやりながら）ここ絞ればいいんだから。ねっ？

——アタタタ！　ギブギブ（汗）。ヘッドロックも力だけじゃなくてポイント押さえれば極まっちゃいますからね。

小畑　そうよ。（さらに絞り上げて）ここやられたら手も力入んなくなるでしょ？

——アタタタタ！　も、もう勘弁してくださいよぉ（苦笑）。

小畑　だらしないわねぇ（笑）。

——す、すいません（苦笑）。

小畑　アタシは、お店でお客さんがプロレスをナメるようなこと言ったら、「（可愛らしく）何が食べたいの？」って言うのよ。「いつでも（技を）ご馳走しますから」って（笑）。

——そのご馳走は食べたくないですねぇ（笑）。

小畑　やっぱ、いかにお客さんに楽しく技とかを見せるのがプロレスなんじゃないかな？　ドロップキックもそうだけど、ガチンコだったらドロップキックなんてしないでしょ？

——まあ、たまにガチンコでドロップキックとか出す選手もいるんですけど、なかなか当たりませんからね。

小畑　そうでしょ？　でもね、今のガチンコやってる子はファイティングシューズ履いてないから蹴ってる方も痛いはずよ。

——蹴った方がケガする時もありますからね。

小畑　でしょ？　アタシの相棒で佐倉輝美（※小畑と一緒に黎明期の女子プロを支えてきた名選手。現在は小畑とともに浅草でバーを共同経営中）さんているんだけど、彼女はちっちゃいんだけど技が凄いし華麗なのよ。昔の吉村（道明）さんみたいなの。小さいけど外人とだってタメに闘うんだから！

——それは凄い！　でも、小畑さんと違って佐倉さんは、もう引退されてるんですよね。

小畑　彼女はね。アタシは違うけどさ。

——小畑さんは今でも現役ですからね（笑）。

小畑　そうよ（笑）。それで、佐倉さんはね、プロレスも凄かったけど、昔、女子のキックボクシングが流行ってた時「絶対やりたい！」って言ってたんだから。それが彼女の夢だったのよ。

——当時、女子だけのキックボクシングの大会とかあったんですか？

小畑　そうなの。一時だけ素晴らしいのがあったのよ。

——そういえば、マッハ（文朱）さんが格闘技の試合をやったこともありましたよね。

小畑　（即座に）一回だけね。あれはつまんなかった！

——つまんなかったですか（笑）。

小畑　それにマッハは芸能界に入りたくって、足掛かりとしてプロレスに入ったんだから。

——マッハさんは芸能界に入り損なってプロレス入りしたんですよね。

小畑　『スター誕生』だっけ？　あれで（山口）百恵ちゃんに負けたのよね。まぁ、あの人もチャンスに乗り遅れないでうまくやったわよね。

——でもマッハさんも横浜アリーナ（96年11月29日）の時に、思いっきり高いヒールの靴を履いてきて「私はデカイのよ！」って強烈にアピールしてましたし（笑）、やっぱりあの世代の選手は男子も女子も面白いですよ！

小畑　あの世代はアタシの世代とはまた違うんだけどね。まあでもマッハは、そういう見せ方は特に上手いわよ。だってあの人は芸能人なんだから。

——芸能人でしたか（笑）。

小畑　そうよ。彼女は控室でも演技してたもん。そういう意味ではあの子は凄い！（笑）。

——そういう意味では（笑）。

小畑　そういう意味ではね（笑）。

——話は変わるんですけど、小畑さんはミスター高橋さんの本も読まれたみたいですね。

小畑　あれね、読みました（不機嫌そうに）。

——いまだ現役選手の小畑さん的には、あの本を読んでどんな感想を持ったんですか？

小畑　どんな理由があったかアタシは知らないけどさ、いくらなんでもああいうことは言っちゃいけないね！

——やっぱり、ああいうことは言っちゃいけませんか？

小畑　あんなことするってのは男じゃないんじゃない？

——男じゃない（笑）。

小畑　自分がその仕事で食べてたんだから、たとえどんなことがあっても、ああいうこと言っちゃダメだなってアタシは思う。みんなの意見はどうなんですか？

——本としては面白いんだけど、お金で揉めたんだろうなぁとか、そういう部分が見えちゃって後味が悪いという声も多いですね。

小畑　多分そうだろうね。たとえ喉まで出ても普通だったら言わないことよね。でもさ、今は新日本もガタガタじゃない？

——思いっきりガタガタしてますね（笑）。

小畑　新日本だけに限った話じゃないけど、このままだとプロレスもダメになるかも知れないわよねぇ（寂しそうに）。

——全女もフジテレビでの放送が終わっちゃいましたからね。

小畑　でも、武藤（敬司）が入った、男の方の全日本をテレビでやるんでしょ？

——そういう噂も出てますね。

小畑　あれ、それはまだ言っちゃいけなかったかしら（笑）。

——いやいや、小畑さんなら何を言っても許されると思いますよ（笑）。

小畑　それでね、ウチのお客さんで女子プロ大ファンの男の子がいるんだけど、その子とアタシ、今年の1月3日に全女の試合を観に行ったの。広報の今井さんに電話したら「いいですよ、リングサイド取っときますから来て下さい」って言ってくれてね。そん時、松永さんの4兄弟が「ちょっと寄ってってよ」って言うから応接間で会って話したんだけど、「ウチのはガチンコの試合やってるから、他のところが一緒にやるのはイヤだって言ってくる」って話してたわよ。

——へぇ〜、全女はガチンコなんですね（笑）。

小畑　松永さんは、そう言ってたわよ（笑）。でも、あそこの堀田（祐美子）とかって技が何もないじゃないですか？

——え？　技が何もない？（笑）。

小畑　だって、そうじゃない。そ

かを見せるのがプロレスなんじゃないかな?

れはそれで売りでいいかもしれないけど、その中にやっぱし何か一つだけでも個性的なものを入れりゃあいいんだけどね。

――他の全女の選手で目に付いた人は誰かいなかったんですか？

小畑　観る人の感覚で豊田（真奈美）がいいなって人もいるかも知れないけど、まあでも、あそこはちゃんと松永兄弟が教えてっからいいんじゃない？

――松永兄弟も柔拳とか格闘技系出身ですからね。

小畑　でしょ。でもそん時、松永さんも「オレが死んだらプロレスは終わりだな」って言ってたけどね（寂しげに）。

――松永会長は「何度も死のう死のうと思いながら生きてきた」って、よく言ってますからね。

小畑　そういうこと言ってんだ。

まあ松永さんもジャッキー（佐藤）とかクラッシュで散々いい思いもしたんだけど、そっからダメになっちゃったでしょ。

――ビューティーペアとクラッシュギャルズ以降はブームまでにはなってないですからね。

小畑　アタシはね、リングの上で歌ったり踊ったりするのが大ッ嫌いなの！（キッパリ）。

――大ッ嫌いですか（笑）。

小畑　降りてやる分にはいいけど、リングの上でそういうことやるのがダメなタイプなのよ。

――リングの上では闘いだけを見せるべきだと？

小畑　当たり前よ！　アタシ達は一生懸命闘って痛い思いしてんのに「♪ビュ～ティビュ～ティ～」でしょ（笑）。結局、歌と闘いがダブっちゃうのよ。でもあの子たちも大変だったんじゃない？

――まあ、ジャッキーさんも神取選手に潰されちゃったりと、いろんな意味で大変だったんでしょうね（笑）。

小畑　そうよね。でもやっぱし、最低限強さがなくちゃダメよ。違う？

プロレス人生一直線
実録！　豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

上の写真が現役バリバリの頃の小畑千代。「ガチンコでは誰にも負けない！」と豪語するだけあって見るからに凄みが伝わる素晴らしい肉体である。下は今でも現役宣言の小畑さん！

やっぱ、いかにお客さんに楽しく技とかを　見せ

――いや、それは同感です。

小畑　でも、今の女子プロで上手くいってるのはどこかあるの？

――上手くいってるのは長与千種さんのガイアぐらいですかね。あそこは会社自体が、かなりしっかりしてるみたいですから。

小畑　要はそこなのよ。スポンサーでしょ、それは。長与千種が表には出てるけど、ちゃんとバックがいるはずよ。

――そうでしょうね。

小畑　長与千種って名前だけじゃやってけないわよ。アタシも昔、自分で選手やってマネージャーやって、何から何までやってたけど、そりゃ大変なもんよ。スポンサーがいなけりゃ絶対無理！　だけどアタシ、スポンサー大ッ嫌いだったから！

――スポンサーも大嫌い（笑）。

小畑　（熱くなって）スポンサーに口出されると頭に来んのよ！　自分は何もわかんないくせに!!

――リングに上がったことのない人にとやかく言われたくないですよね（笑）。

小畑　そういうことよ！　なのに、ああだのこうだの言われっと、もうさぁ!!（怒）。

――スポンサーから試合内容とかも、ああしろこうしろとか言われたりしたんですか？

小畑　そういうことも言ってきたけど、どんなことがあってもアタシはそれを試合には絶対出させなかった。こっちはそれがプロフェッショナルだと思ってるからね。だからいっくらプロモーターやスポンサーなんかと喧嘩したってリングに一歩上がったら試合は試合。降りたらまたやっちゃうけど（笑）。

――アハハハハ！　最高です！（笑）。

小畑　そんなモメ事なんていくらでもあったけど、でも試合やっちゃうとなんでも忘れられるのよ。それくらいプロレスが好きだったから。だからプロレスの灯は消してもらいたくないって思うのよねぇ（しみじみ）。

――お気持ちは察します。ちなみに、小畑さんが現役バリバリの頃、男子の選手で上手いとか強いなぁって印象に残ってる選手って誰かいますか？

小畑　（腕組みをして考え込み）そうねぇ、アタシは昔っから単純に殴ったり蹴っ飛ばしたりする人より技を使える人が好きなのよね。

――先ほども言ってましたけど、ノアの丸藤選手とかですよね。

小畑　今の子だったらそうね。でも、あんまり業師過ぎちゃっ

て最初から最後まで、そればっかりやっちゃうと軽業みたいだしね。

――体操部みたいになっちゃいますからね。

小畑　体操部なら体操部で（団体に）1人いればいいのよ。それが3人、4人になっちゃうとさぁ、プロレスじゃなくなっちゃうしね。

――そうですよね。

小畑　ただファンがそれを求めてるのかってのが難しいとこなんだけど、でもアタシなんかはプロの勘っていうか、リングに上がれば今日のお客さんは何が観たいのかって大体わかったもん。今の子は、そういうのわかってやってるのかなぁ？

――どうなんですかねぇ。小畑さんの域に達してる選手は少ないとは思いますけど。

小畑　でもやっぱしさ、テクニックとかパワーはさておき、気の出し方の上手い人っているじゃない？

――例えば誰ですか？

小畑　もう亡くなっちゃったけど、（ブルーザー・）ブロディは気の出し方も技もホント素晴らしかった！

――確かにブロディは素晴らしかったですよね。

小畑　アタシ、今でも記憶に残ってるもん。それとテリー・ファンクはお客の心を掴むのが上手い！　お兄ちゃん（ドリー・ファンクJr）よりも全然上手かったわよね。

――お兄ちゃんは地味過ぎますからね（笑）。

小畑　そうそう（笑）。今だとさっきの丸藤だっけ？　彼とかは上手いと思うんだけど、最近はテレビつけてうるさいと消しちゃうからあんまり観てないの。マイクパフォーマンスはラッシャーさんだけでいいのよ。

――マイクはラッシャーさんだけで十分ですか（笑）。

小畑　十分よ。アタシ、木村さん大好きだから。

――あ、そうなんですか（笑）。

小畑　アタシの相棒の佐倉さんも木村さん大好きなのよ。

――そういえば、小畑さんは最近のWWFにハマってるみたいじゃないですか？

小畑　うん。あれは好きよ（可愛らしく）。こないだ日本に来たんでしょ？　アタシも会場で観たかったんだけどねぇ。

――観れなかったんですか？

小畑　そうなの（残念そうに）。いまのWWFを知ったのはね、ウチのお店が月曜日休みだから、夜、お風呂から出て、なに観るわけでもなくテレビをつけたら、やってたのよ。

――テレビ東京でやってる『ライブ・ワイヤー』ですね。

小畑　それよ。もう「何これ!?」ってビックリしたのよ！　マイクでギャーギャーだけじゃなく、みんな素晴らしい動きしてるじゃない。

――今のWWFはエンターテインメントの部分だけじゃなくて、試合自体もレベルが凄く高いですからね。

小畑　ホントそうよ！　最初、映画かと思ったんだから!!

――ある意味、映画みたいな感じですからね。実際、WWFは映画にもなってますし（笑）。

小畑　で、これがWWFかって分かってから、もう毎週毎週楽しみであれだけは毎回欠かさず観てんだから（笑）。それで、この間テレビ見てたら「WWF来日！」って出てたでしょ。「行きたい！」って思ってたんだけどダメだったね。

――チケットも20分足らずで完売しちゃいましたからね。

小畑　（目を丸くして）ありゃ～っ！　やっぱし凄いのねぇ。まあ、あれだけのことやってんだから、そりゃみんな観に行きたいわよぉ。

――その時のテレビ放送とかは当然ご覧になったんですか？

小畑　もちろん観たわよ！　アタシがよく行くサウナは、いつも映画とか流してんだけど、お店の人呼んで、無理矢理WWFのビデオに取っ替えて流して貰ったの（笑）。

――サウナで観ましたか（笑）。

小畑　そう（笑）。でも、いつものテレビでやってんのと比べっと面白くなかったわね。

――試合もだいぶカットされちゃってましたからね。

小畑　でも、日本人で、いい選手が出てたわよね。あとから出てきた誰って言ったっけ？

――TAJIRIさんですね。

小畑　そう！　あの人は上手い!!　あれはいい選手よね。

――TAJIRIさんはキックボクシングとかの技術とプロレスの飛び技なんかを上手く混ぜてやってますからね。

小畑　でしょ？　見た瞬間、キックやってた人なんだなってすぐわかった。あれだけ足が真っ直ぐ上がるのは素晴らしいね。それに、あの人はそんなに背が高くないんでしょ？

――TAJIRIさんは175cmぐらいですからね。

小畑　それに、あの人だけじゃなくてWWFの選手たちはみんなよく試合をやってるよね。だから（技のゼスチャー付きで）パパパパーッとキてポポポーンッってキレイにやるじゃない？　まるでアタシと佐倉さんがやってるのと同じ感じがしたわよ。

――小畑さんと佐倉さんの試合はWWFと同じ感じだったと？

小畑　そう感じたわ（キッパリ）。

**プロの勘っていうか、リングに上がれば
お客さんは何が観たいのかって
大体わかったもん**

プロレス人生一直線
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

——何回もやってるからこそ、手が合ってくるっていう部分はあるでしょうね。
小畑　わかる？　プロレスはこれやったらこうなんて出来るわけないんだから。筋書きがあるわけじゃないし。格闘技もそうだけど筋書きなんかないんだから！（キッパリ）。
——プロレスとかは特にアドリブ性に任せてやる部分も大きいですからね。
小畑　そういうこと。
——でも、WWFでは小畑さんが言っていた「マイクでギャーギャー」も多いですけど、あれはあれで楽しめると？
小畑　ちょっと多いとは思うけど、あれが昔っからのアメリカンスタイルなのよ。昔はあればっかりだったんだけど、今は身体は凄いしプロレスもみんな上手いじゃない？
——ホントそうなんですよね。
小畑　今の社長はマクマホンの息子でしょ。
——社長からしてとんでもない身体してますからね（笑）。
小畑　ホントよね！　それに、なんか奥さんから子供から家族全員で出てんのね（笑）。あそこまでやっちゃうと選手も「社長に負けられっか！」って感じで頑張るしかないでしょ（笑）。
——社長があそこまでやっちゃうと選手もかなりプレッシャーを感じるでしょうね。
小畑　でもWWFみたいなのは外人がやるからいいのよ。これが日本人じゃ、どう頑張ったって無理！（キッパリ）。
——やっぱり日本人がやるのは無理ですかね？
小畑　だって日本人は手も足も短いんだから！　無理無理!!

(笑)。
——アハハハ！　やっぱり日本人が、ああいうことをやろうとしたら日本流にアレンジしないとダメなんですね。
小畑　そりゃそうよ。そっくりそのままってわけにはいかないね。でもさ、昔のアメリカンプロレスはレベルが低いなんて言われてたけど、今はホント素晴らしくなってきたね。

昔のアメリカンプロレスは
レベルが低いなんて言われてたけど、
今は、ホント素晴らしくなってきたね

——これまでは日本のプロレスの方がレベルが高いってずっと言われてきましたからね。
小畑　でもアタシ、ルー・テーズの試合を昔、後楽園球場のリングサイドで観たのよ。
——後楽園球場って言えば、確か力道山と闘った時ですか？
小畑　そうそう。力道山がバックドロップで頭からストレートに落とされて、口からカニみたいにブクブク泡吹いたのを目の前で観たのよ。ホント、ルー・テーズは凄かったわ。
——やっぱりテーズのバックドロップは小畑さんから見ても、かなりインパクトがあったと？
小畑　凄かったわよ。ハッキリ言って、今の人ってバックドロップ掛けられる時、みんな弾みをつけて飛ぶでしょ。
——そ、そうかもしれませんね（笑）。
小畑　それがないもの！　そんなもんなしでいきなりグワーッと引っこ抜くんだから。アタシが初めて観たバックドロップがそん時なの。あれじゃ力道山もアゴ引けない。なんたってストレートに落とされたんだから！　あれはホント凄かった!!
——当時のリングは相当硬かったっていいますしね。
小畑　ん〜、でもあの時はそんなには硬くなかった。音は良かったけど（笑）。
——音は良かったですか（笑）。
小畑　それでもやっぱし昔のリングは硬かったわよ。今は良いマットが出来てるけど、逆にああいうマットの上じゃ柔らかすぎてアタシは試合出来ないかも知れない。
——格闘技系の人はプロレスのリングでは闘いづらいって言いますからね。
小畑　足が入っちゃうから捻挫したりするわよね。それにプロレスは投げられてから、いかに受身を取ってパッと起き上がるかだと思うの。柔道はドーンッと投げられたらそれで一本でしょ。プロレスだと首投げだってなんだってバーンッとやられてまた起きなきゃならないんだから。それは大変よ。
——その辺がプロレスと柔道やアマレスとの大きな違いですからね。
小畑　アタシ達はどんなとこから落っことされてもとにかくアゴを引くのよ。もうクセがついてんのね。だから滑っても転んでも怪我はしないから。
——身体が憶えてるんですね。
小畑　アタシが現役バリバリの頃はスキーなんて怪我したら試合出れないってんで行っちゃいけなかったの。だからバレないようにデストロイヤーのマスクあんじゃない？　ああいうの被って滑りに行ったのよ（笑）。
——デストロイヤーマスクで滑ってましたか（笑）。
小畑　そうなの（笑）。スキー学校に入ったんだけど、転ぶ度にアタシたち受け身取っちゃうでしょ。それに転んだってクルッと起き上がるもんだからスキーの先生が「あの人たち、なんかのスポーツ選手なんじゃない？」って疑ってたもん。そしたらロッジのおじさんが「あの人はプロレスやってる小畑さんですよ」って教えたらしいのよ。それで、その先生も「なるほど、そりゃ一回転してもすました顔してるわけだ！」なんて笑い話もあったもんよ（笑）。
——アハハハハ！　先ほどはテーズの話が出ましたけど、小畑さんはカール・ゴッチにもよく会われてたみたいですね。
小畑　ゴッチはハワイでよく見かけたわ。そういえばゴッチの奥さんが、こないだ皮膚ガンかなんかで亡くなったんでしょ？
——そうみたいですね。それでゴッチさんは今は一人で暮らしてるみたいですけど。
小畑　3年ぐらい前かな、あの歳になってもゴッチは両方に30kgづつで60kg持って、（ブンブン腕を振り回し）こうやってたからね。あの人も凄かったね。

LIVING REGEND RETURNS | **CHIYO OBATA**

—コシティですね。

小畑　ある有名な日本人選手もゴッチのとこ行ったみたいだけど、そんな重いの出来なかったみたいよ（笑）。

—そうなんですか（笑）。

小畑　その人は（両方で）30kgぐらいまでだったみたい（笑）。でも芯から鍛えてる人なら絶対出来るはず。それにゴッチはプライドも高かったし、プロレスも（ビル・）ロビンソンのとは全然違うわよね。

—タイプは違いますよね。

小畑　ゴッチと違ってロビンソンは人間風車とかアクロバットスタイルじゃない？　でも、ああいう人間風車をやる人も少なくなったでしょ。昔でもキレイにやれるのは鶴田と猪木しかいなかったじゃない？

—鶴田さんや猪木さんの人間風車はフォームもキレイでしたからね。

小畑　猪木も鶴田もブリッジやらせたら頭と足をくっつけられたでしょ。それくらい柔らかかった。今は教える人がいないっていうのもあるんだろうけど。

—プロレスも格闘技も身体の柔らかさは重要だって言いますからね。

小畑　そりゃ重要よ。それにアタシはヒクソン大好きなんだけど、あの人も身体が柔らかいんじゃない？

—ヒクソンはヨガとかやってますからね。

小畑　でも、あの人は強いし素晴らしいわね。内面から他の選手とは違うもん。

—当然、ヒクソン対高田戦はご覧になってるわけですよね？

小畑　二回とも見たけど、残念だけど高田はダメね。可哀想ですけど。

—あららら（笑）。

小畑　ダメっていうか、もう差があり過ぎなのよ。2人が並んだ瞬間にヒクソンが勝つってわかったわよ。

—小畑さんぐらいになると並んだ瞬間にわかるもんなんですか？

小畑　そんなのはわかるわかる。格闘技でもなんでも本当に強い人って並んだ瞬間っていうか、格闘技でもなんでも本当に強い人っていうのは、リングに上がってチーンってゴングが鳴ってから何十秒でわかる。後ろ姿だってわかるわよ。

—後ろ姿でどっちが勝つかわかると？

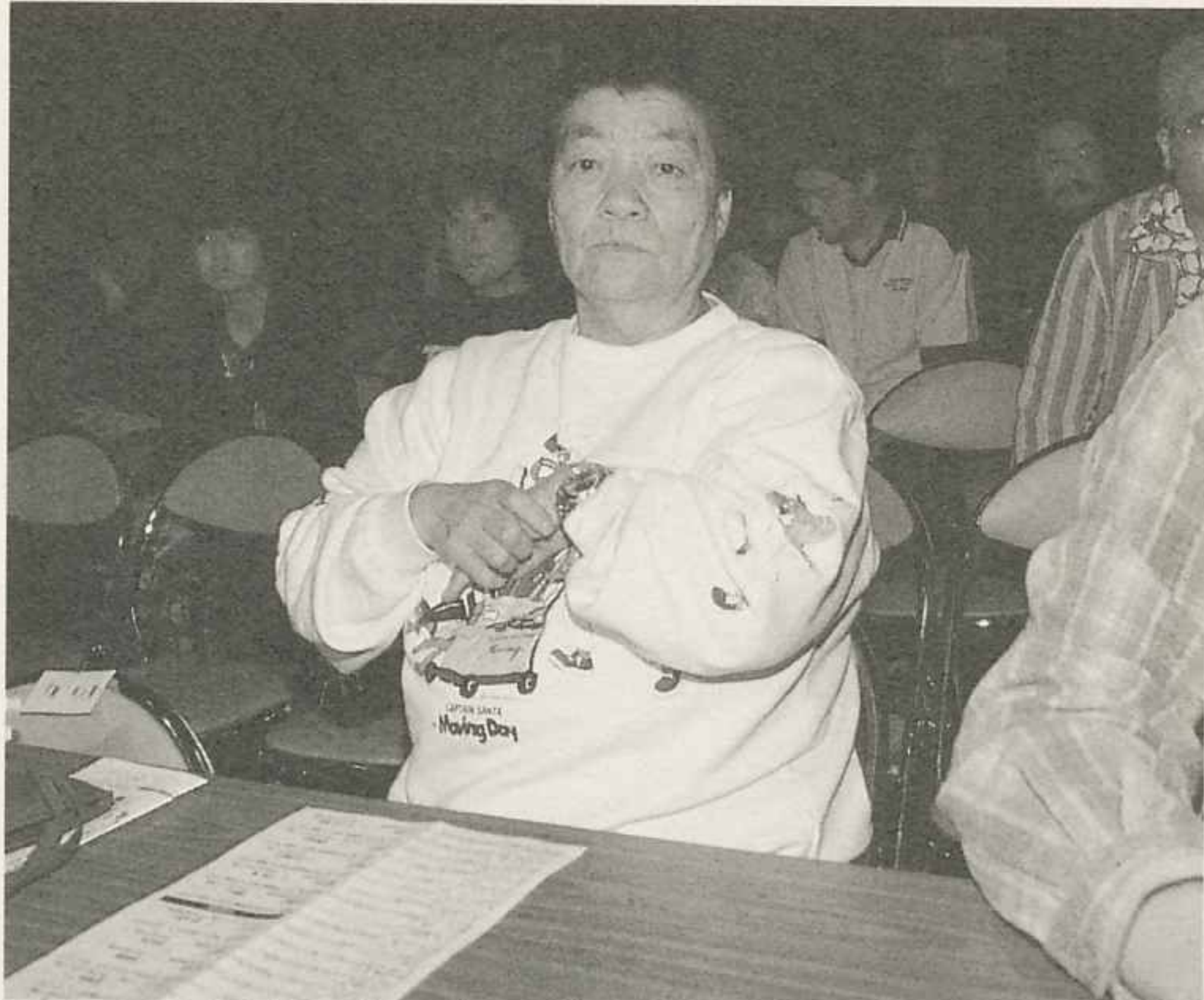
小畑　アタシ、賭けやっても負けたことないもん（得意げに）。

—大抵当たりますか？

小畑　当たる！（キッパリ）。それにアタシ、1人でテレビ観ながら解説しちゃうのよ。「なんでそこで行かないのっ！」なんてね。代わりにアタシが行ってやろうかって（笑）。

—アハハハハ。是非行って欲しいですね。

小畑　さっき言ってた女のガチンコの大会って桜庭なんとかってタレントが出てたヤツ？

—そうですそうです。桜庭は桜庭でも和志じゃなくて、あつこの方ですけど（笑）。

4月大会に続き、5月6日にディファ有明で行われたスマックガールの会場に姿を見せた小畑。リングサイドから鋭い眼光で現在の女子格闘家のガチンコマッチを見守っていた。

小畑　その桜庭って子はまだ格闘技やってんの？　もうやってないでしょ？

—残念ながら1回だけでしたね。

小畑　ハッキリ言わしてもらえば保たないわよ。そんなに甘くはないんだから。

—でも、なかなかいい試合はしたんですよ。「タップはしない」ってハートは見せましたし。

小畑　あれはボインだもんね（笑）。

—見事なボインですね（笑）。

小畑　でもどんなもんか女の子のガチンコの大会、1回観てみたいね。

—とりあえず確認してもらいたいですね。それで血が騒げば……。

小畑　アハハハハ！　まあ血が騒げばね（笑）。

—小畑さん的には、どうせやるなら強い選手とって思いはあるんですよね。

小畑　それもあるけど、どんな強い相手でも、名前も何も知らない人とはやらないわよ。

—やっぱり、神取さんのように実力プラス知名度もなければやりたくないと？

小畑　そりゃそうでしょ。

—どちらかといえば、打撃系よりも寝技系の方がいいと思うんですけど。

小畑　そんなの関係ないわよ。ガチンコなら一本取ればいいんだから。一発勝負でしょ。

—まあ、そうですね。

小畑　ガチンコはリングの中でケンカしてんのと同じでしょ。だからお客さんがシーンとしちゃうのよね。

—でもやっぱり女のケンカは観て面白いですよ。

小畑　それはあるだろうね。でもアタシなんかもそうだったけど、若い頃やられて悔しくて泣きながら「一本取るまでやってやる！」って思ってやるのよ。でもガチンコは取られたら終わりだし、こっちが先に取らなきゃなんないんだから。だからヒクソンの上手いとこはそこですよ。高田とやった試合みてもホント、ヒクソンは素晴らしい！　高田のことを動かさなかったもんね。

—プレッシャーの掛け方とか凄かったですからね。

小畑　そうそう。それに、やっぱし格闘技は自分の身体で憶えたものは、どんなことがあっても忘れないものなのよ。

—一度身に付けたものは幾つになっても忘れないんですね。

小畑　忘れるのはバカだね。自分であれだけ練習して痛い思いもして、何千回と闘ってきて、それで忘れるような人はおバカさんよ。

—おバカさんですか（笑）。小畑さんの得意技って飛行機投げの他にはどんな技があるんですか？

小畑　アタシはブレーンバスターとかジャイアントスイングも得意だったね。でも一番はスペシャル・ロメロ（=吊り天井）。あれはアタシが最初にやったんだから！（キッパリ）。

—え？　そうだったんですか。

小畑　初めてやったのなんてもう何十年も前だけど、それからみんなマネし出したでしょ。

—そうですね。でも、今はロ

メロをやる選手は多いですけど、なかなか決め技にはなってないですよね。

小畑　そうでしょ？　ホントねぇ、ロメロで遊んでたら大間違いよ！（キッパリ）。

――腰を振りながらやるなんて、以ての外ですか（笑）。

小畑　当たり前よ！　ロメロは決め技なんだから。あれを掛けて、もっとグッと（腕を）引っ張ったら、絶対動けないもん。そいで落とす時はバーンッて捨てちゃうんだから！

――え？　相手を捨てちゃうんですか！（笑）。

小畑　そうよ！　ロメロ掛けて「痛い！　迷惑だ!!」って言われたこともあんだから（苦笑）。あれはヒザも打つしね。

――いやぁ～、格闘技戦でロメロで極めてくれたら最高ですね（笑）。

小畑　観たいでしょ（笑）。でもね、ホントにプロレスってもんは大変なんだから。プロレスも格闘技もこれは好きじゃないと出来ない。アタシはそれを経験してきたからなんでも言えるけど、1年ぐらいやって「アタシ、プロレスラーよ」なんて言ってる人もいるでしょ？　そんなに甘くないのよ。みんな痛い思いしていろいろ経験して、それでアタシみたいに能書きが言えるようになんだから。

――そ、そうでしょねぇ。

小畑　アタシなんかまだ筋肉が衰えないもん！（手の甲の筋肉を盛り上げ）ほら、見てみなさいよ。触ったっていいわよ。

――（手の甲の筋肉を触り）うわぁ、こんなとこまで！　こ、これは硬いですねぇ!!

小畑　ほら、なんなら肩も触ってみてよ。

――うわぁ！　ガチガチじゃないですか!?

小畑　アタシは10代から鍛えてんだから、ちょっと怠けたってすぐ元に戻るわよ！（満足気に）。

――（恐縮しながら）あ、あのぉ～、女性に対して失礼なんですけど、正確には小畑さんの年齢はお幾つなんでしょうか？

小畑　（不機嫌そうに）大体ねぇ、アタシ、人に言ったことないからね。

――そうなんですか（笑）。資料とか探しても小畑さんの生年月日は、どこにも載ってなかったんですよ。

小畑　そうでしょ？　40ぐらいって書いといて下さい（笑）。

――またアバウトですねぇ（笑）。

小畑　じゃあ、42ってことで（笑）。でもプロレスも格闘技も年齢で闘うんじゃないからね。

――た、確かに。

小畑　（胸に手を置いて）心です。若くたって年寄りみたいな人もいれば、年寄りでも若いのがいるんだから。

――あ、それは言えますね。幾つになっても気持ちは40代ってことですか？

小畑　そうね。いつでも気持ちは40代です♥（かわいらしく）。

――わかりました（笑）。ちなみに男子で同世代の選手っていうと誰になるんですか？

小畑　（間髪空けず）それ言ったらバレるじゃない？　ホント、しつこいわね（笑）。そうは問屋が降ろさないんだから！

――わ、わかりました。神取さん以外では誰か闘いたい選手はいるんですか？

小畑　まずは、やっぱし神取さんいらっしゃいよ。

――神取さんいらっしゃい、と（笑）。

小畑　そういうこと（キッパリ）。そういえば、この前、神取と風間がテレビでプロレス教えてたじゃない？

――『ガチンコファイトクラブ』ですね。

小畑　なんだか忘れたけど、あれはヤラセっぽいわね（キッパリ）。

――あれはヤラセっぽいですか（笑）。

小畑　人の子をひっぱたいたりゲロ吐くほどやらせるなんて、あれはやり過ぎ。ああいうことするからいけないの。大体、あれ観て女子プロレスラーになりたいと思う？

――う～ん、まあボクだったら諦めますね。

小畑　ああいうのはアメとムチで厳しくしたら甘くするってやらないとダメなのよ。特に今の若い子にはね。

――そうでしょうね。

小畑　プロレスのどういうとこが厳しいのか、それを超えられたら次はこうだよってのを、しっかり教えてあげなきゃ。だって、アタシあれ見たとき行きたくな

5・6スマックガール（会場ロビー）で

“ガチンコ最強の女”小畑千代vs “ガチンコ最弱の女”ナナチャンチンが実現!!

リング上でメインが行われている頃、会場ロビーでは小畑千代とナナチャンチンが初遭遇。「アンタ、この間も今日も負けてたじゃない？しっかり練習しなさいよ！」と一喝した小畑。ビビリながらも、うなずくナナチャンチン。

「稽古付けてください！」と、意を決して小畑に立ち向かっていったナナチャンチン。しかし、いくら得意の超低速タックルを仕掛けてもビクともしない小畑に驚きの表情のナナチャンチン。早々と、この日2敗目を献上！

相撲を取っては投げられまくるわ、片手一本で極められまくるわと手も足も出ないナナチャンチン。「噂には聞いてたけど、力がスッゴイ。腕掴まれただけで、も～う痛い！　返せないって感じ」と、すっかりお手上げ状態！

「『よしやってやる！』なんて私も大きいこと言って飛び込んだんだけど、肌を合わせてみてビックリしました。『ホントすみません』って感じです。いやぁ怖かったぁ」と小畑体験を語るナナチャンチン。明日また生きろ！

「次の大会も小畑さんは来てくれるみたいなんで応援してくれたら嬉しいですね。でも負けたら怒られるんだろうなぁ。怖い怖い……。負けたらまたやられちゃう」とナナチャンチン。次のスマックは6・1ディファ有明だ！

視聴率13% スタート3カ月のK-1中量級

女子プロレスラーの皆さん！ プロレスが好きならプライドを持って頑張って下さい！ いつでも訪ねてらっしゃいね！

プロレス人生一直線
実録！ 豪傑一代記
紙のプロレス
スーパースター列伝

ったもん！

——え？ どこにですか？

小畑 （腕捲りをして）「その教え方は間違ってる！ 何が神取だよッ！」って行こうと思ったのよ。プロレスってあんなもんじゃないんだから！

——プロレスはあんなもんじゃないですか？

小畑 そうよ！ 人のことだからと思ったけどホントに腹立ったわよ。

——それだけ熱いと、テレビでプロレスとか格闘技を観てるとリングに上がりたくなっちゃうんじゃないですか？

小畑 思う思う！ いっつも思ってる。でも、佐倉さんがよく言うんだけど「佐倉対小畑のプロレスが一番なんだから、今のプロレス観て何が面白いの!?」って（笑）。

——アタシたちよりレベルの低いプロレスなんかなんで観るんだ？ と（笑）。

小畑 そういうこと。さっきも言ったけど、アタシはテレビでプロレスやってりゃすぐ付けるんだけど、うるさいだけだと消しちゃうの。でもね、「こりゃ上手いな」って思えば、ずっと観ちゃうし。ボクシング観ても相手がジャブやってっと（シャドーボクシングをしながら）こうやって観ちゃうんだから！（笑）。

——今は試合はやってないわけですけど、正直まだ燃え尽きていない部分があるんじゃないですか？

小畑 燃え尽きたけど、やっぱしガチンコで強い子がいるとかって聞くと一発やってみたいなって思うのよ。

——格闘家の本能なんでしょうね。

小畑 アタシはアマレスもやってたのよ。青山のレスリング倶楽部ってとこでグレコローマンから全部。だから女子のアマレスがオリンピック種目になったって聞いた時は「ああ、もっと若かったら出れたのに！」って本気で思ったもん（悔しそうに）。

——今度のオリンピックから正式種目になりますからね。

小畑 アニマル（浜口）さんの娘の京子ちゃんもオリンピック目指してるでしょ？

——あっそうか。アニマル浜口さんや京子さんも小畑さんと同じ浅草ですからね。

小畑 一緒一緒。京子ちゃんはプロレスに入ると思ったんだけど、もうプロレスには入らないでしょ。京子ちゃんも今度のオリンピックが来れば、いい年頃になるからね。

——まあ、そうですね（笑）。

小畑 京子ちゃんには頑張って世界チャンピオンになってもらいたいね。

——やっぱり、チャンピオンになってからプロレス界入りするのは遅いんですかね？

小畑 いや遅くはないのよ。女の子は若いからって力が出るってもんでもないからね。女の子が一番力が出るのは31（歳）から35、36ぐらいまでだから。

——小畑さんのピークもその頃だったんですか？

小畑 そう。その頃は、いっくら練習しても試合しても全然平気だったからね。

——その頃は誰にも負けない自信があったと？

小畑 言っちゃ悪いけど、いまでも負けないよ！（キッパリ）。

——し、失礼しました（笑）。ボクは世代的に小畑さんの試合を観るチャンスがなかったんですけど、まだそのチャンスはありそうなので安心しました。

小畑 なんかあったら一発やりたいって思ってんのよ。格闘技戦とか観てると、「時代が時代だったら真っ先に出んのになぁ」って口に出ちゃうことあるもん、本心でね（本当に悔しそうに）。

——今でも、その時に備えてシューズとコスチュームは用意してるんですよね。

小畑 そうよ。いつでも履いてやろうと思って、まっさらのファイティングシューズとコスチュームも持ってんだから。それと世界チャンピオンになった時のベルト、全部あるから。アタシが死んだらそれを棺桶に入れてって言ってあるの。

——そんなことまで考えてるんですか？

小畑 でも、お棺に入れてって話してたんだけど、ベルトとかは燃えないから入れさしてくれないみたいなのよ。

——いやいや、そんなこと考えずにベルトもコスチュームも棺桶に入れる前にリング上で使って下さいよ（笑）。

小畑 機会があればね（笑）。

——トレーニングは、しっかりやってるみたいですけど、スパーリングとかは、しばらくやってないんですよね？

小畑 スパーリングなんてやんなくていいのよ！

——スパーリングは、やんなくていいんですか（笑）。

小畑 リングの中でやればいいの（笑）。もう足の動き一つ見たってどっから来るか全部分かんだから。いつも自分だったらどうするかって考えながら観てっからね。まあ、そういう機会があったらやりましょう！（笑）。

——期待してます！（笑）。

小畑 最後に一言いい？

——な、なんですか？

小畑 （大きな声で）女子プロレスラーの皆さん！ 今はとても大変な時期だけど、プロレスが本当に好きなら、しっかりプライドを持って頑張って下さい！ いつでも訪ねてらっしゃいね！ ごきげんよう!!

【02年4月5日／東京・浅草「喫茶・アンジェラス」にて収録】

LIVING REGEND RETURNS | **CHIYO OBATA**

プロレスファンも女子プロレスラーも浅草に行ったら『BARさくら』へGO！

悩みを抱えた女子プロレスラー（男子レスラーでも可）の皆さん、「BARさくら」に行けば、きっと全て解決するわ。もちろん「紙プロ」読者の皆さんで女子プロ界の〝リビング・レジェンド〟小畑千代に興味を持った人も迷わず浅草へ向かうのよ！（とはいっても入れてもらえるかはアナタ次第！）そして、小畑千代の、その問答無用のガチンコテクニックを体感しなさい！ ちなみに小畑さんの隣の美しい女性は、小畑さんと「BARさくら」を共同経営する元女子プロレスラーの佐倉輝美さんだ。

「BARさくら」【営業時間】午後7時～午前1時【定休日】毎週月曜日
【お問い合わせ】東京都台東区浅草3-37-10 TEL.03-3873-8944

荒武者は谷津だけじゃない!
この2人にも注目! なっ!!

MAX宮沢

6・9DEEPディファ有明で〝究極のベビーフェイス〟和田良覚と激突!!

女子格闘技界の強くて綺麗なお姉さん
久保田有希

“荒武者”といえば谷津嘉章を思い出す読者がほとんどだと思う。その判断自体は全く間違いではないのだが、谷津ひとりが荒武者というわけではない! そして荒武者が皆、谷津のような長髪のちょっと暑苦しいビジュアルというわけでもない! 見ての通りの綺麗なお姉さんも横文字のお兄さんも荒武者には所属しているのである。荒武者とは何か? 知りたかったらページをめくりゃぁいいんだよ! なっ!

構成/松澤チョロ
撮影/菊池茂夫
designed by gutty (Two Three)

世界チャンピオンになってもら

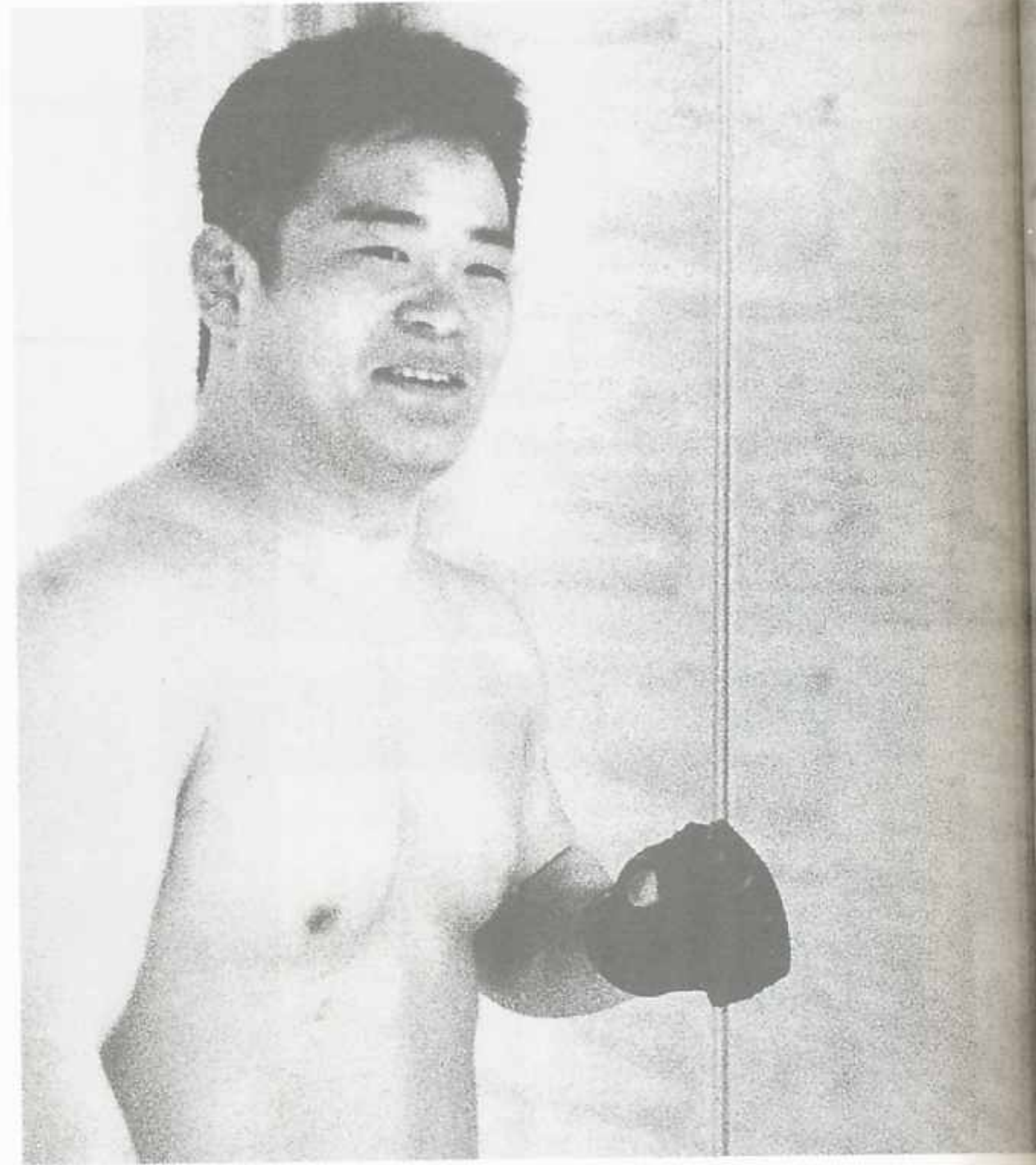
だらそれを棺桶に入れてって言

——6月9日の『DEEP』で和田良覚さんとの対戦が決定したMAX宮沢選手と、スマックや『AX』等で活躍して注目を浴びている久保田さんの荒武者コンビに来ていただいたわけですけど、最近、荒武者は名称が変わりましたよね？
宮沢　『荒武者格闘術』に変わりました。
——それはいつからなんですか？
宮沢　この間の『DEEP』の記者会見からですね。
久保田（真顔で）え？　変わったんですか？
宮沢　変わったんだよ！
久保田　あ、そうなんですか（笑）。
——知らなかったんですか（笑）。『荒武者格闘術』所属っていうと谷津さん含めて3人ということでいいんですか？
宮沢　谷津さんはどうかわかんないですけど……。谷津さんは、この間のグッドリッジ戦で一応、引退って考えていいんじゃないですかね？
——格闘技戦は引退なんですか（笑）。
宮沢　もうプロレスの方も引退するとかしないとか言ってましたけど（笑）。
——え、そうなんですか？
宮沢　裏情報ですかね（笑）。
——かもしれません（笑）。谷津さんは引退したら何をやるんですかね？
宮沢　なんか谷津さんは中国整体やるとかって言ってましたけど（笑）。
——中国整体！（笑）。そうなると余計2人は頑張らないといけないですね？
宮沢　そうッスね。
——久保田さんは、同じ荒武者でも谷津さんとは、あまり面識はないんですか？
久保田　はい。二回くらいしか会ったことがなくて（笑）。
——そもそも荒武者っていうのはどういう経緯でできたんでしたっけ？
宮沢　とりあえず谷津さんが『PRIDE』に出るからってことで始まって、それで谷津さんの関係で自分が入って、自分の関係で久保田が入ったって感じなんですけどね。
——久保田さんが入ったのは宮沢さんとの関係っていうことですけど、ぶっちゃけた話、付き合ってるんですか？（笑）。そういう噂もありますし。
宮沢　そんな噂があるんですか？（笑）。
久保田（即座に）絶ッ対ないです！それだけはホント勘弁して下さい!!
——そんなに強く否定しなくてもいいじゃないですか（笑）。
久保田　でも、それは絶ッ対ないです！アニキって感じですかね。
——アニキですか（笑）。
宮沢　いや、マネージャー兼専属のセコンドっスね。
——久保田さんは荒武者に入るときは相当悩んだりしたんですか？
久保田　……どうなんですかね？
宮沢　久保田は沼津にいたんですけど、そっちは練習環境が悪いじゃないですか？　せっかくいいとこまで行けそうなのに、「どうせなら東京出てくれば」って社長に言ってもらってたんで。
——宮沢さんとは地元が一緒ということなんですけど、昔からの師弟関係ということでいいんでしょうか？
宮沢　師弟関係っていうか、正直言うとおかまが連れてきたんですよ（笑）。
——え？　おかまですか（笑）。
久保田　アハハハハ。
宮沢　おかまつながりなんですよ（笑）。
——共通のおかまの友人がいるということですか（笑）。
宮沢　そうッス。そうッス。自分が東京にたまたまいて、そのおかまが沼津に遊びに来て、「俺は沼津に知り合いがいるんだよ」って言って来たのが久保田だった（笑）。

私たちが付き合ってるって？
絶ッ対ないです！
ホント勘弁して下さい!!

——へぇ～。それはいつぐらいの話ですか？
久保田（照れ臭そうに）そんなこと書かないで下さい。
宮沢　面白いじゃないですかね（笑）。
——面白いんで、書かせてもらいます（笑）。お互い初めて会ったのはどれぐらい前になるんですか？
宮沢　結構古いッスよ。もう7年か8年ぐらい知り合いですよ。俺がまだ大学卒業したばっかの頃ですからね。23ぐらいの時から知ってますよ。
久保田　嘘つきだな。24だったよ！　私、その時、20歳だったから。
宮沢　ああそうか。でも俺は早生まれなんだよ！
——やっぱり仲がいいですね（笑）。
久保田　そんなことないです！
——その頃は久保田さんは何をやってたんですか？
久保田　私は子供に柔道教えてました。
——20歳の頃からすでに柔道を教えてたりしてたんですか？
宮沢　それがおかまにハマってっていうか、2丁目にハマってるときですよ（笑）。
久保田　違うよ、ハマってないよ！　違いますよ。違う！　違う違う（必死に）。
宮沢　毎週東京のおかまバーに通ってたみたいですよ（笑）。
久保田　違うんですよ、私、その頃、東京に住んでたんですよ。企業で柔道やってたんで。それで、そん時に遊びに行ってただけなんで。
——おかまバーに行ってたのは本当なんですね（笑）。
久保田　たまに（笑）。それで沼津に帰って（宮沢に）会ったんです。
——でも、"クールファイター"ってキャッチフレーズを持つ久保田さんがおかまバーにハマってたなんて意外でしたね（笑）。
久保田（あせって）違う違う！　ハマってない！　そんなこと書かないで下さいよ。私、ハマってないですから。
——宮沢さんは当時はプロレスラーになりたいとか総合でやりたいとか思ってたんですか？
宮沢　全然。でもその頃はUインターとかに憧れはありましたけどね。
——それこそ今度対戦する和田さんがレフェリーをしていた団体ですね（笑）。
宮沢　そうッスね。やってみたいなとは思ってたんですけど、地方は、そういう環境が全然なかったじゃないですか？

5月4日の「AX」でドレイク森松と対戦した久保田。序盤テイクダウンを取られた久保田がドレイクのパワーに押しきられるかと心配されたが、グラウンドでキッチリ切り返した久保田が腕ひしぎで勝利！

――地方とかは特にそうですよね。
宮沢　ですよね。それで、久保田がキャプチャーの沼津の試合を見に来て、北原（光騎）さんが「ああ、いい選手だねぇ」って言ったんですよね。柔道も基礎がしっかりしてるってことでL-1にどうかって話があったんですよ。
――それでL-1に出るにあたってキャプチャーで男相手に闘ったりしてたんですね。
久保田　あ、そうです。
――その時は総合格闘技とかに興味はあったんですか？
久保田　いや、打撃とか全然やってないですし、だいたい総合があるなんて知らなかったんで（笑）。
――総合自体を知らなかったと（笑）。プロレスも興味がなかったんですよね？
久保田　はい。
――ホント柔道一直線っていう感じだったんですね。
久保田　そう……かな。昔、ちっちゃい頃に女子プロとかは見てましたよ。
――で、総合は知らなかったとはいえ、北原さんからL-1出てみないかって話をもらってどう思ったんですか？
久保田　いや、断ったんですよ。わからないっていうか、やったことないからって。で、何回かその後も連絡が来て、「じゃあ、やろうかな」って思ったんです。
――北原さんの熱意に負けたんですか（笑）。
久保田　熱意というか……しつこく（笑）。
――アハハハ。
宮沢　でも自分がL-1のレフェリー一回やった時にレベルが低かったんスよ。こんなこと言ったら怒られるかもわかんないけど（苦笑）。これだったらいけるかなって。
――まあ、そういうことがあってL-1に出て、一発目の相手が今をときめくクーネンだったわけですけど、正直、柔道の技術だけでいけるかなっていうのはありました？
久保田　いや、全然（笑）。
――思ってたんじゃないですか？（笑）。
宮沢　相手が前日かなんかに変わったんですよ。
――ああ、最初はクーネンは出場選手には入ってなかったですからね。
宮沢　裏で聞いた話ですけど、「クーネンはエライ強いらしいぞ」って。久保田には「たいしたことないみたいよ」って言ったんですけど（笑）。
久保田　（あきれた顔で）知らない！　そんなの初めて聞いた。
――実際、久保田さんは病院送りにさせられてしまったわけですけど。
久保田　全然、覚えてないんですけどね。
――もう総合はやりたくないって思ったんですか？
久保田　初めは別に勝っても負けても、やらないつもりだったので（笑）。なんでここにいるんだろう？　でも今は楽しくなってきちゃいましたからね。
――何かきっかけはあったんですか。
久保田　初めて殴られて凄い屈辱的な思いをしたんで（笑）。

まぁ、勝っても負けても注目は和田さんだから難しいですよね（苦笑）

――それは誰との試合ですか？
久保田　クーネンとやった時です。屈辱を感じたんでやろうと思ったんですよ。さっきも言いましたけど試合覚えてないんですよ、何にも（笑）。
宮沢　クーネンは、その後リミックスで優勝しましたからね。ホント強い選手ですよね。
――やっぱり久保田さんは性格的には負けず嫌いってところがあるんですか？
久保田　かなりではないですけど、負けず嫌いですね。
――宮沢さんから見てもわかります？
宮沢　そうですね。組技の選手って最初、人の顔殴るのって抵抗あるんですけど、彼女はないですからね。何の躊躇もないですから。
久保田　えっ？　だって殴れっていうから。
宮沢　凄いですよ。ミット持ってるのにミット殴らないで顔殴りますから。そのぐらい何の躊躇もないですから。
――それは宮沢さんだからじゃないですか？（笑）。
久保田　はい、そうです（微笑）。
宮沢　いや、他の人間も言ってますから！　ミットじゃなくて顔殴ってくるからイヤだって（笑）。
――見た目が人が良さそうに見えるんですけど、割りとえげつないですよね。
宮沢　試合もえげつないじゃないですか（笑）。
久保田　そ、そんなことないです！
宮沢　えげつないですよ。
久保田　そんなことないですよ!!
――でも、リングに上がると変わりますよね？
久保田　リングに上がるとあんまり覚えてないんですよ。
――覚えてないんですか？
久保田　覚えてますよ、フフフ（笑）。
――覚えてるんじゃないですか（笑）。久保田さんは、今後の対戦相手の希望はあるんですか？
久保田　対戦相手は……あんまり。
――総合での最終目標選手はいますか？
久保田　それは言わないです。ウフフフ（笑）。
――内緒ですか（笑）。MAX宮沢っていうリングネームには、会見では誰も突っ込みませんでしたけど、総合格闘技の時は、その名前なんですよね？
宮沢　ハハハハ。そう但し書きしてありましたね。
――どういう心境でその名前を付けたんですか？
宮沢　心境……。まあ、聞いた話じゃ、マック鈴木（大リーガー）っているじゃないですか。本名が鈴木誠じゃないですか？　そっからマックを取って、マックじゃあれなんでMAXにしたって聞いたんですけどね。
――本人の意向じゃなく、荒武者の意向なんですね（笑）。
宮沢　はい（笑）。
――あんまり乗り気じゃないみたいですけど、もう発表されちゃいましたからやるしかないでしょう！（笑）。

記者会見後のコメントでは「アステカ選手の実力も未知数だっただけに、和田さんの実力はわからないけど、勝って当然でしょう」と宣言した宮沢。“Uインター最強の男”がどう出るか、これは見逃せない！

宮沢　もう、MAXでいくしかないでしょうね（笑）。笑われるか定着するか自分次第ですからね。
――実際、和田さんとの対戦の話が来たときは即決したんですか？
宮沢　う〜ん、複雑でしたよね。なんでレフェリーの人と……。噂は聞くじゃないですか。昔から強いとか「3分最強」って（笑）。アステカさんとの試合見ただけじゃ、子供扱いでしたからね。
――会場で見たんですか？
宮沢　いえ、ビデオで。やっぱり強いなあって思いましたね。
――あの試合を見ると最強伝説はまだ継続中ですけど、アステカさんが判断基準になるかは別として。宮沢さんはアステカ選手と闘ったことがあるんですよね？
宮沢　プロレスでですけどね。今は亡き（レッスル）夢ファクトリーで（笑）。
――プロレスでは勝ったんですか？
宮沢　タッグマッチだったから、参考にならないですけどね（笑）。
――強いことは間違いなく強いんでしょうけど、和田さんは本職はレフェリーなんで負けられないですよね？
宮沢　もちろん、負けられないですよ。でも何とも言えないですよね。
――話題の選手ってことでは、いい相手ですよね？
宮沢　まあ勝っても負けても注目は和田さんだから……難しいですよね（苦笑）。
――和田さんを悪く言う人はいないですからね。そういう意味では究極のベビーフェイスですから。
宮沢　会見とか見てもメチャクチャ、ベビーフェイスじゃないですか（笑）。
――宮沢さんは、今回の試合はどっちで行くんですか？
宮沢　今回はヒールですよね（笑）。
――そうした方が面白いですしね。けど和田さんは、いい人なんですけど、キレたら怖いとかも聞きますし。
宮沢　けど、自信がなかったら試合に絶対出て来ないと思うし、「ボクなんか、まだまだ……」って言ってましたけど怪しいですよね（笑）。
――「宮沢さんはレスリングの強豪だから尊敬してます」って言ってましたし。
宮沢　いや、勝てるって思わないと出てこないですよ。それは絶対そうですよ。
――宮沢さんも、おいしい相手という意味だけじゃなく、勝てる自信があるんですよね？
宮沢　ありますよ（キッパリ）。
――負けられない一戦になりますね。
宮沢　はい。やっとねえ、大きい所でやれるんで。チャンスはモノにしないと。
――作戦的に、和田さんには何を警戒してますか？
宮沢　う〜ん、力。ハッハッハッ！
――パワーは凄いらしいですからね。3分間最強説とかありますし、パワーではかなわないでしょうね。
宮沢　でしょうね。力は。あの身体を見たら……。あの〜、有酸素運動なら勝つんじゃないかな。
――どっちで勝ちたいですか？　打撃と寝技だったら。
宮沢　打撃戦に持ち込みたいですよね。狙うのは有酸素運動作戦ですよ！　どちらかスタミナ切れた方が負けって感じで持ち込みたいですけどね。
――試合的にもセミファイナルなんで期待してますよ。
宮沢　そうなんですよね。ホント素晴らしい舞台を提供してもらったんで、つまんない試合は出来ないですね。
――その辺の感覚は、やっぱりプロレスラーなんですかね？
宮沢　もちろん。プロレスラーなんで、つまんない試合はしないぞって気持ちはありますね。
――格闘技の大会とかも結構出てますけど、気持ちはプロレスラーなんですね。
宮沢　う〜ん、でもプロレスラーで成功してるってわけじゃないんで（苦笑）、複雑なとこもありますけどね。でも、プロレスやってたから出れるようになったってのも、あるんじゃないかなって思いますからね。勝ったとしても負けたとしても判定じゃなく、ハッキリさせたいですね。
――お客さんを意識するっていう部分では久保田さんのコスチュームは相当、目を引くとは思うんですけど。
久保田　コスチュームより試合を見て、何かを感じて帰ってもらえれば……。つまんないでもいいんで（笑）。
――つまんないでもいいんですか？
久保田　つまんなかったら仕方ないけど。つまんないじゃいけないけど、試合を見て何かを感じてくれればいいです。
――少しでも影響を与えたいと？
久保田　インタビューとかで、私が一番強いとか言っても、そんなことより手っ取り早いのは、試合を見てもらうことですから。
――試合を見て、何かしらの影響を与えられる自信はあるんですか？
久保田　とりあえず練習してます（笑）。
――話を戻しますけど、和田さんには勝って当たり前って思ってるんですか？
宮沢　3分最強なんで、できれば3分以内で勝ちたいですね。最強のうちに（笑）。
――スタミナ切れてからじゃなくて。
宮沢　そうですね。
――今回大きい舞台ってことですけど、継続して上を狙っていきたいと。
宮沢　そうッスね。とりあえず変な試合は出来ないし。いろんな人に認めてもらいたいですからね。
――それこそ和田さんを踏み台にするくらいの勢いで。
宮沢　そうですね。自分が、もし和田さんに勝てれば、リングスジャパン勢との線があるじゃないですか？　和田さんはリングスの看板を背負って出てきますからね。
――流れ的にそうなったら面白いですよね。滑川さんや横井さんとの試合は見たいですね。もし実現したら負けるつもりはないと？
宮沢　負けるつもりはないッスね！
――プロレスラーとして、何かしら観客を驚かそうとか考えたりはしてないんですか？
宮沢　それはないですけどねぇ（苦笑）。
――MAXっぽいコスチュームになってる可能性はあるんじゃないですか？
宮沢　MAXっぽい（笑）。なんですかねえ、新幹線のコスプレでもして出てこようかなぁ（笑）。
――MAXだけにアイドルっぽいコスチュームでもいいですけどね（笑）。
宮沢　いやいやいや（笑）、じゃあ、久保田にコスプレさせて行きます！（笑）。
――MAX、久保田ですか（笑）。
久保田　な、何ィ!?
宮沢　はいって言えばいいんだよ（笑）。
――ではMAXさん、和田良覚戦期待してます！　あ、あと久保田さんも（笑）。
【02年5月9日／六本木・ボディプラントにて収録】

MAX宮沢（荒武者　総合格闘術所属）
1971年1月29日生まれ　171cm/90kg
過激な地下室マッチを行っていたプロレス団体「キャプチャー」で元ニーハオの名で活躍していたが、昨年からは「荒武者総合格闘術」へ所属。もともとはアマレスで実績があり、グレコローマン全国社会人オープンレスリング選手権では94年、95年と連続優勝している。00年のコンテンダーズ2000では大山峻護に惜しくも判定で負けるが、昨年はコンバットレスリングでも優勝している“荒武者の若武者”。

久保田有希（荒武者　総合格闘術所属）
1974年8月28日生まれ　170cm/65kg
00年、「L-1」ではじめて総合格闘技に挑戦。マーロス・クーネン相手に敗れる。辞めようとは思ったものの、諦めきれず01年、Remixに参戦。ユダ・ダムの棄権による初勝利。その後、参戦したスマックガールでは5戦全勝。リング上では笑顔を見せないスタイルと切れ味のいい関節技による試合から、“クールファイター”の名で人気が高い。愛読書は相田みつを、柔道歴は20年。

DEEP INTERNATIONAL 2001

目玉は和田さん!!　されど、メインは日本人中量級1DAYトーナメントだ!!!

6.9 DIFFER ARIAKE

DEEP JAPANミドル級のベルトが良く似合う

見てみィ、このDEEP面(ツラ)!!

DEEP JAPANミドル級1DAYトーナメント

初代王者

- 村浜天晴（ワイルドフェニックス）
- 星野勇二（RJW／CENTRAL）
- 梁正基（スタンド）
- 上山龍紀（U-FILE CAMP）
- 久松勇二（TIGER PLACE）
- 窪田幸生（パンクラスism）
- 石川英司（パンクラスGRABAKA）
- 長南亮（U-FILE CAMP）

ワンマッチ

伊藤崇文（パンクラスism）vs 日高郁人（フリー）
"ランバー"ソムデート吉沢（M16ジム）vs アリソン・メロ（ノヴァ・ウニオン）

和田さんの東京凱旋マッチだけではなく、ムエタイと柔術と対決となるランバーvsアリソン、仕切り直しとなる伊藤vs日高など、相変わらずマニアにはたまらないラインナップとなった今回のDEEPだが、メインは直球勝負の日本人中量級トーナメント！……とは言っても、これまたマニア好みな顔合わせ。まさしくディープな争いだ。まさか星野vs村浜がDEEPで見られるとは……。さすが、佐伯代表！　8月の大会にはドスJrが再飛来。佐伯代表曰く、みんながビックリする日本人選手との対戦が決定しているというだけに（以前に太刀光が選ばれたように、違う意味でビックリする可能性も非常に高い）、ますますDEEPからは目が離せないぞ！

ディープな仕掛人佐伯代表

「同日開催されるサッカーワールドカップ「日本vsロシア」のキックオフ（20:30）までには、大会を終了させます。ご安心を」と言う佐伯代表。サッカーファンも安心して佐伯ワールドを堪能するんだ！

DEEP 2001 5th IMPACT

日　　時／6月9日（日）　デイファ有明
試合開始／15:00　フューチャーファイト14:30～
お問い合わせ／DEEP事務局　TEL.052-339-0303

田村vs山喧の代理戦争勃発!?

山喧の一番弟子、梁が帰ってきた！

――昨年、山本喧一選手主宰のパワー・オブ・ドリームを辞められたわけですけど。一体、どういう理由からだったんですか？
梁　いろいろありまして（苦笑）。山本（喧一）さんに『いまの練習内容に納得いかないから、自分でやらせて下さい』とお願いしてやめたんですよ。
――あ、そういう理由だったんですか。いまはスタンド所属ということですけど。
梁　趙さん（プレミアム・チャレンジ代表）が俺を使って、なんか構想があるみたいなんですよ。
――超さんが関係されていましたか。だから、こないだの「プレミアム・チャレンジ」の出場選手に、梁さんの名前が上がっていたんですね。
梁　でも、ケガをしちゃって。石川（英司）選手と一緒に練習したんですけど、おもいっきりブン投げられて胸骨を折っちゃったんですよ（苦笑）。
――ウワッ、重傷じゃないですか！　でも、石川選手ということは、グラバカ勢と練習しているんですか？
梁　趙さんから「世界最高レベルを体験してこい」って言われて（笑）。何回か通ってるんですよ。
――それでは、ネオブラッド（・トーナメント＝パンクラス）で敗れた三崎（和雄）選手とも練習したりしてるわけですね。
梁　はい。俺が格闘技を続けるかどうか悩んでいたときも、三崎選手がずっと励ましてくれてたんですよ。
――そんな親交があったんですね。
梁　あのとき三崎選手に負けて、天狗になってた鼻を折られて……。良い勉強になりましたね。
――梁さんのファイトスタイルは、打撃中心というかケンカスタイルそのものだったんですけど。グラバカ勢と練習したりしても、それには変わりはないんですよね。
梁　当たり前じゃないですか！　まあ、オレにはそれしかないってこともありますけどね（笑）。
――それで、相手がU-FILEの上山（龍紀）選手ということで、田村vs山喧の代理戦争として見てるファンもいるんですよ。
梁　あ、言われてみればそうですね。う～ん、まあ、それならそれで頑張りますよ（笑）。期待していてください！

梁正基

マット サエナイガイ子

サエナイガイ子がマット界の内も外も網羅した(つもりの)情報ページ始動!!

120円以上の価値ある情報

封印

ヤマノリが負けてしまったので、『ノリノリ情報局』は公約通り終了! ヤマノリが勝つか、本人が直訴しに来るまで、プロレス(不)事情通ガイ子がお届けするカオスな情報ページ。

元チャイナの名付け親になれッ!

新日本30周年大会で"世界最強のレフェリー"っぷりを見せつけた、元WWFの筋肉女戦士チャイナことジョアニー・ローラーが、この度、新リングネームを大募集! 「"チャイナ"? 中国人か??」と破壊王に言われないようなリングネームをキミは付けることが出来るか!?
応募は郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、下記宛先まで。

【宛 先】
〒150−0011
東京都渋谷区東2−1−11
新日本プロレスリング(株)企画宣伝部
『ジョアニー・ローラー、リングネーム募集』係
※5月31日必着

詳しくは新日本プロレスホームページを見てくだチャイナ。ってね。
http://www.njpw.co.jp/cgi-email/j_name.html

マットナイガイ編集部 ガイ〜ン滑り込み情報局

★新宿プロレス特別編

今回のジュクプロはみちプロ社長サスケが主役! タイトルもズバリ〜We Love サスケ興行〜!!
6月2日新宿歌舞伎町クラブハイツで18時ゴング!
【問い合せ】ロックウェスト 電話:03-5459-7988

そして、ビデオ『"新宿プロレス"』も5月31日に発売。南部虎弾プロデュースならでわの贅沢なメンツが勢揃いだ。定価3150円也。詳しくは、電話:03-5332-6471(株)トライスまで。

★第3回高田道場 サブミッションレスリング試合開催!

キミも「高田道場レスリング試合公式ルール」にのっとって試合をしてみないか?

【日時】6月16日(受付・計量13:00〜/試合開始14:00〜)
【会場】高田道場内(東京都品川区小山3-6-6)
【資格】高校生以上で頭部障害、感染症のない健康な男子
【参加費】一般:1000円(初参加の場合、登録料+1000円)
【問い合せ】高田道場 電話:03-5749-5030

クイズに答えて社長室へ行こう! 6月2日(日)ディファ有明大会にて

三沢社長がお出迎え!

ノアが『第1回のあのあディファ有明横断ウルトラクイズ』を決行! ディファ有明駐車場からクイズをスタート。数々の関門をクリアするとが最後の問題はノア社長室にて三沢社長が自ら出題! 勝ち残っていけば、ノア事務所や道場の秘密が垣間見られるらしい。しかし、不正解者には情け容赦なしの罰ゲームが待っている!
優勝者には副賞として

★三沢選手バージョンのガウンLサイズ
★首都圏での次回ビックマッチVIP席ペア観戦券
★3泊4日サイパンペア旅行

が用意されているらしい。
ノアってば太っ腹すぎるよ……。

【参加条件】6月2日(日)"NAVIGATION"ディファ有明大会の前売り券をお持ちの方
【参加方法】上記前売り券を持参の上、当日ディファ有明駐車場に午前9時までに全員集合!
【詳細】http://www.noah.co.jp/

ちびナイガイ ★3月16日に開催されたU-FILE CAMP『Style-G』大会(5月中旬より配信)と、5月6日プレミアムチャレンジ(配信真っ最中)がWebTVで観られるぞなもし! レッツ・アックセース!! アドレスは→http://bbdreams.dream.com/twp/

スクリーンだって四角いジャングルだ!

蝶野も動き出す!? 映画『ブレイド2』

ザ・ロック主演の『スコーピオン・キング』、シェイン・マクマホンらがチョイ役出演の『ローラーボール』と、映画とプロレスの関係がにわかに濃くなっている今日この頃。そんな中、どの映画よりもこの2つの関係が饒舌に写し出されている1本があった！　それがこの『ブレイド2』。ヴァンパイヤと人間との合いの子ブレイドが、前作に引き続き悪のヴァンパイアどもと、壮絶な死闘を繰り広げるアクション映画なのだが、ここで「ありがち」なんて思って貰っては困る！　それはメインのアクションに、キャメル・クラッチやドロップ・キックを始め、滞空時間の長〜いブレンバスターまで、驚くほどふんだんにプロレス技が含まれているからだ。これはアメリカでのWWFの勢力を垣間見ることになるかと思いきや、出てきたのが“蝶野流急所蹴り”!!　どうやら主演のウェズリー・スナイプスがマーシャル・アーツ含め、日本のプロレス好きでもあるらしい。観どころはまだある。先日、アントン総帥から引退勧告を突きつけられた蝶野が、このことを聞きつけ動き出すとの情報も入ってきている！『ブレイド3』の主演は蝶野!?　レスラー辞めて、現場監督と俳優業の二足の草鞋!?　マット界の噂を裏づけすべく、観るべき1本だ！　6月中旬公開予定。

ムキーッ!! マァ☆ティンが全日本ブラジリアン柔術選手権出場!

マァ☆ティンこと星野育蒔が第3回全日本ブラジリアン柔術選手権大会に出場することが決まった。5月31日から6月2日まで開催される同大会に、我らがマァ☆ティンは最終日6月2日（日）の青帯ペナ級に出場！

会場：東京・台東リバーサイドスポーツセンター3F第1武道場

時間：10：30大会開始　入場料：ななんと無料!!

AX情報!! 6・26AXの後楽園ホール大会にもマァ☆ティン参戦！　他に現在出場が決定している選手はジェットイズミ、ドレイク森松、岡　裕美選手ら。

【試合開始】18：30　最新ニュースはHPで。

URL：http://www.kk-aile.co.jp/ax/

昨年10月から休止中のバトラーツが、遂に本格始動!

6・9後楽園ホールで「第二章〜REBIRTH〜」大会の主要カードが発表された!!

◆石川雄規 VS 臼田勝美

◆原学（佐藤学）VS 松井大二郎

◆カール・マレンコ VS リック・マティス

バトの再生をその目で確かめろ！

バトラーツジム［B-CLUB］ニュース

その1 ［B―CLUB］ジム紅白戦!

【日時】5月26日（日） 13:30 ［B―CLUB］にて

一般の方の見学自由!　しかも目下［B―CLUB］は5月末日まで入会金半額キャンペーン中だぁ!!　見学ついでにいっちょ入会してみっか!

その2 グラップリング-BタッグバトルVOL.2を開催!

【日時】7月7日（日） 14:30 ［B―CLUB］にて

出場希望者は、「男女問わず18歳以上の健康なアマチュア選手」との条件をクリアした上で、チームトータル体重（140kg以下級、150kg以下級、160kg以下級）で階級を決め、チーム代表者が下記の番号まで電話申込みのこと!　なお参加費は、一般5000円・会員2000円（各1チームごと）。

【問い合わせ】電話：048-963-7515

ベイダーの入場曲を創ったギタリスト、r（アール）に参戦！

5・24六本木TSK CCCホール大会に現役ロックミュージシャンの参戦が決まった！

『すべての格闘技のエッセンスを取り込み、進化したプロレス』を標榜するrだが、今大会は格闘技以外の要素も盛り込んだ、これまでにない内容になること請け合いだ！　この大会では、ミュージシャン選手の他にも、篠原光やK-DOJOから真霜拳號とサンボ大石の参戦も決定している。

【日時】5月24日　19：00試合開始

【場所】東京・六本木TSK CCCホール

【料金】前売り：4000円／当日：4500円

NAOKI（ナオキ）　キックボクサーとしてデビューを進められるが、ミュージシャンとして活動するために断念。現在、メタルバンド『VULGARHEAD』でギタリストとして活動中で、グッドリッジやベイダー、モハメドヨネさらには川田利明に至る、幅の広い選手層に楽曲を提供している。今回はK-DOJOの真霜拳號と対戦予定。

ISAO（イサオ）　過去に総合格闘技を学んだが、音楽活動をメインに選ぶ。ドラマーとして『FREE FOR ALL』というバンドで活躍しつつ、クラブ等でバウンザーとして世界のストリートファイターを相手に闘ってきた経歴を持つ。今大会ではSPWFの高智政光が相手を務める。

ファイターズファクトリー プロレスリングスクール開校!

世界にあまたある格闘技を、ひとつの平等なルールで闘わせたら？　との想いから開催された異種格闘技興行DOA。実力のあるレスラーを育てるため、ファイターズファクトリーがプロレスリングスクール（P.W.S）の開校を決定した！　平成の「新日本プロレス学校」の夢よ再び!?

【入会条件】●心身共に健康な方

●最低週3回以上、定期的に通える方

●20歳以下、体重75kg以上、20歳以上、体重80kg以上の方（年齢・身長の規定なし）

●やる気のある方!　努力しなければならない時に、努力の出来る方募集!

気になったアナタ!　まずはホームページをチェック!!　http://homepage2.nifty.com/fightersfactory/

【問い合せ】FF事務局

電話&FAX:0478-78-4912

E-mail:fightersfactory@ae2.dion.ne.jp

大日本のファンクラブに入会しろっちゅーのッ!

つい先日、こんなお便りを頂きました。

ガイ子さんへ

お元気ですか？　大日本広報さとうです。

もう覚えてらっしゃらないかと思いますが、冬に葛西純の取材に同席させていただきました。

誌面でお顔を拝見するたび、頑張っているなあ、と微笑んでしまうのですが、猪木弁当を食べている写真と、文章を読みまして、**ガイ子ちゃん、それじゃイカンよ〜〜!!** と思い、筆をとりました。

同封したサプリメントは、ミスター肉・松永氏より、おススメを受けて、私も愛用しているものです。コレをなめている間は、ボヤかずに済みますから、ボヤキ対策&栄養補給と一石二鳥モノです。もしお口に合わなかったら、チョロさんにでもさしあげて下さい。

ではまた、お会いできる日を楽しみにしています。**ちゃんと食えよ!!**

大日本　さとう

どうです!?　「ガイ子は最近ブサイクを武器にしているようだが」なんて読者ハガキに紛れて、こんなお手紙が、大日本のさとうさんから届いたんですよぉ！　それもスンバラシィお土産付きで！　かたじけなさに涙こぼるる（西行調）ってもんです！　で、本題。大日本プロレスの公式FC『カッティング・クルー』が、現在入会者をモリモリ募集中!!　会員特典は試合チケットの先行予約（しかも10%引き！）、イベントの割引、メールによる情報サービス、そしてそして、こんなオツな手紙と滋養食を送って下さった、ステキなさとうさんが編集長を務める会報『ROCK STEADY』が送られてくるのだ!!　しかも今なら、チームOBAKAまたはスキンヘッダーズの携帯ストラップまでついてくるというのだからまさに“流血大サービス”だ!!

エッ！　公私混同してるって!?　そんなこたぁねぇです。大日FCはサイコーぜよぉ！　ぐだぐだ言わずにとっとと入会しろっちゅーの！

【入会方法】入会金1000円十年会費5000円を現金書留にて下記の住所まで送ればいいんだっちゅーの!

【宛先】〒224―0053

神奈川県横浜市都筑区池辺町4347

大日本プロレス　FC申込み係

【問い合せ・詳細】

TEL:045―937―0811

URL:http://www.bjw.co.jp/

早速、がっつかせて頂きました！　あまりの嬉しさに泣き崩れるっちゅうのぉ〜！（鼻水）

紙プロ元気大学

病気ギライな担当が読者と向き合うページ!!

はい、はじめましてー(事務的に)。ささきぃです。読者ページ担当がバタバタと病気で倒れていき、編集部本隊もいっぱいいっぱいなので、電気部・ささきぃが読者ページを受け持つことになりました。「ささきぃは文章が熱いわりに性格が冷たい」「顔が南原似」「巧妙に仕事をさぼっている」「結構したたか」「そのわりにすぐ感情的になる」などの噂も編集部内外から起こりはじめているようですが、気にせずサクサクと新読者ページ・紙プロ元気大学をスタートさせたいと思います。当大学の校則等は随時発表いたしますが、とりあえず入学したら病欠は一切認めません。元気が一番。つーか、元気で健康なんて当たり前です。元気じゃない人はまず元気になってからハガキ書いてきてください。んじゃ、始めましょうか。

(愛知県・たっつぁん・34歳) WWF消滅 またこのパンダのツラがいいですね 確かにWWFの名前が変わっちゃうのは寂しいけど、名称変更さえもエンタメしようとする様は見事でした 元気さもしたたかさも見習いたい

校内巡回

巡回開始の前に、5月3日・ZERO-ONE松山大会で、「紙のプロレスバンザイ!!」というボードを持ってガンガンPPVに映っていた方、一応ひとことお礼を言いたいので連絡下さい。編集部からは山口日昇とカメラマンしか行っていないため、「ゼロワン大好きの会長(山口日昇のあだ名)が、地方で子供返りしてしまったのではないか」という私の上司に対する疑念を解消するためにも、早急なご連絡をお待ちしております。

★電気部日記にある、ガイ子さんが飲み過ぎたものって何ですか? よっぽどヤバイもんなんですか? 心配で夜も眠れません。
(埼玉県・ガイ子命・21歳・学生)
➡ガイ子さん本人が考えすぎて自ら伏せ字にしたため、期待させてしまったようで申し訳ありません。LSDでも漂白剤でもヤセ薬でもなく、ただの睡眠薬です。お騒がせしました。ゆっくり眠ってください。

【面白かった記事】
Uインター座談会・小畑千代・橋本・小島・冬木・WWF・DEEP
★金持ちになったら観に行きます。
(横浜市・甲下雅也・32歳・犬の散歩)
➡頑張って金持ちになって欲しいけど、その仕事はもうかるんですか?

【つまらなかった記事】
燃えよ破壊王
★炎の量で負けている。炎に包まれた大型バスが腹の上を走りぬけるとかやってもらいたい。破壊王には、ぜったい勝ってもらいたいので。
(兵庫県・河合健治・?歳)
➡「勝ってもらいたい」というのはわかるけど、破壊王のことを「お笑いウルトラクイズ」の人とかと勘違いしているのではないでしょうか。

★面白かった記事はささきぃの「電気ですか〜ッ!」です。やはり女性の日記は読んでて興奮します。
(兵庫県・春乃・35歳・会社員)
➡面白かったならありがとうですが、あれで興奮できるんですか? バイアグラいらずですね。

★つまらない記事は特に無かったけど、今号にはターザンがいないことに気付いた。次号は「日本のホーガン」であるターザンに「致死量の毒」と「哀」を!
(東京都・片岡健太郎・26歳・学生)
➡それって、わかりやすく言うと、どういうこと? ターザンさんに○○ってこと?

★つまらない記事はなし。人をにくんで記事をにくまず。
(青森県・清野健徳・31歳・無職)
➡罪を憎んで人を憎まず、の教えから考えると逆じゃねぇでしょうか? まぁ、おメェはそれでいいや(事務的に)。

★つまらない記事はP150〜151のささきぃの文章。女性特有のなんかヌルッとした粘着質の文章が個人的に嫌い。
(東京都・長瀬一樹・27歳・大学院生)
➡ふぅん。乾いてたらいいの? それとも女がダメなの? まぁ、オメェもそれでいいや(ちょっと不機嫌そうに)。

【哀を感じるレスラー】
★哀しき天才・セッドゼニアスでしよ!
(広島県・浦野晋・37歳・会社員)
➡ジニアスだし。

【前々号のハガキ・好きな団体アンケートより】
★好きな団体・やっぱり新日っすね! その中でもT2000ですね!
(福岡県・組坂幸平・18歳・学生)
➡いきなり真っ向から直球ですね。そうハッキリ言われると、ここからどういう話をしたらいいのか迷います。

★好きな団体・NOAH・WWF・リングス金さえあれば、ZEROONEと全日にも行きたい。
(横浜市・甲下雅也・32歳・犬の散歩)
➡これは前々号のハガキですが、一カ月ではやっぱ金持ちになるのは無理でしたか。

★好きな団体・修斗・グラバカよく見ると各々おもしろいですよ。
(東京都・神子はるか・1歳)
➡なるほど。大人は目が曇っているのかもしれません。勉強になりました。

★読者病棟に載ってうれしかったです。これからもガイ子ファンで行きますよ〜!
(東京都・鶴田喜樹・21歳・学生)
➡これを載せたら今後アナタはどういうスタンスをとるのか、気持ちを試してみたいと思う。

★5・2の三沢vs蝶野は、三沢が勝つような気がする。
(愛知県・五十君悠平・17歳・学生)
➡外れたな。悔しかったらまた予想してくるがいい、17歳。

★毎月、月末が楽しみです。期待しています。ガンバレ!!
(滋賀県・中村達幸・28歳・自営業)
➡素直な言葉を言えるあなたはとてもいい人だと思う。こちらも素直にありがとう。

衣料部・Tシャツ自慢コーナー!!

(静岡県・目ガ覚メタロウ)「祝・紙プロR50号突破。素晴らしいTシャツなので、背中に電気が走りました。中川画伯、暗い我が家に光が灯りました。中川画伯、いつもAL-がとう御座います。」家庭的なビンラディン風のTシャツハンター・目ガ覚メタロウ氏です。白黒なのでわかりにくいですが、地色は水色でかなりうらやましい格好良さのTシャツです。オレも欲しいという方は「ほんとにジョーク」に今すぐ投稿しましょう。中川画伯のTシャツ自慢の他にも、自分で作ってみたオリジナルTシャツや、こんなTシャツが欲しい! みたいなお手紙も募集します。(例:ヤマノリ11秒Tシャツ等)イラスト入りの企画書なんかもいただければ嬉しいですが、あまりにも力が入りすぎていて「いつ作ってくれるんだ」と問い合わせかけられても困るんで、適当な力加減でお願いします。

学会発表

知られざるキャッチフレーズ

ゴングの「プロレス名鑑」、外人のキャッチフレーズで気になるものがいくつかありました

見たまま編

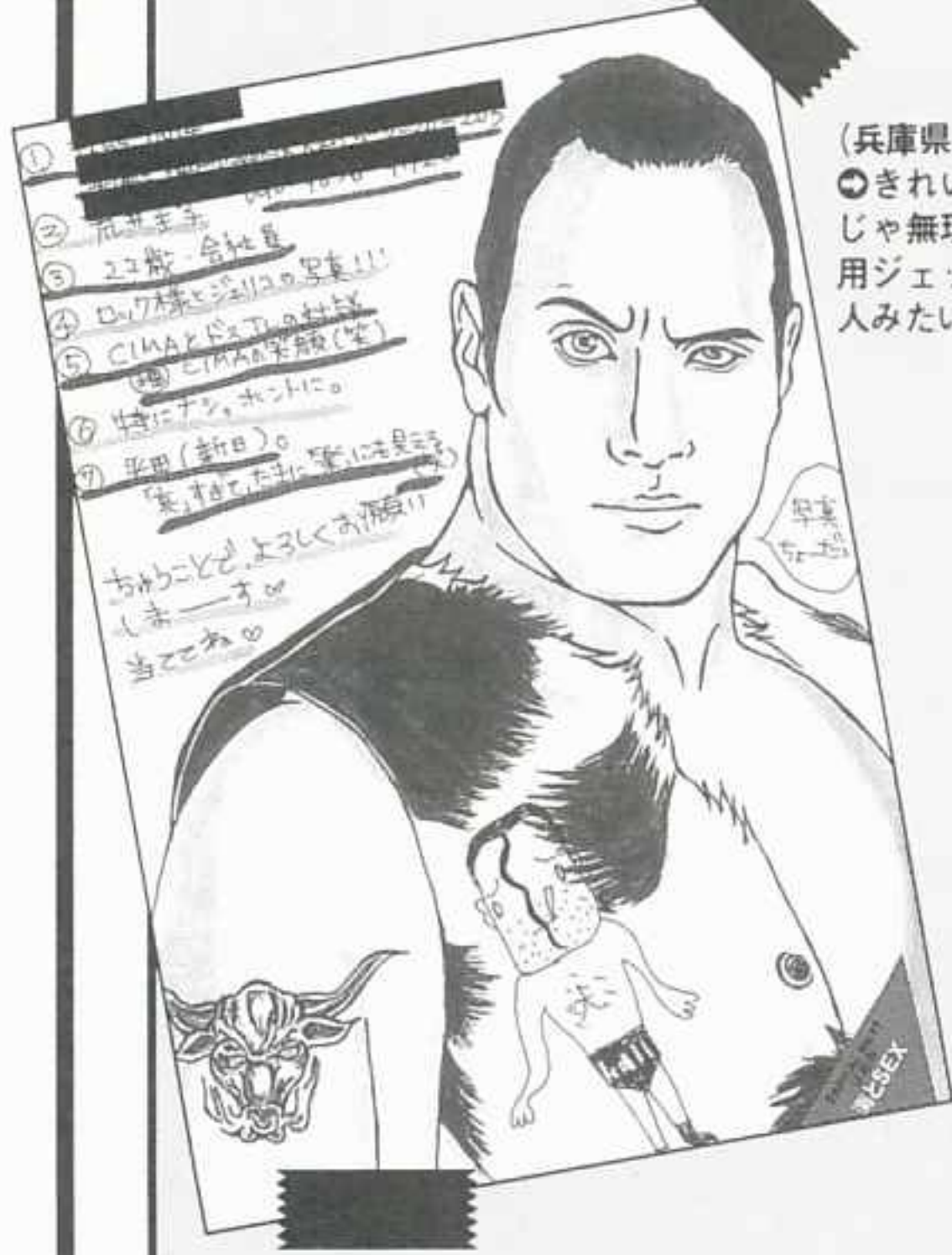
ミステル・メヒコ——ムキムキ戦士
ステイシー・キーブラー——長身の美女
リッキー・マルビン——空飛ぶジャニーズ

直訳編

ジャスティス・ペイン——正義痛
ディスコ・インフェルノ——ディスコ狂
ブルー・ミニー——ブルーな恐怖

こんなキャッチフレーズだとは知らなかった編

アニマル・ウォリアー——破天荒なアルマジロ
スコーピオ——踊るファンキー野郎
ランディ・サベージ——空飛ぶ色メガネ
スティーブ・コリノ——おしゃべり少年
ショーン・マッコリー——格闘マニア
バンバン・ビガロ——わめく電気くらげ

掲示板

（兵庫県・荒井圭子・22歳・会社員）
➡きれいな色がついてるんだけど、印刷じゃ無理かも。スマン。ロック様、自家用ジェットで来日。なんかもうアニメの人みたいです。

（埼玉県・中川雅博・無職）
➡弘光→弘蜜??　っていう改名ネタですね。Uインター座談会シリーズ、大好評の金ちゃん。しゃべりも最高なんですが、試合が早く見てぇです。

（埼玉県・小川徹・16歳）
➡前号のインタビューが大好評だった小島選手……こんなでしたか？　似てるんだけど……なんかちょっとわかんなくなってきた。

（埼玉県・おさぼ・35歳）
「ＮＯ.47の葛西純の人生相談、おもしろかったです！　人の悩みそれぞれにめいっぱい答えていたところに感動！　プラス俺っち様のストライクゾーンに自分が入っていたことにも、いらぬ安心をしてしまいました」
➡入ってても、打ちやすい球かどうかは……いや、自分もすぐにそういうギャグに傷つく年になるので、やめときます（今年27歳）。

「元近鉄の佐野選手のパクリです。ピカピカ投法で是非メジャーにはい上がって頂きたい」
➡弱火ギャグに以外と弱いもんで、読みつつ吹き出してしまった一枚でした。今シリーズからケガ無い人は３人になった全日本。川田、早く帰ってこい。

二枚橋（２）遺跡から出土した完形品の土製仮面

「以前Misiaのプロモで、Misiaそっくりの土偶をサブリミナル的に挿入しているのがあったけど、金ちゃんもＰＲＩＤＥに出る時の紹介ＶＴＲでこの土製仮面をインサートしてみたらいかがだろう。」
➡そんな事言ったら女性ファンが怒るじゃないですか。まだ会ったことはないけど。

◎青木雄大コーナー◎

「どんな屈強な男も、嫁の前では皆下僕であります。藤波？〝将軍〟が〝関白〟になれるわけないでしょう。」
➡最強の嫁決定戦をどこかのリングでやってもらいたいもんです。

「そう言えば立川流の家元も、よくＴＶ収録に遅刻したり、すっぽかしたりしてるなぁ」
➡和泉母と息子の最近の憔悴ぶりが似ていると思う。

元気が当然の入学希望者・投稿大募集!!

気が向いたら送ってきて下さい。え？　冷たいですか？　募集してないわけでも読者が嫌いなわけでもないんで、ご意見、ご感想、イラストの他、自分は紙プロ元気大学でこんな活動をしたい等、じゃかじゃか送ってきて下さい。でも悩み相談とか心の病気の人とかからの手紙は正直ひとことで言うとウザイ（三沢調）ので、しかるべきところに行くか、自分で面白いかどうかよく考えてから送ってきて下さい。メールはradical@kampro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3・11・3・702（株）ダブルクロス 紙のプロレスRADICAL編集部「病は気から」係まで。（本名NGの方はペンネームを記入することを忘れないよーに!）
※次号は発売日が早いので、6月3日頃までにハガキ下さい。早いっていうただそれだけで、採用の可能性は結構高くなります。

（静岡県・目ガ覚メタロウ）
➡いきなり相当面白いお手紙をありがとうございます。注目はスティーブ・コリノですね。ていうか、とりたてて大きく募集もしていないところにいきなりこういうの送ってきてくれるその男気に感謝したい。今後も読者の皆様からの発見や作り込んだ文章等、お待ちしております。

明らかに面倒くさかった編

ビリー・ボーイ――空飛ぶスケボー野郎
アラン――踊るスケボー野郎
デクニス――戦うスケボー野郎
ココ・ロホ――悪魔の道化師
ココ・アスール――地獄の道化師
ココ・ネグロ――墓場の道化師
ココ・ロコ――狂った道化師

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである——（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場
書評の星座 PART2

え〜、今回は徳間書店からリリースされた新間寿著『アントニオ猪木の伏魔殿』＆荒井昌一著『倒産FMW』の2冊、つまり「国会議員にまで登り詰めたカリスマに翻弄された背広組の告発本」をセットで紹介しようと思っていたんだが、大変なことになってしまった今日この頃。文字通り明るい未来が見えなくなったプロレス界で、無闇に明るさを振りまいてくれるのが武藤と橋本なのだ！ そういうわけで、「早く蝶野もこっちの世界に来い！」と言いたくてしょうがない書評コーナー。〈e-mail:go@kamipro.com〉

MUTO
野心90%
全日本プロレス武藤敬司

『MUTO 野心90%』
（武藤敬司、構成・長谷川博一／アミューズブックス／1905円）

意外にも武藤単独としては初の著書ながら、80ページを越えるカラーページのせいなのか、いい紙を使っているせいなのか、それとも全ページを使ったパラパラ写真マンガのせいなのか（たぶん無関係）、定価がかなり高く設定されているのでどうやらあまり読まれていないらしい、この本。それでも武藤ぐらいにしか決して許されない、あっけらかんとしたエゲツない本音が連発されまくっていて異常なぐらいに面白いという。武藤ならではの一冊である。

なにしろ、**「蝶野がもし新日のブックをやるんだったら」**だの**「最低、1カ月以上はアメリカのリングに上がらないと小さなアングルだって作れない」**だのと物騒な隠語を平気で使ったりするんだから、それだけでもズバ抜けた奇跡っぷりはわかってもらえるはず。

とにかく**「あいつら割り切ってるよ、ステロイドなんて俺らがお茶を飲むくらいの感覚でしかないから（笑）」**といった全米ステロイド事情や、ゲイリー・ハート（ムタ時代のマネージャー）が**「人間的には、ひでえ奴だよ（笑）。いわゆるクセ者だから。ドラッグやってるしさ（笑）。金銭的にも図々しいところがあるし」**なんてことまで、全日入団で自由になった武藤がいちいちバラしまくっているのであった。

どうにも地味なタイトルだって、なんと全日移籍の真相が**「マスコミにはあれやこれやきれいごとを言ってるけれども、正直言って90パーセントは野心だよ（笑）」**という意味だったりで、とにかく**「要は俺、成り上がりたいんだ（笑）」「いつかは……オーナーの座を目指したいよね（笑）」**なんて野望すらも隠すことなく、馬鹿正直に告白していく武藤、最高！

「俺、元子さんにこう言ったんだよ。『元子さん、全日本を俺に下さいよ』。その時の元子さんの喜びようといったら、なかった。（略）全日の興行の不振もあって、当時元子さんは精神的に凄いウツだったらしい。でも、それ以来、すっかり元気になっちゃったって、そんなこと今でもよく言われたりする」

そんな元子LOVEぶりについても、**「元子さんに優しく言い寄る訳？ いやあ、ただ媚び売ってただけだよ（笑）」**なんて、やっぱり馬鹿正直に言い切ってみせる武藤が、本当にたまらなさすぎなのだ。

当然、新日が抱える様々な問題点についても武藤は容赦なくブチ上げていくのであった。

「今、プロレス団体を経営していくなら、俺は東京ドーム大会なんかいらないと思ってる。ここ5年、10年、新日本プロレスが何で苦しんだかといったら、東京ドームで苦しんだ。金が回らないから年3〜4回のドーム興行の収益に頼るという悪循環になってたんだよ。（略）東京ドームって一種の抗がん剤だよ。新日の台所事情を考えると、打たざるを得なかった薬かもしれない。けれども同時に、他のよい細胞も殺してしまう」

興行の流れ（それまでのアングルなど）をいちいち断ち切るドーム大会の乱発によって新日が迷走を続けるようになったのは、紛れもない事実だろう。しかし、そんなことよりも大きな問題が新日には存在したようなのである。

「新日本は余程、俺のことをプッシュしなかったんだなあ、なんて感じたりするね。闘魂三銃士の時代というのは、スターが3人いるという複数制だった。要は出過ぎる杭は程よく打たれていたんだよね。それはただの結果論かもしれないけど、出る杭を打っていたのは、もしかしたら長州さんが現場監督を務めていた時代の“実害”のような気もするんだよ（笑）」

「結局、新日本の悪しき伝統というのは先輩のレスラーが自分より強いレスラーを作らないで現役を退いていく、ということだったんだな。猪木さんしかり、長州さんしかりでね。それだけは俺の代で終わりにしたいね」

配下の選手に寝首を掻かれないように突出したスターを育成せず無難な複数スター制を作り上げた長州と、せっかく育成したスター同士（藤波と長州など）で潰し合いをさせていた猪木。どちらが正しいのかは知らないが、長州のやり方がビジネスとしては正しくても致命的につまらないことだけは間違いないだろう。

結局、武藤が新日を離脱することになったのは**「いつの間にか俺、このまま会社に長居をして、会社のいらない“在庫”になりたくないな、という気持ちを持ち始めたんだよ。失礼だけど、諸々の先輩みたいにはね」**という発言からもわかるように、いらない在庫をのさばらせてきた長州体制の弊害でもあった様子なのだ。

「新日本プロレスの一番の問題というのは、能のない“在庫”を抱えすぎてることなんだよ。それが橋本の言う“ウミ”なんだと思う。レスラーも社員も含めて、在庫が多すぎる。結局、一部の人間の働きだけで多くの人間を食わせてる。そんなの、いつかパンクするに決まってるよ。藤波さんや長州さんを別にしても、実は俺よりサラリーをもらってるベテランの選手だっていっぱいいるんだよ。（略）選手や社員をクビにしない。肩を叩いたりしない。新日本のそういった社風は、逆に言えば凄く優しさがあると思う。ただいかんせん世の中がこんなに不景気だと、荷が重い会社はある程度、そこら辺でスパっと一線を引かないと残っていけないんじゃないか」

ウミみたいな能のない在庫はスパッとクビにしろ！ 武藤が言いたいのは、そういうことなのである。

肩書上だけでも社長になっている藤波はともかく、試合も裏方の仕事もろくにしていないのに現場監督も兼任する現役時代と同じギャラを貰っていた長州、そしてそれ以外にもいっぱいいたらしい無能な不良在庫たちが高額なギャラを奪っていたと武藤は電撃告発するのだが、果たしてそれは誰のことなのか？

とりあえず、この発言を読むと答えがボンヤリながらもわかってもらえるはずなのであった。

「もちろん、新日の先輩だって、かつてはUWFとかジャパン・プロレスに参加して、しばらくして戻ってきた人もいる。それぞれに事情があったんだろうし、一概に悪くは言えないんだけど」

それって木戸？ 山崎？ マサ？ 小林邦昭？ 保永？ タイガー服部？ それとも、まさかハリケーンズの平田やヒロのこと？

具体的にはわからないが、こうした長州の「俺が面倒をみる！」システムによって、外様のベテラン重視の不可解な年功序列システムが確立されてしまったわけなのだろう、きっと。

しかも、長州を外してマッチメイク委員会が新たにカードを組むようになったところで、やっぱり事態は好転しなかったようなのだ。

「新日本から全日本に移籍したフロント組の中には、新日のマッチメイク委員会の一員だった男性もいる。彼は去年、2001・10・8の新日東京ドームとか、『猪木祭』のカード編成でクタクタに疲れてたんだよ。例えばマッチメークを先方と取り付けて、しかも2パターン、3パターン作ってから『これなら全部できる』と藤波社長に見せる。カードの決定権は、やっぱり社長にあるからね。藤波さんが『よし、これで行こう』と決断を下した後に、しかし猪木さんがカードに目を通してイチャモンをつける。せっかく自分達が一生懸命作ってきたものを、グチャグチャにしてしまう。すると往々にして藤波さんは自分で責任を取らないで『お前、ちょっとじかに猪木さんと話してみたらどうだ？』なんて振るらしいね（笑）。彼の場合は、そんなストレスが貯まりに貯まっての退社劇なんだよ。まあでも藤波さんの、あの優柔不断さは今に始まったことじゃないからね。みんな何年も付き合ってるんだから、分かってるんじゃない？（笑）」

藤波の揺るぎないコンニャクっぷりがこれでまた明らかになったわけだが、そんな閉塞感とアントニオ猪木の現場介入によるプロ格路線の強化によって、武藤一派は全日への移籍を決意したのであった。それなら「こんな会社、辞めてやる！」と思っても当然だって！

「最近、猪木さんが進めている総合格闘技路線は、どうしても賛同することができなかった。（略）プロレスと格闘技、両方の絶妙なミクスチャーなんて、ありえないんじゃないかな。（略）旬のレスラーがみんな格闘技のほうに派遣されて、可能性を潰されてるじゃない。たとえ試合に勝ったとしても、あれは何度もできないしね。反対にプロレスのリングであれを見せようとしたら、いわゆる“なんちゃってPRIDE”になる。ファンは共鳴できないでしょう」

もう、まったくその通り！ これは**「勝ち負けの結果を踏み越えるような、試合という“作品”を残せなかったら、人気は続いていかない。それが俺の持論」**と豪語するぐらい、自分の“作品”に自信のある武藤だからこそ言える正論なんだとボクは思う。実際、武藤は**「まあ多くのレスラーは、作品をそれほど残してないけどね。俺、小川直也とかあの辺、作品をそれほど残してない気がするんだよ。それが格プロと呼ばれるものなのかどうか、知らないけど」**とまで言ってるわけだし。

そんな武藤にしてみたら、ろくな作品をまず作れやしないことが最初からわかっている格闘技路線に無理矢理引きずり込まれていくのは、到底許し難いことだったはずなのだ。

「2001年の初めの頃は、俺は新日本で格闘技路線の試合を求められていたんだよな。本当はそんなの好きじゃなかったけど、それをやらないとレスラーとして食っていけないんだから、嫌々ながらやってたよ。その先に小川直也戦の予定もあったけど実現しなかった」

「（最初の猪木祭では）髙田さんと組んでドン・フライ＆ウェイン・

シャムロックとやったのか。やっぱりあいつらとプロレスやってても楽しくねえな、と思ったよ。あの野郎たち、プロレスというものを一生懸命理解しようとしてないし、ちょっとプロレスを勘違いしてるなという気がしたし」

これまた非常に同感ではあるが、だったら武藤が考えるプロレスとは果たして何なのか？

「俺、プロレスとは何かと問われたら、やっぱりエンターテインメントだと考えてる。（略）猪木さんは新日本プロレスを〝キング・オブ・スポーツ〟であると謳っていた。俺、個人的にあれはやめたほうがいいと思ってた。格闘技の頂点にいなくちゃいけないということで、何かと責められてしまうしさ。（略）例えば野球なんてそんな考え方、眼中にないもんね。（略）だからプロレスは〝スポーツ芸術〟でいいんじゃないのかな」

確かに、新間寿という最強の頭脳を失い、カール・ゴッチや藤原喜明といった強さの指南役も失い、もはや道場幻想も失った新日が、いまも〝キング・オブ・スポーツ〟の看板を掲げ続けるのは、どう考えたって無理があるはず。

それなのに、〝スポーツ芸術〟の世界の人を格闘技の世界へと勝手に引きずり込もうとする猪木のことを、武藤は梶原一騎直撃世代らしくこんな表現で批判していくのであった。

「仮に星一徹のような人だったら、態度は厳しいけど野球を愛してるし、飛雄馬を愛してるでしょ。でも猪木さんは、一徹ほどの愛さえもないんじゃないか？（笑）」

そう。猪木にはプロレスLOVEも選手へのLOVEも一切ないのである。まあ、だからこそ圧倒的に面白いとも言えるんだが。

誰よりもWWEを意識している猪木が、ビンスに絶対真似のできないプロレスとして選手への愛を無視した格闘技路線を進もうとする気持ちはよくわかる。実際、武藤でさえ「もしも同じ土俵で、同じキャラでやった場合には、日本のプロレスはアメリカに太刀打ちできないよ。絶対、侵略される。だから俺たち日本人は、あえてこういう難しいプロレスを今まで築き上げてきた」と言ってるわけだし。

しかし、どうにも武藤が考える「打倒WWEの秘策」がまた、実に武藤らしくて抜群なのだ。

「日本のプロレスが太刀打ちできるものは何か？　俺なりに考えてみた。いや、それは浪花節の感覚だと思うな。日本人の心の琴線に触れる人情劇というかね。そこら辺ならアメプロに負けないはず。だから俺はこれから、21世紀の浪花節を目指しますよ」

武藤に喜怒哀楽の「哀」みたいなものをビンビン感じると思ったら、どうやらそっち方面を強化するつもりでいたようなのである。

現在、WWEの日本侵攻やPRIDEなどの格闘技ブーム、そしてもちろんミスター高橋本の影響もあって危機的状況にあると噂されているプロレス界。それでも、武藤はこう語る。

「ミスター高橋さんの書いた暴露本が話題を呼んでるね。俺も実はあの本、読んだよ。マスコミには「読んでない」って言ってたけど。（略）特に俺のことが書かれているわけでもないし、余り気にならないというのが正直なところだな。（略）〝カミングアウト〟なんていう言い方に代表されるようなプロレスについての意地悪な見方って昔からあるものだけど、俺だったら誤解を生むようなコメントを出して、そうしたファンの気持ちを壊したくないね。ファンのことは裏切れないよ。（略）俺は〝作品〟に拘ってプロレスをやる。勝ち負けだけじゃなく、勝ち負けを越えた場所にも、闘いの美学はあると思う」

この姿勢、実に武藤らしくて文句なし！　人に適材適所がある以上、武藤は格闘技路線なんかではなく「作品に拘ったプロレス」方面に向いているのはまず確実なのだから。

「もちろんプロレスは生き残っていくとは思ってる。俺がそうさせるし。ただもう、そんなに大化けはしないんじゃないか、恐らくね。だから業界の人達がそれを分かった上で、コツコツコツコツ事業の努力を重ねていくべきだと思う」

えらくリアルで切実な発言だが、プロレスを死なせないために身体を張っている男が言うからこそ、心に大きく響いてくるというか。

「右ヒザが伸びないという状態は、もう冗談じゃ済まない深刻な話なんだよ。2000年の春、アメリカに行く前に診察に行ったら、何もしなくてもヒザが30度くらい曲がってた。その時「この角度が60度になったら足としては機能しない」と医者に言われたんだ。そしてアメリカから帰ってきて、2001年の5月にまた診察に行った。今度は曲がってる角度が、もう45度なんだよ。わずか1年で凄く悪くなったんだね。するともしかしたら、あと1、2年でドクターストップの可能性もあるわけだからね。仕事ができなくなるのは悔しいよなあ……」

こんな状態でハイレベルな〝作品〟を次々と生み出し、それでいて「今の俺だと補償の内容は、どんな感じなんだろう。あんまり契約書読まないから分かんないな。俺、値段のとこしか見ないからね（笑）」という極めて呑気な姿勢も忘れない武藤。

全日が株式上場を目指していることについても、オーナーを目指しておきながら「株式の上場の意味とか俺、詳しく知らない。でも何かいいじゃん。聞こえがいいよね（笑）」と言い切るから、武藤はいちいちさすがなのだ。

それ以外にも、この本では高校時代の「夜は風呂に入りたいじゃない。だから一度家に帰って風呂入って、また山に戻っていくんだよ（笑）。一応、山では寝るんだけどね。結局、3泊か4泊したかな」という「空手バカ一代」直撃世代らしい山籠もり話か、なんと「俺、契約書は交わしてないけど、口約束ではOKしちゃったんだよ（笑）」というSWS契約未遂事件まで遂にカミングアウト！

つまり、海外遠征から「日本に帰ってきて、（田中八郎）社長とは何度も逢った。お互いの家を行き来したり、東京駅近くのホテルでミーティングしたり、プランを練ったり」で、「いよいよ腹を決めて、Sに行こうと思って坂口会長に電話をした」ら説得され、あっさり残留を決意した過去があったようなのである。

「『すみません。やっぱり俺、新日本に残ります』って謝った。土下座したよ」

そんなことがあったのに、もしSWSに入っていたらとの前置きをした上で、「俺だったらさ、天龍さんの入団は歓迎しても、その後についてきたザコはいらないしさ。あんなの当時の全日本からすれば、在庫整理にちょうどよかっただけだもの」なんて本音をブチかます武藤は、タチが悪くて本当に素晴らしすぎ！

それらの武藤ちょっといい話だけではなく、西村の「私がガンになったのは、この東京という街のせいなんです」発言や、破壊王が空気銃で野良猫を狙い撃ちしたり、スズメを殺して食ったり、矢ガモ事件の犯人に疑われたり、ブラッド・レイガンスに「橋本のハンティングの腕は最高だ」と絶賛されたという一部では有名な伝説まで掲載されてるんだから、まずは騙されたと思って読んでいただきたい次第なのであった。

ザ・検証

「いい試合だーッ!」（いい試合だ男1号・本物）「いい試合だーッ!」（いい試合だ男4号）？いい試合だーッ!」（いい試合だ男12号）「いい試合だーッ!」（いい試合だ男52号）「いい試合だーッ!」（いい試合だ男96号）……というわけで「いい試合ダーッ!」の声数だけ、いい試合だ男は存在する！　1号さん連絡待ってます!

今月の検証 by 椎名基樹

菊田vsアレク それぞれの〝怒り〟

プライド20の菊田vsアレク。いや〜面白かったね。あそこまでフルチンを見せ合った試合も、最近見あたらないですよ。どっちのチンコも大きかったぞ、いや〜立派だ!

試合前は、まったくの〝菊田派〟だった俺だったけど、試合が進むにつれ、いつの間にかアレクも応援してましたよ。アレクが「菊田の業界の入り方が気に入らない」等、とんでもない言いがかりをつけて、試合前からヒートアップしたこの一戦。しかし、アレクの怒りの理由が「プロレスをバカにした男を許さない」なんてことではないと、なんとなく感じる。あまりにも取って付けたみたいだし。最初は「盛り上げるために言ってんのかなあ?」と思ったけど、試合とその後のマイクを見る限り確執は本物のようだ。

では、なぜあんなに怒っていたのか詳しいことはわからないが、試合前のインタビューVTRでアレクが言っていた「ナメられた」っていう思いが一番怒りの理由を端的に表しているだろうと思う。菊田が与し易しと判断してアレクを指名したのだから、闘いを生業にしている者にとってこれ以上の侮辱もないだろう。これだけで、怒るに十分の理由だ。同じことをレノックス・ルイスがタイソンにやったら、記者会見場は血の海である。

また、修斗で無名の強敵とデビュー戦を行って、非常に評価を下げた経験もある菊田が、プライドの復帰戦にナーバスになるのもよくわかる。

しかし、記者会見でプロレスから逃げ出しただなんだ、過去のどうでもいいことを人前で言われた菊田も相当ムカついただろう。ご存じの通り、菊田はUインター在籍時代に道場でヤマケンに腕を折られている。それも諸先輩たちが周りで見ている中で。それはどう考えてもリンチである。リンチされて道場を去っていく者の受けた屈辱を、俺は想像することすらできない。しかも、菊田はその時点で国体の柔道で優勝したほどの実力者だ。俺だったら道場に火をつけてやるね（←蝶野イズム）。とにかく菊田のプロレス界への恨みはハンパじゃないはずである。

かくして、複雑極まりない事情が絡み合い、なんの因果か、菊田とアレクはフルチンの怒りで闘ったのである。そして、その闘いは非常にインパクトがあった。アレクのあの闘いぶりは、俺には負けるとわかっていて挑んでいるように感じた。ただ絶対ギブアップはしないと決めていただろう。やられる時は眠らされた時だけだ。そして、負けるかもしれないけど、だったら鼻血のひとつでも、まぶたの傷ひとつでもつけてやる、そう考えていたように思う。それが闘いの意地ってもんだ。そういう部分が試合後のアレクの「内容では負けてないんだ」というマイクであると思う。結局、菊田の勝利は判定だもんね。判定なんざ、他人の決めたことだ。

そして、アレクが先にフルチンになったからこそ、菊田のマイクも「僕はプロレスを挫折した人間です」という、あたかも心情の吐露のような言葉になって観客に届いたのである。そして、その結果、菊田への誤解が一瞬に解けた瞬間を見たカタルシスを、俺も観客も味わうことができた。こんな特殊な快感は、他の試合じゃ、もちろん他のスポーツじゃ味わうことができない。いや〜いいもの見た。

これで菊田もぐじゃぐじゃした話から解放された。結局、俺も含め菊田ファンが一番魅了されている部分は、柔道チャンプから始まる菊田の経歴に見る、希にみる天才性だと思う。本人もアレク戦の後、マイクで言ってたとおり「ノゲイラ、シウバという良い選手」に立ち向かえる、日本人選手の一番手として、いや最後の切り札として、菊田に期待しているのだ。

しかし「今はプロレスも格闘技と同じように素晴らしいものと思ってます」っていうマイクは、またまた嘘ばっかりで、菊田のそういうところが、俺は大好きだね。

そして、アレク。アレクのプロレス歴も改めて考えるとスゲーよ。永田はプロレ史に名前を残してないけど、アレクは今の時点で完全にその名前を刻んでいると思うよ。

とにかく、理解されずに逆らう男2人。どちらも非常にカッコ良かったであります。

と、いうことで、予告して長らく行っていなかった「いい試合だ男はどこに」ですが、俺こそ「いい試合だ男」と名乗り出てくれた。常実陽平さん（28）のインタビューをしましたので、ここに掲載……。

いい試合だーッ!!

次号予告

「いい試合だ男」インタビューを期待していた読者の皆さん、そして「いい試合だ男」さん、さらには原稿をまとめてくれた椎名さん、ホントに申し訳ありません！　誌面の都合上、〝いい試合だ男〟インタビューは次号でッ！

今月の検証 by せき詩郎

高田最終ロード

「今、高田に必要なものは何か?」

人間が生きている間の約3分の1は寝ているという。まったく驚きである。人生80年とすると、そのうち約27年は睡眠時間という計算になる。成田きんさんは107年生きていたから、計算すると約37年寝ていたことになる。きんさんぎんさん二人合わせると、なんと74年間も寝ていたことになるのだ！ 74年と言えば平均寿命並の数値である。いやはや、いまさらながら彼女達の偉大さに頭が下がる思いだ。

そういうわけで今回のテーマは『睡眠』である。〝寝る〟という行動は我々人間にとって大変重要な意味を持つ。詳しい話は後で述べるとして、この〝寝る〟という言葉から私達はある共通したことを連想することであろう。そう、それはもちろん高田の事。忘れもしない東京ドーム、対ミルコ戦。高田は試合中ほとんど寝続けた。ブーイングに包まれた会場。その中で高田は寝ていた。その声は高田に聞こえていただろうし、それは試合が終わった後もファンやマスコミによって、もしかしたら永遠と続けられることを予想できていたに違いない。それでも高田はひたすら寝続けていた。なぜか？ その理由を私は私なりに考えた。やがて年が変わり、正月ボケになって何も考えたくなくなるまで私は考えた。そして私は今頃になってやっとその答えをみつけたのだ。

人間は人生の3分の1を寝て過ごすのだ。それを考えると高田が寝ていた時間など、ほんの一瞬だ。わずか1Rや2R、もしくは試合中全部寝ていたからどうしたというのだろう。高田は生きている間、それとは比較にならないほどの膨大な時間を寝て過ごすのだ。実にちっぽけなことに私達は激怒し、呆れていたのだ。まさに木を見て森を見ず、である。

こんな視野の狭いことでは、それが致命傷になりかねない。例えば「東尾の娘って割とかわいいんじゃない!?」と思う時があるかもしれない。しかしそれは女子プロゴルファー界の中で見ているからであって、あらゆる世界を総合した中で東尾の娘を見た場合、かわいいかどうかは疑問符が付く。ボディビル界の百恵ちゃんは文字通りボディビル界でのみ百恵ちゃんであり、そのことを忘れてもしも……（中略）……まったく、考えただけで恐ろしい。常に視野を広くして物事を見るということはどれほど大切なことなのかを痛感する。

もしかしたら高田はそのことを私達に伝えようとしていたのかもしれない。いや、きっとそうに違いない。高田は身をもって私達に教えようとしていたのだ。「オイお前ら、人間は何十年も寝て過ごすんだ。それに比べたら俺が今寝てることなどちっぽけ過ぎることなんじゃ」とある種開き直りに似たスケールの大きいメッセージを私達に寝ながら伝えていたのだ！ それに気づかなかったなんて私は愚かだった。恥ずかしい。本当はこんなことを本気で考えて書いてるほうが恥ずかしいと思うが、今そうやって冷静になってしまうと後が続かなくなるから無視だ。

となると、高田が寝たことを誰も攻められないし、これから高田が事あるごとに寝たとしてもそれは高田からのメッセージ。むしろ感謝しなければいけない。もはや寝るということは彼の必殺技なのだ！ 技の名前はズバリ『俺が高田だ』だろう。実にスケールの大きさが伝わってくるこのネーミング、我ながら素敵だと思う。もしくは『俺ごと刈れ』に対抗して『俺と寝ろ』というのはどうだ。試合翌日の新聞や専門誌に、

△高田（引き分け・俺が高田だ）△ミルコ

△高田（引き分け）ミルコ△

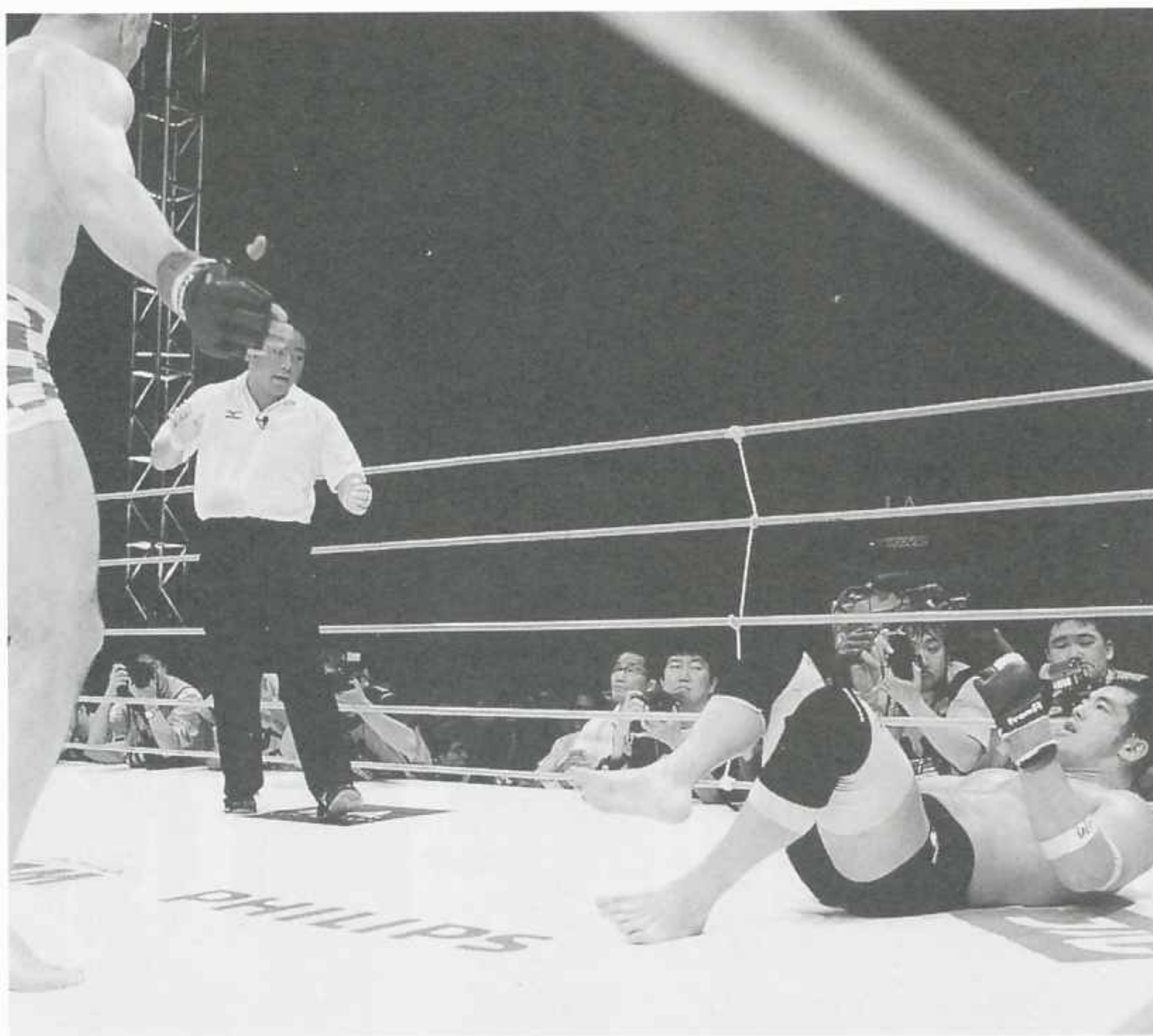
※「俺と寝ろ」が炸裂！ ドローに。

などと試合結果が掲載されるのだ。この丸っきり意味がわからないぶり、考えただけでワクワクする。実況アナウンサーも高田が寝ようと腰を落としかけた時に「俺が～」と叫び、高田がマットに寝た瞬間に合わせ「高田だ～！」と絶叫するようになるだろう。楽しくないわけない。テレビを観ていた冷めきった夫婦に会話がうまれる可能性さえある。元ベトナム兵が帰還して初めて笑顔をみせるかもしれない。それだけではない。この技の利点はまだある。中学生くらいの男子がプロレス技を掛け合ってケガをするという痛ましい事故が多々あるが、この『俺が高田だ』ならケガすることもない。

また高田のミルコ戦の功績はそれだけではないことを忘れてはいけない。睡眠というのは自然治癒力を高めるらしい。睡眠にはメラトニンというホルモンが関係していて、メラトニンは暗くなることによって脳の一部である松果体という部分から発生するのだ。このメラトニンは、眠気に関係するだけではなく、その解毒作用によってガンの発生を抑えたり、ガン細胞を修復する働きを持つのだ。つまり寝るということは健康な生活に直結している。だが残念なことに、ライフスタイルの夜型化、または多くのストレスなどによって私達の睡眠は妨げられている。快適な睡眠ができていないのが現状であろう。高田はそんな現代社会に警鐘を鳴らしたのだ。「オイお前ら、俺が寝てる姿を見て笑いたければ笑えばいいさ。だがな、これだけは忘れるな。寝るということを軽く考えてはいけないってことを。快適な睡眠が楽しい人生を造るんじゃ」というメッセージも伝えたくて高田はリングで寝ていたに違いない。働き過ぎのサラリーマン、受験に追われる子供たち、それら忙しい現代人へ向けての高田の言葉。私達は素直に受け取らなければいけない。さあみんな、高田のように寝てごらん。一息ついてリラックス。みんな高田に癒される。高田の忘れ物は現代人を癒すということだったのかもしれない。高田はU系なんかではない。高田は癒し系だったのだ。

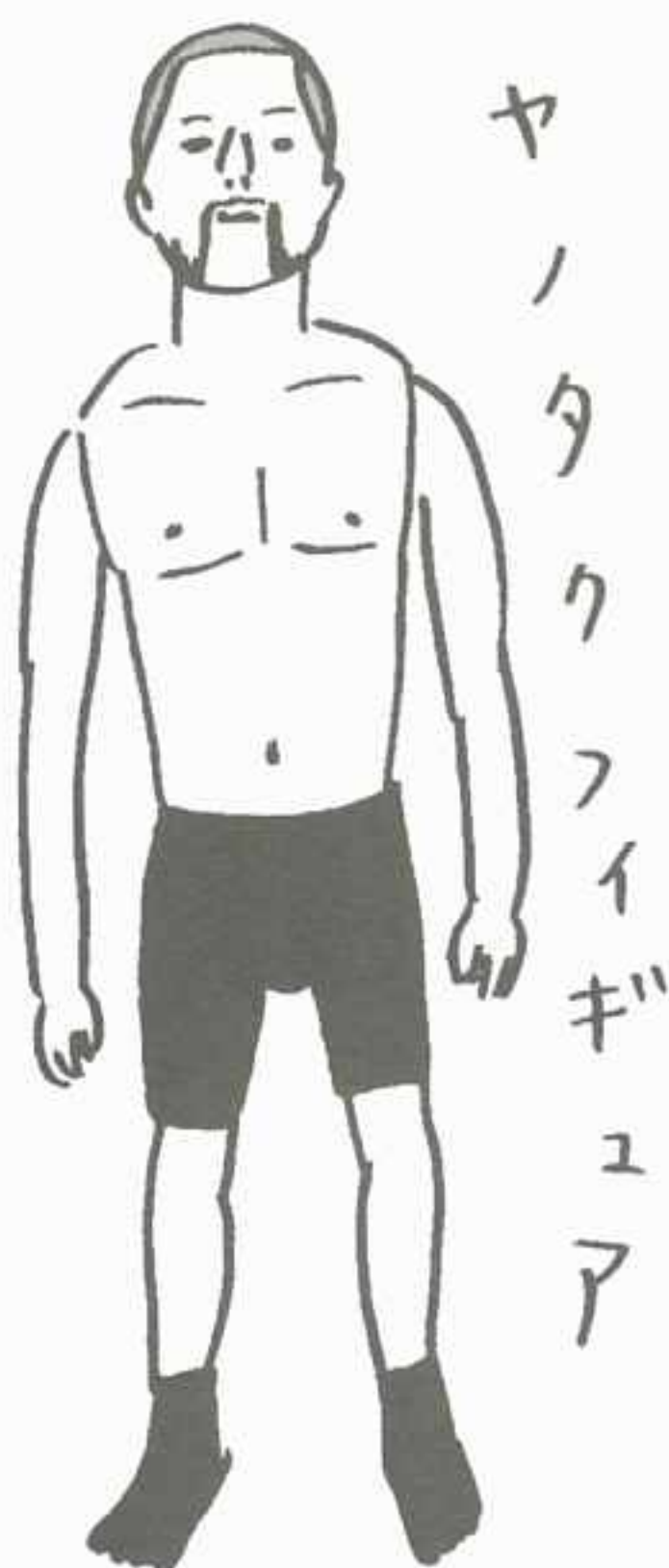
などと嘘を書きつづけるのも限界がきたようなので本題に移ろう。たしか高田は今後について「残り試合は1か0」とデジタルな発言をしていたと思う。相手は誰なのか、そしてどんな試合をしようとしているのかはわからないが、わかっていることが一つだけある。それは高田には何が必要なのかということ。それはフィジカルを鍛えることか？ メンタルを鍛えることか？ ただただ練習あるのみなのか？ どれも違う。

高田に必要なものは何か？ それはバンテリン。バンテリンさえあれば大丈夫だよ！ 高田にはバンテリンがついてるよ！ 相手に勝つには、ぶつかっていこうよ！ きっと結果でるよ！

以上、全部寝言。

エガちゃんフィギュア最高――!!!!!!!!!

花くまゆうさく リングの汁 RADICAL

プロレスと格闘技を一緒にすんのは無理があんなと痛感させてくれるのが、サムライTVの『生GON』だ。いままで木曜の『格闘ジャングル』を見てた僕は困り果てている。なんとかしてほしい。「プロレスファン向けにちょいと格闘技情報を」になってしまった薄〜い内容の『生GON』木曜じゃ物足りなさすぎ（舞海と秦真司が司会って木曜の人選はまったく理解できない）。分散した格闘技情報を求め、毎日くだらない『生GON』を早送りでチェックするのはしんどい（月曜は面白いが）ので、格闘技ファン向けに一週間分の格闘技情報してた『格闘ジャングル』を復活してください（いち加入者のお願い）。それにしても以前のSアリーナと比べて出演者を見れば予算をだいぶかけてるのがわかる『生GON』ですが、濃くておもしろいのはターザンとキッドが出てる月曜だけで、あとは初心者向けのような薄い内容と人選で失敗ではないのか？　視聴者はわざわざ高い金払って加入してるマニアばかりなのに、ニーズがずれまくってるよ。どうせズレまくってんのなら、以前のように菊池さん出せば？

さて『PRIDE.20』。ヘンダーソン対アローナ、スペーヒー対ニンジャといった、菊田が断ったと言われてる人達が盛り上がる試合してるので、こりゃあますます菊田への風当たりが強くなってしまうなと感じつつ、複雑な思いで（両者とも好意的に思ってる）いざ菊田対アレク。これがさ、そりゃ野次馬的に見れば刺激的で面白く身を乗り出して凝視してたのは事実だけど、それ以上に腹立ったのも事実。この日に限っていえばアレクは最悪。ホントこの日のアレクやそれを支持する空間には、バリジャパ95以来ひさびさにプロレス界に憎悪がわいた（『週プロ』見たら編集長か誰かが「これぞプロレスラー」だって！　オエー!!）。ちなみにこの憎悪を沈めてくれたのは、『生GON』でチラっと見た松永と非道のデスマッチ（画鋲いっぱいのやつ）でした、ありがとう。

アレクが何度も金的へヒザしたり、頭ナデナデするの見ると、条件反射的に「菊田絶対極めてくれ！」と念力を送る自分がいたがダメだった。やっぱ超能力ってないな。腕十字が極まんなかったのは、何度も金的やられて、きっとチンチンが痛かったに違いない。痛くて思いっきり支点にできなかったんじゃないのかな？（思い込み）。

それにしても、なんでレフェリーは色の付いたカードを出さないの？　なにか黒幕とかいるの？　塩崎レフェリーはそんなことする人に見えないんだけどなあ。不思議でしょうがない。

判定聞く時に、おちゃらけた拍手するアレクがホント醜くてイヤだった。菊田をギャフンと言わせたいなら、寝技で圧倒してみせるか、プロレス技で勝つことじゃないの？　あんな負け惜しみの強がりはカッコ悪すぎで悲しすぎる。

この日イチバンかっこよかったのはスペーヒーだ。スタミナ切らしても果敢に闘うその姿には、なにかを揺さぶられた。同い年として勇気づけられた。

そして5月2日のプロ柔術、見た？　レオジーニョ！　ホントすっごかったねえ〜、ぶったまげた。あれは見とかないとヤバいよ。そのうちDVD出るみたいだから絶対見といたほうがいいよ。中井さんファン的に見ると、バリジャパ95からこの日までの道のりを思うだけで泣けてくるし、柔術好き的に見てもレオらブラジル3選手の凄さにお口アングリと、この大会は見に行ってホントよかった。

3月後楽園大会が恐ろしいほど最悪だった修斗ですが、5月5日後楽園大会はとても面白く大満足。なんといってもステファン・パーリングに尽きる。はじめに飛びこんできた山本KIDのワキ腹にパンチぶち込み止めたシーンは圧巻！　かっこよすぎ。前半は冨樫選手がよかったなぁ。やっぱ、下から見事なムーブで一本勝ちはカタルシス味わえる。他にもクラスAへのヒザ十字の村浜お兄さん、迷わず足関への秋元じんパパなど見どころ多い日でした。

翌日は見に行けなかったが、NKホールでのプレミアム・チャレンジ。矢野さんは負けて残念。でもフィギュア出てよかったね。ホドリコ・グレイシーが来日したら、矢野さんのコレクション見せて特撮ファン対談とかすればいいのにね、『紙プロ』で。あと、NKホールという大舞台で今成大爆発はファンとしてとてもうれしい。もう今成ブレイクは始まっているのかな。

はなくま・ゆうさく■キューブリックは、5月末か6月初めに出るそうです。

中川雅博 爆笑連載!?

ほんとにジョーク

第11回

上司デンプシー

こんな会社
辞めてやる。

今月イチバンおもしろかった作品とその作者

広島県福山市　**岡崎雄太**

★岡崎さん、採用オメデトウ!!　御希望の「猪木&ちびタイガー」Tシャツ（L）、お楽しみに!!、
★『OH!相撲』と『夢巡業』が終わって『大相撲ダイジェスト』が時間短縮、オイッ！　オイッ！　オイッ！　テレビ朝日さんよ〜、相撲ファンを馬鹿にしてるのかい？　もうオレっちはテレビ朝日は見ないから。『完売劇場』と『ハリケンジャー』以外は見ないから。あと『ワールドプロレスリング』と『虎乃門』と『BEST HIT TV』以外は見ないから。『ミュージックステーション』と『運命のダダダダーン!』は見るけど、それ以外はもう見ないよ！　怒ってるよ！　相撲万歳!!　素敵なエスプリの効いたハガキがオレっちの心を癒します。皆さんハガキをチョーダイ!!　ハガキを送って頂いた方の中から抽選で5名様に「中川雅博手づくりステッカー」をプレゼント!!　採用された方にはTシャツをプレゼント!!
★リニューアルします♥　東京元気大学HP　http://tgu2001.com/

➜前号のTシャツ
白覆面

応募方法

プロレスに関したものなら何でもけっこう、ジョーク、ギャグ、コント、マンガ、標語、何でもいいんだ、とにかく『ホントニ面白い』ヤツをたのむ。毎月1名の作品をこのページで掲載。このページは読者投稿ですが、めでたく掲載された方には「中川画伯オリジナルTシャツ」をプレゼント。原稿発送は紙のプロレス「ほんとにジョーク係」へ、希望選手名やサイズ(S・M・L・XL)をハガキに書いて下さい。
〈例〉ガオラン・カウイチットのM

ひとりでも 電気ですか〜〜ッ!!

(株)ダブルクロス・IT事業部改め 電気部のページ

2月から始動した"IT事業部"は現在「電気部」として活動中です。仕事は主に携帯サイト「紙プロHand」の更新、「紙のプロレスRADICAL」公式HP発表！　さらにその先の極秘プロジェクトにむけての活動を主にしていますが、編集部のお手伝いとして読者ページやその他のページの作成もしたりしています。そんなひとり電気部・ささきぃの半月を振り返ってみました。こんな感じで仕事してます。

5月1日(水)お台場　ジョアニー・ローラー会見→編集部

元チャイナことジョアニー・ローラーの公開記者会見へ。そばで見るジョアニーはとてもキレイだった。せっかくお台場まで来たので、買い物でもして帰ろうと思ったらサイフを忘れていた。

5月2日(木)東京ドーム　新日本プロレス

携帯サイトの速報のためibookをかかえてドームへ。全女の試合で会場の観客がどんどん引き込まれていく様は見事だった。全試合結果・コメント等含めて7記事アップ。TV放送されない三沢vs蝶野戦の結果が皆気になるのか、史上最高のアクセス数を記録。いろいろ批判の声はあるけど、新日本人気はやっぱり根強いのだなぁと思った。

5月7日(火)編集部

会議で「ひとりなので電気部日記は半ページで充分だろう」と決定。ええ、充分ですとも。

5月9日(木)編集部

武田いづみちゃん（元電気部、現在病気部）が編集部にやってきた。おみやげに持ってきてくれたシュークリームを中村カタブツ君がひとりで3つも食べた。

5月10日(金)編集部

「紙プロHand」でスタートさせる着メロの打ち合わせのため、制作者の方に編集部まで来ていただいた。入場テーマというのは会場で聞いているのと単なる「音楽」として聞いているのとでは全く印象が変わってくる。どのあたりを着メロとして活かすのか、考える。絶対に「紙プロHand」以外の場所では手に入らない、あの名曲の着メロの出来が最高。あぁ、はやく公開したい。

5月13日(月)編集部

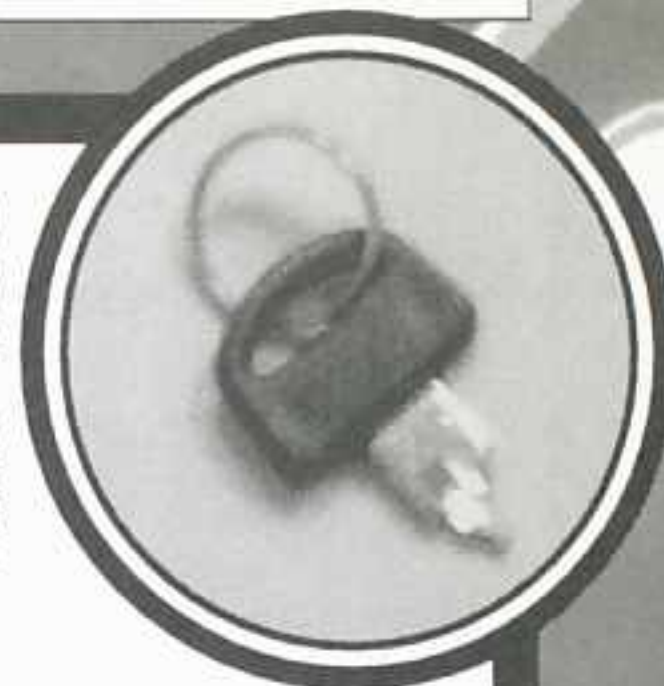
読者ページのタイトルが浮かばない（タイトルつけるのが苦手）。前回までの「読者病棟」と変えたかったので、チョロさんに「病院から一番遠いものって何ですかね？　」と相談。「ん〜、パプアニューギニア」とりあえず何か答えてくれるあたり、チョロさんはいい人なんだろうと思う。吉田さんとチョロさんのアイデアを借りて「紙プロ元気大学」に決定。

➡切れてしまった自転車のカギ

5月14日(火)編集部→新宿→編集部→新宿→高田道場

今号表紙に使われているの「50ハチマキ」作成。オレンジのハチマキは売っていなかったので、新宿のオカダヤで元になるリボンを購入。　中央に「50」と入れるための張り付ける布を探して新宿と代々木をチャリで往復。チェーンキーのカギ穴が甘くなっていたので、なかなか回らない。ものすごくあせっていて、しかもその時は某元同僚（いづみちゃんじゃないよ）に対して非常に非常に腹が立っている苛立ちもあって、八つ当たり気味にカギを強引に回そうとしたらカギが切れた（写真参照）。剛力？　違う、カギが柔らかくなっていたんだ。クイントン・ランペイジ・ささきぃはダッシュで会社に戻り、剛力らしく不器用に数字を張り付けてハチマキを完成させました。

5月15日(水)新宿→編集部

新宿から自転車の引き上げ。チェーンキーのついた後輪を持ち上げながら。腕が疲れるので休み休み歩く。普通自転車なら20分もあれば帰れる道を1時間以上かけて歩く。疲れるだけで全く仕事としてやり甲斐がなく、終わっても何の充実感もない。会長（山口日昇のあだ名）にそう話すと「ささきぃ、それが自業自得っていうんだよ」と諭すように言われる。勉強になった。

紙プロ電気部は消えてはおりません！　やります、紙プロHP！　そんでその先の極秘プロジェクト!!　午後も動く情熱とやる気に溢れた健康な人材大募集中です！　ささきぃと一緒にHP作りませんか？　（バシッ）やれんのかーッ!!　やろうよー。……え、イヤなの？　ヤならいいや……（スネ気味）。

紙のプロレスRADICAL

50号達成記念 50冊分の読者アンケート結果大発表!!

なんと通算5万通以上！

おかげさまで、『紙のプロレスRADICAL』も50号！　これもひとえに読者の皆さんの応援があったお陰と感謝いたします。そこで今回は、毎月毎月、編集部に送られてくる読者プレゼント応募ハガキに書いてある、皆さまの貴重なご意見、「面白かった記事」「つまらなかった記事」アンケートの集計をドドーンと発表！　これを見れば、読者の嗜好の変化が一目瞭然という企業秘密を惜しげもなく公開させていただきます。さて、読者から支持されたのはどんな企画なのか？　マスコミ関係者注目の集計発表です。

『面白かった記事』通算最多得票

1位 桜庭和志
No.27
ホイス・グレイシー撃破記念インタビュー
468票

2位 高田延彦
No.05
ヒクソン戦直前インタビュー
374票

3位 小川直也
No.15
"1・4事変"激白インタビュー
308票

バックナンバー通販情報付

紙のプロレス RADICAL

PLAY BACK No.01 ≫ No.49

号別アンケート結果発表!!

RADICAL No. 01

1位 初代タイガーマスクインタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

2位 前田日明インタビュー

3位 橋本真也インタビュー

4位 船木誠勝インタビュー

5位 高田延彦インタビュー

worst 1位 ターザンの表紙

完売

記念すべき創刊第1号は、なんと白装束のターザンが表紙！　ターザン風に言えば「ムチャだよォォォ！」な、この売り上げを度外視しすぎな暴挙は、案の定の『紙プロ』史上最悪の返品率を記録し、50号もつ雑誌生命が1号で終わりかねない巨大なつまづきを与えてくれたのであった。しかし、表紙こそチンケこの上ないが、内容はその後の『紙プロ』の中核をなすようなメンツが勢揃いした豪華版。そんな中、読者支持率1位に輝いたのは、初代タイガー（佐山）の爆弾発言連発しすぎなインタビュー。ちなみにワーストは案の定、ターザンの表紙であった。＜平成8年12月発行＞

RADICAL No. 02

1位 佐山サトルインタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

2位 田村潔司インタビュー

3位 猪木×佐山対談

4位 長州×ターザン対談

5位 パンクラスとは何だ？

worst 1位 ターザン追悼興行

完売

創刊第2号の主役はまたしても佐山！「すいませ～ん、よろしくお願いしま～す」な口調で喧嘩、果たし合いの話をするという、後の「暴走族は撃ち殺せ！」な主張をこれでもかと話しまくったのが1位。アントン＆ティグレという、興味深すぎる対談ももちろん人気を集めた。さらにこの号では、『猪木とは何か？キラー編』（小社刊）で実現したムチャな企画、長州×ターザン対談や、パンクラスを16ページに渡って特集するなど、いまや実現不可能すぎる企画満載だ。ワーストはまたしてもターザン絡み。写真が載るだけでワースト入りするそのパワーはある意味凄い！＜平成9年2月発行＞

RADICAL No. 03

1位 カール・ゴッチインタビュー前編
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

2位 八百長論検証

3位 船木誠勝インタビュー

4位 猪木×佐山対談後編

5位 「世界格闘技連盟」特集

worst 1位 もてぴょん

完売

「ＲＡＤＩＣＡＬ」（根元的）を標榜するなら、新日イズム、ＵＷＦの根っことも言うべきこの人を取り上げないわけにいかない！　と、フロリダ州タンパまで飛んだ"神様"ゴッチが1位。この時、朝から晩まで神様の話を聞き続けた山口日昇は、やはり2時間ゴッチ入門した中西の兄弟子になるのだろうか？　どうでもいいけど。2位は禁断の「八百長論」に吉田豪が切り込みまくった企画。「高橋本」が出る5年前の出来事だ。そして、それ以上に信じられないのは、やはり船木が表紙＆19ページ（！）ぶち抜きインタビューで登場していることだろう。＜平成9年4月発行＞

RADICAL No. 04

1位 前田日明インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

2位 K・ゴッチインタビュー

3位 組長&ドン対談

4位 高阪剛インタビュー

5位 500人アンケート

worst 1位 もてぴょん×ブチ

完売

4号目にして遂に前田日明が表紙に登場！　この頃はまだ凛々しいぞ（失礼）！もちろん1位も前田インタビュー。「コトナ」発言や「プロレスって言葉を輪姦してる」など、いま読んでもその内容は過激すぎて最高だ。3位には、「新日本25周年」を勝手に記念した「藤原×荒川」の昭和新日トンパチ・インタビュー。5位にはプロレスファンじゃない人500人にプロレスについてのアンケートをするという恐怖の企画がランクインした。ワーストはカタブツ君と茂木正淑の因縁対決というバカ企画が他を圧倒した。＜平成9年6月発行＞

RADICAL No. 05

1位 高田延彦インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

2位 藤原×荒川対談

3位 高田×ヒクソン予想

4位 前田人生相談

5位 のものも宣言

worst 1位 ヨネ原人×ブチ　カタブツランド

遂に実現すつ世紀の一戦「高田vsヒクソン」（『ＰＲＩＤＥ・1』）を直前に控え、他のプロレス・マスコミが距離を置く中、本誌が全面的に乗りまくった高田インタビューがブッチギリの1位。なんだかんだ言っても、この1戦がなければ、現在の格闘技人気も『紙プロ』が50号も続くこともなかったであろう。すべてはここから始まったのだ！　始まったと言えば、超人気連載・前田の人生相談や、ワーストを独走するカタブツランド（後のバカ日誌）がスタートしたのもこの号である。それにしても、この頃のカタブツ君はホントに凄い。次号、カタブツ大特集決定か!?＜平成9年8月発行＞

RADICAL No. 06

1位 前田日明パンクラス問題にブチ切れインタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

2位 蝶野正洋インタビュー

3位 TAKAみちのくインタビュー

4位 前田日明人生相談

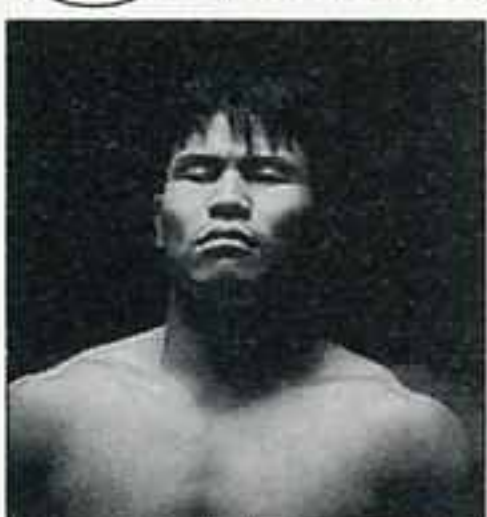
5位 前田日明共同会見

worst 1位 バカ日誌

完売

高田樹海に死す――。で、マット界の磁場、「紙プロ」の磁場が狂いまくる中で発刊されたこの号。その反動で登場したｎＷｏ最盛期の蝶野や、前田が「高田やられたよ、どうすんの！」と大爆発した共同会見が票を集めたが、注目は票こそ集まらなかったものの、桜庭がインタビューに初登場していること。コピーは「もしかしたら、この飄々とした男が、"プロレス界の秘密兵器"かもしれない」。時代が確実に動いたときと言えよう。1位は、前田がパンクラス問題についてブチ切れまくったインタビュー。リン・パン問題は5年も前から続いていたのだ。長いよ。＜平成9年11月発行＞

RADICAL No. 07

1位 田村潔司インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

2位 木村健悟インタビュー前編

3位 前田日明人生相談

4位 中原奈々インタビュー

5位 グレート・サスケインタビュー

worst 1位 バカ日誌

高田vsヒクソンが終わり、「ＵＷＦとは何か？」が論じられる風潮の中、田村が表紙と巻頭インタビューで登場。ブッチギリの1位に輝いた。以下は2位に現・新日スカウト部長のキムケン（聞き手はもちろん吉田豪）、「凶器しか使わないプロレスがしたい」という、全女幻の不良新人・中原。そして「みちプロ経営危機」を独占激白したサスケ史上唯一の（笑）ナシインタビューと、以外すぎるラインナップが続いた。その他、冨宅飛駈の「テレビ神奈川宣言」などコク深い企画多数。ちなみにカタブツ君の失敗をスモーノブが綴った伝説の「バカ日誌」はワーストＶ3を達成。＜平成9年12月発行＞

RADICAL No. 08

1位 アントニオ猪木引退直前インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／浜田孝一

2位 桜庭和志インタビュー

2位 前田日明人生相談

4位 エンセン井上インタビュー

5位 木村健悟インタビュー後編

worst 1位 バカ日誌

完売

プロレスラーとして初めてグレイシー柔術家を破った直後の桜庭が、プロレス雑誌初の表紙奪取！　そのニコニコに秘めたるマグマを感じとった読者から票が集まり、前田に並ぶ2位を記録した。このインタビューを読めば「桜庭とは何か？」の根っこがわかること確実だ。他を大きく引き離しての1位は、引退直前のアントン・インタビュー。過激なアントン節が15ページに渡って掲載されているのだから当然か。何かと物議を醸しまくった「格闘家から見たプロレス」シリーズも、4位のエンセン、ＳＢ時代の村浜でスタートしたのもこの号だ。バカ日誌はワーストＶ4達成。＜平成10年2月発行＞

RADICAL No. 09

1位 「さらばプロレスマスコミ」座談会

- 2位 谷津嘉章 インタビュー前編
- 3位 猪木引退特集
- 3位 高阪剛 インタビュー
- 5位 朝日昇 インタビュー

worst 1位 朝日昇インタビュー

完売

高阪がキモをUFCで破り、「世界のＴＫ」になったのを記念し、なんと表紙にまでしてしまったこの号（ちなみに「見てみ、この面」の元ネタは前田総帥の名言「見てみ、この色！　この艶！」である）。最も票を集めたのは、なんと現在も続く本誌の人気企画「編集部座談会」の記念すべき１回目。ヤスカクおじさんの「応援できないよ」発言が主テーマで１位とは……。２位は「グレイシーよりアマレスの方が強い！」発言で、後の「ＰＲＩＤＥ」出場まで繋がってしまう谷津インタビュー。なお、この号からカタブツ君が脱走。朝日昇インタビューが物議を醸しまくった。＜平成10年４月発行＞

RADICAL No. 10

1位 前田日明×エンセン井上 大和魂連鎖対談

聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

- 2位 谷津嘉章 インタビュー
- 3位 ターザン 表紙批評
- 4位 北沢幹之 インタビュー
- 5位 高田延彦 インタビュー

worst 1位 ターザン表紙批評

いまやれば違う共通点が接点になってしまいそうな、人気急上昇中だったエンセンと前田の対談が１位。いまや二人とも引退しているのだから、マット界の流れは速い。注目は３位に食い込んだ「ターザンの表紙批評」。いまだにターザンが各所で続け、『週プロ』佐藤編集長と冷たい関係になったりしてるこの企画。これが出てから、ファンが週プロ、週ゴンの批評を偉そうにするようになったという意味では、実に強力な企画だったと言えよう。反面、「落武者が偉そうなこと言うな」とワースト１位に輝いたりするのも実にターザンらしいと言えるだろう。＜平成10年５月発行＞

RADICAL No. 11

1位 高田延彦×エンセン井上対談

聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

- 2位 アポロ菅原 インタビュー
- 3位 前田日明 インタビュー
- 4位 UFOが飛んだ
- 4位 スーパー宇宙パワー インタビュー

worst 1位 ボンクラシスト　ブチ vs Show

前号の前田×エンセン対談大好評を受けて、今度は２度目のヒクソン戦を控えた高田とエンセンのエネルギー交換対談がトップ。これに付属した「高田vsヒクソン大予想」は、サスケ、ジニアス、角掛らが大いに分析するインチキなものだったりする。注目は２位のアポロインタビュー。謎に満ちた鈴木みのる戦の真実を語る！　４位の「ＵＦＯが飛んだ」はオーちゃんが坂口会長に暴行を働いたり、アントンが佐山と小川を路上に正座させて頭上に真剣を振りかざしたり、ミスター・ウォーリーが現れたりして爆発的な面白さを見せていたＵＦＯをとことん追跡した企画。ＵＦＯ最高！

RADICAL No. 12

1位 高田延彦 ヒクソン戦直前インタビュー

聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

- 2位 アポロ菅原 インタビュー後編
- 3位 郷野聡行 インタビュー
- 4位 菊田早苗 インタビュー
- 5位 浅草キッド インタビュー

worst 1位 ブチ人参勃起

完売

２度目のヒクソン戦を直前に控えた高田インタビューが１位。昨年と違い吹っ切れた高田は「馬場と大仁田は俺の中で抹殺！」を始めとして、奇跡のイケイケどんどん状態。凄え！　そして４位には昨今の「菊田騒動」が起こる原因となった問題のインタビューがランクイン。完全再録したいくらいの問題発言の総合商社ぶりだ！　しかもこの号では、マルコファス戦を前にしたアレクも登場。やはりこの二人、因縁がつきまとうのか……？　ワーストは猪木自伝にあった「人参ジュースで３日間勃起体験」をカタブツ君がブリーフ一丁で実演。最低。　＜平成10年９月発行＞

RADICAL No. 13

1位 アレクサンダー大塚 マルコ・ファス撃破記念インタビュー

聞き手／山口日昇　撮影／遠藤政文

- 2位 ザマアミロ座談会
- 3位 前田日明が見た プライド
- 4位 谷津嘉章 インタビュー
- 5位 S多重アリバイ K・ナガサキ

worst 1位 ジャイジャイ日記

完売

アレクが路上の王マルコを撃破！　今で言うなら、プロレスラーがミルコから一本勝ちする以上のインパクトがある快挙を成し遂げたアレクのロング・インタビューが１位。インタビューには奥さん、愛娘・愛（いと）ちゃん、そして今話題の“島田氏”もなぜか登場。ちなみに同じ日、菊田は松井と膠着ドロー。やはりこの頃から因縁が……もう、いいか。２位の座談会では例によってヤスカク話で盛り上がり、谷津嘉章はこのインタビューで「ＰＲＩＤＥ」出場宣言をしている（ホントに出るのはずいぶん後になったが）。ワーストはジャイ子オール手書きのジャイジャイ日記。＜平成10年10月発行＞

RADICAL No. 14

1位 前田日明 引退直前インタビュー

聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

- 2位 山本美優親子 カレリンを語る
- 3位 カレリン 証言ファイル
- 4位 カレリン お言葉全集
- 5位 S多重アリバイ 折原政夫

worst 1位 ジャイジャイ日記

完売

“人類最強の男”カレリンとの引退試合という「最後の大航海」を控えた前田ロングインタビューが１位。それにしても、あのカレリンがリングスに上がったなんて、今考えても凄い。凄いだけに、この号はカレリンが話題を独占。いろんな人がカレリンを証言しているが、「前田さん、いまからでもやめた方がいい。命が危ないですよ」と余計なお世話を言ってしまう太田章は期待通りなのであった。その他では金原がインタビュー初登場。川村ひかるが所属していた伝説のユニット「サウスポー」ピンナップはいまやお宝か？　ワーストはジャイジャイ日記が見事防衛。＜平成10年12月発行＞

RADICAL No. 15

1位 小川直也 “1・4事変”激白インタビュー

聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

- 2位 佐山サトル インタビュー
- 3位 4代目タイガー インタビュー
- 4位 前田日明 インタビュー
- 5位 語ろう マサ・サイトー

worst 1位 ジャイジャイ日記

10年に１度の大事件、“１・４事変”を大々的に丸ごと特集した暴走号。アントンが被っていた三四郎マスクを持った小川表紙も強烈だ。もちろん１位はオーちゃん激白インタビュー。それ以上に面白いのが、２位のプレジデント佐山。暴走族を撃ち殺しかねない、キラーな部分を甘いモノを食べながらみせています。前田シアトル取材、カレリン独占インタビューも人気。そして「語ろうシリーズ」の先がけ「語ろう、マサ・サイトー」。最近体調不良が伝えられるが、マサには早くまたゴーフォーブロックぶりをみせてほしいものだ。ワーストはやっぱりジャイジャイ日記。＜平成10年２月発行＞

RADICAL No. 16

1位 前田日明 引退後初ロングインタビュー

聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博

- 2位 エンセン&修斗君 インタビュー
- 3位 坂田亘 インタビュー
- 4位 村上和成 インタビュー
- 5位 語ろう、ジャンボ鶴田

worst 1位 ジャイジャイ日記

プロレス雑誌の表紙を修斗ヘビー級王者が奪取！「大和魂」Ｔシャツが大ブームを起こしていた時代がなつかしい。戦争にも行けず、エンセンはいまどこへ……。そんな中、１位となったのはカレリンとの引退試合後初となる前田日明インタビュー。不評を極めたヒゲ日明はこの頃からスタートした。３位４位はリングスとＵＦＯの鉄砲玉がランクイン。５位には大好評「語ろうシリーズ」第２弾「語ろう、ジャンボ鶴田」が登場。この他には「Ｓ（相撲）多重アリバイ」で石川孝志がサソリ固めでフィーバーしていた。ワーストは４号連続の新記録達成。＜平成11年３月発行＞

RADICAL No. 17

1位 小川直也 NWA世界王座奪取記念インタビュー

聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博

- 2位 タイガー戸口 インタビュー
- 3位 前田日明 インタビュー
- 4位 桜庭和志 インタビュー
- 5位 アントニオ猪木

worst 1位 目を覚ませターザン

完売

あの１・４事変から３ヶ月……。暴走王が歴史と伝統を誇る、ＮＷＡ世界ヘビー級王者になってしまったことを記念したインタビューが１位。しかも「ＰＲＩＤＥ」参戦まで内定し、ＵＦＣが急上昇中であったことが伺える。これにわずか１票差の２位だったのが、タイガー戸口インタビュー。「鶴田より俺の方が実力ある」「橋本は屁みたいなもん」など、とどまることを知らぬビッグマウスが昭和チックで素敵だ。いよいよスターの輝きが出始めたサクが４位。「目指すはスーパーサイヤ人！」という発言が懐かしい。ワーストは彼女にフラレたターザンのイベント報告。＜平成11年４月発行＞

RADICAL No. 24

1位 アレクサンダー大塚
"プロコン"爆発インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／アラーキー

2位 田村潔司　打倒ヘンゾインタビュー
3位 KOK大予想大会
4位 桜庭和志インタビュー
5位 コピィロフの髪型検証

worst 1位 WWF特集

天才・アラーキーが撮った超芸術的なアレクの写真が表紙のこの号。1位は「PRIDE・GP」でボブチャンチンと真っ向から殴り合いを挑んで、絶賛されたアレクインタビュー。本誌の造語、プロコン（プロ根性）とは何か？を掘り下げたが、この言葉、見事なまでに定着しなかった。2位はヘンゾ・グレイシーとの運命の一戦を控えた田村インタビュー。吉田豪、ガンツ、カタブツというタチの悪いメンバーでの「語ろう、船木vsヒクソン」という企画もあった。19ページブチ抜きで掲載されたWWFが見事にワーストというのも時代を感じさせる。<平成12年2月発行>

RADICAL No. 21

1位 "ハマキング"前田日明
KOK開催発表インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

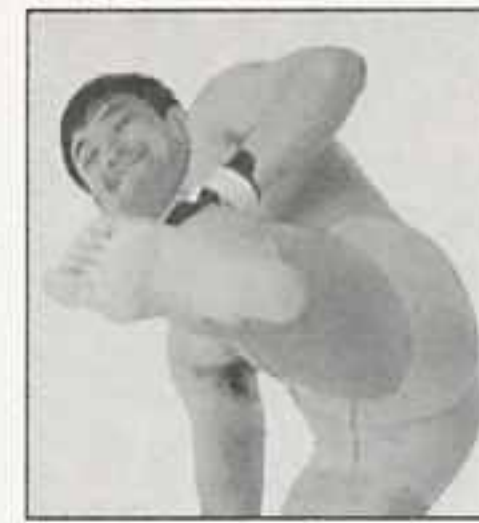
2位 小川直也インタビュー
3位 大仁田厚インタビュー
4位 S多重アリバイ鶴見五朗
4位 八木淳子インタビュー

worst 1位 坂井ノブ水死、スモーノブ誕生

完売

1・4以来の破壊王との一騎打ち（レフェリーはドラゴン！）で、破壊王を完膚無きままに叩きつぶし、小川が恐怖の純プロレスをみせたこの号。1位はまたしても前田日明。リングスが社運を掛けたビッグプロジェクト「KOK」をここで発表。この頃からハマキングぶりをみせていた。3位には大仁田が本誌初登場。「（ワールドプロレスリングの）ニタ復活は笑っただろ？　あれは笑ってナンボだよ」との発言がシュールだ。それと時を同じくして、ニタ復活の地・大阪南港からスモーノブがどすこ～いと登場。もちろんワースト企画に選ばれましたとさ。<平成11年10月発行>

RADICAL No. 18

1位 桜庭和志
カーウソン一派壊滅記念インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博

2位 エンセン井上インタビュー
3位 S多重アリバイワカマツ
4位 PRIDE.5座談会
5位 小川直也インタビュー

worst 1位 原始猿人ヴァーゴン特集

完売

桜庭人気、遂に爆発！　柔術界の超新星ビクトー・ベウフォートをローリング・ソバット、サクラバード・キックといった桜庭殺法で、観客を楽しませながら破るという、あまりに素晴らしい闘いぶりをみせたサクがもちろん1位。写真の表情もイキイキしてます。この笑顔がまた見たい！　2位は同じくブレイク中だったエンセン。「がんばってだ～よ」のテーマが初めて出たのもこの頃だ。3位には「俺の手相はサイババと同じ」と言い張るワカマツ市議会議員。ワーストはヴァーゴン特集。ちなみにピンナップもヴァーゴン。俺は好きだけどな。
<平成11年5月発行>

RADICAL No. 25

1位 ヘンゾ・グレイシー撃破記念
田村潔司&ハリMON
聞き手／チョロ&ガンツ　撮影／黒田文夫

2位 コピィロフインタビュー
2位 前田日明インタビュー
4位 藤田和之インタビュー
5位 椎名基樹アブダビ紀行

worst 1位 語ろう！ ザ・ロック

"霊長類ヒト科最強の男"ケアー戦が決定した藤田和之が表紙。その本誌初登場となるインタビューは4位。1位にランクされたのは、UWFを背負ってグレイシーを破った田村潔司インタビュー&アイドルグループ・ハリMON（どこいった？）のお祝い。タムタムのオヤジトークも人気の秘密だった。2位は最強幻想がスタミナ切れで、お笑いに早変わりしたコピィおじさんのバカ話。この号から本誌長期連載「紙の新聞」もスタート。第1回はドラゴンネタがゼロだった。そして驚くべきことに、カラー8Pのザ・ロック特集がワーストに！　わずか2年前はこんな状況だったのだ。<平成12年3月発行>

RADICAL No. 22

1位 桜庭和志
グレイシーに完勝記念インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博

2位 前田テロ事件座談会
3位 田村潔司インタビュー
4位 スモー多重アリバイ　大刀光
5位 ヤマケン

worst 1位 Show氏が笑ってた

完売

大事件発生！　安生洋二によるNKホール前田襲撃事件！　パンクラス共謀説等、マット界を大混乱に陥れたこの事件を語る座談会が2位。この事件のインパクトに負けない人気を得た企画はと言うと、ホイラーに完勝、遂にグレイシー一族の人間を破った桜庭インタビュー。七福神スタイルの桜庭に後光が差すほどの輝きを放っていた。3位にはヤマケンに「偽善者」呼ばわりされた田村が登場。後の「PRIDE・GP」登場まではたす役割をしてしまったスモーノブの大刀光インタビューも掲載。ワーストは安生と高橋の握手シーンの後ろで笑顔をみせたShow氏。<平成11年12月発行>

RADICAL No. 19

1位 前田日明CEO
小川リングス参戦問題激白
聞き手／山口日昇　撮影／松永源さん

2位 S多重アリバイドン荒川
3位 小川直也インタビュー
4位 世界のプロレス大特集
5位 TARUインタビュー

worst 1位 トルコ&由利徹対談再録

「さっきはゴメンね。チュッ、チュッ」という「デカビタ」のCMが最高だった高田が、当時「最強」の名を欲しいままにしていたケアーと対戦を決意したことで表紙となったこの号。1位は小川直也リングス参戦問題が浮上していた当時の前田インタビュー。2位には現在「一人SWS」ドン荒川の「S多重アリバイ」。4位は現在のZERO－ONE地方巡業級の面白さをみせていた「世界のプロレス」をチョロが九州に取材に出かけて特集。熊本でリハビリ生活を送っている上田馬之助さん（東京シュガーベイブ）お見舞いインタビューもしている。<平成11年6月発行>

RADICAL No. 26

1位 桜庭和志
ホイス戦直前炎のインタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博

2位 ミスター高橋インタビュー
3位 前田が田村にロレックス贈呈
4位 小川・橋本戦座談会
5位 検証・斉藤彰俊

worst 1位 大仁田厚インタビュー

5・1運命のホイス・グレイシー戦を控えた桜庭が、新必殺技「炎のダスキン」を開発したロングインタビューが1位。2位にはなんとミスター高橋が登場！　っと言っても暴露モノではなく、インタビュー版「陽気な裸のギャングたち」とも言うべきオモロ話。3位はヘンゾを破った田村へ、前田から金無垢のロレックス贈呈式。結局田村は「はぁ」以外ほとんど言葉を発せず。座談会が4位に入るほどの話題となった小川×橋本の「負けたら即引退SP」問題。なんとこの視聴率最高で24％も取っているのだ。それがいまや7％……。<平成12年4月発行>

RADICAL No. 23

1位 前田日明"闇討ち事件"を語る！
聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博

2位 大仁田×エンセン対談
3位 つっぱれ大刀光
4位 小川&村上ダブルインタビュー
5位 ヘンゾ・グレイシーインタビュー

worst 1位 ジャイ子妖怪通信

完売

あの"狙撃事件"以来初の登場、事件を真正面から語りまくる前田日明インタビューが1位。ことのほかサバサバしているのが印象的。2位は邪道と大和魂の超異次元遭遇、大仁田厚×エンセン井上対談。3位には、ホントに「PRIDE」参戦が決定してしまった大刀光をとことん掘り下げる「つっぱれ太刀光」。ピンナップまで太刀光だ。この号では、KOK特集も掲載。その兄貴っぷり全開キャラが確立したヘンゾ・グレイシーが5位に入った。ワーストはタマリンとの抗争に敗れ、『紙プロ』を追放されたジャイ子の近況を報告する「妖怪通信」がやはり入った。<平成12年1月発行>

RADICAL No. 20

1位 前田日明
公開インタビューin青空プロレス道場
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

2位 小川直也インタビュー
3位 『紙プロ』×激本イベント報告
4位 S多重アリバイドン荒川後編
5位 語ろう藤波辰爾

worst 1位 ジャイ子×タマリン

完売

『紙プロ』史上最大、全184ページという分厚すぎる特大号。人気ナンバー1はやっぱり前田日明。本誌プロデュース「青空プロレス道場」のゲスト講師として登場した日明兄さんの公開インタビューだ。ヤマヨシ戦を延期した小川を天山ばりに「チキン」呼ばわりしている。また「ビンスは天才やね」発言が印象的だ。注目は「紙の新聞」他、今日のドラゴン像の基となった傑作座談会、「語ろう、藤波辰爾」。近い将来ゼヒ第2回を開催したい名企画だ。ワーストは伝説の『紙プロ』スタッフ・タマリンとジャイ子が紙面作りで対決した企画。こんなのがカラー11P……。<平成11年8月発行>

RADICAL No. 33

1位 ミスター・ヒト 超危険インタビュー　前編
聞き手／吉田豪　撮影＆構成／スモーノブ

- 2位 小川直也インタビュー
- 3位 ヤマヨシ×藤原敏男師弟対談
- 4位 船木誠勝語録
- 5位 橋本真也インタビュー

worst 1位 大日本プロレス　ミニ特集

小川vs佐竹で『ＰＲＩＤＥ』人気最高潮！　『ＰＲＩＤＥの唄』を引っさげて桑田佳祐まで登場したこの時期。小川インタビューは２位にランクイン。そんな中１位はミスター・ヒトの超過激インタビュー。現・全日本担当としてはあまり振り返りたくない（笑）。３位のヤマヨシ×敏ちゃん師弟対談は延々４時間に渡るガンツ泥酔取材。４位は各方面に物議を醸した「船木誠勝語録」。こんなの出たらまた取材拒否かも……。５位はミスター『紙プロ』の称号を与えたい破壊王の４年ぶりのインタビュー「栄光への独白」。ワーストはある意味ベスト。尾崎社長最高！＜平成12年12月発行＞

RADICAL No. 30

1位 ケンドー・カシン、石澤常光大特集
構成／スモーノブ

- 2位 村上一成インタビュー
- 2位 永源遥　前編
- 4位 金原弘光inハワイ
- 5位 レスリング・ウィズ・シャドウズ特集

worst 1位 桜庭あつこインタビュー

『ＰＲＩＤＥ』参戦が決定し、この当時話題沸騰のケンドー・カシン。本誌は連日飛び出す抜群の「カシン語録」を集め、マット界ナンバー１の愉快犯ぶりを検証。それが１位に輝いた。また近いウチにやりたい企画だ。２位にはノア営業部長・永源インタビュー。ちなみにドラゴンのことを「コンニャク！」と言ったのは、この永源インタビューが始まりなのだ。ハワイでのリングスＵＳＡ現地取材が４位。５位には高橋本が出る２年前では禁断すぎる企画『シャドウズ』の特集が入った。＜平成12年８月発行＞

RADICAL No. 27

1位 桜庭和志 ホイス完封記念インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

- 2位 金原弘光 ボヤキング
- 3位 野獣覚醒 藤田和之
- 4位 馳×大仁田対談
- 5位 アイブル激白
- 5位 タムタム元気です
- 5位 堀辺先生VT講座

worst 1位 馳×大仁田対談

桜庭和志、激闘90分の果てにホイス・グレイシーに完勝！　間違いなく歴史に残る超大一番を制した桜庭インタビューが圧倒的な票を集めて１位。桜庭マシンマスクプレゼントにも、とんでもない数の応募が殺到した。この一戦を分析した堀辺師範の講座もランクイン。２位は「ボヤキング」の称号を獲得した、金ちゃんの爆笑ボヤキインタビュー。３位は現在のノゲイラ以上に「最強」のイメージがあったケアーに完勝した野獣・藤田のインタビュー。馳×大仁田の今なら議員同士の対談も実現。あらゆるものが爆発した時期だった。＜平成12年５月発行＞

RADICAL No. 34

1位 ミスター・ヒト 超危険インタビュー　後編
聞き手／吉田豪　撮影＆構成／スモーノブ

- 2位 小川直也インタビュー
- 3位 ヴォルク・ハンインタビュー
- 4位 桜庭和志インタビュー
- 5位 高田延彦インタビュー

worst 1位 田中正志インタビュー

「我々は殺し合いをしているんじゃないんだ！」笑撃のドラゴンストップが飛び出したこの時期。そんなこととは関係なしに、ミスター・ヒトインタビューが２号連続ブッチギリ１位。ドラゴンの“筆おろし”話まで出てくるんだから反則だ。３位のヴォルク・ハンインタビューでは、「私は前田の兵隊だ」という名言や、アターエフの話が出てくる。『猪木祭り』で純プロレスを久々に体験した高田とサクのインタビューも。ティト・オーティズや藪下も登場。そんな中でワーストは遂に商業誌に初登場した、シュート活字・田中正志インタビュー。嫌われてんのね。＜平成13年１月発行＞

RADICAL No. 31

1位 ユセフ・トルコ 幻の「馬場vs猪木」を語る!
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

- 2位 永源遥インタビュー後編
- 3位 堀辺正史KOK講座
- 4位 サク×TK・浅草キッド
- 5位 川田語録

worst 1位 データなし

西武ドームで『ＰＲＩＤＥ』人気が大爆発したこの時期。１位は『ＰＲＩＤＥ』とはちっとも関係がなさすぎるユセフ・トルコインタビュー。当年取って70歳がトップなんだからタマラナイ。２位は永源。３位は堀辺師範のＫＯＫ講座と実に年齢層が高いラインナップ。やはりコクが出るのは熟年なのか？　サク×ＴＫの対談を浅草キッドが司会という豪華な企画もランクイン。そして５位には、“全日のドラゴン”と呼ばれた「川田語録」が登場。川田と健介の論争はホントに凄かった。また、「あなたはパンクラスが嫌いですか？」という刺激的な企画も。＜平成12年９月発行＞

RADICAL No. 28

1位 前田日明　船木vsヒクソン、尾崎社長事件を語る!
聞き手／山口日昇＆吉田豪

- 2位 仲野信市インタビュー前編
- 2位 小川直也インタビュー
- 4位 TKおかんインタビュー
- 5位 ジャンボ回顧録

worst 1位 タマリン池田大輔

船木誠勝、ヒクソンに敗れ電撃引退！　そんな状況下に中発売されたこの号。１位に輝いたのは、やっぱり前田日明インタビュー。ここでは、船木vsヒクソンの話題だけでなく、なんといまだ尾を引く尾崎社長暴行事件についても語っている。２位は昭和新日合宿所やジャパンプロレス、決起軍等の裏話が人気を集めた仲野信市インタビュー。４位にはＴＫのおかんが登場。ジャンボが亡くなったのもこの時だった。そしてワーストはタマリンが池田大ちゃんをオカマバーでインタビューするという最悪の公私混同企画がランクイン。＜平成12年６月発行＞

RADICAL No. 35

1位 ジョー樋口インタビュー レフェリー＆外人係奮闘記
聞き手／吉田豪　構成＆撮影／スモーノブ

- 2位 馳浩インタビュー
- 3位 プロレスファンじゃない人500人アンケート
- 4位 橋本真也インタビュー
- 5位 杉浦貴インタビュー

worst 1位 プロレスファンじゃない人500人アンケート

突然「純プロレスを考えよう！」となったこの号。巻頭から無差別街頭インタビューで、プロレスの危機を煽っている。そんな中、１位に輝いたのは純プロレスの仙人、ジョー樋口インタビュー。レフェリーインタビューといっても、もちろんミスター高橋的な話ではないのであしからず。２位は馳が「カミングアウトの是非」を語っていいのかよ？　５位には杉浦貴の初インタビューが掲載されている。またセッド・ジニアスと船木の衝撃の握手や、田中正志インタビュー後編も掲載。＜平成13年２月発行＞

RADICAL No. 32

1位 小川直也 PRIDE出陣直前インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／斉藤ユーリ

- 2位 藤波語録
- 3位 ラッシャー木村インタビュー
- 4位 桜庭和志インタビュー
- 5位 高田延彦「青空プロレス道場」

worst 1位 荒井薫子インタビュー

10・９新日vs全日ドームとＫＯＫが同日開催され、なぜか両団体をドゥージャッジした号（折り鶴兄弟と破壊王復活劇など最高だった）。１位は『ＰＲＩＤＥ』での佐竹戦を直前に控えた小川インタビュー。この時の小川には殺気があった！　２位は社長就任以降のドラゴントンデモ発言を集めた「藤波語録」。この企画、新日本プロレス内部で大好評だったとか……!?　３位はラッシャーのほのぼのインタビュー。５位には「青空プロレス道場」史上最多の受講生を集めた高田公開インタビューがランクイン。また「プロレス情報公開は是か非か？」という過激企画も。＜平成12年10月発行＞

RADICAL No. 29

1位 秋山準 ノア旗揚げ記念インタビュー
聞き手／スモーノブ　撮影／森鷹博

- 2位 仲野信市インタビュー
- 3位 三沢光晴インタビュー
- 4位 桜庭和志インタビュー
- 5位 書評の星座

worst 1位 ノア出しすぎ

プロレスリング・ノア旗揚げ！　それと同時に全日本時代はできなかった取材解禁！　というわけで、ほとんどノア増刊号の趣もあるこの号。１位は新エースと目された秋山インタビュー。この時期、もっとも新しい闘いが期待されていた選手だった。社長・三沢インタビューも３位。しかし、前ページの半分がノアという状態に「ノア出しすぎ」という読者の声も多かった。ノアだらけの中で２位に入ったのが、“元・谷津信者”仲野インタビュー。ノア特集の中に、元ＳＷＳの選手が食い込んだところが興味深い。里村明衣子のインタビューもブッ飛んでいる。＜平成12年７月発行＞

RADICAL No. 42

1位 破壊王×ドン荒川 昭和新日トンパチ伝承対談
聞き手／吉田豪　撮影／松本崇

2位 宮戸×金原×高山
3位 辻よしなり インタビュー
4位 小川直也Eメール インタビュー
5位 仲野信市引退記念 インタビュー

worst 1位 ターザンが語るWWF

世間がＮＹテロで揺れる中、表紙はアラビアン猪木！　そこで１位になったのは、まってましたの破壊王×ドン荒川トンパチ師弟対談。新日本が大事なものを失ってしまったことが実感できる対談だ。５位の仲野インタビューも全身新日イズム爆発。昭和新日ファンならマストな一冊だ。２位はＵインター対談第２弾。今度は“Ｕインターの頭脳”宮戸が加わり、さらに知られざるエピソードが満載。津谷章嘉、カト・クン・リーも登場。そして前号でブレイクしたWWFだが、ターザンが語ったとたんワーストになった。＜平成13年９月発行＞

RADICAL No. 39

1位 前田日明インタビュー リングス大量離脱を語る！
聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博

2位 桜庭和志 インタビュー
3位 金原弘光 インタビュー
4位 藤原敏男 インタビュー
5位 松井大二郎 インタビュー

worst 1位 田村潔司インタビュー

リングスから田村、ヤマノリ、成瀬、坂田の４人が離脱したこの時期。１位になったのは、もちろん前田日明インタビュー。離脱者が出た原因を呑気に「厄年だから」で済ましていたが、翌年団体活動休止まで発展しまうことに……。同じく３位には金原インタビュー、リングスジャパンの体質を批判する内容は強烈。２位には『紙プロ』「39」号ということで39（サク）登場とういダジャレ。松井はシウバに宣戦布告。その他、田上明インタビューもある。ワーストは“リングス離脱者”田村潔司インタビュー。リングスファンによる愛憎混じりの批判意見が殺到した。＜平成13年６月発行＞

RADICAL No. 36

1位 前田日明 前田節、久々に炸裂インタビュー
聞き手／山口日昇　撮影／黒田文夫

1位 三沢光晴インタビュー
聞き手／スモーノブ　撮影／モーリー

3位 鍋野ユキエ インタビュー
4位 金原弘光 インタビュー
5位 桜庭和志 インタビュー

worst 1位 UFC&KOTC原稿ナシ

三沢、小川、秋山、永田、藤田、そして橋本が入り乱れるという、異常なカオスを形成したＺＥＲＯ－ＯＮＥ旗揚げがあったこの号。１位は純プロレスの鍵を握る男だった三沢インタビュー。三沢と小川の絡みは、先の蝶野戦とは比べモノにならない程刺激的だっただけに、この流れが続かなかったのはつくづく残念。同じく１位は前田久々のロングインタビュー。３位には小さい頃の『紙プロ』ヒロイン鍋ちゃん久々の登場。ＫＯＫ24Ｐ大特集も４位に。ワーストは取材費総額50万かけて、なんと原稿を落とした、チョロのＵＦＣ＆ＫＯＴＣリポート。当たり前だ。＜平成13年３月発行＞

RADICAL No. 43

1位 金原弘光×グレート・サスケ対談 新日本プロレス学校とは何か？
聞き手／堀江ガンツ　撮影／森鷹博

2位 桜庭和志 インタビュー
3位 中野たつあき インタビュー
3位 前田日明 インタビュー
5位 谷津× グッドリッジ対談

worst 1位 セッド・ジニアス事実上の引退

桜庭が復活、シウバとのリベンジマッチ直前のインタビューが２位。その目にキラーサクが宿っていたが、結果はご存じの通り……無念。そのサクを上回るハガキを集めたのが、金原×サスケのプロレス学校同窓会対談。このデタラメ学校ももうひとつの上野毛道場伝説と言えるだろう。３位には中野タツアキが登場。いろいろありました。５位には、谷津とグッドリッジがなぜか仲良くなり、対談。いつかこのタッグも見れるか？　前田インタビューに票が集まらなくなったのも、時代を象徴しているだろう。＜平成13年10月発行＞

RADICAL No. 40

1位 金原弘光×高山善廣 Uインター最強伝説前編
聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇

2位 小川直也 インタビュー
3位 プライド座談会
4位 破壊王人生相談
5位 三沢、井上さん、ターザン、大谷、グラン

worst 1位 ターザン塾長の新日リポート

猪木軍vsＫ－１が開戦間近となり、「最強のプロレス」が求められる中、ブッチギリの１位に輝いたのは、金原×髙山のＵインター最強伝説対談。エピソードの宝庫Ｕインターを話の上手さでは定評のある二人が語るのだから、面白くならないはずがない。現在も続く大ヒットシリーズだ。２位はvsＫ－１を語る小川。結局『ボンバイエ』には出なかったが、今夏のＵＦＯドームで実現か!?　破壊王の人生相談も下ネタ爆発で絶好調。その他、三沢、大谷、グラン浜田、アターエフのインタビューも。ＴＡＪＩＲＩについての特集もある。＜平成13年７月発行＞

RADICAL No. 37

1位 小川直也　長州、三沢を語る！
聞き手／山口日昇　撮影／森鷹博

2位 安田忠夫 インタビュー
3位 田村×ヘンゾ対談 アブダビ特集
4位 橋本真也 インタビュー
5位 堀辺正史 活字VT講座

worst 1位 往生際日記

ＺＥＲＯ－ＯＮＥ第２戦で遂に三沢と初対決、翌月には長州とのタッグ戦も控えた小川が、三沢、長州を語ったインタビューが１位。４位にはその流れに乗って、「小川、長州殺っちゃえ！」と焚き付ける破壊王インタビューもランクイン。２位は安田忠夫が人生劇場のすべてを語ったインタビュー。ヤスがトランプ部だったという衝撃の事実も発覚する。３位には田村×ヘンゾ夢の対談を含んだアブダビ現地取材16ページ大特集。５位には「サク、シウバに敗れる」を堀辺師範がわかりやすく解説するＶＴ講座が入った。＜平成13年４月発行＞

RADICAL No. 44

1位 アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ&マリオ・スペーヒー PRIDEヘビー級王座奪取記念インタビュー
聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇

1位 グレート小鹿インタビュー前編
聞き手／吉田豪　構成＆撮影／斉藤ゲロちゃん

3位 髙山善廣× 杉浦貴師弟対談
4位 闘龍門・T2P 17ページ大特集
5位 高田×ミルコ大検証
5位 BAT MAN 橋本真也 インタビュー
5位 フライ&ナイマン

worst 1位 尾崎社長 バツグンです！

サク、シウバに悪夢の連敗！　その衝撃がマット界を包んだこの時期。１位はなんとノゲイラ。「ＰＲＩＤＥ」はファンが単純に強い者を支持するように変わってきたと実感。同じく１位は日プロ、全日話が素晴らしい小鹿インタビュー。そして３位はノアで異彩を放つ怪物師弟コンビ対談。この二人こそ「ノーフィアー」の名に相応しいような。４位には、突如大特集を組んだ闘龍門＆Ｔ２Ｐ。『紙プロ』も純プロレスをしっかりと扱うことを示した。５位のなぜかバットマン姿になった破壊王も相変わらず素晴らしい。＜平成13年11月発行＞

RADICAL No. 41

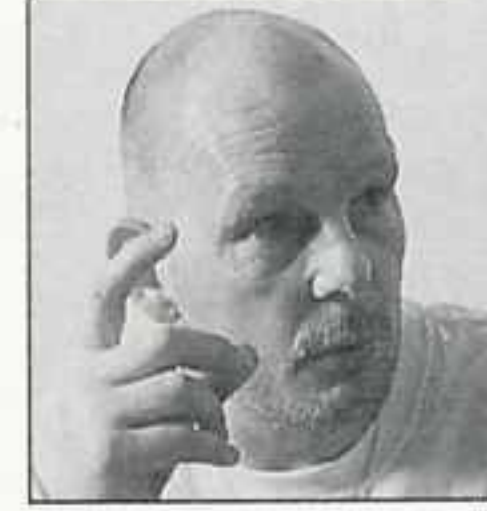
1位 金原弘光×高山善廣対談 Uインター最強伝説　後編
聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇

2位 WWF座談会
3位 小川直也 インタビュー
4位 辻よしなりインタビュー
5位 茨城清志インタビュー
5位 ヴォルク・ハン インタビュー

worst 1位 辻よしなりインタビュー

ＷＷＦが遂に地上派放送決定！　その本誌独占スクープとしてビンスが表紙の号。ＷＷＦを語る座談会が２位に入った。これまで何をやっても本誌読者には受け入れられなかったアメプロが遂に日の目を見る日が来たのだ。それでも１位は金原×髙山対談。２号連続だ。注目は４位の辻よしなり。本誌ではこれまで最低の評価だった辻アナがその評価を大逆転させた。（でも、やっぱりワーストにも選ばれてる）その他、ヴォルク・ハン、またしても姿を消した茨城清志インタビューなどが人気を集めた。＜平成13年８月発行＞

RADICAL No. 38

1位 ジェラルド・ゴルドー 死神ロングインタビュー
聞き手／堀江ガンツ　撮影／丸山鋼史

2位 阿修羅・原 インタビュー
3位 力皇猛 インタビュー
4位 小川直也 インタビュー
5位 丸藤正道 インタビュー

worst 1位 「不手際日記」原稿落とし

５・５福岡ドーム、因縁の長州vs小川因縁タッグ対決が大凡戦に終わったこの時期。小川の発言にも切れがなく、インタビューは４位にとどまった。そんな中、１位はなんとゴルドーインタビュー！　用心棒の目から見た１・４事変など、興味深い話が満載だ。２位は阿修羅原インタビュー。そのまさに修羅の人生は安田どころの騒ぎじゃない。ＺＥＲＯ－ＯＮＥ第２戦で大活躍した、力皇、丸藤、杉浦のインタビューも人気を集めた。その他、破壊王の人生相談もスタート。ワーストはチョロの３度目の原稿落とし。ホントにワーストだ。＜平成13年５月発行＞

「紙プロ」に最も多く登場したのはこの男だ!

インタビュー出演回数 BEST10

順位	名前	回数
1位	前田日明 Akira Maeda	30回
2位	小川直也 Naoya Ogawa	25回
3位	桜庭和志 Kazushi Sakuraba	20回
4位	高田延彦 Nobuhiko Takada	19回
5位	田村潔司 Kiyoshi Tamura	16回
6位	金原弘光	
7位	アレクサンダー大塚	
8位	谷津嘉章	
9位	エンセン井上	
10位	ザ・グレート・サスケ	
10位	橋本直也	

インタビュー中心の雑誌である『紙プロ』にあって、インタビュー出演回数は人気のバロメーター。そういう意味で『紙プロ』読者にもっとも支持されたのが、1位の前田日明。その数、実に30回。人生相談なども含んだ数だがこれは凄い。しばらくご無沙汰しているが、次の登場はいつか？　注目は破壊王。新日本時代は取材拒否のため登場できなかったにも関わらず、驚異の猛追でベスト10入り。いまのミスター『紙プロ』は破壊王か？

RADICAL No. 48

1位 「和田最強伝説」金原×和田×滑川座談会
聞き手／堀江ガンツ　撮影／松本崇

- 2位 3・1WWF特集・武藤敬司
- 3位 ウォーリー山口インタビュー
- 4位 小川直也×ノゲイラ対談
- 5位 田村潔司インタビュー
- 5位 書評　ミスター高橋

worst 1位 ジョー・サンインタビュー

田村、シウバに敗れる！　その衝撃が冷めやらぬ時期。田村が自らの敗戦を語るインタビューが5位。田村が敗れたことで、Uは完全に終わったかと思いきや……Uの最終兵器が意外な所から登場。和田良覚レフェリーの選手デビューが決定！　その秘蔵写真を多数掲載した金原インタビュー「和田最強伝説」が1位。2位は3・1WWF特集＆武藤敬司インタビューがランクイン。WWFにレフェリーとして登場したウォーリー山口インタビューが3位に入った。そして4位には小川×ノゲイラの夢の対談。この二人が、巨乳について語り合う実に贅沢な内容だ。＜平成14年3月発行＞

RADICAL No. 49

1位 金原弘光×高山善弘×和田良覚 和田最強祝勝会
聞き手／堀江ガンツ　撮影／森鷹博

- 2位 橋本真也 炎のインタビュー
- 3位 アレクサンダー大塚インタビュー
- 4位 小島聡インタビュー
- 5位 ウォーリー山口インタビュー後編

worst 1位 アレクサンダー大塚インタビュー

今夏、「PRIDE」vsK－1、UFOの東京ドーム大会、リングス・ロシアの「PRIDE」参戦、ヒクソン・グレイシーの復活んど噂が飛び交う中発行。1位となったのは、39歳にしてバーリ・トゥードデビューをはたした和田良覚の祝勝会。参加メンバーが金原＆高山なのだから、面白くならないはずがない。2位は破壊王が炎の特訓を行ったロングインタビュー。3位には菊田への憎悪を叩きつけるアレクインタビュー。4位には本音が爆発しまくっている小島インタビューがランクイン。ネットのカキコミ、菊田についてなど注目発言多数。＜平成14年4月発行＞

RADICAL No. 45

1位 ミスター高橋 衝撃の暴露本出版直後インタビュー
聞き手／吉田豪

- 2位 語録で振り返る2001
- 3位 葛西純インタビュー
- 4位 グレート小鹿インタビュー後編
- 5位 闘龍門メキシコ特集
- 5位 ゴルドー人生相談

worst 1位 田中正志の「書評の星座」

大晦日の「猪木軍vsK－1」直前。アントンがホームレス姿で宣伝のために全国行脚していたこの時期。ミスター高橋が衝撃の暴露本を出版！　専門誌がことごとく黙殺する中で、すかさず独占インタビューしたものがやはりブッチギリの1位となった。2位は1年間のプロレスラー名言迷言を集めた「語録で振り返る2001」。もちろんドラゴンと健介が主役だ。3位にはデスマッチ猿・葛西純がランクイン！　5位はメキシコ現地取材を敢行したT2P、闘龍門メキシコ特集。そして恐怖のゴルドー人生相談。＜平成13年12月発行＞

RADICAL No. 46

1位 橋本真也インタビュー 破壊王新日分裂を語る
聞き手／松澤チョロ

- 2位 キラー・カンインタビュー
- 3位 田村潔司インタビュー
- 4位 浅草キッドインタビュー
- 4位 金原弘光インタビュー

worst 1位 サダハルンバの立ち技にプロレス

田村潔司、衝撃の「PRIDE」出場決定！　田村が「PRIDE」へ久々に「語れる」熱を持ち込んでくれたインタビューが3位。1位は武藤、小島、カシンの新日離脱を破壊王が語りまくる爆裂インタビュー。健介をチ○カス呼ばわりした所に共感を覚えた意見多数。2位はカーンがミスター高橋を語る！　そして、もうひとつの大事件、リングス活動休止決定。それを受けた金原、浅草キッドインタビューも票を集めた。＜平成14年1月発行＞

★バックナンバー通信販売インフォメーション★

【バックナンバー申し込み方法】

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

●代金はNO.5～NO.10＝680円　NO.11～NO.19＝780円　NO.21・NO.24～NO.32・NO.35・NO.36～NO.39＝840円　NO23・NO.33・NO.34・NO.40～NO.49＝880円　送料1冊＝310円　2冊＝380円　3冊～4冊＝450円　5冊＝520円　6冊以上＝700円

※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

【現金書留・郵便振替】

郵便振替：00130-3-769154（株）ダブルクロス
現金書留：〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス

【『紙のプロレス・RADICAL』バックナンバー常備店】

アイドール新宿店・新宿ファイター・大山アメリカン・プロレスマニア館・チャンピオン・東京イサミ・リングスパレス・バディスラム・タコシェ・レッスル渋谷・レッスル池袋・書泉ブックマート・書泉ブックタワー・書泉グランデ・ワールドスポーツプラザKINGS(池袋・渋谷WEST・新宿アルタ・名古屋・大阪・札幌・福岡）・グレート・アントニオ

RADICAL No. 47

1位 3・1WWF直前大特集
構成／スモーノブ

- 2位 ストロング金剛インタビュー
- 3位 馳浩・黒幕インタビュー
- 4位 武藤敬司インタビュー
- 5位 小笠原和彦インタビュー

worst 1位 田村 vs シウバ直前予想

3・1横浜アリーナにWWFが遂に上陸！　ビンスを表紙に、直前大大特集が1位に輝いた！　もう一つの大ニュース、武藤一派の全日本入団を受けて、武藤敬司の『紙プロ』初登場インタビューが4位、"黒幕"馳浩インタビューが3位。「究極のエンターテインメント」へと吹っ切れた純プロレスの躍進が目立つ紙面となった。2位にはストロング金剛が登場。5位にはZERO－ONEで猛威を振るう、全身昭和極真魂・小笠原インタビューがランクインした。その他にはリングスラストマッチ特集でのヴォルク・ハンなどがある。
＜平成14年2月発行＞

オレごと買えーッ!!

バックナンバーのお知らせッ！

と、ばかりに紙のプロレス

本誌50%OFF

第8号 1994年1月号 特集 さらば新日本プロレス

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが「紙プロ」初登場！ ２０ページにも及ぶ大特集！

¥700 ⇒ ¥350

第13号 1995年3月号 特集 道場破りとは何か?

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！ 山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／「平成ファミコン・プロレス」馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

¥780 ⇒ ¥390

第14号 1995年4月号 特集 神秘とは何か?

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

¥780 ⇒ ¥390

第15号 1995年5月号 特集 インディペンデントの逆襲

あんた誰？ 山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－とは何か？ 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのK－１三兄弟（当時）インタビュー

¥780 ⇒ ¥390

第16号 1995年6月号 特集 新日本凸凹大学校

「紙プロ」的・昭和新日本プロレス大検証！マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！ 糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

¥780 ⇒ ¥390

第17号 1995年7月号 特集 実況パワフル北朝鮮

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！ アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄·祝・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

¥780 ⇒ ¥390

第19号 1995年9月号 特集 さようなら紙のプロレス

「紙プロ」を偲んで… ターザン山本・ユセフトルコ・上田馬之助・糸井重里・サスケ＆高野拳磁／石井館長、ターザン、サダハルンバ、平仲信明たちの「負けず嫌い」座談会

¥780 ⇒ ¥390

パンクラス公式読本[矛]

９７年夏、横浜道場所属のパンクラシストを直撃！ 鈴木みのる／近藤有己／山田学／故・長谷川悟史／そして佐山聡、カール・ゴッチも登場だ！

¥1260 ⇒ ¥630

パンクラス公式読本[盾]

９７年夏、東京道場所属のパンクラシストが語る！ 船木誠勝／パンクラス非公式座談会／ナゼか、故・ジャイアント馬場vsターザン山本が実現！

¥1260 ⇒ ¥630

極真魂溢れる16人を直撃! 極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／N・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

¥1530 ⇒ ¥800

撮影／荒木経惟 プロデュース／南部虎弾 格闘男

桜庭和志、藤田和之、村上和成、アレクら11人のプロレスラーが天才アラーキーと勝負した！ カメラの前で"生身"をさらけ出し「男の張る」姿を見逃すな！

¥3000（税金・送料込み）

2000年4月 情念～夢一途なり～石川雄規

『紙プロ』で2年半続いたバトラーツ社長石川雄規のドラマチックな連載エッセイに大幅加筆＋書き下ろし！ 情念とは何かがわかる一冊である。

¥2100（税金・送料込み）

インタビューという名の鉄拳史 紙の前田日明

『紙プロ』、『リンタマ』、『紙プロRADICAL』誌上で展開された前田日明怒濤のエネルギー史！ 引退直前時のインタビューも特別収録だ。今こそ前田日明を振りかえれ！

¥2000（税金・送料込み）

通販申し込み方法

●お申し込みは郵便振替と現金書留の2通りになっております。（バックナンバーは通販でしか取り扱っていません。書店では買えません）。

【郵便振替】00130-3-769154（株）ダブルクロス
【現金書留】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702（株）ダブルクロス

●郵便振替の場合は用紙の通信欄に希望号数を明記し、現金書留の場合は希望号数を書いた紙を同封して下さい。

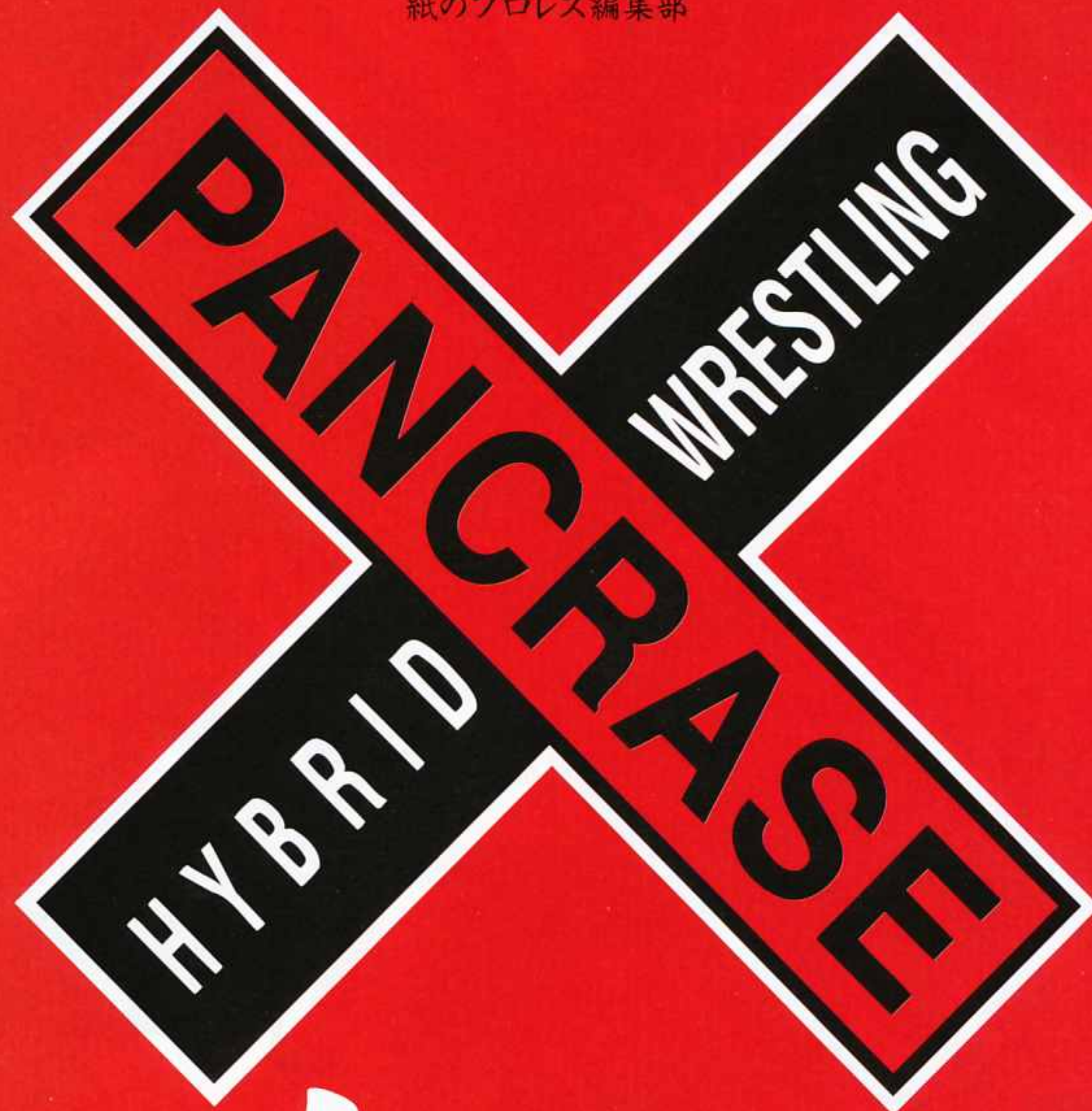
※本誌なのかRADICALなのかを必ず明記して下さい。

●送料1冊＝310円 2冊＝380円 3冊～4冊＝450円 5冊＝520円 6冊以上＝700円

★『『紙のプロレス』 NO.1～NO.7／NO.9～NO.12／NO.18／NO.20～NO.22 『猪木とは何か？』『猪木とは何か？キラー編』『大山倍達とは何か？』は完売!!

※過去、『紙のプロレスRADICAL』誌上におきまして、
パンクラス尾崎社長、パンクラス選手及び関係者の皆さまに対し、
不愉快な気分にさせてしまった記事も、いくつかあったかと思います。
今後は、そのようなことのないよう細心の注意を払っていく所存です。

紙のプロレス編集部

PANCRASE HYBRID WRESTLING

改めまして、パンクラスはじめました。

読者の皆さま、おまっとさんです！　今号から尾崎社長の大英断により『紙プロ』でパンクラスの取材が何年か振りに解禁となりました。解禁となった経緯をここで簡単に説明すると、約4年前に『紙プロ』でボクが行い賛否両論の大反響を巻き起こした菊田早苗インタビュー。ある意味、このインタビューが発端となり、試合前から因縁の日本人対決として注目を浴びたのが『PRIDE.20』での菊田早苗対アレクサンダー大塚の一戦である。この試合後に、会場近くの新横浜駅前で菊田選手とバッタリ会い、話をしたところ、「過去の『紙プロ』インタビューでの“プロレスラーはロクな死に方しない”発言の真相と今回のアレク戦について『紙プロ』で言いたいことがある」と言われ、こちらとしても是非お願いしたいということで、尾崎社長の方へ菊田選手から取材をお願いしてもらい、今回からパンクラス所属選手の取材が可能となった次第です。　紙のプロレス編集部／松澤チョロ

久々に『紙プロ』登場の菊田が
“問題の”アレク戦
さらに「プロレスラーはロクな死に方しない」発言の真相まで独占激白!

祝パンクラス解禁! 一発目はもちろん、この人、菊田早苗である。今から約4年前『紙プロ』での菊田インタビューが発端となった感もある、4・28『PRIDE.20』での因縁の日本人対決・菊田早苗対アレクサンダー大塚戦。試合前から試合後まで各方面で話題騒然の“問題の”一戦、さらに、“問題の”「プロレスラーはロクな死に方しない」発言の真相まで、菊田早苗が『紙プロ』だからこそ語りまくった! これがパンクラスだッ!

聞き手／松澤チョロ 撮影／森“モーリー”鷹博 designed by hisa (Two Three)

菊田早苗

—菊田さんは、『紙プロ』には約4年振りの登場となるわけですけど、まずは、今回出ていただいた、きっかけとなった『PRIDE・20』での"問題の"アレク戦についてお聞きしたいんですが？（笑）。
菊田　はい（笑）。
—試合後も賛否両論いろいろ出てますが、菊田さん的にはどうだったんですか？　だいぶ日にちも経ってますけど。
菊田　もう2週間も前のことだから、ほぼ忘れつつあるし、特に怒ってるとか、そういう感情もないし、ホント残念だったなってのが一番ですね。
—怒りっていうのは、それほどないと？
菊田　グラバカの連中からも「アレクは何だ！」とか悪口も全然ないし、彼らは根がいい人たちなんで。結局、今回の件はアレク選手の独りよがりだったと思いますよ。
—アレク選手の独りよがりですか？
菊田　だって、喧嘩両成敗だ何だって言われてるけど、喧嘩してないですから。
—アレク選手にとっては初めての喧嘩だったということですけど、菊田選手にとっては、この間の試合は喧嘩ではないと？
菊田　喧嘩はしてないですね。ただ気持ち悪かったというだけで。
—ただ気持ち悪かった（笑）。
菊田　挑発するのも、ボクのことをけなすのも、嫌いなのも、それは人それぞれで自由だし、ボクもやっぱ過去に生意気なこと言ってたんで、それは全然構わないわけです。ただ試合中に、なんか下から「う～」だ「あ～」だ、話をグチグチしてきたり、金的しか狙ってこないと。しかも、終わってから決着がついているのにグチグチと、まだ言ってくると。そういう男らしくない姿を見てると、ついボクも、ず―っと（感情は）抑えてたんだけど「去れ！」って言っちゃったんですよね。
—小川選手じゃないですけど、声が裏返っちゃってましたね（笑）。
菊田　そうそう（苦笑）。それで、「アレクはプロレスラー魂で腕十字を耐えた」とか言ってる人もいるみたいですけど、あれはボクのミスで全く極まってない！　浅かったですから。あれはもっと手がここまで（首元を指して）こなきゃいけなかったんだけど、ちょっとムキになって冷静さを失ってましたね。
—PPVで解説していた桜庭さんも「極まってない」って言ってましたからね。
菊田　ホント、プロレスラー魂とかよくわかんないですけど、あれは極まってないし、それに極まってたら折れますから（キッパリ）。今回の試合について、みんな好き勝手、批評してるけど、1ラウンドから最後まで、ずっと金的を狙ってるし、下から暴言吐いてくるし、一本取る取らないとか、そんな普通の試合じゃないんだから。
—金的については、アレク選手は「ボクのヒザ蹴りがヘタだっただけ」って言ってましたけど（※その後、アレクは故意だったと認めるかのような発言をしている）。
菊田　いや、あれは明らかに金的を狙ってましたよ、ずっと。もう、こっちは精神的に普通じゃないし、それにね、緊張感もないんですよ。試合の始まるときのいい意味での緊張ができなかったんですよ。更にわけのわからないことばっかりやってくるから、「何で自分は、こんな選手とやらなきゃいけないのか？」って思っちゃって。ファンには申し訳ないけど、モチベーションが上がるとか、そういう次元の問題じゃなかったですね。

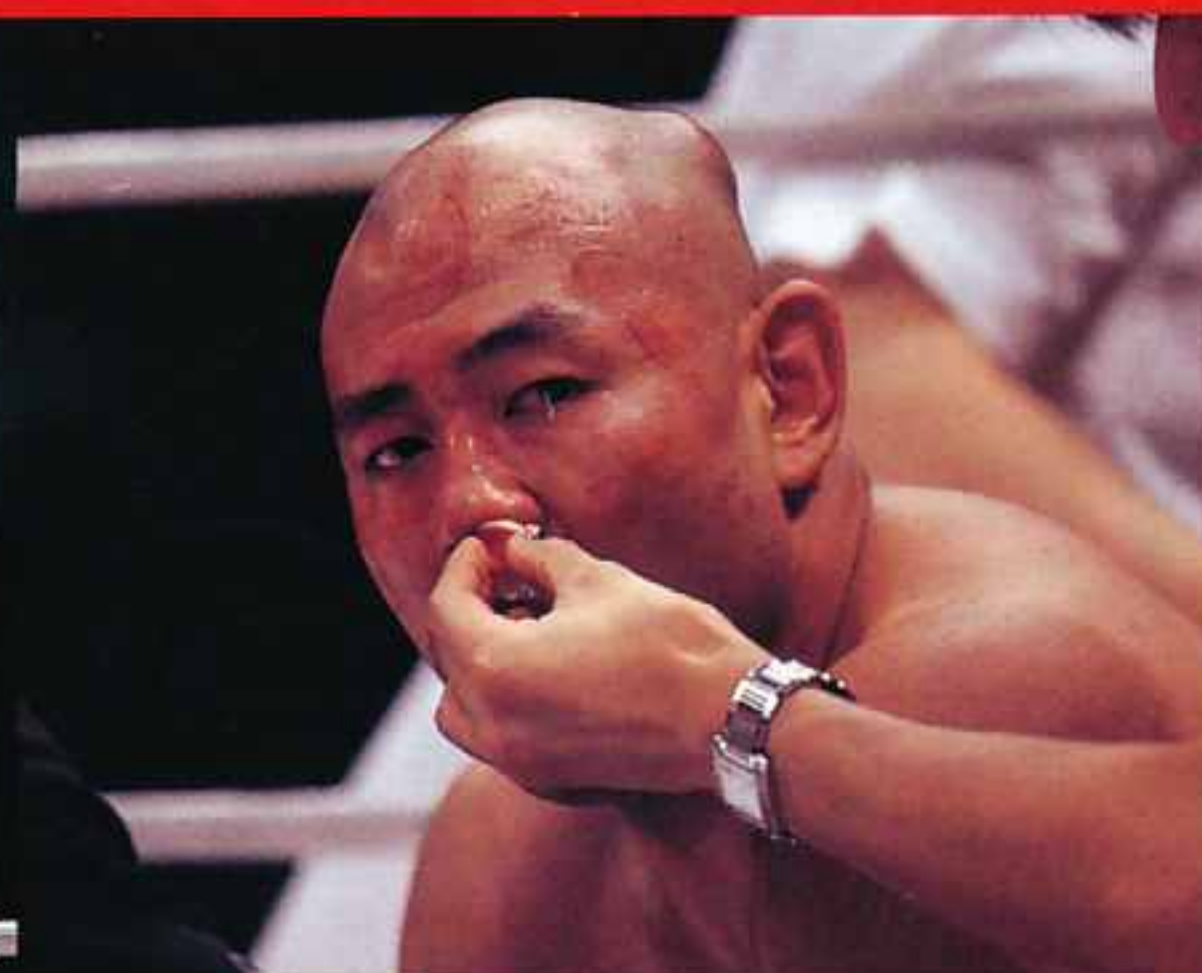
Sanae Kikuta

—そうなることは試合前から予想はできなかったわけですか？
菊田　いや、それは最低なことだから、そうなることは予想はしてないですよ。試合になったら、ちゃんと勝つつもりできて、お互い頑張って、終わったらちゃんと……まあ握手は出来ないかもしれないけど、何も言わずに引き上げて行くとかね。自分で手を差し出しておいて離すような、そういうことするのは全然考えてなかったですね。
—多少なりとも分かり合えることもあるかと思っていたと？
菊田　そうですねぇ。ハッキリ言って遺恨なんてのは、どうでもいいんですよ。嫌いだってのもいいと。ただそれをリングの上に持ち込んで、ファンを巻き添えにするのはおかしいでしょって話なんですよ。やってることも結末も全部そうなんですけど「お客さんを舐めるのもいい加減にしろ！」って言いたいですね。お客さんがどんな気持ちで会場に足を運んでいるのか、わかんなかったでしょう、恐らく。あれでウケると思ってるわけですよ……多分。
—多分（笑）。試合後は「アレクが悪い。いや菊田も悪い」だとか、いろんな意見も出てますけど、なんだかんだ言って、いい意味でも悪い意味でも面白かったですよ。
菊田　いや、面白くないな、あれは。
—まあ、当事者はやっぱり「面白い」とは思わないんでしょうけど。
菊田　格闘技とかプロレス云々なんて因縁は、もうどうでもいいんですよ！　そんなレベルの低い話は。ボクはそういうのに構ってられないし。なんかアレク選手も今回『紙プロ』に出るみたいだけど、何かまだ言いたいことがあるのかって思いますね。
—ただ今回の試合は、大会前からアレク選手からの挑発があって、まあ菊田さんにとって納得のいかない急所攻撃とかもあって認めたくない部分もあると思うんですけど、煽りも何もなく行われていたら、それほど反響はなかったと思うんですよ。
菊田　いや、別に煽るのはいいんですよ。ただ試合だけは真面目にやれと。お客さんを舐めるなと。こっから、ちょっと一方的に言わせてもらっていいですか？
—あ、はい（笑）。
菊田　ボクは勝ちましたけど、もちろん満足はしてません。だけど、彼は十字逃げたことで、あそこまで勝ち誇ったじゃないですか？　あれを見てアレク選手が何を考えてたのか、何を狙ってたのか、どういう選手なのかっていうのも全部見えちゃったわけですよ。それに口攻撃が何週間も続いて、試合後もグチグチ言ってるし、試合も最初から最後まで金的を狙うだけ！　極めさせないことだけに徹底してんだから、それはねぇ、ハッキリ言って楽ですよ。
—楽？
菊田　そう。でね、1本取られないことだ

パンクラス戦士となってから初のプライド参戦となった菊田は新調した道衣風のガウンを着て入場。セコンドはもちろん、郷野、佐々木らグラバカ勢。一方アレクのセコンドはパンクラス勢との因縁が残るソラールをはじめとするルチャ軍団【右】。当然のように試合前、菊田の握手をすかすアレク。異種喧嘩試合５秒前！【左】。アレクの打点の低いヒザ蹴りが菊田の急所周辺を直撃。何度も「金的気をつけろ！」と塩崎レフェリーから注意を受けていたアレク【右下】。アブダブチャンピオンの菊田に何度もマウントを許したアレクだったが、下から菊田の頭を撫で撫でし挑発を忘れない【下】。

改めまして、パンクラスはじめました。

“問題の” 菊田早苗vsアレクサンダー大塚戦プレイバック

バックマウントからボコボコ、アレクを殴り続けた菊田【右】。１Ｒ終了後、コーナーに戻ったアレクの頭部には驚くほど大きなコブが……【中】１Ｒから３Ｒまでポジションで圧倒しまくった菊田。マウントからパンチを振り下ろす菊田に下から「痛ぇなぁ～。もっと打ってこいよ、オラッ！」と頭撫で撫でに続き、アレクは顔を腫らしながら声による挑発も繰り出した【右下】３Ｒ終盤、菊田の腕十字がアレクを見事に捉えた……かに見えたが、入り方が浅くなんとかこれを耐え抜いたアレク。結局、極めきれなかった菊田だが大差の判定で勝利を掴んだ

■第6試合（1R10分、2・3R5分）

○菊田早苗（3R判定 3-0）アレクサンダー大塚●

［日本／パンクラスGRABAKA］　［日本／AODC］

けを狙ってて、そうなった瞬間に勝ち誇る……それで判定になった瞬間に、ボクの勝ちを消すつもりだったんだから、それはもう、初めから試合に対する気持ちっていう部分で言うとどうしようもないですよ。だからねぇ、ハッキリ言って暗い！

――暗い？（笑）。

菊田　そう！　根暗な人間のやることでしょう。試合やればわかりますよ。

――まあ性格は試合に出るって、よく言いますからね。

菊田　出ますよ。でも、これは誤解しないで欲しいんですけど、ボクが言いたいのは文句じゃないんですよ。ボクはね、ガックリしたんですよ！

――それはどういう意味でですか？

菊田　ボクはアレク選手のことは凄く評価してたんです。強さもそうだけど、人間的にもプロレス界の中でも、もっと気持ちの大きな人だと思ってたんで。だから余計に残念だったんですよ。だって実際、ボブチャンチンとかシウバにも、いい試合してるじゃないですか？　真っ向勝負してたし。

――その2人とは、いい試合しましたよね。

菊田　それにひたむきだったじゃないですか！　それなのに勝つ気がなくて、初めから反則負けを狙ってたんだなって思うとやりきれないんですよ。遺恨だとかそんなの言い訳にならないですよ、ハッキリ言って。彼は、もう『PRIDE』のリングに上がるべきじゃないと思います。

――実際、そういう声もファンから少なからず上がってますからね。

菊田　それだけの覚悟で上がってたならいいと思いますよ。でもボクにはもう関係ないです！　ボクはこれからも『PRIDE』に上がっていって頑張るだけなんで。

――でもある意味、アレク選手のやりたいことを思い通りにさせてしまったという部分もあるわけですよね。

菊田　う～ん、どうなんですかねぇ？　正直言って、実力云々とかじゃなくて、アレク選手がそういう性格だって知ってたらやってなかったですよ。

――あ、やってなかったですか？

菊田　やってない！　だって、そうなってくると、プロとしてお客さんを喜ばせるとかとかの理念から、かけ離れ過ぎですもん。

最終ラウンドのゴングが鳴ると、アレクは両手を上げガッツポーズで観客にアピール。一方の菊田は終始攻めまくりながらも極められなかった悔しさからか不満げな表情だった。判定は文句なし3-0で菊田の勝利。アレクは観客に対し敗戦を詫びた

ホント煽るのは構わないし、なんでもいいんだけど、それはおかしいと思いますよ。でも本人がそれで満足で勝ったと思ってるのなら、それでもいいんで、勝手にして下さい。ただ格闘技をバカにし過ぎですね！

――格闘技をバカにするな、と？

菊田　だって今回の試合を見てファンは納得してないでしょ、全然。

――う～ん、納得はしてないですよね。

菊田　そういうことですよ。

――これは素人的な意見になっちゃいますけど、最初から判定狙いで来られたら寝技世界一の技術を持ってしても、やっぱり極められないもんなんですか？

菊田　いや、やっぱり判定狙いで守りで来られたら難しいですよ。それに普通の試合だったらわからないんだけれども、ああいう気持ち悪い試合は、やった選手もいないだろうし、あの感覚は、みんなもわかんないだろうな。なんとも言えぬ気持ちでしたね。試合前、試合中、試合の後も。

――やっぱり菊田さんにとって一本勝ちして、アレク選手にコメント出させないぐらいのダメージを与えるっていうか、ケガさせるっていう意味じゃなく〝心を折る〟っていうのがベストだったわけですよね。

菊田　もちろんベストはそうですよ。やっぱりどんな試合だって一本狙ってますけど、勝負も極めることも時の運だから、たまたま…っていうとアレですけど取れないときもあると思いますよ。特に相手が守りに徹してるわけだから。この辺は内容が言い訳がましくなるんで、あまり言いたくないですけど、ただ自分はもう勝ったわけだから次に繋げたい、次に向かいたいなって感じですね。

――アレク選手は試合後、「2度と関わりたくない」って言ってましたけど？

菊田　それはねぇ、なんか凄くおかしいと思うんだよなぁ。あれだけ自分で騒いでおいて、あんな試合して、あんなこと言って、「2度と関わりたくない！」って。だから因縁云々は、よくわからないですけど勝手にやって下さい。ボクはもう知らないです。

――もう知らない（笑）。

菊田　ボクはもう、いい試合したいだけだから、それだけです。まあ、そんな下らないことに構ってる暇があったら、最初にボクが名前を挙げていた選手たちとガンガンやっていきたいと思ってるんで。

――というと、ホイスであったりシウバやミルコと闘いたいってことですね。

菊田　まあ、そういうことですね。

――それもいいとは思うんですけど、今回のアレク戦のように、やっぱり日本人対決って盛り上がるじゃないですか？

菊田　そりゃ日本人対決は盛り上がりますよ。ただ、アレク戦が盛り上がったって言われるとボクはわかんないなぁ（苦笑）。まあでもボクもキッチリと勝ちたかったですけど、でもやっぱり、反則勝ちじゃなくて判定だろうが負けさせたっていうのは良かったと思います。そりゃ欲を言えば一本取りたかったけれども……（考え込む）。

――それで、アレク選手は試合前から「菊田はプロレスをバカにしてる！」って、盛んに挑発してましたよね？

菊田　してましたねぇ。

――それに対して、菊田さんは試合後のマイクで「昔と違って今はプロレスも認めている」とアピールしたわけですよね。

あれから4年経って、プロレスラーも格闘家も素晴らしいっていってわかったんです

菊田　いやホントはリング上で言いたいことはいっぱいあったんですけど、要約して言ったんですよ。確かに昔、プロレスを挫折したのも事実ですし、批判したこともありましたよ。

——ありましたね（笑）。

菊田　でも4年経ってプロレスラーも格闘家も素晴らしいっていうのはわかったんで。人の職業を批判したっていうのはボクが悪いんで！　それについてアレク選手は怒ってると思うんですよ。

——その部分が一番大きいでしょうね。

菊田　アレク選手は、ボクがプロレス界に対してバカにしたと思ってると感じるんですよ。でも、ボクが言ったのは、バカにしたんじゃなくて怒ってたからなんです。

——と言いますと？

菊田　とりあえずですね！　ボクは小島さんと天山さんに対してロクな死に方しないとは言ってないんです！　みんな、意味をはき違えてるんですよ。それが雑誌の怖いところで、それは撤回して欲しいんです。

——担当はボクだったんですが、その時の『紙プロR』（NO12）を読み上げると「確かに小島、天山は試合の見せ方は上手いと思いますけどね。それだけであれだけ客を集めちゃうじゃないですか。ロクな死に方しないんじゃないかと、そういうことなんですよ」ってありますよね。

菊田　そういう風には言ってなくて、文がカットされたんです。文が抜けると全く意味が変わっちゃうでしょ。

——それはそうですよね。

菊田　だから、小島選手、天山選手はプロレスは上手いけど、バーリトゥード（以下VT）だったら藤田選手や中西選手の方が強いっていうようなニュアンスで言ったんです。その後、グァ～っと喋った後にプロレスラーはロクな死に方しないと言って挑戦状を叩きつけたんです。

——ボクも、菊田さんが言いたかったのは、天山さん、小島さんに対してではなくプロレスラーに対してだっていうのは理解してたつもりだったんですけど、確かに、そう受け取る人もいたでしょうね。

菊田　そりゃいましたよ。小島さんと天山さん個人に対して言ったことじゃないんです。ボクにとっては、その間違いは重要な問題だったんで。それに結局そのネタを、この間も『紙プロ』の記者の人が下らない……まあ、面白く書いてあったけど（笑）、「ゲラチェックしたのにどうのこうの」って書いてたじゃないですか。ホントは今さらこんなこと言いたくないけど、やっぱり、あのインタビューで選手に迷惑かかってるから、それは謝りたいと思うし。何度も言うけど天山さんと小島さんに言ったわけじゃないですから。ボクの言いたかったことと論点が全然ずれて伝わっちゃったんですよ。

改めまして、パンクラスはじめました。

Sanae Kikuta

「ども、こんにちわ！」と、らしい第一声の後、菊田は「勝ったのはボクです。負けた者は去れぇ！」とリングサイドのアレクに叫ぶと、すかさずアレクは「確かに俺は負けたけどなぁ、内容ではお前の負けだ！」と最後まで両者は譲らず。そして菊田は過去のプロレス挫折話、そしてプロレス批判の事実を告白。最後は「今はプロレスも格闘技もどっちも素晴らしい」とアピールした

——その部分については、ホント申し訳ありませんでした！（と頭を下げる）

菊田　さっきも言ったように、プロレス批判をしたのは事実なんですけど、今はプロレスラーも格闘家もどっちも本当に大変な仕事で、どっちも心の底から凄いと思ってるんですよ。これは本心で！　なんかボクが言うと「嘘つけ！」って思われちゃうんだけれど、それは本当だし、自分のバツが悪くなったから言い訳してるって思われるのも嫌なんで、ハッキリと当時言いたかったことの真実を言いますから、マジメに聞いて下さい！

——わかりました！

菊田　とにかく、いかなることがあろうとも人の職業を批判をすること自体が良くないことだし、それはボクが悪かったです。で、ボクの若気の至りで迷惑掛けた人にはホントに謝ります！　こんな話はホントはしたくなかったんだけれども、アレク選手のこともあったし、せっかくだから話す機会かなって思うんで話しますけど。昔のことなんで、内容まで細かくは言いませんけど、当時はプロレス側と格闘側が火花を散らしていることがあったんですよ、裏で。

——裏でですか？

菊田　いや、表でもです。で、プロレス側も格闘側を結構バカにした行動を取ってることが多々あったんです。それは格闘技側も同じだったんですけど。で、ボクはそのことに凄く敏感だったんです。ボクはプロレス側から格闘技側にやってきて、その頃は格闘技が大好きになってたんです。それにプライドを持って格闘技をやっていたから尚更そう思ってて。で、実際ね、今みたいに舞台がハッキリしていなくて、強さというものの定義が凄いあやふやな時代だったんですよ。「菊田がルチャのチャンピオンに勝ったなんて凄いね」なんて言われてた時代ですから。

——それは、どういう意味で言われたわけですか？

菊田　ルチャがどうしたとかじゃなくて、格闘技自体が凄く格下に見られてたんですよ。で、それが凄く悔しかったんです。だって、こっちは年に数回しかない試合のためにね、毎日それ用の練習しかしてない。それもバイトしながらですから（笑）。

——当時はそうだったでしょうね。

菊田　それで、集客力やお金の面とか、よくバカにされましたから。確かに集客もない、お金もないかもしれない。だけど、こっちは言い返せない。じゃあ「実力だけはちゃんと見てくれ！」って思っても、実力測定の場もあやふやだったし、そういう中

で自分一人で「オレが先頭切ってやってやろうじゃないか！」って……そういうことだったんです。まあ、今になってみれば若気の至りだったんでしょうけど（苦笑）。
——当時はエンターテインメントのWWFも今ほど浸透してませんでしたし、「一番強いのはプロレスラーだ」って思って見ているファンが多かった時代ですからね。
菊田　そう！　だから、ますます自分の名前を上げることに必死になってたんです。それに自分っていうのが世間に出てないから、どうしても自信もないんです。
——自信がない時って逆に強がって大きなことを言っちゃいがちですからね。
菊田　自信がない分、「コノヤロー！」って言っちゃったんでしょうね（苦笑）。
——当時の菊田さんは『紙プロ』では「総合格闘技界の裏実力日本一」って書きましたし、まだマニアにとって知る人ぞ知る存在って感じでしたからね。
菊田　まだ若かったです。当時はボクも名前もないし、誰かが「ルチャに勝って凄いね」って言うと、「格闘技ってそういうもんなんだ」ってファンも思っちゃうんですよ。そういう時代だったんですよ。で、それにも増して、勇気のあるプロレスラーが（格闘技の）試合に出て負けると決まってみんなが罵ってた時代ですから。
——出てない選手がですね？

改めまして、パンクラスはじめました。

プロレスラーが嫌だったんじゃなくて、口だけのヤツが嫌だったんです。格闘技側も含めて

菊田　そうです。その舞台に立った者しかわからないのに、それが凄い嫌だったんです。勝ち負けなんてものは問題じゃなくて、出るだけで凄いんですよ！　決してプロレスラーは弱いわけはないんですから。
——菊田さんは思いっきり格闘技側っていうわけでもなかったと？
菊田　正確に言うとプロレスラーが嫌だったんじゃなくって、口だけのヤツが嫌だったんですよ。それは格闘技側も含めて。
——そういうことだったんですか。
菊田　で、ボクは昔からVTの世界は、プロレスラーだろうと誰が上がってもいいと思ってますから。それは、もうだいぶ前から言ってたんですよ。VTは実力測定場なんで。それは言ってたんですけど、今のいい交流の時代とは違うんですよ、昔は。
——最近は、プロレスラー、格闘家関係なく日本人選手間の交流は盛んですからね。
菊田　今はそうなんですけど、当時ボクも若かったですから、天狗になってたんですよ。で、一人でも大勢と闘うつもりでプロレス界に宣戦布告したわけなんですよ。
——かなりの覚悟がいったでしょうね。
菊田　そうなんです。なのに……。
——ホント、悪気はなかったんですけどね。
菊田　ボクは好きとか嫌いとかの次元の話をしたかったわけじゃなかったんで。
——対個人ではなく、もっと大きなものに対して宣戦布告したわけですからね。
菊田　それに小島さんにも天山さんにも恨みも辛みも何もないですから。ボクはそういう話じゃなくて、もっと大きいとこで「オレが時代を変えてやるんだ！」って気持ちだったんですよ。それが、あの発言の真相なんです。確かに酷すぎる言い方でした。もうちょっと違う言い方がありました。
——かもしれませんね（笑）。当時、菊田さんが言わんとしていることは理解していたつもりだったんですけど、言葉が足りなかった部分があってご迷惑をお掛けしてしまったのは本当に申し訳なく思ってます。
菊田　それに確かにボクはゲラチェックしましたけど、厳密に言うと最後の部分ではゲラチェックしてないんです。ちょっと面倒臭くなっちゃって「あとは適当に」とか言っちゃったから悪かったんですけど。
——言い訳をするつもりはないんですけど、ボクも『紙プロ』に入って間もなかったっていうのもあって……って、言い訳になってますね（笑）。
菊田　いや、認めてくれればいいですよ。ボクも言ったことは言ったわけですから（笑）、誰に非があったっていうのはなかったと思うし。なんだろ？　こっちにとっては重要な問題でも、相手にとってみれば違うこともあるんで。それはわかってるから、ボクもチョロさんとは、あのインタビューが載った後も普通に話してますからね。
——パンクラスの選手で話をするのは唯一、菊田さんぐらいでしたから（笑）。
菊田　そんな「コノヤロー！」って思ってたら会わないわけだし。
——ボクも後ろめたいところがあったらコソコソしてたと思いますから（笑）。
菊田　アハハハハ。ただ「菊田はプロレスラーになれなかったから、ああだこうだ言ってんだろ」って言う人もいたけど、ボクは、そんな敵対心から言ったわけじゃなかったんですよ。
——それはわかります。ところで前号の小島選手のインタビューは読まれました？
菊田　そうそう、たまたま小島さんのインタビューを読んだんですよ！
——あ、読みましたか？
菊田　ホントに素晴らしいコメントを残してて頭が上がらないです！　ボクの若気の至りの発言があったのも知らずに大人の発言をしてて。自分に自信がある人は、やっぱり違うなと思って感動したんですよ。
——そうでしたか。そういえば、あの時は『PRIDE・4』での松井戦が控えてましたし、余計に対プロレスラーっていうのを意識してたんでしょうね。
菊田　それもありましたね。だからプロレスでもヒールの煽りの発言とかあるけど、そういうつもりでもあったんです。ただ、むしろ今はプロレスラーの方が結果を出してると思います。
——パンクラスには、プロレスラーも、よ

く出稽古とかに来てるみたいですからね。

菊田　そうなんですよ。で、そういうのもあって、ボクはプロレス大賞を有り難く頂こうと思ったんです。

——見事、技能賞を受賞しましたからね。

菊田　むしろボクなんかより相応しい人はいるんじゃないかって思ったんですけど、ありがたく頂いたんです。だって、プロレスに対していろいろと言ってたボクにくれる懐の大きさに素直に感動しましたから。

——言われてみれば、確かに懐が大きいですね。さすがは『東スポ』！（笑）。

菊田　昔はプロレスに対して憎い時もあったけども、今は何もないんです。で、時代はもう流れたんです。今はプロレスのことを言うつもりは、ないですから。

——この4年間の間で、どんな心境の変化があったんですか？

菊田　ボクにレスラーの知り合いが増えてきちゃったっていうのもあるし（笑）。

——あ、そういうことですか（笑）。

菊田　それで知り合いのレスラーに話を聞いても、やっぱりプロレスってもの自体、真剣勝負云々は別にして、そんなに大変なもんだとは、わからなかったんです。当時はやったことがなかったし。まあ今もないですけど（笑）。そんな時にダイナマイト・キッドの本なんか、最後にダメ押しで見た時には……。

——キッドの自伝を読んだんですか？

菊田　最近なんですけど全部読んで、感動したっていうか、ホントにプロレスラーっていうのは凄い職業だなって思いましたから。今、キッドは下半身不随にまでなってますからね。それはショックでしたけど。

——いや、菊田さんがキッドの自伝を読んでたとは意外でしたね（笑）。

菊田　ボクにとって、あのキッドの自伝はホントに大切な本ですから。それに、お客さんを楽しませるって意味では、プロレスも格闘技も一緒だから、その辺の大変さもボクもわかってきたし。今思うと、あの頃は天狗になってましたね。

Sanae Kikuta

——天狗になってましたか（笑）。そのきっかけになったのは、トーナメント・オブ・Jで二連覇した辺りからなんですか？

菊田　あれかなぁ……。それに、あの頃は負けてなかったから。

——実力では全然負けてないのに、知名度だけで試合のチャンスをプロレスラーとかに取られるということですか？

菊田　それもありましたし、プロレス側は格闘技を下に見てるんじゃないの？って感じてたんですよ。まあ、お互いでしたけど。でも今は、そういうんじゃない。みんな気持ちよく挨拶もしてくれるし……だから、アレク選手が思ってるような単純なことじゃないんです。ボクの気持ちは何にもわかってない（キッパリ）。「昔、プロレスファンだったくせに！」とか、ホントそういう問題じゃないんですよ。

——その件に関しては、アレク選手も、「ケンカって、間違いが分かったとしても、自分が言ったことを貫き通してしまうもの」というようなこと言ってましたけどね。

菊田　じゃあ、さらに言いますけど、アレク選手は、ボクはリングスに所属していたことはないのに「リングスにもいた」とか余計な嘘までついて。これも書いて下さい。

——リングスでは2試合してるだけですよね？

菊田　試合に出ただけ！　そうなると、もう言ったもん勝ちじゃないですか。でもボクはいちいち言うつもりじゃなかったですよ。『紙プロ』だから言うんだけど（笑）。

——ありがとうございます（笑）。

菊田　で、「アイツは団体を何回も辞めました」とか、「こんなこと言いました」って、だからみんなで攻撃しよう！って、それってホントに人間的にセコくないですか？　それはプロレスの煽りとは、ちょっと違うと思うんですよ。それもあえて反論しませんでした。で、いま反論してもしょうがないんですけど（笑）。

——そうですね（笑）。

菊田　でもですよ、プロレスを辞めたからって、なんで悪人呼ばわり、格下呼ばわりされなきゃいけないのかがわからない。人には第二、第三の人生もあるわけだし、そこから頑張れるかが一番大事なんですよ。それを『紙プロ』みたいに、また昔の発言をぶり返して言う人がいるからっ！（怒）。

——す、すみませんでした。

菊田　もうそんな時代じゃないです。結局、アレク選手は格闘技もプロレスも軽く見すぎてたんだと思うんですよ。

——逆に、アレク選手の方がプロレスも軽く見ていたと？

菊田　そう！（キッパリ）。格闘技もプロレスも軽く見すぎです。あの試合見れば、それはわかります。まあ、アレク選手はどうでもいいですけど、他の人には、若かりし頃に精一杯の純粋な気持ちで覚悟を持って言ったってことだけは、ちょっとでいいからわかって欲しい！　全部わかってとは言わないから。

——アレク選手には、わかってもらえなくてもいいんですか？

菊田　彼についてはもういいんですけど、ただ、ボクはもう失言はしません！　やってきてしまったことはもう後悔はしない。でも、これからの自分は過去を否定して新しく生きていくことが大事だと思いますから。そうじゃないと成長しないし、昔の自分なんてとんでもないです。

——昔はとんでもなかったと（笑）。

菊田　天狗になってたのに自信がなかった

だけなんです。少なくとも今は昔より広い心を持てたと思います（笑）。
──でも、パンクラス、さらにアブダビのチャンピオンになってる今は天狗にはなってないんですか？（笑）。
菊田　天狗には、もうならない！　なる必要がないっていうか、やっぱりチャンピオンって大変なんですよ！
──天狗になってる暇はないと？
菊田　次に誰が自分のことを下から襲ってくるんだとか、もの凄くツライんですよ。そういう意味では、天狗になったり、人に暴言吐いたりした時点で絶対負けますよ。
──それは結果が出なくなるってことですか？
菊田　そうだと思いますよ。暴言吐いてるうちは一流にはなれません！
──暴言吐いたら一流にはなれない？
菊田　いや、暴言吐いてもモハメド・アリのようなホントの一流は強いですよ！　だけどボクみたいな二流はダメ。
──菊田さんは二流なんですか？（笑）。
菊田　当たり前じゃないですか。一流だったらアブダビで5回は優勝しなきゃ！
──えっ、アブダビ5回優勝!?　それはかなり大変じゃないですか？
菊田　いや、それぐらいやって初めて一流でしょう！　次は修斗問題ですか？（笑）。
──アハハハ。過去、修斗にも参戦経験のある菊田さんですけど、ここ最近の修斗とパンクラスの揉め事は、どれぐらい把握してるんですか？

小島さんとアニマル浜口さんを交えての対談をお願いします！

菊田　いや、わかんないですねぇ（苦笑）。
──過去のパンクラスマットでの不正試合云々とかも言われてますけど？
菊田　それも、みんな噂だけで言ってる部分があるんで、すっごく怖いと思うし、憶測だけ言うのは良くないですよ。ちゃんと調べた上で言わないと。それに怪しいと思うなら徹底的に調べればいいじゃないですか？　何もないんだから……ボクが出てくる問題じゃないですけど。
──でも、菊田さんはパンクラスに入団する前は修斗にも出てた……。
菊田　（遮って）パンクラスに入団する前は不正試合だなんだって、いろんなこと言って人もいましたけど、実際にファンの人に言いたいのは、ボクが今パンクラスにいるってことは、そういうのはあり得ないし、今もないし、過去だってないってことを断言したいですね。

Sanae Kikuta

──断言しますか。
菊田　それに、鈴木さんとか、船木さんとかと接してみて思ったのはですね。
──どう思ったんですか？
菊田　ボクは、特に鈴木さんと話す機会がよくあるんですけども、鈴木さんほど真剣勝負にこだわってる男はいないなって思うんですよね。
──へぇ～、そうなんですか。
菊田　だからボクは鈴木さんのことは凄く大好きだし、悪いことじゃないんですけど、年取ってからプロレスの世界に行こうとか、そういうこともないんですよ。ホント純粋にボロボロになっても闘うっていう、その姿勢を見て「ここに来て良かったなぁ」って思いましたからね。
──遠回りしながら、ようやく死に場所を見つけたって感じですね（笑）。
菊田　そう。それにみんな鈴木さんはプロレスラーだ何だって言いますけど、イメージは違いますよ。あの人ほど真剣勝負にこだわってる人もいないし。船木さんも全然興味ないんですよ、他のことに（笑）。
──それはどういうことですか？
菊田　パンクラスは船木さんが中心になって作りましたよね？　船木さんはパンクラスっていう格闘技の他のことに興味ないんですよ。だからあの試合はおかしい、不正試合だっていうのは、それは次元が低すぎますよ。そういう思考は船木さんも鈴木さんも0・1%もないんです！　負けは負け、勝ちは勝ち！　そういう人なんですよ。パンクラスのファンは、わかって来てるし、言う必要はないけれども、それはボクが自信を持って言えますね。
──わかりました。
菊田　それに不正試合だなんだって言ったら、今でも、ずう～っと船木さん、鈴木さんの天下でしょうって！（笑）。
──それはそうですよね（笑）。
菊田　最初の時期から負けてるわけだし、それがパンクラスなんですよ。そして、それが真実なんです。だからこうやって、ボクも長くいれるんでしょうし。
──これまでのプロレス団体では長く続かなかったわけですからね（笑）。
菊田　ねぇ？　パンクラスに入って、もう4年目近くなりますからね（笑）。
──ここ4年ぐらいの間に菊田さんには、ホントいろんなことがあったんですね？
菊田　考えてみればそうですねぇ（しみじみと）。なんか今日はいい話が出来たなって感じがしますね（満足げに）。
──近いうちに『紙プロ』で小島さんと対談でもしましょう！（笑）。
菊田　小島さんと、アニマル浜口さんも交えてお願いします！
──え、浜口さんもですか？　なんか違う方向にいきそうな気もしますけど（笑）。
菊田　いや、浜口さんとこのジムの人たちが結構（グラバカに）練習来てるんで、浜口さんってどんな人かなと思って。みんないい人だって言ってますから。でも今日は、かなり喋っちゃいましたけど、うまくまとめられますか？（笑）。
──任せて下さい！（笑）。
菊田　ホントお願いしますよ！（笑）。

【02年5月9日／パンクラス事務所にて収録】

待望の(!!)『紙プロ』初登場

Q.アレク選手が〝尾崎の野郎〟って言ってましたけど？

『低レベルの争いはしたくないんで、〝尾崎の野郎〟でいいですよ（笑）』

改めまして、パンクラスはじめました。

パンクラス社長

尾崎允実

菊田早苗に続いて登場するのは、“ディス・イズ・パンクラス”尾崎允実社長である。
尾崎社長は今回が『紙プロ』初登場となるが、その顔は『紙プロ』読者にもお馴染みのはず。
社長業の他にも選手のマネージャーとして、パンクラス勢の『PRIDE』参戦の交渉役を
務めたりと大忙しの尾崎社長。様々な問題が生じた菊田対アレク戦、
そこから派生した島田氏問題、さらには新日本との交流の話まで、たっぷりとうかがってきました。

聞き手／松澤チョロ　撮影／森“モーリー”鷹博

designed by hisa (Two Three)

――意外というか、尾崎社長は『紙プロ』には初登場となるわけですよね。
尾崎　え、そうでしたっけ？　悪口は結構、出てたと思うんですけど（微笑）。
――あ、そうでしたっけ？（笑）。まず最初に、尾崎社長的には『紙プロ』というと、どんなイメージがありますか？
尾崎　山口さんが僕に愛人がいると言ったとか……。
――えっ？……（なぜか固まるチョロ）。
尾崎　なに、固まってるんですか。
――いや、そ、それが『紙プロ』のイメージなんですか？
尾崎　いやいや、一応、掴みとしては（笑）。
――掴みでしたか。すいません、受け身取り損なっちゃって（笑）。でも、社長だけでなく、選手間でも『紙プロ』をよく思ってる人はあまりいないわけですよね？
尾崎　どういう質問なんですか、それは（笑）。でも、いないですねぇ（キッパリ）。
――（肩を落とし）あ、いないですかぁ。
尾崎　『紙のプロレス』さんはプロレスラーも格闘家も全部扱ってますけど、その中で批判とかはいいとは思うんだけども、人を小馬鹿にしたような誹謗中傷と思われるものっていうのは、それは『紙のプロレス』さんに限らず僕は良くないと思いますんで、そういうのはなくして欲しいなと。
――同じようなことを前田さんもよく言ってますけど（笑）。
尾崎　あ、そうですか。（気にせず）まあでも、それは『紙のプロレス』さんだけの問題ではないんですよ。
――そうですよね！
尾崎　ただ『紙プロ』さんに多いと感じるだけで。
――あら、そうですか（笑）。で、今回の菊田対アレク戦は、いろいろと物議を醸した試合でしたけど、尾崎社長も、その試合から派生した諸問題に関して近々会見の予定もあるみたいですね。
尾崎　ええ。5月8日に口頭でドリームステージ（DSE）さんに申し入れをして、ドリームステージさんの方で考えてみますということで話をしてます。基本的には『PRIDE』さんには今後も出ていくつもりではいますんで、早急に解決したいなと思ってます。

『紙プロ』初登場？ 悪口は結構、出てたと思うんですけど（微笑）

改めまして、パンクラスはじめました。

Masami Ozaki

菊田対アレク戦後、「敵がもう一人いる。ルールディレクターの島田氏。ソラールを呼んだのも彼だしリングサイドで「このパンチはポイント取りだから気にしないように」とか叫んでるんですよ」と島田氏に対し、ご立腹の尾崎社長

――DSE側に言いたいことっていうのは、いわゆる島田氏問題が一番大きいわけですか？
尾崎　ひとつは、やはりルールディレクターの島田氏の問題が一番大きいですね。あとは、会場やスカイパーフェクTV（フジテレビ制作）さんで流れた映像のナレーションに関してですね。「菊田が強豪を避けた」とか、体重問題で「減量を要求され、それを大塚選手が試合を成立させるため泣く泣く呑んだ」みたいなナレーションがあったんですけど、それは明らかな間違いなんですよ。
――事実無視であると？
尾崎　そうです。これは菊田も知ってますけど、93キロっていうのは大塚選手が最初に言った体重で、ウチは大塚選手の名前が出る前からずっと「90キロくらいの選手と」と言ってたんです。だからそこは間違いなんですよ。「パンクラスをヒールにしようとしてましたね」ってある人から言われたんだけど、まさに僕にもそう見えたし、間違いを利用して盛り上げるっていうのは、僕はあそこの場ではやらない方がいいなと思うんですよ。
――その明らかな間違いっていうのは、それはまだ認めてもらっていないんですか？
尾崎　地上波のフジテレビさんの放送ではカットされてたんで、それは認めてもらったと僕は理解してます。やっぱり事実なら分かりますけど、事実誤認の部分でそういうふうにされたら僕らは上がる度に悪者になってしまう。まあ、その辺は話せば分かってもらえると思うんですよ。ドリームステージさんもちゃんと前向きに話をしてくれるそうですから。だから『PRIDE』さんとは今回の件で終わりにしたくないんで、ちゃんと話をして前へ進みたいですね。
――尾崎社長がドリームステージというか、島田レフェリーの件で一番アピールしたい問題点はどの部分になるんですか？
尾崎　僕はこの間も言ったんだけど、第三者、しかも中立であるべき人たちが試合を壊してるということですね。今、DSEさんのレフェリングの中が、どういう構成になってるか僕は分からないけれど、そういう人たちが壊していると。そういう人たちって言うか、やっぱり島田氏ですね。そこは解決しなきゃいけないことですよね。

―この間も言ってましたけど、具体的に言うと、島田氏が菊田対アレク戦の際、リング上のレフェリーに「このパンチはポイント取りだから気にするな」と試合中に言ってたとかいう部分ですね。

尾崎　試合中に行われたことはそういうことですけど、それ以外にもいくつかあるんですよ。それはドリームステージさんとこれから話をするんで、他にいくつかあることを喋るかどうかは経過を見て考えます。まだあるんですよね、そういうのが。

―憶測じゃなくて、実際そういうことが行われていたことの確証を得ていると？

尾崎　いくつかありますね（自信ありげに）。それ以上、突っ込まないで下さい。

―そ、そうですか（笑）。

尾崎　僕は根拠のないことを喋ってはいないし、いちいち細かいことを言いたくない性格なんですけど、選手のために僕がやらなきゃいけないことがありますし、それが正当な試合であることをファンの方に見て頂きたいんで。その2つの目的でドリームステージさんとの話をしたいなと思ってるだけですから。ただ、今回の件でも僕がしたいのはドリームステージさんの批判ではないんですよ。ドリームステージさんも本意ではないっていうのは森下社長のコメントでも分かりますし。一刻も早く解決して先に進みたいって気持ちは凄い分かるんで、話せば大丈夫だと思いますよ。

―ただ、次の『PRIDE・21』が6月23日ですし、どのくらい交渉に時間が掛かるか分からないですけど、正直、6月の『PRIDE・21』にパンクラス勢の参戦には時間が足りない状況ですよね。

尾崎　ちょっと時間的に難しいかもしれないですね。それをちゃんと解決するまでに慌ててカードを決めたりとかって作業はしない方がいいと思うんですよ。ただそんなに長い時間掛けるつもりはないんですけど、6月は、ちょっと厳しいだろうなって印象は持ってます（※その後、尾崎社長は5月11日の大阪大会で『PRIDE.21』への所属選手の参戦は見送るとコメント）。まぁでも、ちゃんと解決しますよ、これは。折角、ドリームステージさんといい関係になって、ウチの選手出して、向こうの選手も出てもらうって話があるのに、こんなことで、その関係を壊したくないですからね。ドリームステージさんが頑強に「そんなことは知らねぇよ」と言ってるんだったら話にならないかもしれないけど、ドリームステージさんとは、ちゃんと一般社会人として話が出来てますから。

―ドリームステージさんとは？（笑）。

尾崎　ドリームステージさんとは大人の話し合いが出来てますから、解決出来ると思ってますよ。

―で、ぶり返すようですけど、最初はアレク選手の標的が菊田さんだけだったのが、最後の方には尾崎社長の名前も出てきて、アレク選手からは「尾崎の野郎」みたいな発言も出たりしてましたけど（笑）。

尾崎　正直言って低レベルですよね。だからあんまり気にならないです。それに、もう終わったことだから、もう「尾崎の野郎」でいいですよ（微笑）。

―「尾崎の野郎」でいいと（笑）。例えばですけど、この間の試合の流れで、アレク対グラバカの試合の可能性とかはあるんでしょうか？　個人的には郷野対アレク戦とか観たい気はするんですけど（笑）。

尾崎　あのね、ああいう試合で明らかな急所攻撃っていうのはしちゃいけないっていうのが、ウチでも過去に明らかな反則攻撃をやった選手に関しては追放してるんですよ。大塚選手に関しても僕は同じ感覚でいますから。それに、そういうことをする選手はまたやるかもしれないですし、ウチの選手もそういう頭で試合をしなきゃいけないんで、それはもう絶対試合はさせません。だから試合はもちろん、郷野も出さないし、大塚選手とはもうこれで終わりと。

―でも、アレク選手は急所蹴りを故意でやったとは認めてはいませんよね？（※この取材後、アレクは故意でやったと認めるかのような発言もしている）

尾崎　それはビデオを観ると意図的に菊田のファールカップの位置を探ってるような手の仕草があるし、それを認めないって言うんだったら、大塚選手の言葉としてはいいけど、あれだけ注意されて同じ箇所を狙ってるというのは、意図的だと思わざるを得ない。それは彼が否定しようが何をしようが、僕らの認識と、ファンの方も言ってたけど、意図的だと思われてもしょうがない。僕はそれが結論だと思いますけどね。逆にそれを反省していないっていうことでしょ？　認めていないってことは。

―そうなんですかね。ではアレク戦の件については、それぐらいにして、最近はパンクラスと修斗のシュートな揉め事が話題になってますけど（笑）。

尾崎　ねぇ？

―修斗との件は三島☆ド根性ノ助選手のパンクラスゲート出場がきっかけとなってということでいいんですよね。

尾崎　というか、正直言って細かいことを探すといろいろありますからねぇ。

―今回の件でのパンクラス側と修斗側、お互いのリリースを全部読むのだけでも、かなりしんどいですからね（笑）。

パンクラスvs 修斗問題とは何か？

尾崎社長的には、すでに終わった話ということだが、パンクラスと修斗の間でシュートなモメ事がボッ発していた！　5月に行われたパンクラスの大阪大会に、修斗で活躍する三島睦智（＝三島☆ド根性ノ助）が同じジムの選手のケガによる欠場のため代わりに出場したのを発端に、パンクラス側と修斗側の間で、やれ“不正試合”だ、やれ“引き抜き”だと一騒動となっていたのが、この問題。詳しく説明するには何ページあっても足りないので、興味のある人は下の修斗コミッションの公式ホームページを参照して下さい！

http://www.alles.or.jp/~shooto/index.html

ちなみにパンクラス公式HPのアドレスはこちらです！

http://www.so-net.ne.jp/pancrase/index.html

尾崎　そう。だから、あまり話したくはないんですけど、ただ『格通』さんから、そういう修斗側からの文書があるとお聞きして、それに対する反論を僕らが送って、あとは修斗さんのホームページ上で僕の反論に対する回答になるべきものを載せてらっしゃるんですけど、それを見たら、もう謝罪をされてるわけですよ。

——何ヶ所か事実誤認については謝ってますからね。

尾崎　それで彼らが主張していることに関しては僕はちゃんと回答してるはずだし。後は言った言わないとか、揚げ足取りとか、そういう話なんで、僕はもういいかな、と思ってます。ただ、これは言っておきたいんだけど、最初の修斗さん側からの文書っていうのは誹謗中傷だったんですよ。事実誤認、確認不足に基づく。で、それに対しては僕は反論しなきゃいけないと思って僕が文書を書いたんだけど、そのことによって、ファンの方とかは凄い不快な思いをしたと思うんですよ。だからホントにファンの方には申し訳ないなと思ってますね。

——ファンに対して申し訳ないと？

尾崎　その反論せざるを得なかった理由っていうのが、過去に僕がミスをしたと思ってることがあったんですよ。

——何をミスしたんですか？

尾崎　それは、ある人から、パンクラスの船木とか鈴木に対しての誹謗中傷、しかも事実誤認に基づく、それも人の死に対するものとか、いろいろと過去にあったんですよ。船木や鈴木が既にUWFにいなかった時に、いたことになってて、その上、誹謗中傷されたことがあったんでね。そういうことに関して僕らは喋らせとけばいいやって曖昧な考え方を持ってて、そこでパンクラスのファン、船木のファン、鈴木のファンが離れていったんじゃないかなと。その時は反論すると、言った言わないの泥仕合になっちゃうと思ったんで、しなかったんだけど、それは僕のミスだったんですよね。そういうことに対して反論すべきところはちゃんと反論すべきなんだって。反論しなかったことによって、結局、人が傷ついたりとかそういうことが実際起きましたし、今回の修斗さんとの問題に関してもそうですけど、間違いに対しては完全に反論していこうと思ってます。

鈴木の他にも新日本さんに上がりたがっている選手はいますから

改めまして、パンクラスはじめました。

5月2日に東京ドームで行われた新日本プロレス30周年記念大会のセレモニーに出席した鈴木みのる。グリーンボーイ時代に「将来、東京ドームのメインで闘おう！」と約束していた、みのると佐々木健介はガッチリ握手をかわし対戦を誓い合った。

——「別に僕は裁判好きなわけじゃない」って、この間も話してましたけど（笑）。

尾崎　裁判は嫌いですよ（苦笑）。ここ、「カッコ苦笑」って入れておいて下さい（笑）。

——わかりました（笑）。

尾崎　僕はパンクラスの代表としてメディアに出てることが多いので、名誉を傷つけられるということは、僕の名誉と言うよりも、パンクラスに対する名誉。業務妨害になるようなことに関しては、例えば、私情でなんだかんだやってたって、結局、究極のところ解決しないじゃないですか？　そうすると、法的なところに委ねるしかないでしょ、これは一般常識として当たり前なんですよね。ただ、これは言っておきますけど、（念を押すように）僕は裁判が好きなわけではないです！

——あ、そうでしたか。てっきり裁判好きなのかと思ってました（笑）。

尾崎　そう思われている節がありますけど好きなわけじゃないです。できれば話し合いで解決したいし、修斗さんとの問題も僕としては揉める気持ちはさらさらないですから。だから修斗の中村（頼永）さんに電話入れて相談したんだし。その辺はファンの方にも誌面を通じて伝えて下さい。

——伝えておきます。

尾崎　ただ、僕がこういう反論をしたことで、まあ、せざるを得なくしてたんですけど、そのことでウチのファンだけでなく修斗のファンの方も不快な思いをしてると思うんですよ。それに関しては申し訳ないと思っていますんで。まぁ、修斗さん側は謝罪もされてるんで、これ以上、僕の方から言うことはないんですよ。

——見てる限り、現時点では選手間の交流とかは今後もなさそうな感じですよね。

尾崎　見て頂いて分かる通り、今の状況だと無理だと思うんですけど、僕は修斗さんとは交流したいということで、当時の石山会長と約束をしたんですけど、それが今はダメってことであれば、それは、しょうがないと思うんですよ。それは修斗さんのやり方だから僕らが片思いで言ったって、恋愛は成就しないわけで。

——まあそうでしょうね。で、パンクラスでは全方位外交ということで、先日は近藤選手が出場したプレミアムチャレンジのように、今後もパンクラスだけでなく様々な舞台にっていうスタンスは変わらないわけですね。

尾崎　変わらないですね。まあ近藤の負けは負けでちゃんと認めて、前に向かって前進するということで変わらないです。全方位外交に関しては、また違うプロモーターからオファーも頂いてますから。

——それは発表されたら、かなり話題になるような大会なんですか？

尾崎　と思いますけどね。あとは新日本さんとの関係もありますし、今年から来年にかけてウチのリングももっと大きなイベン

トにしていく計画でいますから。内外で話題を提供しますんで。

——"外"というとUFCも、そろそろ具体的に決まりそうな感じなんですか？

尾崎　そうですね。まあUFCだったり『PRIDE』さんであったり、もちろんDEEPさんや新日本さんもそうですし、他に新しいイベントであったり、そういうところにどんどん選手を出して、そちらの方から選手も来て頂ければばと思ってます。選手がやりたい相手と、中立のキチンとした環境の下でやれるようにするのが僕の仕事ですから。それは今後もやっていきます。

——新日本とは、今のところ鈴木対健介戦の話が出てますけど、その後に、一部で報道されたように、パンクラスと新日本の全面対抗戦も有りえるわけですか？

尾崎　やるからには1回で終わらせたくないなって思ってるし、実際に新日本さんからもそういう話があるようですし、僕もそのつもりでいますから。

——新日本とは鈴木対健介戦、一発で終わらせるつもりはないと？

尾崎　そういう感じになっていくんじゃないかなと思ってますけど。まあ交渉はこれからですから、その辺は話し合って。新日本さんはちゃんとした会社なんで紳士的に対応して頂いてますし、いい形になると思いますよ。

——ルール問題も含めて、これから詰めていく話なんでしょうけど、鈴木さん以外に新日本に上がってみたいと言ってる選手は誰かいるんですか？

尾崎　まぁ、ルール問題に関しては通常のプロレスルールじゃなくて、バーリトゥードでという話にはなっていますけどね。

——あ、そうなんですか。

尾崎　ええ。なので、そんなに揉めることはないと思います。とにかく、新日本さんのリングに上がりたがっている選手は他にもいますから。

——バーリトゥードなら、パンクラス的には全く問題ないですよね。新日本側は問題あるかもしれませんけど（笑）。

尾崎　それはわかりませんけど。

——鈴木対健介戦も、第一案としてはバーリトゥードでってことなんですか？

尾崎　そうなると思います。で、今回の佐々木選手と鈴木に関しては、過去、彼らのストーリーというか、お互い若い時に「やりたいね」って話をしたところから始まってる部分があるんですが、その1回だけで新日本さんとの交流をなくしたら勿体ないじゃないですか。ファンの方が観たいカードがあるならば、そこでウチの選手が上がる。もしくは新日本の選手にウチへ上がって頂く。そういうふうになればいいなと思うし、そうしていくのが僕の仕事だし。今のところそれに対して可能性は相当高い、障害は少ないという感じなんで、いい形で新日本さんと話はできると思います。

Masami Ozaki

——先ほどサラッと他の新しいイベントと言ってましたけど、いろいろと噂は出てますけど、ズバリ言ってヒクソンが絡んできそうなイベントなんでしょうか？

尾崎　そっから先は僕、喋れないですけど。

——今はまだ言えない、と（笑）。

尾崎　まだね（笑）。ただ、1つとか2つとかじゃなくて、格闘技が好きでプロモートをやりたいと言ってる方が何人かいらっしゃると思って下さっていいです。今、それ以上は僕、喋れないですから。

——なんらかの形でそういうプロジェクトが動いているわけですね。でも全方位外交とは言いますけど、今の総合格闘技界は大会が増え過ぎっていう気はしませんか？

尾崎　いや増えていいんじゃないですか？　プロの大会が増えるってことはアマチュアの大会が増えるわけですし、底辺が広がるってことだから。選手が上がる舞台は多い方がいいですよ。昔みたいにウチも鎖国だって言われた時期があったけども（笑）。

——ありましたね（笑）。

尾崎　ウチだけが良ければいいっていうのは、もう時代遅れも甚だしいなと思いますんで。上がる舞台があって、みんなが潤えばいいんですよ。その舞台を選手が選択できるんですから。それで選手の、例えばマネージャー尾崎としても、そういう選択の場所が一杯ある方がいいですからね。

——そうですよね。でも敵対していたリングスも活動休止ということになって……。

尾崎　（遮って）裁判中ですから……。

——まあ、前田さんとはそうでしょうけど（笑）、リングスジャパンの選手とかがパンクラスに上がる可能性もありますよね？

尾崎　ウチに出たいっていう選手がいれば、ちゃんと前向きにお話して問題なければ上がって頂くってスタンスは、元リングスの選手であろうが誰であろうが一緒ですから。ここ数年そうして来ましたし、これからもそれは変わらないです。

——ただし、アレク選手が上がることはない、と（笑）。

尾崎　ないです！（キッパリ）。

——最後にうかがいますけど、選手だけじゃなくパンクラスのファンもやっぱり『紙プロ』は快く思ってないんですかね？

尾崎　と、認識してますけど（笑）。変な話、これからウチのファンも『紙プロ』さんを買ってくれるようになるんじゃないですかね。

——そうなるといいですけど（笑）。まあウチも批判しなきゃいけない時は批判させて頂きますし、侮辱と受け取られるようなことはないように気をつけますので、今後は末永くお付き合い出来るよう、よろしくお願いします！

尾崎　うまくまとまりましたね（笑）。ウチも取材拒否っていうのは過去いくつかありましたけど、やっぱりそれは良くないし本意じゃないんで。今回から『紙のプロレス』さんに取材して頂くってことは、僕は嬉しいし、その辺は分かって頂きたいなと思ってます。「これからよろしくお願いします」ってことで終わらせましょうか（笑）。

——よ、よろしくお願いします！（笑）。

【02年5月9日、パンクラス事務所にて収録】

PRIDE史上日本人最大のヒール誕生!?

アレクサンダー大塚

「礼に始まり礼に終わるのが望ましいけど、それだけが人生じゃないんで」

聞き手／山口日昇
撮影／松本崇
designed by hisax (Two Three)

――菊田戦からだいぶたちましたけど、まだ怒りがおさまらないですか？

アレク　そういうのは全くないですね。いまはもう、かなり過去のことのような気がします。ただ、しいて言えば、尾崎社長に対しては、ちょこっと言いたいことがあるぐらいですかね。それももうどうでもいいんですけど。その後にまたいろいろと、ルールディレクターの島田（裕二）さんに話が飛んだり、修斗に飛んだりしてるので、端から見てて面白いなぁという感じですねぇ。んむはぁ。

――パンクラスも、いつまでもアレクに関わってられないっていうくらい忙しいみたいですからね。

アレク　ん～、そういう意味では、ちょっと寂しいですね。

――ダーッハッハッハ。寂しい！　でも今号でインタビューに答えていただいた尾崎社長は、「低レベルな争いはしたくない。これからも〝尾崎の野郎〟と呼んでもらって結構です」と言ってたらしいですよ。

アレク　ああ、そうなんですかぁ。じゃあ呼ぼ……でも、そのテンションもなくなってきましたね（笑）。揉めごと……揉めごとじゃないかもしれないですけど、討論？　話し合い？　だからボクはもう終わったんで、他にいろいろ解決しないといけないことを話し合いでウマく解決して、やりたい道へ進んで行ってもらえればと思いますね。

――しかし、菊田戦はよくも悪くもずいぶん反響を呼びましたね。

アレク　あの試合自体は、やる前から自分でも分かってたというか、理解した上でやったことなんですけど、角度によっていろんな見方があると思うんですよ。あのリングにおいて自分の役割というか、自分のやりたい仕事っていうのは、こういうことである。こういうことを感じてもらいたいっていうのを表現しただけなんで。もともと向こうが言ってることが、全部間違ってるとは思ってもないし。

――もともとどっちが正しいとか正しくないとかの闘いじゃないからね。

アレク　そうですね、極論を言えば。いま冷静にというか、ぶっちゃけて言っちゃえば、そんな揉める理由もない（笑）。

――ダハハハ。でもあの試合前の舌戦があったお陰で、あの試合に熱がこもったし、興奮した人、怒る人、笑う人、喜ぶ人、面白いと思う人、ダメだこりゃと思う人が出てきた。つまり、重層的に見られるようになったというのは間違いないですよ。重層的に見れるということは、フックがあったということですからね。

アレク　そういうところをボクは『PRIDE』のリングにというか、自分が食ってる仕事場をなくさないためにも……あ、これはDSEがいつなくなるかわかんない会社だって言ってるんじゃないですよ。やっぱりどんな業界でも、いいときがあれば、悪いときもあるから。そういう意味で、常にいい状況を保てるようにするには、どういう大会がいいんだろう？って、大会を創り上げてる一員として、そういうふうに考えたりもしちゃいますね。余計なお世話かもしれないですけど。

――いつなくなるかわからないDSEへ力を貸してあげたと？（笑）。

アレク　（うろたえながら）ち、違いますう！　そ、そういうわけじゃなくてぇ……。

――だから、そういう意味では非常にいいセミファイナルでしたよ。メインに繋げる役割としては。

アレク　ホント少なからずとも、ミルコ対シウバ戦っていうのは、ボクの心の中にちょっと敵としてありましたよね。敵って言い方は合ってるか分からないんですけど。食ってやりたいっていう気持ちもあったし。

――でも、いろんな見方があるって言ったけど、試合後のネット上でのバッシングは、アレクへの方が断然多かったよね。

アレク　そ～うですね。

――ズバリ言って、ヘコんだ？

アレク　いや、バッシングに対してヘコむ云々は、もう2～3年前のノブ兄さん（高田延彦＝99・9・12）の試合で経験してるんで、全くないですね！

――ズバリ言って、日本人対決はああじゃないといけないと思うけどね、ボクは（笑）。これだけガイジン天国が続く中で、日本人同士が闘う意味といったら、〝ムキ出し〟の意地のぶつかり合いしかないでしょう。綺麗な部分だけじゃなく、汚い部分も醜い部分も含めて、すべて晒け出して、身体を張って意地をぶつけあう意外に、あんまり日本人同士が闘う意味はないと思いますよ。極論だけど。

菊田戦後、空前のバッシングに
アレクはいま何を考える

アレク　よく日本人同士ではやりたくないって言う人がいますけど、そういう時期があってもいいだろうし、でも、やらないといけない時期もないと面白くなっていかないですからね。（突然大声で）あっ！　ひとつヘコんだっていうか、反論したいところは、これはマスコミの報道にも言えることなんですけど、ボクは、はじめっから「勝つ」というゴールに向かってないって言われてるのが……。

――そういう声は大きいよね。

アレク　（声を大にして）それは全くないですねッ！　ホンッットに!!　ただ恥をかかせてやろうとか、そういうことでもないんです。もちろん勝った上でああいう展開をしたいと思ってやっただけで。

――ああいう展開の中からでも勝利を掴めると思ってたということ？

アレク　そうですね。で～も、展開っていっても、ポジション取りとかの展開だけじゃないんですよ。精神的な運び具合、ああいうテンションでっていうことですね。

――確かにマスコミも含めて、「アレクがなにをしたいのかわからなかった」という声は多いよね。それは勝てば絶対出てこない声だけど。

アレク　（不満そうに）あれでそういう声が出るってことは、ボクの伝え方、見せ方がまだまだ足りなかったのか……菊田選手は、試合後に「こんなレベルの低い試合はもうしたくありません。『PRIDE』のリングにはノゲイラとかシウバとか強い選手が一杯いるんだから、それをどうにか日本人が倒すようにしたい」みたいなことを言ってましたよね。

――実に爽やかなコメントですね。

アレク　それももっともだと思う。だからそういう部分もありきじゃないといけない

し、『PRIDE』というブランドを考えると、ボクみたいなのばっかりでもダメでしょうし。そういう意味で、じゃあガイジンがボクみたいな役割をやれるかって言ったら、できるヤツっていないと思うんです。

――面白いなって思ったのが、戦前の雰囲気としては、アレクがベビーフェイスで、パンクラス側がヒールだったよね。

アレク　しかもそれが、ボクがプロレスファンに媚びを売るというか、プロレスファンを味方に付けるようなコメントをしたからって言われますけど、ボクは試合前の会見でも「今回だけはPRIDE代表とかプロレス代表とかじゃなくて、ボク個人としての部分で闘うケンカだ」って言ってたんです。で、試合内容に関しても「期待しないでください」って。

――確かにそれは言ってましたね。

アレク　それはホント、ボクの本心で言ってたんですけどね。

――で、いざ試合が終わってみると、菊田がベビーフェイスで、アレクがヒールって雰囲気になったでしょ。菊田選手へもブーイングがあったし、完全にベビーになったとは言い切れないけど。

アレク　そういう意味ではボクも中途半端ですね。あ、でも、ボクの方がヒール率は高くなってるって、たいがいの人は言いますよね。

――だから、「面白かった」というのを前提として、俺はあの試合の感想をひと言で言うとしたら、〝ハイレベルなどっちもどっち〟なんだよね（笑）。

アレク　アハハハハハ～。んむはぁ。そうですね、ボクも完全にヒールのほうに傾けなかったたっていう感じですよね。

――試合後、マイクで「確かに俺は負けた。内容ではオマエの負けだ！」ってアレクがマイクで言った瞬間に、ヒールターンしたよね。アレクが一気にヒールになった。菊田選手にブーイングしていたファンまで「内容で負けたのはオマエだよ」って突っ込んだでしょ（笑）。あそこで「確かに俺は負けた。でもオマエの勝ち方もつまんない！」とでも言っておけば、ちょっとは現場の空気も違ったと思うんだけど。

アレク　ああ～。う～ん、そういう考え方もできますねぇ。でも、あそこで「内容が」って言ったことで、これだけ騒がれるんだから、それはそれでいいかなぁとも思うし。

――ボクから見ると、アレクはヒールの素質があるからねぇ。

アレク　素質っていうよりも、根本的にそうですね。んむはぁ。

――本質的にヒール（笑）。

アレク　でも、菊田選手もナチュラルヒールだと思いますよ（笑）。

――試合見てて、違う質だけど、お互い底意地悪いなぁと思いますね（笑）。どっちもベビーフェイスになりきれないし、どっちもヒールになりきれない。でも、お互いムキ出しに近い状態だったから面白かったですよ。綺麗な闘いだけじゃなく、こういう、ある種グロテスクな領域の闘いもあっていいと思いますけどね。

アレク　ボクは、バトラーツの後半の頃、ヒールっぽくしようと思ったものの、全然なりきれなくて。で、それが今回の試合で、終わってみれば過半数以上が、ボクをヒールとして見てくれてるのを考えると、ボクは凄く嬉しいですね。

――純プロレスのリングでもヒールになりきれなかったアレクが、ああいう『PRIDE』という場で、図らずもヒールになることを受け入れたことで、なにかがパーンと弾ければいいですね。

アレク　そうですね。あと、試合をVTRで見返しても、やっぱインサイドワークっていうか、悪いことを結構、一生懸命やってるんですよ。ゴング前にも握手を拒否したり。

――でもやっぱり、批判の大きな焦点となってるのは金的蹴りですよね。

アレク　はぁい。

――そういえば、『サムライTV！』の『生でGONG！×2』で「金的は狙ってやった」って言ったんだって？

アレク　……まぁ、あのときはそう言いましたけど、ここで弁解するわけじゃないですけど、「そういうふうに取ってもらってもいいですよ」って言いたかったんですよ。ああ、あのとき言っとけばよかった。生だったから……。

――〝競技〟のほうに比重を置いて見てるファンは、〝うやむやなもの〟は許せないって見方でしょうからね。

アレク　〝うやむやなもの〟は許せないっていうものの、ボクはイエローカード出されてないですからね。なんにせよ結局、人が闘って、人が競技を裁くわけじゃないですか。そういう意味では、やっぱり完璧はないと思うんですよ。でもボク、本当にレフェリーの人にも申し訳なかったなって思って。あんな微妙な……微妙というか、当たってたりもありましたし。でも、終始、試合自体は、競技として見なければ、試合はボクが展開を作っていったかなって思うんですよ。『PRIDE』も競技性のみを追求してやっていくと、それだけじゃやっぱり限度があるんじゃないかと。理想としては、それで一杯の人が集められればいいと思うんですけど。

――だからパンクラス側もそれでハレーシ

「あれ？ 菊田選手の方が未経験のことをいっぱい体験したんじゃないか」って

ヨンを起こしたんでしょうね。パンクラスは、パンクラスの延長線上にある大きな舞台として『PRIDE』を捉えていた。試合前にビジョンで流れたコメントで、菊田選手が「いままで体験しなかったようなことを、体験させてやりますよ」ってアレクに対して言ってたでしょ。でも、ある種、菊田選手が未体験のゾーンに突入したなって思いましたね。下から頭を撫でられることもそうだろうし、握手を拒絶されることもはじめてだろうし（笑）。心を引っ掻かれるようなグロテスクなゾーンに入っちゃったっていうか。

アレク　ボクもそれはVTRで見て、そう思いましたね（笑）。「あれ？　菊田選手の方が未体験のことを一杯体験したんじゃないかなぁ」っていう。あと、VTRを見返して思い出したのが、ボクが試合後「試合には負けたけど、内容ではオマエの負けだ！」って言った帰り際、マイクなしで「これがオレのプロレスだっ!!」って言ってたんですよ。

――マイクが入ってないときに言ったんだ。

アレク　（コクンと頷く）

――でも「これがオレのプロレスだ」って言った割には、プロレスファンからのバッシングも多いよね（笑）。

アレク　……そうですね（苦笑）。だから、やっぱり『PRIDE』というリングで、一方通行で「プロレス」するのは難しいっていうか、プロレスだけじゃなく、競技としても一方通行になるとダメなんだなっていうことを勉強できましたね。お互いが相手になにかしら打ち返したり、キャッチボールできないと、そういうのがほんの少しでもないとダメなんだと。

――「これがオレのプロレスだ」って言ったのは、具体的にどういうとこなの？

アレク　ボクが考えてるのは、こういうことが「プロレス」にはあるよってことなんですよね。

――でも、ソラールやウルトラマンをセコンドにつけたり、反則スレスレの攻撃をしたりすることが「プロレス」って言ってるわけじゃないんだよね？

アレク　それも含まれてます。

――含まれる。でも、それだけじゃ「プロレス」じゃないですよね。

アレク　試合の次の日になって思ったのは、ボクの中では『PRIDE』ってリングが、あそこまでやるリングではないっていうことを自分でも把握してるっていうことなんですよ。いち競技者として、菊田選手がアブダビコンバットで優勝してたりの実績も認めてる分、ちゃんと普通にやったら、ボクはどこまでやれたんだろう？　勝てたかな？　どうだったかな？ってことを考えると、もったいないなぁって感じもあるんですよね。だから、ああいうのだけではダメっていうか………う～ん、なんて言うか忘れちゃった。

――ズコッ。じゃあ、道場マッチでもやってくれれば？（笑）。

アレク　それは別にしたくない。したくないっていうか、ボク、人に見られてないと試合やるのはイヤですね（笑）。

――ああ、わかるわかる。要は、一番残酷で怖い、"他人の評価"ということに対して、まな板の上の鯉になれるかどうかですよ、プロとアマの違いは。

アレク　はい。だから、どう感じてもらってもいいんですよ。あの試合でボクが大満足してるっていうわけじゃないですから。

――あの試合はボクも興奮したし、面白かったけど、アレクをいち選手として見た場合、たしかにあれで満足してほしくはないですよ。

アレク　いやぁ、こんなところで完成しちゃったら、ボクはまた別の仕事しないといけないですから（笑）。むしろ今回は、もっとヤル気が出ましたよね。

――それがプロレスラーですよ（笑）。どんなに叩かれても、何度でもモチベーションを上げなきゃいけない。だから、ソラールをセコンドに付けるとか、そういうことにあんまり重要性はないんですよね。でも、実際に当たってみて、菊田選手は強いと感じました？

アレク　いや～っ、もうポジション取りなんかは凄く！　ボクがああいうことをやってる中で、ポジション取りだけは、あそこまでやったのは凄いなぁと。

――「だけ」は？（笑）。

Alexander Otsuka

●アレクがヒザを出すと、「金的気をつけろ」という塩崎レフェリーの声が幾度となく響き渡った。●テイクダウンを取られる度にコツコツと打たれたアレクの顔面は血だらけに。そして「PRIDE. 1」のラルフ・ホワイト以来のドでかいタンコブが頭部にポッカリとできていた。●アレクは菊田の伝家の宝刀・逆十字にポイントをズラしながら耐えまくった。抜けたときの場内のどよめきの凄かったこと。●リング上にいる菊田のマイクアピールをさえぎって「確かに俺は負けた。でも内容ではオマエの負けだ！」と花道からマイクで叫んだアレク

4・28アレク、菊田戦直後のコメント（抜粋編）

（アレクはかなりのハイテンション）

――試合の感想は？

アレク　疲れましたね。今日は喧嘩のつもりで１Ｒからバンバンいったんですけど、いや～。青春ドラマみたいに２人とも倒れて、その後「アッハッハ！」って抱き合って「悪かったなぁ……」みたいな気分には到底なれるもんじゃかったですねぇ。終わったところでスッキリしない。２度とやりたくない。後味悪いです。

――菊田も２度と関わりたくないと言っていましたが。

アレク　あぁ～。ホントですか。ボクのコメントによって、向こうもそれだけ憎しみが出てたんですかね（ニヤリ）。とすれば、ボクの気持ち的には思ったとおりの試合運びになりましたね。もっともっと冷静に来るかと思えば、セコンドの指示そっちのけで殴りにきてたんで。もう、思うつぼって感じでした。

――ソラールのセコンドというのは？

アレク　こういう場の中で、ファンの皆さんが来て盛り上がれるっていう部分も含め、たまたま３・30「ＤＥＥＰ」であいうこともありましたし、途中で尾崎の野郎まであーだこーだ口出してきたんで。（中略）「ザマァみやがれ！」。そんな感じです。

――パンクラスに対する感情ではないんですね。

アレク　それは全くないです。ＧＲＡＢＡＫＡ、菊田、尾崎。ボクの中では彼らとの接点はおしまい。決着云々もつけたいとも思わないし、関わりたくもない。「寝技には絶対の自信を持っている」とまで言ってたのに、あんなヘナチョコ十字でどうするんだろう？っていう感じです。

――そもそも菊田選手を嫌う発火点が分からないのですが。

アレク　あぁ～、もう、『紙プロ』なりなんなり昔の雑誌を探って見て下さい。アイツのコメント自体がプロレスをバカにしてますし、いまはコメントとして出してないかもしれないんですけど、悲しいかなボクはそれを感じますし。いくら言ってもキリがないです。

――菊田選手が「その部分は誤解だし、４～５年前の話だ」と言ってましたが？

アレク　10年前だったとしても（関係ない）、誤解というよりも、彼は自分のコメントに責任持たな過ぎ！　言っておいて後で、「いや、それは違いました。ゴメンナサイ。ナシにしてください」っていう。そういうのが多いんで。言葉に出しちゃった以上、言ったんだから別の形に変えて言い訳をするなり、変換させていく頭を持って、プロのリングに上がればいいんじゃないかなぁと。そうじゃなければ、アマチュアでやってろ！って感じですかね。とにかくプロレス、ルチャはサイコー！　そういうところです。

ルチャ３人衆　（突然コブシを振り上げ歌い始める）　♪アレクサンドレ！　アレクサンドレ！　ラララッ!!

アレク　こんな感じです（笑）。

アレク　アハハハハ。いや、そこだけは冷静さを失わずできてましたしね。だからそういう部分でもボクよりも全然上です。あやってても、ボクもかなり熱くなってたんで、1Rですぐにバテバテだったし。普段やらないヒザ蹴りに固執しないで、自分もテイクダウンを意識してやれば、どうだったのかな？　とか、いろいろ考えちゃいますね。

——3Rある中で、倒されたのは組んでからの内掛けでしたよね。菊田選手得意の。

アレク　（渋い顔で）あ～、でも、あれは読まれるんじゃないですかね。ボクもヒザ蹴りに固執しなければ……。

——でも同じ手に3回かかったたってことは、そうとう熱くなってたってこと？

アレク　ああ……熱くなってたか、もしくはボクが口だけ人間で、ヘタで鈍くさいのか、どっちかですね（笑）。（突然）アッ！　さっき言い忘れてたの思い出した!!　ボクが最後に握手しなかったのは、試合の流れから、ヒールとして見られ始めたのを感じたからこそ、そこでヒールを貫き通したかった。舞台から消えるまでが、ボクの表現の場だと思ってたからこそ、貫き通したかったんですよね。まぁ、試合ではあんまりウマくできなかったですけど、あの握手をスカすところは、アドリブ効かせてやれた感じはあるんですよね。

——アドリブっていうことは、最後は握手するつもりはあったの？

アレク　いや、スカすと決めてたんですけど、手を出してもらわないとボクも引っ込みようがないじゃないですか。ボクの中では、時間にするとほんの数秒だけど、あの短い時間の中で結構葛藤があったんですよ。ボクが先に手を出しても、なかなか手を出さないんですよ。Vで見るとほんの短い時間なんですけど、「ヤベェ、これは手を出さねぇな～」と思ったもんで、ジッと目を見つめて騙したんですよ。

——ダーッハッハ！「オレは心底握手をしたいんだよ」って目をしてたんだ!!（笑）。

アレク　頷きながら、「分かった、ホント悪かった」みたいな気持ちを出したら、スッと手が出てきたから、サッと手をどけました。んむはぁ。

——スポーツ学かなんかの本に書いてあったけど、強い人なり、アスリートとしても優れた人は、演技力も優れているらしいですよ。

アレク　へぇ！

——絶対、密接な関係はあると思うんですよね。でも、演技力だとかなんだとかって、競技性に軸を置いてる人が聞いたら、きっと不謹慎な話なんでしょうね（笑）。

アレク　でも、もしリングの上で闘うことがなんかしらの表現じゃないっていうんなら、プロじゃないですよね。そういう考えの人は、悪い意味じゃなく、アマチュアの競技者としてやってればいいと思いますね。

——そんなアレクに注文をつけるとしたら、仮に反則負け覚悟で金的を狙うんだったら、一撃でブチ抜いてほしいですね（笑）。それがプロレスラー（笑）。

アレク　ああ～。いやぁ、そこがボクの未熟なとこですねぇ。ヒザ蹴りとか……。

——いや、技術的なことじゃなくて。相手が憎いと思って金的を出すんだったら、一撃で悶絶させるくらいの気迫でブチ込まないと嘘だという、〝覚悟〟の話です（笑）。

アレク　んむはぁ。ただ、あれはきっと菊田選手は、ソラール問題もあったもんで、実は鉄のファールカップを入れてたんじゃないかと思うんですけどねぇ。それで効きづらかったんだと思うんですよ。

——それだったら面白い（笑）。ところで、そのマスコミに書かれたことで、頭に来たものとかなかったの？

アレク　（しばらく考えて）一番は「プロレス記者としてこんなに……」とかなんとか……。

——ああ、「プロレス記者をやってて、こんだけ恥ずかしかったことはない」と某記者が言ってたらしいですね。

アレク　いやぁ、見損なったというか。その人のことはそんなに知らないですけど、ボクはリングスに初めて出たとき、大阪に行く新幹線の中で出会ったんですよ。ちょうどそのとき島田さんと行ってたんですけど、「バトラーツもいっぱい記事を載せてくださいよ！　頼みますよ」とか言って話しましたね。

——へぇ。アレクがマルコに勝ったときだったかな、その人は「みんなアレクに土下座しろ！」って記事を書いてたこともありますからね。

アレク　純粋なのは純粋だと思うんですよ。それが見る角度によって違うから、そこまでテンションが上がっちゃうんだろうなっていう思いもありますし。ただ、プロレスマスコミっていう観点からすれば、ちょっとズレてるかなと思いますね。

——というより、その人の「プロレス観」は、そういうプロレス観なんでしょう。プロレスのおとぎ話を現実の世界に持ち込むという。

アレク　（ちょっと不服そうに）そう言っちゃえば、悪くはないですけどね。正論派。

——でも、大方の人はそうですからね。あと、マニアの意見としては、「今回のアレクには腹がたった。総合に専念すると言っておきながら、全然進歩が見られなかった」というのが代表的な意見なんですよね。

アレク　いやぁ、それはたまたまそういう流れになっただけで。

——たまたま（笑）。

アレク　同じ選手とやっても攻める場面をつくれるかどうかは日によって違ったりすることもありますからね。ボクはボクなりに練習してますよ。少なくとも、あの試合展開の中でオフェンス面は見せられなかったけど、ディフェンス面は多少なりとも見せられたんじゃないかなぁと。あの腕十字なんてあそこまで伸びきってたら、根性で耐えるって言ったって、極まってたら折れ

最後に握手しなかったのは あそこでヒールを貫き通したかった

Alexander Otsuka

ちゃいますからね。それが折れなかったってことは、「弘法も筆の誤り」ですよね。現に菊田選手も「極まってなかった」ってコメントしてましたし。ボクもボクなりに方向をズラすように、ヒジを回転させて逃げてたんで。

——ボクはスタンドから見てたから、会場では「折れる折れる。タップしろ」ってヒヤヒヤしましたね。

アレク セコンドの大場もタオルを投げそうになったらしいんですけどね。んむはぁ。

——だから、間近で見てるレフェリーはやっぱりよく見てるってことですよね。ってことは金的も入ってなかった……という解釈もできる。

アレク アハハ、そうですねぇ（笑）ホントだ。十字が極まってないって、ちゃんと分かってくれてるってことは、見えてるってことですよね。

——だからアレクが言ったことに集約されると思うんだけど、人が闘って、人が裁く。それを人が見るんだから、どのみち測定不可能な部分は出てくるんですよ（笑）。逆に、格闘家といわれる人たちのなかには、あの試合のアレクを見て感動したっていう声もあった。何人かからボクも聞きましたよ。

アレク ボクもそれは聞きました。さっき、未体験のことを体験したのは菊田選手の方だって話をしましたけど、菊田選手が言ってた次元じゃないところで、ボクもやっぱりホントいい経験させてもらいました。やっぱり試合中や、あの帰り際に「うわぁ〜、『プロレス』ってホント奥が深くて、オモシロイもんだなぁ」って思いましたからね。あの試合をやって余計感じましたよ。

——ボクは今回のアレクに感じたのは「プロレス」っていうよりも、「プロフェッショナル」っていう部分ですね。「プロフェッショナル」っていうスタンスにアレクが立ってたような気がしますね。伝え方はともかく（笑）。

アレク ああ、そう言われればそうかもしれない。

——ターザン（山本）が、「アレクはプロレスをナメてる」「アレクはプロレスを誰にも教わってない」「本当のプロレスを知らない」と書いてたけど、そういう意見に関してはどう思う？

アレク ああ、実際、あんまりプロレスを教えてもらってないですからねぇ。でもボクの中で、プロレスに限らず、どんな仕事してても、教えられてできるようになる人間は大したことないと思うんですよ。昔の職人芸っていうのは、身近にいる師匠なり先輩なりのやってることを見て盗む。そこなんじゃないかなと思うんで、ボクはそこで自分のプロレスを創っていきたいなと思います。

——なるほど。誌面を通じて、菊田選手、尾崎社長に言っておきたいことはないですか？

アレク あ！ 最後の握手をしなかったのは競技者としては謝りたいですね。いや、ボクの中でもしたかった気持ちもあるんですよ。だからそういう部分だけにおいては謝っておきます。

——向こうは握手するのが当然だというセオリーがありますからね。世の中セオリー通りにはいかないんだなぁ。

アレク 礼に始まり礼に終わる。それは望ましいけど、人生はそれだけじゃない。そうじゃないほうがむしろリアルなんですよ。んむはぁ。

——いいなぁ〜、ホントに底意地悪いよね（笑）。

アレク アッハッハッハッハッ!! でも、今回ホント凄くいい勉強をさせてもらいましたね。いろんなファンの意見があるっていうのを改めて感じさせてもらったし、『PRIDE』に上がっている以上、みんなに強いって思ってもらえるようになりたいとも思ってますんで。

——実はそういう気もある（笑）。

アレク むしろプロレスラーは強くて当たり前だと思ってるんで、そこの部分でも、アレクサンダー大塚は考えてるんだなっていうのを、できるだけ多くの人に理解してもらえるように練習して頑張っていきたいなと思いますね。そういう方向もありきで、自分のいろんな考えを闘いのなかで表現していきたいですね、同時に。んむはぁ。

【5月15日／高田馬場／B—CLUBにて収録】

ネット上で繰り広げられたアレク批判は、主にこういうことです

■総合に専念するとか言って金的攻撃しかできないアレク。一体、何をやりにリングに上がったのか？　地獄に落ちろ!

■勝負でもそうだし、内容でもアレクは勝ってはいない。何を言ってるのだか。あまりにも見苦しいよ、アレク。

■アレクがやったのは金的だけ。もう総合の試合はやるな!　それから菊田もプロレスを尊敬してるなんて嘘つくな!

■アレクはプロレスラーでも格闘家でもなんでもない。恥ずかしい試合する、ただ弱い人間。最低。

■煽った『紙プロ』が悪い!　以上!

■アレクの煽りは良かったんですよ。でも、試合がねえ。撫でるんじゃなくて、殴ってくれよ!　違うだろって!

■金的攻撃で万一の事があったらどうするの？　あんなのがプロレスラーですか？聞いて呆れるよ。

■わたしが期待していたのは、あんなアレクじゃなかったんだけどね。プロレスラーを勘違いしちゃったね。

■ソラールをセコンドに付けるとか、練習しないでこんなこと考えていたの？　バカじゃない。

■うまく説明はできないけど、ソラールの金的とは全然違う。アレクには乗れないな。

■今日ほどプロレスファンである事が恥ずかしいことはなかった。もうアレクの試合は見ません。スゲエ気分悪いよ。

■アレクが一番プロレスをナメていたと思う。プロレスラーらしさなんて全く見えない。汚い部分しか見えない。今までアレクには感動させられたこともあったけど、もう嫌いです。

■金的やってもプロレスファンが支持してくれるっていうのが見えすぎだよ。短絡過ぎる。観客への訴え方がズレてるね。

■尾崎も菊田もしょっぼかったが、アレクはもっとしょぼかったな。試合後のマイクはかなりショボイ。

■アレクは試合でなんか攻めたりしてた？菊田も大したことなかったけど、一度くらい攻めまくってからなんか言え。

■別にプロレスラーらしいとか、らしくないとかどっちもいいけど、スイープしたり十字逃げたり、やればできるんだから、やれ!

■菊田の価値を下げたと思ってるかもしれないが、アレクはそれ以上、価値を下げたよ。

■とにかく島田とアレクは『PRIDE』のリングは似合わない。バトラーツに帰れ!

■菊田の発言がどーのこーの言ってるが、だったら4年前に噛みつけよ。

■あの金的が反則にならないのは、島田とグルだとしか思えない。もっと公平にジャッジをしてくれ。あ、アレクには公平じゃなくていいよ。

■マルコ戦での感動でいままで信じていましたが、限界です。プロレスはやらない。総合ではあんなだし。アレクはどこにいくのかしら？

RDE.21』に

地異

こる!!

驚愕 メジャー・プロレス団体からまた勇者が足を踏み入れる

中 6・23『PRIDE.21』は、本拠地ともいえる、たまアリ（さいたまスーパーアリーナ）大会ですから、かなり強力なカードを揃えてくると思いますよ。締め切り時点（19日）で、まだ正式発表されたカードはひとつもないですけど、噂されてるものだけでも面白くなりそうですね。

大 そういえば、ノゲイラ兄とシウバがケガをしたって？

小 ノゲイラ兄は腰で、シウバは膝の靱帯って聞いてますけどね。6月の出場はないですね、これは。

中 ヘビーとミドルのチャンピオンが2人とも不出場っていうのは痛いね。ノゲイラは6月に防衛戦をやりたいって自分でも言ってたし、セーム・シュルトとの対決も期待されてたのに。ただでさえ、日本列島がワールドカップで塗りつぶされる時期だから、プロレス団体も興行を控えてるところが多いよね。それでも敢えてぶつけてくるようにも感じる『PRIDE』には何か大きな隠し球があるんだろうね。

大 なんかね、凄い情報が入ってきたよ。

小 な、なんですか？

大 『PRIDE』にマスクマンがデビューするっていう話なんだよ。

中 エーッ！ それは4月の中頃、そういう噂があるって書いた雑誌もあるけど、それは4・28の『PRIDE.20』でノゲイラ弟が、セコンドのノゲイラ兄と2人で同じマスクを被って出てきて、2人同時に脱いでも、どっちがどっちかわからないっていう、入場ネタの話だったでしょ（笑）。またそういう類の話じゃないの？

大 いや、違う違う。今度は正式に試合に出場するマスクマンだよ。

小 じゃあ、『DEEP』みたいにメヒコ勢ですか？

大 いや、『PRIDE』オリジナルのマスクマンらしいよ。今度は完全にバーリ・トゥード用のマスクマンらしい。ふだんプロレスやってる選手じゃなくて。

中 それは世界初なんじゃないの？ VTしかやらないマスクマンって。そういえば、去年の大みそかの『猪木祭り』のバンナの相手が決まらないとき、5代目タイガーマスクが出陣か？ なんて噂も飛びましたよね（笑）。

大 うん。今度のマスクマンの正体は外国人の超強豪っていう話もあるんだけど、誰かっていうのは海外でもまったく流れてない。もしかしたらマスクマン用の新人かもしれない。6・23に出てくるかどうかは確証がないけど、そういう計画が『PRIDE』にあるのは間違いない。

小 それは、なんかワクワクしますねぇ。ルチャ勢みたいにふだんVTやってない選手でもできるんだから、それ用の練習を積めばできないことはないでしょうからね。マスクは当然不利になるわけだから、相当な実力を持ってないとダメでしょうけど。

中 でも、キャラ先行で、中身が弱いなんてことはないの？ 不利になることを進んでやる選手なんて、一発当ててやろうって思ってる無名の選手くらいじゃない？

大 ところが、素顔でも相当有名な選手らしいよ。

小 まさかヒクソンがマスク着けて上がる

騒然 元リングス・ロシア勢が「誤報」をきっかけに参戦の可能性

とか（笑）。まぁ、今回出る出ないに関わらず、実に夢のある話でいいじゃないですか。でも、ガチンコを主体にしたエンターテインメントっていうのは、ホント日本が発信していくようになっちゃいましたね。

中 うん。UFCの経営状態があんまりよくないらしんだよ。選手にもかなりの移動があるかもしれない。

大 場合によっては『PRIDE』の力を借りるとか、そんな話もありえなくはない状態らしいな。

中 それはともかく、現時点では詳しく言えないんだけど、メジャー・プロレス団体から、またひとりプロレスラーが上がるらしい。これも早ければ6・23に上がってくる。聞けばファンも納得する選手だよ。これも決定すれば楽しみなんだ。付け焼き刃ではなさそうだし。

大 カード的にはドン・フライvsコールマンというのもラインナップに上がってるし、日本で結婚式を挙げたゲーリーも出場に向けて動いてる。さっきの話じゃないけどUFCに出場している選手の出場もありえなくはなくなってきてる。

小 日本勢では大山（峻護）の1年ぶりの復帰戦もありそうですし。なにかない限り、ボクは大山の復帰戦は固いと見てますけどね。

中 ところで、リングス・ロシア勢だよ。

大 そのへんのことは、別にページが取ってあるらしいから（P81～）、簡単に言うけど、先月、ロシア勢の窓口のパコージン氏のインタビューをスクープ的にカッ飛ばした某誌の記事があったでしょ。「PRIDE参戦決定」って。その記事を前田日明総帥は5・6の『プレミアム』で、「あれは誤報。通訳がキチンとなされてなかった」って言って、来日してた当のパコージンも「参戦する意志があるといっただけ」と大激怒だった。

中 その記事では6・23にE・ヒョードルがいきなりノゲイラと対戦することになっていたけど、じゃあ消滅か。

大 でも、その某誌の件をきっかけに、お互いの意志を確認するために『PRIDE』側とロシア勢の窓口が会談を持ったらしい。6月のヒョードル出場は、その記事のお陰で、逆に信憑性が出てきてるよ（笑）。

中 それからここにきて注目されてるのがサクだよね。8月にミルコ戦というのが大方の見方だけど、試運転せずにいきなりミルコ戦？ リングの感触を確かめに6月にひょっこり復帰なんてことはないの？

小 どうですかね。まだ難しいんじゃないですか？ でも、電撃出場が決まったら面白いですね、6月は。いままで言った人たちが全部揃ったら凄いですよ、マスクマンも含めて（笑）。

中 なんか起こりそうだね、今回の『PRIDE』は。

仰天 『PRIDE』にマスクマンが登場!?

先取り灼熱情報

6.23『PRID

天変

が起

同は実現するのか!?

の

宣言!?

せよ!!

文／スモーノブ

designed by matsu（Two three）

Finally,THE ROCK has come back JAPAN!!

5月15日、ロック様が、初主演映画『ザ・スコーピオン・キング』のプロモーションのために日本に帰ってきたぜ〜！

まずは自家用ジェットで成田空港に乗り付けたロック様は、待ち構える記者の「武藤と闘いたいか？」という問いに「YES！」と即答。さらには6月に武藤が渡米することについても「知ってるよ」とウインク。『週刊ファイト』5月23日号では「現状では99・9％ない」と一刀両断されてしまったが、ロック様本人はかなり前向きのようではある。

その後、都内で行われた試写会では、ちょっとしたハプニングも発生した！　なんと、ロック様が武藤全日移籍の黒幕・馳浩と約3分間の密談を行ったのだ！　短い時間で突っ込んだ話し合いにはならなかったとは思うのだが、「ナイショ」（馳・談）という会談内容は気になるところ。黒幕・馳のことだけに、まさかサイン色紙をもらって握手して記念撮影をしてオシマイということはないだろう。いや、わりとミーハーな馳だけにその可能性も否定はできないか？　とにかく、夢の対決が、水面下では胎動を続けている様子だけはうかがえる。

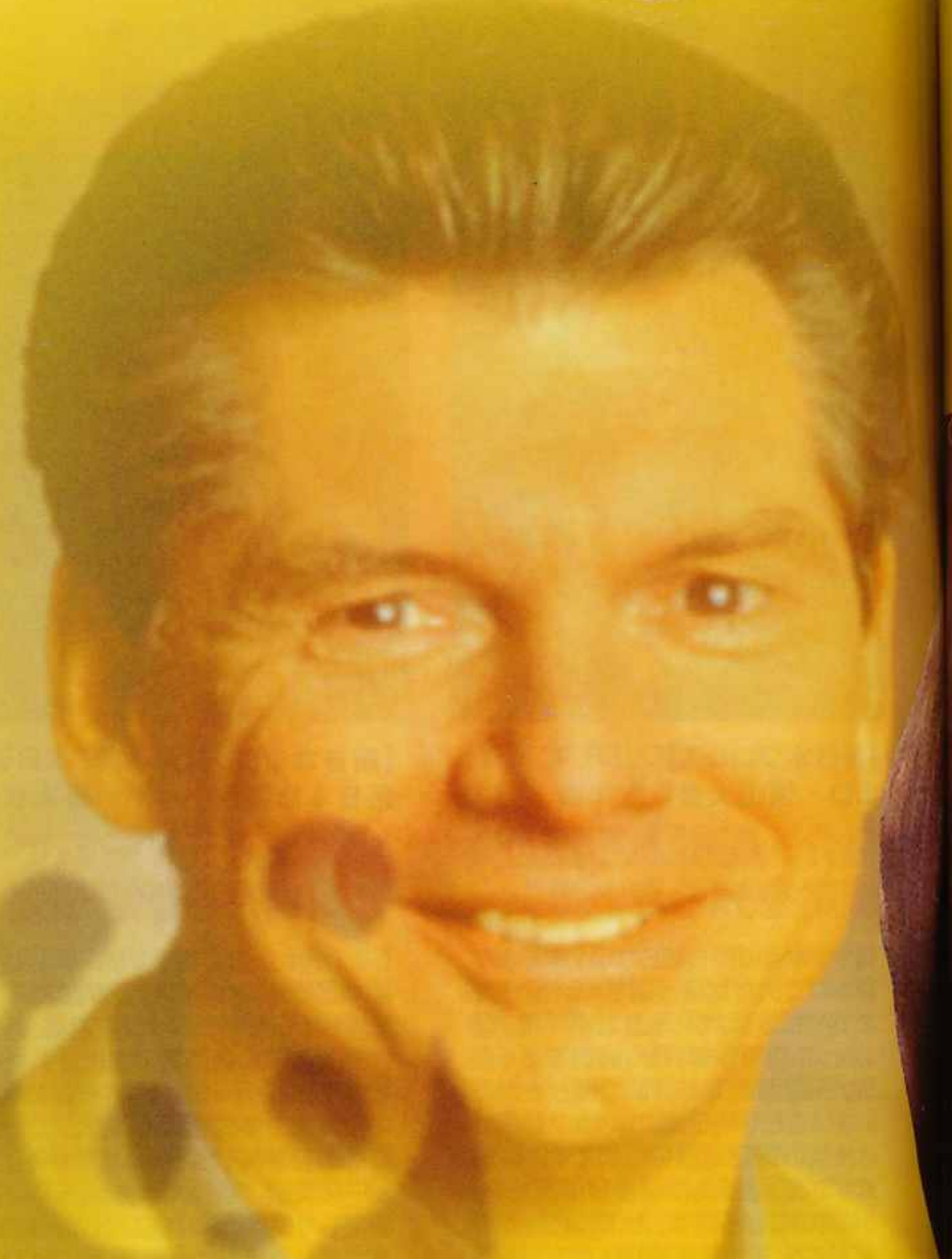
余談だが、この日の試写会には、日本のプロレス界から永田裕志と中西学（ともに新日本プロレス）、神取忍（LLPW）、渦中の男・島田裕二レフェリー（B.C.G.）などがやってきた。そんな中、5月18日放映の『古舘の買物ブギ』（テレビ朝日）で、頻繁にホームパーティーを催している自慢の豪邸が、なんと全体的に右に5ミリ傾いている欠陥住宅だったことが発覚してしまい、衝撃のあまりにカメラの前であることをすっかり忘れて凍りついた表情を浮かべていた我らが新日本プロレス社長・藤波辰爾が家族連れで会場に現れたことも付け加えておきたい。欠陥住宅のことが気になって、スクリーン上の「ロック様の妙技」を味わえなかったのではないだろうか？　非常に心配だ。

この日配付されたプロモーション用のパンフを見ていたら気になる名前が載っていた。「Executive Producer:VINCE McMAHON（制作総指揮：ヴィンス・マクマホン）」そう、じつはこの映画の総指揮はビンスが握っていたのだ！　ロック様が自伝『THE ROCK SAYS…』の中で「俺たちは生の芝居、すごく肉体的で、男性指向の強いメロドラマを作成している。監督はビンス・マクマホン」と書いているように、すでにビンスは毎週の『RAW』『SMACK DOWN』でプロデューサーとしての実績は十分すぎるほど積んでいる。視聴率でNFLやNBAなどアメリカのスポーツ・エンターテイメントのライバルたちをことごとく蹴落としてきた勲章もある。そして今回新たに挑んだ映画界では、なんとキアヌ・リーブス主演『マトリックス』の記録を蹴落として全米歴代NO.1記録を樹立してしまった！（4月公開の作品の歴代

ロック様 with セレブ3連発

海外の映画祭にもたびたび参加している叶姉妹の妹・美香がロック様に花束贈呈。ヒロインのケリー・ヒューに似ていなくもない。

試写会には佐藤江梨子とMEGUMIのイエローキャブ巨乳タッグが登場！　ピープルズ・アイブロウに挑戦！　かわい過ぎる！

ん？　誰だ？　憧れのジュリア・ロバーツ？　かと思ったら、ダニー夫人。2人はよく映画館でデートしていたという。

果たして夢のロック様vs武藤敬司は 実現

ロック様の俳優転向を裏読み

第一位）。公開直後の週末3日間で3600万ドル（約47億円）の興行収入を稼ぎ出したというから、ロック様人気&ビンスの手腕おそるべし。パンダのWWF（世界自然保護基金）に敗訴して、WWFの名称を手放さざるを得なくなったビンスも、この成功には満面の笑みを浮かべたに違いない（きっと目の中にはドルマーク）。WWEという名称へ変更するにあたり100万ドル（約1億3000万円）の損害を被ったといわれているが、きっとそんなものは痛くも痒くもないはず。

ちなみに、ロック様は記者会見で「今はどちらかというと、俳優としてもっともっと成長したいと願っている。今は人を楽しませる映画に出演したいが、いずれはシリアスなドラマやラブコメにも出演したい」と今後の俳優転向を匂わせる発言をしており、2003年公開予定の「エル・ドラド」でも主演することも決定済み。「プロレスは必ず自分の戻るところ」と語ってはいるものの、今年は去年以上にリングから離れて活動していくことになりそうだ。WWF改めWWEでは今なおホーガン人気が相変わらず爆発中なので、しばらくロック様はスクリーンを主戦場とするのかもしれない。

ロック様が長期離脱を余儀なくされてしまう状況で武藤は対戦を実現できるのか？ ……うん？ 待てよ。ひょっとして対戦するのは〝リング上〟ではなくて〝スクリーン上〟なのか？ 映画『光る女』で安田成美とともに主演を張った武藤だけに、スクリーンでもロック様にひけはとらないだろう。あるいは、ユークスが発売しているWWEのゲームの中で対戦する可能性もあるのだろうか？ 昨年、武藤はゲームのCMの中で夢の対三沢光晴戦を実現させたが、これと同じようにCMの中でなら、しがらみを抜きにしてロック様と対戦が実現できる可能性は高い。あるいはロック様が出演する際の『サタデーナイト・ライブ』にゲスト出演だろうか？

これらはあくまで推測の域を出ないが、ロック様と武藤の接触の可能性は様々に広がっている!!

<キャスト>
マサイアス：ザ・ロック
メムノーン：スティーヴン・ブランド
ベルタサル：マイケル・クラーク・ダンカン
呪術師カサンドラ：ケリー・ヒュー
ファイロス：バーナード・ヒル
アービッド：グラント・ヘスロフ
タクメット：ピーター・ファシネリ
ソラック：ラルフ・モーラー

<スタッフ>
監督：チャック・ラッセル
脚本：スティーブン・ソマーズ
ウィリアム・オズボーン
デヴィッド・ヘイター
原案：スティーブン・ソマーズ
ジョナサン・ヘイルズ
製作：スティーブン・ソマーズ
ショーン・ダニエル
ジェームズ・ジャックス
ケヴィン・ミシャー
製作総指揮：ヴィンス・マクマホン
撮影：ジョン・R・レオネッティ
プロダクション・デザイナー：エド・バリュー
編集：マイケル・トロニック
グレッグ・パーソンズ
衣装：ジョン・ブルームフィールド
音楽：ジョン・デブニー

6月9日（ロックの日）の前日から全国で公開！ 6月1日には先行オールナイト上映！

"ピープルズ・アクター"Ⓒ映画秘宝 ザ・ロック主演『スコーピオン・キング』を味わいやがれ！

スポーツエンターテイメント業界で最もシビれる男ことザ・ロックが、再び日本に帰ってきた！ 『ハムナプトラ2』でスクリーンデビューを果たしたロック様が、その『ハムナプトラ2』の番外編ともいえる『スコーピオン・キング』で、主演してしまうのだ！ その驚くべきスピード出世ぶりにはただただ感嘆するばかり。会見でも「メル・ギブソン、ブラピ、ジョージ・クルーニーのようになりたい」「憧れのジュリア・ロバーツと共演したい」（そういえば2月28日の会見でもジュリア・ロバーツにラブコールを送っていた）「過剰なラブ・シーンは好きじゃない。今回の映画でロック様が演じたキス・シーン？ 気に入っている」と、「カッコいい」というより「かわいい」発言を連発、終始ご機嫌だった。 （UIP配給）

紙の新聞

●マット界の1ヶ月丸わかり●

編集長／斉藤ジャン
助手／ささきぃ
隠居／堀江ガンツ

4/18 ➡ 5/17

4月18日にワフー・マクダニエルさんが、その10日後の28日にルー・テーズさんがお亡くなりになりました。無敵のNWA王者だったテーズさんと、トマホークチョップで一世を風靡したワフーさんは言わずと知れた偉大なる名レスラー。心にその名を刻み、テンカウントを鳴らしましょう。合掌。

偉大なるレスラーよ、永遠に!

4/24

【新日本プロレス】
山口・徳山大会

健介、長州から退団決定を知らされず

健介は本当に何も知らない。昨年より囁かれていた武藤ら選手の大量離脱を「全然知らなかった」とキッパリ言い放った佐々木健介が、師匠である長州から退団について何1つ聞かされていないことが明らかになった。前日には長州の退団問題について「いい加減なことは言えない。自分の耳で100%聞いてから話す」と、師弟タッグでラストマッチを飾る長州に真実を問う覚悟だったが結局、「試合もあったことだし、長州さんとは何の話もしなかった」と、ちっとも言い訳にならない答弁で師弟とは思えない関係を顕わにした。

4/21

【新日本プロレス】
新日本事務所

シン、新日ドームでアントン襲撃を予告!

「イノキは永遠の宿敵。リング上で握手などできない」。新日本30周年を記念して行われたファン投票で、外国人選手ヒール部門賞に選出されたタイガー・ジェット・シンが、ドーム大会での授賞式の参加を拒絶。逆にアントン総帥の襲撃を予告した。さすがNO.1ヒールに選ばれただけあり、らしい返答をしたシン。その名に恥じぬ悪役ぶりを見せつけたわけだが、問題はMVP部門。ビックリ仰天、なんとノートンが選出! ノートンファンでも(いるのか?)首を傾げたくなるこの結果。30周年に相応しい、スケールのデカイ一発ギャグだったと思いたい。

4/25

【新日本プロレス】
山口・徳山大会

長州、地元で新日ラストマッチを飾る

アントン総帥に現場監督を解任され、すっかりやる気をなくした長州力が徳山で新日ラストマッチを飾った。地元だけにプロモートした関係か、2・1札幌大会以来の復帰を果たした長州。この試合を最後に新日本退団が濃厚とされていたこともあり、多くのマスコミ陣が長州の取り囲んだが「どけ、どけ、ブッ飛ばすぞ!」と蹴散らしながら会場入り。試合はタッグを組んだ愛弟子・健介に任せっぱなしで実働ほぼ3分で終了。試合後も「何もねえ! カチ食らわすぞ!」と威嚇しながらタクシーに乗り込み、新日本プロレスでの革命戦士の歴史に事実上、ピリオドを打った。

4/24

【新日本プロレス】
新日本事務所

藤波社長「長州は残るはず」と明言

新日本プロレスの親方・長州力が、取締役の辞任届を提出したと一部で報じられたが、ドラゴンは「僕のところには届いてない!」と、キッパリ否定。ドラゴンのところに届いていないだけで、とっくの昔に提出されているとの見方が強いが、それでもドラゴンは「本人はきのうも会社に来てたし、いつも通りだよ。退団とかの話は聞いてない」と事実無根を強調した。しかし、紙の新聞の読者の方ならおわかりの通り、案の定、ドラゴンが聞いていないだけで、長州はやっぱり辞任。普通のファンと変わらないタイミングで長州退団を知るドラゴンはつくづく完璧である。

4/20

【新日本プロレス】
渋谷109特設ステージ

ドラゴン、渋谷でブーイング

5・2ドームで行われるIWGPヘビー級選手権の公開調印式が、渋谷の109の1階特設ステージで行われた。ここで舌好調の高山善廣は、対戦相手の永田、セコンドの垣原を罵倒するにとどまらず、立会人のドラゴンにも「伝統のタイトルマッチが、どっかの社長と黒い親分の前座なのか?」と詰め寄った! それに対しドラゴンは「IWGPは猪木さんが作った強い人間が巻くベルト。試合の順番がどうのこうのより、それを超える闘いをするのが2人の使命」と、まったく答えになってない答えを返し。哀れドラゴン、若者が行き交う渋谷のド真ん中でブーイングを浴びるハメになった。

4/19

【新日本プロレス】
長野大会

外道、サムライにパチンコ禁止を命令

サムライ、散々な誕生日! 高い実力を持ち"Jrの巨人"と称されながら、普段は周囲からバカにされまくりのエル・サムライがこの日、36歳の誕生日を迎えた。誕生日とあって本隊選手からはバースデーケーキが用意されたが、それはロウソクの代わりに5本のタバコが突き立てられた直径10センチのヒドイ代物。「早く火を吸い消せよ!」と強要され、なんとか吸いきり「36歳、がんばります」とセキ込みながら意気込みを語ったサムライだが、外道からは「もう36なんだから、パチンコばかりしてんなよ、バカ!」と、36歳の身に沁みる厳しい言葉がプレゼントされたのであった。

4/29

【PRIDE】
都内ホテル

グッドリッジ披露宴

前日の『PRIDE.20』の興奮醒めやらぬ29日、都内高級ホテルで『PRIDE』の門番こと、ゲーリー・グッドリッジの結婚披露宴が催された。 紋付き袴姿のグッドリッジと、カナダ人の新婦カレン・オキーフさんが登場すると、サクや高田などの『PRIDE』戦士を始めとした、超豪華な列席者からは大喝采が上がった。ちなみにプロポーズの言葉は、2人でジャマイカへ旅行へ行った時、ドレスを着た彼女に「何か足りなくないかい?」と言って、そっと彼女の指に指輪をはめて「これで完璧だ」と言ったそう。披露宴中終始カレンさんを見つめ、デレデレだったグッドリッジ。末永くお幸せに!

4/28

【新日本プロレス】
福岡・博多大会

安田、新日本を恐喝!?

安田が久しぶりに銭ゲバぶりを発揮!平成の借金王こと安田忠夫が待遇の悪さに新日本離脱をちらつかせた。永田に敗れ王座陥落以来「ギャラが落ちた。こんな扱いには納得がいかない」とゴネまくった安田は「ZERO-ONEに行く。他団体にいった方がギャラがいい」と、長州退団で揺れる新日本に愛社精神のカケラもない銭ゲバぶりを披露。一方、ねじ曲がったラブコールを受けた破壊王は「馬鹿者!」と一括しながらも、安田に多額の金を貸しているだけに「気持ちはわかる。小川を超える銭ゲバ王になれ」と、暗に借金返済をほめのかした。

4/26

【新日本プロレス】
新日本事務所

ドラゴン、長州退団を語る

「僕の所には届いてない」と、ドラゴンが長州の辞表提出をキッパリ否定した翌日、長州は4月8日付で辞表が提出され、5月いっぱいで退団することが明らかになった。またしても社内の重要機密を教えてもらえなかったドラゴンであるが、「居場所を替えてまで、現役を続けたいという彼の気持ちは痛いほどわかるよね。僕らの年代は、そういう気持ちをエネルギーにしてリングに上がるんだよ。僕もこれでまた辞めたくなくなったねぇ」と呑気に恒例の生涯現役宣言。長州の退団までも、自らの現役続行についての屁理屈にしてしまうドラゴンに脱帽だ。

4/25

【新日本プロレス】
山口・徳山大会

またまた獣神が大激怒!

オイ、また怒ってるよ……。一体、何に怒っているのかサッパリわからないことに加え、怒りを表現する過剰な動きがみんなに大好評の獣神サンダーライガーが、ノアに対して怒りの牙を剥いた。獣神が御立腹なのは空位となったGHCジュニアのベルトを争うトーナメントに新日本勢の名前がないこと。「金丸と菊池が負けてるんだぞ。オレがやりますって言うヤツが1人もいねえのかって。丸藤もケガが治ったら『アイツらブッ潰す』と何で一言ねえんだ。違うか!?」と記者陣に詰め寄る獣神。ウザイ(三沢に成り代わって)。

5/1

【全日本プロレス】
新潟市体育館

WAR組強し!ブッチャー組敗退

6人タッグトーナメント1回戦で、天龍組とブッチャー組が対戦。天龍と初対戦したカシン(ブッチャーイズム後継者)は、師匠直伝の地獄突きを天龍にやり返され、絞首刑を見舞うも逆に鉄柵絞首刑を食らってしまう。最後はスミスが荒谷にフォールを奪われた。試合後カシンは「(天龍とは)体重が違うだろう。このマッチメークはおかしい」と怒ったものの「WARに負けたよ。レスリングでは勝ったがロマンスで負けた」と、WAR(Wrestle and Romance)にひっかけてコメント。いくつになっても対抗意識剥き出しの天龍が、今回は一枚上手だった。

4/29

【全日本プロレス】
水戸市総合運動公園体育館

カシン、全日本でも親友中西君を挑発

カシンが「6人タッグトーナメントで勝ったら、中西との対戦を要求する」と、"親友"でありながら永遠のライバル、新日本の中西学(自称・知性派)との対戦を熱望した。この日の水戸大会ではブッチャー、スミスとのタッグでジミー、セッドマン、ロトンド組に快勝。「中西が3時間でゴッチさんからジャーマンを会得したなら、オレは3分でブッチャーの地獄突きを習得する」と宣言。さらに全日本のマッチメーク委員会にも噛み付き「渕正信と新日本にいたW氏が組んでるんだよ、全日本を崩壊に導こうとしてるんだ」と告発。全日本を守るため、頑張れカシン!

4/27

【PRIDE】
都内ホテル

アレクのセコンドにソラールが起用

ソラールが、火に油を注ぎにやってきた!? 先日のDEEP名古屋大会で、あきらかに故意だと子供でもわかる金的攻撃を披露。パンクラス・鈴木みのるさんを悶絶させたソラールが、『PRIDE.20』でアレクサンダー大塚のセコンドにつくため緊急飛来をはたした。『PRIDE』ファイターが宿泊する某高級ホテルに到着早々、来日記者会見を開催したソラールは「親友のアレクのためにやってきた」と発言。DEEPで因縁を作ったパンクラスとの全面戦争の構えをみせたが「キクタはパンクラスなのか?」などと、試合前からモメに揉めていた菊田vsアレクの状況を知らない模様。そんな彼らを呼び寄せたアレク、必要以上に神経質になるパンクラスは本当になんて言っていいのやら。

4/26

【映画「狂気の桜」】
東映撮影所

須藤元気、窪塚洋介と映画共演

元気と窪塚は瞑想仲間! 須藤元気が今秋公開予定の東映映画「狂気の桜」に準主役に抜擢され、窪塚洋介、江口洋介と共演することになった。「幼なじみの若き3人のナショナリスト」が暴れ回るというちょっと右寄りなこの映画の撮影中、窪塚とすっかり仲が打ち解けた元気。「普段も一緒に遊んでいる」らしく、報道陣から何をして遊んでいるかとの質問されると「2人で一緒に瞑想してます」と、うらやましいのかどうかイマイチわからない関係をアピール。UFCロンドン大会の参戦も決まっている元気だけに、その瞑想の力が勝利を呼び込むか!? がんばれ、元気!

5/8

【新日本プロレス】
新日本事務所

蝶野、アントン総帥の引退勧告に激怒!

オレは神を信じない! 新日本プロレス現場最高責任者の蝶野正洋が、アントン総帥の引退勧告を真っ向から拒絶した。恒例となったアントン会見の発言に怒り心頭の蝶野は「猪木さんの言うことは気にしない。勝手に人を引退させる前に、まずオレの契約を決めてくれ」と、いまだ契約を済ませてない衝撃の事実を公表。「確かに猪木さんを神とは呼んだが、もともとオレは無神論者。神様の言うことなんか気にしない」と、よっぽどドーム生中継での共演が恥ずかしかったのか、アントン総帥の存在を完全否定した。

5/5

【全日本プロレス】

武藤、困った! ムタに変身できず

グレート・ムタが名乗れない! 武藤敬司のアメリカ進出の切り札であったグレート・ムタが商標登録の関係上、その名前を使用できないことが発覚した。ムタのキャラクターを商標登録していたのは武藤の古巣・新日本プロレス。いくら武藤本人が作りだしたギミックとはいえ新日本が権利を所有している以上、勝手に名乗ることは許されない。武藤の場合、その天才的なプロレス頭でムタに変わる新しいキャラクターを作ってくれると思うが、なにより一番怖いのは、2代目グレート・ムタを登場を目論んでいるかもしれない新日本の安易さである。まあ、グレート・ドラゴンは見たいですけど。

5/1

【新日本プロレス】
東京ドーム

長州、セレモニー不参加ドラゴン何もできず

ワカマツ、船木、鈴木、マシン1号らOBが集結した「新日本プロレス30周年記念セレモニー」だが、渦中の長州力は会場に姿を見せていたものの、セレモニーは参加せず。追いすがる報道陣に対して「どけ、コラ!」「カチ喰らわすぞ!」など、長州語をわめき散らしながら3時30分、ドームを早々に後にした。数日前「本人の意思に任せますが、(セレモニーに)出てくれるでしょう」と笑顔で話していたドラゴンが、また裏切られた形となったが、当の本人は「いつものこと!」と、ダークドラゴンに変身しながら、憮然とした表情だった。

5/1

【新日本プロレス】

フライが会見に遅刻!「競馬で遅れた」

5/2ドーム大会の記者会見に、ドンフライが遅刻! ロス新日本道場開きに遅刻した安田に怒ったのがフライだったことが、対戦のきっかけになっているだけに、待たされた安田が怒り心頭。フライに襲い掛かり、会見場は大混乱になった。フライは「競馬をやっていて遅れました。安田と反対の馬券を買ったら当たった。安田は走れない、博打もダメ、闘いもダメ。何においてもダメな人間」と、安田を全否定。「永田が勝ったら挑戦したい」とIWGPベルト取得への皮算用まで始めた。ここまで言われた上に負けてしまった安田、やはり勝利の女神・娘ナシでは勝てないのだろうか。

【新日本プロレス】

永田が健介をこき下ろす「時代は変わった」

永田裕志34歳、いまさら世代交代宣言! 「2、3年前はあの人が強すぎて、僕ら第3世代の成長を止められた。でも、時代は変わった。もう立場は逆転してるんだよというのを見せつけてやる」と、今考えると衝撃の事実で元王者・佐々木健介を酷評。健介は過去4度の戴冠経験があり、永田にとっては若手時代の元鬼コーチ。「オレたち第3世代の大きなトラウマを、ビシッと叩く」と宣言。未だに健介にトラウマがあるようでは、永田の明るい未来はもう少し遠そうな気がするが、どうなる永田vs健介!!

5/7

【新日本プロレス】

中西vs高山のジャーマン対決決定!

6月7日武道館で、中西VS高山の一騎打ちが決定! 高山の「エベレスト・ジャーマン」に対して野人は「それならオレは富士山。富士山ジャーマンで、美しさで勝つ」さらに互いの師匠を持ち出して「ロビンソンVSゴッチの代理戦争じゃい」。スキだらけの発言を高山が見逃すわけもなく「富士山? 自分のほうが低いですと言っているようなもの。富士山はおじいちゃん、おばあちゃんも登れる」と、バッサリ。さらに代理戦争発言に対しては「オレらは誰かの代理か。自分で日本を代表する試合をするという気持ちはないのか! 」と一喝。新日本とかかわると終始ツッコミまくりの高山。お疲れ様。

【新日本プロレス】
東京ドーム

アントン危機一髪! シンの襲撃を元チャイナが救う!

「イノキ! ハタリハタマタ!」。大会前から猪木襲撃を予告していたタイガー・ジェット・シンが、あの叫び声をドームに響かせながら30周年記念セレモニーに乱入! WWFの元チャイナと大乱闘を展開した。アントン総帥を付け狙い、前日の記者会見にも乱入したシンは田中リングアナを急襲。「ミスター高橋本」をまったく無視するかのように流血葬に追い込み、その刃をアントン総帥にも突きつけたが、ジェアニー・ローラーこと元チャイナに行く手を阻まれ断念。翌日のドーム大会でも乱入をはたしたが、またしても元チャイナの前蹴りやヒジ打ちの前に退散。次回の遭遇は一体、どうなる!? ハタリハタマタ!

【伊勢崎市】
伊勢崎市市長室

ポーゴ、ホントに伊勢崎市長を襲撃!

オイ、ホントかよ!? 暗黒大王が伊勢崎市長を襲撃! かねてより地元・伊勢崎市長選に立候補を表明していたミスターポーゴが、遂に実力行使で伊勢崎の乗っ取りを企てた。いつもの試合コスチュームを身に纏い、鎖鎌を振り回しながら伊勢崎市長室に乗り込んだポーゴ様。「オレ様を伊勢崎の市長にしろ!」と鎖鎌を突きつけたが、毅然とした市長の態度にあと一歩のところで乗っ取りは失敗に終わった。お父様が政治家だったこともあり、政治家の夢が捨てきれないポーゴ様。暗黒の力を使ってでも、それを実現させる腹づもりだ。

K-1大会情報

【K-1 JAPANシリーズ K-1 SURVIVAL 2002〜富山初上陸〜】

他流試合5番勝負を敢行! 中迫vsボブ・サップが実現!

K-1初開催となる富山大会の目玉はK-1他流試合5番勝負! 発表されているサップvs中迫の他にも、レイ・セフォー、ピーター・アーツなどの出場が予定! 一体、どんな他流派が乗り込んでくるのか!? 乞うご期待だ!

K-1JAPAN シリーズ
K-1SURVIVAL 2002
〜富山初上陸〜
◎日時:6月2日(日)13:00〜
◎会場:富山市総合体育館
◎チケット:株式会社キョードー東京
TEL.03-3498-9999

5/14

【新日本プロレス】
都内道場

健介が永田を挑発「力でねじふせる」

6月7日の日本武道館大会でIWGPに挑む佐々木健介(小結その1)が王者・永田裕志(ゆうタン)を挑発した。昨年の「正直スマン」以来、疑惑のVT特訓等でタイトル争いから離れていた健介は、1年ぶりの王座奪回の機会に意欲満々。「永田が強くなったのは確かだけど、やっとオレと同じところまできたかなという話。下からきたヤツは、力でねじふせる。それがオレのやり方だ」と豪語した。マット界の状況も新日本の現状も己の今の位置も分かっていなさそうな突然の先輩風。多分、そんなふうだから破壊王にも嫌われているのだろう。

5/13

【全日本プロレス】

天龍、裏原宿系のAPAを視察!?

APAと天龍が融合する!? 51歳という年齢にも関わらず全く衰えを見せない天龍源一郎が、小島&APA興行への殴り込みを宣言した。7月17日大阪で小島聡を相手に3冠防衛戦を行う天龍は、6月9日ZEPP TOKYOで行われる小島と裏原宿系APAの特別興行に「ニセコジスケでも連れていくか」と1ヶ月も前から神経戦の様相。ハズレの少ない天龍の仕掛けだけに、そのニセコジスケは見逃せないわけだが、絶対に交わることがないと思われたAPAと天龍の遭遇も、何があっても見逃せない。全日本はもの凄いことになってきた!

5/10

【全日本プロレス】
大阪府立体育館第2競技場

カシン初防衛「次はグラン浜田だ」

王者カシンが愚乱・浪花を破り、世界ジュニアヘビー級初防衛に成功。正統派スタイルで浪花を下した後、悪いカシンに大変身。予告通り浪花のマスクをはぎ取り、トロフィーを踏み倒した。これを見たカズ・ハヤシとジミー・ヤンが乱入し、ハヤシは「次の挑戦者はジミーだ」と要求するがこれを無視。花道で賞状を破り捨て「次の挑戦者はグラン浜田だ。あの野郎、仕事がねえからって泣き付いてきやがった。俺は情けの人だからチャンスをあげよう」と、いきなりみちのくの大ベテランを強引指名。果たして要求は通るのか。頑張れ、マッチメーク委員会!

SB大会情報

【SHOOTO BOXING WORLD TOURNAMENT "S-cup"】

リングスが七夕に復活! アターエフが参戦だ!

シュートボクシングのビックイベント"S-cup"にヴォルク・アターエフがKOKルールで参戦することが決定! これはもちろん前田総帥の協力にとって実現したもの。同大会で行われる中量級トーナメント同様、見逃せない!

◆決定カード KOKルール
ヴォルク・アターエフvs超強豪

◎日時:7月7日(日)16:00開始予定
◎会場:横浜文化体育館
◎チケット:シュートボクシング協会
TEL.03-3843-1212

5/15

【新日本プロレス】

ドラゴン、永田に夫婦円満の秘訣伝授

IWGP王者・永田裕志がこの日、元OLの佐藤智枝子さん(32)との結婚を正式発表。晩酌人であり、常に「かおりLOVE」を公言する愛妻家ドラゴンが夫婦円満の秘訣を伝授してくれたが、それは「お互いうまくコミュニケーションを取る」という、まったく具体性のないもの。これでは永田も不安かと思いきや、6・7武道館の対戦相手健介が、「とにかく尻にしかれろ」ズバリなアドバイスを送ってくれた。はたしてそれでいいのかどうかはわからないが、明らかに北斗趣味の豪邸といい、明らかに健介が尻に敷かれていることだけは間違いないのであった。

5/14

【新日本プロレス】
新日本事務所

永田、入籍を発表! 永遠の防衛を誓う!

ゆうタン、永遠の愛と防衛を誓う。新日本プロレスのIWGPヘビー級王者永田裕志が、奥さんに"ゆうたん"と呼ばれていることが明らかになった。永田は元OLの智枝子夫人と昨年8月G1クライマックス初優勝を機に入籍していたことを公表。「これからは責任重大。永遠に防衛し続けます」と明言した永田は、智枝子さんとのツーショット写真を披露し、「家でちーちゃん、ゆうタンと呼び合っております」と、今後、確実にネタにされる恥ずかしい秘密をデレデレしながら告白。健介が相手ということもあってか、防衛戦前とは思えない余裕を見せた。

5/11

【アルシオン】
有明コロシアム

ロッシー、大流血するも堀田を破る

小川ごと刈れェ〜! レスラーデビュー戦を飾ったロッシーことアルシオン小川宏社長が大流血の末、因縁の堀田祐美子を破る大金星を挙げた。堀田の鬼気迫るイス攻撃に左額をザックリと切りプロの洗礼を受けた小川社長。しかし、揉み合いから堀田の背後に回りつかまえたところをパートナーのGAMIが、小川直也ばりのSTOを仕掛け、鮮やかな「小川ごと刈れ!」が炸裂! そのままスクールボーイ(横入り式エビ固め)でスリーカウントを奪った。今後、「オレごと刈れ」は様々なバージョンが増えていきそうだ。

50号だってな…ボリューム満点のお祝いだよ!

読者プレゼントページ

⇐元・チャイナさん

RADICAL創刊50号記念! サクごと刈れーッ!

初夏に満開、桜庭グッズ!
サクからのお祝いだよ!

★全部丸ごと桜庭和志
サクTシャツに、直筆サインが入った50号記念ハチマキとポラ写真がついた!
そんなレアなセットを2名様にプレゼントだ!(ニコニコ)。

セットで2名様

鶴田信者に贈るジャンボなプレゼント

1名様

★ジャンボ鶴田入場用ジャンパー
50号記念に相応しいジャンボなプレゼント! 混迷するマット界に、嗚呼、ジャンボが生きていれば……という想いを胸に着用するんだ!
【吉田豪提供】

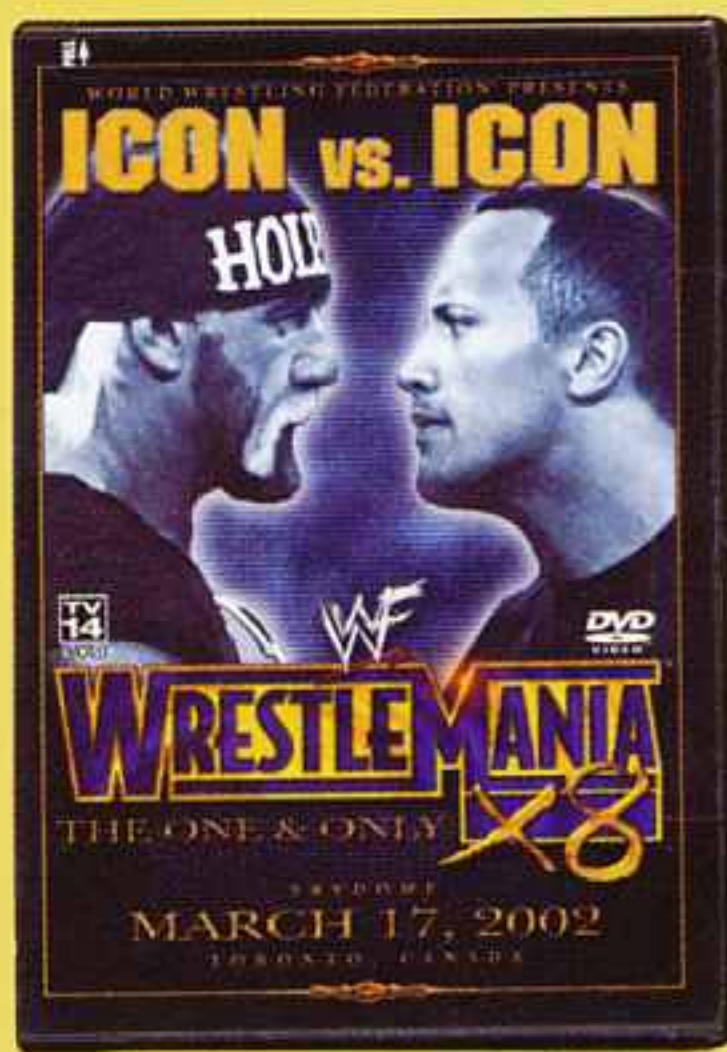
アントン"電気"完成記念!

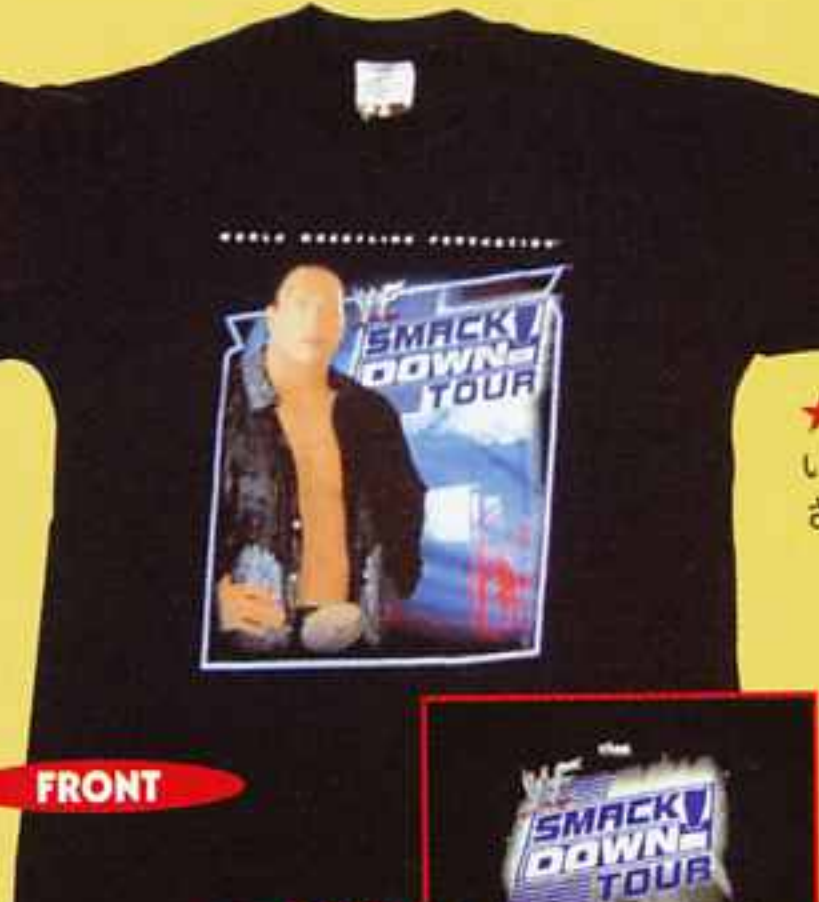
1名様

★SONY「VAIO U」
電気があれば何でもできる! 50号記念の超太っ腹プレゼント! Microsoft Windows XP搭載機種で世界最小・最軽量なボディからは想像つかないほどのこだわり機能を搭載した「VAIO U」。バッグから取り出して、すぐに使える優れモノだ!

名称変更記念！ WWEグッズ特集！

Big Blue【場所】東京都港区浜松町2-5-1石渡ビル2F
【アクセス】浜松町駅（JR）・大門駅（地下鉄浅草線・大江戸線）・
芝公園駅（地下鉄三田線）
【営業時間】月～金／10:00～21:00
土日祝日／11:00～17:00
【TEL】03-3435-2883
【URL】http://s-ovation.com/bigblue.html

各1名様

★「WRESTLE MANIA X8」DVD
6万人を超える大観衆を大熱狂させたホーガンvsロックが映像で堪能できる！ プロレス界最大のイベントをじっくり味わえ！

★「Hogan vs Rock」Tシャツ
「WRESTLE MANIA X8」の興奮が身体中を駆けめぐる！

★「SMACKDOWN TOUR」Tシャツ
3・1横浜アリーナで発売されたツアー記念Tシャツ。行けなかった人も販売ブースが大行列で買えなかった人もいますぐ応募だ！

★「The Peopie's ELBOW」
いつ何時でも着用していたいロック様のエルボーパット！
さあ、観客（家族や友人）に投げ入れる準備はできたか!?

★「TEAM BRING IT!」Tシャツ（子供用）
ロックマニアのお子さんが「ほしい！」とねだること確実！ 今年のクリスマスプレゼントはこれで決まりだ！

夏はこれで決まり！ Tシャツ祭りダーッ！

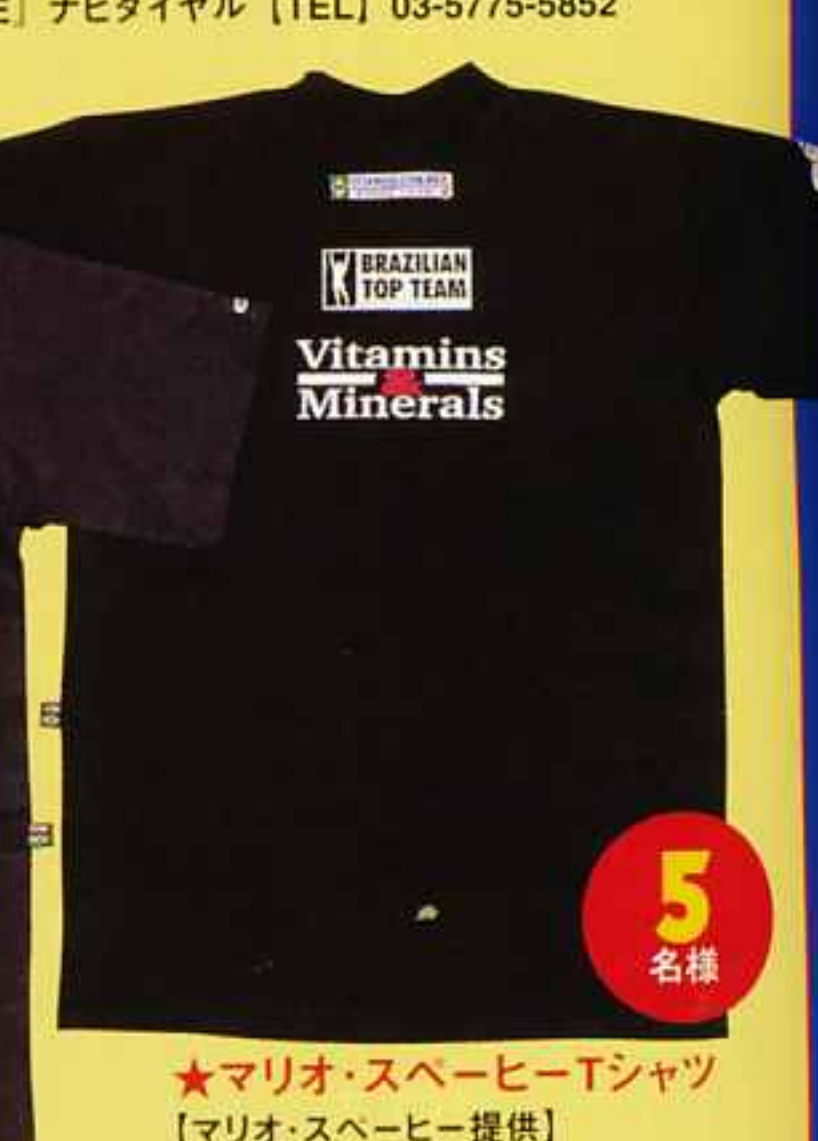
各1名様

★「MASCARASTARS」Tシャツ③
★「MASCARASTARS」Tシャツ②
★「MASCARASTARS」Tシャツ①

【BAMBAMBIGELOW提供】 東京店：世田谷区北沢2-33-11-2F【TEL】03-3460-1145
大阪店：中央区西心斎橋1-15-15-201【TEL】06-6245-1602 【URL】http://www.bambam88.com/

★花くまゆうさく『PRIDE』Tシャツ
【DSE提供】お問い合わせ『PRIDE』ナビダイヤル【TEL】03-5775-5852

★「春一番」Tシャツ①（レッドorホワイト）
★「春一番」Tシャツ②（イエローorホワイト）
【スプリング・サービス提供】【TEL】0561-82-0297 【URL】http://www.haruichiban.com

1名様
★YALLO! PROJECT Tシャツ
【YALLO! PROJECT提供】
【URL】http://yalloproject.cool.ne.jp/yalopro.top.html

5名様
★マリオ・スペーヒーTシャツ
【マリオ・スペーヒー提供】

応募要項

❶郵便番号・住所・電話番号
❷氏名
❸年齢・職業
❹希望商品
❺面白かった記事&その理由
❻つまらなかった記事&その理由
❼上半期ベスト&ワースト試合を選んでください
❽『紙プロ』でやってほしい企画は何ですか?

応募券

【宛 先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「チャイナって誰や?」係まで
※締切は2002年6月20日（木）当日消印有効

異種格闘技戦の歴史が蘇る！

3名様

★新日本プロレス復刻版パンフレットシリーズ・燃える闘魂【格闘技世界一決定戦・編】
復刻されたパンフレットで、新日本プロレスの戦いの軌跡を振り返った30周年に相応しい一冊！ アントン総帥の異種格闘技戦シリーズを知らないアナタに送る！【エンターブレイン提供】

『PRIDE』復帰はいつだ!?

★30センチの巨大ソフトフィギュア

★握力グリップフィギュア

セットで5名様

桜庭と藤田が、超特大フィギュアと握力グリップフィギュアになって登場だ！ UFOキャッチャーでゲットするしか手に入らないレアフィギュアをドドーンとプレゼント！ 【バンプレスト提供】

あまりのバカ売れのため

『紙プロ』リングスグッズも販売休止!?

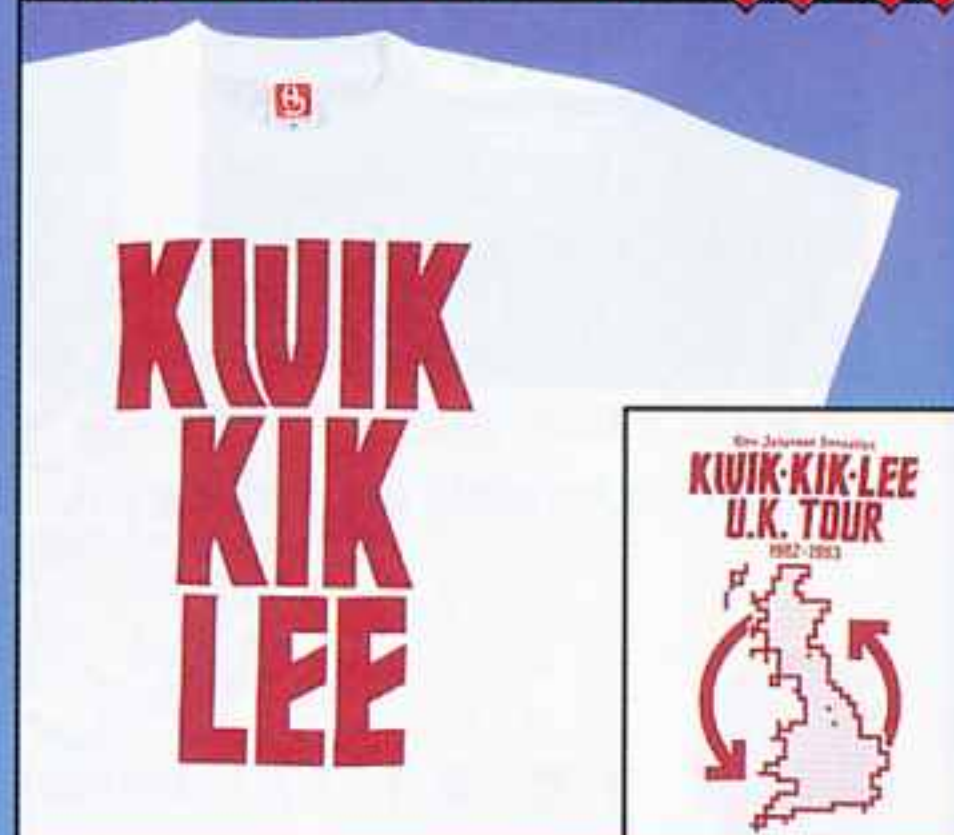
完売前に手に入れろ!

★★★イギリス遠征時の18年前の前田日明が蘇る!★★★

クイック・キック・リーTシャツ〈黄〉
¥3,800 SOLD OUT or SOLD OUT or M or L

KWIK KIK LEE
KWIK·KIK·LEE U.K. TOUR 1982-1983

クイック・キック・リーTシャツ〈白〉
¥3,800 XS or S or SOLD OUT or SOLD OUT

KWIK KIK LEE
KWIK·KIK·LEE U.K. TOUR 1982-1983

©RINGS CO.,LTD TOUR DIRECTOR/DOUBLE CROSS INC.LEAD BUS DRIVER/GREAT ANTONIO

★★★涙の休止! リングスTシャツ!★★★

アディオス・アミーゴTシャツ〈黒〉
¥3,800 XS or S or SOLD OUT SOLD OUT SOLD OUT

残りわずか!

Adios, amigos.

アディオス・アミーゴTシャツ〈白〉
¥3,800 XS or S or SOLD OUT SOLD OUT SOLD OUT

残りわずか!

Adios, amigos.

★★★狼の魂を感じろ★★★

ヴォルク・ハンTシャツ
¥3,800 S[残りわずか!] or M or L

VOLK HAN

通販方法

希望商品の代金＋送料¥500(何枚でも可・ネックピースだけなら¥300)を郵便振替か現金書留で下記の住所まで送るんだ! 郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号、希望商品(サイズとカラーを明記)を必ず表記してください! 記入しないと商品が発送できません。隣のページのTシャツの申込みもOK!

[郵便振替の宛先]
00130-3-769154

[現金書留]
〒151-0051東京都渋谷区千駄ケ谷3-11-3-702 (株)ダブルクロス

[お問い合わせ先]
(株)ダブルクロス 03-3403-5188

紙のプロレス RADICAL
No.50
2002年6月25日発行

No.51は6月20日(木)発売予定!

※多分にです。地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇

編集スタッフ
松澤チョロ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
八木賢太郎(リングスロシア軍団の行動が気になるため非番)

編集見習い
スエヒロ・ガイ子

スーパーバイザー
吉田豪

スーパー助っ人
スモーノブ

助っ人
中村カタブツ君

独り電気部
ささきぃ

アートディレクター
出田さん(TwoThree)

デザイン
ヒサくん
マツくん
村松さん
グッチー
タニやん(以上TwoThree)
トメさん
はなえちゃん(以上さおとめの事務所)
海老沢勇(Zero graphics)
石田理恵

カメラマン
斉藤ユーリ
森鷹博
遠藤政文
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
菊池茂夫

試合写真
平工幸雄
乾晋也
吉澤晃

こんなオレでゴメン
佐藤耳男

お勘定&衣料部
林"ヘックション"一枝

出前
出前持ち入江(TwoThree)

フィニッシュ
ツー・スリー
さおとめの事務所

印刷
図書印刷株式会社

印刷人
大杉すぎすぎ昌也

発売元 株式会社ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町一番地 TEL.03-3357-2911(販売・営業)
発行元 株式会社ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 TEL.03-3403-5188(編集・制作)

INDEX

*50音及びアルファベット順

アルシオン →03-5745-6101
〒141-0031 東京都品川区西五反田3-6-24　サンハイツ1004

大阪プロレス →06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36　フェスティバルゲート2F

怪獣王国 →03-5952-1177
〒171-0033 東京都豊島区高田3-6-7-3F

キャプチャー →044-959-3333
〒215-0011 神奈川県川崎市麻生区百合ヶ丘2-2-1　横山ビルB1

キングダム･エルガイツ →0423-31-2797
〒206-0822東京都稲城市坂浜2305

栗栖ジム →06-6790-8896
〒547-0014 大阪府大阪市平野区長吉川辺3-1-7

喧嘩プロレス二瓶組 →044-588-2438
〒212-0055 神奈川県川崎市幸区南加瀬5-32-2　二瓶ビル

国際プロレス →0467-86-0197
〒253-0052神奈川県茅ヶ崎市幸町20-14

修斗コミッション →03-5824-1324
〒111-0032 東京都台東区浅草5-56-8　若山ビル201

女子総合格闘技･AX →03-5286-7921
〒103-0011 東京都中央区日本橋大伝馬町1-7

新日本プロレス →03-5468-3111
〒150-0011 東京都渋谷区東2-1-11

掣圏道 →03-5456-7333
〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-6-14　恵比寿スカイハイツ607

全日本女子プロレス →03-3493-6541
〒153-0064 東京都目黒区下目黒2-17-17

全日本プロレス →03-3403-7344
〒106-0032 東京都港区六本木7-3-12

大日本プロレス →045-937-0811
〒224-0053 神奈川県横浜市都築区池辺町4347

ダイプロデュース(大仁田興行) →03-5496-4900
〒141-0031 東京都品川区西五反田1-32-3　大北ビル3F

髙田道場 →03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6　ワールドパレス武蔵小山1F-B1

高山堂 →03-5464-2806
〒150-0011 東京都渋谷区東2-21-9-803ジェイパーク渋谷イーストスクエア

つぼプロモーション →03-3498-4710
〒150-0011 東京都港区南青山6-15-1　アパルトマン青山2F-E

闘龍門JAPAN →078-333-9797
〒650-0022 兵庫県神戸市中央区元町通り3-17-8　TOWA元町ビル901

トータルワークアウト →03-3280-5557
〒108-0073 東京都芝区三田4-7-24　明るいビル

ドリームステージエンターテインメント →03-5775-5700
〒107-0052 東京都港区赤坂8-5-4　ルーメリ赤坂103

バトラーツ →0489-63-0005
〒343-0807 埼玉県越谷市赤山町6-13-43

パンクラス →03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25

プロレスリング･ノア →03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25

みちのくプロレス →019-626-1333
〒020-0063 岩手県盛岡市材木町9-8

DDT →03-3868-9181
〒112-0002 東京都文京区小石川2-9-7　MORIMOTO FLATS 4F

DEEP 2001事務局 →052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F

GAEA JAPAN →03-5459-3101
〒150-0036 東京都渋谷区南平台6-7 MAISON南平台1 F

GCM COMUNICATION (和術慧舟會、A'GYM、RJW) →03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10　松楠ビル9F

IWAジャパン →03-3352-3366
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1　四谷サンハイツ401

Jd' →03-5561-0522
〒107-0052 東京都港区赤坂2-3-4　ランディック赤坂ビル4F

JWP →03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4

K－1 事務局 →03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-31-14

KAIENTAI DOJO →043-214-6960
〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17

LLPW →03-3945-7926
〒112-0005 東京都文京区水道2-13-4　ビクセル文京105

NEO →044-422-8344
〒211-0011 神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102

SMACK GIRL実行委員会 →03-5447-8483
〒106-0017 東京都港区南麻布4-11-21　ランディック南麻布B1

SPWF →03-3814-6371
〒113-0001 東京都文京区白山1-17-4　クロサキビル

T.A.M.A →042-572-6795
〒185-0031 東京都国分寺市富士本1-23-5

U-FILE CAMP →044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568

UFO →03-5447-2121
〒108-0071 東京都港区白金台3-19-5　OK白金台ビル7F

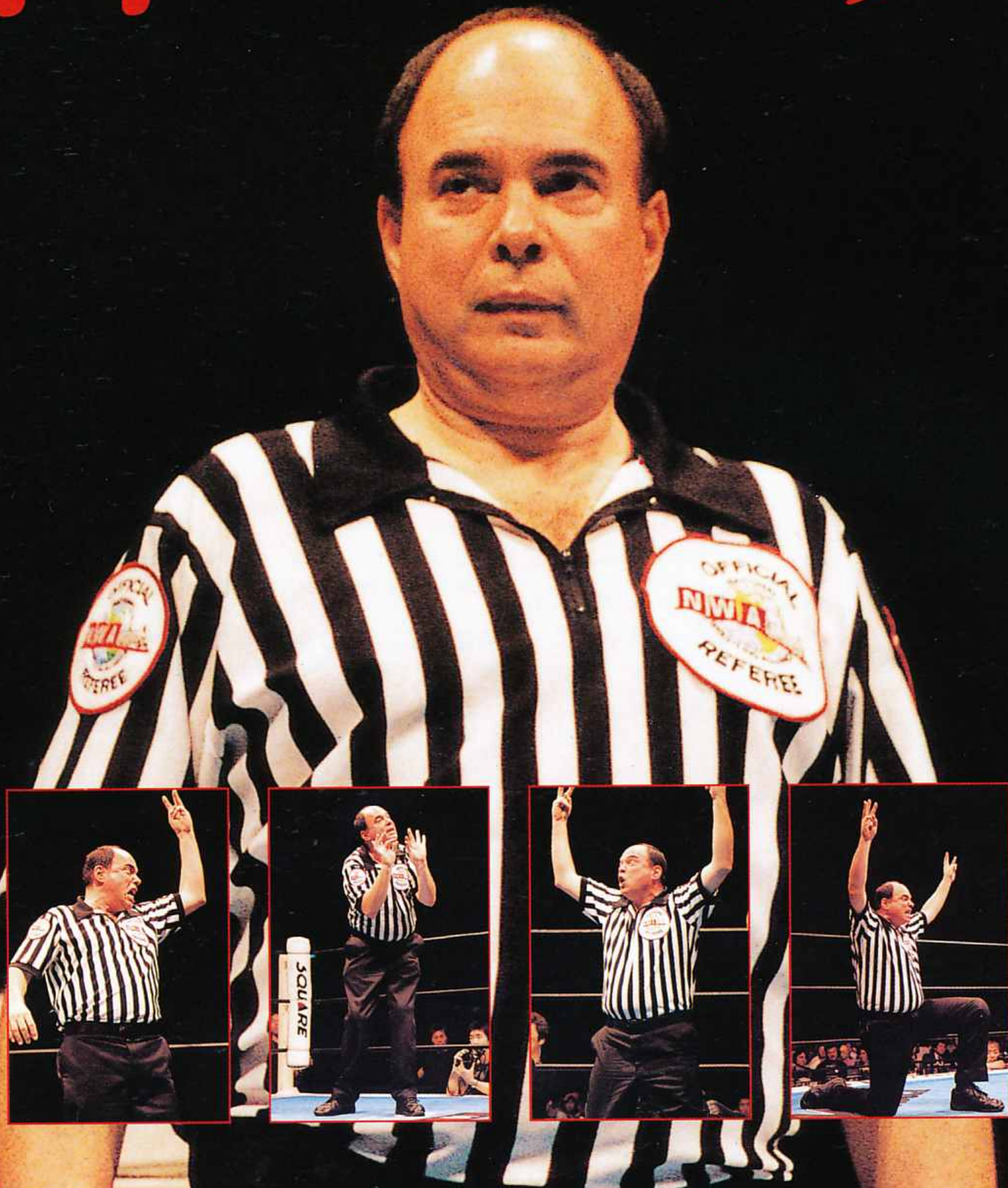
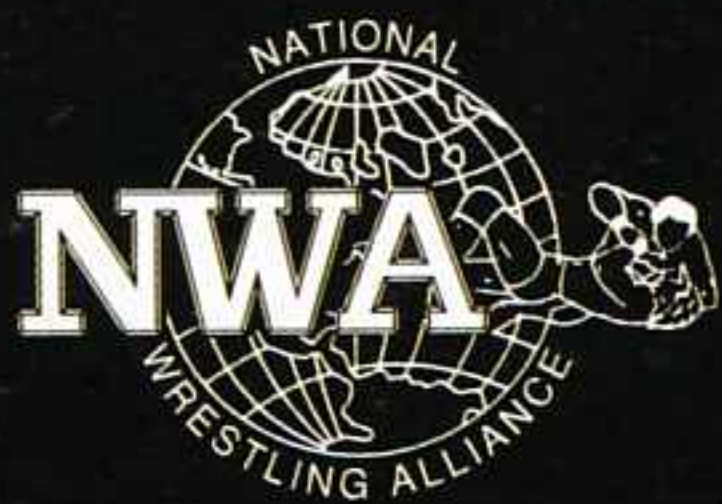
WAR →03-5477-0461
〒154-0015 東京都世田谷区桜新町1-14-23　萬豊ビル2F

WWS →0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23　連合305

ZERO-ONE →03-5730-3401
〒105-0014 東京都港区芝2-30-11　寿ビル601

ZIPANG →03-3312-0328
〒166-0011 東京都杉並区梅里2-40-21　ハイネス梅里201

権威

NWA NATIONAL WRESTLING ALLIANCE

ZERO−ONE初の地方巡業MVP

こいつが噂の高速3カウント男だ!!

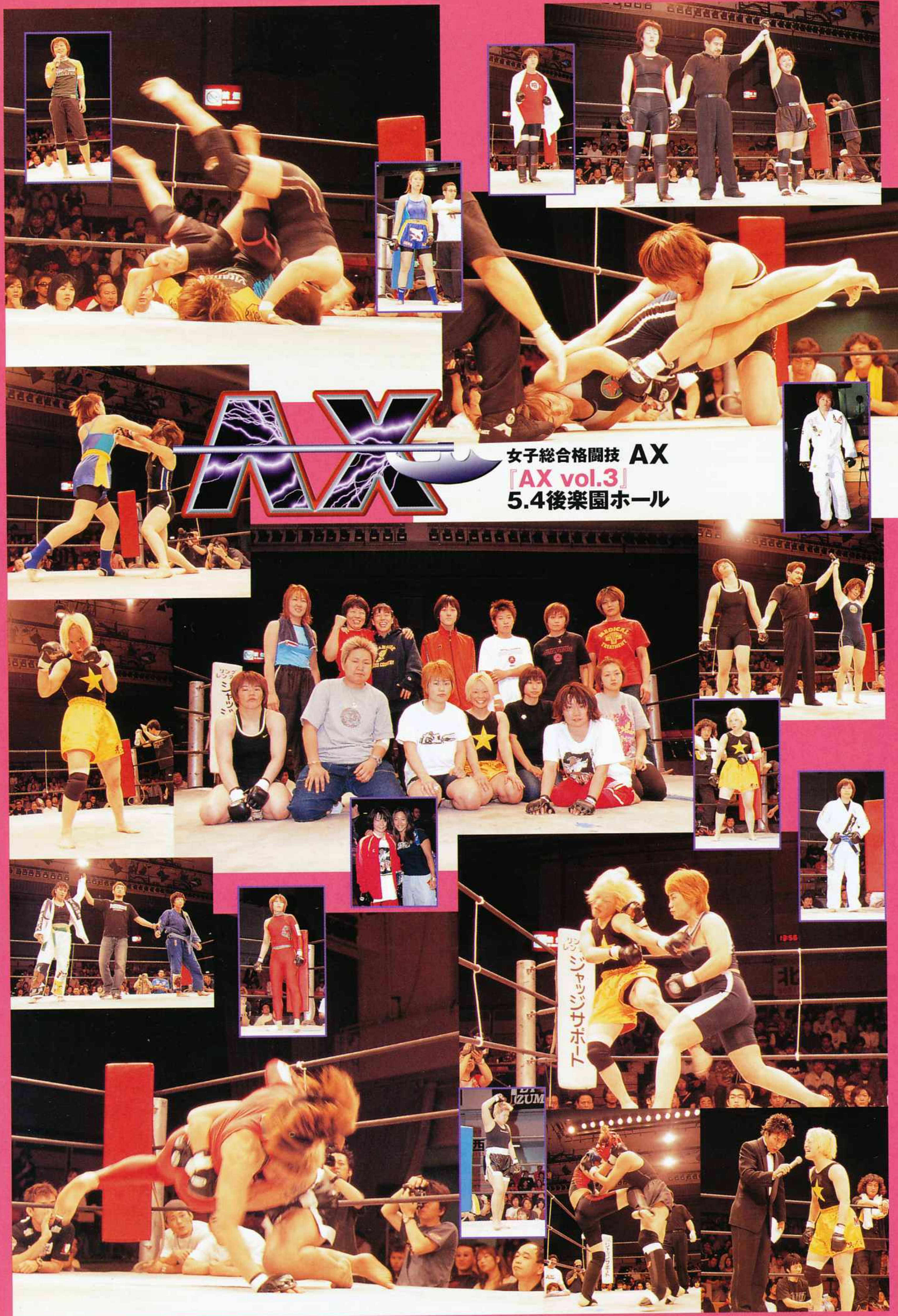
NWAエグゼクティブレフェリー

Mr.フレッド

SMACK GIRL
FIGHTING ENTERTAINMENT

格闘エンタテインメント SMACK GIRL
GOLDEN GATE2002
5.6ディファ有明

女子格闘家の生き様を見よ!!

AX

女子総合格闘技 AX
『AX vol.3』
5.4後楽園ホール

ジャッジサポート

これが女の生きる道! 女子格闘

『紙プロ』編集部おススメ興行

★ 山口日昇　◎ 斉藤中
♠ 松澤チョロ記者　♥ さきさぃ
♦ ガンツ堀江　∞ ガイ子

大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
DEEP2001■東京・ディファ有明(15:00)◎
BAPE STA!!■東京・ZEPP TOKYO(15:00)♦
バトラーツ■東京・後楽園ホール(18:00)★

11 TUE.

大阪■東京・後楽園ホール(18:30)
KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO(19:00)

12 WED.

ノア■東京・後楽園ホール(18:30)

13 THU.

KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO(19:00)

15 SAT.

大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
LLPW■埼玉・桂スタジオ(18:00)
闘龍門■愛知・豊橋市総合体育館(18:30)

16 SUN.

全女■東京・後楽園ホール(12:00)
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(15:00)
闘龍門■三重・四日市オーストラリア記念館(16:30)
ORG■東京・TOKYO FMホール(17:30)

18 TUE.

KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO(19:00)

19 WED.

LLPW■東京・金町区民センター(19:00)

20 THU.

KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO(19:00)
新日本■栃木・宇都宮体育館(18:30)

21 FRI.

新日本■東京・後楽園ホール(18:30)
r(アール)■東京・六本木TSK－CCCホール(19:00)

22 SAT.

IWA■千葉・マツモトキヨシ成東町店前広場(15:00)
U-FILE CAMP■東京・大田区体育館分館(16:00)
キングダムエルガイツ■東京・Z-ZONE NAGAYAMA(18:00)♠
大阪■大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
JWP■東京・金町区民センター(18:00)
新日本■神奈川・南足柄市体育センター(18:30)
闘龍門■静岡・ツインメッセ静岡(19:00)

23 SUN.

大阪■大阪・デルフィンアリーナ(13:00)
Jd'■東京・ディファ有明(16:00)
新日本■新潟・長岡市厚生会館(15:00)
闘龍門■埼玉・川越ペペホール・アトラス(18:00)
大仁田FMW■静岡・アクトシティ浜松(18:00)
IWA■東京・後楽園ホール(18:30)
『PRIDE.21』■埼玉・さいたまスーパーアリーナ(16:00)★◎♥
T.A.M.A.■東京・ニューシティーホール国立(11:30)

25 TUE.

KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO(19:00)

26 WED.

AX■東京・後楽園ホール(18:30)♠
r(アール)■静岡・キラメッセ沼津(時間未定)

27 THU.

ZERO-ONE■東京・後楽園ホール(18:30)★♦♥∞
KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO(19:00)
新日本■愛知・春日井市総合体育館(18:30)

28 FRI.

新日本■兵庫・豊岡市総合体育館(18:30)
NEO■東京・板橋産文ホール(19:00)
DDT■東京・後楽園ゆうえんち内ジオポリス(19:00)

29 SAT.

修斗■大阪・堺市金岡公園体育館(16:00)
新日本■島根・平田市立宍道湖公園湖遊館(18:00)
ZERO-ONE■北海道・札幌テイセンホール(18:00)★
闘龍門■大阪・はびきのコロセアム(18:00)
大阪■兵庫・高砂市運動公園総合体育館(18:00)
T.A.M.A.■東京・金町区民センター(18:00)
UBJ■東京・金町地区センター5Fホール(18:30)
JWP■東京・東京キネマ倶楽部(18:30)
新日本■島根・平田市宍道湖公園湖遊館(時間未定)

30 SUN.

大阪■大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
闘龍門■三重・伊賀ゆめドームうえの(15:00)
活き活き塾■大阪・デルフィンアリーナ(17:30)

7 July

2 TUE.

大日本■長野・松本名鉄ショーホール(18:30)
KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO(19:00)

3 WED.

大日本■石川・石川産業会館(18:30)

4 THU.

KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO(19:00)
大日本■福井・福井市体育館(18:30)

5 FRI.

新日本■岡山・岡山県体育館(18:30)
ノア■東京・後楽園ホール(18:30)
ZERO-ONE■長野・長野市運動公園体育館(18:30)★

6 SAT.

全女■東京・大田区体育館(17:00)
新日本■滋賀・滋賀県立体育館(18:00)
ZERO-ONE■新潟・新潟市体育館(18:00)★
ノア■静岡・ツインメッセ静岡(18:00)
大日本■福島・福島市国体記念体育館(18:30)
SMACK GIRL■東京・ディファ有明(18:30)♠

RADICAL CALENDAR

5 May

23 THU.

新日本■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）
ZERO-ONE■東京・後楽園ホール（18:30）★◆♥∞
ノア■北海道・ゆうばり文化スポーツセンター（18:30）
大日本■新潟・新潟フェイズ（18:30）
KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO（18:30）
アルシオン■北海道・北見市立体育センター（18:30）
DDT■東京・clubATOM（19:00）

24 FRI.

新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
大日本■新潟・長岡厚生会館（18:30）
アルシオン■北海道・本別町体育館（18:30）
r（アール）■東京・六本木TSK－CCCホール（19:00）♠

25 SAT.

闘龍門■広島・佐伯区スポーツセンター（17:30）
ノア■北海道・札幌メディアパークスピカ（18:00）
大阪■大阪・フェスティバルゲート（18:00）
JWP■東京・金町地区センター文化ホール（18:00）
アルシオン■北海道・釧路コミュニティ体育館（18:00）
新日本■埼玉・草加市スポーツ健康都市記念体育館（18:30）
KAIENTAI-DOJO■東京・ディファ有明（時間未定）

26 SUN.

全女■東京・後楽園ホール（12:00）
GAEA■愛知・千種スポーツセンター（13:30）
ノア■北海道・札幌メディアパークスピカ（15:00）
新日本■福島・ビッグパレットふくしま（15:00）
闘龍門■愛知・東海市民体育館（16:00）
大阪■大阪・なんばマザーホール（17:00）
IWA■神奈川・大津スイミングクラブ（18:00）

27 MON.

WWS■群馬・伊勢崎市民体育館（18:30）
WEW■東京・後楽園ホール（19:00）

28 TUE.

新日本■宮城・宮城県スポーツセンター（18:30）
パンクラス■東京・後楽園ホール（18:30）♠
アルシオン■北海道・紋別市スポーツセンター（18:30）
KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO（18:30）
修斗■東京・北沢タウンホール（18:00）

29 WED.

新日本■宮城・気仙沼市総合体育館（18:30）
闘龍門■福岡・小倉北体育館（18:30）
大日本■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）
全女■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（18:30）
アルシオン■北海道・枝幸町体育館（18:30）

30 THU.

新日本■岩手・宮古市総合体育館・シーアリーナ（18:30）
KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO（18:30）
華☆激■福岡・さざんぴあ博多（19:00）

31 FRI.

アルシオン■北海道・利尻町体育館（18:30）
DDT■東京・後楽園ゆうえんち内ジオポリス（19:00）
華☆激■福岡・マイノアシティ CULB BA-COO（20:00）

6 June

1 SAT.

闘龍門■石川・石川県産業展示館3号館（18:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
求道軍■熊本・熊本木材八代支店大倉庫（18:00）
SMACK GIRL■東京・ディファ有明（18:30）♠
NEO■東京・板橋産文ホール（18:30）

2 SUN.

全女■東京・ガレージマッチ（12:00）
掣圏道■北海道・帯広市総合体育館（13:00）
K－1■富山・富山市総合体育館（13:00）
JWP■東京・新宿SPACE107（13:00／17:00）
Jd'■東京・天王洲スフィアメックス（13:00）
アルシオン■北海道・札幌テイセンホール（13:00／18:30）
大仁田FMW■埼玉・桂スタジオ（14:00）
大阪■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
修斗■岡山・津山リージョンセンター（14:00）
ノア■東京・ディファ有明（15:00）
新日本■千葉・松戸市運動公園体育館（16:00）
闘龍門■石川・石川県産業展示館3号館（18:00）
新宿プロレス■東京・クラブハイツ（18:00）

3 MON.

新日本■長野・佐久市総合体育館（18:30）
アルシオン■北海道・赤平市総合体育館（18:30）
大日本■東京・後楽園ホール（19:00）

4 TUE.

KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO（19:00）
闘龍門■宮城・Zepp Sendai（19:00）

5 WED.

新日本■大阪・大阪府立体育会館（18:00）

6 THU.

闘龍門■東京・後楽園ホール（18:30）
KAIENTAI-DOJO■千葉・KAIENTAI-DOJO（19:00）

7 FRI.

新日本■東京・日本武道館（18:00）
闘龍門■東京・後楽園ホール（18:30）

8 SAT.

大阪■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
NEO■東京・北沢タウンホール（18:30）

9 SUN.

Jd'■東京・後楽園ホール（12:00）
大阪■大阪・デルフィン
DEEP2001■東京・ディ
BAPE STA!!■東京・ZE
バトラーツ■東京・後楽

11 TUE.

大阪■東京・後楽園ホー
KAIENTAI-DOJO■千葉

12 WED.

ノア■東京・後楽園ホー

13 THU.

KAIENTAI-DOJO■千

15 SAT.

大阪■大阪・デルフィン
LLPW■埼玉・桂スタジ
闘龍門■愛知・豊橋市

16 SUN.

全女■東京・後楽園ホ
大阪■大阪・デルフィン
JWP■東京・東京キネ
闘龍門■三重・四日市
ORG■東京・TOKYO

18 TUE.

KAIENTAI-DOJO■千

19 WED.

LLPW■東京・金町区

20 THU.

KAIENTAI-DOJO■千
新日本■栃木・宇都宮

21 FRI.

新日本■東京・後楽園
r（アール）■東京・六

22 SAT.

IWA■千葉・マツモト
U-FILE CAMP■東京
キングダムエルガイツ
大阪■大阪・デルフィ
JWP■東京・金町区
新日本■神奈川・南足
闘龍門■静岡・ツイン

23 SUN.

大阪■大阪・デルフィ
Jd'■東京・ディファ
新日本■新潟・長岡市
闘龍門■埼玉・川越
大仁田FMW■静岡・
IWA■東京・後楽園
『PRIDE.21』■埼玉・
T.A.M.A.■東京・ニュ

25 TUE.

KAIENTAI-DOJO■